

2012 平成24年度

授業計画書 経済学部

Syllabus Faculty of Economics



敬愛大学

2012年度「授業計画書 (Syllabus)」 利用について

授業計画書 (シラバス) は、皆さんがこれから学び修得してゆく知識の全容です。学生の皆さんにとっては、これからの進路や興味にあわせて授業科目を選択したり、予習・復習をするとき、研究や卒業論文を作成する時の指針になります。また、教員にとっては、授業の進行状況をチェックするためのチェックリストの役目を果たします。

授業計画書を持ち運びに便利のようにコンパクトにしました。いつも携帯し、有効に活用してください。

成績評価の基準について

授業科目の成績評価は各科目それぞれの特性や受講学生数等の諸条件を考慮して最終的には各教員が決定しますが、原則的には次によります。(平成11年7月教授会決定)

1. 各科目の成績評価の対象者
各科目の開講時間の3分の2以上出席した者
2. 評価基準およびその割合

成績の基準	評価	割合	備考
90点以上	秀	30%	※評価の割合はあくまで目安であり、 左記に縛られるものではありません。
80点以上	優		
70点以上	良	30%	
60点以上	可	30%	
59点以下	不可	10%	

2012年度(平成24年度)

授業計画書

履修要項

シラバス

規程

総目次

履修要項

I 教育課程 1 2012(平成24)年度入学者に適用する	(5)
II 教育課程 2 2011(平成23)年度入学者に適用する	(27)
III 教育課程 3 2009(平成21)年度から2010(平成22)年度入学者に適用する	(43)
IV 教育職員免許状取得のための課程	(59)

シラバス

I もくじ	(73)
II 各授業内容	1
III ライセンスプログラム	235
IV 教職及び教科に関する科目	237
V 2008～2012年度科目名変更一覧	255
VI カリキュラム表	265

規程

I 敬愛大学経済学部規程	291
---------------------	-----

五十音順索引	295
--------	-----

履 修 要 項

- I** 教育課程 1
2012(平成24)年度入学者に適用する …………… (5)
- II** 教育課程 2
2011(平成23)年度入学者に適用する …………… (27)
- III** 教育課程 3
2009(平成21)年度から2010(平成22)年度入学者に適用する … (43)
- IV** 教育職員免許状取得のための課程 …………… (59)

履 修 要 項

I 教育課程 1

2012(平成24)年度入学者に適用する教育課程
(学籍番号の上3ケタが、121の学生向け)

I 教育課程 1

1. 教育課程の編成方針と概要

1. 2012（平成24）年度入学生は、「敬愛大学学則」及び「経済学部規程」に基づき、卒業に必要な修業年限を4年、卒業必要単位を124単位以上と定めています。
2. 本学部では、「敬天愛人」の建学の精神のもとに「人間性と創造性豊かな経済人」の育成を図ることを目的として、「経済専攻」と「現代マネジメント専攻」の2つの教育課程を用意しています。
3. 「経済専攻」・「現代マネジメント専攻」にはそれぞれ3つの専門的な学習コースがあり、2専攻6コースの選択方法は、1年次の履修を経て、2年次の履修登録時に専攻・コースを決定します。
2年次以降は自分の学習意欲や将来の進路・目標にもとづき、各自が選択した専攻・コースの科目を具体的・体系的に履修していくことになっています。
4. 経済学部では、2012年度より新たなカリキュラムを導入し、教育課程には、学部共通科目を基礎として、基礎科目群、言語科目群、教養科目群、キャリア科目群、演習科目を配しており、「経済専攻」・「現代マネジメント専攻」の専門分野にあつては、基本科目群、専門科目群、展開科目群で構成しています。
また、基礎科目を、必修科目もしくは選択必修科目として1年次に多く配置し、よりスムーズに高度な専門分野へ移行できる段階的な教育を実践します。
5. 学年を前期と後期に分け、授業は Semester 科目（半期完結科目）及び集中講義によって行います。ただし、「I（前期）・II（後期）」科目の「II」の履修にあつては、条件付科目があるので、確認が必要です。
6. 教職課程履修者は卒業必要単位のほかに、教育職員免許法に定める所定の単位を履修することが必要です。
7. 「敬愛プログラム」を2009年度より新設しました。「敬愛プログラム」は、学生（個人またはグループ）の自主的・自発的な発想による活動の支援を目的とする制度です。学生は、ボランティア活動、クラブ活性化活動、イベントの企画・実施、商店街や事業所の調査等、学内外における活動のテーマを設定し、事前に達成目標や段取りを明記した企画書を作成したうえで、当該年度に成果の発表を行います。その成果が評価に値するものと認定されれば、活動そのものが卒業単位として認められ、さらに支援金の支給を受けることができます。

2. 2 専攻 6 コースの概要と教育目標①

経済専攻(3コース)

公共経済コース

公的機関が担う経済的役割について学び、公務員など公共サービスに従事できる人材になる。

開ける「道」(進路)

公務員／消防士・警察官／教員

取得できる免許・資格

中学校教諭1種免許(社会)／高等学校教諭1種免許(地理、歴史、公民)／行政書士など

金融・情報コース

金融論や証券経済論など金融に関する実務の学びを通じ、金融機関で活躍する人材になる。

開ける「道」(進路)

銀行／証券会社／信用金庫

取得できる免許・資格

高等学校教諭1種免許(情報)／ファイナンシャル・プランナー／Microsoft® Office Specialist／TOEIC®など

現代日本経済コース

現代日本が直面するさまざまな経済問題を探求し、日本経済の中核となる人材になる。

開ける「道」(進路)

一般企業／NPO・NGO／教員

取得できる免許・資格

中学校教諭1種免許(社会)／高等学校教諭1種免許(地理、歴史、公民)／日商簿記検定／秘書検定など

2. 2 専攻 6 コースの概要と教育目標②

現代マネジメント専攻(3コース)

アジアビジネス マネジメントコース

中国をはじめとしたアジア諸国の製造業やサービス業など多様な産業の実態を学び、語学力と実務的スキルを武器に、アジアビジネスで活躍できる人材となる。

開ける「道」(進路)

商社 / ITサービス業 / 外資系企業

取得できる免許・資格

中国語検定 / 日本語検定 / ビジネス能力検定 / 販売士 / 日商簿記検定 / 高等学校教諭1種免許(商業、情報) など

地域企業 マネジメントコース

中小企業、観光業、サービス業などの特徴や経営方法について学び、実務的スキルを武器に、地域経済の活性化に貢献できる人材となる。

開ける「道」(進路)

経営プランナー / 流通サービス業 / 観光・レジャー産業

取得できる免許・資格

中小企業診断士 / 公認会計士 / ビジネス能力検定 / 販売士 / 日商簿記検定 / 高等学校教諭1種免許(商業、情報) など

スポーツビジネス マネジメントコース

マネジメントの知識や健康運動科学の理論と実技を学び、実務的スキルを武器に、長寿社会における健康維持と体力増進に貢献する人材となる。

開ける「道」(進路)

健康・スポーツ関連企業 / ショップ経営 / 教員

取得できる免許・資格

ビジネス能力検定 / 販売士 / 高等学校教諭1種免許(商業、情報) / 各種スポーツライセンスなど

3. 科目区分および卒業要件単位略図(2012年度入学者)

科目区分		履修区分	卒業要件単位
学部共通科目	基礎科目		必修科目 16
	言語科目	言語科目A	必修科目 4
		言語科目B	選択科目 4
	教養科目		選択科目 12
	キャリア科目		選択科目 4
	演習科目		必修科目 10
経済専攻・ 現代マネジメント専攻 専門科目	基本科目	基本科目A	選択科目 8
		基本科目B	選択科目 20
	経済専攻	(公共経済コース) (金融・情報コース) (現代日本経済コース)	選択科目 16
	現代マネジメント専攻	(アジアビジネスマネジメントコース) (地域企業マネジメントコース) (スポーツビジネスマネジメントコース)	
	展開科目		選択科目 10
学部共通科目	情報科目		選択科目 6
	自由選択科目		選択科目 14
	卒業要件単位数		124

4. 2012年度卒業要件概念図①

科目区分		1年次	2年次	3年次
学部 共通 科目	基礎科目 必修科目	文章表現、口頭表現、基礎数学、 入門経済学、入門経営学、 キャリアプランニング、 健康科学、情報基礎Ⅰ・Ⅱ		
	言語科目A 必修科目	英語Ⅰ・Ⅱ	英語Ⅲ・Ⅳ	
	言語科目B 選択科目	フランス語Ⅰ・Ⅱ、 ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、 中国語Ⅰ・Ⅱ、日本語Ⅰ・Ⅱ 英会話Ⅰ・Ⅱ	フランス語Ⅲ・Ⅳ、 ドイツ語Ⅲ・Ⅳ、 中国語Ⅲ・Ⅳ、日本語Ⅲ・Ⅳ、 英会話Ⅲ・Ⅳ、時事英語Ⅲ・Ⅳ、 ビジネス英語Ⅲ・Ⅳ	
	教養科目 選択科目	敬天愛人講座、敬愛プログラム、スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、哲学、心理学、社会心理学、 歴史学、法学、憲法Ⅰ・Ⅱ、政治学、日本の政治、社会学、数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、 総合科目Ⅰ・Ⅱ、海外事情研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、地域ボランティア活動		
	教職専門科目 選択科目	日本史概論Ⅰ・Ⅱ、世界史概論Ⅰ・Ⅱ、地理学概論Ⅰ・Ⅱ、地誌学Ⅰ・Ⅱ、哲学概論Ⅰ・Ⅱ、 自然地理学Ⅰ・Ⅱ、環境地理学Ⅰ・Ⅱ		
	キャリア科目 選択科目		実践会話Ⅰ・Ⅱ、 キャリア基礎開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	キャリアデベロップメント、 キャリア教育特殊講義、 インターンシップ
	演習科目 必修科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱ	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	専門演習Ⅰ・Ⅱ

4年次	単位	卒業要件単位	備 考
	16	20単位以上	全科目16単位必修
	4		全科目4単位必修
	4	16単位以上	同一言語を4単位以上選択必修 留学生は日本語必修（日本語を履修できるのは留学生のみ）現代マネジメント専攻を2年次以降希望する場合、日本人学生は中国語、留学生は日本語必修 2年次のⅢ・Ⅳは「時事英語Ⅲ・Ⅳ」「ビジネス英語Ⅲ・Ⅳ」に換えて履修することは可
日本の文学、比較文学、 環境科学、地球科学、	12		12単位以上選択必修 教職専門科目は 教職課程履修者のみ履習可
比較政治学、社会学概論、			
	4	4単位以上	4単位以上選択必修 インターンシップは経済専攻のみ選択可
卒業演習Ⅰ・Ⅱ、 卒業論文	10	10単位	全科目10単位必修

4. 2012年度卒業要件概念図②

科目区分		1年次	2年次	3年次
経済系 専門科目	基本科目A 必修科目	経済理論AⅠ・AⅡ、経済理論BⅠ・BⅡ（A・Bいずれかを選択） 日本経済史Ⅰ・Ⅱ、西洋経済史Ⅰ・Ⅱ（いずれかを選択）		
	基本科目B 選択科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、経済政策Ⅰ・Ⅱ（A・社会政策Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、金融論Ⅰ・Ⅱ、簿記論Ⅰ・Ⅱ、会社法、国際経済論Ⅰ・Ⅱ、統計学総論Ⅰ・Ⅱ、知的財産権論、		
	公共経済コース 選択科目	公共経済学、公共選択論、地方財政論Ⅰ・Ⅱ、地方自治論Ⅰ・Ⅱ、社会保障論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉論、福祉経済論、経済学史Ⅰ・Ⅱ、民法Ⅰ・Ⅱ		
		進路支援講座（コース共通）Ⅰ・Ⅱ	進路支援講座（公務員）Ⅲ・Ⅳ	進路支援講座（公務員）Ⅴ・Ⅵ
	金融・情報コース 選択科目	証券経済論Ⅰ・Ⅱ、銀行論Ⅰ・Ⅱ、国際金融論Ⅰ・Ⅱ、資産運用論、保険論、有価証券法、情報セキュリティ論、ネットワークシステム論		
		進路支援講座（コース共通）Ⅰ・Ⅱ	進路支援講座（金融・情報）Ⅲ・Ⅳ	進路支援講座（金融・情報）Ⅴ・Ⅵ
現代日本経済コース 選択科目	日本経済論Ⅰ・Ⅱ、日本経済地理、世界経済地理、ヨーロッパ経済論Ⅰ・Ⅱ、中東経済論、国際貿易論、労働経済論Ⅰ・Ⅱ、労働法、経済統計Ⅰ・Ⅱ			
	進路支援講座（コース共通）Ⅰ・Ⅱ	進路支援講座（経済）Ⅲ・Ⅳ	進路支援講座（経済）Ⅴ・Ⅵ	
展開科目 選択科目	社会思想史Ⅰ・Ⅱ、金融事情Ⅰ・Ⅱ、金融経済の基礎知識		経済学方法論Ⅰ・Ⅱ、計量経済学Ⅰ・Ⅱ、環境経済学Ⅰ・Ⅱ、食料経済論、農業政策、経済数学Ⅰ・Ⅱ、外国経済書講読Ⅰ・Ⅱ、金融ビジネス実践、流通ビジネス実践、TOEIC®向上講座Ⅰ・Ⅱ、各コース科目	
学部共通科目	情報科目 選択科目	情報概論、Webデザイン、Excelデータ解析、プログラミング入門（VB）・（C）・（Perl）、Cプログラミング、Perlプログラミング、情報検索入門、データベースオペレーション、情報社会と倫理、ハードウェアシステム論、OS論、※ネットワークシステム論、※アルゴリズム論Ⅰ・Ⅱ、システム設計論Ⅰ・Ⅱ、データベース論、シミュレーション論 ※は公共経済コース、現代日本経済コースのみ		
	自由選択科目 選択科目	教養科目、キャリア科目、経済専攻・現代マネジメント専攻の専門科目すべて、ライセンスプログ教職及び教科に関する科目、進路支援科目		
卒業要件単位数				

4年次	単位	卒業要件単位	備 考
	8	8単位	経済理論はA・Bいずれかを選択 経済史は日本か西洋のいずれかを選択
Bいずれでも可)、 会計学Ⅰ・Ⅱ、企業法、 情報マネジメント	20	20単位以上	20単位以上選択必修
財政赤字の経済学、 行政法Ⅰ・Ⅱ、	16	各系のコース別に 16単位以上	16単位以上選択必修
			修得単位は自由選択科目に加算
企業金融論Ⅰ・Ⅱ、 アルゴリズム論Ⅰ・Ⅱ、	16		16単位以上選択必修
			修得単位は自由選択科目に加算
アメリカ経済論Ⅰ・Ⅱ、 アジア経済論、	16		16単位以上選択必修
			修得単位は自由選択科目に加算
環境問題Ⅰ・Ⅱ、医療の経済学、 経営学Ⅰ・Ⅱ、地方自治論演習、 経済専攻の基本科目A・B、	10	10単位以上	10単位以上選択必修
VBプログラミング、 プレゼンテーション論Ⅰ・Ⅱ、 ※情報セキュリティ論、	6	6単位以上	6単位以上選択必修
ラム科目、	14	14単位以上	14単位以上選択必修
124単位			

4. 2012年度卒業要件概念図③

科目区分		1年次	2年次	3年次
現代マネジメント専攻専門科目	基本科目A 必修科目	経営学ⅠⅡ、会計学ⅠⅡ		
	基本科目B 選択科目		簿記論ⅠⅡ(A・B)、産業論ⅠⅡ、マーケティング論、Marketing Management、経営史ⅠⅡ、経営戦略論ⅠⅡ、ベンチャービジネス論、流通論、経営組織論ⅠⅡ、経営分析ⅠⅡ、原価計算論ⅠⅡ、経営財務論、マーケティングリサーチⅠⅡ、人的資源管理ⅠⅡ、管理会計論	
	アジアビジネスマネジメント科目 必修科目			アジアビジネス実習(A・B)
	アジアビジネスマネジメント科目 選択科目		アジアビジネス論、中国ビジネス論、経営立地論、アジアの工中国の流通産業、情報マネジメント、国際経営論、国際貿易論、アジアの歴史と社会、中国語検定講座ⅠⅡ、日本語検定講座	
	地域企業マネジメントコース科目 必修科目			地域企業マネジメント実習
	地域企業マネジメントコース科目 選択科目		地域企業マネジメント論(A・B)、税務会計論ⅠⅡ、中小企業論ⅠⅡ、地域産業論、企業経営と心理学、観光事業論ⅠⅡ、サービス産業論、	
	スポーツビジネスマネジメント科目 必修科目			スポーツビジネス実習
	スポーツビジネスマネジメント科目 選択科目		スポーツ科学概論、生涯スポーツ実習ⅠⅡ、スポーツビジネス論、中小企業論ⅠⅡ、企業経営と心理学、民法ⅠⅡ、企業法、	
展開科目 選択科目		経済政策ⅠⅡ(A・B)、ミクロ経済学ⅠⅡ、マクロ経済学ⅠⅡ、日本経済論ⅠⅡ、流通情報論、企業金融論ⅠⅡ、知的財産権論、消費者行動論、労働法、サイバー刑法、有価証券法、金融ビジネス実践、流通ビジネス実践、TOEIC®向上講座ⅠⅡ、		
学部共通科目	情報科目 選択科目	情報概論、Webデザイン、Excelデータ解析、プログラミング入門(VB)・(C)・(Perl)、Cプログラミング、Perlプログラミング、情報検索入門、データベースオペレーション、情報社会と倫理、ハードウェアシステム論、OS論、ネットワークシステム論、情報セキュリティ論、システム設計論ⅠⅡ、データベース論、シミュレーション論		
	自由選択科目 選択科目	教養科目、キャリア科目、基本科目B、各コース科目、情報科目、展開科目の中から自由に履修できる。ムに掲載されていない経済専攻の科目を履修した場合は当欄で単位認定する。教職課程履修者は教も可		
				卒業要件単位数

4年次	単位	卒業要件単位	備考
	8	8単位	全科目8単位必修
	20	20単位以上	20単位以上選択必修
	2	各系のコース別に 16単位以上	2単位必修
業立地、流通経営論、 国際法Ⅰ・Ⅱ、アジアの地理、 Ⅰ・Ⅱ	14		14単位以上選択必修。中国語検定講座は日本人学生、日本語検定講座は外国人留学生のみ選択可。
	2		2単位必修
企業法、会社法、 地域企業会計論、民法Ⅰ・Ⅱ	14		14単位以上選択必修
	2		2単位必修
スポーツ産業論、 会社法	14		14単位以上選択必修
統計学総論Ⅰ・Ⅱ、経済統計Ⅰ・Ⅱ、 企業と産業組織Ⅰ・Ⅱ、 外国経営書講読Ⅰ・Ⅱ、 各コース科目（必修は除く）	10	10単位以上	10単位以上選択必修
VB プログラミング、 プレゼンテーション論Ⅰ・Ⅱ、 アルゴリズム論Ⅰ・Ⅱ、	6	6単位以上	6単位以上選択必修
現代マネジメント専攻のカリキュラ 職専門科目や教職科目からの履修	14	14単位以上	14単位以上選択必修
124単位			

4. 2012年度卒業要件概念図④

ライセンスプログラム科目

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位
ライセンスプログラム科目 選択科目	検定英語Ⅰ・Ⅱ、情報処理入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、情報処理Ⅰ・Ⅱ、 情報システム概論、検定簿記Ⅰ・Ⅱ、秘書検定Ⅰ・Ⅱ、販売士Ⅰ・Ⅱ、 検定ビジネス能力Ⅰ・Ⅱ				12単位までを限度とし、認定する

教職及び教科に関する科目

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位
教職及び教科に関する科目 選択科目	教育原論Ⅰ・Ⅱ、教育心理学、発達心理学、教職概論、教育行政、教育法規、 教育方法論、社会科・地歴科指導法Ⅰ・Ⅱ、地理歴史科指導法、 社会科・公民科指導法Ⅰ・Ⅱ、公民科指導法、商業科指導法、商業科教材研究、 情報科指導法Ⅰ・Ⅱ、情報と職業、道徳教育研究、特別活動研究、生徒指導論、 教育相談、教職総合演習、教職時事演習、教育実践研究、中学校教育実習、 高等学校教育実習、教育福祉論、職業指導Ⅰ・Ⅱ、学校事務概論				教職課程履修者のみ対象

5. 教育課程の具体的履修方法

(1) 学部共通科目

(1) 基礎科目

基礎科目は、必修科目であり、全科目を履修し、1年次で合計16単位を取得する必要があります。

(2) 言語科目A

言語科目Aは、必修科目であり、全科目を履修し、1・2年次で4単位を取得する必要があります。

なお、クラス分けについては、入学時に実施した「基礎学力テスト」及び2年次終了時に実施する「プレースメントテスト」の結果により、習熟度別に編成されます。

(3) 言語科目B

言語科目Bは、選択必修科目であり、5科目（「日本語」は、留学生のみが対象）ある中から、1・2年次で同一言語科目を4単位以上取得する必要があります。

なお、2年次に現代マネジメント専攻を希望する日本人学生は中国語、留学生は日本語がそれぞれ必修になります。

ただし、2年次の「Ⅲ・Ⅳ」にあつては、「ビジネス英語Ⅲ・Ⅳ」「時事英語Ⅲ・Ⅳ」への変更を可とします。

(4) 教養科目

教養科目は、選択必修科目であり、この科目群の中から4年間で12単位以上を取得する必要があります。

「スポーツ教育」には、学内で開講するキャンパススポーツと学外で開講するシーズンスポーツがあり、どちらを履修する（履修しなくても良い（選択科目））かについては、本人の自由となっています。

「スポーツ教育」の履修にあたっては、授業最初のガイダンスに必ず出席して先生の指示を受けてください。

(5) キャリア科目

キャリア科目は、選択必修科目であり、2年次より卒業までに4単位以上を取得する必要があります。また、卒業後の就職へ向けて取り組む上で、欠かすことのできない科目群でもあります。

(6) 演習科目

演習科目は、必修科目であり、卒業までに各学年において、2単位（前期1単位、後期1単位）ずつ「卒業論文」も含め合計10単位を取得する必要があります。

1年次は「基礎演習」を履修します。2年次は「専門導入演習」を履修し、経済専攻あるいは現代マネジメント専攻に分かれて、それぞれの専門分野を学ぶ上での専門導入と位置づけています。さらに3年次は「専門演習」、4年次は「卒業演習」を履修し、より専門的にその分野を修得すべく、深くより高度な内容が展開されます。また、4年次には併せて、卒業論文作成の指導を受けることとなります。

(2) 経済専攻専門科目

経済専攻を希望する学生は、この専門科目を履修し、基本科目A・B並びに3つあるコースの中から1つのコースを選択し、展開科目も含めた合計54単位を取得する必要があります。

なお、履修方法は次のとおりとします。

(1) 基本科目A

基本科目Aは、選択必修科目であり、「経済理論AⅠ・AⅡ」「BⅠ・BⅡ」いずれか2科目4単位を、「日本経済史Ⅰ・Ⅱ」「西洋経済史Ⅰ・Ⅱ」いずれか2科目4単位を履修し、合計8単位を1・2年次で取得する必要があります。

(2) 基本科目B

基本科目Bは、選択必修科目であり、この科目の中から2・3年次に20単位以上を取得する必要があります。

(3) コース科目（3コース）

コース科目（3コース）は、選択必修科目であり、各コースに属する者は、その科目の中から2年次より卒業までに16単位以上を取得する必要があります。

(4) 展開科目

展開科目は、選択必修科目であり、この科目群並びに経済専攻基本科目A・Bおよび各コース科目の中から2年次より卒業までに10単位以上を取得する必要があります。

(3) 現代マネジメント専攻専門科目

現代マネジメント専攻を希望する学生は、この専門科目を履修し、基本科目A・B並びに3つあるコースの中から1つのコースを選択し、展開科目も含めた合計54単位を取得する必要があります。

なお、履修方法は次のとおりとします。

(1) 基本科目A

基本科目Aは、必修科目であり、1・2年次で合計8単位を取得する必要があります。

(2) 基本科目B

基本科目Bは、選択必修科目であり、この科目の中から2・3年次に20単位以上を取得する必要があります。

(3) コース科目（3コース）

コース科目（3コース）は、選択必修科目であり、各コースに属する者は、その科目の中から2年次より卒業までに16単位以上を取得する必要があります。

(4) 展開科目

展開科目は、選択必修科目であり、この科目群並びに現代マネジメント専攻基本科目Bおよび各コース科目の中から2年次より卒業までに10単位以上を取得する必要があります。

(4) 情報科目

情報科目は選択必修科目であり、この科目群の中から4年間で6単位以上を取得する必要があります。

(5) 自由選択科目（学部共通科目）

自由選択科目は、「ライセンスプログラム科目」「教職及び教科に関する科目（教職課程履修者のみ履修可能）」を含めて、その他の全科目群（演習科目等の必修科目を除き、各科目群の必要取得単位数を超えて取得した科目）から、14単位以上を取得する必要があります。

6. 履修方法の概要

(1) 授 業

本学では、学生が自ら選んで作った履修計画により、各授業担当教員の許可を得、予習・復習を含めた学習に努め、考査に合格すれば単位を授与します。その結果、所定の科目及び単位が充足すれば卒業となります。

(2) 単位の計算方法

単位の算定は、大学設置基準の定めにより、1単位の授業時間を45時間の学修（各自が行う自習時間を含む）を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、各大学において定めることとされています。

本学では、原則として、講義の科目については15時間の授業をもって1単位、演習・外国語及び実技の科目については30時間の授業をもって1単位と定めています。

授業の単位計算

講義の単位算定	演習・外国語の単位算定	実技の単位算定
授業15時間＋自習30時間 45時間＝1単位	授業30時間＋自習15時間 45時間＝1単位	授業30時間 1単位

授業科目の単位数の実際

授業の方法	授業開講の形態	授業時間数	単位数
講 義	セメスター科目 (週1回授業)	2時間 × 15週＝30時間	2単位
実 技	セメスター科目(週1回授業)	2時間 × 15週＝30時間	1単位
	集中講義		1単位

教室内の授業に出席するためには、予習、復習、調査、資料収集などの教室外の学習が必要です。ただ授業時間だけ出席をし、単位の修得のみを望むということは単位制度の趣旨に反するものです。

(3) 授業時間

授業時間は原則として次のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

時間割は印刷した授業時間割表を配布します。

(4) 年間履修単位等

- 1年間に履修し得る単位数は半期30単位、年間46単位までとします。
- 「教職専門科目」及び「教職及び教科に関する科目」の単位数は年間の履修単位数に含まず、履修上限の単位数を超えても履修ができます。
- 履修人数制限のある科目、情報処理関連科目（情報処理実習室で授業を行う科目）及び英会話、時事英語、ビジネス英語を履修する者は第1回目の授業に出席し担当教員から履修許可を得なければなりません。

(5) 履修科目の登録

学生は、学年の初めに1年間の履修計画にもとづいて履修登録（Web履修）をします。この履修登録は、決められた期間内にパソコンから各個人が入力することにより履修科目の登録が完了します。

なお、病気等により期限を過ぎて提出しようとする場合には、診断書または理由書（保証人連署）等の提出により、特に履修登録を認める場合があります。また、Web履修については、ガイダンス等で入力方法（登録手順等）の詳細な説明をするので、必ず出席してください。

※履修や学則の取り扱いについての疑問や相談は必ず修学支援室に問い合わせてください。くれぐれも自分勝手な解釈や学生同士での判断のまま放置しておく、重大な不利益を被る場合がありますので、遠慮なく相談することが大切です。

(6) 経済専攻・現代マネジメント専攻のコース登録

- (1) 専攻・コースの定員は設けていません。
- (2) 専攻・コースの登録は第2年次の履修登録と同時に行います。ただし第3年次編入学者等は第3年次の履修科目の登録時とします。
- (3) 専攻・コースを変更する場合は系・コースを登録した翌年度の履修科目の登録時に1回のみ認めます。

7. 単位の認定等

(1) 考査について

考査の方法は期末定期試験（前期及び後期）、論文レポート、試問その他の方法によって行われ評価します。

考査を受ける基準は次のとおりとします。

- (1) 考査の成績は100点満点とし、90点以上を秀、89点から80点までを優、79点から70点までを良、69点から60点までを可とし、可以上を合格とします。59点以下を不可として不合格とします。
- (2) 授業日数の2／3以上出席がない者は単位の認定が行われません。
- (3) 学生証を携帯しない者は考査を受けることができません。
- (4) 授業料を納付しない者は履修登録を行うことができません。また、考査を受けることもできません。
- (5) 特別教育科目のうち「ライセンスプログラム」科目については合格証を提出する事により単位が認定されます。

(2) 期末定期試験について

前期定期試験（7月下旬～8月上旬）及び後期定期試験（1月下旬～2月上旬）は日時を定めて、一斉に行います。その詳細は別に示します。

試験時間は原則として50分です。

(3) 受験心得

- (1) 学生証は試験監督者の点検し易いように机上通路側に呈示しておく。
- (2) 答案用紙には学年、学籍番号、氏名を必ずボールペンで明瞭に記入する。
- (3) 試験室では許可されたもの以外はバッグ等に収納する。
- (4) 試験中は物品を貸し借りしてはならない。
- (5) 試験開始20分以上経過した遅刻者及び、試験中一度退室した者は試験室に入ることはできない。
- (6) 試験開始後30分を経過するまでは答案用紙を提出し退室することはできない。
- (7) 答案用紙は所定の箇所に提出すること。答案用紙を試験室外に持ち出すことはできない。
- (8) 試験監督者の指示に従わなければならない。
- (9) 試験中、私語をしたり、持込許可物を貸し借りすること及びテキスト等、1冊の持込許可物を2人以上で使用することは不正行為に該当する。
- (10) 試験中、不正行為を行った者には「試験不正行為取扱いについての内規」により処分する。
- (11) 学生証不携帯者は受験することができないので、仮学生証の交付を受けること。
- (12) 携帯電話等は電源を切りバッグ等に収納する。
- (13) 電子辞書の持ち込みは、担当教員から指示がある場合を除き、認めない。

(4) 試験不正行為取扱いについて

- (1) 定期試験は厳正に実施します。
- (2) 学生諸君は「受験心得」（前掲）を守らなければなりません。
- (3) 試験時にカンニング等の不正行為を行った時は、「試験不正行為取扱いについての内規」にもとづき厳正に処分します。

(5) 追試験

- (1) 下記に示すやむをえない事由に該当し、定期試験を欠席した者は、その事由を証明する文書（診断書、証明書等）を添えて欠席した日より3日以内に追試験受験願を提出することができます。ただし、出席不足等により追試験を受験できない場合がありますので注意すること。

欠席事由

- ①二親等以内の親族（二親等の姻族を除く）の死亡の場合
 - ②傷病の場合
 - ③就職試験日と重なった場合
 - ④その他やむをえない事由（交通機関の事故等）による場合
- (2) 追試験の方法については筆記試験、レポート、面接試験その他担当教員の指示によります。

(6) 再試験

再試験の取り扱いは次のとおりです。

- ①全学年を対象に再試験を行います。
- ②上記該当者の受験科目は当該年度に登録し、試験で不合格となった科目に限ります。（教育実習と演習は含まれません。）
- ③再試験に合格した場合は、すべて60点の評価で単位が認定されます。
- ④再試験を受験しようとする者は、所定の手続きをしなければなりません。
- ⑤再試験の受験料は、1科目3,000円とします。

(7) 成績発表

学年成績は前期末及び後期末に成績表を交付して通知します。

(8) GPA 制度の導入について

- (1) GPA (Grade Point Average) とは、授業科目の成績評価に対して点数 (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、履修登録した科目の総単位数で割って算出した平均値のことを指します。そのため、不合格の科目も GPA 算出の対象となるため、試験を放棄した場合には GPA の値は低くなります。

この GPA は、各人の学習への取り組み状況が把握できるため、4年間の学習計画を具体的に策定する際の指針となります。

- (2) 成績評価と計算方法

成績	成績標記	GP (グレードポイント)
90~100点	秀	4.0
80~89点	優	3.0
70~79点	良	2.0
60~69点	可	1.0
59点以下	標記せず (不可)	0

評価対象科目は、教職科目を含めた経済学部内で評価した全ての科目です。

なお、評価対象外科目は、経済学部以外の大学等で修得した単位（1年次入学・編入学前の認定単位、単位互換科目の単位、海外留学における修得認定単位）、教育実習、インターンシップとします。

〈GPA の計算方法〉

$$\frac{4 \times \text{秀の修得単位数} + 3 \times \text{優の修得単位数} + 2 \times \text{良の修得単位数} + 1 \times \text{可の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数}}$$

(3) 通知方法

成績表に GPA を記載します。記載される GPA は、入学時からの通算です。

なお、GPA の詳細については、オリエンテーション時にも説明します

(9) 単位互換

- (1) 学則第25条第1項に基づき放送大学及び千葉県内の私立大学及び短期大学（単位互換締結大学のみ）と単位互換を実施します。
- (2) 同条第2項に基づき修得した単位は60単位を超えない範囲で、本学の卒業単位として認定します。
- (3) 放送大学の科目を履修できるのは2年次以上とし、4年次については放送大学の2学期の出願は認めません。その他の大学の科目を履修する場合はこの限りではありません。
- (4) 単位互換の履修単位は年次別履修単位数に関する内規に定める単位に含みます。従って、履修届には互換科目名を記載し単位数を加えなければなりません。
- (5) 放送大学に出願するにあたり履修科目の選定は単位認定試験日程に注意すること。また、出願後の科目変更・取消はできません。
- (6) 所定の出願手続きを経て当該大学の特別聴講学生として受け入れ決定後、各大学の要項を参照して下さい。
- (7) 放送大学の学費は教材及び学生証の受領上、本学が一括納入しますが、当該学生は履修届提出後、指定の期日までに必ず納入すること。
- (8) 放送大学の学費は一旦当該学生が全額納入し、単位修得後本学が1/4を負担する。その他の大学については全て本人負担とします。
- (9) 単位互換で履修できる科目は本学で教育上有益と認めた科目とします。

(10) 既修得単位の認定

- (1) 本学に編入学、再入学又は転入学をした者、及び大学・短期大学を卒業又は中途退学した後、本学に入学した者の既修得単位の認定は、次の各号の単位を超えない範囲で学則第28条に定める単位として一括認定し、各科目群に配分します。
 - 一 1年次 19単位
 - 二 2年次 38単位
 - 三 3年次 65単位
- (2) 前項は、外国における大学等を卒業又は退学した者も適用します。

(11) 長期留学における単位認定の取り扱いについて（平成13年4月10日教授会決定）

海外提携校（オーストラリア・ウーロンゴン大学、中国・北京第2外国語学院）への長期留学をする場合は学生諸君の留学を支援するために次のとおり取り扱います。

- (1) 読み替え可能な科目についてはできる限り読み替え、その他の科目については、自由選択科目群に一括認定とします。
- (2) 3年次より留学する学生は、翌年に専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業演習Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修することを許可し4年間で卒業できるように配慮します。
- (3) 4年次より留学する学生は卒業演習Ⅰ・Ⅱのみで卒業要件を充足することを条件とし、卒業論文を指導教員に提出し、単位の認定を受けた場合、当該年度の卒業を許可します。

ただし、上記3)による混乱を避けるため、なるべく2・3年次に留学することが望ましい。

(12) 履修者の著しく少ない科目の取り扱いについて

履修登録確定後、一般講義科目（教職科目等を除く）及び外国書講読のうち履修者数が5名未満の科目は当該年度休講となる場合があります。

具体的な休講科目がある場合には掲示により周知します。

8. 学習支援体制

(1) 経済学常識試験

- (1) 経済学部では、全学年生を対象として「経済学常識試験」(Ⅰ(旧3級)・Ⅱ(旧2級)・上級(旧1級))を実施しています。
- (2) この「経済学常識試験」は、経済学部生として最低限理解しなければならない経済専門用語や概念の基礎的知識から、理論的・数理的な専門知識や幅広い経済政策等全般にわたって、自分の学習した成果を図る目安となっています。
- (3) この試験は、「Ⅰ」合格から順次「Ⅱ」、「上級」へとステップアップしてゆくことができます。
- (4) 「経済学常識試験」は、年間を通じてゼミの授業時や5限終了後の時間帯に実施しますが、実施時期・場所等については、掲示等によりお知らせします。
- (5) この試験の合格は70点とし、合格者には合格証を授与します。
- (6) また、上級合格者には、日本経済学教育協会が認定する「経済学検定試験」を受験する際の受験料を補助します。

(2) 特別指導室

経済学部では、4つの特別指導室を設けています。学習意欲のある学生諸君が自主的に運営するサークルですが、専任の先生が顧問として対応し、主に資格取得をめざすために、定例的な学習会・勉強会だけでなく、夏季・冬季休業中に合宿勉強会をおこなっています。

特別指導室に入室するとともに、ライセンスプログラムの学習と並行して学んでゆくと効果的です。

- (1) 特別会計指導室
- (2) 公務員指導室
- (3) 教職指導室
- (4) 金融研究会

なお、各指導室の詳細についてはキャンパスライフ及び掲示等を参考にしてください。

(3) 情報機器・サービス利用にあたって (メディアセンターからの注意事項)

皆さんは本学の情報機器利用規則の範囲内で、本学の各種情報機器・サービスを自由に利用できます。下記に代表的な機器・サービスを列挙します。

また各種サービスの講習会をメディアセンターにて行いますので操作方法等が分からない場合は参加して下さい。

学生生活の中で利用されることを希望します。

- (1) ID、パスワード

本学では、全学生に本学の各種情報サービスを利用するためのIDを自動的に付与しています。端末にログインする、インターネット上のWeb閲覧をする、eメールを送受信する、その他各種システムを利用する際に入力し、個人を認証するものです。パスワードは厳重に管理し、絶対に他人に教えるはいけません。パスワードを忘れた場合はメディアセンターに問い合わせして下さい。

また、利用規則に反した場合は利用停止をする場合があります。

- (2) ファイルの保存

作成したファイルを保存しておきます。保存容量に制限があります。

- (3) eメールの利用

eメールを利用できます。保存容量に制限があります。

(4) Web ページの閲覧 (データベース検索含む)

学内、およびインターネット上の Web ページを閲覧できます。

※ インターネットの Web ページを閲覧するためには情報倫理の試験に合格しなければなりません。

授業、卒論、就職活動で Web ページを閲覧することがありますので、必ず受験し合格して下さい。

(5) 学内ホームページの利用

学内ホームページでは各種お知らせ、及び資料を公開しています。

(6) 印刷

モノクロ印刷が可能です。一部端末ではカラー印刷が可能です。ただし、年間で枚数制限を設けています。

(7) e-learning の利用

Web ブラウザを利用し、自学自習できるシステムです。

(8) ノート PC 貸出

ノート PC の貸出が可能です。当日返却、長期貸出も可能です。詳細はメディアセンターに問い合わせして下さい。

(9) デジタル編集機器

画像・動画等の編集機器やスキャナが利用できます。

(4) 学生相談員・キャンパスサポーター制度について

学生諸君が大学生活のなかで、勉強のことや友達のこと、また課外活動やアルバイトのことでの悩み事など、何でも気軽に相談に応じられる場所と人員を配置して、学生諸君の立場にたった解決の方法付けを行う 2 つの制度を設けています。

教育相談員・・・ベテランの専門相談員により担当した一人の学生を入学から卒業まで見守ります。

このなかでゼミの教員や担当の職員とも協力して相談を進めてゆきます。

キャンパスサポーター・・・お兄さん・お姉さんの立場で学生諸君に接するので、自由でごく気軽に話し合える立場で相談に応じます。

履 修 要 項

Ⅱ 教育課程 2

2011(平成23)年度入学者に適用する教育課程
(学籍番号の上3ケタが、111の学生向け)

Ⅱ 教育課程 2

1. 教育課程の編成方針と概要

1. 2011（平成23）年度入学生は、「敬愛大学学則」及び「経済学部規程」に基づき、卒業に必要な修業年限を4年、卒業必要単位を124単位以上と定めています。
2. 本学部では、「敬天愛人」の建学の精神のもとに「人間性と創造性豊かな経済人」の育成を図ることを目的として、「経済系」と「経営系」の2つの教育課程を用意しています。
3. 「経済系」・「経営系」にはそれぞれ4つの専門的な学習コースがあり、2系8コースの選択方法は、1年次の履修を経て、2年次の履修登録時にコースを決定します。
2年次以降は自分の学習意欲や将来の進路・目標にもとづき、各自が選択したコースの科目を具体的に体系的に履修していくことになっています。
4. 経済学部では、2009年度より新たなカリキュラムを導入し、教育課程には、学部共通科目を基礎として、基礎科目群、言語科目群、教養科目群、キャリア科目群、演習科目群を配しており、「経済系」・「経営系」の専門分野にあつては、基本科目群、経済系専門科目群、経営専門科目群、展開科目群で構成しています。
また、基礎科目を、必修科目もしくは選択必修科目として1年次に多く配置し、よりスムーズに高度な専門分野へ移行できる段階的な教育を実践します。
5. 学年を前期と後期に分け、授業は Semester 科目（半期完結科目）及び集中講義によって行います。ただし、「Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）」科目の「Ⅱ」の履修にあつては、条件付科目があるので、確認が必要です。
6. 教職課程履修者は卒業必要単位のほかに、教育職員免許法に定める所定の単位を履修することが必要です。
7. 「敬愛プログラム」を2009年度より新設しました。「敬愛プログラム」は、学生（個人またはグループ）の自主的・自発的な発想による活動の支援を目的とする制度です。学生は、ボランティア活動、クラブ活性化活動、イベントの企画・実施、商店街や事業所の調査等、学内外における活動のテーマを設定し、事前に達成目標や段取りを明記した企画書を作成したうえで、当該年度に成果の発表を行います。その成果が評価に値するものと認定されれば、活動そのものが卒業単位として認められ、さらに支援金の支給を受けることができます。

2. 2系8コースの概要と教育目標①

経済系(4コース)

日本・世界経済コース

経済学を基礎から応用まで学習します。この学習を通じて、日本経済と世界経済が直面している諸問題を考える力が身につきます。

めざせる進路

商社／貿易会社／サービス業／製造業などの民間企業／国際機関／NGO／大学院進学

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC[®]／通関士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(地理歴史・公民)教員免許

環境・福祉コース

環境問題に関する最新の知識と事例を学習します。また、生活に深くかわりのある社会保障、医療、年金、介護などの知識を学びます。

めざせる進路

環境関連企業／環境関係のNPO／地方自治体の環境部門／福祉関連企業／社会福祉協議会

取得できる免許・資格

社会保険労務士／社会福祉士／介護福祉士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(公民)教員免許／グリーンアドバイザー

公共サービスコース

公共サービスを理解するために金融・財政政策、公共経済学、公共選挙論などを学びます。法律科目を学び行政実務に精通することもできます。

めざせる進路

国家公務員／地方公務員(県庁、市役所、町村役場、警察官、消防士など)／政府関連企業

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC[®]／行政書士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(地理歴史・公民)教員免許

金融・証券コース

金融論、証券経済論、保険論などを学んで、金融市場や資産運用などの問題を考えます。金融の実務についても学んでいきます。

めざせる進路

都市銀行／地方銀行／信用金庫／信用組合／証券会社／生命保険会社／損害補償会社／日本郵政会社系金融機関／ノンバンク金融機関

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC[®]／証券アナリスト／ファイナンシャルプランナー

2. 2系8コースの概要と教育目標②

経営系(4コース)

経営・会計コース

企業のさまざまな活動を分析する学問である経営学の理論を基礎から段階的に学びます。授業では実際に企業が直面する事例を多く取り上げ、実践力育成を重視した指導を行います。

めざせる進路

民間企業／経営コンサルタント／起業

取得できる免許・資格

ビジネス能力検定／販売士／日商簿記／経営学検定試験／
中小企業診断士／公認会計士／税理士／高校1種(商業)教員免許

ビジネス情報コース

情報システムの仕事に必要なコンピュータの操作方法や技術的な理論を身につけます。あわせて、システム開発に必要な経営学や会計学に関する知識も学びます。

めざせる進路

システムエンジニア／プログラマー

取得できる免許・資格

Microsoft® Office Specialist／
基本情報技術者／高校1種(情報)教員免許

現代産業コース

卒業後に地元で活躍したい人のためのコースです。地域や産業を分析する方法や地域活性化の事例について学びます。さらに、流通業やサービス業における実践的な知識も習得します。

めざせる進路

国家公務員／地方公務員／経営コンサルタント／小売・外食・レジャー産業

取得できる免許・資格

ビジネス能力検定／販売士／中小企業診断士／
高校1種(商業・地理歴史)教員免許

スポーツビジネスコース

スポーツを経済学や経営学の視点から学ぶとともに、スポーツ科学理論やスポーツ実技を総合的に学びます。これにより、経営学的な知識とスキルを併せ持った人材、地域スポーツに貢献できる人材を育成するとともに生涯スポーツに携わる団体職員や、警察官・消防士などの公務員になるための知見を養い、実践的知識を身に付けます。

めざせる進路

一般企業／スポーツ企業／スポーツ施設／スポーツショップ経営／
スポーツ商品販売／公務員(警察官・消防士・一般行政職)／教員

取得できる免許・資格

中学校1種(社会)教員免許／高校1種(地歴・公民・商業・情報)教員免許

3. 科目区分および卒業要件単位略図(2011年度入学者)

科目区分		履修区分	卒業要件単位	
学部共通科目	基礎科目	基礎科目A	必修科目	16
		基礎科目B	選択科目	2
	言語科目	言語科目A	必修科目	4
		言語科目B	選択科目	4
	教養科目		選択科目	16
	キャリア科目		選択科目	4
演習科目		必修科目	10	
経済系・ 経営系別 専門科目	基本科目	基本科目A	必修科目	8
		基本科目B	選択科目	16
	経済系専門科目 (日本・世界経済コース科目) (環境・福祉コース科目) (公共サービスコース科目) (金融・証券コース科目)	経営系専門科目 (経営・会計コース科目) (ビジネス情報コース科目) (現代産業コース科目) (スポーツビジネスコース科目)	選択科目	12
	自由選択科目		選択科目	18
学部共通科目			自由選択科目	18
卒業要件単位数				124

4. 2011年度卒業要件概念図①

科目区分		1年次	2年次	3年次
学部 共通 科目	基礎科目A 必修科目	文章表現、口頭表現、基礎数学、 入門経済学、入門経営学、 キャリアプランニング、 健康科学、情報基礎Ⅰ・Ⅱ		
	基礎科目B 選択科目	敬天愛人講座、入門経済学実習、 入門経営学実習		
	言語科目A 必修科目	英語Ⅰ・Ⅱ	英語Ⅲ・Ⅳ	
	言語科目B 選択科目	フランス語Ⅰ・Ⅱ、 ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、 日本語Ⅰ・Ⅱ、英会話Ⅰ・Ⅱ	フランス語Ⅲ・Ⅳ、ドイツ語Ⅲ・Ⅳ、 中国語Ⅲ・Ⅳ、日本語Ⅲ・Ⅳ、 英会話Ⅲ・Ⅳ	
		ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ、時事英語Ⅰ・Ⅱ		
	教養科目 選択科目	敬愛プログラム、スポーツ教育、哲学、心理学、社会心理学、日本の文学、比較文学、歴史学、法学、日本の政治、社会学、数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、環境科学、地球科学、情報概論、Webデザイン、プログラミング入門(VB)・(C)・(Perl)、VBプログラミング、Cプログラミング、Perlプログラミング、データベースオペレーション、プレゼンテーション論Ⅰ・Ⅱ、総合科目Ⅰ・Ⅱ、海外事情研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、		
	教職専門科目 選択科目	日本史概論Ⅰ・Ⅱ、世界史概論Ⅰ・Ⅱ、地理学概論Ⅰ・Ⅱ、地誌学Ⅰ・Ⅱ、哲学概論Ⅰ・Ⅱ、自然地理学Ⅰ・Ⅱ、環境地理学Ⅰ・Ⅱ		
	キャリア科目 選択科目		実践会話Ⅰ・Ⅱ、 キャリア基礎開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	キャリアディベロップメント、 キャリア教育特殊講義、 インターンシップ
演習科目 必修科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱ	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	専門演習Ⅰ・Ⅱ	

4年次	単位	卒業要件単位	備 考
	16	22単位以上	全科目16単位必修
	2		3科目から2単位以上選択必修
	4		全科目4単位必修
	4	20単位以上	4単位以上選択必修（同一言語科目を継続して履修する。ただし、「Ⅲ・Ⅳ」を「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」「時事英語Ⅰ・Ⅱ」へ変更することは可。）
憲法Ⅰ・Ⅱ、政治学、Excel データ解析、情報検索入門、地域ボランティア活動	16		16単位以上選択必修
比較政治学、社会学概論、			教職課程履修者のみ対象
	4	4単位以上	4単位以上選択必修
卒業演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文	10	10単位	全科目10単位必修

4. 2011年度卒業要件概念図②

科目区分		1年次	2年次	3年次
経済系専門科目	基本科目A 必修科目	経済理論AⅠ・AⅡ、経済理論BⅠ・BⅡ、 日本経済史Ⅰ・Ⅱ、西洋経済史Ⅰ・Ⅱ		
	基本科目B 選択科目		経済政策AⅠ・AⅡ、経済政策BⅠ・BⅡ、経済学史Ⅰ・Ⅱ、 金融論Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、統計学総論Ⅰ・Ⅱ、社会政策Ⅰ・Ⅱ、 ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
	日本・世界経済コース科目 選択科目		日本経済論Ⅰ・Ⅱ、国際経済論Ⅰ・Ⅱ、日本経済地理、 世界経済地理、入門経済刑法、サイバー刑法、商法、会社法、	国際貿易論、開発経済学、 アメリカ経済事情Ⅰ・Ⅱ、 労働経済論Ⅰ・Ⅱ
	環境・福祉コース科目 選択科目		環境と生活、開発と環境、都市環境とまちづくり、環境ビジネス、 環境政策、家族と地域社会、福祉経済論、社会福祉論、保険論、 民法Ⅰ・Ⅱ	社会保障論Ⅰ・Ⅱ、労働経済論Ⅰ・Ⅱ、 医療の経済学、環境経済学Ⅰ・Ⅱ、
	公共サービスコース科目 選択科目		日本経済論Ⅰ・Ⅱ、公共経済学、公共選択論、地域経済論、 入門経済刑法、サイバー刑法、行政法Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、 民法Ⅰ・Ⅱ、地方自治論Ⅰ・Ⅱ、地方自治論演習	地方財政論Ⅰ・Ⅱ、経済統計Ⅰ・Ⅱ、 社会保障論Ⅰ・Ⅱ
	金融・証券コース科目 選択科目		金融事情Ⅰ・Ⅱ、資産運用論、保険論、商法、会社法、 有価証券法Ⅰ・Ⅱ	国際金融論Ⅰ・Ⅱ、証券経済論Ⅰ・Ⅱ、 計量経済学Ⅰ・Ⅱ
	展開科目 選択科目	簿記論ⅠA・ⅡA、簿記論ⅠB・ⅡB、金融経済の基礎知識		
学部共通科目	自由選択科目（ライセンスプログラム科目、 教職及び教科に関する科目を含む）			
卒業要件単位数				

4年次	単位	卒業要件単位	備考
	8	8単位	経済理論AⅠ・AⅡ又はBⅠ・BⅡから2科目4単位選択必修、日本経済史Ⅰ・Ⅱ又は西洋経済史Ⅰ・Ⅱから2科目4単位選択必修
	16	16単位以上	16単位以上選択必修
ヨーロッパ経済論Ⅰ・Ⅱ、 アジア経済論、中東経済論、	12	各系のコース別に 12単位以上	日本・世界経済コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
資源エネルギー論、 環境問題Ⅰ・Ⅱ	12		環境・福祉コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
財政赤字の経済学、	12		公共サービスコースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
銀行論Ⅰ・Ⅱ、企業金融論Ⅰ・Ⅱ、	12		金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
経済数学Ⅰ・Ⅱ、経営学概論Ⅰ・Ⅱ、 中小企業論Ⅰ・Ⅱ、 知的財産権論Ⅰ・Ⅱ、食料経済論、	14		この欄の科目群並びに経済系基本科目A・B各コース科目の中から14単位以上選択必修
	18	18単位以上	ライセンスプログラム科目を含むすべての科目群（演習科目・教職科目を除く）から、18単位以上選択必修
124単位			

4. 2011年度卒業要件概念図③

科目区分		1年次	2年次	3年次
経営系専門科目	基本科目A 必修科目	経営学概論Ⅰ・Ⅱ、会計学Ⅰ・Ⅱ		
	基本科目B 選択科目	簿記論ⅠA・ⅡA、簿記論ⅠB・ⅡB、 産業論Ⅰ・Ⅱ、マーケティング論Ⅰ・Ⅱ、経営史Ⅰ・Ⅱ、 経営戦略論Ⅰ・Ⅱ、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、経営分析Ⅰ・Ⅱ、 経済理論AⅠ・AⅡ、経済理論BⅠ・BⅡ		
	経営・会計コース科目 選択科目	人的資源管理Ⅰ・Ⅱ、消費者行動論Ⅰ・Ⅱ、商法、会社法、 民法Ⅰ・Ⅱ		原価計算論Ⅰ・Ⅱ、税務会計論Ⅰ・Ⅱ、 マーケティングリサーチ、 企業文化論、中小企業論Ⅰ・Ⅱ、
	ビジネス情報コース科目 選択科目	経営情報論Ⅰ・Ⅱ、情報社会と倫理、ハードウェアシステム論、 OS論、ネットワークシステム論、情報セキュリティ論、 アルゴリズム論Ⅰ・Ⅱ、システム設計論Ⅰ・Ⅱ、情報システム開発論		流通情報論、データベース論、 知的財産権論Ⅰ・Ⅱ、
	現代産業コース科目 選択科目	産業立地論Ⅰ・Ⅱ、流通論、流通経営論Ⅰ・Ⅱ、 観光事業論Ⅰ・Ⅱ、地域産業論、地域調査論		流通情報論、サービス産業論、 産業組織論Ⅰ・Ⅱ、中小企業論Ⅰ・Ⅱ、 都市環境とまちづくり
	スポーツビジネス科目 選択科目	スポーツ科学概論 生涯スポーツ実習Ⅰ スポーツビジネス論 スポーツ産業論		スポーツビジネス実習 生涯スポーツ実習Ⅱ
	展開科目 選択科目	金融経済の基礎知識		経済政策AⅠ・AⅡ、経済政策BⅠ・BⅡ、金融論Ⅰ・Ⅱ、統計学総論Ⅰ・Ⅱ、 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、日本経済論Ⅰ・Ⅱ、経済統計Ⅰ・Ⅱ、国際貿易論、 地域企業会計論、企業再生論、環境ビジネス、環境問題Ⅰ・Ⅱ、 外国経営書講読Ⅰ・Ⅱ
学部共通科目	自由選択科目（ライセンスプログラム科目、 教職及び教科に関する科目を含む）			
				卒業要件単位数

4年次	単位	卒業要件単位	備 考
	8	8単位	全科目8単位必修
	16	16単位以上	16単位以上選択必修
財務管理論、 国際経営論、企業倫理論、 有価証券法Ⅰ・Ⅱ	12	各系のコース別に 12単位以上	経営・会計コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
シミュレーション論、 サイバー刑法、情報経済論	12		ビジネス情報コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
ITサービス産業論、 地域経済論、都市地理学、	12		現代産業コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
	12		スポーツビジネスコースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、 ベンチャービジネス論、 企業金融論Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、	14	14単位以上	この欄の科目群並びに経営系基本科目B各コース科目の中から14単位以上選択必修
	18	18単位以上	ライセンスプログラム科目を含むすべての科目群（演習科目・教職科目を除く）から、18単位以上選択必修
124単位			

4. 2011年度卒業要件概念図④

ライセンスプログラム科目

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位
ライセンスプログラム科目 選択科目	検定英語Ⅰ・Ⅱ、情報処理入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、情報処理Ⅰ・Ⅱ、 情報システム概論、検定簿記Ⅰ・Ⅱ、秘書検定Ⅰ・Ⅱ、販売士Ⅰ・Ⅱ、 検定ビジネス能力Ⅰ・Ⅱ				12単位までを限度とし、認定する

教職及び教科に関する科目

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位
教職及び教科に関する科目 選択科目	教育原論Ⅰ・Ⅱ、教育心理学、発達心理学、教職概論、教育行政、教育法規、 教育方法論、社会科・地歴科指導法Ⅰ・Ⅱ、地理歴史科指導法、 社会科・公民科指導法Ⅰ・Ⅱ、公民科指導法、商業科指導法、商業科教材研究、 情報科指導法Ⅰ・Ⅱ、情報と職業、道徳教育研究、特別活動研究、生徒指導論、 教育相談、教職総合演習、教職時事演習、教育実践研究、中学校教育実習、 高等学校教育実習、教育福祉論、職業指導Ⅰ・Ⅱ、学校事務概論				教職課程履修者のみ対象

5. 教育課程の具体的履修方法

(1) 学部共通科目

(1) 基礎科目A

基礎科目Aは、必修科目であり、全科目を履修し、1年次で合計16単位を取得する必要があります。

(2) 基礎科目B

基礎科目Bは、1年次で2単位以上を取得する必要があります。平成24年度からは敬天愛人講座のみ開講します。

なお、「敬天愛人講座」の「敬天愛人」とは、本学（園）の創立者である故長戸路政司先生が、創立の基盤となる建学の精神として掲げたものですが、シラバスに記載のとおり、建学の理念をはじめとして、今日的で総合的な視点により、多様な講義テーマを設定しているため、多くの学生諸君の履修を勧めます。

(3) 言語科目A

言語科目Aは、必修科目であり、全科目を履修し、1・2年次で4単位を取得する必要があります。

(4) 言語科目B

言語科目Bは、選択必修科目であり、5科目（「日本語Ⅰ・Ⅱ」は、留学生のみが対象）ある中から、1・2年次で同一言語科目を4単位以上取得する必要があります。

ただし、「Ⅲ・Ⅳ」にあつては、「ビジネス英語」「時事英語」への変更を可とします。

(5) 教養科目

教養科目は、選択必修科目であり、この科目の中から4年間で16単位以上を取得する必要があります。

「スポーツ教育」には、学内で開講するキャンパススポーツと学外で開講するシーズンスポーツがあり、どちらを履修する（履修しなくても良い（選択科目））かについては、本人の自由となっています。

「スポーツ教育」の履修にあたっては、授業最初のガイダンスに必ず出席して先生の指示を受けてください。

(6) キャリア科目

キャリア科目は、選択必修科目であり、2年次から4単位以上を取得する必要があります。また、卒業後の就職へ向けて取り組む上で、欠かすことのできない科目群でもあります。

(7) 演習科目

演習科目は、必修科目であり、卒業までに各学年において、2単位（前期1単位、後期1単位）ずつ「卒業論文」も含め合計10単位を取得する必要があります。

1年次は「基礎演習」を履修します。2年次は「専門導入演習」を履修し、経済系あるいは経営系に分かれて、それぞれの専門分野を学ぶ上での専門導入と位置づけています。さらに3年次は「専門演習」・4年次は「卒業演習」を履修し、より専門的にその分野を修得すべく、深くより高度な内容が展開されます。また、4年次には併せて、卒業論文作成の指導を受けることとなります。

(2) 経済系専門科目

経済系を希望する学生は、この専門科目群を履修し、基本科目A・B並びに4つあるコースの中から1つのコースを選択し、展開科目も含めた合計50単位を取得する必要があります。

なお、履修方法は次のとおりとします。

(1) 基本科目A

基本科目Aは、選択必修科目であり、「経済理論AⅠ・AⅡ」または「BⅠ・BⅡ」から2科目4単位を、「日本経済史Ⅰ・Ⅱ」または「西洋経済史Ⅰ・Ⅱ」から2科目4単位を履修し、合計8単位を1・2年次で取得する必要があります。

(2) 基本科目B

基本科目Bは、選択必修科目であり、この科目の中から2・3年次に16単位以上を取得する必要があります。

(3) コース科目（4コース）

コース科目（4コース）は、選択必修科目であり、各コースに属する者は、その科目の中から2年次より卒業までに12単位以上を取得する必要があります。

(4) 展開科目

展開科目は、選択必修科目であり、この科目群並びに経済系基本科目A・Bおよび各コース科目の中から2年次より卒業までに14単位以上を取得する必要があります。

(3) 経営系専門科目

経営系を希望する学生は、この専門科目群を履修し、基本科目A・B並びに4つあるコースの中から1つのコースを選択し、展開科目も含めた合計50単位を取得する必要があります。

なお、履修方法は次のとおりとします。

(1) 基本科目A

基本科目Aは、必修科目であり、1・2年次で2科目とも合計8単位を取得する必要があります。

(2) 基本科目B

基本科目Bは、選択必修科目であり、この科目の中から2・3年次に16単位以上を取得する必要があります。

(3) コース科目（4コース）

コース科目（4コース）は、選択必修科目であり、各コースに属する者は、その科目の中から2年次より卒業までに12単位以上を取得する必要があります。

(4) 展開科目

展開科目は、選択必修科目であり、この科目群並びに経営系基本科目Bおよび各コース科目の中から2年次より卒業までに14単位以上を取得する必要があります。

(4) 自由選択科目（学部共通科目）

自由選択科目は、「ライセンスプログラム科目」「教職及び教科に関する科目（教職課程履修者のみ履修可能）」を含めて、その他の全科目群（演習科目等の必修科目を除き、各科目群の必要取得単位数を超えて取得した科目）から、18単位以上を取得する必要があります。

(5) 演習科目

2年次以降のゼミナールの履修は、2年ゼミ（専門導入演習Ⅰ・Ⅱ）、3年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）、4年ゼミ（卒業演習Ⅰ・Ⅱ）、を同じ担当者のもとで、通して3年間学ぶことが原則です。

どうしてもゼミを移りたい学生については、2年ゼミから3年ゼミに進むときに限り、他のゼミに移ることが認められます。ただし、希望するゼミに移れるかどうかは、当該ゼミの所属ゼミ生数や、3年ゼミから中途参加するための条件などが勘案され、3年ゼミ担当者によって決定されます。

2年ゼミと同じ担当者を引き続き希望する学生も、確認のため、3年ゼミのゼミ希望登録を行なう必要があります。ゼミ希望登録を怠ると、希望するゼミに入れなくなりますから、必ず登録して下さい。

6. 履修方法の概要

履修方法の概要については19ページ以下を参照。

7. 単位の認定等

単位の認定等については21ページ以下を参照。

8. 学習支援体制

学習支援体制については25ページ以下を参照。

履 修 要 項

Ⅲ 教育課程 3

2009(平成21)年度から2010(平成22)年度入学者に適用する教育課程(学籍番号の上3ケタが、091・101の学生向け)

Ⅲ

教育課程 3

1. 教育課程の編成方針と概要

1. 2009（平成21）年度から2010（平成22）年度入学生は、「敬愛大学学則」及び「経済学部規程」に基づき、卒業に必要な修業年限を4年、卒業必要単位を124単位以上と定めています。
2. 本学部では、「敬天愛人」の建学の精神のもとに「人間性と創造性豊かな経済人」の育成を図ることを目的として、「経済系」と「経営系」の2つの教育課程を用意しています。
3. 「経済系」には4つ、「経営系」には3つの専門的な学習コースがあり、2系7コースの選択方法は、1年次の履修を経て、2年次の履修登録時にコースを決定します。
2年次以降は自分の学習意欲や将来の進路・目標にもとづき、各自が選択したコースの科目を具体的に体系的に履修していくことになっています。
4. 経済学部では、2009年度より新たなカリキュラムを導入し、教育課程には、学部共通科目を基礎として、基礎科目群、言語科目群、教養科目群、キャリア科目群、演習科目群を配しており、「経済系」・「経営系」の専門分野にあつては、基本科目群、経済系専門科目群、経営専門科目群、展開科目群で構成しています。
また、基礎科目を、必修科目もしくは選択必修科目として1年次に多く配置し、よりスムーズに高度な専門分野へ移行できる段階的な教育を実践します。
5. 学年を前期と後期に分け、授業は Semester 科目（半期完結科目）及び集中講義によって行います。ただし、「Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）」科目の「Ⅱ」の履修にあつては、条件付科目があるので、確認が必要です。
6. 教職課程履修者は卒業必要単位のほかに、教育職員免許法に定める所定の単位を履修することが必要です。
7. 「敬愛プログラム」を2009年度より新設しました。「敬愛プログラム」は、学生（個人またはグループ）の自主的・自発的な発想による活動の支援を目的とする制度です。学生は、ボランティア活動、クラブ活性化活動、イベントの企画・実施、商店街や事業所の調査等、学内外における活動のテーマを設定し、事前に達成目標や段取りを明記した企画書を作成したうえで、当該年度に成果の発表を行います。その成果が評価に値するものと認定されれば、活動そのものが卒業単位として認められ、さらに支援金の支給を受けることができます。

2. 2系7コースの概要と教育目標①

経済系(4コース)

日本・世界経済コース

経済学を基礎から応用まで学習します。この学習を通じて、日本経済と世界経済が直面している諸問題を考える力が身につきます。

めざせる進路

商社／貿易会社／サービス業／製造業などの民間企業／国際機関／NGO／大学院進学

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC[®]／通関士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(地理歴史・公民)教員免許

環境・福祉コース

環境問題に関する最新の知識と事例を学習します。また、生活に深くかわりのある社会保障、医療、年金、介護などの知識を学びます。

めざせる進路

環境関連企業／環境関係のNPO／地方自治体の環境部門／福祉関連企業／社会福祉協議会

取得できる免許・資格

社会保険労務士／社会福祉士／介護福祉士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(公民)教員免許／グリーンアドバイザー

公共サービスコース

公共サービスを理解するために金融・財政政策、公共経済学、公共選挙論などを学びます。法律科目を学び行政実務に精通することもできます。

めざせる進路

国家公務員／地方公務員(県庁、市役所、町村役場、警察官、消防士など)／政府関連企業

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC[®]／行政書士／中学校1種(社会)教員免許／高校1種(地理歴史・公民)教員免許

金融・証券コース

金融論、証券経済論、保険論などを学んで、金融市場や資産運用などの問題を考えます。金融の実務についても学んでいきます。

めざせる進路

都市銀行／地方銀行／信用金庫／信用組合／証券会社／生命保険会社／損害補償会社／日本郵政会社系金融機関／ノンバンク金融機関

取得できる免許・資格

経済学検定試験／TOEIC[®]／証券アナリスト／ファイナンシャルプランナー

2. 2系7コースの概要と教育目標②

経営系(3コース)

経営・会計コース

企業のさまざまな活動を分析する学問である経営学の理論を基礎から段階的に学びます。授業では実際に企業が直面する事例を多く取り上げ、実践力育成を重視した指導を行います。

めざせる進路

民間企業／経営コンサルタント／起業

取得できる免許・資格

ビジネス能力検定／販売士／日商簿記／経営学検定試験／
中小企業診断士／公認会計士／税理士／高校1種(商業)教員免許

ビジネス情報コース

情報システムの仕事に必要なコンピュータの操作方法や技術的な理論を身につけます。あわせて、システム開発に必要な経営学や会計学に関する知識も学びます。

めざせる進路

システムエンジニア／プログラマー

取得できる免許・資格

Microsoft® Office Specialist／基本情報技術者／
高校1種(情報)教員免許

現代産業コース

卒業後に地元で活躍したい人のためのコースです。地域や産業を分析する方法や地域活性化の事例について学びます。さらに、流通業やサービス業における実践的な知識も習得します。

めざせる進路

国家公務員／地方公務員／経営コンサルタント／小売・外食・レジャー産業

取得できる免許・資格

ビジネス能力検定／販売士／中小企業診断士／
高校1種(商業・地理歴史)教員免許

3. 科目区分および卒業要件単位略図（2009～2010年度入学者）

科目区分		履修区分	卒業要件単位	
学部共通科目	基礎科目	基礎科目A	必修科目	16
		基礎科目B	選択科目	2
	言語科目	言語科目A	必修科目	4
		言語科目B	選択科目	4
	教養科目		選択科目	16
	キャリア科目		選択科目	6
演習科目		必修科目	10	
経済系・ 経営系別 専門科目	基本科目	基本科目A	必修科目	8
		基本科目B	選択科目	16
	経済系専門科目 (日本・世界経済コース科目) (環境・福祉コース科目) (公共サービスコース科目) (金融・証券コース科目)	選択科目	12	
	経営系専門科目 (経営・会計コース科目) (ビジネス情報コース) (現代産業コース)			
	展開科目		選択科目	14
学部共通科目	自由選択科目		選択科目	16
卒業要件単位数				124

4. 2009・2010年度卒業要件概念図①

科目区分		1年次	2年次	3年次
学部 共通 科目	基礎科目A 必修科目	文章表現、口頭表現、基礎数学、 入門経済学、入門経営学、 キャリアプランニング、 健康運動科学、情報基礎Ⅰ・Ⅱ		
	基礎科目B 選択科目	敬天愛人講座、入門経済学実習、 入門経営学実習		
	言語科目A 必修科目	英語Ⅰ・Ⅱ	英語Ⅲ・Ⅳ	
	言語科目B 選択科目	フランス語Ⅰ・Ⅱ、 ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、 日本語Ⅰ・Ⅱ、英会話Ⅰ・Ⅱ	フランス語Ⅲ・Ⅳ、ドイツ語Ⅲ・Ⅳ、 中国語Ⅲ・Ⅳ、日本語Ⅲ・Ⅳ、 英会話Ⅲ・Ⅳ	
		ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ、時事英語Ⅰ・Ⅱ		
	教養科目 選択科目	敬愛プログラム、スポーツ教育、哲学、心理学、社会心理学、日本の文学、比較文学、歴史学、法学、日本の政治、社会学、数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、環境科学、地球科学、情報概論、Webデザイン、プログラミング入門(VB)・(C)・(Perl)、VBプログラミング、Cプログラミング、Perlプログラミング、データベースオペレーション、プレゼンテーション論Ⅰ・Ⅱ、総合科目Ⅰ・Ⅱ、海外事情研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、		
	教職専門科目 選択科目	日本史概論Ⅰ・Ⅱ、世界史概論Ⅰ・Ⅱ、地理学概論Ⅰ・Ⅱ、地誌学Ⅰ・Ⅱ、哲学概論Ⅰ・Ⅱ、自然地理学Ⅰ・Ⅱ、環境地理学Ⅰ・Ⅱ		
	キャリア科目 選択科目		実践会話Ⅰ・Ⅱ、 キャリア基礎開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	キャリアディベロップメント、 キャリア教育特殊講義、 インターンシップ
演習科目 必修科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱ	専門導入演習Ⅰ・Ⅱ	専門演習Ⅰ・Ⅱ	

4年次	単位	卒業要件単位	備 考
	16	22単位以上	全科目16単位必修
	2		3科目から2単位以上選択必修
	4		全科目4単位必修
	4	20単位以上	4単位以上選択必修（同一言語科目を継続して履修する。ただし、「Ⅲ・Ⅳ」を「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」「時事英語Ⅰ・Ⅱ」へ変更することは可。）
憲法Ⅰ・Ⅱ、政治学、Excel データ解析、情報検索入門、地域ボランティア活動	16		16単位以上選択必修
比較政治学、社会学概論、			教職課程履修者のみ対象
	6	6単位以上	6単位以上選択必修
卒業演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文	10	10単位	全科目10単位必修

4. 2009・2010年度卒業要件概念図②

科目区分		1年次	2年次	3年次
経済系専門科目	基本科目A 必修科目	経済理論AⅠ・AⅡ、経済理論BⅠ・BⅡ、 日本経済史Ⅰ・Ⅱ、西洋経済史Ⅰ・Ⅱ		
	基本科目B 選択科目		経済政策AⅠ・AⅡ、経済政策BⅠ・BⅡ、経済学史Ⅰ・Ⅱ、 金融論Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、統計学総論Ⅰ・Ⅱ、社会政策Ⅰ・Ⅱ、 ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
	日本・世界経済コース科目 選択科目		日本経済論Ⅰ・Ⅱ、国際経済論Ⅰ・Ⅱ、日本経済地理、 世界経済地理、入門経済刑法、サイバー刑法、商法、会社法、	国際貿易論、開発経済学、 アメリカ経済事情Ⅰ・Ⅱ、 労働経済論Ⅰ・Ⅱ
	環境・福祉コース科目 選択科目		環境と生活、開発と環境、都市環境とまちづくり、環境ビジネス、 環境政策、家族と地域社会、福祉経済論、社会福祉論、保険論、 民法Ⅰ・Ⅱ	社会保障論Ⅰ・Ⅱ、労働経済論Ⅰ・Ⅱ、 医療の経済学、環境経済学Ⅰ・Ⅱ、
	公共サービスコース科目 選択科目		日本経済論Ⅰ・Ⅱ、公共経済学、公共選択論、地域経済論、 入門経済刑法、サイバー刑法、行政法Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、 民法Ⅰ・Ⅱ、地方自治論Ⅰ・Ⅱ、地方自治論演習	地方財政論Ⅰ・Ⅱ、経済統計Ⅰ・Ⅱ、 社会保障論Ⅰ・Ⅱ
	金融・証券コース科目 選択科目		金融事情Ⅰ・Ⅱ、資産運用論、保険論、商法、会社法、 有価証券法Ⅰ・Ⅱ	国際金融論Ⅰ・Ⅱ、証券経済論Ⅰ・Ⅱ、 計量経済学Ⅰ・Ⅱ
	展開科目 選択科目	簿記論ⅠA・ⅡA、簿記論ⅠB・ⅡB、金融経済の基礎知識		社会思想史Ⅰ・Ⅱ、経済学方法論Ⅰ・Ⅱ、産業論Ⅰ・Ⅱ、会計学Ⅰ・Ⅱ、 産業立地論Ⅰ・Ⅱ、産業組織論Ⅰ・Ⅱ、流通論、財務管理論、 都市地理学、企業文化論、地域産業論、地域調査論、 農業政策、外国経済書講読Ⅰ・Ⅱ、国際法Ⅰ・Ⅱ
学部共通科目	自由選択科目（ライセンスプログラム科目、 教職及び教科に関する科目を含む）			
卒業要件単位数				

4年次	単位	卒業要件単位	備考
	8	8単位	経済理論AⅠ・AⅡ又はBⅠ・BⅡから1科目4単位選択必修、日本経済史Ⅰ・Ⅱ又は西洋経済史Ⅰ・Ⅱから1科目4単位選択必修
	16	16単位以上	16単位以上選択必修
	12	各系のコース別に 12単位以上	日本・世界経済コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
ヨーロッパ経済論Ⅰ・Ⅱ、アジア経済論、中東経済論、	12		環境・福祉コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
資源エネルギー論、環境問題Ⅰ・Ⅱ	12		公共サービスコースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
財政赤字の経済学、	12		金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上選択必修
銀行論Ⅰ・Ⅱ、企業金融論Ⅰ・Ⅱ、	12		この欄の科目群並びに経済系基本科目A・B各コース科目の中から14単位以上選択必修
経済数学Ⅰ・Ⅱ、経営学概論Ⅰ・Ⅱ、中小企業論Ⅰ・Ⅱ、知的財産権論Ⅰ・Ⅱ、食料経済論、	14		ライセンスプログラム科目を含むすべての科目群(演習科目・教職科目を除く)から、16単位以上選択必修
	16		
124単位			

4. 2009・2010年度卒業要件概念図③

科目区分		1年次	2年次	3年次
経営系 専門科目	基本科目A 必修科目	経営学概論Ⅰ・Ⅱ、会計学Ⅰ・Ⅱ		
	基本科目B 選択科目	簿記論ⅠA・ⅡA、簿記論ⅠB・ⅡB		
	経営・会計コース科目 選択科目	人的資源管理Ⅰ・Ⅱ、消費者行動論Ⅰ・Ⅱ、商法、会社法、民法Ⅰ・Ⅱ		原価計算論Ⅰ・Ⅱ、税務会計論Ⅰ・Ⅱ、マーケティングリサーチ、企業文化論、中小企業論Ⅰ・Ⅱ
	ビジネス情報コース科目 選択科目	経営情報論Ⅰ・Ⅱ、情報社会と倫理、ハードウェアシステム論、OS論、ネットワークシステム論、情報セキュリティ論、アルゴリズム論Ⅰ・Ⅱ、システム設計論Ⅰ・Ⅱ、情報システム開発論		流通情報論、データベース論、知的財産権論Ⅰ・Ⅱ、
	現代産業コース科目 選択科目	産業立地論Ⅰ・Ⅱ、流通論、流通経営論Ⅰ・Ⅱ、観光事業論Ⅰ・Ⅱ、地域産業論、地域調査論		流通情報論、サービス産業論、産業組織論Ⅰ・Ⅱ、中小企業論Ⅰ・Ⅱ、都市環境とまちづくり
	展開科目 選択科目	金融経済の基礎知識		経済政策ⅠA・ⅡA、経済政策ⅠB・ⅡB、金融論Ⅰ・Ⅱ、統計学総論Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、日本経済論Ⅰ・Ⅱ、経済統計Ⅰ・Ⅱ、国際貿易論、地域企業会計論、企業再生論、環境ビジネス、環境問題Ⅰ・Ⅱ、外国経営書講読Ⅰ・Ⅱ
学部共通科目	自由選択科目（ライセンスプログラム科目、教職及び教科に関する科目を含む）			
卒業要件単位数				

4年次	単位	卒業要件単位	備 考
	8	8単位	全科目8単位必修
	16	16単位以上	16単位以上選択必修
財務管理論、 国際経営論、企業倫理論、 有価証券法Ⅰ・Ⅱ	12	各系のコース別に 12単位以上	経営・会計コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
シミュレーション論、 サイバー刑法、情報経済論	12		ビジネス情報コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
ITサービス産業論、 地域経済論、都市地理学、	12		現代産業コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上選択必修
ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、 ベンチャービジネス論、 企業金融論Ⅰ・Ⅱ、労働法Ⅰ・Ⅱ、	14	14単位以上	この欄の科目群並びに経営系基本科目B各コース科目の中から14単位以上選択必修
	16	16単位以上	ライセンスプログラム科目を含むすべての科目群（演習科目・教職科目を除く）から、16単位以上選択必修
124単位			

4. 2009・2010年度卒業要件概念図④

ライセンスプログラム科目

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位
ライセンスプログラム科目 選択科目	検定英語Ⅰ・Ⅱ、情報処理入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、情報処理Ⅰ・Ⅱ、 情報システム概論、検定簿記Ⅰ・Ⅱ、秘書検定Ⅰ・Ⅱ、販売士Ⅰ・Ⅱ、 検定ビジネス能力Ⅰ・Ⅱ				12単位までを限度とし、認定する

教職及び教科に関する科目

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位
教職及び教科に関する科目 選択科目	教育原論Ⅰ・Ⅱ、教育心理学、発達心理学、教職概論、教育行政、教育法規、 教育方法論、社会科・地歴科指導法Ⅰ・Ⅱ、地理歴史科指導法、 社会科・公民科指導法Ⅰ・Ⅱ、公民科指導法、商業科指導法、商業科教材研究、 情報科指導法Ⅰ・Ⅱ、情報と職業、道徳教育研究、特別活動研究、生徒指導論、 教育相談、教職総合演習、教職時事演習、教育実践研究、中学校教育実習、 高等学校教育実習、教育福祉論、職業指導Ⅰ・Ⅱ、学校事務概論				教職課程履修者のみ対象

5. 教育課程の具体的履修方法

(1) 学部共通科目

(1) 基礎科目A

基礎科目Aは、必修科目であり、全科目を履修し、1年次で合計16単位を取得する必要があります。

(2) 基礎科目B

基礎科目Bは、1年次で2単位以上を取得する必要があります。平成24年度からは敬天愛人講座のみ開講します。

なお、「敬天愛人講座」の「敬天愛人」とは、本学（園）の創立者である故長戸路政司先生が、創立の基盤となる建学の精神として掲げたものですが、シラバスに記載のとおり、建学の理念をはじめとして、今日的で総合的な視点により、多様な講義テーマを設定しているため、多くの学生諸君の履修を勧めます。

(3) 言語科目A

言語科目Aは、必修科目であり、全科目を履修し、1・2年次で4単位を取得する必要があります。

(4) 言語科目B

言語科目Bは、選択必修科目であり、5科目（「日本語Ⅰ・Ⅱ」は、留学生のみが対象）ある中から、1・2年次で同一言語科目を4単位以上取得する必要があります。

ただし、「Ⅲ・Ⅳ」にあつては、「ビジネス英語」「時事英語」への変更を可とします。

(5) 教養科目

教養科目は、選択必修科目であり、この科目の中から4年間で16単位以上を取得する必要があります。

「スポーツ教育」には、学内で開講するキャンパススポーツと学外で開講するシーズンスポーツがあり、どちらを履修する（履修しなくても良い（選択科目））かについては、本人の自由となっています。

「スポーツ教育」の履修にあたっては、授業最初のガイダンスに必ず出席して先生の指示を受けてください。

(6) キャリア科目

キャリア科目は、選択必修科目であり、2年次から6単位以上を取得する必要があります。また、卒業後の就職へ向けて取り組む上で、欠かすことのできない科目群でもあります。

(7) 演習科目

演習科目は、必修科目であり、卒業までに各学年において、2単位（前期1単位、後期1単位）ずつ「卒業論文」も含め合計10単位を取得する必要があります。

1年次は「基礎演習」を履修します。2年次は「専門導入演習」を履修し、経済系あるいは経営系に分かれて、それぞれの専門分野を学ぶ上での専門導入と位置づけています。さらに3年次は「専門演習」・4年次は「卒業演習」を履修し、より専門的にその分野を修得すべく、深くより高度な内容が展開されます。また、4年次には併せて、卒業論文作成の指導を受けることとなります。

(2) 経済系専門科目

経済系を希望する学生は、この専門科目群を履修し、基本科目A・B並びに4つあるコースの中から1つのコースを選択し、展開科目も含めた合計50単位を取得する必要があります。

なお、履修方法は次のとおりとします。

(1) 基本科目A

基本科目Aは、選択必修科目であり、「経済理論AⅠ・AⅡ」または「BⅠ・BⅡ」から2科目4単位を、「日本経済史Ⅰ・Ⅱ」または「西洋経済史Ⅰ・Ⅱ」から2科目4単位を履修し、合計8単位を1・2年次で取得する必要があります。

(2) 基本科目B

基本科目Bは、選択必修科目であり、この科目の中から2・3年次に16単位以上を取得する必要があります。

(3) コース科目（4コース）

コース科目（4コース）は、選択必修科目であり、各コースに属する者は、その科目の中から2年次より卒業までに12単位以上を取得する必要があります。

(4) 展開科目

展開科目は、選択必修科目であり、この科目群並びに経済系基本科目A・Bおよび各コース科目の中から2年次より卒業までに14単位以上を取得する必要があります。

(3) 経営系専門科目

経営系を希望する学生は、この専門科目群を履修し、基本科目A・B並びに3つあるコースの中から1つのコースを選択し、展開科目も含めた合計50単位を取得する必要があります。

なお、履修方法は次のとおりとします。

(1) 基本科目A

基本科目Aは、必修科目であり、1・2年次で2科目とも合計8単位を取得する必要があります。

(2) 基本科目B

基本科目Bは、選択必修科目であり、この科目の中から2・3年次に16単位以上を取得する必要があります。

(3) コース科目（4コース）

コース科目（4コース）は、選択必修科目であり、各コースに属する者は、その科目の中から2年次より卒業までに12単位以上を取得する必要があります。

(4) 展開科目

展開科目は、選択必修科目であり、この科目群並びに経営系基本科目Bおよび各コース科目の中から2年次より卒業までに14単位以上を取得する必要があります。

(4) 自由選択科目（学部共通科目）

自由選択科目は、「ライセンスプログラム科目」「教職及び教科に関する科目（教職課程履修者のみ履修可能）」を含めて、その他の全科目群（演習科目等の必修科目を除き、各科目群の必要取得単位数を超えて取得した科目）から、16単位以上を取得する必要があります。

(5) 演習科目

2年次以降のゼミナールの履修は、2年ゼミ（専門導入演習Ⅰ・Ⅱ）、3年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）、4年ゼミ（卒業演習Ⅰ・Ⅱ）、を同じ担当者のもとで、通して3年間学ぶことが原則です。

どうしてもゼミを移りたい学生については、2年ゼミから3年ゼミに進むときに限り、他のゼミに移ることが認められます。ただし、希望するゼミに移れるかどうかは、当該ゼミの所属ゼミ生数や、3年ゼミから中途参加するための条件などが勘案され、3年ゼミ担当者によって決定されます。

2年ゼミと同じ担当者を引き続き希望する学生も、確認のため、3年ゼミのゼミ希望登録を行なう必要があります。ゼミ希望登録を怠ると、希望するゼミに入れなくなりますから、必ず登録して下さい。

6. 履修方法の概要

履修方法の概要については19ページ以下を参照。

7. 単位の認定等

単位の認定等については21ページ以下を参照。

8. 学習支援体制

学習支援体制については25ページ以下を参照。

履 修 要 項

IV 教育職員免許状取得のための課程

1. 2012(平成24)年度教職課程年間行事予定表…………… (60)
2. 教職課程履修希望届および
教職課程履修費の納入について …………… (61)
3. 経済学部における教職課程の概要…………… (62)

IV 教育職員免許状取得のための課程

1. 平成24年度教職課程年間行事予定表

月	日 時	事 項	対象学年			
			1年	2年	3年	4年
4月	5日(木)	新入生対象教職課程履修ガイダンス(新入生履修ガイダンス終了後)	◎			
	2日(月) 6日(金)	教職課程ガイダンス(2年・2日・3・4年・6日) ※3年次 教育実習準備説明会を兼ねる		◎	◎	◎
	上旬	介護等体験申込期限 ※中学校免許取得希望者で前年度までに介護等体験未了者のみ		○	○	
	下旬	教職課程特別講演		○	◎	◎
		特別講演終了後 教育実習直前指導(事前指導・個人指導) 教育実習記録簿配付				◎
	27日(金)	教職希望届受付提出期限(新規教職課程希望者のみ)	◎	○		
4月～6月末日	教育実習希望届提出(実習校内定)			◎		
5月	上旬	教職模擬試験(東京アカデミー受講者のみ)				◎
	5月下旬～ 6月初旬	介護等体験事前指導(「教育福祉論」の授業時実施) 授業時、当該年度実習参加者含む		○	○	
	5月～10月	教育実習(2～3週間)				◎
6月	2日間未定	特殊教育諸学校での介護等体験(於:桜が丘特別支援学校)		○	○	
	6月下旬	4年生による教育実習報告会 ※2・3年生は必ず出席のこと 教育実習事後指導		◎	◎	◎
7月	7月	教員採用試験、私学教員適正検査				◎
8月	8月上旬	教員採用試験、2次対策講座				◎
9月	9月中旬～下旬	教員採用試験対策集中講座(東京アカデミー)		○	○	
	未定	一日参観実習事前説明会			◎	
	未定	半日参観実習(佐倉市立根郷中学校)		○	○	
	未定	一日参観実習(千葉市立轟町中学校)			◎	
12月	上旬	教育職員免許状取得申請説明会				◎
	上旬	教育職員免許状取得申請書等提出期限				◎
	下旬	教員採用試験対策集中講座(東京アカデミー)		○	○	
2月	2月中旬	介護等体験実習申込受付～		◎	◎	
3月	上旬	教員採用試験対策集中講座(東京アカデミー)		○	○	
	3月23日(土)	教育職員免許状伝達(卒業式)				◎

◎…全員対象

○…対象者のみ

教職課程に関する連絡について

1号館1階の掲示板で連絡します。毎日、必ず掲示板を確認してください。

2. 教職課程履修希望届および教職課程履修費の納入について

経済学部開設の教職課程を履修するためには、学則第30条第2項の規定にもとづき「教職課程履修希望届」を提出のうえ、「教職に関する科目履修費」を下記のとおり、納めることになっています。この履修費が納入されないと、教職科目の履修及び単位認定はできません。

納入方法、日時等については、掲示をよく確認し、その指示に従ってください。

記

1	教職に関する科目履修費 (中学校・高等学校教育職員免許状取得希望者)	50,000円
2	介護等体験実習費 (中学校教育職員免許状希望者のみ)	10,000円

(参照) 教職課程履修希望届

下記届は、修学支援室にあります。記入のうえ、同室へ期間内に提出して下さい。

(1) 届提出期間

2012年4月9日(月)～4月27日(金)

(2) 履修費納入時期

2012年5月中旬～6月中旬

※振込用紙は、届提出時に指示します。

教 職 課 程 履 修 希 望 届		
入学年月日 平成 年 月 日	学籍番号	氏 名 ふりがな
取得希望免許状の種類		実習希望校
昭和 年 月 日 生(男・女)		
① 通学時現住所	〒	電話(携帯)
② " "	〒	電話
保証人住所 氏名	〒	電話
学 歴 <small>〔小学校入学から記入のこと〕</small>		
年・月・日	学 校 名	入学・卒業
・		
・		
・		
・		
・		
・		
・		
特 技 資 格 等		
クラブ活動(高校)		
特 技		
既得諸資格・免許		
※教 職 履 修 費 (一括納入のこと)		備 考
年 月 日 (円納入)		

敬愛大学経済学部 教職課程委員会 様

年 月 日

私 _____ は 教職課程を履修し、教育職員になることを希望しますので、
上記の届を提出致します。

学籍番号 _____ 氏 名 _____ 印

3. 経済学部における教職課程の概要

経済学部で取得できる教育職員免許状の種類

免許状名		教科
中学校	中学校1種免許状	社会
高等学校	高等学校1種免許状	地理歴史
		公民
		商業
		情報

1. 教職科目の履修について

—免許状を取得するために何を履修すべきか—

① 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許状の取得を希望する者は免許状の種類に拘わらず、以下の科目を必ず履修しなければなりません。

免許法施行規則に定める科目名	本学開講科目			
	11・12年度入学者	単位数	09・10年度入学者	単位数
日本国憲法（2単位）	憲法Ⅰ	2	憲法Ⅰ	2
	憲法Ⅱ	2	憲法Ⅱ	2
体育（2単位）	健康科学	2	健康運動科学	2
	スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1	スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1
外国語コミュニケーション（2単位）	英語Ⅰ	1	英語Ⅰ	1
	英語Ⅱ	1	英語Ⅱ	1
情報機器の操作（2単位）	情報基礎Ⅰ	1	情報基礎Ⅰ	1
	情報基礎Ⅱ	1	情報基礎Ⅱ	1
	情報検索入門	2	情報検索入門	2

③ 高等学校教諭1種免許状「地理歴史」を取得するためには、次表に示す本学開講科目より必修科目を20単位、及び選択科目を14単位以上修得しなければなりません。

なお、選択科目の単位数には免許法上の最低修得単位数を超えて履修した「教職に関する科目」（教育心理学、教育法規、教職時事演習）の単位数、及び「教科又は教職に関する科目」（教育福祉論、学校事務概論）の単位数を含めることができます。

免許法施行規則に定める科目名	本学開講科目							
	必修科目				選択科目			
	12年度入学者		09～11年度入学者		12年度入学者		09～11年度入学者	
	必修科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	選択科目	単位数
日本史	日本史概論Ⅰ	2	日本史概論Ⅰ	2	日本経済史Ⅰ	2	日本経済史Ⅰ	2
	日本史概論Ⅱ	2	日本史概論Ⅱ	2	日本経済史Ⅱ	2	日本経済史Ⅱ	2
外国史	世界史概論Ⅰ	2	世界史概論Ⅰ	2	西洋経済史Ⅰ	2	西洋経済史Ⅰ	2
	世界史概論Ⅱ	2	世界史概論Ⅱ	2	西洋経済史Ⅱ	2	西洋経済史Ⅱ	2
					経済学史Ⅰ	2	経済学史Ⅰ	2
					経済学史Ⅱ	2	経済学史Ⅱ	2
					社会思想史Ⅰ	2	社会思想史Ⅰ	2
					社会思想史Ⅱ	2	社会思想史Ⅱ	2
人文地理学 及び 自然地理学	地理学概論Ⅰ	2	地理学概論Ⅰ	2	環境地理学Ⅰ	2	環境地理学Ⅰ	2
	地理学概論Ⅱ	2	地理学概論Ⅱ	2	環境地理学Ⅱ	2	環境地理学Ⅱ	2
	自然地理学Ⅰ	2	自然地理学Ⅰ	2	日本経済地理	2	日本経済地理	2
	自然地理学Ⅱ	2	自然地理学Ⅱ	2	世界経済地理	2	世界経済地理	2
						2	都市地理学	2
						2	都市環境とまちづくり	2
					経営立地論	2	産業立地論Ⅰ	2
					アジアの工業立地	2	産業立地論Ⅱ	2
地誌	地誌学Ⅰ	2	地誌学Ⅰ	2	地域産業論	2	地域産業論	2
	地誌学Ⅱ	2	地誌学Ⅱ	2			地域調査論	2
必要単位数	計10科目 20単位必修				上記科目から14単位以上選択必修			

④ 高等学校教諭1種免許状「公民」を取得するためには、次表に示す本学開講科目より必修科目を20単位、及び選択科目を14単位以上修得しなければなりません。

なお、選択科目の単位数には免許法上の最低修得単位数を超えて履修した「教職に関する科目」（教育心理学、教育法規、教職時事演習）の単位数、及び「教科又は教職に関する科目」（教育福祉論、学校事務概論）の単位数を含めることができます。

免許法施行規則に定める科目名	本学開講科目							
	必修科目				選択科目			
	12年度入学者		09～11年度入学者		12年度入学者		09～11年度入学者	
	必修科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	選択科目	単位数
法学（国際法を含む）・政治学（国際政治を含む）	比較政治学（2単位）および「法学（国際法を含む）・政治学（国際政治を含む）」の選択科目群から4単位以上必修		比較政治学（2単位）および「法学（国際法を含む）・政治学（国際政治を含む）」の選択科目群から4単位以上必修		憲法Ⅰ	2	憲法Ⅰ	2
					憲法Ⅱ	2	憲法Ⅱ	2
社会学・経済学（国際経済を含む）	社会学概論	2	社会学概論	2	金融論Ⅰ	2	金融論Ⅰ	2
	経済理論AⅠ(2単位)	4	経済理論AⅠ(2単位)	4	金融論Ⅱ	2	金融論Ⅱ	2
	経済理論AⅡ(2単位)		経済理論AⅡ(2単位)		財政学Ⅰ	2	財政学Ⅰ	2
	経済理論BⅠ(2単位)	4	経済理論BⅠ(2単位)	4	財政学Ⅱ	2	財政学Ⅱ	2
	経済理論BⅡ(2単位)		経済理論BⅡ(2単位)		統計学総論Ⅰ	2	統計学総論Ⅰ	2
	「経済理論A(Ⅰ・Ⅱ)・B(Ⅰ・Ⅱ)」いずれか4単位必修		「経済理論A(Ⅰ・Ⅱ)・B(Ⅰ・Ⅱ)」いずれか4単位必修		統計学総論Ⅱ	2	統計学総論Ⅱ	2
					社会政策Ⅰ	2	社会政策Ⅰ	2
					社会政策Ⅱ	2	社会政策Ⅱ	2
					日本経済論Ⅰ	2	日本経済論Ⅰ	2
					日本経済論Ⅱ	2	日本経済論Ⅱ	2
					国際経済論Ⅰ	2	国際経済論Ⅰ	2
					国際経済論Ⅱ	2	国際経済論Ⅱ	2
					ヨーロッパ経済論Ⅰ	2	ヨーロッパ経済論Ⅰ	2
					ヨーロッパ経済論Ⅱ	2	ヨーロッパ経済論Ⅱ	2
				アメリカ経済論Ⅰ	2	アメリカ経済事情Ⅰ	2	
				アメリカ経済論Ⅱ	2	アメリカ経済事情Ⅱ	2	
				社会保障論Ⅰ	2	社会保障論Ⅰ	2	
				社会保障論Ⅱ	2	社会保障論Ⅱ	2	
				計量経済学Ⅰ	2	計量経済学Ⅰ	2	
				計量経済学Ⅱ	2	計量経済学Ⅱ	2	
				公共経済学	2	公共経済学	2	
				公共選択論	2	公共選択論	2	
哲学・倫理学・宗教学・心理学	哲学概論Ⅰ	2	哲学概論Ⅰ	2				
	哲学概論Ⅱ	2	哲学概論Ⅱ	2				
必要単位数	計10科目 20単位必修				上記科目から14単位以上選択必修			

(注意) 必修科目（法学・政治学）として履修した選択科目（4単位分）は選択科目として重複カウントはしない。

⑤ 高等学校教諭一種免許状「商業」を取得するためには、次表に示す本学開講科目より必修科目を20単位、及び選択科目を14単位以上修得しなければなりません。

なお、選択科目の単位数には免許法上の最低修得単位数を超えて履修した「教職に関する科目」（教育心理学、教育法規、教職時事演習）の単位数、及び「教科又は教職に関する科目」（インターンシップ、キャリア教育特殊講義）の単位数を含めることができます。

免許法施行規則に定める科目名	本学開講科目							
	必修科目				選択科目			
	12年度入学者		09～11年度入学者		12年度入学者		09～11年度入学者	
	必修科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	選択科目	単位数
商業の関係科目					国際金融論Ⅰ	2	国際金融論Ⅰ	2
					国際金融論Ⅱ	2	国際金融論Ⅱ	2
					簿記論Ⅰ	2	簿記論Ⅰ	2
					簿記論Ⅱ	2	簿記論Ⅱ	2
					経営分析Ⅰ	2	経営分析Ⅰ	2
					経営分析Ⅱ	2	経営分析Ⅱ	2
					経営史Ⅰ	2	経営史Ⅰ	2
					経営史Ⅱ	2	経営史Ⅱ	2
					経済数学Ⅰ	2	経済数学Ⅰ	2
					経済数学Ⅱ	2	経済数学Ⅱ	2
					原価計算論Ⅰ	2	原価計算論Ⅰ	2
					原価計算論Ⅱ	2	原価計算論Ⅱ	2
					証券経済論Ⅰ	2	証券経済論Ⅰ	2
					証券経済論Ⅱ	2	証券経済論Ⅱ	2
					金融事情Ⅰ	2	金融事情Ⅰ	2
					金融事情Ⅱ	2	金融事情Ⅱ	2
					税務会計論Ⅰ	2	税務会計論Ⅰ	2
					税務会計論Ⅱ	2	税務会計論Ⅱ	2
					人的資源管理Ⅰ	2	人的資源管理Ⅰ	2
					人的資源管理Ⅱ	2	人的資源管理Ⅱ	2
					産業論Ⅰ	2	産業論Ⅰ	2
					産業論Ⅱ	2	産業論Ⅱ	2
					企業と産業組織Ⅰ	2	産業組織論Ⅰ	2
					企業と産業組織Ⅱ	2	産業組織論Ⅱ	2
					観光事業論Ⅰ	2	観光事業論Ⅰ	2
					観光事業論Ⅱ	2	観光事業論Ⅱ	2
					消費者行動論	2	消費者行動論Ⅰ	2
							消費者行動論Ⅱ	2
					企業法	2	商法	2
					会社法	2	会社法	2
					有価証券法	2	有価証券法Ⅰ	2
							有価証券法Ⅱ	2
				入門経済刑法	2	入門経済刑法	2	
				情報検索入門	2	情報検索入門	2	
				プログラミング入門VB	2	プログラミング入門VB	2	
				プログラミング入門C	2	プログラミング入門C	2	
				プログラミング入門Perl	2	プログラミング入門Perl	2	
				中小企業論Ⅰ	2	中小企業論Ⅰ	2	
				流通経営論	2	流通経営論Ⅰ	2	
				中国の流通産業	2	流通経営論Ⅱ	2	
				流通総論	2	流通総論	2	
				流通情報論	2	流通情報論	2	
職業指導	職業指導Ⅰ	2	職業指導Ⅰ	2				
	職業指導Ⅱ	2	職業指導Ⅱ	2				
必要単位数	計11科目 20単位必修				上記科目から14単位以上選択必修			

⑥ 高等学校教諭一種免許状「情報」を取得するためには、次表に示す本学開講科目より必修科目を40単位、及び選択科目を6単位以上修得しなければなりません。

免許法施行規則に定める科目名	本学開講科目							
	必修科目				選択科目			
	12年度入学者		09～11年度入学者		12年度入学者		09～11年度入学者	
	必修科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	選択科目	単位数
情報社会及び情報倫理	◎情報社会と倫理 ◎知的財産権論 サイバー刑法	2 2 2	◎情報社会と倫理 ◎知的財産権論I サイバー刑法	2 2 2				
コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	◎ハードウェアシステム論 ◎O S 論 ◎アルゴリズム論I ◎アルゴリズム論II △VBプログラミング △Cプログラミング △Perlプログラミング	2 2 2 2 2 2	◎ハードウェアシステム論 ◎O S 論 ◎アルゴリズム論I ◎アルゴリズム論II △VBプログラミング △Cプログラミング △Perlプログラミング	2 2 2 2 2 2				
コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	◎システム設計論I ◎データベースオペレーション ◎データベース論 ◎Excelデータ解析 ◎流通情報論	2 2 2 2 2	◎システム設計論I ◎データベースオペレーション ◎データベース論 ◎Excelデータ解析 ◎流通情報論	2 2 2 2 2	システム設計論II 経済統計I 経済統計II	2 2 2	システム設計論II 経済統計I 経済統計II	2 2 2
情報通信ネットワーク (実習を含む)	◎ネットワークシステム論 情報セキュリティ論	2 2	◎ネットワークシステム論 情報セキュリティ論	2 2				
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む)	◎Webデザイン プレゼンテーション論I プレゼンテーション論II	2 2 2	◎Webデザイン プレゼンテーション論I プレゼンテーション論II	2 2 2	シミュレーション論	2	シミュレーション論	2
情報と職業	情報と職業	2	情報と職業	2	ベンチャービジネス論	2	ベンチャービジネス論 ITサービス産業論	2 2
必要単位数	計19科目 38単位必修				上記科目から8単位以上選択必修			

(注意) ◎印の科目については原則として3年次終了までに単位修得しておくこと。

△印の科目については3科目のうち、1科目選択必修、原則として3年次までに単位修得しておくこと。

2. 教職に関する科目の履修

免許法施行規則に定める科目区分等				本学開講科目	単位数	中学必修	高校必修	備考	
	科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数						
第1欄	教職に関する科目								
第2欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	教 職 概 論	2	2	2	選択	
		教育の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む）		教 職 時 事 演 習	2				
		教職という職業の進路選択に資する各種機会の提供等							
第3欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教 育 原 論 I	2	2	2		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		発 達 心 理 学	2	2	2		
				教 育 心 理 学	2	2			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教 育 行 政	2	2	2		
				教 育 法 規	2	2			
第4欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	中学…12 高校…6	教 育 原 論 II	2	2	2	中学 8単位	
		各科目の指導法		社会	社会科・地歴科指導法 I	2	2		
				社会科・地歴科指導法 II	2	2			
				社会科・公民科指導法 I	2	2			
				社会科・公民科指導法 II	2	2			
				地歴	社会科・地歴科指導法 I	2		2	
				社会科・地歴科指導法 II	2		2		
				地理歴史科指導法	2		2		
		公民		社会科・公民科指導法 I	2		2		
		社会科・公民科指導法 II		2		2			
		公民科指導法		2		2			
		商業		商 業 科 指 導 法	2		2		
		商業科教材研究		2		2			
情報	情 報 科 指 導 法 I	2		2					
情報科指導法 II	2		2						
道徳の指導法	道 徳 教 育 研 究	2	2		中学免許のみに適用				
特別活動の指導法	特 別 活 動 研 究	2	2	2					
教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）	教 育 方 法 論	2	2	2					
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法 進路指導の理論及び方法	4	生 徒 指 導 論	2	2	2	進路指導を含む		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		教 育 相 談	2	2	2			
第5欄	総 合 演 習	2	教 職 総 合 演 習 ※ 教 職 実 践 演 習 ※	2 2	2	2			
第6欄	教 育 実 習	中学…5 高校…3	教 育 実 践 研 究	1	1	1	中・高免許 取得者に適用		
			中 学 校 教 育 実 習	4	4	2			
			高 等 学 校 教 育 実 習	2					
※免許法上の最低修得単位数の合計			中学…31 高校…23	本学での必修単位数の合計		中学 39	高校 29 以上		

※ 08・09年度入学者は教職総合演習、10年度以降の入学者は教職実践演習となる。

3. 教科又は教職に関する科目の履修

中学校免許取得希望者は「教育福祉論」（2単位）を履修のうえ、2、3年次のうちに必ず介護等体験に参加しなければなりません。

高校「地理歴史」「公民」免許取得希望者は「学校事務概論」（2単位）の修得単位を、高校「商業」免許取得希望者は「インターンシップ」（2単位）「キャリア教育特殊講義」（2単位）の修得単位を教科に関する選択科目の単位数に含めることができます。

4. 教育実習の履修条件

教育実習は原則として4年次に各自、実習校で行います。教育実習を履修するにあたっては、以下の要件を満たした上で、教職課程委員会における審査を受ける必要があります。

- 1) 2年次終了までに原則として80単位以上修得していること。
- 2) 3年次終了までに次の3科目の履修を済ませていること。

教育原論・発達心理学・教育方法論

- 3) 3年次終了までに教科指導法、教科に関する科目として、各取得免許教科につき以下の科目を履修していること。

免許名	本学開講科目			
	教科教育法		教科に関する科目	
	12年度入学者	09～11年度入学者	12年度入学者	09～11年度入学者
中学校 (社会)	社会科・地歴科指導法Ⅰ 社会科・地歴科指導法Ⅱ 社会科・公民科指導法Ⅰ 社会科・公民科指導法Ⅱ	社会科・地歴科指導法Ⅰ 社会科・地歴科指導法Ⅱ 社会科・公民科指導法Ⅰ 社会科・公民科指導法Ⅱ	日本史概論Ⅰ・Ⅱまたは世界史概論Ⅰ・Ⅱ 地理学概論Ⅰ・Ⅱまたは地誌学Ⅰ・Ⅱ 比較政治学または憲法Ⅰ・Ⅱ	日本史概論Ⅰ・Ⅱまたは世界史概論Ⅰ・Ⅱ 地理学概論Ⅰ・Ⅱまたは地誌学Ⅰ・Ⅱ 比較政治学または憲法Ⅰ・Ⅱ
高等学校 (地理歴史)	社会科・地歴科指導法Ⅰ 社会科・地歴科指導法Ⅱ 地理歴史科指導法	社会科・地歴科指導法Ⅰ 社会科・地歴科指導法Ⅱ 地理歴史科指導法	日本史概論Ⅰ・Ⅱまたは世界史概論Ⅰ・Ⅱ 地理学概論Ⅰ・Ⅱまたは地誌学Ⅰ・Ⅱ 地誌学Ⅰ・Ⅱ	日本史概論Ⅰ・Ⅱまたは世界史概論Ⅰ・Ⅱ 地理学概論Ⅰ・Ⅱまたは地誌学Ⅰ・Ⅱ 地誌学Ⅰ・Ⅱまたは地域調査論
高等学校 (公民)	社会科・公民科指導法Ⅰ 社会科・公民科指導法Ⅱ 公民科指導法	社会科・公民科指導法Ⅰ 社会科・公民科指導法Ⅱ 公民科指導法	比較政治学または法学 社会学概論または経済理論A(Ⅰ・Ⅱ)または経済理論B(Ⅰ・Ⅱ) 哲学概論Ⅰ・Ⅱ	比較政治学または法学 社会学概論または経済理論A(Ⅰ・Ⅱ)または経済理論B(Ⅰ・Ⅱ) 哲学概論Ⅰ・Ⅱ
高等学校 (商業)	商業科指導法 商業科教材研究	商業科指導法 商業科教材研究	マーケティング論、Marketing Management または経営学Ⅰ・Ⅱ 会計学Ⅰ・Ⅱまたは情報基礎Ⅰ・Ⅱ	マーケティング論Ⅰ・Ⅱ または経営学概論Ⅰ・Ⅱ 会計学Ⅰ・Ⅱまたは情報基礎Ⅰ・Ⅱ
高等学校 (情報)	情報科指導法Ⅰ 情報科指導法Ⅱ	情報科指導法Ⅰ 情報科指導法Ⅱ	職業指導Ⅰ・Ⅱ 「情報」免許必修科目欄に示す○の科目	職業指導Ⅰ・Ⅱ 「情報」免許必修科目欄に示す○の科目

- 4) 「教育実践研究」（教育実践に係る事前・事後の指導）を3年次から履修していること。加えて、「一日参観実習」も終了していること。
- 5) 中学校教諭1種免許状取得予定者は、「介護等体験実習」を終了していること。
- 6) 健康上、教育実習に支障のないこと
- 7) 教育実習説明会に出席し、所定の手続き（「教職課程履修希望届」、「教育実習希望届」、「教育実習生個人調査」の提出、教職課程履修費の納入等）を完了していること。

シラバス

I	もくじ	(73)
II	各授業内容	1
III	ライセンスプログラム	235
IV	教職及び教科に関する科目	237
V	2008～2012年度科目名変更一覧	255
VI	カリキュラム表	265

シラバス

I もくじ

I 2012年度入学生（12カリキュラム）〈学部共通科目〉一覧

授業科目

担当者

掲載頁

1 基礎科目

文章表現	経済教務部委員会（戸口恵子・石井励）	2
口頭表現	経済教務部委員会（戸口恵子・石井励）	2
基礎数学	経済教務部委員会（坂本祐一・小林誠）	3
入門経済学A	経済教務委員会	3
入門経済学B	経済教務委員会	4
入門経営学A	経済教務委員会	4
入門経営学B	経済教務委員会	5
キャリアプランニング	キャリアセンター	5
健康科学A	藤田 明男	6
健康科学B	藤田 明男	6
情報基礎Ⅰ	清水 麻実	7
情報基礎Ⅱ	清水 麻実	7
情報基礎Ⅰ	成富 慶子	8
情報基礎Ⅱ	成富 慶子	8
情報基礎Ⅰ	濱野 和人	9
情報基礎Ⅱ	濱野 和人	9

2 言語科目A

英語Ⅰ - EX	伊東 隆子	11
英語Ⅱ - EX	伊東 隆子	11
英語Ⅰ - 1	小野ゆき子	12
英語Ⅱ - 1	小野ゆき子	12
英語Ⅰ - 2	13
英語Ⅱ - 2	13
英語Ⅰ - 3	武井みち子	14
英語Ⅱ - 3	武井みち子	14
英語Ⅰ - 4	小野ゆき子	15
英語Ⅱ - 4	小野ゆき子	15
英語Ⅰ - 5	16
英語Ⅱ - 5	16
英語Ⅰ - 6	武井みち子	17
英語Ⅱ - 6	武井みち子	17
英語Ⅰ - P	内野 泰子	18
英語Ⅱ - P	内野 泰子	18

3 言語科目B

フランス語Ⅰ - A	寺尾いづみ	29
フランス語Ⅱ - A	寺尾いづみ	29
フランス語Ⅰ - B	浅野 信二	30
フランス語Ⅱ - B	浅野 信二	30
ドイツ語Ⅰ - A	高島 明	33
ドイツ語Ⅱ - A	高島 明	33
ドイツ語Ⅰ - B	志村 哲也	34
ドイツ語Ⅱ - B	志村 哲也	34
中国語Ⅰ - A	矢澤 秀昭	37
中国語Ⅱ - A	矢澤 秀昭	37
中国語Ⅰ - B	矢澤 秀昭	38
中国語Ⅱ - B	矢澤 秀昭	38
日本語Ⅰ - A	銅直 信子	45
日本語Ⅱ - A	銅直 信子	45
日本語Ⅰ - B	沢野美由紀	46
日本語Ⅱ - B	沢野美由紀	46
日本語Ⅰ - C	高柳 真理	47
日本語Ⅱ - C	高柳 真理	47
日本語Ⅰ - D	高柳 真理	48
日本語Ⅱ - D	高柳 真理	48
日本語Ⅰ - E	銅直 信子	49
日本語Ⅱ - E	銅直 信子	49
英会話Ⅰ	ニコラス・デルマン	53
英会話Ⅱ	ニコラス・デルマン	53
時事英語Ⅲ	内野 泰子	55
時事英語Ⅳ	内野 泰子	55
ビジネス英語Ⅲ	内野 泰子	56
ビジネス英語Ⅳ	内野 泰子	56

4 教養科目

敬天愛人講座 A	教務部委員会	57
敬天愛人講座 B	教務部委員会	57
敬愛プログラム	教務部委員会	58
スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	藤田 明男	58
哲学	壁谷 彰慶	59
心理学	藤井 輝男	59
社会心理学	藤井 輝男	60
日本の文学	畑中 千晶	60

授業科目	担当者	掲載頁
比較文学	畑中 千晶	61
歴史学	山本 健	61
法学	覚正 豊和	62
憲法Ⅰ	山内 義廣	62
憲法Ⅱ	山内 義廣	63
政治学	櫛田 久代	63
日本の政治	櫛田 久代	64
社会学	菊池 真弓	64
数学Ⅰ	小林 忠	65
数学Ⅱ	小林 忠	65
統計学Ⅰ	小林 忠	66
統計学Ⅱ	小林 忠	66
環境科学	中村 圭三	67
地球科学	濱田 浩美	67
総合科目Ⅰ「国際社会を知る」	飯野由美子(世話人)	68
総合科目Ⅱ「国際社会を知る」	飯野由美子(世話人)	68
海外事情研修Ⅰ(アメリカ)	教務部委員会	69
海外事情研修Ⅱ(中国)	教務部委員会	69
海外事情研修Ⅲ(オーストラリア)	教務部委員会	70
海外事情研修Ⅳ(イギリス)	教務部委員会	70
地域ボランティア活動	松藤 和生	71

5 教職専門科目

日本史概論Ⅰ	小山 幸伸	71
日本史概論Ⅱ	小山 幸伸	72
世界史概論Ⅰ	山本 健	72
世界史概論Ⅱ	山本 健	73
地理学概論Ⅰ	永野 征男	73
地理学概論Ⅱ	永野 征男	74
地誌学Ⅰ	戸田 真夏	74
地誌学Ⅱ	戸田 真夏	75
哲学概論Ⅰ	小林 秀樹	75
哲学概論Ⅱ	小林 秀樹	76
比較政治学	櫛田 久代	76
社会学概論	菊池 真弓	77
自然地理学Ⅰ	近藤 昭彦	77
自然地理学Ⅱ	近藤 昭彦	78
環境地理学Ⅰ	三澤 正	78
環境地理学Ⅱ	三澤 正	79

授業科目

担当者

掲載頁

6 キャリア科目

実践会話Ⅰ	齊木かおり	79
実践会話Ⅱ	齊木かおり	80
キャリア基礎開発Ⅰ	キャリアセンター	80
キャリア基礎開発Ⅱ	キャリアセンター	81
キャリア基礎開発Ⅲ	キャリアセンター	81
キャリアディベロップメント	キャリアセンター	82
キャリア教育特殊講義	キャリアセンター	82
インターンシップ（経済専攻のみ）	キャリアセンター	83

7 演習科目

基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱ		83
-------------	--	----

8 ライセンスプログラム

ライセンスプログラム（科目一覧）		236
------------------	--	-----

9 教職及び教科に関する科目

教育原論Ⅰ	中山 幸夫	238
教育原論Ⅱ	中山 幸夫	238
教育心理学	藤井 輝男	239
発達心理学	藤井 輝男	239
教職概論	坂本 義孝	240
教育行政	福田 靖	240
教育法規	福田 靖	241
教育方法論	柳原由美子	241
社会科・地歴科指導法Ⅰ	奈良 明	242
社会科・地歴科指導法Ⅱ	奈良 明	242
地理歴史科指導法	福田 靖	243
社会科・公民科指導法Ⅰ	福田 靖	243
社会科・公民科指導法Ⅱ	福田 靖	244
公民科指導法	福田 靖	244
商業科指導法	坂本 義孝	245
商業科教材研究	坂本 義孝	245
情報科指導法Ⅰ	須之内義昭	246
情報科指導法Ⅱ	須之内義昭	246

授業科目	担当者	掲載頁
情報と職業	須之内義昭	247
道徳教育研究	中山 幸夫	247
特別活動研究	池谷美佐子	248
生徒指導論	池谷美佐子	248
教育相談	藤井 輝男	249
教職総合演習	中山 幸夫	249
教職時事演習	上野 正道	250
教育実践研究	奈良 明	250
教育福祉論	佐藤真生子	251
職業指導Ⅰ	須之内義昭	251
職業指導Ⅱ	須之内義昭	252
学校事務概論	向笠 博昭	253

Ⅱ 2012年度入学生（12カリキュラム）〈経済専攻科目〉一覧

授業科目	担当者	掲載頁
1 基本科目A		
経済理論AⅠ	加茂川益郎	141
経済理論AⅡ	加茂川益郎	141
経済理論BⅠ	和田 良子	142
経済理論BⅡ	和田 良子	142
2 基本科目B		
日本経済史Ⅰ	小山 幸伸	143
日本経済史Ⅱ	小山 幸伸	143
西洋経済史Ⅰ	牧野 俊重	144
西洋経済史Ⅱ	牧野 俊重	144
ミクロ経済学Ⅰ	渡辺 善次	145
ミクロ経済学Ⅱ	渡辺 善次	145
マクロ経済学Ⅰ	和田 良子	146
マクロ経済学Ⅱ	和田 良子	146
経済政策AⅠ	馬場 正弘	147
経済政策AⅡ	馬場 正弘	147
経済政策BⅠ	仁平 耕一	148
経済政策BⅡ	仁平 耕一	148
社会政策Ⅰ	星 真実	149
社会政策Ⅱ	星 真実	149
財政学Ⅰ	金子林太郎	150
財政学Ⅱ	金子林太郎	150
金融論Ⅰ	添田 利光	151
金融論Ⅱ	添田 利光	151
簿記論ⅠA	鈴木 明男	152
簿記論ⅡA	鈴木 明男	152
簿記論ⅠB	塚本 利平	153
簿記論ⅡB	塚本 利平	153
会計学Ⅰ	鈴木 明男	154
会計学Ⅱ	鈴木 明男	154
企業法	平成25年度開講	
会社法	野口 明宏	155
国際経済論Ⅰ	阿部 容子	156
国際経済論Ⅱ	土井 修	156
統計学総論Ⅰ	稲葉 弘道	157
統計学総論Ⅱ	稲葉 弘道	157
知的財産権論	森島 隆晴	158
情報マネジメント	平成25年度開講	

3 公共経済コース科目

公共経済学	仁平 耕一	159
公共選択論	仁平 耕一	159
地方財政論Ⅰ	金子林太郎	160
地方財政論Ⅱ	金子林太郎	160
地方自治論Ⅰ	岡崎加奈子	161
地方自治論Ⅱ	岡崎加奈子	161
財政赤字の経済学	仁平 耕一	162
社会保障論Ⅰ	星 真実	162
社会保障論Ⅱ	星 真実	163
社会福祉論	星 真実	163
福祉経済論	星 真実	164
経済学史Ⅰ	加茂川益郎	164
経済学史Ⅱ	加茂川益郎	165
行政法Ⅰ	小野寺邦広	165
行政法Ⅱ	小野寺邦広	166
民法Ⅰ	古川 晴雄	166
民法Ⅱ	古川 晴雄	167
進路支援講座Ⅰ（経済専攻コース共通）	経済教務委員会	167
進路支援講座Ⅱ（経済専攻コース共通）	経済教務委員会	168
進路支援講座（公務員）Ⅲ	平成25年度開講	
進路支援講座（公務員）Ⅳ	平成25年度開講	
進路支援講座（公務員）Ⅴ	平成26年度開講	
進路支援講座（公務員）Ⅵ	平成26年度開講	

4 金融・情報コース科目

証券経済論Ⅰ	土井 修	168
証券経済論Ⅱ	土井 修	169
銀行論Ⅰ	添田 利光	169
銀行論Ⅱ	添田 利光	170
国際金融論Ⅰ	添田 利光	170
国際金融論Ⅱ	添田 利光	171
企業金融論Ⅰ	三田村 智	171
企業金融論Ⅱ	三田村 智	172
資産運用論	佐藤 正明	172
保険論	千々松愛子	173
有価証券法	野口 明宏	173
情報セキュリティ論	森島 隆晴	230
アルゴリズム論Ⅰ	高橋 和子	231

授業科目	担当者	掲載頁
アルゴリズム論Ⅱ	高橋 和子	231
ネットワークシステム論	森島 隆晴	230
進路支援講座Ⅰ（経済専攻コース共通）	経済教務委員会	167
進路支援講座Ⅱ（経済専攻コース共通）	経済教務委員会	168
進路支援講座（金融・情報）Ⅲ	平成25年度開講	
進路支援講座（金融・情報）Ⅳ	平成25年度開講	
進路支援講座（金融・情報）Ⅴ	平成26年度開講	
進路支援講座（金融・情報）Ⅵ	平成26年度開講	

5 現代日本経済コース

日本経済論Ⅰ	馬場 正弘	174
日本経済論Ⅱ	馬場 正弘	174
日本経済地理	青木 英一	175
世界経済地理	青木 英一	175
アメリカ経済論Ⅰ	牧野 俊重	176
アメリカ経済論Ⅱ	牧野 俊重	176
ヨーロッパ経済論Ⅰ	飯野由美子	177
ヨーロッパ経済論Ⅱ	飯野由美子	177
中東経済論	水口 章	178
国際貿易論	阿部 容子	178
アジア経済論	中川 雅彦	179
労働経済論Ⅰ	開講しません	
労働経済論Ⅱ	開講しません	
労働法	高橋 良裕	179
経済統計Ⅰ	稲葉 弘道	180
経済統計Ⅱ	稲葉 弘道	180
進路支援講座（経済）Ⅲ	平成25年度開講	
進路支援講座（経済）Ⅳ	平成25年度開講	
進路支援講座（経済）Ⅴ	平成26年度開講	
進路支援講座（経済）Ⅵ	平成26年度開講	

6 展開科目

社会思想史Ⅰ	折原 裕	181
社会思想史Ⅱ	折原 裕	181
金融事情Ⅰ	飯野由美子	182
金融事情Ⅱ	飯野由美子	182
金融経済の基礎知識	伊崎 岳夫	183
経済学方法論Ⅰ	折原 裕	183
経済学方法論Ⅱ	折原 裕	184

授業科目	担当者	掲載頁
計量経済学Ⅰ	馬場 正弘	184
計量経済学Ⅱ	馬場 正弘	185
環境経済学Ⅰ	和田 良子	185
環境経済学Ⅱ	和田 良子	186
環境問題Ⅰ	金子林太郎	186
環境問題Ⅱ	金子林太郎	187
医療の経済学	仁平 耕一	187
食料経済論	稲葉 弘道	188
農業政策	稲葉 弘道	188
経済数学Ⅰ	小林 忠	189
経済数学Ⅱ	小林 忠	189
外国経済書講読Ⅰ	渡辺 善次	190
外国経済書講読Ⅱ	渡辺 善次	190
経営学Ⅰ	高木 朋代	191
経営学Ⅱ	高木 朋代	191
地方自治論実習	牧瀬 稔	192
金融ビジネス実践	平成25年度開講	
流通ビジネス実践	平成25年度開講	
TOEIC®向上講座Ⅰ	平成25年度開講	
TOEIC®向上講座Ⅱ	平成25年度開講	

7 情報科目

情報概論	高橋 和子	221
Webデザイン	井手 雅哉	222
Excelデータ解析	井手 雅哉	222
プログラミング入門VB	小林 忠	223
プログラミング入門C	染谷 広幸	223
プログラミング入門Perl	染谷 広幸	224
VBプログラミング	小林 忠	224
Cプログラミング	染谷 広幸	225
Perlプログラミング	染谷 広幸	225
情報検索入門	井手 雅哉	226
データベースオペレーションA・B	成富 慶子	226・227
プレゼンテーション論Ⅰ	成富 慶子	227
プレゼンテーション論Ⅱ	井手 雅哉	228
情報社会と倫理	井手 雅哉	228
ハードウェアシステム論	森島 隆晴	229
OS論	森島 隆晴	229
システム設計論Ⅰ	高橋 和子	232
システム設計論Ⅱ	開講しません	
データベース論	森島 隆晴	232
シミュレーション論	森島 隆晴	233

Ⅲ 2012年度入学生（12カリキュラム）〈現代マネジメント専攻科目〉一覧

授業科目	担当者	掲載頁
------	-----	-----

1 基本科目A

経営学Ⅰ	高木 朋代	191
経営学Ⅱ	高木 朋代	191
会計学Ⅰ	鈴木 明男	154
会計学Ⅱ	鈴木 明男	154

2 基本科目B

簿記論ⅠA	鈴木 明男	152
簿記論ⅡA	鈴木 明男	152
簿記論ⅠB	塚本 利平	153
簿記論ⅡB	塚本 利平	153
産業論Ⅰ	森谷 英樹	192
産業論Ⅱ	森谷 英樹	193
マーケティング論	畢 滔滔	193
Marketing Management	平成25年度開講	
経営史Ⅰ	開講しません	
経営史Ⅱ	開講しません	
経営戦略論Ⅰ	岸本 太一	194
経営戦略論Ⅱ	岸本 太一	195
ベンチャービジネス論	川西 正己	195
流通論	畢 滔滔	196
経営組織論Ⅰ	高木 朋代	196
経営組織論Ⅱ	高木 朋代	197
経営分析Ⅰ	平屋 伸洋	197
経営分析Ⅱ	平屋 伸洋	198
原価計算論Ⅰ	柴田 寛幸	198
原価計算論Ⅱ	柴田 寛幸	199
経営財務論	石鍋 信孝	199
マーケティングリサーチⅠ	金 珍淑	200
マーケティングリサーチⅡ	平成25年度開講	
人的資源管理Ⅰ	高木 朋代	200
人的資源管理Ⅱ	高木 朋代	201
管理会計論	平成25年度開講	

カリキュラム

2012年度入学生（12カリキュラム）〈現代マネジメント専攻科目〉一覧

3 アジアビジネスマネジメントコース科目

アジアビジネス実習	平成25年度開講
アジアビジネス論	平成25年度開講
中国ビジネス論	平成25年度開講

授業科目	担当者	掲載頁
経営立地論	平成25年度開講	
アジアの工業立地	平成25年度開講	
流通経営論	平成25年度開講	
中国の流通産業	平成25年度開講	
情報マネジメント	平成25年度開講	
国際経営論	長島 芳枝	203
国際貿易論	阿部 容子	178
国際法Ⅰ	野澤 基恭	204
国際法Ⅱ	野澤 基恭	204
アジアの地理	平成25年度開講	
アジアの歴史と社会	平成25年度開講	
中国語検定講座Ⅰ	平成25年度開講	
中国語検定講座Ⅱ	平成25年度開講	
日本語検定講座Ⅰ	平成25年度開講	
日本語検定講座Ⅱ	平成25年度開講	

4 地域企業マネジメントコース科目

地域企業マネジメント実習	平成25年度開講	
地域企業論マネジメント論	平成25年度開講	
税務会計論Ⅰ	鈴木 明男	205
税務会計論Ⅱ	鈴木 明男	205
中小企業論Ⅰ	岸本 太一	206
中小企業論Ⅱ	岸本 太一	206
企業法	平成25年度開講	
会社法	野口 明宏	155
地域産業論	青木 英一	207
企業経営と心理学	平成25年度開講	
観光事業論Ⅰ	奥山 隆哉	207
観光事業論Ⅱ	奥山 隆哉	208
サービス産業論	金 珍淑	208
地域企業会計論	高橋 隆明	209
民法Ⅰ	古川 晴雄	166
民法Ⅱ	古川 晴雄	167

5 スポーツビジネスマネジメントコース

スポーツビジネス実習	平成25年度開講	
スポーツ科学概論	藤田 明男	209
生涯スポーツ実習Ⅰ	藤田 明男	210
生涯スポーツ実習Ⅱ	藤田 明男	210

授業科目	担当者	掲載頁
スポーツビジネス論	二宮 雅也	211
スポーツ産業論	二宮 雅也	211
中小企業論Ⅰ	岸本 太一	206
中小企業論Ⅱ	岸本 太一	206
企業経営と心理学	平成25年度開講	
民法Ⅰ	古川 晴雄	166
民法Ⅱ	古川 晴雄	167
企業法	平成25年度開講	
会社法	野口 明宏	155

6 展開科目

経済政策AⅠ	馬場 正弘	147
経済政策AⅡ	馬場 正弘	147
経済政策BⅠ	仁平 耕一	148
経済政策BⅡ	仁平 耕一	148
ミクロ経済学Ⅰ	渡辺 善次	145
ミクロ経済学Ⅱ	渡辺 善次	145
マクロ経済学Ⅰ	和田 良子	146
マクロ経済学Ⅱ	和田 良子	146
統計学総論Ⅰ	稲葉 弘道	157
統計学総論Ⅱ	稲葉 弘道	157
経済統計Ⅰ	稲葉 弘道	180
経済統計Ⅱ	稲葉 弘道	180
日本経済論Ⅰ	馬場 正弘	174
日本経済論Ⅱ	馬場 正弘	174
流通情報論	畢 滔滔	212
企業金融論Ⅰ	三田村 智	171
企業金融論Ⅱ	三田村 智	172
知的財産権論	森島 隆晴	158
企業と産業組織Ⅰ	森谷 英樹	212
企業と産業組織Ⅱ	森谷 英樹	213
消費者行動論	藤井 輝男	213
労働法	高橋 良裕	179
サイバー刑法	山内 義廣	214
有価証券法	野口 明宏	173
外国経営書講読Ⅰ	黄 和秀	214
外国経営書講読Ⅱ	黄 和秀	215
金融ビジネス実践	平成25年度開講	
流通ビジネス実践	平成25年度開講	
TOEIC®向上講座Ⅰ	平成25年度開講	

TOEIC®向上講座Ⅱ 平成25年度開講

7 情報科目

情報概論	高橋 和子	221
Webデザイン	井手 雅哉	222
Excelデータ解析	井手 雅哉	222
プログラミング入門VB	小林 忠	223
プログラミング入門C	染谷 広幸	223
プログラミング入門Perl	染谷 広幸	224
VBプログラミング	小林 忠	224
Cプログラミング	染谷 広幸	225
Perlプログラミング	染谷 広幸	225
情報検索入門	井手 雅哉	226
データベースオペレーションA・B	成富 慶子	226・227
プレゼンテーション論Ⅰ	成富 慶子	227
プレゼンテーション論Ⅱ	井手 雅哉	228
情報社会と倫理	井手 雅哉	228
ハードウェアシステム論	森島 隆晴	229
OS論	森島 隆晴	229
ネットワークシステム論	森島 隆晴	230
情報セキュリティ論	森島 隆晴	230
アルゴリズム論Ⅰ	高橋 和子	231
アルゴリズム論Ⅱ	高橋 和子	231
システム設計論Ⅰ	高橋 和子	232
システム設計論Ⅱ	開講しません	
データベース論	森島 隆晴	232
シミュレーション論	森島 隆晴	233

IV 2009～2011年度入学生（09・11カリキュラム）〈学部共通科目〉一覧

授業科目	担当者	掲載頁
1 基礎科目A		
文章表現	経済教務部委員会（戸口恵子・石井励）	2
口頭表現	経済教務部委員会（戸口恵子・石井励）	2
基礎数学	経済教務部委員会（坂本祐一・小林誠）	3
入門経済学A	経済教務委員会	3
入門経済学B	経済教務委員会	4
入門経営学A	経済教務委員会	4
入門経営学B	経済教務委員会	5
キャリアプランニング	キャリアセンター	5
健康科学A	藤田 明男	6
健康科学B	藤田 明男	6
情報基礎ⅠR	清水 麻実	10
情報基礎ⅡR	清水 麻実	10
2 基礎科目B		
敬天愛人講座A	教務部委員会	57
敬天愛人講座B	教務部委員会	57
入門経済学実習	開講しません	
入門経営学実習	開講しません	
3 言語科目A		
英語ⅠR (a)		19
英語ⅡR (a)		19
英語ⅠR (b)	伊東 隆子	20
英語ⅡR (b)	伊東 隆子	20
英語Ⅲ-1	田 文揚	21
英語Ⅳ-1	田 文揚	21
英語Ⅲ-2	伊東 隆子	22
英語Ⅳ-2	伊東 隆子	22
英語Ⅲ-3		23
英語Ⅳ-3		23
英語Ⅲ-4		24
英語Ⅳ-4		24
英語Ⅲ-5	武井みち子	25
英語Ⅳ-5	武井みち子	25
英語Ⅲ-6	伊東 隆子	26
英語Ⅳ-6	伊東 隆子	26
英語ⅢR (a)		27

授業科目	担当者	掲載頁
英語Ⅳ R (a).....	27
英語Ⅲ R (b).....	小野ゆき子.....	28
英語Ⅳ R (b).....	小野ゆき子.....	28

4 言語科目B

フランス語Ⅰ -A	寺尾いづみ.....	29
フランス語Ⅱ -A	寺尾いづみ.....	29
フランス語Ⅰ -B	浅野 信二.....	30
フランス語Ⅱ -B	浅野 信二.....	30
フランス語Ⅲ -A	寺尾いづみ.....	31
フランス語Ⅳ -A	寺尾いづみ.....	31
フランス語Ⅲ -B	浅野 信二.....	32
フランス語Ⅳ -B	浅野 信二.....	32
ドイツ語Ⅰ -A	高島 明.....	33
ドイツ語Ⅱ -A	高島 明.....	33
ドイツ語Ⅰ -B	志村 哲也.....	34
ドイツ語Ⅱ -B	志村 哲也.....	34
ドイツ語Ⅲ -A	高島 明.....	35
ドイツ語Ⅳ -A	高島 明.....	35
ドイツ語Ⅲ -B	志村 哲也.....	36
ドイツ語Ⅳ -B	志村 哲也.....	36
中国語Ⅰ R (a)	矢澤 秀昭.....	39
中国語Ⅱ R (a)	矢澤 秀昭.....	39
中国語Ⅰ R (b)	矢澤 秀昭.....	40
中国語Ⅱ R (b)	矢澤 秀昭.....	40
中国語Ⅲ -A・B・C	矢澤 秀昭・黄 麗華... 41・42・43	
中国語Ⅳ -A・B・C	矢澤 秀昭・黄 麗華... 41・42・43	
中国語Ⅲ R	矢澤 秀昭.....	44
中国語Ⅳ R	矢澤 秀昭.....	44
日本語Ⅰ -A	銅直 信子.....	45
日本語Ⅱ -A	銅直 信子.....	45
日本語Ⅰ -B	沢野美由紀.....	46
日本語Ⅱ -B	沢野美由紀.....	46
日本語Ⅰ -C	高柳 真理.....	47
日本語Ⅱ -C	高柳 真理.....	47
日本語Ⅰ -D	高柳 真理.....	48
日本語Ⅱ -D	高柳 真理.....	48
日本語Ⅰ -E.....	銅直 信子.....	49
日本語Ⅱ -E.....	銅直 信子.....	49
日本語Ⅲ -A	沢野美由紀.....	50

授業科目	担当者	掲載頁
日本語Ⅳ -A	沢野美由紀	50
日本語Ⅲ -B	銅直 信子	51
日本語Ⅳ -B	銅直 信子	51
日本語Ⅲ -C	高柳 真理	52
日本語Ⅳ -C	高柳 真理	52
英会話Ⅰ	ニコラス・デルマン	53
英会話Ⅱ	ニコラス・デルマン	53
英会話Ⅲ	ニコラス・デルマン	54
英会話Ⅳ	ニコラス・デルマン	54
ビジネス英語Ⅰ（ビジネス英語Ⅲ）	内野 泰子	56
ビジネス英語Ⅱ（ビジネス英語Ⅳ）	内野 泰子	56
時事英語Ⅰ（時事英語Ⅲ）	内野 泰子	55
時事英語Ⅱ（時事英語Ⅳ）	内野 泰子	55

5 教養科目

敬愛プログラム	教務部委員会	58
スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	藤田 明男	58
哲学	壁谷 彰慶	59
心理学	藤井 輝男	59
社会心理学	藤井 輝男	60
日本の文学	畑中 千晶	60
比較文学	畑中 千晶	61
歴史学	山本 健	61
法学	覚正 豊和	62
憲法Ⅰ	山内 義廣	62
憲法Ⅱ	山内 義廣	63
政治学	櫛田 久代	63
日本の政治	櫛田 久代	64
社会学	菊池 真弓	64
数学Ⅰ	小林 忠	65
数学Ⅱ	小林 忠	65
統計学Ⅰ	小林 忠	66
統計学Ⅱ	小林 忠	66
環境科学	中村 圭三	67
地球科学	濱田 浩美	67
情報概論	高橋 和子	221
Web デザイン	井手 雅哉	222
Excel データ解析	井手 雅哉	222
プログラミング入門VB	小林 忠	223
プログラミング入門C	染谷 広幸	223

授業科目	担当者	掲載頁
プログラミング入門 Perl	染谷 広幸	224
VB プログラミング	小林 忠	224
C プログラミング	染谷 広幸	225
Perl プログラミング	染谷 広幸	225
情報検索入門	井手 雅哉	226
データベースオペレーション A・B	成富 慶子	226・227
プレゼンテーション論 I	成富 慶子	227
プレゼンテーション論 II	井手 雅哉	228
総合科目 I 「国際社会を知る」	飯野由美子 (世話人)	68
総合科目 II 「国際社会を知る」	飯野由美子 (世話人)	68
海外事情研修 I (アメリカ)	教務部委員会	69
海外事情研修 II (中国)	教務部委員会	69
海外事情研修 III (オーストラリア)	教務部委員会	70
海外事情研修 IV (イギリス)	教務部委員会	70
地域ボランティア活動	松藤 和生	71

6 教職専門科目

日本史概論 I	小山 幸伸	71
日本史概論 II	小山 幸伸	72
世界史概論 I	山本 健	72
世界史概論 II	山本 健	73
地理学概論 I	永野 征男	73
地理学概論 II	永野 征男	74
地誌学 I	戸田 真夏	74
地誌学 II	戸田 真夏	75
哲学概論 I	小林 秀樹	75
哲学概論 II	小林 秀樹	76
比較政治学	櫛田 久代	76
社会学概論	菊池 真弓	77
自然地理学 I	近藤 昭彦	77
自然地理学 II	近藤 昭彦	78
環境地理学 I	三澤 正	78
環境地理学 II	三澤 正	79
実践会話 I	斉木かおり	79
実践会話 II	斉木かおり	80

7 キャリア科目

キャリア基礎開発Ⅰ	キャリアセンター	80
キャリア基礎開発Ⅱ	キャリアセンター	81
キャリア基礎開発Ⅲ	キャリアセンター	81
キャリアディベロップメント	キャリアセンター	82
キャリア教育特殊講義	キャリアセンター	82
インターンシップ	キャリアセンター	83

8 演習科目

基礎演習Ⅰ R (a)	田 文揚	84
基礎演習Ⅱ R (a)	田 文揚	84
基礎演習Ⅰ R (b)	熊木 恒夫	85
基礎演習Ⅱ R (b)	熊木 恒夫	85
専門導入演習Ⅰ	牧野 俊重	86
専門導入演習Ⅱ	牧野 俊重	86
専門導入演習Ⅰ	野口 明宏	87
専門導入演習Ⅱ	野口 明宏	87
専門導入演習Ⅰ	加茂川益郎	88
専門導入演習Ⅱ	加茂川益郎	88
専門導入演習Ⅰ	仁平 耕一	89
専門導入演習Ⅱ	仁平 耕一	89
専門導入演習Ⅰ	森谷 英樹	90
専門導入演習Ⅱ	森谷 英樹	90
専門導入演習Ⅰ	青木 英一	91
専門導入演習Ⅱ	青木 英一	91
専門導入演習Ⅰ	折原 裕	92
専門導入演習Ⅱ	折原 裕	92
専門導入演習Ⅰ	飯野由美子	93
専門導入演習Ⅱ	飯野由美子	93
専門導入演習Ⅰ	小山 幸伸	94
専門導入演習Ⅱ	小山 幸伸	94
専門導入演習Ⅰ	和田 良子	95
専門導入演習Ⅱ	和田 良子	95
専門導入演習Ⅰ	畢 滔滔	96
専門導入演習Ⅱ	畢 滔滔	96
専門導入演習Ⅰ	馬場 正弘	97
専門導入演習Ⅱ	馬場 正弘	97
専門導入演習Ⅰ	星 真実	98
専門導入演習Ⅱ	星 真実	98

授業科目

担当者

掲載頁

専門導入演習 I	金子林太郎	99
専門導入演習 II	金子林太郎	99
専門導入演習 I	岸本 太一	100
専門導入演習 II	岸本 太一	100
専門導入演習 I	添田 利光	101
専門導入演習 II	添田 利光	101
専門導入演習 I	金 珍淑	102
専門導入演習 II	金 珍淑	102
専門演習 I	鈴木 明男	103
専門演習 II	鈴木 明男	103
専門演習 I	牧野 俊重	104
専門演習 II	牧野 俊重	104
専門演習 I	野口 明宏	105
専門演習 II	野口 明宏	105
専門演習 I	加茂川益郎	106
専門演習 II	加茂川益郎	106
専門演習 I	仁平 耕一	107
専門演習 II	仁平 耕一	107
専門演習 I	森谷 英樹	108
専門演習 II	森谷 英樹	108
専門演習 I	青木 英一	109
専門演習 II	青木 英一	109
専門演習 I	折原 裕	110
専門演習 II	折原 裕	110
専門演習 I	飯野由美子	111
専門演習 II	飯野由美子	111
専門演習 I	小山 幸伸	112
専門演習 II	小山 幸伸	112
専門演習 I	和田 良子	113
専門演習 II	和田 良子	113
専門演習 I	畢 滔滔	114
専門演習 II	畢 滔滔	114
専門演習 I	馬場 正弘	115
専門演習 II	馬場 正弘	115
専門演習 I	森島 隆晴	116
専門演習 II	森島 隆晴	116
専門演習 I	星 真実	117
専門演習 II	星 真実	117
専門演習 I	金子林太郎	118
専門演習 II	金子林太郎	118
専門演習 I	岸本 太一	119

授業科目	担当者	掲載頁
専門演習Ⅱ	岸本 太一	119
専門演習Ⅰ	添田 利光	120
専門演習Ⅱ	添田 利光	120
卒業演習Ⅰ	鈴木 明男	121
卒業演習Ⅱ	鈴木 明男	121
卒業演習Ⅰ	牧野 俊重	122
卒業演習Ⅱ	牧野 俊重	122
卒業演習Ⅰ	野口 明宏	123
卒業演習Ⅱ	野口 明宏	123
卒業演習Ⅰ	仁平 耕一	124
卒業演習Ⅱ	仁平 耕一	124
卒業演習Ⅰ	森谷 英樹	125
卒業演習Ⅱ	森谷 英樹	125
卒業演習Ⅰ	青木 英一	126
卒業演習Ⅱ	青木 英一	126
卒業演習Ⅰ	折原 裕	127
卒業演習Ⅱ	折原 裕	127
卒業演習Ⅰ	飯野由美子	128
卒業演習Ⅱ	飯野由美子	128
卒業演習Ⅰ	小山 幸伸	129
卒業演習Ⅱ	小山 幸伸	129
卒業演習Ⅰ	和田 良子	130
卒業演習Ⅱ	和田 良子	130
卒業演習Ⅰ	畢 滔滔	131
卒業演習Ⅱ	畢 滔滔	131
卒業演習Ⅰ	馬場 正弘	132
卒業演習Ⅱ	馬場 正弘	132
卒業演習Ⅰ	森島 隆晴	133
卒業演習Ⅱ	森島 隆晴	133
卒業演習Ⅰ	添田 利光	134
卒業演習Ⅱ	添田 利光	134

9 ライセンスプログラム

ライセンスプログラム (科目一覧)	236
-------------------	-----

10 教職及び教科に関する科目

教育原論Ⅰ	中山 幸夫	238
教育原論Ⅱ	中山 幸夫	238
教育心理学A・B	藤井 輝男	239
発達心理学A・B	藤井 輝男	239
教職概論	坂本 義孝	240
教育行政	福田 靖	240
教育法規	福田 靖	241
教育方法論	柳原由美子	241
社会科・地歴科指導法Ⅰ	奈良 明	242
社会科・地歴科指導法Ⅱ	奈良 明	242
地理歴史科指導法	福田 靖	243
社会科・公民科指導法Ⅰ	福田 靖	243
社会科・公民科指導法Ⅱ	福田 靖	244
公民科指導法	福田 靖	244
商業科指導法	坂本 義孝	245
商業科教材研究	坂本 義孝	245
情報科指導法Ⅰ	須之内義昭	246
情報科指導法Ⅱ	須之内義昭	246
情報と職業	須之内義昭	247
道德教育研究A・B	中山 幸夫	247
特別活動研究	池谷美佐子	248
生徒指導論	池谷美佐子	248
教育相談	藤井 輝男	249
教職総合演習	中山 幸夫	249
教職時事演習	上野 正道	250
教育実践研究	奈良 明	250
中学校・高等学校教育実習	中山 幸夫	251
教育福祉論	佐藤真生子	251
職業指導Ⅰ	須之内義昭	252
職業指導Ⅱ	須之内義昭	252
学校事務概論	向笠 博昭	253

V 2009～2011年度入学生（09・11カリキュラム）〈経済系専門科目〉一覧

授業科目

担当者

掲載頁

1 基本科目A

経済理論AⅠ	加茂川益郎	141
経済理論AⅡ	加茂川益郎	141
経済理論BⅠ	和田 良子	142
経済理論BⅡ	和田 良子	142
日本経済史Ⅰ	小山 幸伸	143
日本経済史Ⅱ	小山 幸伸	143
西洋経済史Ⅰ	牧野 俊重	144
西洋経済史Ⅱ	牧野 俊重	144

2 基本科目B

経済政策AⅠ	馬場 正弘	147
経済政策AⅡ	馬場 正弘	147
経済政策BⅠ	仁平 耕一	148
経済政策BⅡ	仁平 耕一	148
経済学史Ⅰ	加茂川益郎	164
経済学史Ⅱ	加茂川益郎	165
金融論Ⅰ	添田 利光	151
金融論Ⅱ	添田 利光	151
財政学Ⅰ	金子林太郎	150
財政学Ⅱ	金子林太郎	150
統計学総論Ⅰ	稲葉 弘道	157
統計学総論Ⅱ	稲葉 弘道	157
社会政策Ⅰ	星 真実	149
社会政策Ⅱ	星 真実	149
ミクロ経済学Ⅰ	渡辺 善次	145
ミクロ経済学Ⅱ	渡辺 善次	145
マクロ経済学Ⅰ	和田 良子	146
マクロ経済学Ⅱ	和田 良子	146

3 日本・世界経済コース科目

日本経済論Ⅰ	馬場 正弘	174
日本経済論Ⅱ	馬場 正弘	174
国際経済論Ⅰ	阿部 容子	156
国際経済論Ⅱ	土井 修	156
日本経済地理	青木 英一	175
世界経済地理	青木 英一	175
入門経済刑法	山内 義廣	220

カリキュラム

2009～2011年度入学生（09・11カリキュラム）〈経済系専門科目〉一覧

授業科目	担当者	掲載頁
サイバー刑法	山内 義廣	214
商法（企業法）	野口 明宏	155
会社法	野口 明宏	155
国際貿易論	阿部 容子	178
開発経済学	高田 誠	220
ヨーロッパ経済論Ⅰ	飯野由美子	177
ヨーロッパ経済論Ⅱ	飯野由美子	177
アメリカ経済事情Ⅰ（アメリカ経済論Ⅰ）	牧野 俊重	176
アメリカ経済事情Ⅱ（アメリカ経済論Ⅱ）	牧野 俊重	176
アジア経済論	中川 雅彦	179
中東経済論	水口 章	178
労働経済論Ⅰ	開講しません	
労働経済論Ⅱ	開講しません	

4 環境・福祉コース科目

環境と生活	開講しません	
開発と環境	開講しません	
都市環境とまちづくり	永野 征男	217
環境ビジネス	柳瀬 雄二	221
福祉経済論	星 真実	164
社会福祉論	星 真実	163
保険論	千々松愛子	173
民法Ⅰ	古川 晴雄	166
民法Ⅱ	古川 晴雄	167
社会保障論Ⅰ	星 真実	162
社会保障論Ⅱ	星 真実	163
労働経済論Ⅰ	開講しません	
労働経済論Ⅱ	開講しません	
資源エネルギー論	松本 太	219
医療の経済学	仁平 耕一	187
環境経済学Ⅰ	和田 良子	185
環境経済学Ⅱ	和田 良子	186
環境問題Ⅰ	金子林太郎	186
環境問題Ⅱ	金子林太郎	187
日本経済論Ⅰ	馬場 正弘	174
日本経済論Ⅱ	馬場 正弘	174

5 公共サービスコース科目

公共経済学	仁平 耕一	159
-------	-------	-----

授業科目	担当者	掲載頁
公共選択論	仁平 耕一	159
地域経済論	開講しません	
入門経済刑法	山内 義廣	220
サイバー刑法	山内 義廣	214
行政法Ⅰ	小野寺邦広	165
行政法Ⅱ	小野寺邦広	166
労働法Ⅰ（労働法）	高橋 良裕	179
労働法Ⅱ	高橋 良裕	218
民法Ⅰ	古川 晴雄	166
民法Ⅱ	古川 晴雄	167
地方自治論Ⅰ	岡崎加奈子	161
地方自治論Ⅱ	岡崎加奈子	161
地方自治論実習	牧瀬 稔	192
地方財政論Ⅰ	金子林太郎	160
地方財政論Ⅱ	金子林太郎	160
財政赤字の経済学	仁平 耕一	162
経済統計Ⅰ	稲葉 弘道	180
経済統計Ⅱ	稲葉 弘道	180
社会保障論Ⅰ	星 真実	162
社会保障論Ⅱ	星 真実	163

6 金融・証券コース科目

金融事情Ⅰ	飯野由美子	182
金融事情Ⅱ	飯野由美子	182
資産運用論	佐藤 正明	172
保険論	千々松愛子	173
商法（企業法）	野口 明宏	155
会社法	野口 明宏	155
有価証券法Ⅰ（有価証券法）	野口 明宏	173
有価証券法Ⅱ	野口 明宏	219
国際金融論Ⅰ	添田 利光	170
国際金融論Ⅱ	添田 利光	171
証券経済論Ⅰ	土井 修	168
証券経済論Ⅱ	土井 修	169
銀行論Ⅰ	添田 利光	169
銀行論Ⅱ	添田 利光	170
企業金融論Ⅰ	三田村 智	171
企業金融論Ⅱ	三田村 智	172
計量経済学Ⅰ	馬場 正弘	184
計量経済学Ⅱ	馬場 正弘	185

7 展開科目

簿記論ⅠA	鈴木 明男	152
簿記論ⅡA	鈴木 明男	152
簿記論ⅠB	塚本 利平	153
簿記論ⅡB	塚本 利平	153
社会思想史Ⅰ	折原 裕	181
社会思想史Ⅱ	折原 裕	181
経済学方法論Ⅰ	折原 裕	183
経済学方法論Ⅱ	折原 裕	184
経済数学Ⅰ	小林 忠	189
経済数学Ⅱ	小林 忠	189
経営学概論Ⅰ（経営学Ⅰ）	高木 朋代	191
経営学概論Ⅱ（経営学Ⅱ）	高木 朋代	191
産業論Ⅰ	森谷 英樹	192
産業論Ⅱ	森谷 英樹	193
会計学Ⅰ	鈴木 明男	154
会計学Ⅱ	鈴木 明男	154
産業立地論Ⅰ	青木 英一	201
産業立地論Ⅱ	青木 英一	202
産業組織論Ⅰ（企業と産業組織Ⅰ）	森谷 英樹	212
産業組織論Ⅱ（企業と産業組織Ⅱ）	森谷 英樹	213
流通論	畢 滔滔	196
中小企業論Ⅰ	岸本 太一	206
中小企業論Ⅱ	岸本 太一	206
財務管理論（経営財務論）	石鍋 信孝	199
都市地理学	永野 征男	217
企業文化論	開講しません	
地域産業論	青木 英一	207
地域調査論	青木 英一	216
知的財産権論Ⅰ	森島 隆晴	158
知的財産権論Ⅱ	開講しません	
食料経済論	稲葉 弘道	188
農業政策	稲葉 弘道	188
外国経済書講読Ⅰ	渡辺 善次	190
外国経済書講読Ⅱ	渡辺 善次	190
国際法Ⅰ	野澤 基恭	204
国際法Ⅱ	野澤 基恭	204
金融経済の基礎知識	伊崎 岳夫	183

Ⅵ 2009～2011年度入学生（09・11カリキュラム）〈経営系専門科目〉一覧

授業科目	担当者	掲載頁
1 基礎科目A		
経営学概論Ⅰ（経営学Ⅰ）	高木 朋代	191
経営学概論Ⅱ（経営学Ⅱ）	高木 朋代	191
会計学Ⅰ	鈴木 明男	154
会計学Ⅱ	鈴木 明男	154
簿記論ⅠA	鈴木 明男	152
簿記論ⅡA	鈴木 明男	152
簿記論ⅠB	塚本 利平	153
簿記論ⅡB	塚本 利平	153
2 基礎科目B		
産業論Ⅰ	森谷 英樹	192
産業論Ⅱ	森谷 英樹	193
マーケティング論Ⅰ	畢 滔滔	193
マーケティング論Ⅱ	畢 滔滔	194
経営史Ⅰ	開講しません	
経営史Ⅱ	開講しません	
経営戦略論Ⅰ	岸本 太一	194
経営戦略論Ⅱ	岸本 太一	195
経営組織論Ⅰ	高木 朋代	196
経営組織論Ⅱ	高木 朋代	197
経営分析Ⅰ	平屋 伸洋	197
経営分析Ⅱ	平屋 伸洋	198
経済理論AⅠ	加茂川益郎	141
経済理論AⅡ	加茂川益郎	141
経済理論BⅠ	和田 良子	142
経済理論BⅡ	和田 良子	142
3 経営・会計コース		
人的資源管理Ⅰ	高木 朋代	200
人的資源管理Ⅱ	高木 朋代	201
消費者行動論Ⅰ（消費者行動論）	藤井 輝男	213
消費者行動論Ⅱ	開講しません	
商法（企業法）	野口 明宏	155
会社法	野口 明宏	155
民法Ⅰ	古川 晴雄	166
民法Ⅱ	古川 晴雄	167
原価計算論Ⅰ	柴田 寛幸	198

授業科目	担当者	掲載頁
原価計算論Ⅱ	柴田 寛幸	199
税務会計論Ⅰ	鈴木 明男	205
税務会計論Ⅱ	鈴木 明男	205
財務管理論（経営財務論）	石鍋 信孝	199
マーケティングリサーチ（マーケティングリサーチⅠ）	金 珍淑	200
国際経営論	長島 芳枝	203
企業倫理論	川島 孝夫	215
企業文化論	開講しません	
中小企業論Ⅰ	岸本 太一	206
中小企業論Ⅱ	岸本 太一	206
有価証券法Ⅰ（有価証券法）	野口 明宏	173
有価証券法Ⅱ	野口 明宏	219

4 ビジネス情報コース科目

経営情報論Ⅰ	開講しません	
経営情報論Ⅱ	開講しません	
情報社会と倫理	井手 雅哉	228
ハードウェアシステム論	森島 隆晴	229
OS論	森島 隆晴	229
ネットワークシステム論	森島 隆晴	230
情報セキュリティ論	森島 隆晴	230
アルゴリズム論Ⅰ	高橋 和子	231
アルゴリズム論Ⅱ	高橋 和子	231
システム設計論Ⅰ	高橋 和子	232
システム設計論Ⅱ	開講しません	
情報システム開発論	開講しません	
流通情報論	畢 滔滔	212
データベース論	森島 隆晴	232
シミュレーション論	森島 隆晴	233
知的財産権論Ⅰ（知的財産権論）	森島 隆晴	158
知的財産権論Ⅱ	開講しません	
サイバー刑法	山内 義廣	214
情報経済論（情報マネジメント）	森島 隆晴	158

5 現代産業コース科目

産業立地論Ⅰ	青木 英一	201
産業立地論Ⅱ	青木 英一	202
流通論	畢 滔滔	196
流通情報論	畢 滔滔	212

授業科目	担当者	掲載頁
流通経営論Ⅰ	畢 滔滔	202
流通経営論Ⅱ	畢 滔滔	203
観光事業論Ⅰ	奥山 隆哉	207
観光事業論Ⅱ	奥山 隆哉	208
地域調査論	青木 英一	216
地域産業論	青木 英一	207
サービス産業論	金 珍淑	208
ITサービス産業論	金 珍淑	216
産業組織論Ⅰ(企業と産業組織Ⅰ)	森谷 英樹	212
産業組織論Ⅱ(企業と産業組織Ⅱ)	森谷 英樹	213
中小企業論Ⅰ	岸本 太一	206
中小企業論Ⅱ	岸本 太一	206
地域経済論	開講しません	
都市地理学	永野 征男	217
都市環境とまちづくり	永野 征男	217

6 スポーツビジネスコース(※2011年度入学者のみ対象)

スポーツビジネス実習	平成25年度開講	
スポーツ科学概論	藤田 明男	209
生涯スポーツ実習Ⅰ	藤田 明男	210
生涯スポーツ実習Ⅱ	藤田 明男	210
スポーツビジネス論	二宮 雅也	211
スポーツ産業論	二宮 雅也	211

7 展開科目

経済政策AⅠ	馬場 正弘	147
経済政策AⅡ	馬場 正弘	147
経済政策BⅠ	仁平 耕一	148
経済政策BⅡ	仁平 耕一	148
金融論Ⅰ	添田 利光	151
金融論Ⅱ	添田 利光	151
統計学総論Ⅰ	稲葉 弘道	157
統計学総論Ⅱ	稲葉 弘道	157
ミクロ経済学Ⅰ	渡辺 善次	145
ミクロ経済学Ⅱ	渡辺 善次	145
マクロ経済学Ⅰ	和田 良子	146
マクロ経済学Ⅱ	和田 良子	146
日本経済論Ⅰ	馬場 正弘	174
日本経済論Ⅱ	馬場 正弘	174

授業科目	担当者	掲載頁
経済統計Ⅰ	稲葉 弘道	180
経済統計Ⅱ	稲葉 弘道	180
国際貿易論	阿部 容子	178
ベンチャービジネス論	川西 正己	195
地域企業会計論	高橋 隆明	209
企業再生論	高橋 隆明	218
環境ビジネス	柳瀬 雄二	221
環境問題Ⅰ	金子林太郎	186
環境問題Ⅱ	金子林太郎	187
企業金融論Ⅰ	三田村 智	171
企業金融論Ⅱ	三田村 智	172
労働法Ⅰ（労働法）	高橋 良裕	179
労働法Ⅱ	高橋 良裕	218
外国経営書講読Ⅰ	黄 和秀	214
外国経営書講読Ⅱ	黄 和秀	215
金融経済の基礎知識	伊崎 岳夫	183

シラバス

Ⅱ 各授業内容

科目名	文章表現			
担当者	経済教務委員会（戸口恵子・石井勲）			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

文章作成技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPOにあった日本語を使いこなせるようになることである。

■授業の進め方（履修条件等）

オリジナルプリント教材をもとにして、講義と演習をおこなう。また、自らが作成した文章を発表する機会を設ける。なお、語彙力増強のため、漢字テストや作文を実施する。

■成績評価方法・基準

出席の状況や課題への取り組み、定期テストなどから総合的に評価する。積極的に授業へ参加していないと判断した場合（私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等）成績評価に影響する。

■授業の予習・復習

授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。次の授業で書くことと指示された内容について、前もって準備しておくこと。授業中に完成しなかった作文・小論文・手紙などを完成させて次回提出すること。

■教科書

オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。

科目名	口頭表現			
担当者	経済教務委員会（戸口恵子・石井勲）			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

プレゼンテーション技法および語彙習得を通して、日本語運用能力を高める。この講義の最終到達目標は、TPOにあった日本語の話し方を習得することである。

■授業の進め方（履修条件等）

オリジナルプリント教材をもとにして、講義・演習・グループワークをおこなう。なお、語彙力増強のため、毎回漢字テストや作文を実施する。

■成績評価方法・基準

出席の状況や課題への取り組み、定期テストなどから総合的に評価する。積極的に授業へ参加していないと判断した場合（私語、内職、居眠り、携帯電話の操作等）成績評価に影響する。

■授業の予習・復習

授業で扱った内容は、次回までにしっかり復習しておくこと。毎回、発表の機会があるので、次回発表すると指示された内容について、前もって準備しておくこと。

■教科書

オリジナルプリント教材を使用する。各自ファイルすること。

■参考文献

説明と説得のためのプレゼンテーション—文章表現、図解、話術、議論のすべて（海保博之著、共立出版）
現代プレゼンテーション正攻法（プリプル・チャールズ、坂本 正裕著、ナカニシヤ出版）
小室淑恵の超実践プレゼン講座（小室淑恵著、日経BPムック）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス 自己紹介文を書く	講義の進め方、注意事項の確認
2 自己紹介をする	質問カードによる応答練習 自己紹介文を読み合う。
3 友達紹介をする	友達を紹介する文を書き、読み合う。
4 適切な表記・表現とは(1) 漢字テスト(1)	文体、一人称、口語表現
5 適切な表記・表現とは(2) 漢字テスト(2)	誤字、送りかな
6 わかりやすい文を書く(1) 漢字テスト(3)	文の乱れ（呼応関係、主語と述語のねじれ）
7 わかりやすい文を書く(2) 漢字テスト(4)	修飾関係、主述関係、あいまいな表現、冗長な文
8 中間テスト	第1～7講までの範囲で出題
9 正しい言葉遣い(1) 漢字テスト(5)	敬語①（敬語の基本、あいさつ、受け答え）
10 正しい言葉遣い(2) 漢字テスト(6)	敬語②（メール・手紙の書き方）
11 正しい言葉遣い(3) 漢字テスト(7)	敬語③（電話のかけ方・受け方）
12 小論文作成(1) 漢字テスト(8)	小論文の書き方の基本を理解する。
13 小論文作成(2) 漢字テスト(9)	小論文を書くためのテーマを探す。現代日本の現状から問題点を見つける。
14 小論文作成(3)	800字で、小論文を完成させる。
15 小論文作成(4)	小論文の相互評価をする。

■参考文献

表記の手引き 第四版（教育出版編集局編、教育出版）
新装版 日本語の作文技術（本多勝一著、講談社）
文章は接続詞で決まる（石黒圭著、光文社新書）、
国語便覧（出版社は問わない）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期の復習(1) 漢字テスト(1)	前期の復習と、後期の口頭表現について理解する。
2 話し方のポイントを学ぶ(1) 漢字テスト(2)	早口言葉の練習を通して、はっきりと正確な言葉を話す練習をする。
3 話し方のポイントを学ぶ(2) 漢字テスト(3)	適切な態度や表情について学ぶ。 グループワーク（自らの振る舞いや表情の傾向を知る）（仲間にインタビューする）
4 1分間スピーチ(1) 漢字テスト(4)	「私のおすすめ」という内容でスピーチ原稿を書き、練習する。
5 1分間スピーチ(2) 漢字テスト(5)	「私のおすすめ」の1分間スピーチをグループ内で発表する。意見交換する。
6 1分間スピーチ(3) ロールプレイ(1)	各自発表したい内容の1分間スピーチ原稿を作る。
7 1分間スピーチ(4) ロールプレイ(2)	1分間スピーチと相互評価を行う。
8 中間テスト	第1～7講までの範囲で出題
9 プレゼンテーションの方法と実践(1)	プレゼンテーションの概要を学ぶ グループワーク（顔合わせ、自己紹介）
10 プレゼンテーションの方法と実践(2) 漢字テスト(6)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク（調査、発表内容の決定）
11 プレゼンテーションの方法と実践(3) 漢字テスト(7)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク（調査、発表内容の決定）
12 プレゼンテーションの方法と実践(4) 漢字テスト(8)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク（台本作り）
13 プレゼンテーションの方法と実践(5) 漢字テスト(9)	プレゼンテーションの方法を学ぶ グループワーク（リハーサル）
14 プレゼンテーションの方法と実践(6)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する
15 プレゼンテーションの方法と実践(7)	グループごとにプレゼンテーションを行い、批評する

科目名	基礎数学			
担当者	経済教務委員会（坂本祐一・小林誠）			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

数的パズルを通して基本的な計算力を身に付け、論理的思考力を養います。これにより、経済学など大学で扱う学習習得に必要な数的処理能力を習得するのが主な目標です。また、数的感覚を磨くことで、日常生活にも役立ち、SPI非言語・CABなどの各種就職試験で高得点を取れるようにもしていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを配布し、例題を説明した後で、練習問題を演習します。パズルを多く取り入れ、楽しく学び、数学に興味を持ってもらえるようにします。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習は必要ありませんが、授業で扱った問題は次回までにスラスラ解答できるように復習しておきましょう。

■教科書

使用しません。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の方針、計算パズル
2 四則計算	整数の四則計算と効率の良い計算方法
3 小数・概算	CAB（暗算）の過去問演習、割合の考え方
4 分数	分数の四則計算、約数と倍数
5 文字式	累乗、簡単な文字式の必要性・意味・扱い
6 方程式（1）	等式の性質、一次方程式の解法
7 方程式（2）	一次方程式とその応用
8 中間試験	第1～7講までの範囲で出題
9 不等式	不等式を用いた表現、一次不等式の解法
10 平方根	平方根と根号（ $\sqrt{\quad}$ ）の必要性・意味・扱い
11 連立方程式	2元一次連立方程式の解法とその応用
12 座標平面（1）	点の座標、比例・反比例・一次関数のグラフ
13 座標平面（2）	連立方程式の解とグラフ
14 展開・因数分解（1）	簡単な式の展開と因数分解
15 展開・因数分解（2）	展開と因数分解の応用

科目名	入門経済学A			
担当者	経済教務委員会 <i>Kyoumu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済学が扱う広範囲のトピックスを紹介していきます。経済学専攻で学べる3つのコースの内容を知り、専門導入ゼミや専門ゼミを決めるのに活用すべき授業です。経済系の教員を、すべて知ることができます。

■授業の進め方（履修条件等）

先生が1、2回で変わっていくオムニバス方式です。担当の先生に前の授業のことを聞いてもわかりませんので、わからないことは必ずその場で解決してください。

■成績評価方法・基準

期末試験によります。ガイダンスで詳しいことを話します。

■授業の予習・復習

各先生の指示に従ってください。

■教科書

テキストはありませんが、先生からプリントなどが配布されます。

■参考文献

指定しません。

■授業内容

授業項目	授業内容	担当者
1 ガイダンス	講義・授業の進め方について	和田
2	経済学について・コースの説明	和田
3	日本経済について	小山
4 現代日本経済	世界経済について	牧野
5 コース	日本経済論の方法	加茂川
6	経済学の父・アダム・スミスについて	折原
7	社会政策とは何か	星
8	公共経済コースの概要について	仁平
9 公共経済	公共経済学について	仁平
10 コース	税金のしくみについて1	金子
11	税金のしくみについて2	金子
12	金融入門	添田
13 金融・情報	国際入門	添田
14 コース	証券市場について	飯野
15	政府と金融について	馬場

科目名	入門経済学B			
担当者	経済教務委員会 <i>Kyoumu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済学が扱う広範囲のトピックスを紹介していきます。経済学専攻で学べる3つのコースの内容を知り、専門導入ゼミや専門ゼミを決めるのに活用すべき授業です。経済系の教員を、すべて知ることができます。

■授業の進め方（履修条件等）

先生が1、2回で変わっていくオムニバス方式です。担当の先生に前の授業のことを聞いてもわかりませんので、わからないことは必ずその場で解決してください。

■成績評価方法・基準

期末試験によります。ガイダンスで詳しいことを話します。

■授業の予習・復習

各先生の指示に従ってください。

■教科書

テキストはありませんが、先生からプリントなどが配布されます。

■参考文献

指定しません。

科目名	入門経営学A			
担当者	経済教務委員会 <i>Kyoumu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

新入生の皆さんに、経営学に興味をもってもらうことが目的です。授業の受講により、現代マネジメント専攻にある「アジアビジネスマネジメントコース」、「地域企業マネジメントコース」と「スポーツビジネスマネジメントコース」の3コースの学習内容を理解し、2年次以降の学習の方向性を定めることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：2008年以前の入学者は履修登録することができません。現代マネジメント専攻の教員が全員で分担し、各自の専門を中心に、わかりやすく講義します。学籍番号によるクラス分けを行いますので、注意して下さい。

■成績評価方法・基準

レポートなどによって評価します。この科目は再試験実施科目です。

■授業の予習・復習

予習：『授業計画書』に目を通して、各コースの講義内容を確認しておいて下さい。

復習：教員が説明した専門用語を辞典等で確認して下さい。興味を持った事例についてメディアセンターで資料を探してみして下さい。

■教科書

指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容	担当者
1	ガイダンス	講義・授業の進め方について
2		経済学について・コースの説明
3		日本経済について
4	現代日本経済コース	世界経済について
5		日本経済論の方法
6		経済学の父・アダム・スミスについて
7	公共経済コース	社会政策とは何か
8		公共経済コースの概要について
9		公共経済学について
10		税金のしくみについて1
11		税金のしくみについて2
12	金融・情報コース	金融入門
13		国際入門
14		証券市場について
15		政府と金融について

■授業内容

授業項目	授業内容
1	ガイダンス
2	本科目の概要と運営方針（青木）
3	アジアビジネスマネジメントコース導入①
4	立地論から見たトヨタの特色（青木）
5	アジアビジネスマネジメントコース導入②
6	マーケティングへの招待（畢）
7	アジアビジネスマネジメントコース導入③
8	商業における構造と関係（金）
9	アジアビジネスマネジメントコース導入④
10	小売業態のイノベーション（金）
11	アジアビジネスマネジメントコース導入⑤
12	情報社会と経営学（森島）
13	地域企業マネジメントコース導入①
14	会計が社会で果たす役割と会計諸規定の概要（鈴木）
15	地域企業マネジメントコース導入②
16	決算書（財務諸表）の種類とそのしくみ（鈴木）
17	地域企業マネジメントコース導入③
18	付加価値ということ（森谷）
19	地域企業マネジメントコース導入④
20	会社法上の会社とは（野口）
21	スポーツビジネスマネジメントコース導入①
22	消費者の態度形成と態度変容（藤井）
23	スポーツビジネスマネジメントコース導入②
24	スポーツ産業の現状（1）（藤田）
25	スポーツビジネスマネジメントコース導入③
26	スポーツ産業の現状（2）（藤田）
27	まとめ①
28	「経営学」とは、どのような学問？（岸本）
29	まとめ②
30	レポート（岸本）

■参考文献

指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

科目名	入門経営学B			
担当者	経済教務委員会 <i>Kyoumu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

新入生の皆さんに、経営学に興味をもってもらうことが目的です。授業の受講により、現代マネジメント専攻にある「アジアビジネスマネジメントコース」、「地域企業マネジメントコース」と「スポーツビジネスマネジメントコース」の3コースの学習内容を理解し、2年次以降の学習の方向性を定めることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：2008年以前の入学者は履修登録することができません。現代マネジメント専攻の教員が全員で分担し、各自の専門を中心に、わかりやすく講義します。学籍番号によるクラス分けを行ないますので、注意して下さい。

■成績評価方法・基準

レポートなどによって評価します。この科目は再試験実施科目です。

■授業の予習・復習

予習：『授業計画書』に目を通して、各コースの講義内容を確認しておいて下さい。

復習：教員が説明した専門用語を辞典等で確認して下さい。興味を持った事例についてメディアセンターで資料を探してみして下さい。

■教科書

指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

科目名	キャリアプランニング			
担当者	キャリアセンター <i>Carrier Center</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのかを学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像（ロールモデル）を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ（ゼミ）でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。

■成績評価方法・基準

提出物の内容、併せて受講態度を加味して総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習・復習：講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。

■教科書

必要に応じて、プリント等を配布致します。

■参考文献

その都度、紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	本科目の概要と運営方針（青木）
2 アジアビジネスマネジメントコース導入①	立地論から見たトヨタの特色（青木）
3 アジアビジネスマネジメントコース導入②	マーケティングへの招待（畢）
4 アジアビジネスマネジメントコース導入③	商業における構造と関係（金）
5 アジアビジネスマネジメントコース導入④	小売業態のイノベーション（金）
6 アジアビジネスマネジメントコース導入⑤	情報社会と経営学（森島）
7 地域企業マネジメントコース導入①	会計が社会で果たす役割と会計諸規定の概要（鈴木）
8 地域企業マネジメントコース導入②	決算書（財務諸表）の種類とそのしくみ（鈴木）
9 地域企業マネジメントコース導入③	付加価値ということ（森谷）
10 地域企業マネジメントコース導入④	会社法上の会社とは（野口）
11 スポーツビジネスマネジメントコース導入①	消費者の態度形成と態度変容（藤井）
12 スポーツビジネスマネジメントコース導入②	スポーツ産業の現状（1）（藤田）
13 スポーツビジネスマネジメントコース導入③	スポーツ産業の現状（2）（藤田）
14 まとめ①	「経営学」とは、どのような学問？（岸本）
15 まとめ②	レポート（岸本）

■参考文献

指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	キャリアとは 《全体講義》
2	4月 コミュニケーションの基礎① ～自分を語ろう・相手を語ろう～
3	5月 コミュニケーションの基礎② ～姿勢・動作・表情の基礎を知ろう～
4	コミュニケーションの基礎③ ～話し方の基本・話し方の違いによる違いを知ろう～
5	ゲスト・スピーカー《全体講義》
6	6月 ビジョンボードを創ろう《少人数制クラスでのファシリテーション》
7	チバイチバンカ《チ》チームワーク①
8	チバイチバンカ《チ》チームワーク②
9	7月 チバイチバンカ《バ》バイタリティ①
10	チバイチバンカ《バ》バイタリティ②
11	チバイチバンカ《イ》イノベーション
12	チバイチバンカ《チ》知識
13	9月 チバイチバンカ《バ》バランス感覚
14	チバイチバンカ《ん》気づき notice
15	まとめ コンピテンシーモデルの作成

科目名	健康科学A			
09～10年度入学：健康運動科学				
担当者	藤田 明男 Akio Fujita			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

健康と運動に関する科学的知見に基づき人体に及ぼす運動の効用や健康に生きるための諸要因について考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

可能な限り視聴覚教材を用いて授業を展開していく。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（10%）・出席（40%）

■授業の予習・復習

予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用することが必要。

復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用することが必要。

■教科書

なし

■参考文献

藤田明男他著『健康・体力科学』杏林書院

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業に詳細説明
2 筋肉と骨	運動が筋肉や骨に及ぼす影響
3 筋肉	ウサギがカメに負けた本当の訳
4 骨（1）	骨は万病のもと
5 骨（2）	骨粗鬆症
6 薬物	薬物について
7 酒	飲酒の効用と弊害
8 糖分	糖分の取りすぎに注意
9 体脂肪（1）	体脂肪の恐怖
10 体脂肪（2）	燃える体脂肪と燃えない体脂肪
11 体脂肪（3）	酸素不足は脂肪が燃えない
12 体脂肪（4）	体脂肪の新改善術
13 生活習慣病	太る！疲れる！老ける生活習慣
14 運動不足	運動不足が危ない
15 まとめ	総括

科目名	健康科学B			
09～10年度入学：健康運動科学				
担当者	藤田 明男 Akio Fujita			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

健康と運動に関する科学的知見に基づき人体に及ぼす運動の効用や健康に生きるための諸要因について考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

可能な限り視聴覚教材を用いて授業を展開していく。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（10%）・出席（40%）

■授業の予習・復習

予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用することが必要。

復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用することが必要。

■教科書

なし

■参考文献

藤田明男他著『健康・体力科学』杏林書院

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業に詳細説明
2 筋肉と骨	運動が筋肉や骨に及ぼす影響
3 筋肉	ウサギがカメに負けた本当の訳
4 骨（1）	骨は万病のもと
5 骨（2）	骨粗鬆症
6 薬物	薬物について
7 酒	飲酒の効用と弊害
8 糖分	糖分の取りすぎに注意
9 体脂肪（1）	体脂肪の恐怖
10 体脂肪（2）	燃える体脂肪と燃えない体脂肪
11 体脂肪（3）	酸素不足は脂肪が燃えない
12 体脂肪（4）	体脂肪の新改善術
13 生活習慣病	太る！疲れる！老ける生活習慣
14 運動不足	運動不足が危ない
15 まとめ	総括

科目名	情報基礎Ⅰ			
担当者	清水 麻実 Mami Shimizu			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

パスワードの管理やネチケット、コンピュータに関する基礎的知識を理解し、Microsoft Office Wordの知識・操作方法を学習します。実社会においてWordを有効活用し、ビジネスで使用される文書の作成ができるようになることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

テキスト必須です。Windowsの基本操作やネチケットなども学習します。Wordでは表・図形を含めた基本的なビジネス文書の作成ができるようになります。操作等は個々の画面に提示しながら説明します。

■成績評価方法・基準

定期試験に授業時の課題を加味します。課題をおこなわない・授業態度が悪い場合等は減点します。

■授業の予習・復習

タイピングは各自練習して下さい。欠席した場合は次回授業時までにその分を終えておくことが望ましいです。

■教科書

ビジネス文書のためのワード活用法【Ver.2003&2007対応編】
創成社

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認・ログインとログオフ・パスワード変更
2 Windows入門	Windowsの基本操作
3 タイピングソフト・ネチケット	タイピング・E-Learningによる学習
4 I Naviの使い方	パスワード変更等
5 GRACEメール	メールの送受信・添付方法
6 インターネット入門	インターネットの基礎知識・IEの概要・基本操作
7 コンピュータのしくみ	五大機能・五大装置について
8 IME入門	文字の入力と編集・単語登録・検索
9 Wordの基礎	Wordの概要・画面構成・設定・文字の編集
10 //	ページ設定・図形の作成・印刷・表作成①
11 //	表作成②・ワードアート・写真・イラスト挿入
12 //	組織図・図形・グラフ挿入
13 //	ビジネス文書作成①（社内文書）
14 //	ビジネス文書作成②（社外文書）
15 まとめ	総合問題

科目名	情報基礎Ⅱ			
担当者	清水 麻実 Mami Shimizu			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

Microsoft社の表計算ソフトExcelは実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2007での知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつと学習します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的な操作はテキストを中心にを行います。小テストや練習問題ではプリントで配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。

■成績評価方法・基準

定期試験に授業時の課題を加味します。課題をおこなわない場合は減点します。

■授業の予習・復習

欠席した場合は次回授業時までにその分を終えておくことが望ましいです。

■教科書

実務に必須！Excel活用法【Ver.2003&2007対応編】

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者確認、ログインとログオフ
2 Windowsの操作・Excelの概要	ファイル削除・フォルダ作成・Excelの概要
3 ネットワークフォルダ・Excelの基本	Publicの参照方法、画面名称・入力・保存
4 Excelの基礎	拡張子について・オートフィル機能・行/列の操作
5 //	式の入力と修正・四則演算子・相対参照
6 //	関数の書式・集合関数・比較演算子・絶対参照
7 //	セルの書式設定・罫線・表のレイアウト
8 //	シートの操作・シートの保護・オプションの設定
9 //	グラフ作成・グラフの編集・関数②
10 //	印刷プレビュー・改ページプレビュー・ページ設定
11 //	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター
12 //	複合グラフ・Wordへの表の貼り付け
13 //	データベース機能・オブジェクトの作成
14 //	テンプレートの利用・リンク貼り付け
15 まとめ	試験対策

科目名	情報基礎 I			
担当者	成富 慶子 <i>Keiko Naritomi</i>			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている本講義では、コンピュータに関する基礎知識、ネットケットなどを理解し、Microsoft® Wordを使用した基本的な文書作成を習熟してもらう。

■授業の進め方（履修条件等）

Windowsの基本操作からネットケットを学習し、Microsoft® Wordを使用して、実習を通して文書作成を行う。

■成績評価方法・基準

実技テストで総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書を見ながら操作する、またブライドタッチができるよう練習する。

復習：授業内に行った操作を配布プリント、教科書、練習問題などで復習する。

■教科書

FOM出版 Microsoft® Office Word 2007 基礎
978-4-89311-669-7 FOM出版
Microsoft Office Excel 2007 基礎 978-4-89311-667-3

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認・講義概要 ログイン、ログオフ、パスワード変更
2 Officeの基礎知識	Windowsの基本操作 コマンドの実行 ファイルの互換性
3 ブライドタッチ	タイピングソフト
4 メール入門	メールの送受信 GraceMailの使用法
5 インターネット入門	インターネットの基礎知識 IEの基本操作
6 Wordの基礎知識	Wordの概要 IME2007の設定
7 Word入門	文書の作成
8 //	表の作成
9 //	文書の編集
10 //	表現力をアップする機能 1
11 //	表現力をアップする機能 2
12 //	文例の利用
13 ビジネス文書の基礎知識	ビジネス文書の基礎知識
14 総合問題 1	総合問題 1
15 総合問題 2	総合問題 2

科目名	情報基礎 II			
担当者	成富 慶子 <i>Keiko Naritomi</i>			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている本講義では表計算ソフト Microsoft® Excelを使用した基本操作を習熟してもらう

■授業の進め方（履修条件等）

Microsoft® Excelを使用して、実習を通して表計算を行う

■成績評価方法・基準

実技テストで総合評価する

■授業の予習・復習

予習：教科書を見ながら操作する

復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する

■教科書

FOM出版 Microsoft® Office Word 2007 基礎
978-4-89311-669-7 FOM出版
Microsoft Office Excel 2007 基礎 978-4-89311-667-3

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認・講義概要
2 Excelの基礎知識	Excelの概要
3 Excel入門	データの入力 編集
4 //	表の作成 1
5 //	表の作成 2
6 //	数式の入力 1
7 //	数式の入力 2
8 //	数式の入力 3
9 //	複数のシートの操作
10 //	グラフの作成 1
11 //	グラフの作成 2 印刷設定
12 //	データベースの利用
13 //	Wordとの相互活用
14 //	総合問題 1
15 //	総合問題 2

科目名	情報基礎Ⅰ			
担当者	濱野 和人 Kazuhito Hamano			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09～11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

本講義では、①タッチタイピング、②電子メールによるビジネスメールの書き方、③インターネットを活用した情報検索スキルと情報発信スキル、④アカデミックスキルとしての文書作成方法やビジネス文書の作成方法、の基礎的知識および活用スキルの習得を目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。

進め方：毎回、テキストや講義資料に基づき、操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。

■成績評価方法・基準

タイピング試験の合格を最低条件とし、参加意欲、演習等の状況、定期試験の成績を加味し、総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：①最低1日10分のタイピング練習、②シラバスを参考にどのようなことをやるのか確認しておく。

復習：講義で扱った内容や操作方法でわからなかった部分について、他人に教えられる程度にしておく。

■教科書

第1回講義時に指示する

■参考文献

その都度指示する

科目名	情報基礎Ⅱ			
担当者	濱野 和人 Kazuhito Hamano			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09～11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

本講義では、Excelを使用し、①スプレッドシートの基礎、②表計算の基礎、③関数の基礎、④グラフ作成の基礎、に関する知識やそれを活用するスキルの強化を通じて、数値情報による基礎的表現技法の習得を目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件：実習中心の講義となるため、遅刻・欠席をすると後に響くので遅刻・欠席はしないこと。

進め方：毎回、テキストや講義資料に基づき、操作方法等を画面に提示しながら講義を進める。

■成績評価方法・基準

参加意欲、演習等の状況、定期試験の成績を加味し、総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：①最低1日10分のタイピング練習、②シラバスを参考にどのようなことをやるのか確認しておく。

復習：講義で扱った内容や操作方法でわからなかった部分について、他人に教えられる程度にしておく。

■教科書

第1回講義時に指示する

■参考文献

その都度指示する

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	講義概要、ログインとログオフ、パスワード変更
2	タイピング入門(1)	タイピングソフトによるタッチタイピング
3	電子メール入門(1)	メールの仕組み・機能・作成・送信・受信・返信
4	電子メール入門(2)	添付ファイル、メールマナー、ビジネスメール
5	電子メール入門(3)	ビジネスメール、アドレス帳、フォルダとフィルタ
6	インターネット入門	インターネットの基礎、情報検索と情報発信
7	文書作成入門(1)	書式設定、フォルダの作成、ファイルの保存
8	文書作成入門(2)	図の挿入と加工、図形の作成、描画ツールの活用
9	文書作成入門(3)	表・グラフの作成とデザイン、ページレイアウト
10	文書作成入門(4)	ビジネス文書(内部向け)の作成
11	文書作成入門(5)	ビジネス文書(外部向け)の作成
12	文書作成入門(6)	上位概念と下位概念、パラグラフ・ライティング
13	文書作成入門(7)	引用と脚注、ヘッダーとフッター、ページ番号
14	タイピング入門(2)	タッチタイピングによるタイピング試験
15	文書作成入門(8)	総合演習

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	講義概要
2	データ分析入門(1)	各部名称の説明、文字・数字の入力、書式設定
3	データ分析入門(2)	セルの調整、オートフィル、ページレイアウト
4	データ分析入門(3)	Sheet名の変更、四則演算子、相対参照
5	データ分析入門(4)	関数①
6	データ分析入門(5)	関数②
7	データ分析入門(6)	関数③、絶対参照
8	データ分析入門(7)	関数④、入れ子関数、複数シートの操作
9	データ分析入門(8)	関数⑤
10	データ分析入門(9)	関数⑥、ソート、フィルタ
11	データ分析入門(10)	グラフの作成・編集①
12	データ分析入門(11)	グラフの作成・編集②
13	データ分析入門(12)	複合グラフの作成・編集、Wordとの相互活用
14	データ分析入門(13)	総合演習①
15	データ分析入門(14)	総合演習②

科目名	情報基礎ⅠR			
担当者	清水 麻実 Mami Shimizu			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

Microsoft社のWordは実社会において必須です。最初にネチケットを学習し、Word Ver.2007の知識・操作を習得します。社内・社外文書の作成、オブジェクトの挿入、テンプレートの利用を学習など、実務上必要な操作をひとつとおり行います。

■授業の進め方（履修条件等）

テキスト必須です。基本的な操作はテキストを中心に行います。その他プリントも配布します。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。

■成績評価方法・基準

定期試験に授業時の課題を加味します。課題をおこなわない・授業態度が悪い場合は減点します。

■授業の予習・復習

タイピングは各自練習して下さい。欠席した場合は次回授業時までにその分を終えておくことが望ましいです。

■教科書

ビジネス文書のためのワード活用法【Ver.2003&2007対応編】
創成社

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	受講者確認、タイピング
2	Windowsの操作・ネットワークフォルダ	フォルダ作成・Publicの参照
3	ネチケット・GRACEメール	ネチケット・メールの送受信
4	五大機能・OS・IME	五大機能について・OS・IMEの概要
5	Wordの基礎	画面名称・入力・保存・拡張子について
6	〃	書式設定・ヘッダーとフッター
7	〃	表の作成と編集、計算式の挿入
8	〃	クリップアート・ワードアートの挿入と編集
9	〃	セクション区切り、ページ設定
10	〃	組織図・グラフの挿入と編集
11	〃	テンプレートの利用、PDFへの変換
12	〃	ビジネス文書（社内文書）・地図の作成
13	〃	ビジネス文書（社外文書）・印刷プレビュー、印刷
14	〃	総合問題
15	まとめ	試験対策

科目名	情報基礎ⅡR			
担当者	清水 麻実 Mami Shimizu			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

Microsoft社の表計算ソフトExcelは実社会において必要不可欠なソフトです。Ver.2007での知識・操作を習得することを目的とし、単純な入力だけでなく、計算式の挿入、表やグラフの作成・編集、データベース機能など、実務上必要な操作をひとつとおり学習します。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストは必須です。基本的な操作はテキストを中心に行います。小テストや練習問題ではプリントを配布することもあります。操作等は個々の画面に提示し、インターネットやプレゼンテーションを使い情報を与えることもあります。

■成績評価方法・基準

定期試験に授業時の課題を加味します。課題をおこなわない場合は減点します。

■授業の予習・復習

欠席した場合は次回授業時までにその分を終えておくことが望ましいです。

■教科書

実務に必須！Excel活用法【Ver.2003&2007対応編】

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション、Windowsの操作	受講者確認、ファイル削除・フォルダ作成
2	ネットワークフォルダ、Excelの概要	Publicの参照方法、Excelの概要
3	Excelの基礎	画面名称・入力・保存、拡張子について
4	〃	オートフィル機能・行/列の操作・式の入力と修正
5	〃	四則演算子・相対参照・関数の書式・集合関数
6	〃	比較演算子・絶対参照・セルの書式設定
7	〃	表のレイアウト・シートの保護・オプションの設定
8	〃	グラフの作成・編集・関数②
9	〃	印刷プレビュー・改ページプレビュー・ページ設定
10	〃	印刷・関数のネスト・ヘッダーとフッター
11	〃	複合グラフ・Wordへの表の貼り付け
12	〃	データベース機能・オブジェクトの作成
13	〃	テンプレートの利用・リンク貼り付け
14	〃	総合問題
15	まとめ	試験対策

科目名	英語 I - EX			
担当者	伊東 隆子 Takako Ito			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

英語の基礎力を強化しつつ、わかりやすくTOEICの学習を促す。CD-ROM教材を組み合わせる学習内容を繰り返し復習できさらに発展させていく。

■授業の進め方（履修条件等）

ListeningとReading Comprehensionの問題練習でTOEICの問題に慣れるように反復練習と重要構文の暗記を促す。

■成績評価方法・基準

定期試験60%、出席点20%、レポート点20%。

■授業の予習・復習

予習でわからない英単語は調べておく。授業中に不明な点は次の授業で理解できるようによく復習する。

■教科書

The Next Stage to the TOEIC Test

■参考文献

TOEIC Test の実践問題集

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容の提示
2	unit-1	Warm up~PartIVまでのリスニング問題の解答
3	//	PartV、VIのリーディング問題解答
4	unit-2	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
5	//	PartV、VIのリーディング問題解答
6	unit-3	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
7	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
8	unit-4	Warm up~ PartIVまでのリスニング問題解答
9	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
10	unit-5	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
11	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
12	unit-6	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
13	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
14	前期授業のまとめ	前期授業の重要英語構文の整理と暗記
15	前期授業のまとめと質疑応答	前期の授業中での重要構文の暗記とそれらに対する質疑応答

科目名	英語 II - EX			
担当者	伊東 隆子 Takako Ito			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

英語の基礎力を強化しつつ、わかりやすくTOEICの学習を促す。CD-ROM教材を組み合わせる学習内容を繰り返し復習できさらに発展させていく。

■授業の進め方（履修条件等）

ListeningとReading Comprehensionの問題練習でTOEICの問題に慣れるように反復練習と重要構文の暗記を促す。

■成績評価方法・基準

定期試験60%、出席点20%、レポート点20%。

■授業の予習・復習

予習でわからない英単語は調べておく。授業中に不明な点は次の授業で理解できるようによく復習する。

■教科書

The Next Stage to the TOEIC Test

■参考文献

TOEIC Test の実践問題集

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	unit-7	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
2	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
3	unit-8	Warm Up~PartIVまでのリスニング問題解答
4	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
5	unit-9	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
6	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
7	unit-10	Warm up ~ PartIVまでのリスニング問題解答
8	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
9	unit-11	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
10	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
11	unit-12	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
12	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
13	unit-13	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
14	後期授業のまとめ	後期授業の重要英語構文の整理と暗記
15	後期授業のまとめと質疑応答	後期の授業中での重要構文の暗記とそれらに対する質疑応答

科目名	英語Ⅰ－1			
担当者	小野 ゆき子 Yukiko Ono			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09～11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

作文が苦手という学生が多い。会社に入って、すぐ戦力になれるよう、実社会でよく使われる手紙文の書き方の演習を進める。

■授業の進め方（履修条件等）

英語の語順をしっかりと教え、一人ひとりを丁寧にしながら指導していく。小テストを随時行う。3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は欠席1回とみなす。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%） 小テスト（10%） 授業参加度（20%）

■授業の予習・復習

予習：授業でやる問題の予習を必ずすること。
復習：当然のことながら、その日のうちに復習を必ずすること。

■教科書

『やさしい英文手紙の書き方』 鳳書房

■参考文献

授業中に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	第1章全般	手紙文の基礎知識
2	〃	〃
3	第3章（1）	お世話になった方へのお礼状
4	〃	〃
5	第3章（3）	留学
6	〃	〃
7	第3章（4）	ホテルの予約
8	〃	〃
9	第3章（5）	昇進のお祝い状
10	〃	〃
11	第3章（6）	昇進のお祝い状に対するお礼状
12	〃	〃
13	第3章（7）	クレーム
14	〃	〃
15	総復習	総復習

科目名	英語Ⅱ－1			
担当者	小野 ゆき子 Yukiko Ono			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09～11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

作文が苦手という学生が多い。会社に入って、すぐ戦力になれるよう、実社会でよく使われる手紙文の書き方の演習を進める。

■授業の進め方（履修条件等）

英語の語順をしっかりと教え、一人ひとりを丁寧にしながら指導していく。小テストを随時行う。3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は欠席1回とみなす。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%） 小テスト（10%） 授業参加度（20%）

■授業の予習・復習

予習：授業でやる問題の予習を必ずすること。
復習：当然のことながら、その日のうちに復習を必ずすること。

■教科書

『やさしい英文手紙の書き方』 鳳書房

■参考文献

授業中に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	第3章（8）	退任する方へ
2	〃	〃
3	第2章（1）	個人輸入
4	〃	〃
5	第2章（2）	取引の申し込み・引き合い
6	〃	〃
7	第2章（3）	オファー・注文
8	〃	〃
9	第3章（9）	正式ディナーへの招待
10	〃	〃
11	第2章（5）	信用状
12	〃	〃
13	第3章（14）	出張のスケジュール
14	第3章（15）	履歴書
15	総復習	総復習

科目名	英語 I - 3			
担当者	武井 みち子 <i>Michiko Takei</i>			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

文法の理解に重点を置き、英語の基礎力を習得します。

■授業の進め方（履修条件等）

教員が文法解説後、学生が多数の練習問題を解き、英文を書いたり読んだりする力がつくように指導します。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、授業への積極的参加度50%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。

復習：文法事項の確認。

■教科書

「English Primer」 南雲堂

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	発音	発音とアクセントの学習
2	英語の基本文型	英語の語順の学習
3	Unit 1	be動詞
4	Unit 2	一般動詞（現在）
5	Unit 3	一般動詞（過去）
6	Unit 4	進行形
7	Unit 5	未来形
8	Unit 16	現在完了形
9	復習	英語の時（現在 過去 未来 現在完了）の復習
10	Unit 6	助動詞
11	Unit 7	名詞・冠詞
12	Unit 8	代名詞
13	Unit 9	前置詞
14	Unit 10	形容詞・副詞
15	総復習	復習および試験の対策

科目名	英語 II - 3			
担当者	武井 みち子 <i>Michiko Takei</i>			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

文法の理解に重点を置き、英語の基礎力を習得します。

■授業の進め方（履修条件等）

教員が文法解説後、学生が多数の練習問題を解き、英文を書いたり読んだりする力がつくように指導します。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、授業への積極的参加度50%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。

復習：文法事項の確認。

■教科書

「English Primer」 南雲堂

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit 11	比較
2	Unit 12	命令文・感嘆文
3	Unit 13	接続詞（I）
4	Unit 14	不定詞（I） 動名詞（I）
5	Unit 15	受動態
6	Unit 17	接続詞（II）
7	Unit 18	5つの基本文型
8	Unit 19	各種疑問文
9	Unit 20	不定詞（II）
10	Unit 21	Itの特別用法
11	分詞	現在分詞と過去分詞の学習
12	Unit 22	分詞・動名詞（II）
13	仮定法	仮定法の学習
14	Unit 23	関係代名詞
15	総復習	復習および試験の対策

科目名	英語Ⅰ－４			
担当者	小野 ゆき子 Yukiko Ono			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09～11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

英語の長文を速く正確に読み、理解できるようにしていく。

■授業の進め方（履修条件等）

大切な構文や熟語に線を引いてもらい、「読む」「書く」の二点に重きを置いて指導していく。3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は、欠席1回とみなす。

■成績評価方法・基準

定期テスト60% 授業参加度40%

■授業の予習・復習

予習：必ず単語を引いて授業に臨むこと。

復習：必ず復習し、わからない箇所は、次週の授業中に質問すること。

■教科書

The Earth and Our Health 成美堂

■参考文献

授業中に紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 Unit 1	よく寝てよく学べ
2 //	//
3 //	//
4 Unit 3	喫煙は不健康な選択
5 //	//
6 //	//
7 Unit 4	ストレスは病気のもと
8 //	//
9 //	//
10 Unit 7	酒は百薬の長って本当だった？
11 //	//
12 //	//
13 Unit 10	さらに頑張る人のためのスポーツ・サプリメント
14 //	//
15 //	//

科目名	英語Ⅱ－４			
担当者	小野 ゆき子 Yukiko Ono			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09～11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

英語の長文を速く、正確に読み、理解できるように指導していく。

■授業の進め方（履修条件等）

大切な構文や熟語に線を引いてもらい、「読む」「書く」の二点に重きを置いて指導していく。3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は、欠席1回とみなす。

■成績評価方法・基準

定期試験60% 授業参加度40%

■授業の予習・復習

予習：必ず次週に進む範囲の単語を引いて予習しておくこと。

復習：その日に習ったことの復習を怠らないこと。わからない箇所は、次週の授業中に質問すること。

■教科書

The Earth and Our Health 成美堂

■参考文献

授業中に紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 Unit 12	薬をはねつける耐性菌
2 //	//
3 //	//
4 Unit 13	地球温暖化は、全世界への警笛
5 //	//
6 //	//
7 Unit 16	アジアを襲う黄砂
8 //	//
9 //	//
10 Unit 18	どうする核廃棄物の貯蔵施設
11 //	//
12 //	//
13 Unit 20	防風林は、ただの風よけか
14 //	//
15 //	//

科目名	英語 I - 6			
担当者	武井 みち子 Michiko Takei			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

文法の理解に重点を置き、英語の基礎力を習得します。

■授業の進め方（履修条件等）

教員が文法解説後、学生が多数の練習問題を解き、英文を書いたり読んだりする力がつくように指導します。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、授業への積極的参加度50%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。
復習：文法事項の確認。

■教科書

「English Primer」 南雲堂

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	発音	発音とアクセントの学習
2	英語の基本文型	英語の語順の学習
3	Unit 1	be動詞
4	Unit 2	一般動詞（現在）
5	Unit 3	一般動詞（過去）
6	Unit 4	進行形
7	Unit 5	未来形
8	Unit 16	現在完了形
9	復習	英語の時（現在 過去 未来 現在完了）の復習
10	Unit 6	助動詞
11	Unit 7	名詞・冠詞
12	Unit 8	代名詞
13	Unit 9	前置詞
14	Unit 10	形容詞・副詞
15	総復習	復習および試験の対策

科目名	英語 II - 6			
担当者	武井 みち子 Michiko Takei			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

文法の理解に重点を置き、英語の基礎力を習得します。

■授業の進め方（履修条件等）

教員が文法解説後、学生が多数の練習問題を解き、英文を書いたり読んだりする力がつくように指導します。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、授業への積極的参加度50%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。
復習：文法事項の確認。

■教科書

「English Primer」 南雲堂

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit 11	比較
2	Unit 12	命令文・感嘆文
3	Unit 13	接続詞（I）
4	Unit 14	不定詞（I） 動名詞（I）
5	Unit 15	受動態
6	Unit 17	接続詞（II）
7	Unit 18	5つの基本文型
8	Unit 19	各種疑問文
9	Unit 20	不定詞（II）
10	Unit 21	Itの特別用法
11	分詞	現在分詞と過去分詞の学習
12	Unit 22	分詞・動名詞（II）
13	仮定法	仮定法の学習
14	Unit 23	関係代名詞
15	総復習	復習および試験の対策

科目名	英語 I - P			
担当者	内野 泰子 Yasuko Uchino			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

将来日常生活やビジネスにおいて英語で簡単なコミュニケーションができるような英語力の基盤を構築することをめざします。

■授業の進め方（履修条件等）

大学生3人の米国での生活をめぐるストーリーを中心に作成された教科書を用い、米国の生活に親しみながら基本文法の復習を行うとともに、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルアップもはかります。教科書の1課は大体2回の授業でカバーするようにし、随時、米国の生活や社会を知ることができるビデオやテレビ番組なども一緒に見て、英語への関心を高めていきたいと思ひます。

■成績評価方法・基準

平常点50%、期末試験50%で評価します。

■授業の予習・復習

授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。

■教科書

On Your Way! (Robert Hickling / Tatsuo Iso著、金星堂) ならびに配布プリント

■参考文献

必要に応じて授業内で指示します。

科目名	英語 II - P			
担当者	内野 泰子 Yasuko Uchino			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09~11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

将来日常生活やビジネスにおいて英語で簡単なコミュニケーションができるような英語力の基盤を構築することをめざします。

■授業の進め方（履修条件等）

大学生3人の米国での生活をめぐるストーリーを中心に作成された教科書を用い、米国の生活に親しみながら基本文法の復習を行うとともに、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルアップもはかります。教科書の1課は大体2回の授業でカバーするようにし、随時、米国の生活や社会を知ることができるビデオやテレビ番組なども一緒に見て、英語への関心を高めていきたいと思ひます。

■成績評価方法・基準

平常点50%、期末試験50%で評価します。

■授業の予習・復習

授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。

■教科書

On Your Way! (Robert Hickling / Tatsuo Iso著、金星堂) ならびに配布プリント

■参考文献

必要に応じて授業内で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit 1 It's Good to See You.	自己紹介
2	//	be動詞の現在形
3	Unit 2 When Do You Sleep?	日常生活についての質問
4	//	一般動詞の現在形
5	Unit 3 A Baked Potato, Please.	レストランでの注文
6	//	数えられる名詞と数えられない名詞
7	Unit 4 That's Me.	家族の紹介
8	//	代名詞・不定詞・動名詞
9	Unit 5 These Look Really Fresh.	食料品の買い物
10	//	形容詞・副詞
11	Unit 6 Don't Cut Your Finger!	料理
12	//	命令文
13	Unit 7 What's Everybody Doing?	履歴書
14	//	現在進行形・過去進行形
15	まとめ	前期学習事項の総まとめ

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit 8 I'm Free on Saturday Afternoon.	外出の誘い
2	//	場所や時を表す前置詞
3	Unit 9 Do They Have Any Smaller Ones?	衣服の買い物
4	//	形容詞の比較級・最上級
5	Unit 10 He Paid for Everything.	その日の出来事
6	//	過去形
7	Unit 11 I Haven't Been There for a Long Time.	これまでに行った所・したこと
8	//	現在完了形
9	Unit 12 Thrilled by Universal Studios.	テーマパーク訪問
10	//	受動態
11	Unit 13 I'll Be Fine.	体調不良
12	//	受動態
13	Unit 14 Hopes and Dreams	卒業後の進路
14	//	接続詞
15	Unit 15 I'm Going to Miss You.	帰国 (will be to be going to) / 総まとめ

科目名	英語 I R (b)		
担当者	伊東 隆子 <i>Takako Ito</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 1単位
	09~11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

高校までの英語の基礎を比較的平易な英語表現で学んでいく。毎時間の復習問題を通して英語の基礎を特に英文法事項を整理しながら日常的に使えるように定着していく。

■授業の進め方（履修条件等）

復習問題を解答して、正解と照らし合わせる。不正解の問題は暗記する。それから教科書の問題を解答していく。重要問題は暗記する。

■成績評価方法・基準

各定期試験は60%、出席点は20%、毎回提出のレポートは20%。

■授業の予習・復習

予習は重要です。復習は、毎回の試験と暗記で徹底的に頭脳に定着させる。

■教科書

First Primer (Revised Edition) 「基礎から学ぶ英語入門」

■参考文献

英文法詳説 吉川美夫著

■授業内容

授業項目	授業内容
1 第1回 オリエンテーション	授業内容を提示する。
2 基礎問題練習	英語構文の基礎を復習する。
3 unit-1	be動詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
4 unit-2	一般動詞（現在）の練習問題を通してその活用を学ぶ。
5 unit-3	一般動詞（過去）の練習問題を通してその活用を学ぶ。
6 unit-4	進行形の練習問題を通してその活用を学ぶ。
7 unit-5	未来形の練習問題を通してその活用を学ぶ。
8 unit-6	助動詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
9 unit-7	名詞・冠詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
10 unit-8	代名詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
11 unit-9	前置詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
12 unit-10	形容詞・副詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
13 unit-11	比較の練習問題を通してその活用を学ぶ。
14 前期授業のまとめ	前期授業で学習した中で重要英語構文をレポート用紙に整理して記入していく。
15 前期授業のまとめと 質疑応答	前期授業のまとめの中で質問とそれに対する応答。

科目名	英語 II R (b)		
担当者	伊東 隆子 <i>Takako Ito</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 1単位
	09~11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

高校までの英語の基礎を比較的平易な英語表現で学んでいく。毎時間の復習問題を通して英語の基礎を特に英文法事項を整理しながら日常的に使えるように定着していく。

■授業の進め方（履修条件等）

復習問題を解答して、正解と照らし合わせる。不正解の問題は暗記する。それから教科書の問題を解答していく。重要問題は暗記する。

■成績評価方法・基準

各定期試験は60%、出席点は20%、毎回提出のレポートは20%。

■授業の予習・復習

予習は重要です。復習は、毎回の試験と暗記で徹底的に頭脳に定着させる。

■教科書

First Primer (Revised Edition) 「基礎から学ぶ英語入門」

■参考文献

英文法詳説 吉川美夫著

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期授業の復習問題	前期の授業中での重要構文の復習問題。
2 unit-12	命令文と感嘆文の練習問題を通してその活用を学ぶ。
3 unit-13	接続詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
4 unit-14	不定詞と動名詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
5 unit-15	受動態の練習問題を通してその活用を学ぶ。
6 unit-16	現在完了の練習問題を通してその活用を学ぶ。
7 unit-17	接続詞（Ⅱ）と時制の一致の練習問題を通してその活用を学ぶ。
8 unit-18	5文型の練習問題を通してその活用を学ぶ。
9 unit-19	各種疑問文の練習問題を通してその活用を学ぶ。
10 unit-20	不定詞Ⅱの練習問題を通してその活用を学ぶ。
11 unit-21	Itの特別用法の練習問題を通してその活用を学ぶ。
12 unit-22	分詞・動名詞Ⅱの練習問題を通してその活用を学ぶ。
13 unit-23	関係代名詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
14 後期授業のまとめ	後期授業で学習した中で重要英語構文をレポート用紙に整理して記入していく。
15 後期授業のまとめと 質疑応答	後期授業のまとめの中で質問とそれに対する応答。

科目名	英語Ⅲ-1			
担当者	田 文揚 Fumiaki Den			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09~11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

これまでの学習の中で見落とししたり、理解が不十分な学習項目について英語力を補強する。より多様でしかもタイムリーな教材を用い、読む力・聴く力を中心に英語力の涵養をめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

Toeicテストの形式で編集されたテキストを主に用いて、各テーマ、トピックスごとの設問に答えることを通してlisteningやreadingの力を養う。また、定期的に課ごとに小テストを実施し習熟度を確認する。

■成績評価方法・基準

定期テスト（50%）・授業内小テスト（10%）・レポート及びその他の課題（40%）にて評価。

■授業の予習・復習

予習各チャプターの中の未知の単語やイディオム及び、不確かな文法事項を下調べする。復習既習事項を付属のCDを用いて反芻する。また、配布したプリント教材を再度一読する。

■教科書

"Essential Approach for the TOEIC TEST"成美堂
大須賀直子・塚野壽一

■参考文献

特になし

科目名	英語Ⅳ-1			
担当者	田 文揚 Fumiaki Den			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09~11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

これまでの英語学習を更に発展させ、より高度な文章の読解と聴解の力を身につける。またin put [読む・聴く]から更にout put [書く・話す]の力へと発展させて力を身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

TOEICの形式のテキストを主に用いて、各テーマ・トピックスごとの設問や課題に答えることを通してListeningやReading更にはWritingの力を養う。また、適宜タイムリーな投げ込み教材や今日的な話題を取り上げるなどして、より多様な表現に慣れさせる。小テストを実施して到達度を確認する。

■成績評価方法・基準

定期試験（80%）・授業内小テスト（10%）・レポート及びその他の課題（10%）により評価。

■授業の予習・復習

予習各チャプターの未知の単語やイディオムを調べ、不確かな文法事項について下調べしておく。復習付属のCDを用い復習する。

■教科書

"Essential Approach for the TOEIC TEST" 成美堂
大須賀直子・塚野壽一

■参考文献

特になし

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義に関するガイダンス。	講義の進め方と評価、受講要領の説明。次週実施予定のミニテストの概要説明。
2	ミニ（簡易）TOEIC TEST.	簡易TOEIC TESTを実施後解答及び解説をする。
3	UNIT 1	聴き取る技術：音の変化と音の脱落。
4	UNIT 2	聴き取る技術：ナチュラルスピード・名詞。
5	//	聴き取る技術：子音と母音の連結・発音記号。
6	//	聴き取る技術：紛らわしい音・冠詞・形容詞。
7	UNIT 3	読み取る技術：語義・品詞。
8	//	読み取る技術：分の構造・副詞。
9	UNIT 4	読み取る技術：パラグラフ・大意把握。
10	//	読み取る技術：主題の発見・比較。
11	UNIT 5	書き取る技術：作文の基礎ルール。
12	//	書き取る技術：作文の実際・動詞と時。
13	UNIT 6	書き取る技術：Eメールの作文表現。
14	//	書き取る技術：履歴書の作成。
15	Review & Consolidation [講義のまとめ]	これまでの学習の復習とまとめ。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義のガイダンス及び課題テスト	講義の進め方の説明及び課題のイディオムテストを実施する。
2	UNIT 7	ローンワードとカタカナ英語&帰化語。
3	UNIT 7 & 8	主語と動詞の呼応・時制の一致。
4	UNIT 8 & 9	トピックスからの情報選択・能動と受動。
5	UNIT 9 & 10	トピックスの場面をイメージする・分詞。
6	プリントによる投げ込み教材	ニュースや物語を読む。
7	UNIT 11	英文のショートストーリーの特徴を見つける・修飾句。
8	UNIT 11&12	飛ばし読みの技術と実際。
9	UNIT 12	Topic Sentence & Outline・接続詞。
10	UNIT 13&14	大意把握と要約・関係詞。
11	UNIT 14&15	速読の試み・前置詞と接続詞。
12	UNIT 15	速読の実際・不定詞と動名詞。
13	プリントによる投げ込み教材	ファニーストーリーを楽しむ・条件文と仮定法。
14	論説文を読む・比較表現。	異文化理解に関する論説文を読む。
15	Review & Consolidation	これまでの講義の総復習とまとめ。

科目名	英語Ⅲ-2			
担当者	伊東 隆子 Takako Ito			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09~11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

英語の基礎力を強化しつつ、わかりやすくTOEICの学習を促す。CD-ROM教材を組み合わせて学習内容を繰り返し復習できさらに発展させていく。

■授業の進め方（履修条件等）

ListeningとReading Comprehensionの問題練習でTOEICの問題に慣れるように反復練習と重要構文の暗記を促す。

■成績評価方法・基準

定期試験60%、出席点20%、レポート点20%。

■授業の予習・復習

予習でわからない英単語は調べておく。授業中に不明な点は次の授業で理解できるようによく復習する。

■教科書

The Next Stage to the TOEIC Test

■参考文献

TOEIC Test の実践問題集

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容の提示。
2	unit-1	Warm up~PartIVまでのリスニング問題の解答
3	//	PartV、VIのリーディング問題解答
4	unit-2	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
5	//	PartV、VIのリーディング問題解答
6	unit-3	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
7	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
8	unit-4	Warm up~ PartIVまでのリスニング問題解答
9	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
10	unit-5	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
11	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
12	unit-6	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
13	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
14	前期授業のまとめ	前期授業の重要英語構文の整理と暗記
15	前期授業のまとめと質疑応答	前期の授業中での重要構文の暗記とそれらに対する質疑応答

科目名	英語Ⅳ-2			
担当者	伊東 隆子 Takako Ito			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09~11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

英語の基礎力を強化しつつ、わかりやすくTOEICの学習を促す。CD-ROM教材を組み合わせて学習内容を繰り返し復習できさらに発展させていく。

■授業の進め方（履修条件等）

ListeningとReading Comprehensionの問題練習でTOEICの問題に慣れるように反復練習と重要構文の暗記を促す。

■成績評価方法・基準

定期試験60%、出席点20%、レポート点20%。

■授業の予習・復習

予習でわからない英単語は調べておく。授業中に不明な点は次の授業で理解できるようによく復習する。

■教科書

The Next Stage to the TOEIC Test

■参考文献

TOEIC Test の実践問題集

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	unit-7	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
2	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
3	unit-8	Warm Up~PartIVまでのリスニング問題解答
4	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
5	unit-9	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
6	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
7	unit-10	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
8	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
9	unit-11	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
10	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
11	unit-12	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
12	//	PartV、VIまでのリーディング問題解答
13	unit-13	Warm up~PartIVまでのリスニング問題解答
14	後期授業のまとめ	後期授業の重要英語構文の整理と暗記
15	後期授業のまとめと質疑応答	後期の授業中での重要構文の暗記とそれらに対する質疑応答

科目名	英語Ⅲ－5			
担当者	武井 みち子 <i>Michiko Takei</i>			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

様々なテーマに関する英文を効率的に読む英語力を養うとともに、英文を聴く力の向上を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

文法解説後、演習で文法事項の定着を図ります。また、日常生活に密着したテーマの英文を読み、聴き、読解力と聴く力を磨きます。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、授業への積極的参加度50%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。
復習：文法の確認。

■教科書

「Power Up English <Basic>」 南雲堂

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	発音	発音とアクセントの学習
2	英語の基本文型	英語の語順の学習
3	Unit 1	Personal Correspondence (1)
4	Unit 2	〃 (2)
5	Unit 3	Biography (1)
6	Unit 4	〃 (2)
7	Unit 5	Events & Festivals
8	関係代名詞	関係代名詞の学習
9	Unit 6	Directions & Locations (1)
10	Unit 7	〃 (2)
11	Unit 8	〃 (3)
12	Unit 9	Occupations (1)
13	Unit 10	〃 (2)
14	接続詞	接続詞の学習
15	総復習	復習および試験の対策

科目名	英語Ⅳ－5			
担当者	武井 みち子 <i>Michiko Takei</i>			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

様々なテーマに関する英文を効率的に読む力を養うとともに、英文を聴く力の向上を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

文法解説後、演習で文法事項の定着を図ります。また、日常生活に密着したテーマの英文を読み、聴き、読解力と聴く力を磨きます。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、授業への積極的参加度50%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：分からない単語を調べて授業に参加してください。
復習：文法事項の確認。

■教科書

「Power Up English<Basic>」 南雲堂

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit 11	Instructions
2	Unit 12	Health & Physical Conditions
3	Unit 13	Service Requests
4	Unit 14	Special Orders
5	Unit 15	Money
6	名詞	名詞の学習
7	Unit 16	Public Signs
8	Unit 17	Sports
9	受動態	受動態の学習
10	Unit 18	History
11	Unit 19	Sightseeing
12	Unit 20	Science
13	仮定法	仮定法の学習
14	模擬試験	模擬試験
15	総復習	復習および試験の対策

科目名	英語Ⅲ－6			
担当者	伊東 隆子 <i>Takako Ito</i>			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

高校までの英語の基礎を比較的平易な英語表現で学んでいく。毎時間の復習問題を通して英語の基礎を特に英文法事項を整理しながら日常的に使えるように定着していく。

■授業の進め方（履修条件等）

復習問題を解答して、正解と照らし合わせる。不正解の問題は暗記する。それから教科書の問題を解答していく。重要問題は暗記する。

■成績評価方法・基準

各定期試験は60%、出席点は20%、毎回提出のレポートは20%。

■授業の予習・復習

予習は重要です。復習は、毎回の試験と暗記で徹底的に頭脳に定着させる。

■教科書

First Primer (Revised Edition) 「基礎から学ぶ英語入門」

■参考文献

英文法詳説 吉川美夫著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	第1回 オリエンテーション	授業内容を提示する。
2	基礎問題練習	英語構文の基礎を復習する。
3	unit-1	be動詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
4	unit-2	一般動詞（現在）の練習問題を通してその活用を学ぶ。
5	unit-3	一般動詞（過去）の練習問題を通してその活用を学ぶ。
6	unit-4	進行形の練習問題を通してその活用を学ぶ。
7	unit-5	未来形の練習問題を通してその活用を学ぶ。
8	unit-6	助動詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
9	unit-7	名詞・冠詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
10	unit-8	代名詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
11	unit-9	前置詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
12	unit-10	形容詞・副詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
13	unit-11	比較の練習問題を通してその活用を学ぶ。
14	前期授業のまとめ	前期授業で学習した中で重要英語構文をレポート用紙に整理して記入していく。
15	前期授業のまとめと質疑応答	前期授業のまとめの中で質問とそれに対する応答。

科目名	英語Ⅳ－6			
担当者	伊東 隆子 <i>Takako Ito</i>			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

高校までの英語の基礎を比較的平易な英語表現で学んでいく。毎時間の復習問題を通して英語の基礎を特に英文法事項を整理しながら日常的に使えるように定着していく。

■授業の進め方（履修条件等）

復習問題を解答して、正解と照らし合わせる。不正解の問題は暗記する。それから教科書の問題を解答していく。重要問題は暗記する。

■成績評価方法・基準

各定期試験は60%、出席点は20%、毎回提出のレポートは20%。

■授業の予習・復習

予習は重要です。復習は、毎回の試験と暗記で徹底的に頭脳に定着させる。

■教科書

First Primer (Revised Edition) 「基礎から学ぶ英語入門」

■参考文献

英文法詳説 吉川美夫著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	前期授業の復習問題	前期の授業中での重要構文の復習問題。
2	unit-12	命令文と感嘆文の練習問題を通してその活用を学ぶ。
3	unit-13	接続詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
4	unit-14	不定詞と動名詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
5	unit-15	受動態の練習問題を通してその活用を学ぶ。
6	unit-16	現在完了の練習問題を通してその活用を学ぶ。
7	unit-17	接続詞（Ⅱ）と時制の一致の練習問題を通してその活用を学ぶ。
8	unit-18	5文型の練習問題を通してその活用を学ぶ。
9	unit-19	各種疑問文の練習問題を通してその活用を学ぶ。
10	unit-20	不定詞Ⅱの練習問題を通してその活用を学ぶ。
11	unit-21	Itの特別用法の練習問題を通してその活用を学ぶ。
12	unit-22	分詞・動名詞Ⅱの練習問題を通してその活用を学ぶ。
13	unit-23	関係代名詞の練習問題を通してその活用を学ぶ。
14	後期授業のまとめ	後期授業で学習した中で重要英語構文をレポート用紙に整理して記入していく。
15	後期授業のまとめと質疑応答	後期授業のまとめの中で質問とそれに対する応答。

科目名	英語ⅢR (b)			
担当者	小野 ゆき子 Yukiko Ono			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

英語を理解するうえでの基本英文法を習得し、英語に対する苦手意識をなくすこと。

■授業の進め方（履修条件等）

高校までに習得した文法知識を整理し、定着、応用できるように指導していく。3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は、欠席1回とみなす。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%） 授業参加度（50%）

■授業の予習・復習

予習：必ず次週に進む範囲を予習しておくこと。
復習：その日に習ったことの復習を怠らないこと。

■教科書

『速習！ 基礎から身につく英文法』 英潮社フェニックス

■参考文献

授業中に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit 2	文型と動詞
2	//	//
3	//	//
4	Unit 3	助動詞
5	//	//
6	//	//
7	Unit 8	比較
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	Unit 11	関係詞
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	総復習	総復習

科目名	英語ⅣR (b)			
担当者	小野 ゆき子 Yukiko Ono			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

英語を理解するうえでの基本英文法を習得し、英語に対する苦手意識をなくすこと。

■授業の進め方（履修条件等）

高校までに習得した文法知識を整理し、定着、応用できるように指導していく。3分の1以上の欠席は認めない。遅刻3回は、欠席1回とみなす。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%） 授業参加度（50%）

■授業の予習・復習

予習：必ず次週に進む範囲を予習しておくこと。
復習：その日に習ったことの復習を怠らないこと。

■教科書

『速習！ 基礎から身につく英文法』 英潮社フェニックス

■参考文献

授業中に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Unit 9	不定詞
2	//	//
3	//	//
4	Unit 10	分詞・動名詞
5	//	//
6	//	//
7	Unit 5	受動態・能動態
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	Unit 6	仮定法
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	総復習	総復習

科目名	フランス語Ⅰ－A			
担当者	寺尾 いづみ <i>Izumi Terao</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

自然な会話を通して、フランス語の最初歩の文法を学ぶ。フランス語特有の文法用語や、発音・つづりに慣れ、自己紹介や好きなものについて話すことができるようにする。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書の会話文・例文の音読と、簡単なやりとりの繰り返しにより、文法の体得を目指す。授業の最後に毎回小テストを行い、学習内容の定着度を確認する。話す訓練が中心となるので、学生の積極的な参加が不可欠である。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（30%）、和訳レポート3回（20%）、定期試験（50%）の合計点で評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書のCDを聞きながら会話文・例文の意味の見当をつけ、わからない単語を辞書で調べる。

復習：教科書のCDを聞きながら、会話文・例文を音読する。

■教科書

『ヌーヴォー・ユピー！』黒田恵梨子、小満佳代子、平山弓月著、朝日出版社、2010年

■参考文献

仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書も可）

科目名	フランス語Ⅱ－A			
担当者	寺尾 いづみ <i>Izumi Terao</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

前期と同様、日常生活に必要な表現を通して、基礎的な文法を学ぶ。聞く・話す・読む・書く能力を、バランスよく身につけることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

前期と同じだが、書く練習を増やし、正しいつづりを覚えるようにする。前期にフランス語ⅠAを履修した学生を対象とする。

■成績評価方法・基準

フランス語ⅠAと同じ。

■授業の予習・復習

フランス語ⅠAと同じ。

■教科書

フランス語ⅠAと同じ。

■参考文献

フランス語ⅠAと同じ。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	0課	アルファベ、挨拶
2	1課：受付にて	男性名詞と女性名詞、単数と複数、つづりと発音（1）
3	1課：受付にて	不定冠詞、定冠詞、つづりと発音（2）
4	1課：受付にて	名詞の性と数、数字（1～10）、つづりと発音（3）
5	1課：受付にて	提示表現、数字（11～20）、つづりと発音（4）
6	2課：廊下で	不規則動詞être、国籍・職業の言い方
7	2課：廊下で	不規則動詞avoir、年齢の言い方、数字（21～99）
8	2課：廊下で	否定文
9	2課：廊下で	部分冠詞
10	2課：廊下で	自己紹介の表現
11	3課：キッチンで	形容詞Ⅰ：性数の変化と語順
12	3課：キッチンで	形容詞Ⅱ：特殊な女性形・複数形
13	3課：キッチンで	第1群規則動詞
14	3課：キッチンで	感情を表す表現
15	まとめ	1～3課の復習

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	4課：誘いの電話	疑問文
2	4課：誘いの電話	否定のde、不規則動詞faire
3	4課：誘いの電話	否定疑問文、不規則動詞prendre
4	4課：誘いの電話	第2群規則動詞
5	4課：誘いの電話	友人を誘う表現
6	5課：バス停へ向かう道で	命令法
7	5課：バス停へ向かう道で	不規則動詞aller、近接未来
8	5課：バス停へ向かう道で	不規則動詞venir、近接過去
9	5課：バス停へ向かう道で	道順をたずねる・教える表現
10	6課：店の前で	指示形容詞、不規則動詞pouvoir
11	6課：店の前で	疑問形容詞、不規則動詞vouloir
12	6課：店の前で	所有形容詞、不規則動詞devoir
13	6課：店の前で	非人称の表現（1）
14	6課：店の前で	非人称の表現（2）
15	まとめ	4～6課の復習

科目名	フランス語Ⅰ－B		
担当者	浅野 信二 <i>Shinji Asano</i>		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 1単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

はじめてフランス語を学ぶ人が、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。同時にフランス文化について基本的な知識を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

AV教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験50％・平常点（授業中に行う小テストを含む）50％

■授業の予習・復習

短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。

■教科書

藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン』（白水社）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方の説明・アルファベットの発音
2 Leçon 1 (1)	国籍を言う（主語人称代名詞）
3 Leçon 1 (2)	国籍を言う（国籍を表す名詞）
4 Leçon 1 (3)	国籍を言う（êtreと-er動詞）
5 Leçon 2 (1)	名前・職業を言う（職業を表す名詞）
6 Leçon 2 (2)	名前・職業を言う（形容詞の性・数の一致）
7 Leçon 2 (3)	名前・職業を言う（名前の言い方）
8 発音と綴りのまとめ	フランス語の発音と綴りの読み方
9 Leçon 3 (1)	持ち物を尋ねる（名詞と不定詞）
10 Leçon 3 (2)	持ち物を尋ねる（指示代名詞）
11 Leçon 3 (3)	持ち物を尋ねる（形容詞の位置・avoir）
12 Leçon 4 (1)	趣味を語る（定冠詞）
13 Leçon 4 (2)	趣味を語る（疑問文）
14 Leçon 4 (3)	趣味を語る（疑問形容詞）
15 Exercices 1	Leçon 1～Leçon 4のまとめ・フランスの文化

科目名	フランス語Ⅱ－B		
担当者	浅野 信二 <i>Shinji Asano</i>		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 1単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

前期に続いて、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。同時にフランス文化について基本的な知識を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

AV教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験50％・平常点（授業中に行う小テストを含む）50％

■授業の予習・復習

短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。

■教科書

藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン』（白水社）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方の説明・前期の復習
2 Leçon 5 (1)	誰か尋ねる（否定文）
3 Leçon 5 (2)	誰か尋ねる（関係代名詞qui）
4 Leçon 5 (3)	誰か尋ねる（il y a）
5 Leçon 6 (1)	したいことを尋ねる（前置詞と定冠詞の縮約）
6 Leçon 6 (2)	したいことを尋ねる（指示形容詞）
7 Leçon 6 (3)	したいことを尋ねる（否定疑問文の応答）
8 動詞の活用のまとめ	フランス語の動詞について
9 Leçon 7 (1)	住んでいるところを言う（人称代名詞の強勢形）
10 Leçon 7 (2)	住んでいるところを言う（所有形容詞）
11 Leçon 7 (3)	住んでいるところを言う（connaître）
12 Leçon 8 (1)	何をしているか尋ねる（疑問代名詞que）
13 Leçon 8 (2)	何をしているか尋ねる（場所を表す前置詞）
14 Leçon 8 (3)	何をしているか尋ねる（faire）
15 Exercices 2	Leçon 5～Leçon 8のまとめ・フランスの文化

科目名	フランス語Ⅲ－A			
担当者	寺尾 いづみ <i>Izumi Terao</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

昨年度に引き続き、パリで暮らす日本人留学生の会話を通して、観光などに必要な表現を学ぶ。仏検5級相当の文法事項の習得を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

文法のポイントを含む簡単なやりとりを繰り返し練習する。必要に応じて補足プリントを使い、重要事項の定着をはかる。原則として、昨年度フランス語ⅠA・ⅡAを履修した学生を対象とする。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（30%）、和訳レポート3回（20%）、定期試験（50%）の合計点で評価する。

■授業の予習・復習

予習：学習中の課の会話文を、教科書添付のCDを聞きながら音読する。わからない単語を辞書で調べる。

復習：学習した文法事項を使って、自分が実際に言いそうな文を作ってみる。

■教科書

『ヌーヴォー・ユビー！』黒田恵梨子、小溝佳代子、平山弓月著、朝日出版社、2010年（1年次で前半を使用）。

■参考文献

仏和辞典（書名は指定しない。電子辞書も可）

科目名	フランス語Ⅳ－A			
担当者	寺尾 いづみ <i>Izumi Terao</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

前期に続き、買い物・ストライキ・パーティーなどの場面でのやりとりを通して、仏検4級に相当する文法事項を学ぶ。フランス語特有の事象のとらえ方にも触れる。

■授業の進め方（履修条件等）

前期と同じ。前期にフランス語ⅢAを履修した学生を対象とする。

■成績評価方法・基準

フランス語ⅢAと同じ。

■授業の予習・復習

フランス語ⅢAと同じ。

■教科書

フランス語ⅢAと同じ。

■参考文献

フランス語ⅢAと同じ。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	1年次の学習内容の補足と復習
2 7課：クロエの部屋で	直接補語人称代名詞
3 //	間接補語人称代名詞
4 //	強勢形
5 //	疑問代名詞
6 //	疑問副詞
7 8課：ヴェルサイユ宮殿で	複合過去（1）
8 //	//（2）
9 //	中性代名詞
10 //	日付の表現、数字（100～2000）
11 9課：レストランで	関係代名詞
12 //	代名動詞（現在形）
13 //	代名動詞（複合過去形）
14 //	レストランやカフェで注文する
15 まとめ	7～9課の復習

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	前期の学習内容の補足と復習
2 10課：蚤の市にて	比較級
3 //	最上級
4 //	強調構文
5 //	直説法半過去
6 //	半過去と複合過去の使い分け
7 11課：ストライキ	直説法単純未来
8 //	現在分詞
9 //	ジェロンディフ
10 //	指示代名詞を使った表現
11 12課：おおみそかの夜	条件法現在（1）
12 //	//（2）
13 //	接続法現在
14 //	希望の表現
15 まとめ	10～12課の復習

科目名	フランス語Ⅲ－B		
担当者	浅野 信二 <i>Shinji Asano</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 1単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

一年次に引き続き、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、フランス語を「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。また、フランスの文化面についても毎回紹介する。

■授業の進め方（履修条件等）

AV教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験50％・平常点（授業中に行う小テストを含む）50％

■授業の予習・復習

短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。

■教科書

藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン』（白水社）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方の説明・一年次の復習
2 Leçon9（1）	家族を語る（否定文における冠詞の変形）
3 Leçon9（2）	//（女性形容詞の特殊な形）
4 Leçon10（1）	年齢を言う（数字）
5 Leçon10（2）	//（疑問副詞）
6 Leçon11（1）	時刻を言う（時刻の言い方）
7 Leçon11（2）	//（時の前置詞）
8 Exercices 3	Leçon9～Leçon11のまとめ・フランスの文化
9 Leçon12（1）	紹介する（補語人称代名詞）
10 Leçon12（2）	//（指示代名詞ça）
11 Leçon12（3）	//（attendre）
12 Leçon13（1）	日常生活の表現（代名動詞）
13 Leçon13（2）	//（近接未来）
14 Leçon13（3）	//（近接過去）
15 前期のまとめ	前期のまとめ・フランスの文化

科目名	フランス語Ⅳ－B		
担当者	浅野 信二 <i>Shinji Asano</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 1単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

前期に続いて、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、フランス語を「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。また、フランスの文化面についても毎回紹介する。

■授業の進め方（履修条件等）

AV教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験50％・平常点（授業中に行う小テストを含む）50％

■授業の予習・復習

短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。

■教科書

藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン』（白水社）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方の説明・前期の復習
2 Leçon14（1）	量を表す（部分冠詞）
3 Leçon14（2）	//（中性代名詞en）
4 Leçon15（1）	天候を言う（命令形）
5 Leçon15（2）	//（中性代名詞y）
6 Leçon15（3）	//（天候の表現）
7 Exercices 4	Leçon12～Leçon15のまとめ・フランスの文化
8 Leçon16（1）	比較する（比較級）
9 Leçon16（2）	//（指示代名詞celui,celle）
10 Leçon17（1）	過去のことを語る（avoirで作る複合過去形）
11 Leçon17（2）	//（êtreで作る複合過去形）
12 Leçon17（3）	//（複合過去形の用法）
13 Leçon18（1）	未来のことを語る（単純未来形）
14 Leçon18（2）	//（単純未来形の用法）
15 Exercices 5	Leçon16～Leçon18のまとめ・フランスの文化

科目名	ドイツ語Ⅰ－A			
担当者	高島 明 Akira Takashima			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

毎回意欲をもって学べるよう授業を進め、ドイツ語で挨拶ができるような、そのような授業内容にする。ドイツ語の単語が読めるようになり、ドイツ語で挨拶ができるようになること。

■授業の進め方（履修条件等）

文法の説明の後、その文法に関する練習問題を解くことにする。

■成績評価方法・基準

定期試験（60％）・平常点（授業への貢献度、授業中小テストなど）（40％）2／3以上、授業に出席すること。

■授業の予習・復習

予習：次週に行く箇所を言うので、前もってテキストを読んでおくこと。

復習：習った箇所はもう一度読み返すこと。

■教科書

高島明著「新しい太郎と花子のドイツ語教室」

■参考文献

良い辞典を買っておくこと。

科目名	ドイツ語Ⅱ－A			
担当者	高島 明 Akira Takashima			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

ドイツ語に慣れ、ドイツ語で簡単な自己紹介ができるようになること。

■授業の進め方（履修条件等）

文法の説明の後、その文法に関する練習問題を解くことにする。

■成績評価方法・基準

定期試験（60％）・平常点（授業への貢献度、授業中小テストなど）（40％）2／3以上、授業に出席すること。

■授業の予習・復習

予習：次週に行く箇所を言うので、前もってテキストを読んでおくこと。

復習：習った箇所はもう一読み返すこと。

■教科書

高島明著「新しい太郎と花子のドイツ語教室」

■参考文献

良い辞典を買っておくこと。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ドイツ語圏：ドイツ・オーストリア・スイス
2	アルファベットと	アルファベットの読み方
3	発音練習	母音と子音の発音
4	第1課	太郎と花子はドイツ語を学ぶ
5	動詞の現在人称変化 (1)	練習問題（1）lernenの現在人称変化
6		練習問題（2）seinの現在人称変化
7	第2課	大学食堂で
8	動詞の現在人称変化 (2)・命令法	練習問題（1）habenの現在人称変化
9		練習問題（2）疑問代名詞
10	第3課 名詞と格変化	太郎と花子にはドイツ人の友人がいる
11		練習問題（1）定冠詞の格変化
12		練習問題（2）不定冠詞の格変化
13		復習（1）動詞の現在人称変化
14	まとめ	復習（2）冠詞の格変化
15		復習（3）小テスト

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	第4課 不定冠詞類と定冠詞 類・人称代名詞	太郎と花子はヘルムートについて語る
2		練習問題（1）不定冠詞類
3		練習問題（2）定冠詞類
4		練習問題（3）人称代名詞
5	第5課 前置詞	太郎はヘルムートの部屋のじゅうたんの上に座っている
6		練習問題（1）2，3，4格支配の前置詞
7		練習問題（2）3格と4格支配の前置詞
8		練習問題（3）前置詞の融合形
9	第6課 形容詞の変化・序数	太郎は花子にヘルムートのことに関して尋ねる
10		練習問題（1）形容詞の変化
11		練習問題（2）比較級と最高級
12		練習問題（3）序数
13		復習（1）不定・定冠詞類
14	まとめ	復習（2）形容詞の変化
15		復習（3）小テスト

科目名	ドイツ語Ⅰ－Ｂ			
担当者	志村 哲也 <i>Tetsuya Shimura</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

ドイツ語の基礎の基礎を身に付ける。正確な読み書きの練習から始め、最重要文法項目に習熟する。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント（小テスト）が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。

■成績評価方法・基準

平常点（50%）および定期試験（50%）の合計で評価する。

■授業の予習・復習

予習：自発的にテキストを読んでおくこと。

復習：Web上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。

■教科書

「ドイツ語ベーシック・コース」三修社。大藪正彦ほか。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	受講の心得
2 序	アルファベット、つづりと発音
3 //	あいさつ、数字
4 Lektion 1	動詞の人称変化
5 //	練習問題
6 Lektion 2	名詞の性
7 //	練習問題
8 応用問題	序 - Lektion 2 復習
9 Lektion 3	名詞の格変化
10 //	練習問題
11 Lektion 4	名詞の複数形
12 //	練習問題
13 応用問題	Lektion 3 - 4 復習
14 プレテスト	テスト形式による序 - Lektion 4 復習
15 まとめ	序 - Lektion 4 総復習

科目名	ドイツ語Ⅱ－Ｂ			
担当者	志村 哲也 <i>Tetsuya Shimura</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

ドイツ語Ⅰに引き続きドイツ語の基礎を身に付ける。ドイツ語検定4級レベルの習得を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント（小テスト）が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。

■成績評価方法・基準

平常点（50%）および定期試験（50%）の合計で評価する。

■授業の予習・復習

予習：自発的にテキストを読んでおくこと。

復習：Web上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。

■教科書

「ドイツ語ベーシック・コース」三修社。大藪正彦ほか。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	受講の心得
2 ドイツ語Ⅰ復習	序 - Lektion 4
3 Lektion 5	前置詞
4 //	練習問題
5 Lektion 6	冠詞類
6 //	練習問題
7 Lektion 7	分離動詞
8 //	練習問題
9 Lektion 8	再帰動詞
10 //	練習問題
11 Lektion 9	話法の助動詞
12 //	練習問題
13 応用問題	Lektion 5 - 9 復習
14 プレテスト	テスト形式によるLektion 5 - 9 復習
15 まとめ	Lektion 5 - 9 総復習

科目名	ドイツ語Ⅲ－A			
担当者	高島 明 Akira Takashima			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

ドイツ語圏であるドイツ・オーストリア・スイスに行った時に、簡単な日常会話ができるような、そのような授業内容にする。ドイツ語で挨拶ができ、簡単な会話ができるようになること。

■授業の進め方（履修条件等）

文法の説明の後、その文法に関する練習問題を解くことにする。

■成績評価方法・基準

定期試験（60％）・平常点（授業への貢献度、授業中小テストなど）（40％）2／3以上、授業に出席すること。

■授業の予習・復習

予習：次週に行く箇所を言うので、前もってテキストを読んでおくこと。

復習：習った箇所はもう一度読み返すこと。

■教科書

高島明著「新しい太郎と花子のドイツ語教室」

■参考文献

良い辞典を買っておくこと。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	留学生係で（1）基数
2	留学生係で（2）挨拶の仕方
3	ドイツ語Ⅰの復習 （聞き取り練習）
4	やっと部屋を見つけた（1） 電話のかけ方
5	やっと部屋を見つけた（2） 住所の書き方
6	やっと部屋を見つけた（3） 天候
7	第7課 複合動詞・再帰動
8	詞・非人称のes
9	練習問題（1）複合動詞 練習問題（2）再帰動詞 練習問題（3）非人称のes
10	太郎と花子はカフェテリアで談笑する
11	第8課 話法の助動詞
12	練習問題（1）動詞の現在人称変化 練習問題（2）未来形 練習問題（3）接続詞
13	練習問題（3）接続詞
14	まとめ 復習（1）再帰代名詞
15	復習（2）小テスト

科目名	ドイツ語Ⅳ－A			
担当者	高島 明 Akira Takashima			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

ドイツ語圏であるドイツ・オーストリア・スイスの文化や経済などの理解を深め、辞典を使いながら簡単な文章が読めるようになること。

■授業の進め方（履修条件等）

文法の説明の後、その文法に関する練習問題を解くことにする。

■成績評価方法・基準

定期試験（60％）・平常点（授業への貢献度、授業中小テストなど）（40％）2／3以上、授業に出席すること。

■授業の予習・復習

予習：次週に行く箇所を言うので、前もってテキストを読んでおくこと。

復習：習った箇所はもう一度読み返すこと。

■教科書

高島明著「新しい太郎と花子のドイツ語教室」

■参考文献

良い辞典を買っておくこと。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	太郎と花子はヘルムートを訪ねる
2	第9課 動詞の3基本形と過
3	去時称
4	練習問題（1）規則動詞の過去形 練習問題（2）不規則動詞の過去形 練習問題（3）seinとhabenの過去形
5	ヘルムートは日本の生活に慣れた
6	第10課 完了形・受動形
7	練習問題（1）完了形 練習問題（2）sein 支配の動詞 練習問題（3）受動態
8	練習問題（3）受動態
9	第11課 zuを伴う不定詞・
10	現在分詞と過去分詞
11	練習問題（1）現在分詞と過去分詞 練習問題（2）関係代名詞
12	第12課 接続法
13	太郎は花子の所にいる 練習問題 接続法
14	復習（1）動詞の三基本形
15	復習（2）小テスト

科目名	ドイツ語Ⅲ－B			
担当者	志村 哲也 <i>Tetsuya Shimura</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

長文読解を中心としたテキストを用い、初級文法の復習を交えつつ徐々に高度なドイツ語の習得を目指す。また独和辞典を使いこなせるようにする。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント（小テスト）が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。ドイツ語Ⅰ・Ⅱ不合格者は原則として受講不可。

■成績評価方法・基準

平常点（50%）および定期試験（50%）の合計で評価する。

■授業の予習・復習

予習：長文読解は宿題とし、授業で答え合わせをする。
復習：Web上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。

■教科書

改訂版「楽しく学ぼうドイツとドイツ語」三修社。橋本政義ほか。

■参考文献

独和辞典必須（初回授業で紹介する）。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	受講の心得
2	Lektion 1	動詞の現在人称変化（1）、重要な動詞（1）、語順（1）
3	//	長文読解
4	Lektion 2	名詞の性と冠詞、冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形
5	//	長文読解
6	Lektion 3	動詞の現在人称変化（2）、重要な動詞（2）、命令法、分離動詞
7	//	長文読解
8	Lektion 4	前置詞、人称代名詞
9	//	長文読解
10	Lektion 5	冠詞類、形容詞
11	//	長文読解
12	Lektion 6	話法の助動詞、未来
13	//	長文読解
14	//	長文読解（続き）
15	まとめ	Lektion 1-6 総復習

科目名	ドイツ語Ⅳ－B			
担当者	志村 哲也 <i>Tetsuya Shimura</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

ドイツ語Ⅲに引き続き中級独文法に習熟しつつ、更に高度な長文読解力を身に付ける。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストをレッスン毎に読み進める。毎回配布する授業プリント（小テスト）が出席調査票・受講証明書となるので、必ず授業時間内に提出し、返却後も保管すること。ドイツ語Ⅰ・Ⅱ不合格者は原則として受講不可。

■成績評価方法・基準

平常点（50%）および定期試験（50%）の合計で評価する。

■授業の予習・復習

予習：長文読解は宿題とし、授業で答え合わせをする。
復習：Web上から授業プリントをダウンロードし反復練習すること。

■教科書

改訂版「楽しく学ぼうドイツとドイツ語」三修社。
橋本政義ほか。

■参考文献

独和辞典必須（初回授業で紹介する）。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	受講の心得
2	ドイツ語Ⅲ復習	Lektion 1-6
3	Lektion 7	語順（2）—副文、zu不定詞、esの用法
4	//	長文読解
5	Lektion 8	再帰動詞、形容詞の比較、比較の用法
6	//	長文読解
7	Lektion 9	動詞の三基本形、過去人称変化、現在完了
8	//	長文読解
9	Lektion 10	能動文から受動文へ、受動態の時称、自動詞の受動、状態受動
10	//	長文読解
11	//	長文読解（続き）
12	Lektion 11	定関係代名詞、不定関係代名詞
13	//	長文読解
14	//	長文読解（続き）
15	まとめ	Lektion 7-11総復習

科目名	中国語Ⅰ－A			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09～11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。挨拶言葉等で中国語の発音に慣れる。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（10％）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『着実にまなぶ中国語 入門編』 朝日出版社

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社

科目名	中国語Ⅱ－A			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09～11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

前期の「中国語Ⅰ」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。中国語Ⅰの単位を取得していること。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（10％）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『着実にまなぶ中国語 入門編』 朝日出版社

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 中国語とは	中国語という言葉の概要
2 発音Ⅰ	声調 四声の練習
3 発音Ⅱ	母音 単母音と復母音の練習
4 発音Ⅲ	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習
5 発音Ⅳ	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習
6 第1課	基本語順（日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて）
7 //	疑問詞疑問文
8 第2課	諾否疑問文（疑問詞疑問文との違いを意識して）
9 //	構造助詞「的」と連体修飾語
10 第3課	指示代名詞
11 //	量詞（助数詞）量詞と指示代名詞の関係
12 第4課	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係
13 //	数詞 ものの数え方
14 第5課	時間名詞 月日の表現
15 //	判断動詞「是」の省略文

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	中国語Ⅰの復習
2 第6課	動詞述語文
3 //	動詞「有」の用法
4 第7課	時刻の表現
5 //	時間名詞の位置
6 第8課	連動文
7 //	反復疑問文
8 小テスト	半期分のテスト及び解説
9 第9課	構造助詞を用いない連体修飾
10 //	副詞の用法
11 第10課	形容詞述語文
12 //	修飾語としての形容詞
13 第11課	100以上の数詞
14 //	中国の通貨
15 小テスト	半期分のテスト及び解説

科目名	中国語Ⅰ－B			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09～11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。挨拶言葉等で中国語の発音に慣れる。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（10％）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『着実にまなぶ中国語 入門編』 朝日出版社

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 中国語とは	中国語という言葉の概要
2 発音Ⅰ	声調 四声の練習
3 発音Ⅱ	母音 単母音と復母音の練習
4 発音Ⅲ	鼻母音及び子音 鼻母音と唇音、舌尖音、舌根音の練習
5 発音Ⅳ	子音 舌面音、そり舌音、舌歯音の練習
6 第1課	基本語順（日本語の膠着性と中国語の独立性の違いを踏まえて）
7 //	疑問詞疑問文
8 第2課	諾否疑問文（疑問詞疑問文との違いを意識して）
9 //	構造助詞「的」と連体修飾語
10 第3課	指示代名詞
11 //	量詞（助数詞）量詞と指示代名詞の関係
12 第4課	この、その、あの、どのの表現 指示代名詞と名詞の関係
13 //	数詞 ものの数え方
14 第5課	時間名詞 月日の表現
15 //	判断動詞「是」の省略文

科目名	中国語Ⅱ－B			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	1年	単位	1単位
	09～11年度入学	1年		

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

前期の「中国語Ⅰ」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。中国語Ⅰの単位を取得していること。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（10％）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『着実にまなぶ中国語 入門編』 朝日出版社

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	中国語Ⅰの復習
2 第6課	動詞述語文
3 //	動詞「有」の用法
4 第7課	時刻の表現
5 //	時間名詞の位置
6 第8課	連動文
7 //	反復疑問文
8 小テスト	半期分のテスト及び解説
9 第9課	構造助詞を用いない連体修飾
10 //	副詞の用法
11 第10課	形容詞述語文
12 //	修飾語としての形容詞
13 第11課	100以上の数詞
14 //	中国の通貨
15 小テスト	半期分のテスト及び解説

科目名	中国語ⅠR (a)			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。挨拶言葉等で中国語の発音に慣れる。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内テスト（40%）・レポート及びその他の課題（10%）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『話しチャイナ！中国語』 白帝社

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	中国語とは	中国語という言葉の概要
2	発音Ⅰ	声調 四声の練習
3	発音Ⅱ	母音 単母音、復母音、鼻母音の練習
4	発音Ⅲ	子音 子音の練習
5	第1課	判断動詞 人称代名詞
6	//	諾否疑問 副詞の用法
7	第2課	構造助詞 疑問詞疑問文
8	//	指示代名詞 形容詞述語文
9	第3課	動詞述語文 助数詞
10	//	選択疑問文 反復疑問文
11	第4課	存現文
12	//	判断動詞の省略 助動詞
13	第5課	介詞（前置詞）
14	//	数量補語
15	//	連動文

科目名	中国語ⅡR (a)			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

前期の「中国語Ⅰ」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内テスト（40%）・レポート及びその他の課題（10%）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『話しチャイナ！中国語』 白帝社

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	復習	中国語Ⅰの復習
2	第6課	動詞の重ね型
3	//	動態表現（完了）
4	第7課	強調構文 可能助動詞
5	//	動態表現（経験）
6	第8課	主述述語文
7	//	比較の表現
8	第9課	「～しなければならぬ」の表現（助動詞）
9	//	「少し」の表現
10	第10課	禁止表現
11	//	授与動詞構文（二重目的語）
12	第11課	進行表現
13	//	結果補語 方向補語
14	第12課	様態補語
15	//	中国語の文章の分類

科目名	中国語 I R (b)			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、言葉の基本である発音を重点的に学習する。この学習には「ピンイン」という中国語のローマ字表記を使用し、これを習得する。挨拶言葉等で中国語の発音に慣れる。その後、基本的な文型を学習する。小テストを随時実施し、その都度解説する。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（10％）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『聴ける話せる中国語 基礎編』 金星堂

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	中国語とは	中国語という言葉の概要
2	発音 I	声調 四声の練習
3	発音 II	母音 単母音、復母音、鼻母音の練習
4	発音 III	子音 子音の練習
5	第 1 課	判断動詞 人称代名詞
6	//	諾否疑問 副詞の用法
7	第 2 課	構造助詞 疑問詞疑問文
8	//	指示代名詞 形容詞述語文
9	第 3 課	動詞述語文 助数詞
10	//	選択疑問文 反復疑問文
11	第 4 課	存現文
12	//	判断動詞の省略 助動詞
13	第 5 課	介詞（前置詞）
14	//	数量補語
15	//	連動文

科目名	中国語 II R (b)			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

語学学習が暗号解読に陥らないように、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

前期の「中国語 I」で学習したことをふまえて、さらに必要と思われる構文、表現を学習する。小テストは随時実施しその都度かいせつをする。また、中国の文化や伝統といったものにも触れる。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（10％）

■授業の予習・復習

予習：各課の発音練習を予めしておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『聴ける話せる中国語 基礎編』 金星堂

■参考文献

『はじめての中国語学習辞典』 朝日出版社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	復習	中国語 I の復習
2	第 6 課	動詞の重ね型
3	//	動態表現（完了）
4	第 7 課	強調構文 可能助動詞
5	//	動態表現（経験）
6	第 8 課	主述述語文
7	//	比較の表現
8	第 9 課	「～しなければならぬ」の表現（助動詞）
9	//	「少し」の表現
10	第 10 課	禁止表現
11	//	授与動詞構文（二重目的語）
12	第 11 課	進行表現
13	//	結果補語 方向補語
14	第 12 課	様態補語
15	//	中国語の文章の分類

科目名	中国語Ⅲ－A			
担当者	黄麗華 Ko Reika			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法（文法）等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（10％）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと
復習：毎時間後発音の復習をすること

■教科書

『日中いぶこみ広場』 朝日出版社

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』 小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	中国語Ⅰ、Ⅱの復習
2 第9課	存在表現 方位詞
3 //	強調構文
4 //	進行表現
5 第10課	主述述語文
6 //	可能助動詞
7 //	結果補語
8 小テスト	半期分のテスト及び解説
9 第11課	可能助動詞2
10 //	授与動詞構文
11 //	様態補語
12 第12課	可能助動詞3
13 //	動詞の重ね型
14 //	方向補語
15 小テスト	半期分のテスト及び解説

科目名	中国語Ⅳ－A			
担当者	黄麗華 Ko Reika			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法（文法）等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（10％）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと
復習：毎時間後発音の復習をすること

■教科書

『日中いぶこみ広場』 朝日出版社

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』 小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	中国語Ⅲの復習
2 第13課	疑問詞の不定用法
3 //	仮定表現
4 //	助動詞のまとめ
5 第14課	可能補語
6 //	処置文
7 //	中国の通貨
8 小テスト	半期分のテスト及び解説
9 第15課	選択疑問文
10 //	形容詞の重ね型
11 //	使役表現
12 第16課	近未来実現表現
13 //	受け身表現
14 //	禁止表現 介詞（前置詞）のまとめ
15 小テスト	半期分のテスト及び解説

科目名	中国語Ⅲ－B			
担当者	黄麗華 Ko Reika			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法（文法）等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内テスト（40%）・レポート及びその他の課題（10%）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと
復習：毎時間後発音の復習をすること

■教科書

『日中いぶこみ広場』 朝日出版社

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』 小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	中国語Ⅰ、Ⅱの復習
2 第9課	存在表現 方位詞
3 //	強調構文
4 //	進行表現
5 第10課	主述述語文
6 //	可能助動詞
7 //	結果補語
8 小テスト	半期分のテスト及び解説
9 第11課	可能助動詞 2
10 //	授与動詞構文
11 //	様態補語
12 第12課	可能助動詞 3
13 //	動詞の重ね型
14 //	方向補語
15 小テスト	半期分のテスト及び解説

科目名	中国語Ⅳ－B			
担当者	黄麗華 Ko Reika			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法（文法）等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内テスト（40%）・レポート及びその他の課題（10%）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと
復習：毎時間後発音の復習をすること

■教科書

『日中いぶこみ広場』 朝日出版社

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』 小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	中国語Ⅲの復習
2 第13課	疑問詞の不定用法
3 //	仮定表現
4 //	助動詞のまとめ
5 第14課	可能補語
6 //	処置文
7 //	中国の通貨
8 小テスト	半期分のテスト及び解説
9 第15課	選択疑問文
10 //	形容詞の重ね型
11 //	使役表現
12 第16課	近未来実現表現
13 //	受け身表現
14 //	禁止表現 介詞（前置詞）のまとめ
15 小テスト	半期分のテスト及び解説

科目名	中国語Ⅲ－C			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法（文法）等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（10％）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『日中いぶこみ広場』 朝日出版社

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』 小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	中国語Ⅰ、Ⅱの復習
2 第9課	存在表現 方位詞
3 //	強調構文
4 //	進行表現
5 第10課	主述述語文
6 //	可能助動詞
7 //	結果補語
8 小テスト	半期分のテスト及び解説
9 第11課	可能助動詞2
10 //	授与動詞構文
11 //	様態補語
12 第12課	可能助動詞3
13 //	動詞の重ね型
14 //	方向補語
15 小テスト	半期分のテスト及び解説

科目名	中国語Ⅳ－C			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	2年	単位	1単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法（文法）等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内テスト（40％）・レポート及びその他の課題（10％）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『日中いぶこみ広場』 朝日出版社

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』 小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	中国語Ⅲの復習
2 第13課	疑問詞の不定用法
3 //	仮定表現
4 //	助動詞のまとめ
5 第14課	可能補語
6 //	処置文
7 //	中国の通貨
8 小テスト	半期分のテスト及び解説
9 第15課	選択疑問文
10 //	形容詞の重ね型
11 //	使役表現
12 第16課	近未来実現表現
13 //	受け身表現
14 //	禁止表現 介詞（前置詞）のまとめ
15 小テスト	半期分のテスト及び解説

科目名	中国語ⅢR			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法（文法）等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内テスト（40%）・レポート及びその他の課題（10%）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『楽しく学ぼうやさしい中国語、講読編』 郁文堂

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』 小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	中国語Ⅰ、Ⅱの復習
2 第1課	二重主語文
3 //	首都北京
4 第2課	複文
5 //	多民族国家中国
6 第3課	処置文
7 //	中国の人口問題
8 小テスト	半期分のテスト及び解説
9 第4課	構造助詞を用いる名詞句
10 //	中国の方言について
11 第5課	複文2
12 //	観光地泰山
13 第6課	「—A就B」等の表現
14 //	中国の祝祭日
15 小テスト	半期分のテスト及び解説

科目名	中国語ⅣR			
担当者	矢澤 秀昭 Hideaki Yazawa			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

中国語の初級から中級の段階に進むことをねらいとし、話せる、聞ける、読める、書けるといった実際に使える中国語学習を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を全員で声を出して読む。次に一人ずつ読ませ発音の矯正を行う。語法（文法）等の説明は日本人が陥りやすい誤りに注意してする。練習問題は小テスト扱いとし、毎回提出する。これにはその都度解説を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内テスト（40%）・レポート及びその他の課題（10%）

■授業の予習・復習

予習：単語の意味などは予め辞書等で調べておくこと。
復習：毎時間後発音の復習をすること。

■教科書

『楽しく学ぼうやさしい中国語 講読編』 郁文堂

■参考文献

『プログレッシブ中国語辞典』 小学館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 復習	中国語Ⅲの復習
2 第7課	動詞の副詞化
3 //	中国の食文化
4 第8課	複合方向補語
5 //	中国の薬膳
6 第9課	「几乎」の用法
7 //	中国のスポーツ
8 小テスト	半期分のテスト及び解説
9 第10課	仮定表現
10 //	中国の動物
11 第11課	構造助詞「地」の用法
12 //	チャイナドレス
13 第12課	副詞「就」の用法
14 //	中国の大学
15 小テスト	半期分のテスト及び解説

科目名	日本語Ⅰ－A			
担当者	銅直 信子 <i>Nobuko Dobeta</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

アカデミックな場面で必要とされる基礎的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。「日本語Ⅰ」では主として「話す・聞く」能力を向上させることを目的とする。表現したい内容を分かりやすく、簡潔に述べるのはどのような技法と作法を学べばいいのかをグループワークを通して学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って各課の要点を理解した後、練習問題・演習問題と進めていく。課題は授業時間内に仕上げ提出する。適宜プリントを配布し、語彙の増強を図っていく。また、CDを聞き重要点を書き取っていく練習を重ね、口頭発表に備える。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、レポート・クラス内テスト30%、発表点10%、クラス活動点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。
復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子
スリーエーネットワーク 1,600円

科目名	日本語Ⅱ－A			
担当者	銅直 信子 <i>Nobuko Dobeta</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

アカデミックな場面で必要とされる基礎的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。「日本語Ⅱ」では主として「読む・書く」能力を向上させることを目的とする。論文分析を行うことで、構成や展開における日本語表現を学ぶ。また、表現したい内容を説得力をもって書くにはどのような技法と作法が必要かグループ学習を通して学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って各課の要点を理解した後、練習問題・演習問題と進めていく。課題は授業時間内に仕上げ提出する。適宜プリントを配布し、語彙の増強を図っていく。最後に各グループでアンケート調査を行い、その結果を各自レポートに仕上げる。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、レポート・クラス内テスト30%、発表点10%、クラス活動点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。
復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子
スリーエーネットワーク 1,600円

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス・記述文作成	ガイダンス後、「記述文」を400字以内で書く。
2 表記の仕方	メモを取る練習。表記の練習問題。
3 //	CDを聞いてレジュメを作成。表記の練習問題。
4 文体	さまざまな文体を理解する。練習問題。
5 //	文体の異なる読解問題（N1レベル）。
6 話す技法	ブックレポートの説明→テーマを選びまとめる。
7 //	レジュメの作成（グループワーク）。
8 //	各グループでプレゼンテーション→質疑応答。
9 話し言葉から書き言葉へ	新聞教材練習問題。
10 //	//
11 正しい構造の文	主語と述語 修飾語と被修飾語。
12 文のつながり	指示語の使い方。
13 //	接続語の使い方。
14 小論文に使われる表現	テーマを決めアウトラインを構成する（設計図提出）。
15 //	意見文を書き提出する（600～800字）。

■参考文献

『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘
スリーエーネットワーク

■授業内容

授業項目	授業内容
1 段落	段落のある文章を読む。練習問題
2 //	段落に分ける。中心文を探す。
3 //	段落のある文章を書く。
4 小論文を書く	テーマに関することを調べ書く準備をする。
5 //	設計図に沿って4段落の文章を書く。→提出
6 要約文	キーワードを拾い出し要約文を完成させる。
7 //	新聞記事を読んで要約する。
8 説明文	事実だけを書く。
9 意見文	特定のテーマに関する複数の意見文を読む（N1レベル）。
10 報告文	新聞記事を読み事実を報告する。
11 ビジネス文書	さまざまなビジネス文書を読み重要な情報を読み取る。
12 レポート作成	テーマを決める。アンケートシートを作成する。
13 //	グラフを説明する際の日本語表現を学ぶ。
14 //	調査の目的、予想と調査結果との相違点を中心にまとめる。
15 //	各自レポートを完成させ提出する。

■参考文献

『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘
スリーエーネットワーク

科目名	日本語 I - B			
担当者	沢野 美由紀 Miyuki Sawano			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

大学の講義を受講するために必要な日本語力の向上を目指す。「読む・書く・聞く・話す」の4技能を総合的に伸ばすこと、また、レポートや論文を作成するための日本語表現技術の習得を目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し演習問題を行いながら、補強すべきと思われる点については適宜資料を配布し、学習する。時事問題の理解のために新聞記事の読解やニュースの聞き取りなども行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％） 授業内小テスト（20％） レポート及びその他の課題（30％）

■授業の予習・復習

新たに学習する課について新出語彙等の確認を行い、講義後は学習した項目について与えられた課題を行う。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子著
スリーエーネットワーク

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 日本語の表記 1	日本語の表記のしかた
2 // 2	句読点の打ち方・原稿用紙の使い方
3 日本語の文体 1	文章の種類と文体
4 // 2	書き言葉の文体
5 文体のモードチェンジ 1	小論文の文体
6 // 2	叙述文
7 文の構造 1	主語と述語
8 // 2	修飾語・被修飾語、文末制限
9 文のつながり 1	指示語
10 // 2	接続の表現
11 小論文に用いる表現 1	文末表現
12 // 2	助詞相当語
13 段落と文の構成 1	段落と中心文
14 // 2	中心文・支持文
15 まとめ	1～15回のまとめ

科目名	日本語 II - B			
担当者	沢野 美由紀 Miyuki Sawano			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

日本語 I で学んだことをベースに、更なる日本語力の向上を目指す。日本語 II では、各自テーマを決めアンケート調査を行って、レポートを作成する。また、プレゼンテーションの技法を学び、調査結果について発表を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。補強すべきと思われる点については、適宜資料を配布し、学習する。また、時事問題に加え、ビジネス日本語なども学ぶ。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％） 授業内小テスト（20％） レポート及びその他の課題（30％）

■授業の予習・復習

新たに学習する課、また、講義で学習した項目について、その都度予習と復習の内容と方法を指示する。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子著
スリーエーネットワーク

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 要約文の書き方 1	一段落の文の要約
2 // 2	複段落の文の要約
3 説明文の書き方 1	具体的な表現とは
4 // 2	客観的な文を書くために
5 意見文の書き方 1	事実と意見
6 // 2	意見文を書くために
7 事実の記述 1	数値の示し方
8 // 2	文章の引用のしかた
9 小論文の形式 1	序章の書き方
10 // 2	本論と結論の書き方
11 アンケート調査 1	テーマと目的の決定
12 // 2	質問項目の作成
13 // 3	データの分析と考察
14 // 4	プレゼンテーションのアウトラインを考える
15 // 5	プレゼンテーション・フィードバック

科目名	日本語 I - C			
担当者	高柳 真理 Mari Takayanagi			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

大学で必要な日本語表現に関する基礎的な事柄を学び、日本語表現力の向上を目指す。特に文章による表現技術を重点におき養成する。的確な表現を使い、正しい構成の文章が書ける等、日本語で事実や状況を正確に伝えたり、自分の意見を論理的に説明したりする力を伸ばす。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに沿って行う。テキスト以外に適宜配布資料も用いて進める。各課の要点理解後、演習問題を行い、実力を確認する。日本語表現全般にわたる興味や関心を引き起こすような内容を織り込んで進める。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（15%）・発表／レポート及びその他の課題（20%）・授業への積極的参加度（15%）

■授業の予習・復習

予習：次の授業内容部分のテキストや配布資料を読む。分からない部分の日本語表現などは、自分で調べておく。
復習：学習内容の確認し、整理する。宿題、授業内小テストの準備を行う。

■教科書

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク 1600円

科目名	日本語 II - C			
担当者	高柳 真理 Mari Takayanagi			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

実践を通して様々な目的で書かれる文章を学ぶ。日本社会で必要とされる文章の形式、表現を学ぶ。学期末には、各自レポートを作成し、その発表を行う。アカデミックな場面での日本語表現の養成を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに沿って行う。様々な文章に適宜配布資料で触れ、文章の特徴を学び、文章を書く練習を行う。学生が、自分の文章、日本語表現を自己評価できるような視点を持つためのフィードバックも重視して行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（30%）・授業内小テスト及び課題提出物（25%）・発表／レポート（30%）・授業への積極的参加度（15%）

■授業の予習・復習

予習：授業で出された課題を行う。
復習：授業内容の整理、ファイリングをする。宿題や、授業内小テストの準備をする。

■教科書

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク 1600円

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション 自己紹介する	初対面での自己表現
2 表記の仕方（1）	日本語の表記ルールの復習
3 "（2）	原稿用紙の書き方 原稿用紙に文章を書く
4 文体（1）	さまざまな文章の特徴
5 "（2）	話し言葉と書き言葉 普通体で文章を書く
6 モードチェンジ（1）	話し言葉から書き言葉への切り替え
7 "（2）	硬い文章を書く時の言葉・表現
8 正しい構造の文（1）	主語と述語の関係、修飾する語とされる語の関係
9 "（2）	簡潔な文を書く
10 文のつながり（1）	指示詞の使い方
11 "（2）	接続詞の使い方
12 小論文でよく使われる表現（1）	主観的表現と客観的表現
13 "（2）	小論文でよく使われる文末表現/小論文書き始め
14 "（3）	小論文でよく使われる表現、句
15 今学期のまとめ	小論文の完成/まとめ

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 文の構成を考える（1）	段落のある文章
2 文の構成を考える（2）	段落の構成のしかた
3 要約文（1）	文章を読み、要点を把握する
4 要約文（2）	要約文を書く
5 説明文（1）	説明文を読み、特徴を学ぶ
6 説明文（2） レポートについて	説明文を書く
7 意見文（1） レポート準備	意見と事実を分けて書く レポートのテーマ
8 意見文（2） レポート準備	論拠を書く アンケート用紙作成方法
9 意見文（3） レポート準備	意見文を書く アンケート用紙確認
10 グラフの説明（1） レポート準備	数値を示す アンケート集計、資料作成
11 グラフの説明（2） レポート準備	説明表現資料作成、資料分析
12 日本語総まとめ（1） レポート作成	レポート構成 レポート作成
13 日本語総まとめ（2） レポート作成	レポート最終確認 発表表現と発表練習
14 日本語総まとめ（3）	口頭発表/評価
15 日本語総まとめ（4）	口頭発表/評価

科目名	日本語Ⅰ－D			
担当者	高柳 真理 Mari Takayanagi			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

大学で必要な日本語表現に関する基礎的な事柄を学び、日本語表現力の向上を目指す。特に文章による表現技術を重点におき養成する。的確な表現を使い、正しい構成の文章が書ける等、日本語で事実や状況を正確に伝えたり、自分の意見を論理的に説明したりする力を伸ばす。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに沿って行う。テキスト以外に適宜配布資料も用いて進める。各課の要点理解後、演習問題を行い、実力を確認する。日本語表現全般にわたる興味や関心を引き起こすような内容を織り込んで進める。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内小テスト（15％）・発表／レポート及びその他の課題（20％）・授業への積極的参加度（15％）

■授業の予習・復習

予習：次の授業内容部分のテキストや配布資料を読む。分からない部分の日本語表現などは、自分で調べておく。
復習：学習内容の確認し、整理する。宿題、授業内小テストの準備を行う。

■教科書

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク 1600円

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション 自己紹介する	初対面での自己表現
2	表記の仕方（1）	日本語の表記ルールの復習
3	〃（2）	原稿用紙の書き方 原稿用紙に文章を書く
4	文体（1）	さまざまな文章の特徴
5	〃（2）	話し言葉と書き言葉 普通体で文章を書く
6	モードチェンジ（1）	話し言葉から書き言葉への切り替え
7	〃（2）	硬い文章を書く時の言葉・表現
8	正しい構造の文（1）	主語と述語の関係、修飾する語とされる語の関係
9	〃（2）	簡潔な文を書く
10	文のつながり（1）	指示詞の使い方
11	〃（2）	接続詞の使い方
12	小論文でよく使われる表現（1）	主観的表現と客観的表現
13	〃（2）	小論文でよく使われる文末表現/小論文書き始め
14	〃（3）	小論文でよく使われる表現、句
15	今学期のまとめ	小論文の完成 まとめ

■参考文献

科目名	日本語Ⅱ－D			
担当者	高柳 真理 Mari Takayanagi			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

実践を通して様々な目的で書かれる文章を学ぶ。日本社会で必要とされる文章の形式、表現を学ぶ。学期末では、各自レポートを作成し、その発表を行う。アカデミックな場面での日本語表現の養成を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストに沿って行う。様々な文章に適宜配布資料で触れ、文章の特徴を学び、文章を書く練習を行う。学生が、自分の文章、日本語表現を自己評価できるような視点を持つためのフィードバックも重視して行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（30％）・授業内小テスト及び課題提出物（25％）・発表／レポート（30％）・授業への積極的参加度（15％）

■授業の予習・復習

予習：授業で出された課題を行う。
復習：授業内容の整理、ファイリングをする。宿題や、授業内小テストの準備をする。

■教科書

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク 1600円

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	文の構成を考える（1）	段落のある文章
2	文の構成を考える（2）	段落の構成のしかた
3	要約文（1）	文章を読み、要点を把握する
4	要約文（2）	要約文を書く
5	説明文（1）	説明文を読み、特徴を学ぶ
6	説明文（2） レポートについて	説明文を書く
7	意見文（1） レポート準備	意見と事実を分けて書く レポートのテーマ
8	意見文（2） レポート準備	論拠を書く アンケート用紙作成方法
9	意見文（3） レポート準備	意見文を書く アンケート用紙確認
10	グラフの説明（1） レポート準備	数値を示す アンケート集計、資料作成
11	グラフの説明（2） レポート準備	説明表現資料作成、資料分析
12	日本語総まとめ（1） レポート作成	レポート構成 レポート作成
13	日本語総まとめ（2） レポート作成	レポート最終確認 発表表現と発表練習
14	日本語総まとめ（3）	口頭発表／評価
15	日本語総まとめ（4）	口頭発表／評価

科目名	日本語Ⅰ－E			
担当者	銅直 信子 <i>Nobuko Dobeta</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

アカデミックな場面で必要とされる基礎的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。「日本語Ⅰ」では主として「話す・聞く」能力を向上させることを目的とする。表現したい内容を分かりやすく、簡潔に述べるのはどのような技法と作法を学べばいいのかをグループワークを通して学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って各課の要点を理解した後、練習問題・演習問題と進めていく。課題は授業時間内に仕上げ提出する。適宜プリントを配布し、語彙の増強を図っていく。また、CDを聞き重要点を書き取っていく練習を重ね、口頭発表に備える。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、レポート・クラス内テスト30%、発表点10%、クラス活動点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。
復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子
スリーエーネットワーク 1,600円

科目名	日本語Ⅱ－E			
担当者	銅直 信子 <i>Nobuko Dobeta</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

アカデミックな場面で必要とされる基礎的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。「日本語Ⅱ」では主として「読む・書く」能力を向上させることを目的とする。論文分析を行うことで、構成や展開における日本語表現を学ぶ。また、表現したい内容を説得力をもって書くにはどのような技法と作法が必要かグループ学習を通して学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って各課の要点を理解した後、練習問題・演習問題と進めていく。課題は授業時間内に仕上げ提出する。適宜プリントを配布し、語彙の増強を図っていく。最後に各グループでアンケート調査を行い、その結果を各自レポートに仕上げる。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、レポート・クラス内テスト30%、発表点10%、クラス活動点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。
復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。

■教科書

『小論文への12のステップ』友松悦子
スリーエーネットワーク 1,600円

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス・記述文作成	ガイダンス後、「記述文」を400字以内で書く。
2 表記の仕方	メモを取る練習。表記の練習問題。
3 //	CDを聞いてレジュメを作成。表記の練習問題。
4 文体	さまざまな文体を理解する。練習問題。
5 //	文体の異なる読解問題（N1レベル）。
6 話す技法	ブックレポートの説明→テーマを選びまとめる。
7 //	レジュメの作成（グループワーク）。
8 //	各グループでプレゼンテーション→質疑応答。
9 話し言葉から書き言葉へ	新聞教材練習問題。
10 //	//
11 正しい構造の文	主語と述語 修飾語と被修飾語。
12 文のつながり	指示語の使い方。
13 //	接続語の使い方。
14 小論文に使われる表現	テーマを決めアウトラインを構成する（設計図提出）。
15 //	意見文を書き提出する（600～800字）。

■参考文献

『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘
スリーエーネットワーク

■授業内容

授業項目	授業内容
1 段落	段落のある文章を読む。練習問題
2 //	段落に分ける。中心文を探す。
3 //	段落のある文章を書く。
4 小論文を書く	テーマに関することを調べ書く準備をする。
5 //	設計図に沿って4段落の文章を書く。→提出
6 要約文	キーワードを拾い出し要約文を完成させる。
7 //	新聞記事を読んで要約する。
8 説明文	事実だけを書く。
9 意見文	特定のテーマに関する複数の意見文を読む（N1レベル）。
10 報告文	新聞記事を読み事実を報告する。
11 ビジネス文書	さまざまなビジネス文書を読み重要な情報を読み取る。
12 レポート作成	テーマを決める。アンケートシートを作成する。
13 //	グラフを説明する際の日本語表現を学ぶ。
14 //	調査の目的、予想と調査結果との相違点を中心にまとめる。
15 //	各自レポートを完成させ提出する。

■参考文献

『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘
スリーエーネットワーク

科目名	日本語Ⅲ－A			
担当者	沢野 美由紀 Miyuki Sawano			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

論理的な日本語の文章を読むにはどのような技法が必要かということを中心に学ぶ。レポート・論文などの資料を理解するために必要な日本語の表現、文の構成等について学習し、専門的な資料が読めるようになることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。さらに、新聞、雑誌の記事や一般書、時事問題をもとに、ディスカッションや意見発表を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%） 授業内小テスト（20%） レポートおよびその他の課題（30%）

■授業の予習・復習

予習として、事前に教材を読み、語彙や意味を調べておく。復習の内容と方法はその都度指示する。

■教科書

『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』
一橋大学留学生センター

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 文の内容理解 1	キーワードの探し方
2 // 2	キーワードを用いた要約
3 // 3	応用文の読解
4 文の主題 1	主題を探す
5 // 2	序論と本論
6 // 3	応用文の読解
7 文の主張を読み取る 1	文章の「問い」を探す
8 // 2	論点表示文
9 // 3	応用文の読解
10 歴史を扱った文章 1	ものごとの因果関係・前後関係の理解
11 // 2	時系列に沿った文章の読み方
12 // 3	応用文の読解
13 時事問題を読む 1	記事の構成を理解する
14 // 2	記事を要約する
15 // 3	記事をもとにしたディスカッション

科目名	日本語Ⅳ－A			
担当者	沢野 美由紀 Miyuki Sawano			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

日本語Ⅲ同様、論理的な日本語の文章を読むにはどのような技法が必要かということを中心に学び、それらを応用して専門にかかわるレポートが書けるようになることを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的にテキストに沿って行う。各課の理解を確認し、演習問題を行う。後半は各自が専門にかかわる課題を設定し、レポートの作成とプレゼンテーションを行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%） 授業内小テスト（20%） レポート及びその他の課題（30%）

■授業の予習・復習

予習として、事前に教材を読み、語彙や意味を調べておく。復習の内容と方法はその都度指示する。

■教科書

『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』
一橋大学留学生センター

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 二項対立の文 1	対比を示す表現
2 // 2	二項対立の文の構造
3 // 3	応用文の読解
4 明確な意見の表現 1	譲歩・逆接を示す表現
5 // 2	立場による主張の表現
6 // 3	応用文の読解
7 順序を示す表現 1	列挙の構造と表現
8 // 2	接続の表現
9 // 3	応用文の読解
10 レポート作成 1	テーマの設定
11 // 2	参考文献を読む
12 // 3	アウトラインを考える
13 // 4	レポートを書く 1
14 // 5	// 2
15 まとめ	プレゼンテーション・フィードバック

科目名	日本語Ⅲ－B			
担当者	銅直 信子 <i>Nobuko Dobeta</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

アカデミックな場面で必要とされる応用的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書に掲載されている論説文を読んだり、論文分析を行うことで、読む力、書く力を向上させる。特にこの授業では日本語という言語を通して日本の文化や社会について考えることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、教科書・論文・ビデオやDVDの中に出てくる語彙を理解する。意味や用法を確認し、小レポートを書く際に使えるように準備する。全員が情報を共有した後、各自小レポートにまとめ提出する。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、レポート・クラス内テスト30%、発表点10%、クラス活動点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。

復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。各課の漢小テストがあるので準備しておく。

科目名	日本語Ⅳ－B			
担当者	銅直 信子 <i>Nobuko Dobeta</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

アカデミックな場面で必要とされる応用的な日本語の口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書に掲載されている論説文を読んだり、論文分析を行うことで、読む力、書く力を向上させる。特にこの授業では日本語という言語を通して日本の文化や社会について考えることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、教科書・論文・ビデオやDVDの中に出てくる語彙を理解する。意味や用法を確認し、小レポートを書く際に使えるように準備する。全員が情報を共有した後、各自小レポートにまとめ提出する。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、レポート・クラス内テスト30%、発表点10%、クラス活動点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙リストの中の漢字の読み方・語彙の意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。

復習：返却された小レポート類の誤用の原因を確認し、正しい用法を理解する。各課の漢字小テストがあるので準備しておく。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	1 何の話かをつかむ	漢字・語彙の確認
2	//	本文を精読し設問に答える。
3	//	練習問題と要約文漢字小テスト
4	2 何が問題かをつかむ	漢字・語彙の確認 論文を読む①
5	//	本文を精読し設問に答える。
6	//	練習問題と要約文漢字小テスト
7	新聞教材を読む	設計図に沿って3段落の意見文を書く。論文を読む②
8	3 言いたいことをつかむ	序論・本論・結論の3部に分ける。
9	//	問題提起文・結論表示文をみつける。
10	//	本文を精読し設問に答える。論文を読む③
11	4 歴史を扱った文章	バブル経済について
12	//	もはや戦後ではない
13	//	出来事の前後関係と出来事の因果関係論文を読む④
14	少子高齢化	筆者の意見をまとめる。反論の日本語表現を学ぶ。
15	//	筆者が挙げる4点の中から一つを取り上げ反論する（800字）。

■教科書

『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 1,200円+税

■参考文献

『大学・大学院 留学生の日本語』③論文読解編④論文作成編

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	5 二項対立文	死刑制度廃止論
2	//	外国人の参政権
3	//	ディベート教育
4	//	小学生の英語教育 漢字小テスト
5	6 筆者の立場	夫婦別姓制度
6	//	環境税導入漢字小テスト
7	賛成・反対の意見	筆者に賛成か反対か。
8	//	根拠は何か。
9	7 文章を整理して理解	NGOについて
10	//	DVDを視聴し意見を述べる。
11	//	IT革命 楽天社長の話を読む。漢字小テスト
12	ディベート	テーマを決め、資料を収集する。
13	//	立論を3つにまとめる。反論を予想し答えを考える。
14	ディベートマッチ	4グループに分かれディベートマッチを行う。
15	意見文	ディベートのテーマについて各自意見文を書く。

■教科書

『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク 1,200円+税

■参考文献

『大学・大学院 留学生の日本語』③論文読解編④論文作成編
『留学生のための時代を読み解く上級日本語』

スリーエーネットワーク
『石原千秋先生の国語教室』読売新聞社

科目名	日本語Ⅲ－C			
担当者	高柳 真理 <i>Mari Takayanagi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

大学で求められる専門の文章を読むために必要な様々なストラテジーを身につけ、読解力を高めるとともに、学んだ知識を活かし、構成のしっかりした論理的な文章が書けることを目指す。また、日本語を通して様々な角度から見えてくる日本の現状、日本文化・日本社会を学び、自分の意見を日本語で表現する力も養成する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って行う。テキスト以外に各課で学ぶ内容に合った生教材を使い、読む技術のみでなく、話す、聞く、書く技術の実践練習も行う。各課終了後、理解度を確認する問題を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（15%）・レポート及びその他の課題（25%）・授業への積極的参加度（10%）

■授業の予習・復習

予習：配布された資料を自分で予習して授業に臨む。分担作業では、担当部分の準備をする。

復習：授業で行った内容、資料の整理をする。小テストの準備をする。

■教科書

『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』
スリーエーネットワーク 1200円

科目名	日本語Ⅳ－C			
担当者	高柳 真理 <i>Mari Takayanagi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

大学で求められる専門の文章を読むために必要な様々なストラテジーを身につけ、読解力を高めるとともに、学んだ知識を活かし、構成のしっかりした論理的な文章が書けることを目指す。また、的確な情報の理解、得た情報を目的に応じて日本語で適切に表現できる技術を高める。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って行う。テキスト以外に各課で学ぶ内容に合った生教材を使い、読む技術のみでなく、話す、聞く、書く技術の実践練習も行う。各課終了後、理解度を確認する問題を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（15%）・レポート及びその他の課題（25%）・授業への積極的参加度（10%）

■授業の予習・復習

予習：配布された資料を自分で予習して授業に臨む。分担作業では、担当部分の準備をする。

復習：授業で行った内容、資料の整理をする。小テストのための復習をする。

■教科書

『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』
スリーエーネットワーク 1200円

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション 第1課（1）	キーワードを見つける
2	〃（2）	キーワードを見つけるストラテジー 練習問題
3	〃（3）	要約文の書き方
4	〃（4）	文章を読み、要約文を書く
5	第2課（1）	要約文のFB / 論点表示文
6	〃（2）	文章のポイントを掴むストラテジー 練習問題
7	〃（3）	文章を読み、要約文を書く
8	第3課（1）	要約文のFB / 結論表示文
9	〃（2）	結論を理解するストラテジー 練習問題
10	〃（3）	文章を読み、要約文を書く
11	〃（4）	要約文のFB / 3部構成の文章を書く
12	〃（5）	3部構成の文章を書く
13	第4課（1）	歴史を扱った文章
14	〃（2）	時間軸、因果関係をみるストラテジー 練習問題
15	〃（3）まとめ	文章を読み、要約文を書く

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	復習	前期の総復習
2	第5課（1）	二項対立の文章
3	〃（2）	二項対立の文章を理解するストラテジー 練習問題
4	〃（3）	文章を読み、要約文を書く
5	〃（4）	要約文のFB / 賛否を問うテーマについて意見をまとめる
6	第6課（1）	意見文
7	〃（2）	筆者の立場を見ぬくストラテジー 練習問題
8	〃（3）	文章を読み、要約文を書く
9	〃（4）	要約文のFB / 自分の意見を展開した文章を書く
10	第7課（1）	意見文を評価する / 長い文章
11	〃（2）	長い文章を理解するストラテジー 練習問題
12	〃（3）	長い文章を読み、要約文を書く
13	〃（4）	要約文のFB / 長い文章を読み、意見交換をする
14	日本語総まとめ（1）	レポートを書く
15	〃（2）	レポートを書き上げる まとめ

■参考文献

科目名	英会話 I			
担当者	Nicholas Delleman			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

自分自身や趣味、身の回りのことを英語で話すことに慣れ、また相手に質問して会話を広げながら英語でコミュニケーションする楽しさを実感する。ネイティブ・スピーカーと英語で話すことに慣れ、基本的な日常会話表現を身に付けることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、会話の土台となる文法事項を確認する。その後、トピック別の対話練習を行い、単語ではなくセンテンスで発話できるようにする。写真を見てそこから会話を広げるテクニックも学ぶ。

■成績評価方法・基準

出席（50%）・定期試験（30%）・授業内小テスト（20%）
会話クラスなので出席が前提となる。

■授業の予習・復習

予習：事前配布プリントの完成、テキスト付属CDを用いてのリスニング練習
復習：既習ユニットの語彙、表現を定着させるための復習（文法確認・語彙暗記）

■教科書

“NEW ALLTALK 1”（McMillan Languagehouse）を使用

科目名	英会話 II			
担当者	Nicholas Delleman			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

自分自身や趣味、身の回りのことを英語で話すことに慣れ、また相手に質問して会話を広げながら英語でコミュニケーションする楽しさを実感する。ネイティブ・スピーカーと英語で話すことに慣れ、基本的な日常会話表現を身に付けることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、会話の土台となる文法事項を確認する。その後、トピック別の対話練習を行い、単語ではなくセンテンスで発話できるようにする。写真を見てそこから会話を広げるテクニックも学ぶ。

■成績評価方法・基準

出席（50%）・定期試験（30%）・授業内小テスト（20%）
会話クラスなので出席が前提となる。

■授業の予習・復習

予習：事前配布プリントの完成、テキスト付属CDを用いてのリスニング練習
復習：既習ユニットの語彙、表現を定着させるための復習（文法確認・語彙暗記）

■教科書

“NEW ALLTALK 1”（McMillan Languagehouse）を使用

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス Unit 1	講座内容・レッスンの進め方紹介、挨拶・自己紹介
2 Unit 1（続き）	相手に質問して会話を広げる／初対面の挨拶／スモールトーク
3 Unit 2	疑問詞のつく質問を使いこなす／質問への答え方
4 Unit 2（続き）	趣味についての話題／空港での会話
5 Unit 3	大きさ・量についての質問／場所・方向の表現
6 Unit 3（続き）	写真を見ながら説明する／道を尋ねる・教える
7 Unit 4	過去のことを表現する／許可を求める
8 Unit 4（続き）	ホテルの予約をする／Unit 1-4の確認テスト
9 Unit 5	現在完了形の会話での使い方／謝罪の表現
10 Unit 5（続き）	ホテルのチェックイン／スポーツの話題
11 Unit 6	未来の予定、状況について話す／招待に関する表現
12 Unit 6（続き）	ショッピングを楽しむ
13 Unit 7	感謝の述べ方／there ~の使い方
14 Unit 7（続き）	会話練習：書物とTVの話題について
15 総まとめ	今期学んだことの復習と自由会話、Q & A

■参考文献

教師の準備する新聞・雑誌、書籍、インターネットよりの補助教材も使用予定。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス Unit 7	講義内容紹介／There is~を用いた表現／感謝の意を表現する
2 Unit 7（続き）	郵便局での会話／気持ちを表現する
3 Unit 8	比較表現を会話に生かす／銀行での会話
4 Unit 8（続き）	様々な職業を表現する／学習範囲の確認テスト
5 Unit 9	自分の好み・希望を述べる／「物を頼む」表現
6 Unit 9（続き）	レストランでの会話／食べ物・食事に関する表現
7 Unit 10	動名詞を用いた便利な表現／褒める表現
8 Unit 10（続き）	コンサートの予約／娯楽に関する表現
9 Unit 11	将来の希望を述べる／提案する表現
10 Unit 11（続き）	交通機関を利用する（利用の仕方、比較など）
11 Unit 12	can, should, mustを用いた表現／提案する
12 Unit 12（続き）	病気になったときの表現／病院での会話
13 会話練習	時事・トピック別の会話、自由会話
14 会話練習	時事・トピック別の会話、自由会話
15 総まとめ	今期学んだことの復習と自由会話、Q & A

■参考文献

教師の準備する新聞・雑誌、書籍、インターネットよりの補助教材も使用予定。

科目名	英会話Ⅲ			
担当者	Nicholas Delleman			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

英会話の入門レベルを終えた学生を対象に、英語でのコミュニケーション上「言えること」ではなく、「言いたいこと」を自らの言葉でより多く発話できるように数多くの会話練習を行う。日常のトピックからディスカッションまで、ネイティブスピーカーとの会話の広がりを楽しむことを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

自分自身や身の周りの事についてすでに簡単な会話ができるレベルを対象。様々なトピックについて会話を展開し、使える語彙を増やす。また文法知識を整理し、正確な発話に活かす会話練習を数多く行う。

■成績評価方法・基準

出席（50%）・定期試験（30%）・授業内小テスト（20%）
会話クラスなので出席が前提となる。

■授業の予習・復習

予習：事前配布プリントの完成、テキスト付属CDを用いてのリスニング練習
復習：既習ユニットの語彙、表現を定着させるための復習（文法確認・語彙暗記）

■教科書

“NEW ALLTALK 2”（McMillan Languagehouse）を使用

科目名	英会話Ⅳ			
担当者	Nicholas Delleman			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

英会話の入門レベルを終えた学生を対象に、英語でのコミュニケーション上「言えること」ではなく、「言いたいこと」を自らの言葉でより多く発話できるように数多くの会話練習を行う。日常のトピックからディスカッションまで、ネイティブスピーカーとの会話の広がりを楽しむことを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

自分自身や身の周りの事についてすでに簡単な会話ができるレベルを対象。様々なトピックについて会話を展開し、使える語彙を増やす。また文法知識を整理し、正確な発話に活かす会話練習を数多く行う。

■成績評価方法・基準

出席（50%）・定期試験（30%）・授業内小テスト（20%）
会話クラスなので出席が前提となる。

■授業の予習・復習

予習：事前配布プリントの完成、テキスト付属CDを用いてのリスニング練習
復習：既習ユニットの語彙、表現を定着させるための復習（文法確認・語彙暗記）

■教科書

“NEW ALLTALK 2”（McMillan Languagehouse）を使用

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス/Unit 1	テキストとレッスンの進め方紹介／会話の中の仮定法
2 Unit 1（続き）	人に勤める表現／ホームタウンについて話す
3 Unit 2	付加疑問文／Short answer に慣れる
4 Unit 2（続き）	旅行・休暇の過ごし方について話す
5 Unit 3	会話に便利な基本動詞を用いたイディオム
6 Unit 3（続き）	レンタカーを借りる／驚いた・困った経験を話す
7 Unit 4	近い未来を用いた表現／商品の返品
8 Unit 4（続き）	遺失物取扱所での会話／Unit 1-4の確認テスト
9 Unit 5	I used to ～を用いた表現／不平を言う表現
10 Unit 5（続き）	交通手段に関する表現／能力・実績について話す
11 Unit 6	不確定な予定について話す／助言を与える・貰う
12 Unit 6（続き）	部屋を借りる表現／予想・計画・希望について話す
13 Unit 7	受動態／意見を述べる、依頼する
14 Unit 7（続き）	自己性格診断、写真を見ての会話展開練習
15 今期の総まとめ	今期学んだことの復習と自由会話、Q & A

■参考文献

教師の準備する新聞・雑誌、書籍、インターネットよりの補助教材も使用予定。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス/Unit 7	テキストとレッスンの進め方紹介／会話の中の仮定法
2 Unit 7（続き）	人の性格・プロフィールについて話す
3 Unit 8	too～to, enough to を用いた表現
4 Unit 8（続き）	賛成・反対を表す／学習項目の確認テスト
5 Unit 9	直接／間接話法の会話での用い方
6 Unit 9（続き）	電話英語の基本表現を学ぶ
7 Unit 10	コミュニケーションテクニックを効果的に用いる
8 Unit 10（続き）	結婚関連の話題について話す
9 Unit 11	様々な予約を取る表現／場所を正確に表現する
10 Unit 11（続き）	外国の都市・自分の国について話す
11 Unit 12	関係詞を用いて文を長くしてみる
12 Unit 12（続き）	つなぎ言葉を用いて手順を説明する
13 会話練習	時事・トピック別の会話、自由会話
14 会話練習	時事・トピック別の会話、自由会話
15 今期の総まとめ	今期学んだことの復習と自由会話、Q & A

■参考文献

教師の準備する新聞・雑誌、書籍、インターネットよりの補助教材も使用予定。

科目名	時事英語Ⅲ			
09～11年度入学：時事英語Ⅰ				
担当者	内野 泰子 Yasuko Uchino			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

グローバル化が進む中、世界で起こっている色々な出来事の多くは私たちの生活と密接に関連しています。このクラスでは、テレビ、インターネット、新聞などで報じられた最新の英語ニュースをフォローして英語の基礎力アップをはかるとともに、私たちをとりまく様々な出来事や問題への関心を深め、世界に向けて視野を広げていきましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

様々な分野の平易な最新英語ニュースをとりあげ、時事英語の特徴や時事英語でよく使われる表現を学習し、時事英語理解の基礎力を固めます。また、ニュースの背景情報を知るため、日本語のニュース記事資料も適宜配布し、時事問題についての理解も一緒に深めていきましょう。平易なテレビ・ニュースを使ってリスニング活動も行います。なじみやすいトピックから始めます。

■成績評価方法・基準

平常点50%、期末テスト50%で評価します。

■授業の予習・復習

授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。

科目名	時事英語Ⅳ			
09～11年度入学：時事英語Ⅱ				
担当者	内野 泰子 Yasuko Uchino			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

グローバル化が進む中、世界で起こっている色々な出来事の多くは私たちの生活と密接に関連しています。このクラスでは、テレビ、インターネット、新聞などで報じられた最新の英語ニュースをフォローして英語の基礎力アップをはかるとともに、私たちをとりまく様々な出来事や問題への関心を深め、世界に向けて視野を広げていきましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

様々な分野の平易な最新英語ニュースをとりあげ、時事英語の特徴や時事英語でよく使われる表現を学習し、時事英語理解の基礎力を固めます。また、ニュースの背景情報を知るため、日本語のニュース記事資料も適宜配布し、時事問題についての理解も一緒に深めていきましょう。平易なテレビ・ニュースを使ってリスニング活動も行います。

■成績評価方法・基準

平常点50%、期末テスト50%で評価します。

■授業の予習・復習

授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。

■教科書

最新英語ニュースの配布プリント（教科書は使いません。）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	時事英語とは？
2 トピック1-①	スポーツ・エンタメ
3 // 1-②	//
4 // 2-①	天気・天候・災害
5 // 2-②	//
6 // 3-①	事件・事故
7 // 3-②	//
8 // 4-①	環境・社会
9 // 4-②	//
10 // 5-①	国内政治・経済
11 // 5-②	//
12 // 6-①	国際政治・経済
13 // 6-②	//
14 // 7-①	その他
15 // 7-②	その他、まとめ

■教科書

最新英語ニュースの配布プリント（教科書は使いません。）

■参考文献

必要に応じて授業内で指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	夏休み中の重大ニュース
2 トピック1-①	ビジネス
3 // 1-②	//
4 // 2-①	政治・経済
5 // 2-②	//
6 // 3-①	スポーツ・エンタメ
7 // 3-②	//
8 // 4-①	環境・社会
9 // 4-②	//
10 // 5-①	宇宙・科学・医療
11 // 5-②	//
12 // 6-①	事件・事故・災害
13 // 6-②	//
14 // 7-①	その他
15 // 7-②	その他、まとめ

■参考文献

必要に応じて授業内で指示します。

科目名	ビジネス英語Ⅲ			
09～11年度入学：ビジネス英語Ⅰ				
担当者	内野 泰子 Yasuko Uchino			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済がグローバル化する中で、日本企業においても、英語が公用語化される、上司が外国人になる、英語による会議が頻繁に行われる、TOEIC受験が必須になるなど、ビジネス英語の必要性がさらに高まってきています。この授業では、こうした状況に対応できるよう、様々なビジネス場面で英語を使って簡単なコミュニケーションがはかれるよう、ビジネス英語の基礎力を築くことを目指します。TOEICの受験準備にも対応できるようにしていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを使い、様々なビジネス場面で求められるスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの基本スキルやビジネス英語の基本表現などを学習します。また、NHKの「実践英語でしゃべらナイト」などのテレビ番組を使い、色々な職業でどのようにビジネス英語が使われているのかについても学びます。

■成績評価方法・基準

平常点50%、期末テスト50%で評価します。

■授業の予習・復習

授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。

科目名	ビジネス英語Ⅳ			
09～11年度入学：ビジネス英語Ⅱ				
担当者	内野 泰子 Yasuko Uchino			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済がグローバル化する中で、日本企業においても、英語が公用語化される、上司が外国人になる、英語による会議が頻繁に行われる、TOEIC受験が必須になるなど、ビジネス英語の必要性がさらに高まってきています。この授業では、こうした状況に対応できるよう、様々なビジネス場面で英語を使って簡単なコミュニケーションがはかれるよう、ビジネス英語の基礎力を築くことを目指します。TOEICの受験準備にも対応できるようにしていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを使い、様々なビジネス場面で求められるスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの基本スキルやビジネス英語の基本表現などを学習します。また、NHKの実践英語でしゃべらナイトなどのテレビ番組を使い、色々な職業でどのようにビジネス英語が使われているのかについても学びます。

■成績評価方法・基準

平常点50%、期末テスト50%で評価します。

■授業の予習・復習

授業内で指示しますので、指示に必ず従って次の授業にのぞんで下さい。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	導入	グローバル化の中でのビジネス英語とは？
2	Unit 1 -①	ビジネスマンの自己紹介
3	Unit 1 -②	ビジネスマンの自己紹介、Eメールの基本
4	Unit 2 -①	英語が分からない時の聞き直し方
5	Unit 2 -②	英語が分からない時の聞き直し方、レターの基本
6	Unit 3 -①	電話の会話
7	Unit 3 -②	//
8	Unit 4 -①	伝言・留守電
9	Unit 4 -②	//
10	Unit 5 -①	職場でのあいさつ
11	Unit 5 -②	//
12	Unit 6 -①	面会の約束・会議
13	Unit 6 -②	//
14	Unit 7 -①	会社訪問者への対応
15	Unit 7 -②	会社訪問者への対応、まとめ

■教科書

First Steps to Office English (Tae Kudo著、センゲージラーニング) ならびに配布プリント

■参考文献

必要に応じて授業内で指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	導入	後期授業について
2	Unit 8 -①	招待・誘い、返事
3	Unit 8 -②	//
4	Unit 9 -①	職場での雑談
5	Unit 9 -②	//
6	Unit10-①	会社の所在地や配置
7	Unit10-②	//
8	Unit11-①	道案内
9	Unit11-②	//
10	Unit12	オフィス機器の使い方
11	Unit13	海外出張（1）
12	Unit14	//（2）
13	Unit15	//（3）
14	応用	学習事項の応用
15	まとめ	学習事項の総まとめ

■教科書

First Steps to Office English (Tae Kudo著、センゲージラーニング) ならびに配布プリント

■参考文献

必要に応じて授業内で指示します。

科目名	敬天愛人講座A			
担当者	教務部委員会 <i>Kyomubu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

本学の建学の精神である「敬天愛人」の具現化を図るために設けられたものである。「天を敬い、人を愛する」という言葉の持つ意味は極めて広く深い。人間関係のみならず、人間と社会、人間と自然との関係にも関わってくる。従って、この理念の具体化もさまざまな形で行われることになる。この講座をきっかけとして、「敬天愛人」の精神が、学内はもとより、学外にも広く浸透していくことを期待している。

■授業の進め方（履修条件等）

「敬天愛人」に関する7つのテーマを掲げ、各専門の先生方に講義していただく。

■成績評価方法・基準

7つのテーマのうち2つを選び、それぞれの問題について回答する。（論文形式）
出席：40%、筆記試験：60%。

■授業の予習・復習

メディアセンターにある「敬天愛人文庫」の中の関連書物を読んでおくことが望ましい。（本学ホームページからのアクセスが可能）

■教科書

教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。

科目名	敬天愛人講座B			
担当者	教務部委員会 <i>Kyomubu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

本学の建学の精神である「敬天愛人」の具現化を図るために設けられたものである。「天を敬い、人を愛する」という言葉の持つ意味は極めて広く深い。人間関係のみならず、人間社会、人間と自然との関係にも関わってくる。従って、この理念の具体化もさまざまな形で行われることになる。この講座をきっかけとして、「敬天愛人」の精神が、学内はもとより、学外にも広く浸透していくことを期待している。

■授業の進め方（履修条件等）

「敬天愛人」にかんする7つのテーマを掲げ、各専門の先生方に講義していただく。

■成績評価方法・基準

7つのテーマのうち2つを選び、それぞれの問題について解答する。（論文形式）

■授業の予習・復習

メディアセンターにある「敬天愛人文庫」の中の関連書物をよんでおくことが望ましい。（本学ホームページからアクセスが可能）

■教科書

教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	4月13日 講師 和田 良子	オリエンテーション
2	4月20日 講師 角田 勲	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 I
3	4月27日 講師 角田 勲	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 II
4	5月11日 講師 籠野 受男	人の品性、知性 I
5	5月18日 講師 籠野 受男	人の品性、知性 II
6	5月25日 講師 長戸路 政行	命の尊厳 I
7	6月1日 講師 長戸路 政行	命の尊厳 II
8	6月8日 講師 池谷 美佐子	人と社会のコミュニケーション 「道徳教育の可能性」 I
9	6月15日 講師 池谷 美佐子	人と社会のコミュニケーション 「道徳教育の可能性」 II
10	6月22日 講師 三幣 利夫	国際社会のいま — ビジネスの最前線 — I
11	6月29日 講師 三幣 利夫	国際社会のいま — ビジネスの最前線 — II
12	7月6日 講師 星 真実	格差社会はなぜ生まれるか I
13	7月13日 講師 星 真実	格差社会はなぜ生まれるか II
14	7月20日 講師 土井 修	敬天愛人のめざすもの I
15	7月27日 講師 土井 修	敬天愛人のめざすもの II

■参考文献

「野の花」 長戸路 信行 著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	9月28日 講師 和田 良子	オリエンテーション
2	10月5日 講師 角田 勲	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 I
3	10月12日 講師 角田 勲	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 II
4	10月19日 講師 長戸路 政行	命の尊厳 I
5	10月26日 講師 長戸路 政行	命の尊厳 II
6	11月2日 講師 籠野 受男	人の品性、知性 I
7	11月8日 講師 籠野 受男 当初の予定を変更して、木曜日の5限目に実施	人の品性、知性 II
8	11月16日 講師 畑中 千晶	文芸を楽しむ 「西鶴のなかの天をめぐって」 I
9	11月23日 講師 畑中 千晶	文芸を楽しむ 「西鶴のなかの天をめぐって」 II
10	11月30日 講師 高田 洋子	戦争と平和 「ナカサキからのメッセージ」 I
11	12月7日 講師 高田 洋子	戦争と平和 「ナカサキからのメッセージ」 II
12	12月14日 講師 金子 林太郎	21世紀の環境問題 I
13	12月21日 講師 金子 林太郎	21世紀の環境問題 II
14	1月11日 講師 敬愛大学 学長	敬天愛人のめざすもの I
15	1月25日 講師 敬愛大学 学長	敬天愛人のめざすもの II

■参考文献

「野の花」 長戸路 信行 著

科目名	敬愛プログラム			
担当者	教務部委員会 <i>Kyomubu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

自分で定めた目標をやり遂げる能力を高めるとともに、共同作業を通して目標を達成する経験を積む。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週定期的に授業を行うわけではない。2人以上のグループで具体的なテーマを決め、その達成目標や段取りを修学支援室に提出し、承認を受けてから一定期間内に成果を上げられるよう取り組み、成果を公表する。テーマについては、下記の例を参考にすること。

■成績評価方法・基準

公表された成果を教務部委員会が採点して評価する。

■授業の予習・復習

自分達のグループで文献や資料を調べ、調査に出かけたり、結果をまとめたりしなければならない。先輩や友人、先生方の助言も参考にしながら取り組んでほしい。

■教科書

使用しない。

■参考文献

テーマによって参考文献は異なる。メディアセンター等で適切な参考文献、資料を選定すること。

■授業内容

■敬愛プログラムのテーマ例

- ①千葉を知る（歴史、地理、経済、文化、環境など）
- ②大学を活性化する（教育環境、緑化、大学祭、食堂新メニュー、健康、ボランティアなど）
- ③敬天愛人講座を実践する

科目名	スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			
担当者	藤田 明男 <i>Akio Fujita</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

スポーツを通して体力づくり、仲間づくり、健康づくりをめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

学内（敬愛アリーナ）で行う各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。運動着および運動靴（赤い靴紐を右靴につけたもの）を必ず着用する。

■成績評価方法・基準

出席状況（50%）、実技テスト（50%）

■授業の予習・復習

予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで予備知識を得ておくことが大切。
復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで学習内容を確認することが大切。

■教科書

なし

■参考文献

藤田明男『バドミントン教室』大修館書店

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業に関する詳細説明等
2	バトボン	ハーフコートシングルス
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	オールコートダブルス
7	〃	〃
8	〃	〃
9	〃	〃
10	ミニバレーボール	四人制バレーボール
11	〃	〃
12	〃	〃
13	〃	〃
14	〃	〃
15	〃	〃

科目名	哲学			
担当者	壁谷 彰慶 Akiyoshi Kabeya			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

哲学において扱われてきた問題と議論を学びながら、他人の意見を批判的に吟味し、論理的に思考する練習をする。そのうえで、自分の意見を客観的に述べる技能の習得を目指す。今期は倫理学的話題を主題的に扱う。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式だが、毎回小テスト・小レポートを課す。講義で紹介した議論を自分で再構成し、各自で意見を述べてもらう。いずれも各人に関係のある話題であると思うので、積極的な参加が望ましい。

■成績評価方法・基準

各回的小テスト・小レポート＋学期末レポート（定期試験として実施する可能性もあり）の総合点。

■授業の予習・復習

予習：シラバスの授業項目と前回の講義内容に関して、身近な場面にあてはめて考えてみる。

復習：授業の内容を思い出しながら、疑問や意見を書き出す（各レポートで報告）。

■教科書

なし（資料は授業内で配布）。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の概要、受講方法、成績評価
2 「よさ」と価値（1）	善悪と快苦
3 「よさ」と価値（2）	中庸はよいか
4 神意と人間	主意主義と主知主義
5 社会契約と利己主義（1）	社会契約論の紹介
6 社会契約と利己主義（2）	社会契約論の検討
7 定言命法と自然的欲求（1）	カントの道徳論の紹介
8 定言命法と自然的欲求（2）	カントの道徳論の検討
9 理由の普遍化可能性	内在的理由と外在的理由
10 功利主義の目的と帰結（1）	功利主義の紹介
11 功利主義の目的と帰結（2）	功利主義の検討
12 現代正義論（1）	政治哲学における正義論の紹介
13 現代正義論（2）	政治哲学における正義論の検討
14 悪への自由	悪いことをなぜしてはいけないのか
15 まとめ	哲学・倫理学の意義と役割

■参考文献

授業内で紹介する。

科目名	心理学			
担当者	藤井 輝男 Teruo Fujii			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

「行動科学」とも呼ばれている心理学の研究手法、研究成果を理解し、人間の行動を心理学的に理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

具体的な研究例を取り上げ、初学者でも分かるように概説する。その際、必要に応じてプリント、OHP、ビデオ、パワーポイント等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（80%）・レポート及びその他の課題（20%）

■授業の予習・復習

講義内容をその都度整理し、理解しておく。

■教科書

使用しない。授業時に資料を配付する。

■参考文献

重野純編著「キーワードコレクション・心理学」新曜社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2 心理学とは	行動科学としての心理学
3 心理学の方法（1）	観察法、実験法について具体例をあげて解説する
4 心理学の方法（2）	質問紙法、事例研究法などについて解説する
5 心理学のもののとらえ方	心をどう考えるか、心を知るための研究とは
6 感覚・知覚（1）	視覚情報の入り口である目について解説する
7 感覚・知覚（2）	視覚の特性について
8 感覚・知覚（3）	錯視・錯覚現象について具体例をあげながら解説する
9 学習（1）	古典的条件付け
10 学習（2）	道具的条件付け
11 学習（3）	学習理論と日常生活について
12 記憶（1）	記憶の構造について
13 記憶（2）	記憶の種類（短期記憶と長期記憶）
14 記憶（3）	忘却について
15 まとめ	まとめと質問

科目名	社会心理学			
担当者	藤井 輝男 Teruo Fujii			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

対人行動に関連する心理学の研究成果を概観し、人間の行動に対して他者や環境がどのように影響を及ぼしているか心理学的に理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

具体的な研究例を取り上げ、わかりやすく概説する。その際、必要に応じてプリント、ビデオ、パワーポイント等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（80%）・レポート及びその他の課題（20%）

■授業の予習・復習

授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。

■教科書

使用しない。適宜、印刷資料を配付する。

■参考文献

重野純編著「キーワードコレクション・心理学」新曜社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2	動機（1）	動機の種類について
3	動機（2）	動機の働きについて
4	動機（3）	日常生活における動機について
5	感情、表情	シャクターの情動二要因説などを解説
6	性格（1）	性格の記述方法について
7	性格（2）	類型論、特性論の解説
8	性格（3）	測定方法、性格検査について
9	性格（4）	性格に関しての事例研究の紹介
10	社会と個人	個人が集団からどのように影響を受けるか
11	態度変化（1）	態度変化はどのような状況で生じるのか
12	態度変化（2）	説得行動に関する代表的研究の紹介
13	態度変化（3）	日常生活における説得行動について
14	対人魅力	対人魅力を規定している要因について
15	まとめ	まとめと質問

科目名	日本の文学			
担当者	畑中 千晶 Chiaki Hatanaka			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

人の「心の闇」を浮き彫りにしていく西鶴の短編小説を読みます。自分なりの視点で作品の謎に迫ることができるようになること、これが到達目標です。文学を学ぶということは、文学史を暗記することでも、有名な学説を覚えて唱えることでもありません。自分の力で作品に向き合い、「読む」力を鍛えることなのです。

■授業の進め方（履修条件等）

300年以上前に書かれた日本語を読みます。つまり「古文」。しかし、恐れる必要はありません。やさしい現代語訳付きのテキストを用います。留学生は、日本語能力試験N1（1級）程度の日本語力を持つほうが望ましいでしょう。

■成績評価方法・基準

クラスで指示した課題への取り組み（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：テキストに目を通して流れを理解しておく。特に留学生の場合は予習が必須です。

復習：クラスで出題されたタスクに取り組み、次回のクラスで提出する。

■教科書

西鶴研究会編（2004）『西鶴が語る江戸のミステリー』
ぺりかん社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	講義の進め方、「読む」ということ
2	読み始める前に	江戸時代について
3	読み始める前に	西鶴について（映像資料を含む）
4	「一生にただ一人の男」	内容読解
5	「一生にただ一人の男」	空白（抜けている情報）を読む
6	「殺されたふたりの女商人」	内容読解
7	「殺されたふたりの女商人」	ファンタジーの構造、本当は怖い後日譚
8	「瓜ふたつの謀略」	内容読解
9	「瓜ふたつの謀略」	心の謎を読む
10	「口は禍の門」	内容読解
11	「口は禍の門」	謎絵が語っているものは
12	「逃げても追いかける怨霊」	内容読解
13	「逃げても追いかける怨霊」	容姿の美貌という裏テーマ
14	発展項目	江戸の人々と怪異
15	発展項目	江戸の人々と芝居

■参考文献

江本裕/谷脇理史編（1996）『西鶴事典』おうふう
乾克己/小池正胤/志村有弘/高橋貞/鳥越文蔵編（1986）
『日本伝奇伝説大事典』角川書店

科目名	比較文学			
担当者	畑中 千晶 <i>Chiaki Hatanaka</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

異文化接触が人の精神・考えにどのような影響を及ぼすのか、具体的な材料に基づいて語れるようになることが到達目標です。この講義では、比較文学の方法論を用いて、①日本の作家が英米文化をどのように理解し受容したのか、②来日外国人が日本文化をどのように理解し受容したのか、この両面から検討を行います。

■授業の進め方（履修条件等）

「比較文学」という学問の性質上、講義で用いる日本語レベルは高度なものとなります。留学生の場合には、日本語能力試験N1（1級）取得者であるか、もしくはそれに相当する日本語理解力が必要です。

■成績評価方法・基準

クラスで指示した課題への取り組み（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：配布資料に目を通す。

復習：指定の形式でノートを整理し、学習内容について再考する時間を持つ。

■教科書

配付資料を用いる。

科目名	歴史学			
担当者	山本 健 <i>Takeshi Yamamoto</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

日本は、明治の開国期と大戦敗北後の2回、近代化（欧米化）を受け入れ、物質的に豊かになったが、精神的にはどうであろうか。この原因を、明治（1868年）以降から現代に至る長いスパンの中で探り、精神的な「自立」の処方箋を考えてみたい。そして歴史を批判的に見る目を身につけさせることが、本講義の目的である。

■授業の進め方（履修条件等）

日本の近代化の受容を基本的に学び、日本以外のアジア諸国の受容との比較にも言及しながら、その時代背景などを説明し、「協調」と「追随」の功罪などを解説する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート（感想文や課題文）などで評価する。なお、原則として、出席率が規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。

■授業の予習・復習

予習：前もって配布する「古典」の抜粋プリントを読んで、問題点などを整理しておくこと。

復習：課題文の作成のため、新聞やTVのニュースを見る習慣をつけること。

■教科書

加藤哲郎『戦後意識の変貌』

（若波ブックレット、シリーズ昭和史No14、1989年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の進め方、ノートの取り方など
2 総論1	比較文学とは
3 総論2	影響研究と対比研究
4 総論3	文学と他の芸術
5 総論4	越境する文学
6 夏目漱石におけるイギリス1	略年譜、留学時代について
7 夏目漱石におけるイギリス2	『カーライル博物館』の読解と分析
8 夏目漱石におけるイギリス3	『倫敦塔』の分析、印象派の絵画との対比
9 有島武郎におけるアメリカ1	略年譜、父の存在、キリスト教との出会い
10 有島武郎におけるアメリカ2	留学時代、ホイットマン
11 有島武郎におけるアメリカ3	『或る女』『カインの末裔』のあらすじ、分析
12 ラフカディオ・ハーンの本1	略年譜、文化的混淆、マイノリティの自覚
13 ラフカディオ・ハーンの本2	『怪談』『耳なし芳一』『雪女』（映像視聴・原文読解）
14 ラフカディオ・ハーンの本3	新たに植え直された伝説
15 まとめ	学習内容の整理、補足項目等

■参考文献

秋山正幸/榎本義子編（2005）『比較文学の世界』南雲堂

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 問題点の提示	大江健三郎『あいまいな日本と私』を音読させ、解説。
3 明治時代の近代化の受容①	日本の支配的価値観と近代化受容をめぐる問題点
4 同 上②	「外圧」としての近代化—帝国主義時代の背景
5 同 上③	「脱亜入欧」と第二次世界大戦
6 戦後の「アメリカ」受容	「脱亜入米」と変更されるアメリカの占領政策
7 「政治」から「経済」へ	戦争特需と所得倍増計画の意味
8 模倣国アメリカの変化	ベトナム戦争とアメリカ経済の衰退、相対主義の台頭
9 石油危機と不確実性の時代	エゴイズムとモデル不在の時代の到来
10 日米経済摩擦	経済大国日本の出現と日本異質論の台頭
11 バブル景気と躁状態の日本	平成バブルの発生メカニズムの分析
12 湾岸戦争と日本の対応	湾岸戦争の背景と「一国繁栄主義」の日本
13 小泉内閣の登場と民営化問題	市場経済の導入と食い荒らされる金融資産
14 中国経済の発展と日本の対応	日本の「工場」の移転と産業の空洞化・若者の失業問題
15 サブプライム問題と金融危機	恒常化したバブル経済とその背景

■参考文献

①奥井知之『日本問題』（中公新書、1994年）

②富永健一『近代化の理論—近代化における東洋と西洋』

（講談社学術文庫、1996年）

③野口悠紀夫『バブルの経済学—日本経済に何が起きたのか』（日本経済新聞社、1993年）

科目名	法学			
担当者	覚正 豊和 <i>Toyokazu Kakusho</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

「社会あるところに法あり」の法格言に示されるがごとく、社会には無数の法が存在します。本講義は、社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論をとおして法律学への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方 (legal mind) を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします。それは、今日、とくとくと流れる国際化のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。

■授業の進め方 (履修条件等)

分かりやすい授業を展開するので、特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において、指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において、指示します。

■教科書

斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版

■参考文献

『六法』(岩波)(三省堂)(有斐閣)などを持参するとよいでしょう。

科目名	憲法 I			
担当者	山内 義廣 <i>Yoshihiro Yamauchi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

日本国憲法の基本原理、主として、国家による国民の基本的人権の保障の仕組みを理解し、その上で、それらの知識を国民生活に活かせることを目指す。

■授業の進め方 (履修条件等)

講義スケジュールにしたがって、授業項目の内容を講義を通じて習得させる。その際、板書をしながら細かい説明を加え、時には、コピーした資料を配布したりして、理解させるよう努力する。また、学生の理解度をはかるため、小テストを実施し、知識の確認を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験や授業中に行う小テストの成績、および、レポートの内容などを基に、総合的に判定する。

■授業の予習・復習

予習：シラバスに示している講義スケジュールにしたがって、教科書をしっかり読むこと。
復習：授業の内容 (配布資料も含む) を中心に再度理解し、その内容に関する教科書の部分をしっかり読み、総合的に理解すること。

■教科書

小林昭三監修 憲法政治学研究会編 『日本国憲法講義』 成文堂出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	受講のガイダンス
2 法の概念	法とはなにか
3 法と法則、法と道徳	法と法則の相違、法と道徳の相異、法と道徳の関係
4 法の構造	規範構造からみた法と道徳の相異
5 法の目的 1	正義、法的安定性
6 法の目的 2	具体的事例の検討、比較法的考察
7 法源論	法の発現形式、法の存在形式
8 成文法	成文法とは
9 不文法	不文法 (慣習法、判例法) とは
10 法の分類	法二分説、法三分説など
11 法の適用と解釈	法の適用と解釈の必要性について
12 法の実質的効力	規範的妥当性、実効性
13 法の形式的効力	時間、場所、人についての適用範囲
14 権利と義務	法律関係、権利、義務
15 総括	まとめおよび質疑

■授業内容

授業項目	授業内容
1 明治憲法の性格	明治憲法の制定とその基本原理
2 日本国憲法の性格	日本国憲法の制定とその基本原理
3 天皇制と国民主権	天皇制の存続と国民主権との調和
4 憲法における平和主義	憲法前文および憲法9条と世界における日本の役割
5 基本的人権保障への歴史	基本的人権確立の意義とその歴史
6 基本的人権の内容とその変化	自由権の保障から社会権の保障へ
7 基本的人権の享有	自然人・法人・外国人の人権保障
8 法の下での平等	日本国憲法における平等と合理的差別
9 基本的人権の保障とその限界	個人の尊厳と公共の福祉による制限
10 精神的活動の自由とその保障	思想および良心の自由・信教の自由・表現の自由・学問の自由
11 社会的活動の自由とその保障	居住移転の自由・職業選択の自由と財産権の保障
12 身体的活動の自由とその保障	適正な法の手続と身体的自由の保障・刑事被告人に対する権利保障
13 生活・教育の権利保障	生存権の保障・教育を受ける権利の保障
14 労働者の基本権の保障	団結権の保障・団体交渉権の保障・団体行動権の保障
15 国家に対する請求権の保障	請願権の保障・裁判請求権の保障・国家賠償請求権の保障・刑事補償請求権の保障・公務員の選定罷免権の保障

■参考文献

宮沢俊義著 『憲法 II』 有斐閣 (有斐閣法律学全集)

科目名	憲法Ⅱ			
担当者	山内 義廣 <i>Yoshihiro Yamauchi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

日本国憲法の基本原理、主として、国家による統治機構の仕組みを理解し、その上で、それらの知識を国民生活に活かせることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

講義スケジュールにしたがって、授業項目の内容を講義を通じて習得させる。その際、板書をしながら細かい説明を加え、時には、コピーした資料を配布したりして、理解させるよう努力する。また、学生の理解度をはかるため、小テストを実施し、知識の確認を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（20%）・レポート（25%）・その他（5%）

■授業の予習・復習

予習：シラバスに示している講義スケジュールにしたがって、教科書をしっかり読むこと。

復習：授業の内容（配布資料も含む）を中心に再度理解し、その内容に関する教科書の部分をしっかり読み、総合的に理解する。

■教科書

小林昭三監修 憲法政治学研究会編・「日本国憲法講義」・成文堂出版

科目名	政治学			
担当者	櫛田 久代 <i>Hisayo Kushida</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

世の中を知り考えるための一つの方法論として政治学を学びます。授業では、政治学の基礎概念や政治の仕組みについての理論に重点を置いています。そして、この授業を通して、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的にしています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。学則では、単位取得のためには、原則として3分の2以上の出席が履修条件です。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習として心がけてほしいのは、日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。

復習としては、授業でわからなかったことを自分で調べ、ノートに整理することを試みて下さい。

■教科書

指定無し。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	権力分立（三権分立）制	権力分立制確立の意義とその歴史
2	天皇制（1）	天皇制維持の歴史的過程
3	〃（2）	象徴天皇と国民主権
4	国会と立法（1）	国会の構成とその活動
5	〃（2）	国会の権能と議員の権能
6	〃（3）	国会議員の特権と国民主権
7	内閣と行政（1）	議院内閣制と内閣の権能
8	〃（2）	内閣総理大臣および国務大臣の権能と国民主権
9	裁判所と司法（1）	司法権の意義と裁判所の構成・役割
10	〃（2）	規則制定権と違憲立法審査権
11	〃（3）	最高裁判所裁判官の国民審査と国民主権
12	財政と行政国家（1）	財政に関する憲法上の原則
13	〃（2）	予算制度および決算制度に関する原則
14	地方自治と住民自治（1）	地方自治の原理と地方公共団体の権能
15	〃（2）	地方分権改革

■参考文献

宮沢俊義著・「憲法Ⅰ」・有斐閣（有斐閣法律学全集）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	政治を見る目（1）	日本政治の課題
2	政治を見る目（2）	日本政治の今を考える。
3	国家について（1）	権力と国家
4	国家について（2）	国家
5	ナショナリズム（1）	国民国家とナショナリズム
6	ナショナリズム（2）	民族のナショナリズム
7	ナショナリズム（3）	ビデオ鑑賞
8	民主政治（1）	民主政治の起源
9	民主政治（2）	民主政治の発達
10	民主政治（3）	民主政治の定義をめぐって
11	民主政治（4）	世界の民主的政治制度
12	選挙制度	選挙制度
13	政治組織（1）	政党制
14	政治組織（2）	利益集団
15	まとめ	現代の日本政治

■参考文献

久米郁男他編『政治学（New Liberal Arts Selection）補訂版』（有斐閣、2011年）他。
参考文献は、3階メディアセンターの「指定図書」櫛田コーナーにあります。

科目名	日本の政治			
担当者	櫛田 久代 <i>Hisayo Kushida</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業では、日本の政治過程を扱います。政治学入門あるいは政治学概論Iで学んだ政治の基礎概念や基礎理論が、日本政治の中でどのように展開しているのかを主眼に、政治の実態を具体的に理解し政治的知識を増やすことを目的としています。国際学部社会科学教職科目でもありますから、しっかりと知識を身につけてもらいたいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

配布するプリントを中心に授業を進めます。時折、みなさんの理解を確認するために演習形式で行うときもあります。なお、社会科学関係の教職課程の学生は必修です。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持つようにして下さい。
 復習：授業中わからなかったことは、授業後解決するようにして下さい。

■教科書

なし。

科目名	社会学			
担当者	菊池 真弓 <i>Mayumi Kikuchi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

本授業では、社会学的な理論や方法論、社会学の歴史を学ぶことを目的とする。また、家族、地域社会の基本的な視点を学び、わが国の少子高齢化、情報化といった社会変動の過程や背景を取り上げ、現代社会に起こっている虐待、介護、環境、ジェンダーなどの問題とその課題について考える力をつけることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業の進め方は、新聞や統計・世論調査、ビデオ教材などの資料に基づき、私達を取り巻く身近な人と人との関係、集団との関係、現代社会に起こっている様々な問題とその対策について考える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、授業内小レポート（20%）、授業態度（10%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：次の講義までに指示するテキストを熟読して講義に臨むこと。

復習：①授業終了時に質問・感想をまとめる時間を設ける。
 ②次回授業で、質問に対する回答とともに復習を行う。

■教科書

久門道利他『スタートライン現代社会の諸相—社会学の視点』弘文堂、2008年

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	日本政治の今
2 政治を見る目（1）	日本政治の課題
3 政治を見る目（2）	外交と国内政治
4 日本の政治制度	議院内閣制と政党
5 行政部（1）	内閣と行政部
6 行政部（2）	行政部の現状と問題点
7 立法部（1）	国会
8 立法部（2）	立法過程
9 立法部（3）	立法の現状と問題点
10 司法部（1）	裁判所の役割
11 司法部（2）	市民の司法参加
12 マスメディアと世論	第4の権力
13 地方自治（1）	地方自治の推進
14 地方自治（2）	地方自治が抱える課題
15 まとめ	日本政治の現状再考

■参考文献

久米郁男他編『政治学（New Liberal Arts Selection）補訂版』（有斐閣、2011年）他。

※参考文献は、3階メディアセンターの櫛田「指定図書」コーナーにあります。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 社会学とは何か	社会学的な視点・方法
2 社会的存在としての人間	社会集団と文化
3 社会学の歴史（1）	社会学の成立・確立期
4 社会学の歴史（2）	社会学の展開と今後
5 家族	家族とは、機能と役割
6 地域社会	都市と農村、コミュニティ形成
7 社会問題とは何か	社会問題の定義とその捉え方
8 現代社会の社会問題（1）	少子高齢社会の現状と課題
9 現代社会の社会問題（2）	社会福祉の現状と課題
10 現代社会の社会問題（3）	環境問題の現状と課題
11 現代社会の社会問題（4）	ジェンダーの現状と課題
12 情報化	メディアの変容と情報化
13 国際化	エスニシティと地域社会
14 運動・ネットワーク	ネットワーキングと社会運動
15 社会学を応用する	社会調査・社会計画とは

■参考文献

秋元・石川・羽田・柚井『社会学入門』有斐閣新書、1991年
 森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版、2000年

科目名	数学Ⅰ			
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

数学の基本的な思考法の習得を目標とし、線形代数の基礎部分を丁寧に紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学Ⅰ程度を必要とします。毎回演習を行います。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績80%、出席状況と授業態度20%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

矢野健太郎他著『社会科学者のための基礎数学』裳華房

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容	
1 概論	線形代数論の紹介	
2	行列の定義、行列の演算	
3	行列	
4		特殊な行列、ベクトル、単位行列
5		行列の演算の諸性質
6		正方行列、逆行列の存在について
7	互換、奇順列、偶順列	
8	行列式の定義、計算例	
9	行列式	行列式の四つの特性（1）
10	行列式	行列式の四つの特性（2）
11	行列式	行列式の計算の簡素化
12	行列式	行列式の四つの特性（余因子）
13	行列式	行列式の余因子展開
14	行列と行列式	逆行列の求め方
15		正則行列とその行列式の値（1）
		正則行列とその行列式の値（2）

科目名	数学Ⅱ			
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

数学の基本的な思考法の習得を目標とし、線形代数と微積分の基礎部分を丁寧に紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

「数学Ⅰ」に続く講義である。「数学Ⅰ」を履修済みのこと。基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。毎回演習を行います。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績80%、出席状況と授業態度20%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

矢野健太郎他著『社会科学者のための基礎数学』裳華房

■参考文献

齋藤正彦著『線型代数入門』東京大学出版会

高木貞二著『解析概論』岩波書店

■授業内容

授業項目	授業内容	
1 行列と行列式	連立一次方程式とクラメル公式	
2	ベクトルの一次独立、一次従属	
3	ベクトル	
4		連立一次方程式と非自明解
5		行列の階数（1）
6	行列	行列の階数（2）
7 概論	微積分学の紹介	
8 準備	実数、数列の極限、関数の連続	
9	三角関数と指数関数の定義	
10	微分	微分の定義、微分の公式
11		多項式の微分
12		指数関数の微分
13	三角関数の微分	
14	積分	原始関数、定積分
15		定積分と図形の面積、不定積分
		微積分学の基本定理

科目名	統計学Ⅰ			
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

記述統計学から推測統計学に至る現代統計学の基礎と基本的な統計手法の習得を目標とし、多くの実例から統計的なものの見方、考え方を丁寧に紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学Ⅰ程度を必要とします。毎回演習を行います。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績80%、出席状況と授業態度20%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

小寺平治著「新統計学入門」裳華房

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	概論	概論
2		データの分類、グラフによる表示
3	標本データの記述	算術的記述
4		標準偏差の意味
5		中央値、最頻値
6	確率	標本空間、事象の確率
7		加法、乗法の定理
8		独立事象の乗法の定理
9		ベイズの定理
10		計数の方法、順列組合せ(1)
11		“(2)”
12	確率分布	確率変数、期待値、分散
13		離散型変数、連続型変数
14		確率分布の性質(1)
15		“(2)”

科目名	統計学Ⅱ			
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

記述統計学から推測統計学に至る現代統計学の基礎と基本的な統計手法の習得を目標とし、多くの実例から統計的なものの見方、考え方を丁寧に紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

「統計学Ⅰ」に続く講義である。「統計学Ⅰ」を履修済みのこと。基本となる概念、定義を繰り返し説明しますので、欠席せずに受講すれば理解できる講義内容です。数学に関する予備知識としては、高校での数学Ⅰ程度を必要とします。毎回演習を行います。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績80%、出席状況と授業態度20%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

小寺平治著「新統計学入門」裳華房

■参考文献

東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会

■授業内容

	授業項目	授業内容
1		二項分布
2	主な確率分布	正規分布(1)
3		“(2)”
4		大数の法則、中心極限定理
5	標本抽出	無作為抽出、不偏推定値
6		正規母集団からの抽出(1)
7		“(2)”
8		非正規母集団からの抽出
9	推定	点推定と区間推定
10		点推定の考え方とその手順
11		区間推定
12	仮説検定	検定の考え方
13		正規母集団に対する仮説検定
14	相関と回帰	直線回帰
15		最小二乗法

科目名	環境科学			
担当者	中村 圭三 Keizo Nakamura			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

今日、地球環境は急激に変化しつつある。我々の豊かな生活を育んできた美しい地球は、この先一体どうなるのだろうか。本講義では、実際の研究事例を通して、環境を科学するための基礎力を養成する。

■授業の進め方（履修条件等）

最初に各週の授業内容に関する基礎事項をテキストの「基礎技法」で学習する。その上で、調査事例を中心とした授業内容を展開する。

■成績評価方法・基準

授業態度と、定期試験で成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストの「基礎技法」を学習しておくこと。
復習：学習した授業内容に関連する環境問題に関心を持って生活すること。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.

■参考文献

授業の中で、適宜指示する。

科目名	地球科学			
担当者	濱田 浩美 Hiromi Hamada			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

地球誕生46億年の歴史を少しずつも解き、人間をとりまく地球科学的現象の基礎を理解する。太陽系惑星の中で唯一、大気と水が奇跡的に存在している地球の素晴らしさを改めて考え、地球科学的な見方を身につける。また、人間をとりまく水圏、地圏、気圏の各方面における現象の基礎を理解し、近年の地球環境問題を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

宇宙、太陽系と惑星の誕生に始まり、地球が形成され、今の我々人類の生活している地球を地質学、環境地球科学の観点から理解する。授業ではVTR、パワーポイントを多用し、視覚的に印象に残る講義を目指す。

■成績評価方法・基準

定期試験（40%）レポートおよびその他の課題など（60%）出席率が不足している学生は定期試験を受験することができない。不公平のないよう、厳密に対処する。

■授業の予習・復習

予習：特に指定しないが、授業中に課題を課すことがある。
復習：黒板の利用も多く、次回講義までにノートに板書の整理をおこなう。

■教科書

特に指定しない。講義の時、必要に応じてプリントを配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	環境科学概説
2 環境と気象・気候（1）	山の気象・気候
3 環境と気象・気候（2）	海岸の気象・気候
4 環境と気象・気候（3）	平地の気象・気候
5 環境と気象・気候（4）	都市の気候
6 気候と生物	生物季節
7 地球温暖化（1）	地球温暖化の発生原因
8 地球温暖化（2）	地球温暖化の影響と対策
9 オゾン層の破壊	オゾン層の破壊と対策
10 酸性雨（1）	酸性雨の発生原因
11 酸性雨（2）	酸性雨の現状
12 酸性雨（3）	酸性雨の影響と対策
13 生活と環境（1）	水質
14 生活と環境（2）	水の利用
15 まとめ	総括

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	講義の目的と内容の概要、地球科学とは
2 地球誕生 I	太陽系
3 // II	太陽の誕生・惑星・地球の誕生
4 大気と海の誕生 I	惑星の大気と海
5 // II	大気の進化と地球環境
6 陸の誕生 I	陸の起源・地殻とマントル
7 // II	陸の誕生と成長
8 プレートテクトニクス I	プレュームテクトニクス
9 // II	プレートテクトニクス
10 // III	テクトニクスによる地球の変化
11 水環境の変化 I	水循環と水収支
12 // II	水質測定
13 // III	湖沼・河川
14 大気環境の変化 I	都市の大気環境
15 // II	大気成分の変化と地球環境

■参考文献

講義時に適宜、指示する。

科目名	総合科目Ⅰ 「国際社会を知る」		
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

この講義では、他の授業では比較的接することが少ないが重要な3つの国や地域を選んで、その国／地域の概要や世界の中での位置づけ、人々の生活など、身近な話題からその国を実感してもらおう、という目的で授業を進めます。講師は、その国／地域とのつながりが濃く、現地での生活経験のある先生方です。

■授業の進め方（履修条件等）

3人の先生がそれぞれの専門の国／地域について講義します。履修者は、基礎的情報の習得から、各自がその国／地域に関し意見が持てる程度までの学習が求められます。資料が配付されることもありますが、基本的にノートをしっかりとりながら聴講しましょう。先生方はそれぞれ5回の講義で各国／地域の全体像を知ってもらおうと全力で講義されます。ノートは、講義を聴きながら早書きのメモで記録し、後でわかりやすいようまとめ直しましょう。

■成績評価方法・基準

レポート（アラブのシリーズでは必須）と定期試験（出席状況・小テスト等を若干加味）で決めます。但し定期試験時に電力供給が逼迫すれば全てレポートになるかも知れません。定期試験は小論文方式で、3人の先生が1問ずつ出された3つの問題のうち2つを選んで解答します。定期試験では、講義内容を理解した上で自分の意見が書けるかどうかをみます。配付資料のcopy & pastelは評価されません。

■授業の予習・復習

復習として、授業中のメモを後で見てもわかるような講義録にまとめなおす作業を1回1回すぐにやっておきましょう。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。読んでおきましょう。

科目名	総合科目Ⅱ 「国際社会を知る」		
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

この講義では、他の授業では比較的接することが少ないが重要な3つの国や地域を選んで、その国／地域の概要や世界の中での位置づけ、人々の生活など、身近な話題からその国を実感してもらおう、という目的で授業を進めます。講師は、その国／地域とのつながりが濃く、現地での生活経験のある先生方です。

■授業の進め方（履修条件等）

3人の先生がそれぞれの専門の国／地域について講義します。履修者は、基礎的情報の習得から、各自がその国／地域に関し意見が持てる程度までの学習が求められます。資料が配付されることもありますが、基本的にノートをしっかりとりながら聴講しましょう。先生方はそれぞれ5回の講義で各国／地域の全体像を知ってもらおうと全力で講義されます。ノートは、講義を聴きながら早書きのメモで記録し、後でわかりやすいようまとめ直しましょう。

■成績評価方法・基準

評点は、出席状況・小テスト等を若干加味し、主として定期試験の結果によって決めます。単位取得のため必須のレポートが出される場合もありますので、ご注意ください。定期試験は小論文方式で、3人の先生が1問ずつ出された3つの問題のうち2つを選んで解答します。定期試験では、講義内容を理解した上で自分の意見が書けるかどうかをみます。配付資料のcopy & pastelは評価されません。

■授業の予習・復習

復習として、授業中のメモを後で見てもわかるような講義録にまとめなおす作業を1回1回すぐにやっておきましょう。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。読んでおきましょう。

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	東欧という地域について（講義の前5分間ガイダンスがあります）	
2	東欧を知ろう (森下 嘉之)	東欧の歴史を振り返る(19世紀以前を中心に)
3		東欧の歴史を振り返る(20世紀前半を中心に)
4		社会主義という経験(20世紀後半)
5		東欧のいま(21世紀のチェコを中心に)
6	アラブ世界を知る (水口 章)	アラブ人と国家(20世紀の創造物としての国境)
7		国民国家と少数派(宗教的少数派と民族的少数派)
8		今日のアラブ社会(人口、結婚、女性、教育)
9		アラブ諸国の経済(農業、商業、石油産業)
10	時事問題から見るアラブ諸国(「アラブの春」の行方、中東和平問題)	
11	深まる東南アジアと 日本の経済関係 (山田 紀彦)	東南アジアの概要と歴史
12		ベトナム戦争
13		開発独裁と経済発展
14		東南アジアの民主化
15		東南アジアの社会主義

■教科書

テキストはありません。ノートをしっかりとって下さい。

■参考文献

各担当講師からその都度参考文献の紹介があります。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	南北朝鮮の人々の暮らし（講義の前5分間ガイダンスがあります）	
2	朝鮮半島を知ろう (文 浩一)	南北分断の歴史と統一問題
3		韓国の政治と経済
4		北朝鮮の政治と経済
5	小テスト	
6	ベトナムの現代史と 人々の暮らし (小高 泰)	ベトナムの歴史と日本とのつながり
7		ベトナムから見た中国、ソ連、アメリカとの関係
8		フランス、アメリカとの戦争と国民生活
9		市場経済制度の中の生活の変化
10	小テスト	
11	ロシアを知ろう (巽 由樹子)	ロシア帝国の時代
12		ロシア革命
13		スターリン時代
14		戦後ソ連の生活文化
15		小テスト

■教科書

テキストはありません。ノートをしっかりとって下さい。

■参考文献

各担当講師からその都度参考文献の紹介があります。先生が推薦された参考図書は極力メディアセンターに入れておくようにします。

科目名	海外事情研修 I (アメリカ)			
担当者	教務部委員会 <i>Kyoumubu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

- ①英語力の向上
- ②アメリカ社会に関する文化理解の増進

■授業の進め方（履修条件等）

- ①アメリカ・ポートランド州立大学での語学研修と本学での事前研修
- ②夏季休暇期間中を予定
- ③研修スケジュール内容は学生支援室で照会
※ホストファミリーとの自由時間は人生の貴重な経験です

■成績評価方法・基準

出席（70%）・レポート及びその他の課題（30%）
レポートは帰国後提出

■授業の予習・復習

研修中は予習・復習に時間を十分当てる

■教科書

ポートランド州立大学の教材を使用

■参考文献

指定しません。

■授業内容

- ①研修実施大学での語学研修
- ②本学での事前研修
帰国後にはレポートを提出
- ③ホームステイ先または寮（研修先により異なります）での英語による生活

科目名	海外事情研修 II (中国)			
担当者	教務部委員会 <i>Kyoumubu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

- ①中国語の向上
- ②中国社会に関する文化理解の増進

■授業の進め方（履修条件等）

- ①中国の北京第2外国語学院での語学研修と本学での事前研修
- ②夏季休暇期間中を予定
- ③研修スケジュール内容は学生支援室で照会
※寮での生活は人生の貴重な経験です

■成績評価方法・基準

出席（70%）・レポート及びその他の課題（30%）
レポートは帰国後提出

■授業の予習・復習

研修中は予習・復習に時間を十分当てる

■教科書

北京第2外国語学院指定のテキスト使用

■参考文献

指定しません。

■授業内容

- ①研修実施大学での語学研修
- ②本学での事前研修
帰国後にはレポートを提出
- ③ホームステイ先または寮（研修先により異なります）での中国語による生活

科目名	海外事情研修Ⅲ (オーストラリア)			
担当者	教務部委員会 <i>Kyoumubu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

- ①英語力の向上
- ②オーストラリア社会に関する文化理解の増進

■授業の進め方（履修条件等）

- ①国立ジェームス・クック大学での語学研修と本学での事前研修
- ②夏季休暇期間中を予定
- ③研修スケジュール内容は学生支援室で照会
※ホストファミリーとの自由時間は人生の貴重な経験です

■成績評価方法・基準

- 出席（70%）・レポート及びその他の課題（30%）
レポートは帰国後提出

■授業の予習・復習

研修中は予習・復習に時間を十分当てる

■教科書

国立ジェームス・クック大学の教材を使用

■参考文献

指定しません。

■授業内容

- ①研修実施大学での語学研修
- ②本学での事前研修
帰国後にはレポートを提出
- ③ホームステイ先または寮（研修先により異なります）での英語による生活

科目名	海外事情研修Ⅳ (イギリス)			
担当者	教務部委員会 <i>Kyoumubu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

- ①英語力の向上
- ②イギリス社会に関する文化理解の増進

■授業の進め方（履修条件等）

- ①国立ウルバーハンプトン大学での語学研修と本学での事前研修
- ②夏季休暇期間中を予定
- ③研修スケジュール内容は学生支援室で照会
※ホストファミリーおよび寮での時間は人生の貴重な経験です

■成績評価方法・基準

- 出席（70%）・レポート及びその他の課題（30%）
レポートは帰国後提出

■授業の予習・復習

研修中は予習・復習に時間を十分当てる

■教科書

国立ウルバーハンプトン大学の教材を使用

■参考文献

指定しません。

■授業内容

- ①研修実施大学での語学研修
- ②本学での事前研修
帰国後にはレポートを提出
- ③ホームステイ先または寮（研修先により異なります）での英語による生活

科目名	地域ボランティア活動			
担当者	松藤 和生 Kazuki Matsufuji			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

ボランティア活動や社会貢献についての基礎的知識・原理原則並びに地域ボランティア活動の種類・活動方法を学び、一人ひとりの学生が、自己にあった地域ボランティア活動をみつけだし、社会人・企業人としての心構えを学ぶ事を目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

ボランティア活動の基礎知識を講義により習得する。教員・福祉関係職を希望するものはもちろんだが、サービス職・営業職などを希望する学生でボランティア活動に興味がある学生は受講することが望ましい。

■成績評価方法・基準

各自のボランティア活動の体験や将来の取組みについてレポートを期末に提出。定期試験は、教科書持込によるボランティア活動の基礎的知識の確認。定期試験50%・レポート50%で評価。

■授業の予習・復習

予習：特別に予習は必要ない。

復習：授業の中で紹介されたボランティア活動で自身の興味のあるものについて、インターネット等を利用して調べる。

■教科書

『いちばんはじめのボランティア』（樹村房）

■参考文献

なし

科目名	日本史概論 I			
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業では、教員として歴史の授業を担当できるようになるために、古代・中世の基礎的な知識と指導法を身に付けることをねらいとする。各単元の基礎的な歴史用語や、歴史の流れを理解すること、そしてそれを授業で教える工夫ができるようになることを目標としている。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、最初に小テストを実施。その後、各単元をまとめたプリントに基づき、歴史の流れを解説する。またその際に、指導上の留意点なども解説する予定である。学習した単元については、指導案と板書ノートを作成すること。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、小テスト（25%）、指導案・板書ノート（25%）

■授業の予習・復習

予習：高校時代の教科書・史料集などを読んでおくこと

復習：小テストに備えて歴史用語の暗記、指導案・板書ノートの作成

■教科書

『詳説日本史図録』（山川出版）

■参考文献

『日本史用語集』（山川出版）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ボランティアの原理・原則	ボランティアとは何か？
2	ボランティア活動の理念	ボランティアの基本と性格
3	ボランティア活動の歴史	「ボランティア」の起源、ボランティア活動の歴史
4	ボランティア活動の法と制度	NPO法、ボランティア活動と助成団体、ボランティア保険
5	ボランティア関係機関	社会福祉協議会、ボランティアセンター
6	ボランティア活動の担い手	わが国のボランティア活動者の推移
7	地域社会とボランティア活動	小地域の定義と地域ボランティア活動
8	社会福祉施設とボランティア活動	社会福祉施設の種類と社会福祉施設でのボランティア活動
9	福祉教育とボランティア活動	福祉教育としてのボランティア活動
10	災害支援とボランティア活動	災害時のボランティア活動
11	企業の地域貢献とボランティア活動	企業と地域の繋がり、日本企業の地域貢献活動
12	ボランティア活動の新しい形	NPO法、住民参加型有償サービス、地域通貨
13	国際社会とボランティア	海外のボランティア活動、国際支援、NGO活動
14	ボランティアコーディネーター	ボランティアコーディネーターの活動
15	これからのボランティア活動	ボランティア論再考、ボランティア活動再考

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、指導案の書き方
2	第1講 日本文化の黎明	旧石器時代～弥生時代
3	第2講 古代国家の成立	ヤマト政権
4	第3講 古代国家の確立	推古朝の政治～持統朝の政治
5	第4講 律令国家(1)	律令制度
6	第5講 律令国家(2)	奈良時代
7	第6講 王朝国家(1)	律令国家の再建、摂関政治
8	第7講 王朝国家(2)	荘園制、武士の成長、院政
9	第8講 古代の文化	飛鳥文化、白鳳文化、天平文化、弘仁貞観文化、国風文化、院政期文化
10	第9講 武家政権の成立	鎌倉幕府の成立、執権政治
11	第10講 武家社会の成長	鎌倉時代の社会経済、元寇、幕府の衰退
12	第11講 武家社会の発展	建武の新政と南北朝の動乱、室町幕府と守護大名
13	第12講 武家社会の変質(1)	東アジア諸国との通交関係、惣村と土一揆
14	第13講 武家社会の変質(2)	戦国大名、国一揆・一向一揆
15	第14講 中世の文化	鎌倉文化、北山文化、東山文化、戦国期文化

科目名	日本史概論Ⅱ			
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業では、教員として歴史の授業が担当できるようにするために、近世・近代の基礎的な知識と指導法を身に付けることをねらいとする。各単元の基礎的な歴史用語や、歴史の流れを理解すること、そしてそれを授業で教える時の工夫などを考えることができるようになることを目標としている。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、最初に小テストを実施。その後、各単元をまとめたプリントに基づき、歴史の流れを解説する。またその際に、指導上の留意点なども解説する予定である。学習した単元については、指導案と板書ノートを作成すること。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、小テスト（25%）、指導案・板書ノート（25%）

■授業の予習・復習

予習：高校時代の教科書・史料集などを読んでおくこと
 復習：小テストに備えて歴史用語の暗記、指導案・板書ノートの作成

■教科書

『詳説日本史図録』（山川出版）

■参考文献

『日本史用語集』（山川出版）

科目名	世界史概論Ⅰ			
担当者	山本 健 Takeshi Yamamoto			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

概論Ⅰでは文明の発生から1500年頃のルネサンス期までを学習する。
 洋の東西を問わず、古代から中世までの歴史の流れを大雑把に捉えれば、それは各時代に存在した孤立・特殊文化が様々な政治・経済的な契機で融合していく過程である、といえる。しかも①各文明は宗教をまとった宗教国家である点で共通していた。この宗教国家から、②宗教と世俗権力との闘争を経て世俗国家が準備された。この2点の構造や変質過程を明らかにしてみたい。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は高校時代の『世界史』の教科書に沿って行う。また事前に配布するプリントを読んで、自分が理解できなかった事柄を質問シートに記させ、それに答える形で授業を進める。

■成績評価方法・基準

試験そして質問シートの提出状況などで評価。原則として、出席率が規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。

■授業の予習・復習

予習：高校時代の『世界史』の該当する箇所を読んで、疑問点などを整理しておくこと。
 復習：受講後、質問シートを再検討すること。

■教科書

毎回配布するプリント

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	第15講 近世社会の成立	ヨーロッパ人の来航、織豊政権
2	第16講 幕藩体制の成立	江戸幕府の成立、鎖国
3	第17講 幕藩体制の確立	文治政治、産業の発展
4	第18講 幕藩体制の動揺	三大改革、欧米の接近
5	第19講 近世の文化	安土桃山文化、寛永文化、元禄文化、化政文化
6	第20講 幕藩体制の崩壊	開国、幕末の政局
7	第21講 近代国家の形成	明治維新、初期外交、富国強兵・殖産興業
8	第22講 近代国家の確立	自由民権運動、憲法制定
9	第23講 立憲国家の展開	政党と藩閥、日清戦争
10	第24講 大日本帝国の成立	日露戦争、日本資本主義の確立
11	第25講 第1次世界大戦と日本	大正政変、護憲体制
12	第26講 ワシントン体制と日本	ワシントン会議、大正デモクラシー
13	第27講 大日本帝国の崩壊	満州事変、日中戦争、太平洋戦争
14	第28講 戦後の日本	戦後改革、経済復興
15	第29講 近代の文化	明治・大正・昭和の文化

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	世界の歴史の発展過程	四大文明の特徴（共通点と相違点）
3	旧約聖書の世界	古代オリエントと旧約聖書の内容
4	東地中海世界	古代ギリシアの都市国家、その特徴（古代民主制）とその限界
5	全地中海世界の誕生	領土の拡大に伴う分割統治、共和制から帝政（毒さ制）の出現
6	キリスト教の成立と発展	キリスト教の国教化（政治利用）と寛容度を失うキリスト教の誕生
7	西洋古代世界の没落	4世紀ゲルマン民族移動の意義、古代帝国崩壊の原因（一元的価値）
8	イスラム世界 ①	宗教権力と世俗権力の一体化した宗教国家から聖俗分離国家へ
9	イスラム世界 ②	十字軍の攻撃とモンゴル人の侵入
10	モンゴル帝国の出現とその意義	民族の統一と征服運動
11	元の成立と中国支配	東西交易の活発化に伴う人物の往来の意義
12	ヨーロッパ西歐世界の形成	カール大帝の登場と東ローマからの自立（西歐世界の成立）
13	西歐封建制社会の発展	森林開墾と定着農業の普及に伴う分権的な社会の出現—封建制度
14	十字軍と都市の発達	商業の復活に伴う中世都市の自治権獲得
15	西歐中央集権国家の成立	王権による分権化状態の克服（政治的な統一化）

■参考文献

『詳説世界史』（山川出版）、世界史用語集』（山川出版）

科目名	世界史概論Ⅱ			
担当者	山本 健 Takeshi Yamamoto			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

前期の概論Ⅰの講義を受けて、概論Ⅱではヨーロッパ世界を中心に、絶対主義の時代までを学習する。絶対主義の①支配の正当性とは、②戦争の正当性とは、③近代国家の矛盾や、④複合民族国家の矛盾などの問題点を考え、近代という時代の合理化の過程に潜む差別体質やその本質などを明らかにする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は高校時代の『世界史』の教科書に沿って行う。また事前に配布するプリントを読んで、自分が理解できなかった事柄を質問シートに記させ、それに答える形で授業を進める。

■成績評価方法・基準

試験として質問シートの提出状況などで評価する。原則として、出席率が規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。

■授業の予習・復習

予習：高校時代の『世界史』の該当する箇所を読んで、疑問点などを整理しておくこと。

復習：受講後、質問シートを再検討すること。

■教科書

毎回配布するプリント

科目名	地理学概論Ⅰ			
担当者	永野 征男 Yukio Nagano			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

学問としての「地理学」の特色は、この広大な地表上にみられる自然と人間との関わりを扱うことにある。つまり、人間生活にとって基本となる事象の見方と、またどのように考えたら良いのかを習得する。とくに本授業では、異文化理解に焦点をあて、世界一の多文化社会である合衆国を事例に考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

社会系の教職課程履修者は必修である。授業では、講義内容のプリント（ノート作成を兼ねた）を配布し、視聴覚教材を多用しながら進行する。後期の概論Ⅱの受講も強く希望する。

■成績評価方法・基準

定期試験結果（70%）に出席状況（30%）を加味し、総合的な評価をおこなう。

■授業の予習・復習

全講義を通して、多くのプリント類が配布されるので、毎時後に整理することが肝要である。

■教科書

とくに使用する予定はない。配布物で代用する。

■参考文献

授業の中で、進度に合わせて関連図書等の紹介をする。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 前期の講義の総括	ヨーロッパ封建社会（分権化状態）の成立—発展—崩壊（中央集権国家の成立）
3 ヨーロッパ近代の誕生 ①	ルネサンス—近代精神の誕生
4 ヨーロッパ近代の誕生 ②	ヨーロッパ世界の拡大—大航海時代の幕開け
5 ヨーロッパ近代の誕生 ③	宗教改革
6 ヨーロッパ近代国家の形成 ①	絶対主義の概念説明と社会構造
7 ヨーロッパ近代国家の形成 ②	スペイン、イギリス、オランダの3国関係とフランスの独自性
8 ヨーロッパ近代国家の形成 ③	30年戦争とプロイセンとオーストリア
9 ヨーロッパ近代国家の形成 ④	ロシアの膨張とポーランド消滅の運命
10 ヨーロッパ列強の植民活動	絶対主義国家を支えたアジア・アフリカの役割
11 アメリカの独立革命	社会契約に基づく人工国家の誕生
12 アメリカ独立宣言の特徴	ジョン=ロックの抵抗権と幸福なる期待権の意義
13 国家システムの移り変わり	国王を中心とする主権国家
14 オランダの世紀（17世紀）	繁栄を支えた、アジア、特に日本（長崎の出島）貿易の役割
15 まとめ—ヨーロッパの絶対主義とその役割	諸問題への仮設提示

■参考文献

『詳説世界史』（山川出版）、『世界史用語集』（山川出版）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義内容のガイダンス	いま、なぜ異文化理解が大切か
2 多文化国家への認知度	アンケート調査を実施
3 合衆国へのアプローチ	地名研究からみえる歴史性
4 民族ごとの居住地選定	自然環境と都市形成
5 教育システムと国民性	歴史にみる学校制度の変遷
6 教育組織の日米比較	大学の誕生と組織上の差異
7 注目の地理教育	州立ワシントン大の現状
8 実社会に有効な高等教育	大学院に対する高認識
9 米社会とMBA資格	制度の特色と人気の低迷
10 留学と移民	国民性とは何か
11 米国大学の海外進出	最盛期そして今
12 米国大学の日本への進出	新潟県胎内市の事例
13 少数民族集団の位置づけ	ワスプ層との対比
14 先住アメリカ人の苦悩	ルーツと社会的な認識
15 まとめ	国家と国民性

科目名	地理学概論Ⅱ			
担当者	永野 征男 Yukio Nagano			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

地理学の中でも、「アメリカ地誌」に絞り講義をする。わが国とあらゆる面で密接な関係にある合衆国を理解することが、結果として日本を知ることにも通じる。多文化・多民族社会を特徴とする近代国家アメリカは、その国民性を学ぶことで、この国のさまざまな謎も解けてくる。

■授業の進め方（履修条件等）

社会系の教職履修者にとって、本講義は必修である。毎時の講義では、関連する資料プリントをノートとしても使用する。異文化を扱うために、できるだけ視聴覚教材を多用する。「概論Ⅰ」の受講を希望する。

■成績評価方法・基準

定期試験結果（70%）に出席状況（30%）を加味し、総合的な評価をおこなう。

■授業の予習・復習

毎時、多数のプリント類が配布される。それらの系統的な整理が肝要である。

■教科書

とくに使用しない。配布プリントで代用する。

■参考文献

授業の進度に合わせ、関連図書類を紹介する。

科目名	地誌学Ⅰ			
担当者	戸田 真夏 Manatsu Toda			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

地誌学は特定の地域の「地域性」を研究する学問である。地域性は景観から読み取ることができる。授業では担当者が海外で撮影した写真を使って各地の紹介を行うことで、景観から読み取れることを理解してもらう。授業を通して知らない地域に対する興味が高まり、どこかへ出かけたくなくなってもらうことを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

パワーポイントで授業を進める。担当者が旅先で撮影した写真を使って各地の紹介を行い、読み取れることを解説する。写真とともに文字での説明を示すこともある。

■成績評価方法・基準

評価方法：期末試験のみの予定
評価基準：取り扱った各地の地域性を理解していること

■授業の予習・復習

授業内容を理解できるように、地図帳を見ながら十分予習復習すること。

■教科書

なし

■参考文献

授業内で適宜紹介予定

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義の概要説明	授業の流れと学習法
2 国家における民族グループ	マジョリティとマイノリティ
3 アメリカ・インディアンへの再認識	「概論Ⅰ」の補充部分
4 移民史にみる日系アメリカ人①	明治期の日本の国内事情
5 移民史にみる日系アメリカ人②	ハワイ王国と日本人
6 移民史にみる日系アメリカ人③	アメリカ本土への流入時期
7 移民史にみる日系アメリカ人④	第二次世界大戦時の苦悩
8 旧日本人町の実態	シアトル市街地の事例
9 急増するヒスパニック	不法流入の諸問題
10 ユダヤ系アメリカ人の実力	政財界への影響力
11 都市内におけるマイノリティ	ロサンゼルス暴動にみる階層差
12 民族の住み分け現象	生態学的な分析結果
13 地理的事象の具体例①	カリフォルニア州の農業問題
14 地理的事象の具体例②	カリフォルニア州の産業実態
15 まとめ	多民族社会と日本との比較

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義予定内容の紹介と地理学、地誌学の説明
2 地中海紀行（気候）	地中海性気候の説明とスペインの生活
3 地中海紀行（サッカー）	スペインのサッカー
4 地中海紀行（食）	スペインにおける自然条件と「食」の関係
5 地中海紀行（イタリア）	イタリアの気候と生活とサッカー
6 ネパール紀行（山岳地域の水事情）	ヒマラヤにおける住民の水利用状況について
7 ネパール紀行（平原の水事情）	テライ平野における住民の水利用状況について
8 ネパール紀行（発電事情）	トリスリ川上流域の自然条件と発電
9 ネパール紀行（体と高所環境）	高山における体調変化
10 火山と生活（ニュージーランド）	ニュージーランドの火山とそこでの人々の生活
11 火山と生活（メキシコ）	メキシコの火山とそこでの人々の生活
12 火山と生活（西ヨーロッパ西部）	スペインの火山とそこでの人々の生活、独仏の火山と日本のかかわり
13 USA紀行（バイクの旅）	コロラド、ワイオミングでのバイク旅で見た自然と生活
14 USA紀行（車の旅）	ミシガン、イリノイ、ウィスコンシンでのレンタカーで回った際に見た自然と生活
15 空からの景観	国際線の機上から見た様々な景観の解説

科目名	地誌学Ⅱ			
担当者	戸田 真夏 <i>Manatsu Toda</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

日本の人々が生活する地域・風土・環境の基本的な地理的特徴について学びます。各地域に広がる景観について講義し、地域にある特徴の見方・捉え方を学びます。対象として日本を取り扱うが、環境と人間活動の関わりについて理解するとともに、世界と日本の地理的関わり・位置づけについても理解することを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

PowerPoint（パワーポイント）を使用して講義を行います。

■成績評価方法・基準

レポートで評価を行います。出席および授業の取り組みも重視します。

■授業の予習・復習

普段から日本の各地域について関心を持ち、新聞・インターネット・テレビ等から様々な地域情報を得ることを心掛けること。

■教科書

教科書は特に指定しませんが、地図帳を持参して下さい。

■参考文献

必要に応じて、授業内に適宜紹介します。

科目名	哲学概論Ⅰ			
担当者	小林 秀樹 <i>Hideki Kobayashi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの方・考え方を身につけ、哲学という営みもつ意義について理解を深めることをねらいとする。前期は古代ギリシャの哲人に学び、各々の思索の特色や相違を理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

哲学概論Ⅰ（前期）は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。講義を通じて、世界や人間存在に関する多様な見方・考え方があつことに気づき、思惟することの楽しさが実感できるよう進めたい。

■成績評価方法・基準

定期試験の結果（70%）、授業態度ならびに小レポート（30%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：該当する部分の教科書を読み、重要と思われる点・不明な点などに傍線を引いておくこと。

復習：講義内容について理解できなかった点を中心に調べ、講義内容の理解を深めておくこと。

■教科書

貫成人『図説・標準 哲学史』新書館

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	講義予定内容の紹介と地理学、地誌学の説明
2	日本の領土・領域	日本の地域区分について
3	日本の風土と環境	湿潤変動帯
4	日本の自然観	日本人と自然環境について
5	日本の自然と人間活動	日本の自然と人々の関わり合いについて
6	平野・台地の人々の生活	平野・台地の地形と土地利用について
7	山地の人々の生活	中央高地の地形と生活
8	川・海の水と産業	三陸の自然環境と生活
9	都市の人間活動	都市部の生活
10	地域の環境と開発	秘境黒部 観光ルートと電源開発
11	地域と産業	水をめぐる産業立地
12	地域と観光	観光地の明と暗
13	風土と食	名物にうまいもの・・・
14	交通	機上から見た日本
15	房総の地方誌	地質と水と生活

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション —哲学で学ぶこと	・「哲学」の語源 ・哲学はどのようなことを問題にするのか
2	自然哲学（1）	・古代のギリシャ世界（歴史、民族、文化） ・イオニア学派の哲学
3	自然哲学（2）	・エレア学派の哲学
4	自然哲学（3）	・多元論者・原子論者の哲学
5	ソフィストの登場	・ソフィスト登場の背景と意義 ・ピュシスからノモスへ
6	ソクラテス（1）	・無知の知、問答法、魂への配慮
7	ソクラテス（2）	・ソフィストとの相違 ・正義について（1）
8	プラトン（1）	・イデア論
9	プラトン（2）	・国家論 ・正義について（2）
10	アリストテレス（1）	・イデア論批判 ・アリストテレスの形而上学
11	アリストテレス（2）	・アリストテレスの論理学
12	アリストテレス（3）	・アリストテレスの倫理学 ・正義について（3）
13	ヘレニズムの思想	・ゼノン、エピクロス ・ヘレニズム
14	ユダヤ・キリスト教 思想との出会い	・西洋思想のもう一つの源流について
15	講義のまとめ	・要点の確認、質疑応答

■参考文献

荻野弘之『哲学の饗宴』日本放送出版協会
今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫

科目名	哲学概論Ⅱ			
担当者	小林 秀樹 <i>Hideki Kobayashi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの見方・考え方を身につけ、哲学という営みがかもつ意義について理解を深めることをねらいとする。後期はユダヤ・キリスト思想との葛藤を経て近代に到る西洋哲学の歩みを理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

哲学概論Ⅱ（後期）は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。後期はユダヤ・キリスト教および主に近世以降の哲学思想を扱うが、映像資料なども用いて講義を進めたい。

■成績評価方法・基準

定期試験の結果（70%）、授業態度ならびに小レポート（30%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：該当する部分の教科書を読み、重要と思われる点・不明な点などに傍線を引いておくこと。

復習：講義内容について理解できなかった点を中心に調べ、講義内容の理解を深めておくこと。

■教科書

貫成人『図説・標準 哲学史』新書館

科目名	比較政治学			
担当者	櫛田 久代 <i>Hisayo Kushida</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

世の中を知り考えるための一つの方法論として政治学を学びます。授業では、政治学の基礎概念や政治の仕組みについての理論に重点を置いています。そして、この授業を通して、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。学則では、単位取得のためには、原則として3分の2以上の出席が履修条件です。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習として心がけてほしいのは、日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。

復習としては、授業でわからなかったことを自分で調べ、ノートに整理することを試みて下さい。

■教科書

指定無し。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション —後期で学ぶこと	・前期の復習
2	ユダヤ教（1）	・ヘブライ民族の歴史 ・旧約聖書（創世記）について
3	ユダヤ教（2）	・モーセの出エジプト ・シナイ契約
4	キリスト教（1）	・キリストの生涯（1）
5	キリスト教（2）	・キリストの生涯（2）
6	キリスト教（3）	・贖罪論、教義の確立
7	中世の思想	・教父哲学 ・スコラ哲学の概要
8	ルネサンスの思想	・古典復興、人間と世界の再発見、宗教改革
9	ベーコン	・イドラ論、帰納法
10	デカルト	・方法的懐疑 ・心身二元論
11	ロック—経験論の哲学	・イギリス経験論 ・社会契約論①
12	ルソー	・「自然に帰れ」 ・社会契約論②
13	カント（1）	・理性の限界、コペルニクスの転回
14	カント（2）	・義務倫理学
15	講義のまとめ	・要点の確認、質疑応答

■参考文献

山形孝夫『聖書物語』岩波書店
今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	政治を見る目	日本政治の今
2	国家について（1）	権力と国家
3	国家について（2）	国家
4	ナショナリズム（1）	国民国家とナショナリズム
5	ナショナリズム（2）	民族のナショナリズム
6	ナショナリズム（3）	ビデオ鑑賞
7	民主政治（1）	民主政治の起源
8	民主政治（2）	民主政治の発達
9	民主政治（3）	民主政治の定義をめぐって
10	選挙（1）	選挙制度
11	選挙（2）	選挙制度改革
12	政治組織（1）	政党制
13	政治組織（2）	政党変遷の流れ
14	政治組織（3）	利益集団
15	まとめ	現代の日本政治

■参考文献

久米郁男他編『政治学（New Liberal Arts Selection）補訂版』（有斐閣、2011年）他。
参考文献は、3階メディアセンターの「指定図書」櫛田コーナーにあります。

科目名	社会学概論			
担当者	菊池 真弓 <i>Mayumi Kikuchi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

本授業では、社会学的な理論や方法論、社会学の歴史を学ぶことを目的とする。また、新聞や統計・世論調査、ビデオ教材、ロールプレイなどに基づき、現代社会に起こっている社会問題と課題について学び、考え、討論につなげる力をつけることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業の進め方は、社会学の理論や方法論、歴史などの基礎を学びながら、私たちの身近な人間関係、集団との関係、現代社会に起こっている少子高齢化、環境、ジェンダーなどの問題とその課題について考え、報告・討論を行う。

■成績評価方法・基準

レポート課題及び口頭発表（70%）、授業内の課題（10%）、授業態度（20%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：次回のテーマを事前予告して、資料収集や身近な社会問題に関心をもってもらう。

復習：毎回授業の終了時に授業を振り返り、質問時間を設ける。

■教科書

教科書は使用しない。新聞や統計・世論調査などの資料を必要に応じて配布する。

科目名	自然地理学Ⅰ			
担当者	近藤 昭彦 <i>Akihiko Kondoh</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

自然地理学は“人と自然の関係”を扱う学問分野です。地形学、気候学、水文学、生態学を中心に自然のあり方と生活との関係を、日本と世界各地の事例を通じて学びます。前期は主に地形学に関する内容を解説します。講義を通じて環境の多様性、関連性、空間性、歴史性、階層性を認識する力を身につけることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って講義を進めますが、様々な地域の景観を観察するためプロジェクタを使って画像・写真も紹介します。発展的内容、関連情報も示しながら自然と人の関わりの総合的な理解を目指します。

■成績評価方法・基準

定期試験の成績と出席率を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：基本は教科書を良く読むこと。

復習：教科書にない内容はノートで復習すること。関連する情報を様々な情報源から取得する習慣を身につけること。

■教科書

古今書院、杉谷・平井・松本著、風景の中の自然地理。

■参考文献

講義中にその都度指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	社会学とは何か	社会学的な視点・方法
2	社会的存在としての人間	社会集団と文化
3	社会学の歴史	社会学の成立・確立・展開
4	家族とは何か	現代家族の機能・役割とその変化
5	地域社会とは何か	都市と農村の現状と課題、コミュニティ形成
6	社会問題とは何か	社会問題の定義とその捉え方
7	現代社会の社会問題(1)	少子高齢社会の現状と課題
8	〃 (2)	環境問題の現状と課題
9	〃 (3)	社会福祉の現状と課題
10	〃 (4)	ジェンダーの現状と課題
11	〃 (5)	災害・復興の現状と課題
12	社会調査・社会計画	社会調査・社会計画について
13	社会問題を考える(1)	報告・討論（個人・家族・地域の視点から）
14	〃 (2)	報告・討論（マクロの視点から）
15	社会学を応用する	全体のまとめと今後の展望

■参考文献

秋元・石川・羽田・袖井『社会学入門』有斐閣新書、1991年
森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版、2000年

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義概要概説	自然環境の仕組みについて概説する。
2	火山Ⅰ	日本の風土を形成する火山と人間の関わり（前半）。
3	〃Ⅱ	日本の風土を形成する火山と人間の関わり（後半）。
4	山と川Ⅰ	地形を形成するプロセスと人間の関わり（前半）。
5	〃Ⅱ	地形を形成するプロセスと人間の関わり（後半）。
6	台地と丘陵Ⅰ	暮らしと関わりの深い地形の性質（前半）。
7	〃Ⅱ	暮らしと関わりの深い地形の性質（後半）。
8	平野Ⅰ	人間活動の主要な場である平野の性質（前半）。
9	〃Ⅱ	人間活動の主要な場である平野の性質（後半）。
10	湖沼Ⅰ	湖沼の成因と人間による改変（前半）。
11	〃Ⅱ	湖沼の成因と人間による改変（後半）。
12	海岸Ⅰ	海岸地形の成因と人間による改変（前半）。
13	〃Ⅱ	海岸地形の成因と人間による改変（後半）。
14	日本の地形Ⅰ	これまでに学んだ地形を日本各地の空中写真により判読（前半）。
15	〃Ⅱ	これまでに学んだ地形を日本各地の空中写真により判読（後半）。

科目名	自然地理学Ⅱ			
担当者	近藤 昭彦 Akihiko Kondo			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

自然地理学は“人と自然の関係”を扱う学問分野です。地形学、気候学、水文学、生態学を中心に自然のあり方と生活との関係を、日本と世界各地の事例を通じて学びます。後期は気候・植生および災害について解説します。講義を通じて環境の多様性、関連性、空間性、歴史性、階層性を認識する力を身につけることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書と配付資料に沿って講義を進めますが、プロジェクトを使って様々な画像・写真をみながら発展的内容、関連情報を紹介します。自然と人の関わりを理解し、自然の恵みを享受する態度の習得を目指します。

■成績評価方法・基準

定期試験の成績と出席率を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：基本は教科書を良く読むこと。

復習：教科書にない内容はノートで復習すること。関連する情報を様々な情報源から取得する習慣を身につけること。

■教科書

今書院、杉谷・平井・松本著、風景の中の自然地理。

■参考文献

講義中にその都度指示します。

科目名	環境地理学Ⅰ			
担当者	三澤 正 Masashi Misawa			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

気候環境のなりたちと人間生活との関連を中心として、教職課程の環境地理学としての必要な基本的事項の修得と、環境教育プログラムの作成のための視点および教材化の能力の取得をめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

(1) 太陽エネルギーと地球 (2) 地球をめぐる大気の流れ (3) 環境としての気候の各項目について、基礎的事項から応用的内容へと展開し、高度な知識の習得を目指す。随時行う授業時間内の小テストによって受講者の理解度を確認しながら授業を進める。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）・授業内小テスト（30%）

■授業の予習・復習

予習：教科書の該当部分の予習が求められる。

復習：次週までの課題を通して授業内容の復習をする。

■教科書

三澤正編「大気環境と人間」開成出版

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義概要概説	自然環境と人間の関わりについて概説する。
2 森林と人間Ⅰ	森林の景観の形成と人との関わり（前半）。
3 // Ⅱ	森林の景観の形成と人との関わり（後半）。
4 水と森林Ⅰ	人の暮らしに関わる森林の機能（前半）。
5 // Ⅱ	人の暮らしに関わる森林の機能（後半）。
6 沙漠と沙漠化	乾燥・半乾燥地域の環境と人間の関係。
7 気象・気候と人間Ⅰ	気象・気候がもたらす恵みと災いについて（前半）。
8 // Ⅱ	気象・気候がもたらす恵みと災いについて（後半）。
9 自然災害Ⅰ	低地の災害－水害。
10 // Ⅱ	山地の災害－地すべり、土石流。
11 // Ⅲ	地震・津波災害。
12 // Ⅳ	火山災害。
13 // Ⅴ	その他の災害。
14 地球温暖化と人間Ⅰ	気候変動と人の暮らし。
15 // Ⅱ	食糧・水・エネルギー問題と地球温暖化。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義内容の概要
2 太陽エネルギーと地球(1)	地球をめぐるエネルギーの流れ
3 // (2)	エネルギー収支
4 // (3)	温室効果と日傘効果
5 // (4)	地表面の熱収支
6 地球をめぐる大気の流れ(1)	地表付近の大気の流れ
7 // (2)	子午面循環
8 // (3)	東西流と偏西風の波動
9 // (4)	季節風・局地風
10 環境としての気候(1)	温度環境と人間生活
11 // (2)	温度環境と植物
12 // (3)	水収支と気候の乾湿
13 // (4)	水と人間生活
14 // (5)	自然災害
15 まとめ	授業内容のまとめと討論

科目名	環境地理学Ⅱ			
担当者	三澤 正 Masashi Misawa			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

地球温暖化やヒートアイランドなど人為的影響による大気環境の変化を中心として、教職課程の環境地理学としての必要な基本的事項の修得と、環境教育プログラムの作成のための視点および教材化の能力の取得をめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

(1) 気候変動 (2) 大気汚染 (3) 都市の自然環境の各項目について、基礎的事項から応用的内容へと展開し、高度な知識の習得を目指す。随時行う授業時間内の小テストによって受講者の理解度を確認しながら授業を進める。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）・授業内小テスト（30％）

■授業の予習・復習

予習：教科書の該当部分の予習が求められる。
復習：次週までの課題を通して授業内容の復習をする。

■教科書

三澤正編「大気環境と人間」開成出版

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義内容の概要
2	気候変動（1）	地球気温の推移
3	〃（2）	地球温暖化と気候変化
4	〃（3）	地球温暖化と季節推移の変化
5	〃（4）	気候変動の影響
6	大気汚染（1）	大気汚染の変遷
7	〃（2）	都市の大気汚染
8	〃（3）	大気汚染の広域化
9	〃（4）	酸性雨と森林破壊
10	都市の自然環境（1）	ヒートアイランド
11	〃（2）	都市の砂漠化
12	〃（3）	水質汚濁
13	〃（4）	都市の自然環境変化の要因
14	〃（5）	望ましい都市の自然環境
15	まとめ	授業内容のまとめと討論

科目名	実践会話Ⅰ			
担当者	斉木 かおり Kaori Saiki			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

日常の会話表現を豊かにし、自分の考え、意見を相手に分かりやすく伝えられるようにする。社会や周辺の出来事に目を向け、たくさんの言葉や情報に触れ、自分らしい表現で会話できるようにする。

■授業の進め方（履修条件等）

講義だけでなく、ロールプレイ、会話、スピーチなど実践中心の授業です。ゲーム感覚で、コミュニケーションスキルを楽しく身につけていきます。

■成績評価方法・基準

発表内容及びスピーチ、授業への取り組みで評価。積極的な参加、意欲的な発表を重視します。

■授業の予習・復習

授業に応じてテーマを考えたり 資料を集めたりするなど、課題が出ることがあります。

■教科書

講義ごとに、雑誌、写真、新聞など身近なものを使用。また、プリントをワークシートとして配布。

■参考文献

特になし

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介、コミュニケーションの大切さ
2	声を出そう	聞きやすい声とは？ 発声、滑舌トレーニング
3	会話術	話し言葉と書き言葉の違いは？
4	インタビュー	言葉のキャッチボール
5	実践会話術Ⅰ	わかりやすく話すために
6	〃 Ⅱ	言葉の持つ力、時間感覚をさぐる
7	〃 Ⅲ	会話の楽しさをゲームを通して身につける
8	情報収集	気になる話題を集め、会話にいかす
9	豊かな表現Ⅰ	状況、情景描写にチャレンジ
10	〃 Ⅱ	比喩を使った表現
11	パネルトークⅠ	写真をもとに、話を広げよう
12	〃 Ⅱ	パネルを使って、紙芝居のように話を組み立てる
13	グループディスカッション	テーマを決めて討論
14	スピーチ	実践スピーチに挑戦
15	前期まとめ	前期の振り返り、質疑応答

科目名	実践会話Ⅱ			
担当者	斉木 かおり <i>Kaori Saiki</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

日常の会話表現を豊かにし、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることを目指します。コミュニケーション能力を高めることはもちろん、就職活動に役立つ会話術やマナーも習得する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義だけではなく、ロールプレイ、対話、スピーチなど実践中心の授業です。テーマによっては、小テストもあり、身体全体で自己表現法を習得してもらいます。

■成績評価方法・基準

発表内容及びスピーチ、小テスト、授業への取り組み、積極的な参加を評価します。

■授業の予習・復習

講義によっては、テーマを考えてくるなど、課題が出る場合があります。

■教科書

新聞、雑誌等を使用。プリントを作成し、ワークシートとして配布。

■参考文献

特になし

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	前期のまとめ	前期の振り返り
2	スピーチ実践	夏休みの出来事、体験を伝える
3	プレゼンテーション	図表を使って、伝えるおもしろさを習得
4	敬語Ⅰ	敬語の基本を学ぶ
5	//Ⅱ	ロールプレイやプリントワークで実践的に学ぶ
6	//Ⅲ	小テスト
7	グループディスカッション	相手の意見を聞きながらいかに主張するか
8	自己PRⅠ	自分史を作ってセールスポイントをさがす
9	//Ⅱ	実践自己PR あなたの印象は？
10	マナーについて	学生、社会人としてのマナーとは？
11	面接実践Ⅰ	好印象を持たれるには？
12	//Ⅱ	模擬面接に挑戦しましょう
13	グループスピーチ	説得力のあるスピーチとは？
14	即興スピーチ	今までの力だめし 即興スピーチにチャレンジしましょう
15	後期のまとめ	後期の振り返り、質疑応答

科目名	キャリア基礎開発Ⅰ			
担当者	キャリアセンター <i>Carrier Center</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

PBL (Problem Based Learning : 課題解決型) の授業。ビジネスシーンでの課題に向き合うことで、働くことの厳しさ、やりがいを感じてもらうことが目標です。自分に関する情報、企業など目標に対する情報、それらをとりまく社会に関する情報の3情報の収集の仕方、分析の仕方を学び、それらで発掘できた自分自身のリソースを活用した自分提案のトレーニングは、就活力向上に直結します。

■授業の進め方（履修条件等）

5～6名程度のグループワーク（最大15グループ程度）で授業を進めます。それぞれのグループ毎にディスカッション、意見をまとめ、プレゼンテーションをします。
 ・3年生を優先します（定員80名）。
 ・履修申し込みは、キャリアセンターとします。

■成績評価方法・基準

出席、レポート、授業取組姿勢などで総合的に評価します。

■授業の予習・復習

授業内に指示します。

■教科書

授業内で資料などを配布します。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	Time Table、授業への取り組み方
2	事例1 (A社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析
3	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認
4	インタビュー	社員の方からのヒアリング
5	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表
6	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表
7	プレゼンと評価	社員の方に向けて発表
8	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案
9	事例2 (B社の紹介)	課題提示と状況の推測、課題分析
10	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認
11	インタビュー	社員の方からのヒアリング
12	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表
13	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表
14	プレゼンと評価	社員の方に向けて発表
15	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案

科目名	キャリア基礎開発Ⅱ			
担当者	キャリアセンター <i>Carrier Center</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

日本文化、日本の常識、ビジネス社会で必要な言葉遣い、マナー、ビジネス文書記述、およびプレゼンテーション力を学びます。就職活動においても有意義な内容になっています。

■授業の進め方（履修条件等）

日本の社会での常識を積極的に学びたい人。聴く、書く、まとめる、話す、立ち振る舞う、等々を実践的に行動に移す講座です。

■成績評価方法・基準

定期試験・授業内小テスト・レポート及びその他の課題をもとに採点します。

■授業の予習・復習

講師からの課題は、事前に必ず準備しておいてください。また講義終了後に配布したプリントには必ず目を通しファイリングして下さい。

■教科書

プリントを配布します。

■参考文献

その都度紹介します。

科目名	キャリア基礎開発Ⅲ			
担当者	キャリアセンター <i>Carrier Center</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。

■授業の進め方（履修条件等）

グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など今の社会が必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。

3年生を優先します。（定員80名）

履習申し込みはキャリアセンターとします。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。

■授業の予習・復習

前回講義のワークシート作成

■教科書

マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニmodel、ワークシート

■参考文献

得になし

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ビジネス最前線と授業のねらいを説明します。
2	ビジネスマナーとは	「知らなかった」では済まされない「知る」ことの必要性、重要性の講義をします。
3	ビジネスマナーの基本	第一印象の重要性と身だしなみについて
4	言葉遣い①	尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方について
5	〃 ②	言葉遣いの間違いについて
6	ビジネス文書①	文書の基本と作成手順について
7	〃 ②	文書の作成を実践します。
8	電子メールの基本	メールの基本、ルールとマナーについて
9	電話のかけ方と訪問の仕方	電話対応の基本について講義をします。
10	自己紹介の仕方	プレゼンテーションの仕方について
11	面接の対応①	自己PRについて考えてみます。
12	〃 ②	志望動機について考えてみます。
13	〃 ③	グループディスカッションについて考えてみます。
14	ビジネスマナーの訓練	マナーの実践
15	まとめ	いままでの講義について振り返りと質疑応答します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方
2	行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？
3	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編
4	MYキャリアデザインシート①	自分資源探索編
5	〃 ②	ワークスタイル読解編
6	求人情報からみた企業データ	求人情報読解編
7	コンビニmodelシュミレーション①	買う側から売る側への視点転換
8	〃 ②	データから絵を読む情報読解
9	〃 ③	仮説・検証・修正の実践
10	〃 ④	欲しい情報を引き出す質問
11	〃 ⑤	自分リソース活用との重ね合わせ
12	志望企業調査①	エントリーシートの作成①
13	〃 ②	〃 ②
14	調査発表①	プレゼンテーション、振り返り①
15	〃 ②	〃 ②

科目名	キャリアディベロップメント			
担当者	キャリアセンター <i>Carrier Center</i>			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

1年次に履習したキャリアプランニングの2年生向け授業です。就業力向上・社会化の推進に向けて、社会情勢・就職活動の実態の理解や社会人へのインタビュー等を通じ、社会を知ると同時に自己理解を促します。また、講座を通じ幅広いコミュニケーション能力及び主体性の向上をはかります。

■授業の進め方（履修条件等）

具体的事例を取り入れながら、裏付けとなる理論、考え方を解説し座学と実践演習を併用して進めていきます。2年生を優先します。（定員60名）履習申し込みはキャリアセンターとします。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題により判断します。

■授業の予習・復習

講師より出題された課題は事前に準備をしておいてください。

■教科書

プリントを配布します。

■参考文献

その都度紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス「社会を知る」ことの重要性	導入 動機づけ 現状把握
2	業界動向と就職活動の実態	業界動向 就職活動の実態 就職活動の流れ
3	興味を知る	興味ある職業領域・職業分類について目途を付ける
4	コミュニケーション① 〈社会人と接する/質問する〉	マナー 質問の仕方
5	ゲストスピーチ① 幅広いジャンルより選定	生き様に学ぶ
6	ゲストスピーチ② 実績ある企業人より選定	生き様に学ぶ
7	コミュニケーション② 〈レポート作成の基礎〉	レポート作成
8	OB/OGスピーチ①	生き様に学ぶ
9	OB/OGスピーチ②	生き様に学ぶ
10	コミュニケーション③ 〈インタビューの基礎〉	インタビュー
11	コミュニケーション④ 〈プレゼンテーションの基礎〉	プレゼンテーション
12	発表会	グループ発表
13	自己棚卸・自己理解	タイプの類型と目標
14	活動計画 ①	1回～7回まとめ
15	活動計画 ②	8回～13回まとめ

科目名	キャリア教育特殊講義			
担当者	キャリアセンター <i>Carrier Center</i>			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

産業界の研究をするためには、各種業界を知る必要があります。業界・業種を知るためには数多くの方法がありますが、業界で営業を経験したことのある方から話を聞くこと重要だと考え、営業管理職経験者を招聘します。業界研究は就職活動の基本です。

■授業の進め方（履修条件等）

外部担当講師による講義となります。業界により異なる営業のシステムを学んでいただきます。厳しい部分と楽しい部分仕事のやりがいを語っていただきます。

■成績評価方法・基準

各界ごとの感想レポートを参考にします。遅刻、途中退出は絶対認めません。

■授業の予習・復習

予習：該当業界の事前研究

復習：興味業界の場合一層の研究

■教科書

プリントを配布

■参考文献

プリントを配布

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の案内
2	機械メーカー	日本精工
3	商社	三菱商事
4	金融<銀行>	みずほ銀行
5	電子機器メーカー	(株) ソニー
6	商社<鉄鋼貿易>	三井物産
7	小売<石油>	出光興産
8	機械メーカー	ノベラスシステムズ 〈半導体装置メーカー〉
9	金融<証券>	みずほ銀行インベスター証券 〈法人営業〉
10	食品メーカー	日本ハム
11	商社の鉄鋼ビジネス	丸紅
12	化学メーカー	三井デュポンポリケミカル
13	ファッションアパレル 〈繊維ビジネス〉	元カネボウ興産
14	飲料メーカー	アサヒビール
15	小売<スーパーマーケット>	(株) イトーヨーカ堂

科目名	インターンシップ			
担当者	キャリアセンター <i>Carrier Center</i>			
対象学年	12年度入学	3年	単位	2単位
	09~11年度入学	3年		

■授業のねらいと到達目標

3年生の学生諸君に、夏期休暇中の一定期間、県内外の企業・団体等で実習を行う機会を提供します。企業活動の現場を知るとともに、将来の進路決定の一助としてもらうことを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

「参加者学内選考」→「マッチング（実習先決定）」→「事前指導」→「実習」→「事後指導」の5段階で進みます。形式は、前参加者を集めて「集合研修」並びに担当教員による各学生への「個別指導」の2本立てで行います。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題で評価をします。

■授業の予習・復習

実習先企業等への提出書類、実習先の調査報告、報告書の原稿、報告会のプレゼンテーションなどについては、個別指導を踏まえて、自宅等で作業することを求めます。

■教科書

事前指導時に「講義資料」、実習に行く前に「実習ノート」を配布します。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	4月 ガイダンス	指導方針の説明、前年度参加者の体験談
2	5月 参加者学内選考	書類・面接による選考
3	5月 マッチング	実習先への提出書類の作成、面接の練習
4	6月 事前指導	ビジネスマナー ①
5	6月 事前指導	ビジネスマナー ②
6	6月 事前指導	ビジネスマナー ③
7	7月 事前指導	グループワーク ① ②
8	7月 事前指導	プレゼンテーション ① ②
9	7月 事前指導	スピーチ 直前指導
10	8月 実習	企業・団体等での実習
11	9月 実習	企業・団体等での実習
12	9月 事後指導	実習内容のふりかえり
13	10月 事後指導	実習報告書の執筆・修正
14	11月 事後指導	実習報告会のプレゼンテーション リハーサル
15	11月 事後指導	実習報告会

科目名	基礎演習 I ・ 基礎演習 II			
担当者	土井 修 <i>Osamu Doi</i>			
	中山 幸夫 <i>Yukio Nakayama</i>			
	鈴木 明男 <i>Akio Suzuki</i>			
	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>			
	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
	加茂川 益郎 <i>Masuro Kamogawa</i>			
	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>			
	藤田 明男 <i>Akio Fujita</i>			
	折原 裕 <i>Yutaka Orihara</i>			
	飯野 由美子 <i>Yumiko Iino</i>			
	小山 幸伸 <i>Yukinobu Koyama</i>			
	藤井 輝男 <i>Teruo Fujii</i>			
	金子 林太郎 <i>Rintarou Kaneko</i>			
	岸本 太一 <i>Taichi Kishimoto</i>			
金 珍淑 <i>Jinsuk Kim</i>				
対象学年	1年	単位	各1単位	

■授業のねらいと到達目標

ゼミの仲間や指導者と親しみ、キャンパス・スキル、アカデミック・スキルを身に付け、コミュニケーションやプレゼンテーションの技法を学び、リテラシーやナレッジを深めて、大学生生活を確実にスタートさせます。

■授業の進め方（履修条件等）

指導教員の指示にしたがって下さい。

■成績評価方法・基準

■授業の予習・復習

■教科書

『敬愛大学経済学部基礎演習ドリルI』、他（指導教員の指示によります）。

■参考文献

科目名	基礎演習 I R (a)			
担当者	田 文揚 <i>Fumiaki Den</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

既習事項の確認と基礎学力の定着を図る。大学での学習や演習、及び研究活動へのスムーズなシフトを可能にする為の学力の涵養を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

国語力を点検した上で個々の問題点や課題を明確にする。実用的な演習問題を網羅したテキストを用いて表現力を伸ばす。また、新聞や雑誌等の記事を投げ込み教材とし使い多様な表現力を身につける。

■成績評価方法・基準

定期考査（80％）・授業内小テスト（10％）・レポート及び課題（10％）により評価。

■授業の予習・復習

予習テキストの実践問題の中の未知の用語や表現について下調べしておく。復習テキストの実践問題を再度確認する。

■教科書

「実践国語セミナー」 浜島書店 [浜島書店編集部]

■参考文献

特になし

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	自己紹介・国語力試験及びガイダンス	講義の進め方を説明する。基礎的な国語力テストを実施し、個々の問題点を明確にする。
2	国語力テストの解説及び課題設定	前回のテストを詳細に解説し個々の弱点や問題点を認識する。
3	漢字、語、語句に関する実践問題	テキストの実践問題の中の同音異義語や同訓異字語について学ぶ。
4	熟語と慣用語句	平素使用頻度の高い熟語や慣用語句及び訓読語。
5	反対語・相対字・対照語	使用頻度の高い反対語・相対語・対照語の使い方。
6	同義語・類似後	創作問題を通じて多様な同義語や類似語を学ぶ。
7	四字熟語・故事成語	四字熟語や故事成語の成り立ちと使用の実際を学ぶ。
8	故事とことわざ	故事とことわざの使用の実際を学ぶ。
9	小テスト及びニュース記事	これまでの学習の到達度を計る。ニュース記事の表現を学び読み取る。
10	敬語・尊敬語・丁寧語	敬語・尊敬語・丁寧語の表現の実際を短編小説を通して学ぶ。
11	日本語の表記ルールと多様な表現	テキストの小論文を読み表記のルールと伝わる文章の表現を学ぶ。
12	小論文の実際	与えられたテーマで実際に800字ほどの小論文を書く。
13	小論文の講評	個々の小論文を相互に講評しより伝わる文章のアイデアを話し合う。
14	時事用語・常識用語・手紙文	創作教材を用い時事用語や略語、常識用語を用いた表現の実際。
15	講義の総まとめ	これまでの学習の到達度を計る小テストを実施する。

科目名	基礎演習 II R (a)			
担当者	田 文揚 <i>Fumiaki Den</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

既習事項の中のまだ不確実な学力と問題点を見つけ大学での学習や演習及び研究活動へのスムーズなシフトを可能にする為の国語力の涵養を図る。

■授業の進め方（履修条件等）

現在の国語力を知り個々の課題を見つけ、読み物教材や創作教材を用いて弱点の補強と学力の伸長を図る。新聞や雑誌、短編小説、手紙、小論文等の実際を通して、多様な自己表現の方法を身につける。

■成績評価方法・基準

授業内考査（80％）・小テストほか（20％）で評価。

■授業の予習・復習

予習教材の中の未知の単語や表現について下調べしておく。復習既習事項を確認しておく。また定期的に配布されるプリント教材に目を通す。

■教科書

そのつど授業者が用意する教材を使用する。

■参考文献

特になし

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	日本語の正しい表現	日本語表現のルールと基礎を確認する。
2	ことばの力と表現 1	三字熟語・四字熟語を用いた表現の実際を学ぶ。
3	〃 2	故事成語・ことわざの成り立ちと表現を学ぶ。
4	〃 3	誤りやすい漢字・略語・外来語を学ぶ。
5	〃 4	慣用的な表現と現代用語の基礎知識を学ぶ。
6	〃 5	新聞のニュースを読み必要な情報を見つけ出す。
7	〃 6	手紙文のルールを知り実際に書いてみる。
8	〃 7	カレーとヒラメ語（類似語）そして同義語を150語学ぶ。
9	〃 8	冠婚葬祭・時候の挨拶・賀寿・慶弔の常識を学ぶ。
10	〃 9	伝わりやすい文章と伝わりにくい文章の実例を学び実際に表現してみる。
11	〃 10	名作エッセー 2 作品を読んで優れた表現の実例を学ぶ。
12	〃 11	創作短編小説 1 作品を読んで優れたプロットと表現の実際を学ぶ。
13	〃 12	1200字のエッセーまたは小論文を書いてみる。時間内に終わらない場合は次週までの課題とする。
14	〃 13	それぞれの作品の作者名を伏せて互いに講評する。
15	到達度テスト・講義のまとめと総括	学習到達度を測るテスト・これまでの講義のまとめ及び総括をする。

科目名	基礎演習ⅠR (b)			
担当者	熊木 恒夫 Tsuneo Kumaki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

国語の基礎能力(読む・書く)を高め、各自の「読む力・書く力」を伸ばすことを目指す。長文の評論文や新聞記事を読んで、筆者の主張について自分の考えをまとめて文章化する。芥川賞作家の「エッセイ」を音読して、作者の心情や文章のリズム感を鑑賞したり、繰り返し「読む」実践を通して読書する楽しみを身に付ける。

■授業の進め方(履修条件等)

文章を音読しながら、各段落ごとの内容について適宜質問される事項について自分の意見を発表する。題名にこめられた主旨をくみとったり、筆者が読者に訴えている要点は、何かを見つけ出し、感想文を完成させる。

■成績評価方法・基準

試験は行わない。毎回、「感想文」を提出する(80%)、発表、授業態度等(20%)

■授業の予習・復習

予習:新聞に毎日目を通すことを心掛け、気になる記事について感想を書いてみる。

復習:参考文献としてあげられている評論家・作家の作品を読むことに発展して欲しい。

■教科書

教科書は使用しない。毎回プリントを配布する。

科目名	基礎演習ⅡR (b)			
担当者	熊木 恒夫 Tsuneo Kumaki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

国語の基礎能力(読む・書く)を高め、各自の「読む力・書く力」を伸ばすことを目指す。長文の評論文や新聞記事を読んで、筆者の主張について自分の考えをまとめて文章化する。芥川賞作家の「エッセイ」を音読して、作者の心情や文章のリズム感を鑑賞したり、繰り返し「読む」実践を通して読書する楽しみを身に付ける。

■授業の進め方(履修条件等)

文章を音読しながら、各段落ごとの内容について適宜質問される事項について自分の意見を発表する。題名にこめられた主旨をくみとったり、筆者が読者に訴えている要点は、何かを見つけ出し、感想文を完成させる。

■成績評価方法・基準

試験は行わない。毎回、「感想文」を提出する(80%)、発表、授業態度等(20%)

■授業の予習・復習

予習:新聞に毎日目を通すことを心掛け、気になる記事について感想を書いてみる。

復習:参考文献としてあげられている評論家・作家の作品を読むことに発展して欲しい。

■教科書

教科書は使用しない。毎回プリントを配布する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介。授業内容・受講の際に留意する点・評価の仕方を説明する。
2	考える前に引け	辞書を引けば、確実に言葉の正しい意味と用法が分かることを学ぶ。
3	4月の新聞記事	報道されている内容をまとめる
4	私の血脈	柳美里さんの生い立ち
5	誰にでも心の中に川が流れている	祖父と母が生まれた街、蜜陽
6	5月の新聞記事	報道されている内容をまとめる
7	金婚老事件の年に生まれて	柳美里の生まれた年の世相
8	処女創作集のふるえ	「小説とは何か」ということの悩み
9	6月の新聞記事	報道されている内容をまとめる
10	私は小説を書く	「私はなぜ小説を書くのか」ということの迷い
11	2分の1の受賞	芥川賞をはじめ3回の文学賞はダブル受賞
12	孫基禎さんは祖父の友人	ベルリン五輪のマラソン金メダリストは祖父の友人
13	孫基禎さんの孫との友情	マラソンを通じて親交を深めた友人
14	7月の新聞記事	報道されている内容をまとめる
15	前期のまとめと反省	各自のまとめと反省

■参考文献

呉智英「言葉の常備薬」
柳美里「世界のひびわれと魂の空白を」

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介。授業内容・受講の際に留意する点・評価の仕方を説明
2	柳美里さんの作家の略歴	各文学賞の受賞
3	花と卒業式の春に	15の春に高校を放校処分に
4	哀悼と祝福	同じ日に高校の恩師のしのぶ会と友人の結婚式
5	10月の新聞記事	報道されている内容をまとめる
6	村上龍氏の言説への批判	中学生の所持品検査
7	「家族シネマ」の原型	柳美里さんの家族構成
8	世の中でいちばん偉そう	自分の仕事へのプライド
9	11月の新聞記事	報道されている内容をまとめる
10	あふれる思いの結晶	友人で自殺した作家 鷺沢朋(さざさわ めぐむ)
11	妖艶なる謁見	孔子と南子の会見について、子路の詰問
12	12月の新聞記事	報道されている内容をまとめる
13	あえて火中の栗を拾う	上野千鶴子さんからの激励文
14	映画鑑賞	感動したところをまとめる
15	後期のまとめと反省	各自のまとめと反省

■参考文献

呉智英「言葉の常備薬」
柳美里「世界のひびわれと魂の空白を」

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済と経営についての理解を深め、知識を広め、専門導入の目標達成を図る。

■授業の進め方（履修条件等）

配布した資料を輪読し、必要に応じて解説を加えるという方法を取る。また、夏休みには新書版の本の中から選び1冊読んでレポートを出してもらい、秋から一時その発表に時間を割く。

■成績評価方法・基準

レポート、口頭発表、出席状況等を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

演習の時間に、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。

■教科書

使用しない。コピーした教材を配布する。

■参考文献

学生の研究したい分野に応じて十分なる文献を紹介したい。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	演習の方針と進め方等について。また、ゼミを行う中で、自分が何者なのかを見詰めさせる。そして、将来の目標を立て努力させる。
2	経済学と経営学	両学問の相違点と性格を明確化する
3	//	//
4	ミクロ経済学	その分析視点と研究課題を知る
5	//	//
6	マクロ経済学	//
7	//	//
8	資本主義とは	その本質と発展と変遷を知る
9	//	//
10	世界の経済情勢分析	各国の現状分析を行い、解決すべき経済問題を考える
11	//	//
12	ケインズかハイエクか	政府の経済への積極的介入が必要か、市場の役割の重視が重要かを考える。
13	//	//
14	//	//
15	総まとめ	この期の演習を総括

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済と経営についての理解を深め、知識を広め、専門導入の目標達成を図る。

■授業の進め方（履修条件等）

配布した資料を輪読し、必要に応じて解説を加えるという方法を取る。また、夏休みには新書版の本の中から選び1冊読んでレポートを出してもらい、秋から一時その発表に時間を割く。

■成績評価方法・基準

レポート、口頭発表、出席状況等を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

演習の時間に、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。

■教科書

使用しない。コピーした教材を配布する。

■参考文献

学生の研究したい分野に応じて十分なる文献を紹介したい。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	演習の方針と進め方等について。また、ゼミを行う中で、自分が何者なのかを見詰めさせる。そして、将来の目標を立て努力させる。
2	企業とは	企業は何故存在するのか（討論）
3	//	企業は誰のものか（討論）
4	企業形態について	私企業と公企業
5	//	企業の規模と企業の集中形態
6	大企業を考える	ビッグ・ビジネスの生成
7	//	職能制組織の成立
8	//	多角化と事業部制組織の発展
9	経営者の役割	「所有と経営の分離」と「経営者革命」
10	//	その重要性と社会的使命
11	夏期課題の発表	夏期休暇の宿題を全員に発表してもらい、討論を行う。
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	総まとめ	この期の演習を総括

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

専門科目の基礎になる文献を、全員で読み進めていきます。日本企業で優れた地位を占める、株式会社の制度、仕組みを理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生の発表を中心に授業を進めます。文献を読み、その内容をまとめて発表できるように、努力してください。

■成績評価方法・基準

出席回数、発表の状態、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

予習：テキストの発表予定箇所を、あらかじめ読んでください。

復習：授業の後、テキストを読み返し、知識をまとめてください。

■教科書

奥山宏「会社とはなにか」岩波ジュニア新書

■参考文献

必要な時に、授業の中で紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、自己紹介
2	日本中、会社ばかり	テキストの輪読
3	会社中心の社会	//
4	政治献金	//
5	日本を支配しているのは誰か	//
6	発表 1	ミルの会社生活
7	// 2	日本人の出世観
8	// 3	会社の格と人間の格
9	// 4	バブルの発生と崩壊
10	// 5	会社人間よ、さようなら
11	// 6	会社、企業、法人
12	// 7	会社の種類
13	// 8	日本の会社数
14	// 9	株式会社の歴史
15	導入演習 I のまとめ	後期への課題、アドバイス

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

前期に続き、専門科目の基礎になる文献を読み進めていきます。日本企業で優れた地位を占める、株式会社の制度、仕組みを理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生の発表を中心に、授業を進めていきます。文献を読み、その内容をまとめて発表できるようにしてください。

■成績評価方法・基準

出席回数、発表の状況、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

予習：テキストの発表予定箇所を、あらかじめ読んでください。

復習：授業の後、テキストを読み返し、知識を整理してください。

■教科書

奥山宏「会社とはなにか」岩波ジュニア新書

■参考文献

必要な時は、授業中に紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	受講上の注意	指導の重点は発表能力の向上
2	発表 1	株主は有限責任
3	// 2	合併によって巨大化
4	// 3	規模の経済
5	// 4	フォードT型車
6	// 5	松下幸之助の水道哲学
7	// 6	大企業病
8	発表の講評	問題点の指摘
9	発表 7	系列化
10	// 8	国有企業の失敗
11	// 9	国有企業の株式会社化
12	// 10	日本の民営化
13	// 11	会社は株主のものか
14	// 12	資本家とは
15	後期のまとめ	専門演習 II に向けてのアドバイス

科目名	専門導入演習 I		
09～11年度入学：専門導入演習 I			
担当者	加茂川 益郎 Masuro Kamogawa		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 1単位
	09～11年度入学	2年以上	

- 授業のねらいと到達目標
経済を理解するための基礎的な知識の習得。主体的な勉強、研究心の涵養。
- 授業の進め方（履修条件等）
テキストを輪読し、内容を私が解説する。理解を確かめるためにゼミ生と質疑応答する。日本経済、世界経済のニュースを話題にして、経済問題への関心を高め理解を深める。
- 成績評価方法・基準
出席、発表、討論、レポートによって総合的に評価する。
- 授業の予習・復習
予習：テキストを熟読すること
復習：ポイントをノートしておくこと
- 教科書
平野和之『ゼロからわかる経済入門 基本と常識』西東社
- 参考文献
新聞、雑誌、ネットの記事

科目名	専門導入演習 II		
09～11年度入学：専門導入演習 II			
担当者	加茂川 益郎 Masuro Kamogawa		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 1単位
	09～11年度入学	2年以上	

- 授業のねらいと到達目標
経済を理解するための基礎的な知識の習得。主体的な勉強、研究心の涵養。
- 授業の進め方（履修条件等）
テキストを輪読し、内容を私が解説する。理解を確かめるためにゼミ生と質疑応答する。日本経済、世界経済のニュースを話題にし経済問題への関心を高め理解を深める。
- 成績評価方法・基準
出席、発表、討論、レポートによって総合的に評価する。
- 授業の予習・復習
予習：テキストを熟読すること。
復習：ポイントをノートしておくこと。
- 教科書
平野和之『ゼロからわかる経済入門 基本と常識』西東社
- 参考文献
新聞、雑誌、ネットの記事

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	自己紹介。ゼミ生各自の勉強目標、ゼミの達成目標。
2 スタート	生活と経済、マクロ経済とミクロ経済、マネーリテラシー
3 通貨の役目と経済の動き	通貨の発行。役目—交換、価値尺度、蓄え
4 通貨と世界	円高・円安とは？為替レート、円高・円安が進むと？
5 経済と物価の関係	消費者物価指数、需要曲線、供給曲線、価格の決定
6 インフレ、デフレと物価	インフレ、デフレ、デフレスパイラル、スタグフレーション
7 まとめ	通貨、物価の復習
8 もっとも身近な家計	家計・企業・政府、家計の収入・支出・貯蓄、給料、他の収入
9 支出とお金の貸し借り	税金、支出、預金、ローン
10 お金の貸し借りと投資	利息、固定金利と変動金利、貯蓄から投資へ
11 企業の経済への影響	企業とは、企業の数、企業の利益
12 企業とお金	直接金融、間接金融、利益を出すしくみ
13 企業の今	競争、買収・合併、景気と雇用、正規雇用と非正規雇用
14 まとめ	家計と企業の復習
15 総まとめとレポート	通貨、物価、家計および企業の復習。夏休みレポート課題。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミ生の夏休みの生活と勉強、レポート提出
2 政府・日本銀行と経済の動き	政府の役割
3 政府と日銀	日本銀行—中央銀行、三つの役割
4 金融政策	マネーストック、金利と物価、金融引き締め・金融緩和、ゼロ金利
5 世界経済の流れ	アメリカ、ヨーロッパ、新興国、アジア、中東
6 貿易と通貨、人口問題	基軸通貨ドル、通貨危機、貿易収支、人口爆発
7 まとめ	政府・日本銀行と世界経済の復習
8 日本経済のこれまでとこれから	GDP、バブル崩壊、景気拡大、世界金融危機から景気減速
9 景気	景気動向指数、月例経済報告、景気循環
10 日本の信用、収支	国債評価、プライマリーバランス、個人金融資産
11 経済問題	食料自給率、少子高齢化、年金問題
12 経済のこれから	日本の未来、少子化対策と日本の強み
13 まとめ	日本経済のこれまでとこれからの復習
14 総まとめ	日本経済の課題についてのフリーディベート
15 ゼミ総括	ゼミで習得したもの、反省点をフリートーク

科目名	専門導入演習 I			
09~11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

専門導入演習は3、4年の演習に進むための基礎固めという位置づけである。3年以降では、より専門的な研究を目指すため、ここでは『経済学の基礎』を習得してもらう。経済学の基礎として幅広い知識はもちろん、『経済学の考え方』を身につけることに重点を置いて勉強していくことにしよう。

■授業の進め方（履修条件等）

本ゼミは、テキストを輪読しながら、経済理論の基礎について習得する。毎回報告者（発表者）を当てておくので、授業は報告者が予習し、理解したことを発表したのち、それに対する質疑応答を中心に進めていく。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（60%）・授業中の発表、コメントなどの評価（40%）

■授業の予習・復習

テキストは必ず予習してくること。発表者はレジメ（報告要旨）を作ることを義務づける。
復習：セメスターの終わりに課題を与えるので、常にノートを整理しておくこと。

科目名	専門導入演習 II			
09~11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

専門導入演習は3、4年の演習に進むための基礎固めという位置づけである。3年以降では、より専門的な研究を目指すため、ここでは『経済学の基礎』を習得してもらう。経済学の基礎として幅広い知識はもちろん、『経済学の考え方』を身につけることに重点を置いて勉強していくことにしよう。

■授業の進め方（履修条件等）

本ゼミは、テキストを輪読しながら、経済理論の基礎について習得する。毎回報告者（発表者）を当てておくので、授業は報告者が予習し、理解したことを発表したのち、それに対する質疑応答を中心に進めていく。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（60%）・授業中の発表・コメントなどの評価（40%）

■授業の予習・復習

予習：テキストは必ず予習してくること。発表者はレジメ（報告要旨）を作ることを義務づける。
復習：セメスターの終わりに課題を与えるので、常にノートを整理しておくこと。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	経済学とは何か（1）	ミクロ経済学とマクロ経済学
2	〃（2）	トレードオフ、インセンティブ、交換、分配
3	科学としての経済学	因果関係と相関関係
4	様々な経済理論	なぜ経済学者の意見は異なるのか
5	基本的競争モデル（1）	合理的消費者と利潤極大企業
6	〃（2）	競争的市場
7	〃（3）	効率と配分、基準モデルとしての競争モデル
8	機会集合とトレードオフ（1）	予算制約と時間制約
9	〃（2）	生産可能性曲線
10	費用	機会費用、サンクコスト、限界費用
11	経済学の考え方（復習）	レポート作成と練習問題による演習
12	取引と貿易（1）	経済的相互依存の便益
13	〃（2）	交換と取引からの利益
14	〃（3）	比較優位の理論と貿易の利益
15	競争モデルと貿易のまとめ	レポート作成と練習問題による演習

■教科書

『スティグリッツ 入門経済学』（第3版）東洋経済新報社、J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ、藪下 史郎、秋山 太郎

■参考文献

『経済学の考え方』HBJ出版局、モーリス・レヴィ 著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	需要・供給と価格（1）	価格の役割
2	〃（2）	個別需要曲線、市場需要曲線
3	〃（3）	供給曲線の形状と限界費用
4	〃（4）	供給曲線のシフト要因
5	〃（5）	余剰分析：生産者余剰、消費者余剰
6	〃（まとめ）	レポート作成と練習問題による演習
7	需要・供給分析の応用（1）	需要の価格弾力性
8	〃（2）	需要の価格弾力性の決定要因
9	〃（3）	供給の価格弾力性
10	〃（4）	需要・供給の価格弾力性の応用
11	〃（5）	不足と過剰
12	〃（6）	需要・供給の法則への介入：上限価格規制と下限価格規制
13	課税の経済効果（1）	課税のタイプ
14	〃（2）	物品税の帰着と転嫁
15	需要・供給分析のまとめ	レポート作成と練習問題による演習

■教科書

『スティグリッツ 入門経済学』（第3版）東洋経済新報社、J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ、藪下 史郎、秋山 太郎

■参考文献

『経済学の考え方』HBJ出版局、モーリス・レヴィ 著

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

流通を学ぶことにより日本経済について理解を深めてもらいます。単なる知識・教養ではなく現実に直面したとき自分なりの意見をもてるように指導します。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを中心にしますが、新聞記事、ビデオなども教材にしてできるだけ事例に即して進めます。

■成績評価方法・基準

出席40%、その他60%

■授業の予習・復習

宿題があればしてきてください。なければ前回の復習をしてください。

■教科書

『流通の基本が面白いほどわかる本』 為広吉弘著 中経出版

■参考文献

■授業内容

授業項目		授業内容
1		イントロダクション
2	流通は豊かさを支える	消費の拡大
3		物流と商流
4		流通チャネル
5		小売業
6	流通の高付加価値化	プライベートブランド
7		POS
8		卸売業の役割
9	卸売業は変化する	情報機能
10		ロジスティックス
11		問屋無用論
12		マーケティング
13	流通とメーカーの取引	流通チャネル
14		誰が価格を
15	日本の流通	とりまとめ

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

Iでは売れない時代にモノを売ることについて流通の側から見えてきた。IIでは同じことを消費者の側から消費の変化につき観察していく。

■授業の進め方（履修条件等）

家計消費支出調査を使って消費支出の長期推移につき調べる。グループに分け作業をして報告してもらう。

■成績評価方法・基準

出席40% その他60%

■授業の予習・復習

前回の作業を完成することが予習につながります。

■教科書

『流通の基本が面白いほどわかる本』 為広吉弘著 中経出版

■参考文献

■授業内容

授業項目		授業内容
1	トレンドでみる家計消費	イントロダクション
2	「おしゃれしたい」	衣（1）
3	〃	〃（2）
4	〃	〃（3）
5	「おいしく食べたい」	食（1）
6	〃	〃（2）
7	〃	〃（3）
8	「耐久消費財」	住（1）
9	〃	〃（2）
10	〃	〃（3）
11	「もっと楽しみたい」	サービス（1）
12	〃	〃（2）
13	〃	〃（3）
14	「収入と消費」	「収入と消費」
15	「消費と貯蓄」	「消費と貯蓄」

科目名	専門導入演習Ⅰ			
09～11年度入学：専門導入演習Ⅰ				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

日本の産業、特に工業が世界の中でどのような特色を持っているのかを、立地論という視点を通して学びます。授業の「産業立地論」では全体的な特色を講義を通して学びますが、ゼミではゼミ員一人一人がテーマを決めて主体的に取り組みます。日本の産業を立地論という視点で捉えることができるようになるのが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

資料を利用して日本の産業の成り立ちや仕組み、立地を調べます。ゼミ員各自が調べる産業を決め、その産業の特色について毎時間報告し、報告の内容をさらに深めて、最後にレポートにして提出します。

■成績評価方法・基準

レポート（60％）と平常点（40％）から評価します。

■授業の予習・復習

毎時間報告しますから、必ず資料などで産業の特色を調べておくこと。授業後は、レポート作成に向けてさらに深く調べること。

■教科書

使用しません。

科目名	専門導入演習Ⅱ			
09～11年度入学：専門導入演習Ⅱ				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

Ⅰ（前期）では産業について研究しましたが、Ⅱでは企業について研究します。やはり立地論という視点から研究します。各企業がそれぞれどのような活動をしているのかを自ら調べることにより、立地論を活用できるようになることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ員各自が定めた企業を資料や文献等によって調べ、その内容を基にして立地の特色を考えていきます。ゼミ員は毎時間報告し、最後にレポートを提出します。

■成績評価方法・基準

レポート（60％）と平常点（40％）から評価します。

■授業の予習・復習

毎時間報告しますから、必ず資料などで企業の特徴を調べておくこと。授業後は、レポート作成に向けてさらに深く調べること。

■教科書

使用しません。

■参考文献

各企業ごとに「有価証券報告書総覧」が発行されているので、参考にすると良い。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方
2	日本の工業の特色	形成、立地変化、業種・機能の変化について解説
3	担当する産業の割り振り	ゼミ員の希望に基づく産業の割り振りや調査方法の指導
4	各産業の成り立ち(1)	ゼミ員各自が報告
5	〃 (2)	前週報告に対する追加報告
6	各産業の組織(1)	ゼミ員各自が報告
7	〃 (2)	前週報告に対する追加報告
8	各産業の立地(1)	ゼミ員各自が報告
9	〃 (2)	前週報告に対する追加報告
10	各産業の近年の動向(1)	ゼミ員各自が報告
11	〃 (2)	前週報告に対する追加報告
12	各産業の課題(1)	ゼミ員各自が報告
13	〃 (2)	前週報告に対する追加報告
14	レポート作成指導(1)	資料や文献のまとめ方、レポートの作成方法の指導
15	〃 (2)	レポートの添削指導

■参考文献

三菱総合研究所 産業・市場戦略研究本部編『日本産業読本（第8版）』東洋経済新報社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、調べる企業の決定
2	企業の事例研究	ソニーを事例にして歴史、組織、立地とその変化、課題について解説
3	各企業の歴史(1)	ゼミ員各自が報告
4	〃 (2)	前週報告に対する追加報告
5	各企業の組織(1)	ゼミ員各自が報告
6	〃 (2)	前週報告に対する追加報告
7	各企業の立地とその変化(1)	ゼミ員各自が報告
8	〃 (2)	前週報告に対する追加報告(1)
9	〃 (3)	〃 (2)
10	企業の立地の特色	ゼミ員全体でのディスカッション
11	各企業の課題(1)	ゼミ員各自が報告
12	〃 (2)	前週報告に対する追加報告
13	日本企業の将来展望	ゼミ員全体でのディスカッション
14	レポート作成指導(1)	資料や文献のまとめ方、レポートの作成方法の指導
15	〃 (2)	レポートの添削指導

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済学発祥の地がヨーロッパであったことから、私達は、私達自身の経済的思惟のルーツを、とかくヨーロッパに求めがちです。けれども、私達日本人にも、固有の経済的思惟の歴史がありました。そうした日本の経済思想史を知ることによって、私達は、現在の私達が持つ経済思想の性格を、よりよく自覚することができるようになるでしょう。

■授業の進め方（履修条件等）

当面は、下記のテキストによりつつ、日本人の経済的思惟の変遷をたどります。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（0%）、レポート及びその他の課題（50%）、出席（50%）。平常点（出席状況、受講態度等）とレポートなど課題との総合評価によります。

■授業の予習・復習

進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。

■教科書

テッサ・モーリス・鈴木『日本の経済思想——江戸期から現代まで——』岩波書店、コピーを配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	テキスト輪読	テキスト輪読
2	//	//
3	//	//
4	//	//
5	//	//
6	//	//
7	//	//
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	//	//
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	//	//

■参考文献

指定しません。

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済学発祥の地がヨーロッパであったことから、私達は、私達自身の経済的思惟のルーツを、とかくヨーロッパに求めがちです。けれども、私達日本人にも、固有の経済的思惟の歴史がありました。そうした日本の経済思想史を知ることによって、私達は、現在の私達が持つ経済思想の性格を、よりよく自覚することができるようになるでしょう。

■授業の進め方（履修条件等）

当面は、下記のテキストによりつつ、日本人の経済的思惟の変遷をたどります。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（0%）、レポート及びその他の課題（50%）、出席（50%）。平常点（出席状況、受講態度等）とレポートなど課題との総合評価によります。

■授業の予習・復習

進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。

■教科書

テッサ・モーリス・鈴木『日本の経済思想——江戸期から現代まで——』岩波書店、コピーを配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	テキスト輪読	テキスト輪読
2	//	//
3	//	//
4	//	//
5	//	//
6	//	//
7	//	//
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	//	//
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	//	//

■参考文献

指定しません。

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

卒論の目次＋各章・節・項の概要が出来ることを目標とします。ディスカッションでは、就職活動でのグループディスカッションの練習をかねて、簡潔で論理的な発言に慣れましょう。この習慣が文章での表現にも現れることを期待しています。

■授業の進め方（履修条件等）

3年次終了までに卒論の草稿が終わることを目的に、2年次では論文作成の基礎を勉強します。希望によっては、ディベート、グループディスカッションを頻繁に行います。

■成績評価方法・基準

定期試験（行わない）・授業内小テスト（行わない）・レポート及びその他の課題（30%）・出席（70%）

■授業の予習・復習

前の回の作業の上に次回の作業を積み重ねますので、極力休まず、休んだらその回の作業を課題としてやっておいて下さい。

■教科書

特に指定せず、必要があればプリントを使います。口頭の指示だけになる回もあります。

■参考文献

必要に応じて指示します。

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

卒論の目次＋各章・節・項の概要が出来ることを目標とします。ディスカッションでは、就職活動でのグループディスカッションの練習をかねて、簡潔で論理的な発言に慣れましょう。この習慣が文章での表現にも現れることを期待しています。

■授業の進め方（履修条件等）

3年次終了までに卒論の草稿が終わることを目的に、2年次では論文作成の基礎を勉強します。希望によっては、ディベート、グループディスカッションを頻繁に行います。

■成績評価方法・基準

定期試験（行わない）・授業内小テスト（行わない）・レポート及びその他の課題（30%）・出席（70%）

■授業の予習・復習

前の回の作業の上に次回の作業を積み重ねますので、極力休まず、休んだらその回の作業を課題としてやっておいて下さい。

■教科書

特に指定せず、必要があればプリントを使います。口頭の指示だけになる回もあります。

■参考文献

必要に応じて指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 いろいろな登録	moodle登録、ゼミカルテ登録の後、お互いに名前がわかるよう歓談しましょう。
2 ディベート	このゼミではディスカッションを多く行うことになると思います。まずはyes noにわかれて議論するディベートを身近なテーマでやってみましょう。
3 卒論開始	卒論のテーマを決め、そのテーマで文献が存在するか、検索を進めましょう。テーマの見つけ方、検索の方法も覚えましょう。
4 卒論 2	卒論目次のテンプレートからアウトライン形式で卒論ファイルを作ります。章のタイトルを決めましょう。
5 グループディスカッション	グループディスカッションの形式と定番の進め方を覚えましょう。そして、軽いテーマで1回目のグループディスカッションを進めます。
6 小論文	軽いテーマで小論文を1本書いてみましょう。短くても論文なので、それなりの構成と文体、表現が要求されます。これをもって、卒論の文体や表現について学びます。
7 ディベート	時事テーマでディベートを行います。終わった後で、細かい点までコメントします。みなさんも相互にコメントしてください。
8 文献利用方法	論文の内容は頭の中だけから出て来るわけではありません。文献を駆使して論文に組み立てていくことが必要です。その文献はどのように使えばいいのかわかりませんが、実際に講師が選んだ文献のコピーに書き込みをし、それを論文に利用していく作業をやってみましょう。
9 グループディスカッション	時事テーマでグループディスカッションをやってみましょう。終わった後で、細かい点までコメントします。みなさんも相互にコメントしてください。
10 卒論 3	章のタイトルの下に節を作り、そのタイトルを仮決めしましょう。それぞれの節にどんな内容が入りうるか、少し考えてみましょう。
11 // 4	図解のいろいろを学びます。卒論に何を書き込むか考える時マインドマップが取りつきやすいので、これを学びましょう。さらに、論理を考える時、フローチャートが便利です。
12 グラフィック・ファシリテーション	ディスカッションのやり方を工夫してみましょう。いろいろなツールがディスカッションをわかりやすく、流れを見通しやすくします。前回学んだマインドマップやフローチャートも応用出来ます。
13 グループディスカッション	前回学んだファシリテーションの応用として、グループごとに解決すべき問題に答えを見つけるため、図解を作りながら議論しましょう。
14 プレゼンテーション	グループごとに、ソリューションを発表します。
15 ディスカッション	極力学生自身のことに関するテーマを選び、ディスカッションしましょう。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 夏休みの課題チェック	卒論目次の章タイトル、節タイトル、項タイトルを決めてもらいました。それぞれ1分間報告して頂きます。
2 ディスカッション	時事テーマなどでグループディスカッション
3 テキストリーディング	卒論作業は、文献を読んではメモをとり、そこから自分の論理を作ったり、自分の論理を実証するために生かしていく部分がほとんどとなります。そこで、実際に各自が使う文献を読んでマーキング、メモ→論文に利用という流れを実習しましょう。
4 テキストリーディング	前回の続きです。
5 ディスカッション	時事テーマなどでグループディスカッション
6 卒論	項タイトルのもとに、10行ずつ内容をメモしていきます。それぞれの内容としてどの程度の論理を盛り込めるか、図解で確認していきます。
7 卒論	前回の続きをやりましょう。
8 ディスカッション	グループごとに解決すべき問題に答えを見つけるため、図解を作りながら議論しましょう。
9 プレゼンテーション	議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。
10 卒論	先輩達の書いた卒論をざっと見て、どれが良い卒論かmoodle上で投票します。それぞれの卒論について、なぜ投票したかの理由を述べてもらい、講師が講評します。
11 プレゼンテーション	自分の卒論の主旨と構成について1分間プレゼンテーションします。プレゼンテーションのコメントを皆さんにお願いします。
12 ディスカッション	グループごとに解決すべき問題に答えを見つけるため、図解を作りながら議論しましょう。
13 プレゼンテーション	議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。
14 卒論	3年に向けて、卒論の文章を書き始めます。
15 ディスカッション	職業観を問うテーマでグループディスカッションしましょう。

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

前期は基礎的な経済理論の習得をめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回テキストを輪読し、内容について質疑応答を行う。

■成績評価方法・基準

平常点で評価する。毎回の授業での発言、報告、レポート作成によって判定する。

■授業の予習・復習

予習：テキストを読んでからゼミに参加すること
復習：もう一度テキストをよく読むこと。

■教科書

西村和雄『マンガDE入門経済学』第2版
(日本評論社、1999年)

■参考文献

伊藤元重『入門経済学』第3版（日本評論社、2009年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、ミクロとマクロ
2 市場の発生	分業の発生、取引の発生、価格の決定、弾力性
3 消費者需要①	消費者、需要の決定、所得や価格の変化と需要の変化
4 // ②	代替財と補完財、顕示選好理論、労働と余暇
5 生産の理論	生産関数、生産費用
6 市場の構造①	市場均衡、寡占市場、収穫逡減
7 // ②	外部効果、マーケット外部性、公共財
8 マクロ経済学	産業関連表、GNPとGDP
9 均衡国民所得	貯蓄と投資の均衡、消費関数、投資の決定、乗数効果
10 貨幣の需要・供給	貨幣市場、ハイパワードマネー、手形割引
11 財政政策	総需要、財政政策の効果、インフレーション
12 国際経済	ヘクシャー＝オリーン・モデル、為替レート
13 経済動学	景気循環、経済動学理論、複雑系
14 レポート作成	経済理論についてレポート作成を指導
15 まとめ	レポート提出

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

前期に学習した経済理論に引き続き、後期はビジネス理論に対する理解と、決算書の見方の習得を目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

ビジネス理論や決算書の見方を紹介したプリントを利用して内容を解説する。全体を総括する報告や、実習も実施する。

■成績評価方法・基準

平常点で評価する。毎回の授業での発言、報告、レポート作成によって判定する。

■授業の予習・復習

復習として毎回のプリントをよく読むこと。

■教科書

使用しない。プリントを配布する。

■参考文献

野村総研『経営用語の基礎知識』（ダイヤモンド社）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方
2 経済の理論	有効需要、景気循環、マネタリズム
3 経営の理論	科学的管理、コア・コンピタンス、PPM分析
4 ヒト・組織の理論	リーダーシップ
5 経営戦略の理論	SWOT分析、ランチェスター戦略
6 マーケティングの理論	プロダクトライフサイクル、FSP
7 生産・研究開発の理論	ジャストインタイム
8 ITの理論	ユビキタスネットワーク、ナレッジマネジメント
9 ビジネス理論のまとめ	これまでに学習した理論の要約を各自に報告してもらう。
10 決算書とは何か	決算書とは何かをレクチャーする。
11 損益計算書	損益計算書の見方をレクチャーする。
12 貸借対照表	貸借対照表の見方をレクチャーする。
13 キャッシュフロー計算書	キャッシュフロー計算書の見方をレクチャーする。
14 経営分析	実際の決算書を利用して分析の練習をする。
15 まとめ	授業全体を総括

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

企業の成績表である、決算短信を読み解く力を付けます。エクセルでグラフを作り、客観的なデータを用いて、企業活動を理解します。PPTを用いて報告することで、ビジュアル的に説得力をつける方法も学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

報告のための準備をゼミの前に各自がしておいて、ゼミで報告します。仲間の前で自分の考えを客観的に伝えるための手法を学びます。ゼミの間中は、前半はプレゼンに重きを置きます。そのため、身近なテーマである出身地の紹介から始めます。後半は決算短信を読み解くための基礎知識の解説を行います。IRとは何か、企業のデータへのアクセス、株式による資金調達と負債による調達の違いは何かなど、専門ゼミで学ぶファイナンスを学ぶための基礎を作ります。

■成績評価方法・基準

ゼミでの発言、報告の内容、報告への積極性などが評価されます。

■授業の予習・復習

半年に2回あるプレゼンテーションのための準備は各自でしてもらいますので、予習が必要となります。

■教科書

特定の教科書を用いず、公式のHPのデータベースにアクセスし、それを用います。また便利な経済学・経営学の用語集やニュース解説などを用います。

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

企業の損益計算書と財務諸表を用いて、企業の経営について、収益力、安定性、株主対策などの指標を用いて評価できるようになることが目標です。同業の二つの企業のデータをエクセルに入力してグラフを作り、比較することで、経営の成果の違いを浮き彫りにします。

■授業の進め方（履修条件等）

代表的な経営の指標について、はじめに解説をします。最初は上場している企業を一つ探して、その後、プレゼンの準備を各自してもらい、ゼミの中でプレゼンをしていきます。一社の時系列での比較をしたら、次に二社の比較をして、プレゼンをまとめてもらい、発表してもらいます。

■成績評価方法・基準

ゼミの中での発言と、プレゼンの内容で評価します。

■授業の予習・復習

プレゼンの準備をすることが予習になります。

■教科書

教科書はありません。企業のHPや日経のデータベースなどにあります。さまざまなデータにアクセスすることに慣れていきます

■参考文献

適宜指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	自己紹介	独りよがりではなく、他人と話題を共有するために固有名詞を用いた自己紹介をするように訓練をします。
2	他己紹介	初回に行った自己紹介のメモをもとに、ほかの人の紹介をします。
3	自己発見	自己紹介や他己紹介をうけてわかった自分の評価を書いて、企業のエントリーシートを書いてみます。その際、長所、短所など自己の分析をします。自分が何をしてきたか、ほかの人と比べてどこが優れているかを見つけてます。
4	地元の紹介	地元の市町村のHPにアクセスして基本的なデータを紹介するための準備をします。
5	発表会 1	各自の地元を紹介します。（4人程度）
6	発表会 2	地元の紹介をします。（4人程度）
7	発表会 3	地元の発表をします。
8	稲毛市役所に行く	稲毛区役所に行き、区役所の仕事内容を調べます。
9	イベントを伝える	区役所で学んだことをPPTを用いて報告します。体験から客観的なことを伝えること、自分を表現することを分けることを学びます。報告は6人程度
10	イベントから学ぶ 2	イベントの報告の続きです。あとから報告するほうが差別化が難しいことを学びます。
11	企業のデータベース検索	会社概要、沿革から企業の事業内容などを学びます。
12	IRから知る企業	株式を公開している企業について、IRの中にどのようなデータがあるのかを知ります。決算報告、ニュースリリースなどをみて学びます。
13	決算の読み方	決算短信の読み方を学びます。
14	損益計算書からの企業活動概要の報告	損益決算書の読み方を学んだうえで、報告をしていきます。好きな企業を選んで、収益、営業利益、経常利益、当期純利益と配当まで報告します。（6人程度）
15	損益決算書の報告	発表会の続きです。

■参考文献

授業内で適宜示します

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	企業の損益計算書の見方の復習	前期に学んだ、企業の損益計算書の見方を学びます。売上高営業利益、経常利益、当期純利益の違いをみます。原価率を計算してみます。
2	企業の損益計算書の見方の復習 2	日経gooの経営用語集を用いて、わからない経営用語を調べるとを学びます。また、損益計算書のより詳細な読み解きかたを学びます。収益力を図るための利益率、ROE、ROAなどの意味を知ります。
3	プレゼンテーション 1	各自がひとつの企業を選んで、損益計算書と財務諸表をみながら、利益率などの収益力を評価したものをPPTでプレゼンします。
4	プレゼンテーション 2	企業の収益力の指標を評価したものをプレゼンします。
5	財務構成と経営（講義）	総資本が他人資本と自己資本に分かれることを学びます。またその構成比率が経営に与える影響を学びます。
6	資産と負債（講義）	資産と負債の内容について、流動と固定の違い、流動比率の重要性を学びます。
7	プレゼンテーション 3	財務構成と資産・負債の内容について、以前選んだ企業を選んで、企業の安定性を評価します。
8	プレゼンテーション 4	プレゼンの続きです。ほかの人のプレゼンを見て、自分の企業のケースと比べます。
9	プレゼンテーション 5	プレゼンの続きです。後で報告する人ほど、詳細な報告を求められます。
10	企業の経営をデータから総合的に評価する	4年間の時系列データを2つの企業についてとり、今まで学んだ経営指標を組み合わせて総合的に企業の経営を比較評価する方法を学びます。
11	プレゼンテーション 6	2つの上場企業をとり、その企業の事業内容、収益力と財務の安定性について総合的にPPTで報告します。1から学んできたことの集大成となります。
12	プレゼンテーション 7	先週に引き続きプレゼンテーションをします。その中で他人の報告を評価して感想を述べる訓練をします
13	プレゼンテーション 8	プレゼンの続きです。全員がプレゼンをします。
14	まとめ 1	専門導入ゼミでやったことをまとめます
15	まとめ 2	ゼミを振り返ります

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この演習では、小川孔輔（2011）『しまむらとヤオコー』（小学館）を輪読する。長引く不況にもかかわらず、日本の地方発の小売企業のうち大きな発展を遂げた企業が少なくない。これらの企業の発展の軌跡と経営戦略を、しまむらとヤオコーに関する物語を読むことを通じて考える。

■授業の進め方（履修条件等）

演習は学生のレポート発表を中心に進めていく。1回目の演習で次回以降の発表者を指定する。指定された学生は事前に教科書の内容に基づいてレポートを作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者のレポートと教科書に基づいて自分の意見を発言してもらう。

■成績評価方法・基準

レポート（30%）、出席（40%）、授業態度（積極的に発言するなど）（30%）で総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：演習の前に教科書を読み、レポートを作成することが必須である。

復習：要求しない。

■教科書

小川孔輔（2011）『しまむらとヤオコー』小学館。

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この演習では、サム・ウォルトン『私のウォルマート商法—すべて小さく考えよ』（講談社プラスアルファ文庫）を輪読する。現代の小売業は、消費者の購買パターンを把握し、それに適合できる店舗を作ることが求められている。消費者の購買行動をどのように観察し、分析するのか。また、小売企業はどのように消費者により適合した店舗を作るのか。この演習ではこれらの問題を、世界最大の小売チェーンであるウォルマートの創業者による自伝を輪読することを通じて考える。

■授業の進め方（履修条件等）

演習は学生のレポート発表を中心に進めていく。1回目の演習で次回以降の発表者を指定する。指定された学生は事前に教科書の内容に基づいてレポートを作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者のレポートと教科書に基づいて自分の意見を発言してもらう。

■成績評価方法・基準

レポート（30%）、出席（40%）、授業態度（積極的に発言するなど）（30%）で総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：演習の前に教科書を読み、レポートを作成することが必須である。

復習：要求しない。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	演習の内容と進め方
2 序章	しまむらとヤオコーを取り上げた理由
3 第1章 成長を支える女性従業員たち	ファッションセンターしまむら蓮田店
4 //	ヤオコー川越南古谷店
5 第2章 創業の苦しみ乗り越えて	しまむらの創業期
6 //	ヤオコーの創業期
7 第3章 人材の確保とチェーン組織化	しまむら
8 //	ヤオコー
9 第4章 独自のビジネスモデルの確立	しまむらのビジネスモデル
10 //	ヤオコーのビジネスモデル
11 第5章 絶えざる自己革新	しまむらの都心出店
12 //	ヤオコーの事業継承
13 終章 両社の未来	しまむらとヤオコーの共同出店
14 //	郊外vs.中心市街地
15 ディスカッション	教科書から学んだこと

■参考文献

指定しない。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	演習内容と進め方
2 第1章	一ドルの価値を知る
3 第2章	バラエティストアからの出発
4 第3章	再起をかけた闘い
5 第4章	流れに逆らい、川上を目指す旅
6 第6章	優秀な人材を求めて
7 第7章	首まで借金につかって
8 第8章	次の町へ、次の店へ
9 第10章	最大の躰き
10 第11章	ウォルマートの社風の創造
11 第12章	顧客第一主義
12 第13章	競争に立ち向かう
13 第14章	勢力の拡大
14 第17章	サム流「成功のための10カ条」
15 ディスカッション	教科書から学んだこと

■教科書

サム・ウォルトン（2002）『私のウォルマート商法—すべて小さく考えよ』講談社。プラスアルファ文庫。

■参考文献

指定しない。

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

現代の日本経済におけるさまざまな現象・課題を考えることを通じて、マクロ経済、企業、家計、財政と金融などの基礎的な考え方を学び、専門演習などより進んだ学習・研究のための基礎を作ることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

日本経済に関する入門的な教科書あるいは読み物を用い、どのような現象が生じ、どのように解決が求められているのかを考える。取り上げられた題材について、自分自身の意見を整理、発表し、理解を深める。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題、出席の状況。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。

■授業の予習・復習

予習：事前に教科書の指定されたところを読み、それに関する自分の意見をまとめておく。

復習：その回の内容を整理し、さらに深く知るために受講すべき専門科目が何かを考える。

■教科書

未定。「日本経済論」の分野に関する入門的な教科書を選定する予定。

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

現代の日本経済におけるさまざまな現象・課題を考えることを通じて、マクロ経済、企業、家計、財政と金融などの基礎的な考え方を学び、専門演習などより進んだ学習・研究のための基礎を作ることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

前期の専門導入演習 I から継続して、日本経済に関する入門的な教科書あるいは読み物を用い、どのような現象が生じ、どのように解決が求められているのかを考える。取り上げられた題材について、自分自身の意見を整理、発表し、理解を深める。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題、出席の状況。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。

■授業の予習・復習

予習：事前に教科書の指定されたところを読み、それに関する自分の意見をまとめておく。

復習：その回の内容を整理し、さらに深く知るために受講すべき専門科目が何かを考える。

■教科書

未定。「日本経済論」の分野に関する入門的な教科書を選定する予定。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに (1)	この科目の紹介、進め方などについて
2 // (2)	教科書の紹介と選定
3 基礎的事項の確認(1)	日本経済の現状 (1)
4 // (2)	// (2)
5 文献講読 (1)	日本経済の歩み、他 (1)
6 // (2)	// (2)
7 // (3)	// (3)
8 // (4)	// (4)
9 // (5)	// (5)
10 レポート課題提示	回数、順序を変更する場合がある
11 レポート資料の探し方	//
12 レポートの発表、関連分野の解説 (1)	//
13 // (2)	//
14 // (3)	//
15 まとめ	専門導入演習 II に向けての準備

■参考文献

上記のほかに、長谷川啓之編『経済政策の理論と現実』学文社、2009年など。この他にも適宜紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	専門導入演習 I からのまとめ
2 文献講読 (1)	日本経済をとりまく様々な課題 (1)
3 // (2)	// (2)
4 // (3)	// (3)
5 // (4)	// (4)
6 // (5)	// (5)
7 // (6)	// (6)
8 // (7)	// (7)
9 // (8)	// (8)
10 // (9)	// (9)
11 ここまでのまとめ	専門演習をどう選ぶか
12 レポート課題提示	回数、順序を変更する場合がある
13 レポートの発表、関連分野の解説 (1)	//
14 // (2)	//
15 // (3)	//

■参考文献

上記のほかに、長谷川啓之編『経済政策の理論と現実』学文社、2009年など。この他にも適宜紹介する。

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

労働と生活、ひいては人間そのものについて探求するゼミである。従って、自分のことにしか関心がないという学生の参加は望まない。実際に街頭調査などを行う予定である。

■授業の進め方（履修条件等）

実態調査を行う。

■成績評価方法・基準

調査内容で判断する。

■授業の予習・復習

調査内容を見直す。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

星真実「千葉県のパートタイマー 2008」
 （『敬愛大学研究論集』74号）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ゼミの進行方法について
2	自己紹介	5分間スピーチ I
3	//	// II
4	20答法	Who am I Test
5	アンケート調査	アンケート調査説明
6	//	街頭調査と調査結果報告
7	//	//
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	//	//
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	//	//

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

労働と生活、ひいては人間そのものについて探求するゼミである。従って、自分のことにしか関心がないという学生の参加は望まない。実際に街頭調査などを行う予定である。

■授業の進め方（履修条件等）

実態調査を行う。

■成績評価方法・基準

調査内容で判断する。

■授業の予習・復習

調査内容を見直す。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

星真実「千葉県のパートタイマー 2008」
 （『敬愛大学研究論集』74号）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ゼミの進行方法について
2	ヒアリング調査	ヒアリング調査説明
3	//	ヒアリング調査と調査結果報告
4	//	//
5	//	//
6	//	//
7	//	//
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	//	//
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	20答法	Who am I Test II

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	金子 林太郎 Rintarou Kaneko			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済学的なものの考え方を学んでもらうことが第1のねらいである。テキストの内容をレジュメにまとめ、みんなの前で報告してもらうことが第2のねらいである。報告に対してコメントや質問をして、報告者と討論をもらうことが第3のねらいである。これらを通して、3、4年ゼミで卒業研究をする基礎を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを1週に1章のペースで勉強して行く。最初は輪読形式をとる。適当な時期から報告者を指名し、報告者の報告を聞き、それ以外の者はそれにコメントや質問をして、全員で議論することで理解を深める。

■成績評価方法・基準

ゼミ中の発言の積極性、発表（プレゼンテーション）の出来栄等を踏まえて、総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：指定されたテキストの範囲に目を通しておくこと。
復習：ゼミで扱った内容を咀嚼すること。

■教科書

梶井厚志『故事成語でわかる経済学のキーワード』中公新書

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	金子 林太郎 Rintarou Kaneko			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済学的なものの考え方を学んでもらうことが第1のねらいである。テキストの内容をレジュメにまとめ、みんなの前で報告してもらうことが第2のねらいである。報告に対してコメントや質問をして、報告者と討論をもらうことが第3のねらいである。これらを通して、3、4年ゼミで卒業研究をする基礎を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

後期は報告者（最初はグループ、後に個人）を指名し、報告者の報告を聞き、報告者以外の者はそれにコメントや質問をして、全員で議論することで理解を深める。報告の仕方も練習する。

■成績評価方法・基準

ゼミ中の発言の積極性、発表（プレゼンテーション）の出来栄等を踏まえて、総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：指定されたテキストの範囲に目を通しておくこと。
復習：ゼミで扱った内容を咀嚼すること。

■教科書

梶井厚志『故事成語でわかる経済学のキーワード』中公新書

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミの進め方の説明、自己紹介、個人目標設定、写真撮影
2 テキスト輪読の準備1	本の読み方、内容のまとめ方の説明
3 テキスト輪読の準備2	本の読み方、内容のまとめ方の説明の続きと練習
4 テキストの輪読1	第1章「覆水盆に返らずーサンク・コスト」の輪読、解説、討論
5 テキストの輪読2	第2章「蛇足ー追加的利害を考える」の輪読、解説、討論
6 テキストの輪読3	第3章「矛盾ートレードオフ」の輪読、解説、討論
7 テキストの輪読4	第4章「他山の石ー分業と専門の経済効果」の輪読、解説、討論
8 テキストの輪読5	第5章「洛陽の紙幣を貰むー価格理論」の輪読、解説、討論
9 テキストの輪読6	第6章「先ず隗より始めよーケインズと乗数効果」の輪読、解説、討論
10 グループ報告の準備1	グループ報告の方法の説明、グループ分け
11 グループ報告の準備2	報告準備（グループワーク）
12 グループ報告の準備3	報告準備（グループワーク）の続き
13 グループ報告と講評	報告会、相互評価、講評
14 夏休みの個人研究課題設定	夏休み中の個人研究課題の設定、研究方法の助言
15 前期のまとめ	前期のゼミの総括

■参考文献

外山滋比古『思考の整理学』ちくま文庫
横山光輝『史記』小学館文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	後期のゼミの概要確認、後期個人目標の設定
2 夏休み中の個人研究発表会	夏休み中の個人研究の発表、講評
3 第1回グループ報告の準備1	グループ分け、報告準備（グループワーク）
4 第1回グループ報告の準備2	報告準備（グループワーク）の続き
5 第1回グループ報告会	報告会、相互評価、講評
6 第2回グループ発表の準備1	グループ分け、報告準備（グループワーク）
7 第2回グループ発表の準備2	報告準備（グループワーク）の続き
8 第2回グループ報告会	報告会、相互評価、講評
9 第1回個人報告の準備1	分担の決定、報告準備（個人作業）
10 第1回個人報告の準備2	報告準備（個人作業）の続き
11 第1回個人報告会	報告会、相互評価、講評
12 第2回個人報告の準備	分担の決定、報告準備（個人作業）
13 第2回個人報告の準備2	報告準備（個人作業）の続き
14 第2回個人報告会	報告会、相互評価、講評
15 まとめ	今年度のゼミの総括

■参考文献

横山光輝『史記』小学館文庫
藤沢晃次『「分かりやすい表現」の技術』

講談社ブルーバックス

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	岸本 太一 Taichi Kishimoto			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この講義では次の3点を目標にします。①：ビジネス書及び経営学の教科書レベルの文献を独力で理解できるようになる。②：論理的にモノごとを考える思考法に馴染む。③：自分が考えたことを理解できるような形で表現できるようになる。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回必ず課題を出します。「本の数章を要約」、「本の内容を用いて企業を分析」等の課題です。その課題に対してプレゼン資料を作成してきてもらいます。当日のゼミでは、その資料をもとにディスカッションをします。

■成績評価方法・基準

出席、提出課題の質、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。無断欠席した場合、単位を与えません。

■授業の予習・復習

予習：毎回受講者全員に必ず何らかの課題を課します。その課題を行なってきて下さい。

復習：適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。

■教科書

長谷川博和著『ベンチャーマネジメント【事業創造】入門』
日本経済新聞出版社

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	岸本 太一 Taichi Kishimoto			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいおよび到達目標は、次の3つです。①：ビジネス書および経営学・経済学の教科書を読むようになること。②：他人が容易に理解可能なプレゼンテーション資料を作成できるようになること。③：意味のあるディスカッションができるようになること。ゼミという形式は、この3点を学ぶには最適な形式です。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回必ず課題を出します。「本の数章を要約」、「本の内容を用いて企業を分析」等の課題です。その課題に対してプレゼン資料を作成してきてもらいます。当日のゼミでは、その資料をもとにディスカッションをします。

■成績評価方法・基準

出席、提出課題の質、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。無断欠席した場合、単位を与えません。

■授業の予習・復習

予習：毎回受講者全員に必ず何らかの課題を課します。その課題を行なってきて下さい。

復習：適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。

■教科書

フィル・ローゼンツワイグ著・桃井緑美子訳
『なぜビジネス書は間違っているのか ハロー効果という妄想』
日経BP社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2	輪読およびディスカッション①	『ベンチャーマネジメント入門』第1章
3	〃 ②	〃 第2章
4	〃 ③	〃 第3章
5	〃 ④	〃 第4章
6	〃 ⑤	〃 第5章
7	〃 ⑥	〃 第6章
8	〃 ⑦	〃 第7章
9	〃 ⑧	〃 第8章
10	〃 ⑨	〃 第9章
11	〃 ⑩	〃 第10章
12	〃 ⑪	〃 第11章
13	企業分析①	実際にベンチャー企業を分析してみる。①
14	〃 ②	〃 ②
15	〃 ③	〃 ③

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2	輪読およびディスカッション①	『なぜビジネス書は間違っているのか』はじめに
3	〃 ②	〃 第1章
4	〃 ③	〃 第2章
5	〃 ④	〃 第3章
6	〃 ⑤	〃 第4章
7	〃 ⑥	〃 第5章
8	〃 ⑦	〃 第6章
9	〃 ⑧	〃 第7章
10	〃 ⑨	〃 第8章
11	〃 ⑩	〃 第9章
12	〃 ⑪	〃 第10章
13	企業分析①	実際に企業を分析してみる。①
14	〃 ②	〃 ②
15	〃 ③	〃 ③

■参考文献

科目名	専門導入演習Ⅰ			
09～11年度入学：専門導入演習Ⅰ				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済を包括的に理解するには、実物的な側面（モノの生産・販売や雇用など）だけでなく、カネの側面を理解する必要があります。しかも、カネの側面を良く理解し、その視点から実物的な側面を観察すると、まるで裏側から表舞台をみるような、広範で良好な視界を確保することができます。本演習では、入門的な金融論のテキストを用い、金融の基礎や企業の資金調達、銀行・金融システムについて学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を輪読します。金融論の履修をお勧めします。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢（60%）、報告などの成果（40%）。

■授業の予習・復習

予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。

復習：演習後に残された課題について、引き続き調査・検討して下さい。

■教科書

細野薫、石原彦彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 インTRODクシヨソ	ゼミ運営上の取りきめや重要事項
2 金融システム1	金融市場、金融仲介機関
3 金融システム2	リスク分散、情報生産1
4 金融システム3	情報生産2、流動性の供給
5 金融システム4	金融危機、金融規制、貯蓄と投資
6 貨幣1	貨幣の定義と機能、マネーストック
7 貨幣2	インフレ・デフレ、貨幣数量説
8 企業の資金調達1	企業の資本構成
9 企業の資金調達2	モジリアーニ・ミラー定理
10 企業の資金調達3	コーポレートファイナンスの実際
11 銀行の役割と課題1	銀行の活動
12 銀行の役割と課題2	銀行の財務
13 金融規制1	預金保険制度、自己資本比率規制1
14 金融規制2	自己資本比率規制2、政府の金融活動
15 映像でみる金融	ビデオなどの視聴

■参考文献

日本経済新聞社編『ベーシック／金融入門』日本経済新聞
鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店
その他、授業の中で随時紹介します。

科目名	専門導入演習Ⅱ			
09～11年度入学：専門導入演習Ⅱ				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

専門導入演習Ⅰにおける学習の延長として、金融市場や金融政策について学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を輪読します。金融論を履修することをお勧めします。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢（60%）、報告などの成果（40%）。

■授業の予習・復習

予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。

復習：演習後に残された課題について、引き続き調査・検討して下さい。

■教科書

細野薫、石原彦彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社

■参考文献

日本経済新聞社編『ベーシック／金融入門』日本経済新聞
鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店
その他、演習の中で随時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 利子率1	債券のリスクと利子率、利子率の期間構造
2 利子率2	割引現在価値
3 利子率3	名目利子率と実質利子率、資金の需要と供給
4 株価1	株式市場、株式の収益率とリスク、株価
5 株価2	ポートフォリオの理論、効率的市場仮説
6 株価3	株式収益率の決まり方
7 為替相場1	為替と為替相場、通貨制度
8 為替相場2	名目為替相場と実質為替相場、国際収支
9 為替相場3	為替相場の決まり方
10 貨幣市場の需要と供給1	貨幣供給のメカニズム、貨幣の取引需要
11 貨幣市場の需要と供給2	流動性選好、貨幣市場における名目利子率の決定
12 金融政策1	中央銀行、金融政策の目的と手段
13 金融政策2	金融政策のメカニズム、中央銀行の独立性
14 映像でみる金融	ビデオなどの視聴
15 まとめ	全体を通して興味や関心をもった内容の確認

科目名	専門導入演習 I			
09～11年度入学：専門導入演習 I				
担当者	金 珍淑 Kim Jinsuk			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本演習では、教科書の輪読を進めるとともに、経済界で観察される面白い現象について自分なりの理解を深め他人とディスカッションする方法を学びます。また、ゼミ生の興味に沿ったディスカッション・テーマを設定し、グループごとにディスカッションしたうえで、その結果を発表する練習をします。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書の内容やビジネス・ケースについてディスカッションし解説します。ビジネス・ケースに関連するビデオ資料を見てもらい、参考文献を紹介します。月1回のペースでグループ・ディスカッション&プレゼンテーションをおこないます。

■成績評価方法・基準

出席（50%）、ゼミへの貢献度（ディスカッションへの参加意欲、授業態度等）（50%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：輪読時は教科書の決められたチャプターを読んでください。

復習：復習は特に必要ありません。

■教科書

石井淳蔵『マーケティングを学ぶ』ちくま書房、2010年。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容、ゼミの進め方についての説明
2 輪読	第I部 市場志向の戦略づくり①
3 //	// ②
4 //	第II部 戦略志向の組織体制づくり①
5 //	// ②
6 ビジネス・ケース	リーマン・ブラザーズ～崩壊する資本主義
7 //	アマゾン・のKindle～デファクトスタンダード
8 //	イオンPBのトップバリュ～低価格化戦略
9 プレゼンテーション	グループ・ディスカッション&プレゼンテーション
10 ビジネス・ケース	東京ディズニーリゾート～差別化戦略
11 //	シルク・ドゥ・ソレイユ～市場創出戦略
12 プレゼンテーション	グループ・ディスカッション&プレゼンテーション
13 ビジネス・ケース	サムスン電子～組織のイノベーション
14 //	JTB～分社化の意味
15 プレゼンテーション	グループ・ディスカッション&プレゼンテーション

■参考文献

ビジネス・ケースに合わせて紹介します。

科目名	専門導入演習 II			
09～11年度入学：専門導入演習 II				
担当者	金 珍淑 Kim Jinsuk			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本演習では、教科書の輪読を進めるとともに、経済界で観察される面白い現象について自分なりの理解を深め他人とディスカッションする方法を学びます。また、ゼミ生の興味に沿ったディスカッション・テーマを設定し、グループごとにディスカッションしたうえで、その結果を発表する練習をします。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書の内容やビジネス・ケースについてディスカッションし解説します。ビジネス・ケースに関連するビデオ資料を見てもらい、参考文献を紹介します。月1回のペースでグループ・ディスカッション&プレゼンテーションをおこないます。

■成績評価方法・基準

出席（50%）、ゼミへの貢献度（ディスカッションへの参加意欲、授業態度等）（50%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：輪読時は教科書の決められたチャプターを読んでください。

復習：復習は特に必要ありません。

■教科書

石井淳蔵『マーケティングを学ぶ』ちくま書房、2010年。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容、ゼミの進め方についての説明
2 輪読	第III部 顧客との接点のマネジメント①
3 //	// ②
4 //	第IV部 組織の情報リテラシーを確立する①
5 //	// ②
6 ビジネス・ケース	雇用なき成長～日本雇用システムの崩壊①
7 //	// ②
8 //	ユニクロ～SPAの仕組み
9 プレゼンテーション	グループ・ディスカッション&プレゼンテーション
10 ビジネス・ケース	アスース～イノベーションのジレンマ
11 //	ヤマダ電機～規模の経済
12 プレゼンテーション	グループ・ディスカッション&プレゼンテーション
13 ビジネス・ケース	グーグル～オープンネットワーク戦略
14 //	リナックス～オープンアーキテクチャー戦略
15 プレゼンテーション	グループ・ディスカッション&プレゼンテーション

■参考文献

ビジネス・ケースに合わせて紹介します。

科目名	専門演習 I			
09～11年度入学：専門演習 I				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

社会人として必要な会計全般にわたる基礎知識を学ぶ。会計は法規定と深く結びつくことから会計規定の研究が中心となる。最終的には財務諸表が読める能力を培いたい。

■授業の進め方（履修条件等）

会計や法律の規定を参照しながら、教科書を丹念に輪読し理解を深める。必要によりチームを作り課題につき研究発表する。毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。

■成績評価方法・基準

授業参加への積極性と課題への取り組み姿勢等を総合的に判断して評価する。

■授業の予習・復習

特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。

■教科書

「会計学入門 千代田邦夫」中央経済社
「会計法規集」中央経済社

■参考文献

「財務会計入門 田中建二」中央経済社

科目名	専門演習 II			
09～11年度入学：専門演習 II				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

社会人として必要な会計全般にわたる基礎知識を学ぶ。その内容は会計基準、会計規定、法人税、原価計算、監査にまで及ぶ。また、友情を醸成することも大切である。

■授業の進め方（履修条件等）

会計や法律の規定を参照しながら、教科書を丹念に輪読し理解を深める。必要によりチームを作り課題につき研究発表する。毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。

■成績評価方法・基準

授業参加への積極性と課題への取り組み姿勢等を総合的に判断して評価する。

■授業の予習・復習

特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。

■教科書

「会計学入門 千代田邦夫」中央経済社
「会計法規集」中央経済社

■参考文献

「財務会計入門」田中建二 中央経済社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業内容と進め方の説明、ゼミ員の自己紹介
2	会計制度解説	財務諸表と関連する法律全般の概説
3	財務諸表	貸借対照表と損益計算書の概要
4	有価証券報告書	有価証券報告書の概要とその利用方法
5	複式簿記の基礎	複式簿記の構造
6	複式簿記の展開	貸借対照表と損益計算書の関係
7	会社と会計	会社の意味と会計の役割
8	会計規定と法	会社法、金融商品取引法、法人税法と会社の関係
9	会社法	会社法の理念と会計規定の関係
10	会社法と会計規定	会社法の定める会計規程の内容
11	金融商品取引法	金融商品取引法の理念と会計規定の関係
12	金融商品取引法と会計規定	金融商品取引法の定める会計規定
13	会計関連規定	法人税法、中小企業会計指針の概要
14	財務諸表の構造	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の構造
15	財務諸表の役割	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の役割と見方

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	専門演習 I の復習および今後の授業内容と進め方の説明。
2	会計基準	会計基準の概要
3	会計基準の理論的枠組み	会計理論の構造と会計基準
4	会計基準の動向	会計基準の歴史と国際会計基準
5	企業会計原則	企業会計原則の考え方と国際会計基準の動向
6	損益計算の構造	損益計算の構造と国際会計基準
7	資産の評価	各種資産の評価基準
8	減価償却	減価償却の意義と方法
9	引当金	引当金の意義と各種引当金
10	純資産	資本金、剰余金等の意義
11	財務諸表	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の仕組み
12	原価計算	原価計算の基礎知識
13	原価計算の展開	部門別、製品別、個別原価計算
14	法人税	法人税の概要、所得税との関係
15	監査	監査の役割と法制度の関係

科目名	専門演習 I			
09～11年度入学：専門演習 I				
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広げる。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読し、必要に応じて解説を加えるという方法をとる。出席は重視する。また、夏休みには新書版の本の中から選び1冊読んでレポートを出してもらい、秋から一時その発表に時間を割く。

■成績評価方法・基準

レポート、口頭発表、出席状況等を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。

■教科書

猿谷 要著 『物語アメリカの歴史』（中公新書 820円+税）

■参考文献

演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	演習の方針と進め方等について。また、ゼミを行う中で、自分が何者なのかを見詰めさせる。そして、将来の目標を立て努力させる。
2 テキスト講読	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。
3 //	//
4 //	//
5 //	//
6 世界情勢研究	テキストを講読しながら、併せて夫々数回にわたって、世界情勢、経営（学）、経済（学）について学ぶ。それについては、新聞・雑誌・文献等をコピーして配布する。
7 //	//
8 //	//
9 経営（学）研究	//
10 //	//
11 //	//
12 //	//
13 //	//
14 //	//
15 総まとめ	この期の演習を総括

科目名	専門演習 II			
09～11年度入学：専門演習 II				
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広げる。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読し、必要に応じて解説を加えるという方法をとる。出席は重視する。また、夏休みには新書版の本の中から選び1冊読んでレポートを出してもらい、秋から一時その発表に時間を割く。

■成績評価方法・基準

レポート、口頭発表、出席状況等を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。

■教科書

猿谷 要著 『物語アメリカの歴史』（中公新書 820円+税）

■参考文献

演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	演習の方針と進め方等について
2	
3	
4 テキスト講読	テキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。
5	
6	
7	
8	
9 夏期課題の発表	夏期休暇の宿題を全員に発表してもらい、討論を行う。
10	
11	
12	近づいた就職活動に備えて、その全般的な指導を行う。面接の受け方（対応の方法と答え方）、論文の書き方、学力（基礎・専門）、時事問題等に対する対策が中心となる。
13 就職対策	
14	
15 総まとめ	この期の演習を総括

科目名	専門演習Ⅰ			
09～11年度入学：専門演習Ⅰ				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

現代経済の主要な担い手である株式会社を規制する、会社法の知識を習得します。とくに株式会社法の仕組みを、基礎から考えていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生の発表を中心に授業を進めていきます。

■成績評価方法・基準

出席回数、発表の内容、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

予習：テキストの発表予定箇所を、あらかじめ読んでください。

復習：発表済みのレジュメをもとに、テキストを読み返してください。

■教科書

近藤光男編「現代商法入門（第8版）」有斐閣

■参考文献

必要な時に、授業の中で紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	受講上の注意、自己紹介
2 会社とは何か	営利・社団・法人性
3 会社の種類	株式・合名・合資・合同会社
4 資本金	資本充実・維持・不変の原則
5 会社の権利能力	定款所定の目的に制限されるか、八幡製鉄政治献金事件
6 会社法の定義	親・子会社、公開・閉鎖会社、大会社
7 会社の設立	発起人、会社という社団の形成
8 定款の作成	変態設立事項、現物出資、財産引受け、発起人の報酬、設立費用
9 設立の手続	発起設立、募集設立、創立総会、検査業の調査
10 設立中の会社	同一性説、開業準備行為
11 株式の意義	持分均一主義、持分複数主義
12 特別の定めのある株式	譲渡制限株式、取得請求権付株式、取得条項付株式
13 株券	株券発行会社は例外、有価証券としての株券、株券喪失登録制度
14 株主名簿	株主は名簿の名義書換が必要、会社に免責効果付与
15 前期のまとめ	後期へのアドバイス

科目名	専門演習Ⅱ			
09～11年度入学：専門演習Ⅱ				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

現代経済の主要な担い手である株式会社を規制する、会社法の基礎知識を習得します。とくに株式会社法の仕組みを、基礎から考えていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生の発表を中心に授業を進めていきます。発表は、自分の能力を伸ばすことを意識して、取り組んでください。

■成績評価方法・基準

出席回数、発表の内容、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

予習：テキストの発表予定箇所を、あらかじめ読んでください。

復習：発表済みのレジュメをもとに、テキストを読み返してください。

■教科書

近藤光男編「現代商法入門（第8版）」有斐閣

■参考文献

必要がある時に、授業の中で紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 受講上の注意	発表能力の向上を重視します
2 株主	自益権、共益権、株主有限責任の原則
3 株式譲渡自由の原則	投下資本の回収を保障、譲渡制限株式
4 自己株式の取得	原則として取得可、取得の手続、自己株式の処分
5 株主総会の権限	最高決議機関、定時総会、臨時総会
6 招集手続	少数株主による招集請求、株主提案権
7 議決権	普通・特別決議、代理人による出席、委任状、書面投票制度
8 取締役の選任・終任	株主総会決議で選任・解任、任期
9 取締役会設置会社の取締役・取締役会	取締役会が会社の業務執行を決定、決議要件
10 取締役会設置会社の代表取締役会	代表機関、執行機関、表見代表取締役
11 善管な管理者の注意義務	善良な管理者の注意義務、経営判断の原則
12 忠実義務	同質・異質説、取締役の利得の機会の奪取
13 卒業論文テーマの決定 1	個別面接により決定
14 // 2	//
15 後期のまとめ	最終学年に向けてのアドバイス

科目名	専門演習 I		
09～11年度入学：専門演習 I			
担当者	加茂川 益郎 Masuro Kamogawa		
対象学年	12年度入学	3年以上	単位 1単位
	09～11年度入学	3年以上	

■授業のねらいと到達目標

少子高齢化時代を迎えた日本経済の社会保障と財政、金融、貿易を考察し、将来像を探る。各自の研究テーマを確定し、卒論に繋げていく。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストのうち、各自関心のあるテーマを選んで発表してもらい、討論する。

■成績評価方法・基準

出席、発表、討論、レポートによって総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストを熟読し、発表者は要点と問題点を整理しておく。新聞等のニュースに目を通しておく。

復習：ゼミ討論において深められた理解と論点を確かめること

■教科書

三橋・内田・池田『ゼミナール 日本経済入門』
日本経済新聞社

■参考文献

新聞、雑誌、ネットのニュース

■授業内容

授業項目	授業内容
1	人口減少時代の財政 変わる政府の役割
2	// 財政改革の構図
3	// 高齢社会の重圧
4	// 迫られる税制改革
5	// 財政の歴史、役割としくみ
6	金融システムの再構築 金融市場揺らぐ
7	// 変わる資金の流れ
8	// 不良債権はなぜ問題なのか
9	// 金融ビッグバン
10	国際経済と日本の貿易 変わる世界経済のダイナミズム
11	// アジアの成長・挫折・回復
12	// 急増する地域貿易協定
13	// 自由貿易と経済摩擦の相克
14	// 中国の加盟とWTO体制
15	まとめ まとめ一財政、金融、貿易の現状と問題点

科目名	専門演習 II		
09～11年度入学：専門演習 II			
担当者	加茂川 益郎 Masuro Kamogawa		
対象学年	12年度入学	3年以上	単位 1単位
	09～11年度入学	3年以上	

■授業のねらいと到達目標

少子高齢化時代を迎えた日本経済の円、産業構造、経営について考察し将来像を探る。各人は関心のあるテーマを選んで研究し、卒論に繋げていく。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストのうち、関心のあるテーマを選んで発表してもらい、討論する。

■成績評価方法・基準

出席、発表、討論、レポートによって総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストを熟読し、発表者は要点と問題点を整理すること。新聞等のニュースに目を通すこと。

復習：ゼミで深められた理解と論点を整理し確かめること。

■教科書

三橋・内田・池田『ゼミナール 日本経済入門』
日本経済新聞社

■参考文献

新聞、雑誌、ネットの記事

■授業内容

授業項目	授業内容
1	通貨大競争時代
2	ドル支配の終わり
3	グローバリゼーション 円はダメな通貨なのか
4	下の円 内に弱い円
5	通貨新秩序への胎動
6	国際通貨制度・円の歴史
7	グローバル下と日本の産業
8	変わる産業構造 進む製造業の国内回帰
9	伸びる産業、沈む産業
10	産業構造・工業化の歴史
11	変革期を迎えた企業経営
12	経営革新と雇用問題 動き出したM&A
13	構造化する労働市場
14	企業の労働需要と企業行動理論
15	まとめ まとめ一円、産業構造、経営革新と雇用の現状と問題点

科目名	専門演習 I			
09～11年度入学：専門演習 I				
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題（不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など）について研究することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読しながら、経済政策の基礎となるマクロ経済学について習得する。本演習では、3年次終了時点で論文を作成することを義務づけているので、その指導も同時に行う。これは4年次の演習において指導する卒論作成の準備段階と位置づけるものである。

■成績評価方法・基準

授業中の報告（60%）・レポート及びその他の課題（40%）

■授業の予習・復習

予習：ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。

復習：ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。

科目名	専門演習 II			
09～11年度入学：専門演習 II				
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題（不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など）について研究することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読しながら、経済政策の基礎となるマクロ経済学について習得する。本演習では、3年次終了時点で論文を作成することを義務づけているので、その指導も同時に行う。これは4年次の演習において指導する卒論作成の準備段階と位置づけるものである。

■成績評価方法・基準

授業中の報告（60%）・レポート及びその他の課題（40%）

■授業の予習・復習

予習：ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。

復習：ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。

■教科書

『スティグリッツ 入門経済学（第3版）』東洋経済新報社、J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	不完全市場（1）	基本競争モデルの拡張
2	〃（2）	不完全競争と市場構造
3	〃（3）	不完全情報
4	〃（4）	外部性
5	〃（5）	公共財
6	〃（6）	市場の失敗の様々な要因
7	〃（7）	レポート作成と練習問題による演習
8	公共部門（1）	経済における政府の役割
9	〃（2）	税制の評価：アメリカの税制を例として
10	〃（3）	所得移転：福祉給付、社会保険
11	〃（4）	政府による政策の決定と政府の失敗
12	〃（5）	レポート作成と練習問題による演習
13	マクロ経済学と完全雇用（1）	GDPと経済成長
14	〃（2）	失業とインフレーション
15	〃（3）	基本的マクロモデルによる均衡国民所得の決定

■教科書

『スティグリッツ 入門経済学（第3版）』東洋経済新報社、J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著

■参考文献

『スティグリッツ マクロ経済学（第3版）』東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	乗数と国際貿易（1）	乗数理論：投資乗数と財政乗数
2	〃（2）	国際貿易の影響
3	〃（3）	レポート作成と練習問題による演習
4	インフレーションとデフレーション（1）	インフレとデフレのコスト
5	〃（2）	インフレと失業の関係：フィリップス曲線
6	〃（3）	インフレの自己持続性
7	〃（4）	金融政策
8	〃（5）	金融政策と財政政策
9	〃（6）	日本の金融政策
10	〃（7）	日本の財政政策
11	〃（8）	レポート作成と練習問題による演習
12	長期的経済成長の分析（1）	投資と貯蓄
13	〃（2）	労働の質の改善
14	〃（3）	技術進歩と全要素生産性
15	全体のまとめ	レポート作成と練習問題による演習

■参考文献

『スティグリッツ マクロ経済学（第3版）』東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著

科目名	専門演習 I			
09～11年度入学：専門演習 I				
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について考えることを通して就職活動を支援する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義を通じて人の話を理解して要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。

■成績評価方法・基準

出席40%、その他60%

■授業の予習・復習

テキストを読んできて欲しい。復習は分からなかった時に質問に来て下さい。常時卒論のテーマを念頭においてもらいたい。

■教科書

『MBAマーケティング』改定3版 クロービス著
ダイヤモンド社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	マーケティングとは	イントロダクション
2	基礎編	①市場機会
3	〃	②ターゲティング
4	〃	③ポジショニング
5	マーケティング戦略	④製品戦略
6	〃	⑤価格戦略
7	〃	⑥流通戦略
8	〃	⑦コミュニケーション戦略
9	応用編	⑧ブランド
10	〃	⑨低価格
11	〃	⑩サプライチェーン
12	〃	⑪最適調達
13	〃	⑫規模の経済
14	〃	⑬範囲の経済
15	〃	結びにかえて

■参考文献

科目名	専門演習 II			
09～11年度入学：専門演習 II				
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について考えることを通して就職活動を支援する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義を通じて人の話を理解して要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。

■成績評価方法・基準

出席40%、その他60%

■授業の予習・復習

テキストを読んできて欲しい。復習は分からなかった時に質問に来て下さい。常時卒論のテーマを念頭においてもらいたい。

■教科書

『MBAマーケティング』改定3版 クロービス著
ダイヤモンド社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	日本経済の課題	イントロダクション
2	企業研究入門	①沿革
3	〃	②経営者
4	〃	③株式
5	〃	④セグメント別
6	〃	⑤総合評価
7	〃	⑥総合評価
8	〃	⑦総合評価
9	〃	①鉄鋼
10	〃	②電力
11	〃	③鉄道
12	〃	④自動車
13	〃	⑤半導体
14	〃	⑥石油
15	〃	⑦日本の産業

■参考文献

科目名	専門演習Ⅰ			
09～11年度入学：専門演習Ⅰ				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

産業立地論や経済地理の考え方や方法を使って、産業や地域の特色を分析し、産業と地域の関係を明らかにできるような能力の養成を目指します。このゼミを通して、資料の分析の仕方、分析結果のまとめ方、レポートの作成方法を学びます。産業と地域の関係をレポートで明らかにできるようになることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

産業と地域の関係を明らかにするために夏休み（9月）にゼミ合宿を行います。いくつかの班に分かれて担当する産業を決め、現地に行って企業見学や調査を行います。Ⅰでは調査のための準備（資料集めや資料分析、調査項目の検討など）を行います。

■成績評価方法・基準

レジュメを含む発表内容（60%）と平常点（40%）から評価します。

■授業の予習・復習

自分達が担当する分野の産業や企業については、予め文献や資料等で調べておく。ゼミ時に指導された分析方法や分析内容については必ず復習しておくこと。

■教科書

使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

科目名	専門演習Ⅱ			
09～11年度入学：専門演習Ⅱ				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

産業立地論や経済地理の考え方や方法を使って、産業や地域の特色を分析し、産業と地域の関係を明らかにできるような能力の養成を目指します。このゼミを通して、資料の分析の仕方、分析結果のまとめ方、レポートの作成方法を学びます。産業と地域の関係をレポートで明らかにできるようになることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ合宿での調査結果のまとめを行います。レポートは班単位で提出してもらいます。提出後はディベートの練習を行います。

■成績評価方法・基準

レポート（50%）と平常点（50%、ゼミ合宿でのミーティング、ディベート等）から評価します。

■授業の予習・復習

自分達が担当する分野の産業や企業については、予め文献や資料等で調べておく。ゼミ時に指導された分析方法や分析内容については必ず復習しておくこと。

■教科書

使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方
2	合宿地の決定	候補地の紹介、合宿地の決定、班分け
3	合宿地の概況	合宿地に立地する産業の特色を解説
4	産業分析（1）	班単位での産業分析（全国を対象）
5	〃（2）	〃（合宿地を対象）
6	〃（3）	〃（補足）
7	班別発表	レジュメを基に産業分析結果を発表
8	企業分析（1）	班単位での企業分析（全社を対象）
9	〃（2）	〃（合宿地の事業所を対象）
10	〃（3）	〃（補足）
11	班別発表	レジュメを基に企業分析結果を発表
12	調査項目の検討（1）	企業全体に関する内容の検討
13	〃（2）	合宿地の事業所に関する内容の検討
14	班別発表	レジュメを基に調査項目を発表
15	合宿打合せ	ゼミ合宿に参加する4年生との打合せ

■参考文献

三菱総合研究所 産業・市場戦略研究本部編『日本産業読本（第8版）』
東洋経済新報社
各企業単位で刊行されている『有価証券報告書総覧』

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	班別発表（続き）	ゼミ合宿最終日に調査した班の調査報告
2	レポートの作成について	資料や文献のまとめ方、レポートの構成等について指導
3	調査結果のまとめ（1）	資料や文献等のまとめ
4	〃（2）	調査結果の検討
5	〃（3）	結論の検討
6	〃（4）	レポート下書きの検討（1）
7	〃（5）	〃（2）
8	〃（6）	レポートの添削指導
9	ディベート練習（1）	ディベートについての説明
10	〃（2）	ディベートの実施（1）
11	〃（3）	〃（2）
12	〃（4）	〃（3）
13	卒業論文について（1）	卒業論文の意義と作成について
14	〃（2）	卒業論文テーマの指導（1）
15	〃（3）	〃（2）

■参考文献

三菱総合研究所 産業・市場戦略研究本部編『日本産業読本（第8版）』東洋経済新報社
各企業単位で刊行されている『有価証券報告書総覧』

科目名	専門演習 I			
09～11年度入学：専門演習 I				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

一にも二にも卒業論文の準備につきます。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は、折原が『敬愛大学・研究論集』に公表したものをなどを材料に、論文の作成方法全般について学びます。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（0%）、レポート及びその他の課題（50%）、出席（50%）。平常点（出席状況、受講態度等）とレポートなど課題との総合評価によります。

■授業の予習・復習

進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。

■教科書

折原裕「古典の読み方——『アリストテレス、スミス、マルクス』に寄せて——」『敬愛大学研究論集』第79号、他。
コピーを配布します。

■参考文献

指定しません。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	テキスト輪読	テキスト輪読
2	//	//
3	//	//
4	//	//
5	//	//
6	//	//
7	//	//
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	//	//
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	//	//

科目名	専門演習 II			
09～11年度入学：専門演習 II				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

一にも二にも卒業論文の準備につきます。

■授業の進め方（履修条件等）

後期は、夏休み中に書いてもらうレポートをもとに、卒業論文準備報告書を執筆することを目標にします。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（0%）、レポート及びその他の課題（50%）、出席（50%）。平常点（出席状況、受講態度等）とレポートなど課題との総合評価によります。

■授業の予習・復習

進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。

■教科書

指定しません。

■参考文献

指定しません。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	レポートの検討	レポートの検討
2	//	//
3	//	//
4	//	//
5	//	//
6	//	//
7	//	//
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	//	//
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	//	//

科目名	専門演習 I			
09～11年度入学：専門演習 I				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

2年ゼミ同様楽しく・休まず続けましょう。新しく入る方は、PCが使えること、ディスカッションに溶け込んでくれることを希望します。

■授業の進め方（履修条件等）

卒論草稿を書くこと、就職活動にも役立つグループディスカッションに慣れることを中心に進めます。後半は就職活動の準備も進めていきましょう。

■成績評価方法・基準

定期試験（実施せず）・授業内小テスト（実施せず）・レポート及びその他の課題（50%）・出席（50%）

■授業の予習・復習

卒論執筆が入り始めると、今までと違い、個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。自分自身で作ったスケジュールに遅れぬよう、自宅での作業も必須となります。

■教科書

特に指定しません。

■参考文献

必要に応じて一緒に見つけましょう。

科目名	専門演習 II			
09～11年度入学：専門演習 II				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

2年ゼミ同様楽しく・休まず続けましょう。新しく入る方は、PCが使えること、ディスカッションに溶け込んでくれることを希望します。

■授業の進め方（履修条件等）

卒論草稿を書くこと、就職活動にも役立つグループディスカッションに慣れることを中心に進めます。後半は就職活動の準備も進めていきましょう。

■成績評価方法・基準

定期試験（実施せず）・授業内小テスト（実施せず）・レポート及びその他の課題（50%）・出席（50%）

■授業の予習・復習

卒論執筆が入り始めると、今までと違い、個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。自分自身で作ったスケジュールに遅れぬよう、自宅での作業も必須となります。

■教科書

特に指定しません。

■参考文献

必要に応じて一緒に見つけましょう。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ディスカッション	インターンシップについてグループディスカッションしましょう。
2 卒論	春休み中に進めた卒論本文の文章をチェックし、いくつかの論文を取り上げて講評します。講評で出たポイントに注意しながら、それぞれ自分の文章を直していきましょう。
3 //	前回の続きをやりましょう。翌週の問題解決型ディスカッションのテーマを決めましょう。
4 ディスカッション	テーマは前回選んだものでやりましょう。
5 //	図解を使って問題解決型のディスカッションをやりましょう。
6 プレゼンテーション	前回の議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。
7 卒論	検索を進めながら、卒論の本文を付け加えていきましょう。進め方に迷う時期です。どんどん質問してください。
8 //	前回の続きをやりましょう。翌週のディスカッション（ディベート型）のテーマを決めましょう。
9 ディスカッション	前回選んだテーマでディベートをやりましょう。
10 //	図解を使って問題解決型のディスカッションをやりましょう。
11 プレゼンテーション	前回の議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。
12 卒論報告 1	ゼミの1/3が卒論内容について報告します。残りの2/3の方々は口頭でそのコメントをします。
13 //	2 //
14 //	3 //
15 ディスカッション	自由なテーマでディスカッションしましょう。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ディスカッション	直近の新卒採用に関するニュースを見てグループディスカッションしましょう。
2 卒論	夏休み中に進めた卒論本文の文章をファイルサーバに入れ、互いに見ながらいくつかの論文を取り上げて講評します。講評で出たポイントに注意しながら、それぞれ自分の文章を直していきましょう。
3 //	前回の続きをやりましょう。翌週の問題解決型ディスカッションのテーマを決めましょう。
4 ディスカッション	テーマは前回選んだものでやりましょう。
5 //	図解を使って問題解決型のディスカッションをやりましょう。
6 プレゼンテーション	前回の議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。
7 卒論	検索を進めながら、卒論の本文を付け加えていきましょう。ご自宅での作業も含め、草稿の完成にむけて、どんどん内容メモを入力していきましょう。
8 //	前回の続きをやりましょう。翌週のディスカッション（ディベート型）のテーマを決めましょう。
9 ディスカッション	前回選んだテーマでディベートをやりましょう。
10 //	図解を使って問題解決型のディスカッションをやりましょう。
11 プレゼンテーション	前回の議論結果をそれぞれのグループが図解を提示しながら報告します。
12 卒論報告 1	ゼミの1/3が卒論内容について報告します。残りの2/3の方々は口頭でそのコメントをします。
13 //	2 //
14 //	3 //
15 ディスカッション	自由なテーマでディスカッションしましょう。

科目名	専門演習 I		
09～11年度入学：専門演習 I			
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		
対象学年	12年度入学	3年以上	単位 1単位
	09～11年度入学	3年以上	

■授業のねらいと到達目標

日本経済史に関する基本的な理解を深化させることをねらいとしている。卒業論文作成に向けて、研究対象とする時代の経済状況に関する一定の理解を持つことが目標である。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読し内容を理解したら、翌週は文献発表（内容要約や批評）を実施する。

■成績評価方法・基準

平常点で評価する。毎回の授業での発言、報告、レポート作成によって判定する。

■授業の予習・復習

予習：テキストを読んでおくこと
復習：発表の準備を行う

■教科書

三和良一『概説日本経済史』第2版（東京大学出版会、2002年）

■参考文献

教科書の参考文献を参照すること

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方
2	輪読（「幕末の経済と開港」）	テキストを輪読し、理解を深める。
3	文献発表（「幕末の経済と開港」）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
4	輪読（「明治維新」）	テキストを輪読し、理解を深める。
5	文献発表（「明治維新」）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
6	輪読（「殖産興業と松方財政」）	テキストを輪読し、理解を深める。
7	文献発表（「殖産興業と松方財政」）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
8	輪読（「近代産業の発達（1）」）	テキストを輪読し、理解を深める。
9	文献発表（「近代産業の発達（1）」）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
10	輪読（「近代産業の発達（2）」）	テキストを輪読し、理解を深める。
11	文献発表（「近代産業の発達（2）」）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
12	輪読（「日清・日露戦争と日本経済」）	テキストを輪読し、理解を深める。
13	文献発表（「日清・日露戦争と日本経済」）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
14	輪読（「1920年代」）	テキストを輪読し、理解を深める。
15	文献発表（「1920年代」）	各自に分担してもらい文献発表を行う。

科目名	専門演習 II		
09～11年度入学：専門演習 II			
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		
対象学年	12年度入学	3年以上	単位 1単位
	09～11年度入学	3年以上	

■授業のねらいと到達目標

日本経済史に関する基本的な理解を深化させることをねらいとしている。卒業論文作成に向けて、研究対象とする時代の経済状況に関する一定の理解を持つことが目標である。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読し内容を理解したら、翌週は文献発表（内容要約や批評）を実施する。

■成績評価方法・基準

平常点で評価する。毎回の授業での発言、報告、レポート作成によって判定する。

■授業の予習・復習

予習：テキストを読んでおくこと。
復習：発表の準備を行う。

■教科書

三和良一『概説日本経済史』第2版（東京大学出版会、2002年）

■参考文献

教科書の参考文献を参照すること。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方
2	輪読（「昭和恐慌」）	テキストを輪読し、理解を深める。
3	文献発表（ " " ）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
4	輪読（「高橋財政」）	テキストを輪読し、理解を深める。
5	文献発表（ " " ）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
6	輪読（「戦時経済」）	テキストを輪読し、理解を深める。
7	文献発表（ " " ）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
8	輪読（「戦後経済改革」）	テキストを輪読し、理解を深める。
9	文献発表（ " " ）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
10	輪読（「経済復興」）	テキストを輪読し、理解を深める。
11	文献発表（ " " ）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
12	輪読（「高度経済成長」）	テキストを輪読し、理解を深める。
13	文献発表（ " " ）	各自に分担してもらい文献発表を行う。
14	輪読（「高度成長の終焉」）	テキストを輪読し、理解を深める。
15	文献発表（ " " ）	各自に分担してもらい文献発表を行う。

科目名	専門演習 I			
09～11年度入学：専門演習 I				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

企業のプロジェクト評価や、企業経営に財務活動がどのように影響するのか、リスクの分散とはどのようなことなのか、などをテキストと現実のデータを用いながら理解していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読してPPTで報告してもらいます。報告者に決まったら、報告の少なくとも2週間前には準備を始め、わからないところは研究室で徹底的に理解します。PPTのビジュアルにもこだわり、美しくわかりやすいプレゼンテーションをしてもらいます。聞いている人は、その内容についていけるよう、ゼミの間だけは緊張感を持って出席してもらいます。あてられた人は即座に質問に回答しなければなりません。このような訓練を繰り返して、最終的に就職活動でも行うようなプレゼンができるようになることが到達目標です。

■成績評価方法・基準

出席しているときの受け答えや、プレゼンテーションの内容で評価します。

■授業の予習・復習

プレゼンテーションの準備が予習であり、ゼミで勉強したことを現実に活かして就職活動に役立てるのが復習となります。

■教科書

グロービス社「新版：MBAファイナンス」

科目名	専門演習 II			
09～11年度入学：専門演習 II				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

ファイナンスの応用を学びます。オプションなども含んだ難しい問題を、誰にでもわかるようにやさしく解説できることまで、しっかりと理解をします。テキストの内容を報告してもらいつつ、現実のデータにもアクセスして、企業活動とファイナンスの関係を読み解きます。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読し、PPTで報告します。その際、他の人の報告内容を教員と他の学生で補充していきます。2月にゼミ合宿1泊2日で行い、就職活動前の復習をします。

■成績評価方法・基準

プレゼンの内容と、ゼミ合宿への参加で決定します。

■授業の予習・復習

プレゼンの準備と、合宿の準備をもって予習とします。

■教科書

グロービス「新版：MBAファイナンス」

■参考文献

適宜指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション：自己紹介	就職の面接のつもりで自己紹介をしてもらいます。今まで力を入れてきたこと、自分が得意なことをアピールします。
2 自己紹介とゼミでの役割の決定	ゼミでの役割の決定をします。ゼミ代表、副ゼミ代表を決め、連絡網を作ります。自分のことを客観的に伝えられるよう。皆の前でPPTを用いて自己紹介します。
3 ファイナンスの基本-1 事業の収益性	事業の収益性を評価するさまざまな考え方を学びます。
4 ファイナンスの基本-2 キャッシュフロー	キャッシュフローとは何か、その概念と企業の経営の在り方を学びます。
5 ファイナンスの基本-3 現在価値	将来のCFを現在価値に割り引き、比較することを理解します。
6 ファイナンスの基本-4 リスク	リスクの定義、ポートフォリオによるリスクの分散を学びます。
7 ファイナンスの基本-5 CAPM	ポートフォリオの管理とリスクの軽減方法を学びます。ベータ、CAPMを学びます。
8 効率的市場仮説	効率的市場仮説について学びます。
9 資本コスト1	資本コストEBITを学びます。それが負債コストと株主コストからできていること、負債比率を増やせば税金の支払いが小さくすむことなどを学びます。
10 資本コスト2	現実の企業のなかから、ソフトバンクとNTTドコモを用いて、その財務の大きな違いとそれがもたらす事業の収益性について学びます。
11 パリエーション	NPVとEPVの違いについて学びます。
12 復習と発表の補足	今までの授業の中で報告が遅くなった人の分をここでを行います。
13 就職活動に向けた取組	後期にはじまる就職活動の前に、企業の概要・沿革・決算短信からその性質を比較する方法を学び、知らない企業について知識を得る方法を学びます。
14 ゼミで学んだことのまとめ	毎時間どんな新しい発見があったかについて、ファイナンスの基礎について話題を再度ピックアップ、全体の流れを理解します。
15 後期に向けての準備	後期に向けて、ファイナンスの基礎を自分なりに噛み砕いた表現で解説できるようにします。

■参考文献

ゼミの中で適宜伝えます。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期の復習と報告の順番決め	前期に学んだファイナンスの基礎を復習します。
2 就職活動のためのリクナビ登録	リクナビ登録をします。キャリアセンター主導です。
3 ファイナンスの応用1. 企業価値	企業価値とは何か、株価とは何かを学び、株価を評価するPER、PBRなどの指標や、企業価値を高めるための経営の分散化について学びます。
4 企業価値の2	M&Aによる企業価値の変化や、M&Aに会いやすい企業の条件、過去にあったM&Aの具体例、最近の動向について報告してもらいます。
5 財務政策	企業価値を高める最適資本構成とはどのようなものか、最新のファイナンスの理論に基づいて学びます。
6 オプション理論1	派生市場の一つであるオプション市場の価格付けについて理論を学びます。先物市場、先渡し市場についての理解を深めるため初回は講義です。
7 オプション理論2	オプション市場でのプライシングの基礎になる、コールとプット、権利の行使価格をリスクヘッジ、裁定取引などの戦略とともに学びます。
8 オプション理論3	オプションの内容を決める要因について理解します。また、敵対的買収の評価を行います。
9 コーポレートガバナンス	今までの学習内容を含めてコーポレートガバナンスについて学習します。財務構成とコーポレートガバナンス、配当政策について特に理解します。
10 卒業論文のテーマ決定	約1年かけて学んだことを用いて、卒業論文を書くにあたり、どのようなテーマが考えられるか、先輩の事例を基に考えます。
11 卒論のテーマ決定2	全員が、卒業論文のテーマを決めます。二つの同業の上場企業を選び、データを入手しておきます。
12 先輩の就職活動から学ぶ	和田ゼミから内定を取った4年生に来てもらい、就職活動での失敗や成功への道のりについて、話してもらいます。
13 ゼミ合宿の直前の準備	合宿先や当日のイベントなどを決定していきます。合宿先について行きたい場所が複数あればコンペを行い決定します。
14 まとめ	ゼミで学んだことを振り返りまとめます。全員が和田ゼミの内容を理解でき、就職活動で説明できるように訓練します。
15 ゼミ合宿	合宿先で自己アピールの特訓をします。体験型の学習も用意しています。ゼミの集大成です。

科目名	専門演習Ⅰ			
09～11年度入学：専門演習Ⅰ				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

この演習では、近年驚異的な成功を収めたユニクロの躍進の原因を論じた2冊のビジネス書を輪読する。1冊目は、小島健輔『ユニクロ症候群』（東洋経済新報社）である。2冊目は、柳井正『わがドラッカー流経営論』（日本放送出版協会）である。ユニクロの成功を導いた経営方法を学ぶとともに、1990年代以降の日本の消費市場の特徴を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

演習は学生のレポート発表を中心に進めていく。1回目の演習で次回以降の発表者を指定する。指定された学生は事前に教科書の内容に基づいてレポートを作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者のレポートと教科書に基づいて自分の意見を発言してもらう。

■成績評価方法・基準

レポート（30%）、出席（40%）、授業態度（積極的に発言するなど）（30%）で総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義時間中教科書の内容について受講者全員がディスカッションするため、教科書を事前に読むことが必須である。

復習：要求しない。

科目名	専門演習Ⅱ			
09～11年度入学：専門演習Ⅱ				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

この演習では、小田部正明／K・ヘルセン（2010）『国際マーケティング』（碩学舎）を輪読する。これを通じて、国際マーケティングに関する基本概念、すなわちグローバル・セグメンテーションとポジショニング、グローバル製品政策、グローバル価格設定、世界の消費者とのコミュニケーション、グローバル・ロジスティクスと流通などの概念を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

演習は学生のレポート発表を中心に進めていく。1回目の演習で次回以降の発表者を指定する。指定された学生は事前に教科書の内容に基づいてレポートを作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者のレポートと教科書に基づいて自分の意見を発言してもらう。

■成績評価方法・基準

レポート（30%）、出席（40%）、授業態度（積極的に発言するなど）（30%）で評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義時間中教科書の内容について受講者全員がディスカッションするため、教科書を事前に読むことが必須である。

復習：要求しない。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	演習内容と進め方
2 『ユニクロ症候群』第3章	ユニクロ成長の軌跡
3 // 第4章	国民的ブランドからグローバルブランドへ
4 // 第5章	ユニクロは古典的ビジネスモデル
5 // 第6章	ファーストリテイリングは5兆円構想を達成できるか？
6 // 第7章	退化する消費文明
7 // 第8章	没落する日本
8 『わがドラッカー流経営論』第1章	顧客を創造せよ
9 // 第2章	人間が幸せであるために
10 // 第3章	主役は『知的労働者』
11 // 第4章	企業は社会の公器だ
12 日本の消費市場	『流通経済の手引き』を読む
13 日本の小売業	//
14 ユニクロの海外進出	米国、中国、欧州市場への進出
15 ディスカッション	ユニクロの事例から学んだこと

■教科書

小島健輔（2010）『ユニクロ症候群』東洋経済新報社。
柳井正（2010）『わがドラッカー流経営論』日本放送出版協会。

■参考文献

指定しない。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	演習の内容と進め方
2 第1章	市場のグローバル化、グローバル・マーケティングの発展
3 第2章	異文化比較
4 //	文化とマーケティング・ミックス
5 第4章	国際市場セグメンテーション
6 //	国際ポジショニング戦略
7 第5章	グローバル・マーケティング戦略
8 第6章	グローバル市場参入戦略
9 第7章	グローバル調達戦略
10 第8章	グローバル製品政策決定：新製品開発
11 第9章	グローバル製品政策決定：製品とサービスのマーケティング
12 第10章	グローバル価格設定
13 第11章	世界の消費者とのコミュニケーション
14 第12章	グローバル・ロジスティクスと流通
15 ディスカッション	グローバルイノベーション、グローバル・マーケティング戦略の開発

■教科書

小田部正明、クリスティアン・ヘルセン（著）、栗木契（監訳）（2010）『国際マーケティング』碩学舎。

■参考文献

指定しない。

科目名	専門演習 I			
09～11年度入学：専門演習 I				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開と政府や企業、家計が今日直面している諸問題を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

3年次においては、日本経済の構造変化に関する共通の文献を講読することで上記の問題を中心に一通りの知識を確認することを目標とする。より進んだ学習のために必要な事項を学び、後期以降の本格的な研究の準備とする。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題、出席の状況。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。

■授業の予習・復習

予習：発表担当者にはレジュメ作成などの準備が、それ以外のメンバーには当該箇所に関する十分な予習が求められる。
復習：毎回の内容を自分の卒業論文のテーマ選びに結びつけ、計画をたてる参考とする。

■教科書

未定。マクロ経済学の観点から日本経済を捉えた専門書、論文集（日本語文献）を選定する。

科目名	専門演習 II			
09～11年度入学：専門演習 II				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開と政府や企業、家計が今日直面している諸問題を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

3年次においては、日本経済の構造変化に関する共通の文献を講読することで上記の問題を中心に一通りの知識を確認することを目標とする。この過程で卒業論文における自身の研究テーマを見つけ出し、4年次における論文執筆の準備とする。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題、出席の状況。後者にはゼミでの発言など参加の積極性を反映させる。

■授業の予習・復習

予習：発表担当者にはレジュメ作成などの準備が、それ以外のメンバーには当該箇所に関する十分な予習が求められる。
復習：毎回の内容を自分の卒業論文のテーマ選びに結びつけ、計画をたてる参考とする。

■教科書

未定。マクロ経済学の観点から日本経済を捉えた専門書、論文集（日本語文献）を選定する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに (1)	この科目の紹介、進め方などについて
2 // (2)	教科書の紹介と選定
3 // (3)	この演習を卒論執筆とどう結びつけるか
4 基礎的事項の確認(1)	日本経済をとりまくさまざまな問題 (1)
5 // (2)	// (2)
6 文献講読と発表(1)	回数を変更する場合がある
7 // (2)	//
8 // (3)	//
9 // (4)	//
10 // (5)	//
11 // (6)	//
12 // (7)	//
13 // (8)	//
14 // (9)	//
15 まとめ	夏休みの課題レポートと後期の専門演習に向けての準備

■参考文献

各回の論題にあわせて適宜紹介する他、卒論と結び付けられるよう研究テーマに応じて個別に紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに (1)	前期からのまとめ
2 夏休みの課題レポート発表 (1)	発表とコメント
3 // (2)	//
4 // (3)	//
5 文献講読と発表(1)	発表とコメント、適宜「就職活動について」
6 // (2)	//
7 // (3)	//
8 // (4)	//
9 // (5)	//
10 // (6)	//
11 // (7)	//
12 // (8)	//
13 // (9)	//
14 // (10)	//
15 まとめ	4年次の演習、卒論執筆に向けての準備

■参考文献

各回の論題にあわせて適宜紹介する他、卒論と結び付けられるよう研究テーマに応じて個別に紹介する。

科目名	専門演習 I			
09～11年度入学：専門演習 I				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

本演習の目的は、経済学・経営学の基礎知識およびデータや事例を基にした論理的思考を身につけてもらうことです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は「情報経済論（情報マネジメント）」を履修していることとExcel、PowerPointが使えることです。卒論作成のための事前準備として、研究対象となる業界および企業についての情報収集と分析から、データをExcelでグラフ化し、PowerPointで文書化および報告を行ってまいります。

■成績評価方法・基準

出席（20%）と報告（80%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：ExcelやPowerPointの操作方法を演習の前に復習しておいてください。

復習：授業時間以外にも必要な作業をおこなってください。

■教科書

必要なデータや資料は配布します

■参考文献

高橋 誠 著「日経文庫 問題解決手法の知識<新版>」
日経新聞社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義スケジュールの確認
2	情報財とコンテンツ産業	情報財の価値とコンテンツ産業の分類
3	コンテンツビジネスのしくみ	コンテンツビジネスの収益構造
4	研究対象 1	研究対象候補のリストアップ
5	// 2	研究対象候補の現状調査
6	// 3	研究対象候補の絞り込みまたは決定
7	研究対象の報告	研究対象候補と選定理由の報告
8	業界研究 1	研究対象の業界の現状調査
9	// 2	研究対象の業界の現状把握
10	// 3	研究対象の業界の現状分析
11	業界研究の報告	研究対象の業界の現状報告
12	企業研究 1	研究対象の企業の現状調査
13	// 2	研究対象の企業の現状把握
14	// 3	研究対象の企業の現状分析
15	企業研究の報告	研究対象の企業の現状報告

科目名	専門演習 II			
09～11年度入学：専門演習 II				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

本演習の目的は、経済学・経営学の基礎知識およびデータや事例を基にした論理的思考を身につけてもらうことです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は「情報経済論（情報マネジメント）」を履修し終えていることとExcel、PowerPointが使えることです。卒論作成のために研究課題を決定してまいります。そのために調査・分析とPowerPointによる報告を行ってまいります。

■成績評価方法・基準

出席（20%）と報告（80%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：ExcelやPowerPointの操作方法を演習の前に復習しておいてください。

復習：授業時間以外にも必要な作業をおこなってください。

■教科書

必要なデータや資料は配布します。

■参考文献

高橋 誠 著「日経文庫 問題解決手法の知識<新版>」
日経新聞社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義スケジュールの確認
2	業界分析 1	業界全体の抱える諸問題の洗い出し
3	// 2	業界全体の抱える諸問題の原因分析
4	業界分析の報告	諸問題と原因の報告
5	企業分析 1	個別企業の業績比較
6	// 2	主要企業の活動調査 1
7	// 3	// 2
8	企業分析の報告	業績と活動内容の報告
9	課題分析 1	諸問題と企業活動の分析 1
10	課題の報告 1	諸問題と企業活動の関係を報告 1
11	課題分析 2	諸問題と企業活動の分析 2
12	課題の報告 2	諸問題と企業活動の関係を報告 2
13	課題分析 3	諸問題と企業活動の分析 3
14	課題の報告 3	諸問題と企業活動の関係を報告 3
15	研究課題の決定	研究課題と卒論作成スケジュールの決定

科目名	専門演習Ⅰ			
09～11年度入学：専門演習Ⅰ				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

専門導入演習Ⅱで行った実態調査をベースとして、調査報告書を作成する。また、就職活動のための準備を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生のレジュメ報告と検討を軸として、調査報告書を完成させる。就活準備としてSPIテストと面接の受け方講座も実施する。

■成績評価方法・基準

調査報告書で判断する。

■授業の予習・復習

調査報告レジュメの準備と、報告後の手直し。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

星真実「千葉県のパートタイマー 2008」
（『敬愛大学研究論集』74号）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ゼミの進行方法について
2	ヒアリング調査報告書作成	調査内容発表と発表内容の検討
3	//	//
4	//	//
5	//	//
6	//	//
7	//	//
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	//	//
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	//	//

科目名	専門演習Ⅱ			
09～11年度入学：専門演習Ⅱ				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

専門導入演習Ⅱで行った実態調査をベースとして、調査報告書を作成する。また、就職活動のための準備を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生のレジュメ報告と検討を軸として、調査報告書を完成させる。就活準備としてSPIテストと面接の受け方講座も実施する。

■成績評価方法・基準

調査報告書で判断する。

■授業の予習・復習

調査報告レジュメの準備と、報告後の手直し。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

星真実「千葉県のパートタイマー 2008」
（『敬愛大学研究論集』74号）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ゼミの進行方法について
2	ヒアリング調査報告書作成	調査内容発表と発表内容の検討
3	//	//
4	//	//
5	//	//
6	//	//
7	//	//
8	//	//
9	SPIテスト	非言語能力
10	//	言語能力
11	//	SPI模試
12	20答法	Who am I Test Ⅲ
13	面接練習	ゼミ内面接練習（一般）
14	//	//
15	//	//（圧迫）

科目名	専門演習Ⅰ			
09～11年度入学：専門演習Ⅰ				
担当者	金子 林太郎 Rintarou Kaneko			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

やや専門的な内容の本を読んで、4年次に卒業研究を行うための基盤を整えること（できれば卒論のテーマ設定）を目標とする。また、来るべき就職活動に向けて、心の準備を整えることも目標としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的に前期はテキストを全員で輪読し、教員がポイントを解説する。その際、教員が一方的に解説し、学生は聞くのではなく、内容に関する質疑を通して理解を深めてもらう。テキストの内容を要約する練習もする。

■成績評価方法・基準

ゼミ中の態度（発言の量、内容）、小レポートの内容等によって総合的に評価する。無断欠席は厳禁である。

■授業の予習・復習

予習：テキストの予告した範囲を読んでおくこと。

復習：疑問に思ったことをインターネット等で調べること。

■教科書

飯田哲也『エネルギー進化論』ちくま新書

■参考文献

石橋克彦編『原発を終わらせる』岩波新書

吉岡斉『原発と日本の未来』岩波ブックレット

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方、評価方法の説明、自己紹介等
2	個人目標の設定	今年度の個人目標を設定、発表
3	テキストの輪読1	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
4	テキストの輪読2	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
5	テキストの輪読3	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
6	復習と小レポート作成1	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成
7	テキストの輪読4	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
8	テキストの輪読5	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
9	テキストの輪読6	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
10	復習と小レポート作成2	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成
11	テキストの輪読7	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
12	テキストの輪読8	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
13	テキストの輪読9	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
14	復習と小レポート作成3	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成
15	前期のまとめ	前期のゼミで扱った内容の振り返り

科目名	専門演習Ⅱ			
09～11年度入学：専門演習Ⅱ				
担当者	金子 林太郎 Rintarou Kaneko			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

やや専門的な内容の本を読んで、4年次に卒業研究を行うための基盤を整えること（できれば卒論のテーマ設定）を目標とする。また、来るべき就職活動に向けて、心の準備を整えることも目標としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的にテキストを全員で輪読し、教員がポイントを解説する。その際、教員が一方的に解説し、学生は聞くのではなく、内容に関する質疑を通して理解を深めてもらう。テキストの内容を要約する練習もする。

■成績評価方法・基準

ゼミ中の態度（発言の量、内容）、小レポートの内容等によって総合的に評価する。無断欠席は厳禁である。

■授業の予習・復習

予習：テキストの予告した範囲を読んでおくこと。

復習：疑問に思ったことをインターネット等で調べること。

■教科書

吉田文和『グリーン・エコノミー』中公新書

■参考文献

石橋克彦編『原発を終わらせる』岩波新書

吉岡斉『原発と日本の未来』岩波ブックレット

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方、評価方法の説明、自己紹介等
2	個人目標の確認、中間評価、修正	今年度の個人目標の中間評価、修正（後期の目標設定）、発表
3	テキストの輪読1	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
4	テキストの輪読2	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
5	テキストの輪読3	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
6	復習と小レポート作成1	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成
7	テキストの輪読4	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
8	テキストの輪読5	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
9	テキストの輪読6	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
10	復習と小レポート作成2	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成
11	テキストの輪読7	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
12	テキストの輪読8	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
13	テキストの輪読9	全員でテキストの輪読、討論、教員による解説
14	復習と小レポート作成3	ここまでで輪読したテキストの内容の振り返りと小括レポートの作成
15	まとめ	今年度のゼミで扱った内容の振り返り、個人目標の達成状況評価

科目名	専門演習Ⅰ			
09～11年度入学：専門演習Ⅰ				
担当者	岸本 太一 Taichi Kishimoto			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいおよび到達目標は、次の3つです。①：ビジネス書および経営学・経済学の教科書を読めるようになること。②：他人が容易に理解可能なプレゼンテーション資料を作成できるようになること。③：意味のあるディスカッションができるようになること。ゼミという形式は、この3点を学ぶには最適な形式です。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回必ず課題を出します。「本の数章を要約」、「本の内容を用いて企業を分析」等の課題です。その課題に対してプレゼン資料を作成してきてもらいます。当日のゼミでは、その資料をもとにディスカッションをします。

■成績評価方法・基準

出席、提出課題の質、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。無断欠席した場合、単位を与えません。

■授業の予習・復習

予習：毎回受講者全員に必ず何らかの課題を課します。その課題を行なってきて下さい。

復習：適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。

■教科書

石井淳蔵・嶋口充輝・余田拓郎・栗木契著
『ゼミナール マーケティング入門』日本経済新聞社

科目名	専門演習Ⅱ			
09～11年度入学：専門演習Ⅱ				
担当者	岸本 太一 Taichi Kishimoto			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいおよび到達目標は、次の3つです。①：企業を分析するための基礎的なノウハウを習得する。②：チームで考察・研究するというスタイルに馴染む。③：卒業論文の研究テーマを発見する。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回必ず課題を出します。「本の数章を要約」、「本の内容を用いて企業を分析」等の課題です。その課題に対してプレゼン資料を作成してきてもらいます。当日のゼミでは、その資料をもとにディスカッションをします。

■成績評価方法・基準

出席、提出課題の質、ゼミにおける発言によって総合的に判断します。無断欠席した場合、単位を与えません。

■授業の予習・復習

予習：毎回受講者全員に必ず何らかの課題を課します。その課題を行なってきて下さい。

復習：適時、ゼミにおけるディスカッションおよび配布資料を振り返って下さい。

■教科書

伊藤邦雄著『ゼミナール企業価値評価』日本経済新聞出版社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2	輪読およびディスカッション①	『ゼミナールマーケティング入門』第1章
3	〃 ②	〃 第2章
4	〃 ③	〃 第3章
5	〃 ④	〃 第4章
6	〃 ⑤	〃 第5章
7	〃 ⑥	〃 第6章
8	〃 ⑦	〃 第7章
9	〃 ⑧	〃 第8章
10	〃 ⑨	〃 第9章
11	〃 ⑩	〃 第10章
12	〃 ⑪	〃 第11章
13	〃 ⑫	〃 第12章
14	〃 ⑬	〃 第13章
15	〃 ⑭	〃 第14章

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2	輪読およびディスカッション①	『ゼミナール企業価値評価』序章
3	〃 ②	〃 第2章
4	〃 ③	〃 第3章
5	〃 ④	〃 第4章
6	〃 ⑤	〃 第5章
7	企業分析①	実際に財務データ分析を行ってみる①
8	〃 ②	〃 ②
9	卒論研究準備①	研究とは何か、論文とは何か①
10	〃 ②	〃 ②
11	〃 ③	テーマを探す①
12	〃 ④	〃 ②
13	〃 ⑤	〃 ③
14	〃 ⑥	手始めに調べてみる①
15	〃 ⑦	〃 ②

■参考文献

科目名	専門演習 I			
09～11年度入学：専門演習 I				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

- ① 3～4年次の行動計画作り、②卒業論文の作成準備、
③卒業論文の作成始動の3つです。

■授業の進め方（履修条件等）

まず初めに、各自の以後2年間の状況を想定し、具体的な行動計画を作ります。つづいて、専門導入演習での学習を基に、専門的な論文を3点輪読します。その後、調査や資料集めの方法を学び、さらには自分で研究テーマを見つけ、自由に研究してもらいます。この際、継続的かつ頻繁にアドバイスをもらうようお願いしてください。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢（60%）、報告などの成果（40%）。

■授業の予習・復習

自分の課題に主体的に取り組んでください。

■教科書

教科書は指定しません。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	2年間の行動計画作り
2 論文の輪読1	論文1（前編）
3 論文の輪読2	論文1（後編）
4 論文の輪読3	論文2（前編）
5 論文の輪読4	論文2（後編）
6 論文の輪読5	論文3（前編）
7 論文の輪読6	論文3（後編）
8 論文の書き方	卒業論文の具体的な作成方法
9 卒業論文のテーマ選び1	テーマや計画について質疑応答1
10 卒業論文のテーマ選び2	テーマや計画について質疑応答2
11 卒業論文のテーマ選び3	テーマや計画について質疑応答3
12 卒業論文の作成1	進捗状況の確認、内容について質疑応答1
13 卒業論文の作成2	進捗状況の確認、内容について質疑応答2
14 卒業論文の作成3	進捗状況の確認、内容について質疑応答3
15 卒業論文の作成4	進捗状況の確認、内容について質疑応答4

■参考文献

鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
高木仁『アメリカの金融制度』
東洋経済新報社銀行経理問題研究会編『銀行経理の実務』
金融財政事情研究会桜井久勝『財務会計講義』中央経済社
その他、演習の中で随時紹介します。

科目名	専門演習 II			
09～11年度入学：専門演習 II				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	1単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

専門演習 I における学習の延長として、卒業論文の骨格を作ります。

■授業の進め方（履修条件等）

自分が選んだ研究テーマについて、先行研究を調査・検討し、主張内容や検証方法、論文構成などを具体化しつつ、検証作業を進めます。各自による演習内での報告が中心となります。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢（60%）、報告などの成果（40%）。

■授業の予習・復習

自分の課題に主体的に取り組んでください。

■教科書

教科書は指定しません。

■参考文献

各自研究テーマが異なるので、個別に紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 卒業論文の作成5	進捗状況の確認、内容について質疑応答5
2 卒業論文の作成6	進捗状況の確認、内容について質疑応答6
3 卒業論文の作成7	進捗状況の確認、内容について質疑応答7
4 卒業論文の作成8	進捗状況の確認、内容について質疑応答8
5 卒業論文の作成9	進捗状況の確認、内容について質疑応答9
6 卒業論文の作成10	進捗状況の確認、内容について質疑応答10
7 卒業論文の作成11	進捗状況の確認、内容について質疑応答11
8 卒業論文の作成12	進捗状況の確認、内容について質疑応答12
9 卒業論文の作成13	進捗状況の確認、内容について質疑応答13
10 卒業論文の作成14	進捗状況の確認、内容について質疑応答14
11 卒業論文の作成15	進捗状況の確認、内容について質疑応答15
12 卒業論文の作成16	進捗状況の確認、内容について質疑応答16
13 卒業論文の作成17	進捗状況の確認、内容について質疑応答17
14 卒業論文の作成18	進捗状況の確認、内容について質疑応答18
15 卒業論文の作成19	進捗状況の確認、内容について質疑応答19

科目名	卒業演習 I			
09～11年度入学：卒業演習 I				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

卒業論文のテーマを見出すこと、また、社会に出て必要な知識を得ることを意識しながら、数社の実際の財務諸表を例にとつて会社の実態を分析・評価する方法を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を丹念に輪読すること、また、財務諸表や関連する経営分析資料を実際に各自分析し発表する。

■成績評価方法・基準

授業参加への積極性と課題への取り組み姿勢等を総合的に判断し評価する。

■授業の予習・復習

特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。

■教科書

「会計学入門 千代田邦夫」中央経済社
「会計法規集」中央経済社

■参考文献

「財務会計入門 田中建二」中央経済社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	今後の授業内容と進め方の説明。
2 損益分岐点-1	変動費、固定費
3 // -2	グラフと計算式による損益分岐点の分析
4 // -3	損益分岐点と経営計画策定
5 財務諸表の仕組み	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の理解
6 財務諸表を読む	全体的着眼点と注意点
7 財務諸表分析の方法の概要	企業比較、期間比等、各種の分析手法
8 企業の全体的特徴を見る	規模、事業内容等
9 財務の健全性を見る-1	流動比率、自己資本比率等
10 // -2	キャッシュ・フロー比率
11 収益性を見る-1	総資本利益率、自己資本利益率等
12 // -2	売上利益率、各種利益率、各種費用比率等
13 活動性を見る	総資本回転率、自己資本回転率、棚卸資産回転期間等
14 生産性を見る	労働装備率等
15 総合的判断をする	数社の財務上の特徴を比較分析し改善点を探る

科目名	卒業演習 II			
09～11年度入学：卒業演習 II				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

4年間の専門分野の勉強の総括として、各自が関心を持つ分野の研究テーマを選択し関連文献や資料を収集・分析し結論を導き出す。

■授業の進め方（履修条件等）

各自の研究テーマを発表し、全員がその内容等について討論する。また、随時研究室において過年度卒業生の研究テーマを参考にして論文の書き方等を学ぶ。

■成績評価方法・基準

授業参加への積極性と研究テーマへの取り組み姿勢等を総合的に判断して評価する。

■授業の予習・復習

テーマの選択と分析には多数の参考文献や資料の予習・復習が不可欠となる。

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

各自のテーマに沿った参考文献を紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	卒業演習 I の復習および今後の授業内容と進め方の説明。
2 研究テーマの選択	資料の集め方、テーマ選択の方法の説明。
3 文献の分析と纏め方	卒業生の論文等を参考にして論文の書き方を指導する。
4 テーマの纏め方指導	一人ひとりの纏め方・論文作成相談に応ずる
5 研究発表-1	各自がレジメを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。
6 研究発表-2	各自がレジメを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。
7 研究発表-3	各自がレジメを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。
8 研究発表-4	各自がレジメを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。
9 研究発表-5	各自がレジメを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。
10 研究発表-6	各自がレジメを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。
11 研究発表-7	各自がレジメを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。
12 研究発表-8	各自がレジメを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。
13 研究発表-9	各自がレジメを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。
14 研究発表-10	各自がレジメを作成、全員に配布して発表。全員で討論する。
15 講評	研究発表全体に対する講評

科目名	卒業演習Ⅰ			
09～11年度入学：卒業演習Ⅰ				
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広める。

■授業の進め方（履修条件等）

前年度の研究を続行しながら、併せて各人の選択したテーマについて卒業論文の作成指導を行う。卒業に必要な所定単位の修得、就職の決定、卒業論文の作成が本年度の最大の目標となる。

■成績評価方法・基準

レポート、口頭発表、出席状況、卒業論文等を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。

■教科書

猿谷 要著 『物語アメリカの歴史』（中公新書 820円+税）

■参考文献

演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	演習の方針と進め方等について
2	
3 テキスト講読	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。
4	
5	
6 就職対策	就職活動指導
7	
8	
9 卒業論文の課題決定	全ゼミ生の作成必須である卒業論文の研究課題を資料・文献等を基にして早い時期に決定させる。これは個別指導となるために数回に及ぶ。
10	
11	
12	前年に継続してテキストを輪読し、解説を加え、経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深める。
13 テキスト講読	
14	この前期を以てテキストは読了する予定である。
15 総まとめ	この期の演習を総括

科目名	卒業演習Ⅱ			
09～11年度入学：卒業演習Ⅱ				
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、併せて経済・経営に関する知識を広める。

■授業の進め方（履修条件等）

前年度の研究を続行しながら、併せて各人の選択したテーマについて卒業論文の作成指導を行う。卒業に必要な所定単位の修得、就職の決定、卒業論文の作成が本年度の最大の目標となる。

■成績評価方法・基準

レポート、口頭発表、出席状況、卒業論文等を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

演習の時間において、為すべき予習・復習についてはその都度指示する。課題も与えるので、取り組まざるを得なくなるであろう。

■教科書

猿谷 要著 『物語アメリカの歴史』（中公新書 820円+税）

■参考文献

演習中、個別の研究テーマに応じて随時紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	演習の方針と進め方等について
2 卒業論文の作成	卒業論文の作成指導を行い、完成に導く。
3 //	//
4 //	//
5 世界・経済・経営・企業の時局研究・総合研究	卒業論文の作成と同時に、併せて行う。資料については、新聞・雑誌・文献等のコピーを配布して、討論も含めて行う。
6 //	//
7 //	//
8 //	//
9 //	//
10 卒業論文のレジュメ発表	卒業論文のレジュメを発表させ、論文の完全化を図る。
11 //	//
12 //	//
13 //	//
14 卒業論文の完成	卒業論文の完成へ。提出へ。
15 総まとめ	演習の全般を総括

科目名	卒業演習 I			
09～11年度入学：卒業演習 I				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

各自の選んだテーマについて、卒業論文を作成し、完成させてください。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生ごとに個別指導を行います。たとえば、テーマに関する資料収集の方法、書けた文書の修正など、具体的に指導します。

■成績評価方法・基準

出席回数、卒業論文作成の姿勢、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

自分のテーマに関する単行本、新聞・雑誌の記事、HPなどを常に探すようにしてください。書けた文書を常に推敲し、納得のいくものに仕上げてください。地道に作業を継続することにご大切です。

■教科書

使用しません。

■参考文献

各自のテーマごとに、必要な資料、その入手方法などを紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	論文作成のスケジュール、テーマの確認
2 論文資料の探し方	単行本・雑誌論文・新聞記事・HPの探し方
3 資料の読み方	アンダーライン、付箋、メモのとり方など
4 論文の構成	書きたいことは何か、項目の組み立て方
5 文書のまとめ方	抜き書き、引用、下書きメモ
6 文書の推敲 1	丁寧に、慎重に、根気よく取り組む
7 // 2	パソコンの場合、コピー・ペーストの有効活用法
8 個別指導 1	書いた範囲での文書指導
9 // 2	//
10 // 3	//
11 講評—書き方のアドバース	書き方の問題点の指摘
12 個別指導 4	書いた範囲での文書指導
13 // 5	//
14 // 6	//
15 全体的講評	後期に向けて、書き方の問題点を指摘

科目名	卒業演習 II			
09～11年度入学：卒業演習 II				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

各自の選んだテーマについて、卒業論文の作成作業を継続し、それが完成できるように指導します。

■授業の進め方（履修条件等）

たとえば、資料収集の方法、書き方の工夫、書けた段階の文書の修正などを、個人指導いたします。

■成績評価方法・基準

出席回数、提出された卒業論文の内容、ゼミへの貢献などにもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

自分のテーマに関する単行本、新聞・雑誌の記事、HPなどを常に探してください。書けた文書は常に推敲し、より分かりやすく、スジの通ったものに修正するよう、心がけてください。

■教科書

使用しません。

■参考文献

各自のテーマごとに、必要な資料、その入手方法を指導します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 後期授業の注意	卒業論文を完成できるように指導
2 作成上のポイントの確認	文書作成上の諸注意を周知させる
3 個別指導 1	書いた範囲の文書指導
4 // 2	//
5 // 3	//
6 // 4	//
7 // 5	//
8 中間の講評	作成上注意を指導
9 個別指導 6	書いた範囲の文書指導
10 // 7	//
11 // 8	//
12 // 9	//
13 // 10	//
14 // 11	//
15 後期演習のまとめ	最後まで頑張ったゼミ生に、敬意を表する

科目名	卒業演習 I			
09～11年度入学：卒業演習 I				
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題（不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など）について研究することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読しながら、経済政策の理論と具体的問題について研究する。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（60％）・授業中の発表・コメントなどの評価（40％）

■授業の予習・復習

予習：ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。

復習：ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。

■教科書

『スティグリッツ マクロ経済学（第3版）』東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著

科目名	卒業演習 II			
09～11年度入学：卒業演習 II				
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

経済政策の理論として、マクロ経済学を習得し、その後現実の政策課題（不良債権処理、バブル崩壊以降のデフレ経済からの脱却、財政赤字の問題、年金や医療など社会保障制度改革など）について研究することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを輪読しながら、経済政策の理論と具体的問題について研究する。後期は卒論作成の指導を併せておこなう。卒論のテーマについては柔軟に対応するつもりであるが、経済政策に関連するテーマを選択することを望む。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（60％）・授業中の発表・コメントなどの評価（40％）

■授業の予習・復習

予習：ゼミの授業はテキスト並びに配布プリントをある程度理解した上で、質疑応答、討論という形で進めていくため、予習していなければ学習効果は期待できない。

復習：ゼミの時間は自分の研究を進めていくためのものであるから、自宅学習の時間を十分取り、早い段階で自分の研究テーマを見つけることが必要である。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 マクロ経済活動の測定(1)	名目GDPと実質GDPの計測
2 // (2)	GDPを構成する要素と潜在GDP
3 // (3)	失業と失業統計
4 // (4)	失業の形態
5 // (5)	インフレーションの測定
6 // (6)	様々な物価指数：消費者物価指数、卸売物価指数、GDPデフレーター
7 // (7)	国民経済計算とSNA
8 // (8)	練習問題による演習
9 完全雇用マクロモデル(1)	総需要と均衡産出量
10 // (2)	限界消費性向と投資乗数
11 // (3)	政府の導入と乗数：減税乗数と財政支出乗数
12 // (4)	レポート作成
13 貨幣と銀行システム(1)	貨幣の機能と役割
14 // (2)	金融システムのメカニズム
15 // (3)	マネーサプライの定義と計測

■参考文献

『スティグリッツ 入門経済学』（第3版）東洋経済新報社、J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ、藪下 史郎、秋山 太郎

■授業内容

授業項目	授業内容
1 貨幣と銀行システム2(1)	貨幣と信用
2 // (2)	マネーサプライと信用創造
3 // (3)	中央銀行の役割とフェデラル・ファンド・マーケット（コール市場）
4 金融政策の手段(1)	準備率操作：準備金の需要と供給
5 // (2)	公開市場操作と公定歩合の変更
6 // (3)	金融政策の操作方法
7 // (4)	バブル崩壊後の日本の金融システムの破綻と不良債権問題
8 // (5)	練習問題による演習
9 財政と開放経済(1)	政府・海外部門の導入と資本市場
10 // (2)	開放経済における貯蓄・投資恒等式の導出
11 // (3)	財政赤字の世代間負担をめぐる議論
12 // (4)	小国開放経済における財政赤字の影響
13 // (5)	基本的な貿易の恒等式
14 // (6)	為替レートと貿易収支
15 全体のまとめ	レポート作成

■教科書

『スティグリッツ マクロ経済学（第3版）』東洋経済新報社、スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著

■参考文献

『スティグリッツ 入門経済学』（第3版）東洋経済新報社、J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ、藪下 史郎、秋山 太郎

科目名	卒業演習 I			
09～11年度入学：卒業演習 I				
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について、考えることを通して就職活動を支援する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義を通じて人の話を理解して、要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。

■成績評価方法・基準

出席40%、その他60%

■授業の予習・復習

■教科書

使用しない

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「モノが売れない」	①百貨店
2 日本の小売業	②スーパー
3 //	③専門店
4 //	④CVS
5 //	⑤SPA
6 「産業と付加価値」	①鉄鋼業
7 日本の産業	②自動車
8 //	③エネルギー
9 //	④ロボット
10 //	⑤円高と産業
11 「サービス産業の課題」	①ホテル
12 日本のサービス産業	②外食
13 //	③エンタテインメント
14 卒業準備	①個別相談
15 //	② //

科目名	卒業演習 II			
09～11年度入学：卒業演習 II				
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

できるだけケーススタディを中心にしながら企業経営と収益動向に興味をもってもらえるようにしたい。テキストはマーケティングを取りあげる。企業は市場において厳しい競争に直面している。身近な企業の経営戦略について、考えることを通して就職活動を支援する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義を通じて人の話を理解して、要点をメモすることが大切である。就職にあたって社会人として何が重要なのか言及する。卒論のテーマを早期に決定してそれをまとめることを期待している。新聞記事、雑誌、ネット、ビデオなどを教材に活用してみたい。

■成績評価方法・基準

出席40%、その他60%

■授業の予習・復習

■教科書

使用しない。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 既存研究集め①	問題発見
2 //	② //
3 //	③ //
4 //	④ //
5 データ・資料集め①	仮説と検討
6 //	② //
7 //	③ //
8 //	④ //
9 中間稿報告①	データのとりまとめ
10 //	② //
11 //	③ //
12 //	④ //
13 個別報告①	最終調整
14 //	② //
15 //	③ //

科目名	卒業演習Ⅰ			
09～11年度入学：卒業演習Ⅰ				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

専門演習Ⅰ・Ⅱ（3年次）で学んだ産業と地域の関係を明らかにする手法を使って、各自がテーマを定め、準備し調査して内容をまとめ、論文として発表できるように指導していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

3年次にすでにテーマは決まっているので、そのテーマに従って調べてきたことを順次発表します。また、3年次に引き続きディベート練習も行います。

■成績評価方法・基準

レジュメを含む発表内容（60%）と平常点（40%、ディベート、他の発表者への質問等）から評価します。

■授業の予習・復習

発表には十分な準備を行うとともに、発表後は指摘された問題にしっかり対応すること。

■教科書

使用しません。

■参考文献

一人一人異なるので個別に紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	ゼミの進め方
2 ディベート練習（1）	ディベートの実施（1）
3 // （2）	// （2）
4 // （3）	// （3）
5 卒業論文のテーマと目的（1）	各自がレジュメを基に発表（1）
6 // （2）	// （2）
7 // （3）	// （3）
8 // （4）	// （4）
9 文献・資料の紹介（1）	各自がレジュメを基に発表（1）
10 // （2）	// （2）
11 // （3）	// （3）
12 // （4）	// （4）
13 調査方法（1）	各自がレジュメを基に発表（1）
14 // （2）	// （2）
15 前期の講評	課題解決のための指導

科目名	卒業演習Ⅱ			
09～11年度入学：卒業演習Ⅱ				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだ手法を使って、各自が定めたテーマを基に、資料・文献収集や調査を通して、課題解決に至れるよう指導していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

夏休み中に調査した内容をまとめて発表し、指摘された問題を解決するためにさらに補充調査を行って発表内容の質を高めていくようにします。

■成績評価方法・基準

レジュメを含む発表内容（60%）と平常点（40%、他の発表者への質問等）から評価します。

■授業の予習・復習

発表には十分な準備を行うとともに、発表後は指摘された問題にしっかり対応すること。

■教科書

使用しません。

■参考文献

一人一人異なるので個別に紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 既存研究の紹介（1）	過去の卒業論文の事例紹介（1）
2 // （2）	// （2）
3 調査結果の発表（1）	各自がレジュメを基に発表（1）
4 // （2）	// （2）
5 // （3）	// （3）
6 // （4）	// （4）
7 補充調査結果の発表（1）	各自がレジュメを基に発表（1）
8 // （2）	// （2）
9 // （3）	// （3）
10 // （4）	// （4）
11 調査結果のまとめ	調査結果のまとめ方指導
12 産業研究・企業研究の紹介（1）	外部の研究の事例紹介（1）
13 // （2）	// （2）
14 // （3）	// （3）
15 後期の講評	発表内容の評価

科目名	卒業演習 I			
09～11年度入学：卒業演習 I				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

一にも二にも卒業論文の準備につきます。

■授業の進め方（履修条件等）

3年次春休みに書いてもらう卒業論文準備報告書を、次第に拡充していくことで、卒業論文を完成に導きます。文献や資料の使い方、論理や表現の仕方、なども学びます。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（0%）、レポート及びその他の課題（50%）、出席（50%）。平常点（出席状況、受講態度等）とレポートなど課題との総合評価によります。

■授業の予習・復習

進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。

■教科書

指定しません。

■参考文献

指定しません。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	レポートの検討	レポートの検討
2	//	//
3	//	//
4	//	//
5	//	//
6	//	//
7	//	//
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	//	//
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	//	//

科目名	卒業演習 II			
09～11年度入学：卒業演習 II				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

一にも二にも卒業論文の準備につきます。

■授業の進め方（履修条件等）

3年次春休みに書いてもらう卒業論文準備報告書を、次第に拡充していくことで、卒業論文を完成に導きます。文献や資料の使い方、論理や表現の仕方、なども学びます。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（0%）、レポート及びその他の課題（50%）、出席（50%）。平常点（出席状況、受講態度等）とレポートなど課題との総合評価によります。

■授業の予習・復習

進行状況次第で、予習、復習ともに必要になるでしょう。

■教科書

指定しません。

■参考文献

指定しません。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	レポートの検討	レポートの検討
2	//	//
3	//	//
4	//	//
5	//	//
6	//	//
7	//	//
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	//	//
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	//	//

科目名	卒業演習Ⅰ			
09～11年度入学：卒業演習Ⅰ				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

将来ビジネス文書作成に応用出来るような卒論作成の手法を工夫しながら、4年制大学レベルの卒論完成を目指します。同時に、就職活動にも全力を尽くして下さい。

■授業の進め方（履修条件等）

就職活動とのバランスを調整しながらのゼミ進行になると思われます。前期は連絡を取り合いながら卒論完成と就職活動のお手伝い、後期は卒論報告と卒論草稿の修正作業で忙しくなります。

■成績評価方法・基準

定期試験（実施せず）・授業内小テスト（実施せず）・レポート及びその他の課題（90%）・出席（10%）

■授業の予習・復習

個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。ゼミでの各作業の締切も設けますので、遅れ遅れにならぬよう自宅での作業が必須になります。

■教科書

指定しません。

■参考文献

それぞれがインターネット等駆使して参考文献を見つけて下さい。授業ではそれをお手伝いします。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 卒論とディスカッション	集まれるゼミ生の要望に応じて、卒論を進めるかディスカッションをするか決めます。
2 //	//
3 //	//
4 //	//
5 //	//
6 //	//
7 //	//
8 //	//
9 //	//
10 //	//
11 //	//
12 //	//
13 //	//
14 //	//
15 //	//

科目名	卒業演習Ⅱ			
09～11年度入学：卒業演習Ⅱ				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

将来ビジネス文書作成に応用出来るような卒論作成の手法を工夫しながら、4年制大学レベルの卒論完成を目指します。同時に、就職活動にも全力を尽くして下さい。

■授業の進め方（履修条件等）

就職活動とのバランスを調整しながらのゼミ進行になると思われます。前期は連絡を取り合いながら卒論完成と就職活動のお手伝い、後期は卒論報告と卒論草稿の修正作業で忙しくなります。

■成績評価方法・基準

定期試験（実施せず）・授業内小テスト（実施せず）・レポート及びその他の課題（90%）・出席（10%）

■授業の予習・復習

個人のスケジュールに沿って作業を進めるようになります。ゼミでの各作業の締切も設けますので、遅れ遅れにならぬよう自宅での作業が必須になります。

■教科書

指定しません。

■参考文献

それぞれがインターネット等駆使して参考文献を見つけて下さい。授業ではそれをお手伝いします。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 卒論	卒論完成に向け、執筆作業をゼミ中にやって頂きます。講師はPC画面を覗き込みながらコメントしていきます。
2 //	//
3 //	//
4 //	ゼミの1/4が卒論内容について報告します。残りの3/4の方々は口頭でそのコメントをします。
5 //	//
6 //	//
7 //	//
8 //	卒論完成に向け、執筆作業をゼミ中にやって頂きます。講師はPC画面を覗き込みながらコメントしていきます。
9 //	//
10 //	//
11 //	ゼミの1/4が卒論内容について報告します。残りの3/4の方々は口頭でそのコメントをします。
12 //	//
13 //	//
14 //	//
15 //	卒論の形式を整え、要旨を作成します。

科目名	卒業演習Ⅰ			
09～11年度入学：卒業演習Ⅰ				
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

卒業論文執筆に向けて、卒論の書き方を理解すること、研究論文を輪読することで、先行研究の水準を知ることが目標である。

■授業の進め方（履修条件等）

卒業論文執筆に向けて、卒論の書き方をレクチャーする。また、研究論文を輪読する。

■成績評価方法・基準

平常点で評価する。毎回の授業での発言、報告、レポート作成によって判定する。

■授業の予習・復習

予習：テキストを読んでおくこと
復習：発表の準備を行う

■教科書

特に使用しない。論文などはコピーを配布する。

■参考文献

各自の卒論テーマに応じて指摘する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、卒論テーマ
2 卒論の書き方①	研究とは？「アホ・バカ分布図」
3 // ②	調査方法
4 // ③	卒論の構成（序論・本論・結論）と形式（註、図表、参考文献）
5 各自の卒論構成の検討	各自の卒論構成を作成
6 研究論文を読む①	既に卒論テーマが決まっている者の先行研究
7 // ②	//
8 // ③	//
9 卒論を書いてみる①	個別指導
10 // ②	//
11 // ③	//
12 // ④	//
13 // ⑤	//
14 // ⑥	//
15 まとめ	卒論準備報告の提出

科目名	卒業演習Ⅱ			
09～11年度入学：卒業演習Ⅱ				
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

卒業論文執筆のための指導を行う。より完成度の高い卒業論文が作成することが目標である。

■授業の進め方（履修条件等）

各自PCで作成し、机間巡視しながら個別指導を行う。

■成績評価方法・基準

平常点で評価する。毎回の授業での取り組み方、卒業論文の完成度で評価する。

■授業の予習・復習

予習：各自で卒論を執筆し、授業で個別指導を受ける準備をすること。
復習：指摘された問題点などを踏まえて、卒論に加筆修正を加えること。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

各自の卒論テーマごとに指摘する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、卒論準備報告を添削して返却する。
2 卒論執筆①	個別指導
3 // ②	//
4 // ③	//
5 // ④	//
6 // ⑤	//
7 中間報告	執筆出来ているところまでを中間報告
8 卒論執筆⑥	個別指導
9 // ⑦	//
10 // ⑧	//
11 // ⑨	//
12 // ⑩	//
13 卒論提出	年内に卒論を一旦ゼミで提出。添削の上、返却する。
14 卒論返却	加筆修正および卒論要旨の執筆。終了後、大学に卒論提出。
15 まとめ	これまでの指導を総括

科目名	卒業演習 I			
09～11年度入学：卒業演習 I				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

卒業論文を完成するためのテーマの選定、データの取り方について学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的に講義形式です。講義のあと各自でその日の内容をまとめて、メールしてもらいます。最終的にテーマの選定と分析のためのデータすべてをエクセルに入力して提出します。

■成績評価方法・基準

最終的に提出された内容によって評価します。

■授業の予習・復習

復習とは、卒業論文のためのデータを集めて加工することになります。

■教科書

ありません。私が配布するファイルになります

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 テーマの選定	2つの企業を選び、比較分析します。上場しているか確認します
2 テーマの選定と卒論の書き方	卒業論文のテーマ選定で陥りやすい失敗を学びながら、よいテーマ選定とはなにかを解説します
3 テーマを選んでもみる	手垢が付いていないテーマか、データが取れるか、などに注意しながらテーマを選定します。
4 テーマの確定	この段階でテーマを完全に確定します
5 テーマの確定	全員にテーマとデータベースとなる決算短信1年分を印刷して提出してもらいます
6 データの入力	分析に必要なデータを打ち込んでいきます。エクセルで入力し、グラフにします
7 データの入力	全員がデータ入力を終わらせるまで、データの入力を助け合います
8 グラフの作成	シェア分析、営業力分析、財務指標など、適切なグラフの書き方を学びながら、2社を比較していきます
9 グラフの作成2	前回と同じ内容ですが、全員が終わらせることが大切です
10 論文の作成の注意点	論文の構成を学びます。また調べ学習ではないことを肝に銘じます。
11 出展、参考文献	適切なつけ方を学びます
12 注釈、補論	引用、注釈の仕方を学びます。また、本筋とは関係ないときの補論のつけ方を学びます
13 ニュース検索	日経NEEDSやデータベース検索から記事検索などを学びます
14 報告書の作成	卒論作成の中間報告をします
15 報告書の作成	中間報告書を作成し、提出します

科目名	卒業演習 II			
09～11年度入学：卒業演習 II				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

卒業論文を完成させることです。学士の名にはじない、自分の力で収集したデータを用いてストーリーを作り、得られた仮説を検証するためにまた客観的なデータを探します。そのようなことを繰り返して分析する力をつけます。

■授業の進め方（履修条件等）

個別指導になります。

■成績評価方法・基準

完成した卒業論文の完成度、完成までの道のり、速さ、オリジナリティ、文章などによって評価します。

■授業の予習・復習

予習は、前の週に指導されたことをきちんとこなすことになります。

■教科書

ありません。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 個別指導データによる現状認識とストーリーの作成	企業情報から集めたデータを用いて、現状を分析します。収益力分析で、マクロデータやセグメント情報にブレイクダウンしていきます。
2 マクロ分析とセグメント分析	マクロデータの収集を日銀や財務省統計、などで行います。セグメント分析は、適宜必要に応じて行い、マーケットがどこかなどを調べ、利益に直結する為替を分析します
3 マクロ分析とセグメント分析	前回と同じ内容を、5人程度にまで指導します。
4 セグメント分析の詳細	企業がどの分野で収益を上げているのか、どこが赤字なのか、どのマーケットで強いのか、などを見ていきます。
5 セグメント分析の詳細	前回と同じ内容を、5人程度にまで指導します。
6 財務力分析	財務構成を調べ、それが経営にどう影響しているかを分析します
7 財務力分析	前回と同じ内容を5人程度にまで指導します
8 CF分析	投資のCFを中心に、投資を行っているかどうかを分析します。それと、新製品などの開発や店舗拡大の関係を調べます
9 CF分析	前回と同じ内容を5人程度に指導します
10 配当政策	企業の配当政策と株価の安定性を調べます。
11 配当政策	企業の配当政策と株価の安定性を調べたり、株主対策を調べます。追加的な5人に対して指導します
12 結論を導く	客観的な分析に基づいた結論をまとめます。
13 結論を導く	客観的な分析に基づいた結論をまとめます。最後に問題意識を上げます
14 報告会	出来上がった論文を報告しあいます
15 報告会	総括します

科目名	卒業演習Ⅰ		
09～11年度入学：卒業演習Ⅰ			
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi		
対象学年	12年度入学	4年	単位 1単位
	09～11年度入学	4年	

■授業のねらいと到達目標

この演習では、データ収集と分析の方法を説明し、卒業論文を作成する技法を身につけてもらう。期末にゼミ生全員が卒業論文のテーマを決めることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

演習の最初の10週間は、データ収集と分析の技法を講義する。残りの5週間は学生の卒業論文テーマの発表を中心に進めていく。10回目の演習で次回以降の発表者たちを指定する。指定された学生たちは事前に論文テーマに関するレポートを作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者のレポートについてコメントしてもらう。

■成績評価方法・基準

レポート（30%）、出席（40%）、授業態度（積極的に発言するなど）（30%）で総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：論文テーマに関するレポートを事前に作成する。
復習：演習の時間でもらったコメントに基づいてテーマを修正する。

■教科書

指定しない。

科目名	卒業演習Ⅱ		
09～11年度入学：卒業演習Ⅱ			
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi		
対象学年	12年度入学	4年	単位 1単位
	09～11年度入学	4年	

■授業のねらいと到達目標

この演習では、学生にこれまで学んだ知識とデータ収集の技能を用いて、卒業論文を作成してもらう。

■授業の進め方（履修条件等）

演習は学生の卒業論文の発表を中心に進めていく。1回目の演習で次回以降の発表者を指定する。指定された学生は事前に論文の原稿を作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者の原稿についてコメントしてもらう。

■成績評価方法・基準

出席状況、卒業論文の提出および内容によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：論文の原稿を事前に作成する。
復習：演習の時間でもらったコメントに基づいて原稿を修正する。

■教科書

指定しない。

■参考文献

指定しない。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	卒業論文の執筆要領
2 卒業論文のテーマ	テーマを決める方法
3	1次データと2次データ
4	1次データの収集
5	2次データの収集
6 データ収集	敬愛大学メディアセンターのデータベース
7	実践：データベースを使って情報を収集する
8	データ分析とは何か
9 データ分析	定量データの分析
10	定性データの分析
11	卒業論文テーマの発表（グループ1）
12 卒業論文のテーマを決める	卒業論文テーマの発表（グループ2）
13	卒業論文テーマの発表（グループ3）
14	卒業論文テーマの発表（グループ4）
15 卒業論文の作成に向けて	論文作成の準備作業

■参考文献

戸田山和久（2002）『論文の教室—レポートから卒論まで』
日本放送出版協会。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	演習の進め方、発表者のグループ分け、発表者順番の決定
2 卒論内容発表（第1回）	グループ1の発表、コメント
3 //	グループ2の発表、コメント
4 //	グループ3の発表、コメント
5 //	グループ4の発表、コメント
6 卒論内容発表（第2回）	グループ1の発表、コメント
7 //	グループ2の発表、コメント
8 //	グループ3の発表、コメント
9 //	グループ4の発表、コメント
10 卒論内容発表（最終回）	グループ1の発表、コメント
11 //	グループ2の発表、コメント
12 //	グループ3の発表、コメント
13 //	グループ4の発表、コメント
14 卒業論文の提出について	卒業論文の提出方法、注意事項、要旨の作成
15 個別指導	個別指導

科目名	卒業演習Ⅰ		
09～11年度入学：卒業演習Ⅰ			
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba		
対象学年	12年度入学	4年	単位 1単位
	09～11年度入学	4年	

■授業のねらいと到達目標

「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開と政府や企業、家計が今日直面している諸問題を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

前年の専門演習の受講者を対象に、3年次において日本経済の構造変化に関する共通の文献を講読することで上記の問題を中心に一通りの知識を確認してきたものを基礎として、卒業論文における自身の研究テーマを見つけ出し、論文執筆の準備とする。

■成績評価方法・基準

卒業論文、レポートおよびその他の課題、出席および参加の状況を考慮して評価する。

■授業の予習・復習

予習：発表担当者にはレジュメ作成などの準備が、それ以外のメンバーには当該箇所に関する十分な予習が求められる。
復習：毎回の内容を自分の卒業論文のテーマ選びに結びつけ、計画をたてる参考とする。

科目名	卒業演習Ⅱ		
09～11年度入学：卒業演習Ⅱ			
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba		
対象学年	12年度入学	4年	単位 1単位
	09～11年度入学	4年	

■授業のねらいと到達目標

「戦後日本の経済発展と構造変化」をテーマとして、日本経済を景気循環および経済成長の過程に注目して捉え、戦後の日本経済の展開と政府や企業、家計が今日直面している諸問題を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

前年および前期に学んだ文献のなかで提示された様々な論点を中心にしつつ、受講者の関心に応じてそれ以外の日本経済や経済学に関する分野も含めたなかから自身の研究テーマを選択し、卒業論文の完成を目指す。

■成績評価方法・基準

卒業論文、レポートおよびその他の課題、出席および参加の状況を考慮して評価する。

■授業の予習・復習

予習：自分の報告回にあわせて現時点での卒論執筆の途中経過をまとめ、準備をする。
復習：報告に対してコメントをするので、それを参考にして執筆方針と内容を再検討する。

■教科書

マクロ経済学の観点から日本経済を捉えた専門書、論文集を引き続き使用する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに (1)	春休みの課題提出、コメント、卒論の計画書に向けて (1)
2	// (2)	// (2)
3	// (3)	// (3)
4	文献講読および卒論計画 (1)	発表とコメント、適宜「就職について」
5	// (2)	//
6	// (3)	//
7	// (4)	//
8	// (5)	//
9	// (6)	//
10	// (7)	//
11	// (8)	//
12	// (9)	//
13	// (10)	//
14	// (11)	//
15	詳細な卒論計画書について	課題の提示と指示

■教科書

マクロ経済学の観点から日本経済を捉えた専門書、論文集を引き続き使用する。

■参考文献

各回の論題にあわせて適宜紹介する他、卒論と結び付けられるよう研究テーマに応じて個別に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	詳細な卒論計画書について
2	卒業論文作成指導	全体および個々の受講者に対して並行して実施
3	//	//
4	//	//
5	//	//
6	//	//
7	//	//
8	//	//
9	//	//
10	//	//
11	//	//
12	//	//
13	//	//
14	//	//
15	//	//

■参考文献

各回の論題にあわせて適宜紹介する他、卒論と結び付けられるよう研究テーマに応じて個別に紹介する。

科目名	卒業演習Ⅰ			
09～11年度入学：卒業演習Ⅰ				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

本演習の目的は、論理的思考と卒業論文の作成方法について学んでもらうことです。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回報告を通して卒論の概要（課題・結論・理由・構成）を決定してもらいます。

■成績評価方法・基準

出席（20%）と報告（80%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：報告用のWordファイルを事前に準備してください。
復習：授業時間中の指示に基づき調査検討作業を授業時間外におこなってください。

■教科書

なし。

■参考文献

坂田せい子他著「誰も教えなかった論文・レポートの書き方」
総合法令
高橋 誠 著「日経文庫問題解決手法の知識<新版>」
日経新聞社
飯間浩明『非論理的な人のための論理的な文章の書き方入門』
ディスカヴァー・トゥエンティワン

■授業内容

授業項目		授業内容	
1	オリエンテーション	講義スケジュールの確認	
2	結論と理由の検討 1	結論と理由の明確化 1	
3	// 2	//	2
4	// 3	結論と理由の妥当性の検討 1	
5	// 4	//	2
6	理由と証拠の検討 1	理由を裏付ける証拠の検討 1	
7	// 2	//	2
8	// 3	//	3
9	// 4	//	4
10	事前情報の検討 1	証拠を正当化するための事前情報の検討 1	
11	// 2	//	2
12	// 3	//	3
13	構成の検討 1	事前情報、証拠など説明順序の検討 1	
14	// 2	//	2
15	// 3	//	3

科目名	卒業演習Ⅱ			
09～11年度入学：卒業演習Ⅱ				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

本演習の目的は、論理的思考と卒業論文の作成方法について学んでもらうことです。

■授業の進め方（履修条件等）

夏休み中に完成させた卒論の内容を、毎回の報告で検討し、修正してもらいます。

■成績評価方法・基準

出席（20%）と報告（80%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありません。
復習：授業時間中の指示に基づき卒論の修正作業を授業時間外におこなってください。

■教科書

なし。

■参考文献

坂田せい子他著「誰も教えなかった論文・レポートの書き方」
総合法令
高橋 誠 著「日経文庫問題解決手法の知識<新版>」
日経新聞社
飯間浩明『非論理的な人のための論理的な文章の書き方入門』
ディスカヴァー・トゥエンティワン

■授業内容

授業項目		授業内容	
1	オリエンテーション	講義スケジュールの確認と卒論第1稿の提出	
2	もくじ・構成の検討 1	もくじ・構成と結論の整合性 1	
3	// 2	//	2
4	// 3	//	3
5	現状分析と課題の検討 1	現状分析とデータの妥当性 1	
6	// 2	//	2
7	// 3	現状分析の課題設定の妥当性 1	
8	// 4	//	2
9	理由と証拠の検討 1	証拠となるデータや事例の妥当性 1	
10	// 2	//	2
11	// 3	//	3
12	// 4	//	4
13	文章校正 1	用語、説明文、引用・出典の妥当性 1	
14	// 2	//	2
15	// 3	//	3

科目名	卒業演習 I			
09～11年度入学：卒業演習 I				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

専門演習における取り組みの延長として、卒業論文の完成度を高めます。

■授業の進め方（履修条件等）

就職活動の状況に十分配慮し、卒業論文の作成に専念します。個別の相談が中心となります。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢。

■授業の予習・復習

自分の課題に主体的に取り組んでください。

■教科書

教科書は指定しません。

■参考文献

各自研究テーマが異なるので、個別に紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	卒業論文の作成20	進捗状況の確認、内容について質疑応答20
2	卒業論文の作成21	進捗状況の確認、内容について質疑応答21
3	卒業論文の作成22	進捗状況の確認、内容について質疑応答22
4	卒業論文の作成23	進捗状況の確認、内容について質疑応答23
5	卒業論文の作成24	進捗状況の確認、内容について質疑応答24
6	卒業論文の作成25	進捗状況の確認、内容について質疑応答25
7	卒業論文の作成26	進捗状況の確認、内容について質疑応答26
8	卒業論文の作成27	進捗状況の確認、内容について質疑応答27
9	卒業論文の作成28	進捗状況の確認、内容について質疑応答28
10	卒業論文の作成29	進捗状況の確認、内容について質疑応答29
11	卒業論文の作成30	進捗状況の確認、内容について質疑応答30
12	卒業論文の作成31	進捗状況の確認、内容について質疑応答31
13	卒業論文の作成32	進捗状況の確認、内容について質疑応答32
14	卒業論文の作成33	進捗状況の確認、内容について質疑応答33
15	卒業論文の作成34	進捗状況の確認、内容について質疑応答34

科目名	卒業演習 II			
09～11年度入学：卒業演習 II				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	1単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

卒業演習 I における取り組みの延長として、卒業論文を完成させます。

■授業の進め方（履修条件等）

卒業論文の評価を念頭に置いた報告会を開催します。ここで、最後の修正指導が入ります。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢（60%）、報告などの成果（40%）。

■授業の予習・復習

自分の課題に主体的に取り組んでください。

■教科書

教科書は指定しません。

■参考文献

各自研究テーマが異なるので、個別に紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	卒業論文報告会 1	進捗状況の確認、報告会の説明
2	卒業論文報告会 2	一人につき20分間の報告と20分間の質疑応答 1
3	卒業論文報告会 3	一人につき20分間の報告と20分間の質疑応答 2
4	卒業論文報告会 4	一人につき20分間の報告と20分間の質疑応答 3
5	卒業論文報告会 5	一人につき20分間の報告と20分間の質疑応答 4
6	卒業論文報告会 6	一人につき20分間の報告と20分間の質疑応答 5
7	卒業論文の完成 1	修正作業 1
8	卒業論文の完成 2	修正作業 2
9	卒業論文の完成 3	修正作業 3
10	卒業論文の完成 4	修正作業 4
11	卒業論文の完成 5	修正作業 5
12	卒業論文の完成 6	修正作業 6
13	卒業論文の完成 7	修正作業 7
14	卒業論文の完成 8	修正作業 8
15	まとめ	3年間の成果や成長の検証

科目名	卒業論文			
09～11年度入学：卒業論文				
担当者	鈴木 明男 <i>Akio Suzuki</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	2単位
	09～11年度入学	4年		

- 授業のねらいと到達目標
卒業演習Ⅱで発表した各自の研究テーマを基礎にして、卒業論文を完成させる。
- 授業の進め方（履修条件等）
まず論文の書き方を説明する。その後、各自の卒業論文作成の進捗状況を確認めながら、論理の一貫性を維持し明快な結論を得られるよう指導する。
- 成績評価方法・基準
卒業論文作成に取り組む姿勢と論文の内容により評価する。
- 授業の予習・復習
論文作成は基本的に参考文献や資料の予習・復習の繰り返しである。
- 教科書
特に指定しない。
- 参考文献
各自の論文テーマに応じて指導する。

- 授業内容
卒業演習Ⅱで採り上げた各自のテーマにそって論文作成指導する。

科目名	卒業論文			
09～11年度入学：卒業論文				
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	2単位
	09～11年度入学	4年		

- 授業のねらいと到達目標
経済を中心としたアメリカの歴史への理解を深め、経済・経営に関する知識を広める中で、各自が選んだ興味のあるテーマで卒業論文を完成させる。
- 授業の進め方（履修条件等）
演習を行う中で、研究したいテーマを卒業論文として決定させる。論文の書き方、資料・文献等を紹介・指導し、レジュメを発表させ、完成に導く。
- 成績評価方法・基準
卒業論文は単独で評価するのではなく、卒業論文、演習でのレポート、口頭発表、出席状況等を総合的に勘案して評価する。
- 授業の予習・復習
卒業論文は個人研究による個人作成となる。
- 教科書
使用しない。
- 参考文献
演習中、個別のテーマに応じて随時紹介する。

- 授業内容
卒業論文は学部および演習での学習活動の結果として生まれた賜である。テーマは狭い特定の分野にはこだわらず、広く社会的科学的な範囲から認める。

科目名	卒業論文			
09～11年度入学：卒業論文				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	2単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

ゼミ生が卒業論文を作成する上で遭遇する、さまざまな問題への対処法を指導します。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生すべてに、個人指導を行います。

■成績評価方法・基準

論文作成への取り組み方、論文の内容などにもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

問題意識を持って、論文作成に取り組んでください。
一日数行でもよいから、論文作成の作業を進めてください。
文書の推敲は、毎日行うようにしましょう。

■教科書

使用しません。

■参考文献

必要とするゼミ生に、個別的に紹介します。

■授業内容

テーマの確認
論文の構成方法
執筆資料の集め方
文献の読み方
文書のまとめ方、メモのとり方
パソコンの活用方法
文献の引用方法
文書の推敲方法
結論は明確に

科目名	卒業論文			
09～11年度入学：卒業論文				
担当者	仁平 耕一 <i>Kouichi Nidaira</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	2単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

卒業論文は4年間の大学での勉学・研究の集大成である。本演習のテーマは経済政策であるが、厳密に卒論に対しては、各自が最も関心のあるテーマについて真剣に考え、論文を作成することが重要である。

■授業の進め方（履修条件等）

論文のテーマが確定したら、問題意識、論文の構成、結論に至る分析手法の確立等について発表を義務づけている。また論文が完成するまでは下書き原稿を数回提出してもらい質疑応答の時間を設けながら論文を完成させていく予定である。

■成績評価方法・基準

論文の発表、質疑応答を通して完成された論文審査により、評価する。

■授業の予習・復習

あらゆる時間を活用して、できるだけ完成度の高い卒業論文を作成することに集中することが必要。

■教科書

なし

■参考文献

なし

■授業内容

本演習は卒業論文指導であるが、次のような内容で進めていく。まず論文のテーマの確定である。これは3年次から常に考えることを要求される。テーマが確定するまではもちろん何度でも討論する場を設ける。
論文テーマが確定した後、参考文献、必要資料の選択、論文の構成、結論に至る分析手法の確立等について議論をつめていく。ある程度下書きができた段階で発表を義務づけているが、論文が完成するまでは下書き原稿を数回提出してもらい質疑応答の時間を設けながら最終原稿を作成する。

科目名	卒業論文			
09～11年度入学：卒業論文				
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	2単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

卒業研究Ⅰ・Ⅱで学んだことを基にして論文を作成します。できるだけテーマをしぼりこんだ論文を作成できることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

テーマの研究指導から入り、主題が明快で論理的な内容の論文が作成できるように指導していきます。

■成績評価方法・基準

論文の内容（100％）で評価します。

■授業の予習・復習

指摘した課題に迅速に対応することが肝要です。できるだけ早く下書きを作成すること。

■教科書

使用しません。

■参考文献

論文指導の中で紹介します。

■授業内容

卒業研究Ⅰ・Ⅱで学んだことを基にして論文を作成します。

科目名	卒業論文			
09～11年度入学：卒業論文				
担当者	青木 英一 <i>Hidekazu Aoki</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	2単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

卒業研究Ⅰ・Ⅱで学んだことを基にして論文を作成します。4年間の集大成となるような論文を作成できることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

論文構成の指導から入り、目的が明快で論理的な内容の論文が作成できるように指導していきます。

■成績評価方法・基準

論文の内容（100％）で評価します。

■授業の予習・復習

指摘した問題点に迅速に対応することが肝要です。できるだけ早く下書きを作成すること。

■教科書

使用しません

■参考文献

論文指導の中で紹介します

■授業内容

卒業研究Ⅰ・Ⅱで学んだことを基にして論文を作成します。

科目名	卒業論文			
09～11年度入学：卒業論文				
担当者	飯野 由美子 <i>Yumiko Iino</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	2単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

卒論提出直前に、卒論のコメント→修正→再コメント→再修正を行う。本講で卒論の完成、要旨の作成にめどをつけるのが目標である。

■授業の進め方（履修条件等）

個人の作業がベースとなる。講師は、個々の作業を補助しつつコメントを繰り返す。

■成績評価方法・基準

卒論の完成度（100%）

■授業の予習・復習

コメントに従って卒論の手直しをしてください。

■教科書

特に指定しません。

■参考文献

一緒に検索して探しましょう。

■授業内容

卒論提出直前に、卒論のコメント→修正→再コメント→再修正を行う。本講で卒論の完成、要旨の作成にめどをつける。

科目名	卒業論文			
09～11年度入学：卒業論文				
担当者	和田 良子 <i>Ryoko Wada</i>			
対象学年	12年度入学	4年	単位	2単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

客観的なデータや記事を集め、出典を明らかにしながら自分の力でデータを読み解いて、借り物ではない卒業論文を書くことが目的です。最後に、人の考えを借りるより、自分で分析するほうが楽しいことに気が付いてもらうところが到達目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

事前にアポイントをとって、1対1で卒業論文を仕上げしていきます。

■成績評価方法・基準

選んだテーマの適切さ、オリジナリティ、文章の正確さ、構成、わかりやすい表現ができているかによって評価します。また、完成した日時によっても評価します。

■授業の予習・復習

指示されたことをすべてやってきて初めて指導を受けられます。

■教科書

ありません。

■参考文献

卒論のテーマによって異なります。

■授業内容

卒業論文を一貫して指導します。

二つの企業を選んでIRより決算短信や財務データにアクセスしてもらいます。

データを基に分析する方法を取得してもらい、仮説をたてます。

それをニュースリリースや日経の記事検索やさらなるマクロデータの取得と分析によって検証するやり方を学んでいきます。

科目名	卒業論文			
09～11年度入学：卒業論文				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi			
対象学年	12年度入学	4年	単位	2単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

この演習では、学生にこれまで学んだ知識とデータ収集の技能を用いて、卒業論文を作成してもらう。卒業論文の締め切り期日まで論文を完成し、提出することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

演習は学生の卒業論文の発表を中心に進めていく。1回目の演習で次回以降の発表者を指定する。指定された学生は事前に論文の原稿を作成し、演習の時間で発表する。発表者以外の受講者は、発表者の原稿についてコメントしてもらう。発表者はコメントに基づいて原稿を修正する。

■成績評価方法・基準

締め切り日まで論文を提出することおよび、論文の内容に基づいて評価する。

■授業の予習・復習

卒業論文の原稿を作成し、コメントに基づいて原稿を修正する必要がある。

■教科書

指定しない。

■参考文献

論文のテーマに応じて指示する。

■授業内容

この演習では、学生にこれまで学んだ知識とデータ収集の技能を用いて、卒業論文を作成してもらう。

科目名	卒業論文			
09～11年度入学：卒業論文				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	12年度入学	4年	単位	2単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

卒業演習 I、II を参照。

■授業の進め方（履修条件等）

卒業演習 I、II の一環として各自の卒業論文執筆へのコメントとアドバイスを行う。

■成績評価方法・基準

提出された卒業論文について、テーマ選びの妥当性、テーマと実際の執筆内容の一致性、研究のオリジナリティの程度、参考文献への依拠の十分性、論旨および文章の適切さなどの観点から、その完成度と努力の程度を評価する。

■授業の予習・復習

卒業演習 I、II を参照。

■教科書

卒業演習 I、II を参照。

■参考文献

卒業演習 I、II を参照。

■授業内容

卒業演習 I、II を参照。

科目名	卒業論文		
09～11年度入学：卒業論文			
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima		
対象学年	12年度入学	4年	単位 2単位
	09～11年度入学	4年	

■授業のねらいと到達目標

本演習の目的は、卒論作成を通して経済学・経営学の知識をベースにした論理的思考方法について学んでもらうことです。

■授業の進め方（履修条件等）

卒業演習Ⅰ・Ⅱでの報告をととして卒論内容の検討（論文指導）を行います。

■成績評価方法・基準

事務提出された卒論の内容（100%）で評価します。

■授業の予習・復習

卒業演習Ⅰ・Ⅱに休まず出席し、報告してください

■教科書

なし

■参考文献

坂田せい子他著「誰も教えなかった論文・レポートの書き方」
総合法令
高橋 誠 著「日経文庫 問題解決手法の知識<新版>」
日経新聞社
飯間浩明『非論理的な人のための論理的な文章の書き方入門』
ディスカヴァー・トゥエンティワン

■授業内容

文章構成、論理展開、データ収集・処理の指導

科目名	卒業論文		
09～11年度入学：卒業論文			
担当者	添田 利光 Toshimitsu Soeda		
対象学年	12年度入学	4年	単位 2単位
	09～11年度入学	4年	

■授業のねらいと到達目標

これまでの演習における取り組みの延長として、卒業論文を完成させます。

■授業の進め方（履修条件等）

卒業論文の骨格は、第4学年進級時に既にでき上がっていると思います。ここでは、卒業論文の完成度を上げるため、各自への詳細な質疑応答を繰り返します。様々な問題の解決方法を一緒に考えましょう。なお、専門演習および卒業演習を履修済みか、履修中であることが前提となります。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢（60%）、報告などの成果（40%）。

■授業の予習・復習

自分の課題に主体的に取り組んでください。

■教科書

教科書は指定しません。

■参考文献

各自研究テーマが異なるので、個別に紹介します。

■授業内容

卒業論文の完成にあたっては、自分の論文のどこに問題が隠れているのかについて、できるだけ早く気づくことが重要です。そのため、まずは演習内で小刻みに説明・報告してもらい、多くの人の目に触れるようにします。大きな誤解や小さなミスがたくさん見つかるはず。つづいて、それらの解決方法についてアドバイスを受け、克服した上で、評価を念頭に置いた報告してもらいます。ここで、最後の修正指導が入ります。提出は大学の指定する期日までに行ってください。

科目名	経済理論A I			
09～11年度入学：経済理論A I				
担当者	加茂川 益郎 Masuro Kamogawa			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

商品、貨幣、資本からなる市場と産業資本によって遂行される社会的再生産を学んで資本主義の存立構造を把握すること。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを使って板書しながら説明する。

■成績評価方法・基準

小テストと期末テストによって評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストを熟読すること。

復習：ノートをまとめて論理を把握しておくこと。

■教科書

日高普『経済原論』有斐閣

■参考文献

山口重克『経済原論講義』東京大学出版会

小幡道昭『経済原論 基礎と演習』東京大学出版会

■授業内容

授業項目	授業内容
1 序論	経済原論の対象、方法、構成
2 流通論Ⅰ—商品	商品、貨幣の生成
3 流通論Ⅱ—貨幣	価値尺度、流通手段
4 //	貨幣としての貨幣—蓄蔵手段、支払い手段、資金
5 流通論Ⅲ—資本	資本の概念、資本の三形式—商人資本、金貸資本、産業資本、小テスト
6 生産論Ⅰ—資本の生産過程	資本による生産—労働生産過程
7 //	価値形成・増殖過程、剰余価値率
8 //	資本主義の生産方法—絶対的剰余価値、相対的剰余価値、機械制工業
9 //	賃金、小テスト
10 生産論Ⅱ—資本の流過程	資本の流過程、固定資本と流動資本
11 //	流通費用—売買費、保管費、運輸費
12 生産論Ⅲ—資本の再生産過程	資本の循環、再生産表式
13 //	資本の蓄積—固定資本の増設的蓄積、更新的蓄積
14 //	資本主義の人口法則、小テスト
15 まとめ	流通論、生産論の総括

科目名	経済理論A II			
09～11年度入学：経済理論A II				
担当者	加茂川 益郎 Masuro Kamogawa			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

剰余価値の分配としての利潤、地代、利子、および景気循環による資本主義的蓄積の現実的過程と意義を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを使って板書しながら説明する。

■成績評価方法・基準

小テストと期末テストによって評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストを熟読すること。

復習：ノートをまとめて論理を把握しておくこと。

■教科書

日高普『経済原論』有斐閣

■参考文献

山口重克『経済原論講義』東京大学出版会

小幡道昭『経済原論 基礎と演習』東京大学出版会

■授業内容

授業項目	授業内容
1 利潤Ⅰ	利潤と利潤率
2 //	Ⅱ 異部門間の利潤率均等化、一般的利潤率
3 //	Ⅲ 生産価格
4 //	Ⅳ 同部門内の利潤率均等化、小テスト
5 地代Ⅰ	差額地代—一般、第一形態
6 //	Ⅱ 差額地代第二形態、絶対地代
7 //	Ⅲ 諸階級、小テスト
8 利子Ⅰ	信用—商業信用
9 //	Ⅱ 銀行信用
10 //	Ⅲ 銀行資本、小テスト
11 //	Ⅳ 商業資本と利潤
12 景気循環Ⅰ	景気循環課程
13 //	Ⅱ 景気循環の意義
14 //	Ⅲ 価値法則、小テスト
15 まとめ	利潤、地代、利子、景気循環の総括

科目名	経済理論B I			
09～11年度入学：経済理論B I				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済学によって、経済や世界をどのように捉えることができるのか学びます。マクロ経済学では、GDPや景気などの定義、財政問題を扱います。ミクロ経済学では、私たちの行動がどのような原理に基づいているのかを理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

2-3問の小テストを毎週課題とします。これによって授業内容の確認・理解を深めるとともに、復習と予習が可能になるようにします。

■成績評価方法・基準

小テストによって5割、期末テストによって5割を評価します。

■授業の予習・復習

復習：ノートを見て小テストを解いてくること。

■教科書

井堀利宏 『コンパクト経済学』 新世社

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	経済学の考え方、重要な概念、マクロ経済の主体
2	マクロ経済学の目的	マクロ経済学の目的、GDPの定義、財政政策
3	GDPの三面等価	GDP、成長率、実質と名目、インフレとデフレ
4	経済主体とその活動	家計の消費、企業の投資、政府の支出
5	//	金融部門と海外部門
6	景気の定義	景気とは何か、景気の現状の見方と予測の仕方
7	乗数効果	乗数効果、限界消費性向
8	国内所得の決定	国内所得の大きさはどのように決まるのか
9	財政政策の評価	拡張的財政政策、均衡財政政策
10	経済政策とは何か	公共投資、経済政策の評価
11	貨幣と金融	貨幣需要とマネーサプライの供給
12	IS-LM分析	IS曲線とLM曲線
13	金融政策の評価	IS-LM曲線のシフトと金融政策の評価
14	国際経済	貿易、国際収支と為替レート
15	まとめと補足	足りない内容を補足

科目名	経済理論B II			
09～11年度入学：経済理論B II				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

ミクロ経済学の考え方によって経済事象や毎日の生活の行動原理を理解します。ミクロ経済学の最終的な目標が、効率的な資源配分にあることを繰り返し学び、理解していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義ののち、小テストを毎回出します。これによって、復習と予習を促します。ノートを必ず取り、毎回の理解を積み上げていくこと。

■成績評価方法・基準

小テストによって6割、期末テストによって4割を評価の対象とします。

■授業の予習・復習

復習：小テストによって行います。

■教科書

井堀利宏 『コンパクト経済学』 新世社

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学とはどのような学問か
2	ミクロ経済学の目標	ミクロ経済学の理解目標と応用事例
3	消費理論 1	選ぶということ、最も良い選び方、選好の仮定と効用
4	消費理論 2	選好の仮定と効用関数
5	消費理論 3	無差別曲線、予算制約
6	消費理論 4	限界代替率、効用の最大化
7	配分 1	配分とはなにか、配分方法、価格メカニズム
8	配分 2	パレート効率性、アローの一般可能性
9	生産理論 1	企業の活動目的、ステークホルダー
10	生産理論 2	技術と生産関数
11	生産理論 3	利益の最大化と生産の理論
12	生産理論 4	費用最小化問題、平均費用、限界費用
13	社会選択の理論	選挙と多数決原理、マッチング理論
14	ゲームの理論	ゲームの理論、囚人のジレンマ
15	まとめと応用	環境経済学への応用

科目名	日本経済史 I		
09～11年度入学：日本経済史 I			
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

近代日本（明治時代）の経済成長の歴史を、近世（江戸時代）から考える。この授業を通じて、近代日本経済史の通史的な理解が得られること、とりわけ資本主義成立過程についての理解を獲得することが目標である。また、毎回の授業テーマについて、内容要約文を書く課題を与える。論理的な文章を書く技術を修得してもらいたい。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業内容をまとめたレジュメに基づいて講義を行います。講義を聴きながら、レジュメにキーワードや、まとめの文章などを記入する。最後に授業内容を確認するプリントを提出してもらいます。

■成績評価方法・基準

定期試験70%、毎回提出するプリント30%

■授業の予習・復習

予習：参考文献を読むこと。
復習：毎回の授業テーマを要約する文章を書いておくこと。
希望者には添削指導を行う。

■教科書

使用しない。毎回レジュメを配布する。

科目名	日本経済史 II		
09～11年度入学：日本経済史 II			
担当者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

現代日本の経済政策の歴史を、理論を踏まえて考える。この授業を通じて、現代日本経済史の通史的な理解が得られること、その理論的背景についての理解を獲得することが目標である。また、毎回の授業テーマについて、内容要約文を書く課題を与える。論理的な文章を書く技術を修得してもらいたい。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業内容をまとめたレジュメに基づいて講義を行います。講義を聴きながら、レジュメにキーワードや、まとめの文章などを記入する。最後に授業内容を確認するプリントを提出してもらいます。

■成績評価方法・基準

定期試験70%、毎回提出するプリント30%

■授業の予習・復習

予習：参考文献を読むこと。
復習：毎回の授業テーマを要約する文章を書いておくこと。
希望者には添削指導を行う。

■教科書

使用しない。毎回レジュメを配布する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、日本経済史とはどのような学問か
2	第1講 経済史入門	生産様式による時代区分
3	第2講 幕藩制的全国市場	全国的流通の成立
4	第3講 近世の都市商業	流通に介在する新興商人の経営形態、経営管理の発展
5	第4講 藩政改革と重商主義	藩政改革にみる国産化と重商主義政策
6	第5講 開国と資本主義への包摂	開国の経済的影響
7	第6講 明治維新と資本制社会	資本制的社会構成体の成立
8	第7講 明治前期の財政と金融	地租改正、国立銀行、秩禄処分
9	第8講 殖産興業	殖産興業政策、官業払下げ
10	第9講 原蓄過程	大隈財政、松方財政
11	第10講 日本の産業革命	産業革命のメルクマール
12	第11講 近代産業の発達①	綿紡績業、製糸業
13	第12講 近代産業の発達②	重工業
14	予備試験	定期試験の予備的試験、論述のポイントを解説
15	まとめ	答案の返却、採点講評、前期授業全体のポイント解説

■参考文献

三和良一『概説日本経済史』第2編（東京大学出版会、2002年）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	第13講 日清・日露期の日本経済	財政の拡大と近代化、日本の植民地経営
2	第14講 第1次世界大戦期の日本経済	大戦ブーム、戦後恐慌
3	第15講 1920年代の日本経済	世界経済の構造変化、日本経済の新局面
4	第16講 金融恐慌	割引現在価値、震災手形処理問題
5	第17講 金解禁	金本位制の機能
6	第18講 昭和恐慌	昭和恐慌、ドル買いとテロ
7	第19講 高橋財政	有効需要の創出
8	第20講 戦時統制経済	ブロック経済、統制経済
9	第21講 戦後の経済改革	財閥解体、農地改革、労働改革
10	第22講 戦後の経済復興	金融緊急措置令、傾斜生産方式、ドッジラインと安定恐慌
11	第23講 高度経済成長①	景気変動、耐久消費財の発展と設備投資
12	第24講 高度経済成長②	二重構造（大企業と中小企業・過疎と過密）、市場の失敗（四大公害訴訟）
13	第25講 安定成長からバブル経済	2つのショックと安定成長、プラザ合意とバブル景気
14	予備試験	定期試験の予備的試験、論述のポイントを解説
15	まとめ	答案の返却、採点講評、後期授業全体のポイント解説

■参考文献

三和良一『概説日本経済史』第2編（東京大学出版会、2002年）

科目名	西洋経済史 I			
09～11年度入学：西洋経済史 I				
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

歴史と経済史を学ぶ意義とその研究方法を明らかにし、次いで総合的・グローバルな視点から経済発展を軸に経済史を考究する。

■授業の進め方（履修条件等）

口授と黒板利用による。ノートを用意して毎回出席すること。

■成績評価方法・基準

定期試験100%出席が著しく不良の場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。

■授業の予習・復習

毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解してください。

■教科書

使用しない。

■参考文献

Joel Mokyr(ed.), *The Oxford Encyclopedia of Economic History*, 5 vols. (2003).
 Rondo Cameron and Larry Neal, *A Concise Economic History of the World*, 4th ed. (2003).
 Elias H. Tuma, *European Economic History* (1971).
 その他は講義中随時紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の方針と進め方、評点等について
2 歴史の意義と経済史学	歴史とは何か
3 //	経済史学の研究対象
4 //	経済史学の研究方法
5 経済発展の要因	人口・資源・技術
6 //	資本・その他
7 //	シュンペーターとイノベーション
8 //	ドイツ歴史学派の諸説
9 経済発展段階説	// (リストとロッシェの説)
10 //	// (ヒルデブランとビュッヒャーとシュモラーの説)
11 //	マルクスの経済発展論
12 W・W・ロストウの経済成長段階説	伝統的社会
13 //	先行条件とテイク・オフ
14 //	成熟への前進と高度大衆消費時代
15 //	その後に来る社会

科目名	西洋経済史 II			
09～11年度入学：西洋経済史 II				
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

西洋諸国（西ヨーロッパ）の経済史的基盤とその経済的発達のプロセスを考究する。

■授業の進め方（履修条件等）

口授と黒板利用による。ノートを用意して毎回出席すること。

■成績評価方法・基準

定期試験100%出席が著しく不良の場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。

■授業の予習・復習

毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解してください。

■教科書

使用しない。

■参考文献

前期の参考文献の項に同じ。参照されたい。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 封建社会と荘園制	封建社会の発達
2 //	//
3 //	荘園制と農村
4 中世都市の発達	中世都市の成立
5 //	都市経済的特質
6 近代社会の成立と重商主義	ヨーロッパ近世の意義、文芸復興と宗教改革
7 //	重商主義政策
8 //	//
9 産業革命の進展	イギリスの産業革命
10 //	//
11 //	欧州諸国の産業革命
12 //	アメリカの産業革命
13 独占資本主義の成立と両世界大戦	独占資本主義の成立、第一次世界大戦
14 //	戦間期の経済問題、第二次世界大戦
15 //	大戦後の世界経済

科目名	ミクロ経済学Ⅰ			
09～11年度入学：ミクロ経済学Ⅰ				
担当者	渡辺 善次 <i>Yoshitsugu Watanabe</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

ミクロ経済学は実際の経済でどのような役立つのか、現実の社会制度を設計する上でその教えをいかに取り入れるべきなのか、といった疑問に答えることを念頭に置いてミクロ経済学の基礎理論を解説し、より高度な経済分析の理解・実践に向けた橋渡しとなる講義を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

配布するプリントの解説を中心とした講義形式。極力数学は用いずに、平易かつ直感的な説明を心がける。

■成績評価方法・基準

定期試験によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：特別な予習は前提としない。

復習：配布するプリントの該当箇所や各自が作成したノートを見返して理解を深めてもらいたい。

■教科書

テキストに替えてプリントを毎週配布する。

■参考文献

伊藤元重（2003）、『ミクロ経済学（第2版）』、日本評論社

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション
2	需要と供給の理論
3	効用と無差別曲線
4	消費者行動の理論
5	予算制約と最適消費量の決定
6	所得および価格の変化と需要
7	経済学が想定する企業像と生産関数
8	費用関数と費用最小化行動
9	収入関数と利潤最大化行動
10	企業の損益分岐点と供給曲線
11	望ましい資源配分の判定基準
12	消費者余剰、生産者余剰および総余剰
13	資源配分問題と市場メカニズム
14	課税の影響に関する余剰分析
15	交換の利益
	生産要素の配分と生産フロンティア
	一般均衡における最適資源配分

科目名	ミクロ経済学Ⅱ			
09～11年度入学：ミクロ経済学Ⅱ				
担当者	渡辺 善次 <i>Yoshitsugu Watanabe</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

ミクロ経済学は実際の経済でどのような役立つのか、現実の社会制度を設計する上でその教えをいかに取り入れるべきなのか、といった疑問に答えることを念頭に置いてミクロ経済学の基礎理論を解説し、より高度な経済分析の理解・実践に向けた橋渡しとなる講義を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

配布するプリントの解説を中心とした講義形式。極力数学は用いずに、平易かつ直感的な説明を心がける。前期に開設されるミクロ経済学Ⅰと合わせて履修することが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：特別な予習は前提としない。

復習：配布するプリントの該当箇所や各自が作成したノートを見返して理解を深めてもらいたい。

■教科書

テキストに替えてプリントを毎週配布する。

■参考文献

伊藤元重（2003）、『ミクロ経済学（第2版）』、日本評論社

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション
2	完全競争と独占の比較
3	独占の理論
4	独占企業の利潤最大化行動
5	独占状態での資源配分
6	独占的競争企業の利潤最大化行動
7	戦略的行動とゲーム理論
8	寡占の理論
9	クールノー競争とベルトラン競争
10	参入阻止行動と展開形ゲーム
11	外部効果と環境問題
12	資源配分の歪みとビッグ税
13	費用逓減産業と自然独占
14	公共財とフリーライダー問題
15	レモン市場と逆選択
	不完全情報の経済学
	シグナル理論と自己選択メカニズム
	エージェンシー関係とモラルハザード

科目名	マクロ経済学Ⅰ			
09～11年度入学：マクロ経済学Ⅰ				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

マクロ経済学によって、経済事象や財政政策、金融政策を理解することが第一目的です。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週出される2～3問の小テスト・レポートに回答することによって授業の予習と復習を行うことができるようになっていきます。

■成績評価方法・基準

小テストの評価で5割、本テストの評価で5割となります。

■授業の予習・復習

小テストによって復習をします。

■教科書

井堀利弘「コンパクト経済学」新生者

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	経済学における重要な概念や考え方
2 日本のマクロ経済のデータ	日本経済の姿を内閣府のデータから読み取る
3 GDPの三面等価	生産面、分配面、需要面からみたGDPが理論的に等しくなることを学ぶ
4 経済主体と活動	家計、企業、政府の金融部門、海外部門の役割と経済活動、キャッシュフローを学ぶ
5 景気の定義	景気とは何か、どのように定義されるかを学ぶ
6 景気の見方と予測	景気動向指数や日銀短観によって景気を見る方法を学び、景気循環日付で景気循環をおさらいする
7 国内所得の決定1	国内所得の大きさの決定理論
8 財政政策	財政政策を次世代への負担という観点から理解する
9 財政投資の問題点	公共投資の内容と評価
10 労働市場の問題点と理解	労働市場のマッチングや失業についての現代的理解
11 金利の理解と金融市場	貨幣と金利の意味の理解、金融市場についての理解
12 IS-LM分析	IS-LM分析について学びます
13 金融政策	金融政策の役割とゼロ金利政策
14 国際経済	国際経済、為替レート、貿易黒字
15 まとめ	まとめ

科目名	マクロ経済学Ⅱ			
09～11年度入学：マクロ経済学Ⅱ				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

動学マクロ入門です。異時点間にまたがる経済主体の意思決定と、その均衡としてもたらされる成長の理論まで理解します。現代的な行動経済学や心理学に基づいた異時点間の経済行動におけるアノマリーも紹介していきます。具体的には貯蓄の理論、投資決定の理論、時間選好とそのアノマリー、動学的不整合性、コースの定理、ソローによる成長の条件を扱います。

■授業の進め方（履修条件等）

テーマごとに区切りがいたら小テストを行い、理解を確認します。

■成績評価方法・基準

小テスト5割と本テスト5割で評価します。

■授業の予習・復習

小テストによって復習をします。

■教科書

プリントの配布によって教科書の変わりとします。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	マクロⅡで扱うテーマを知る
2 貯蓄の決定1	家計の異時点間にわたる意思決定を学ぶ
3 貯蓄の決定2：将来価値	将来価値と異時点間の予算制約線について学ぶ
4 貯蓄の決定3	異時点間の効用関数、時間選好率、割引率について学ぶ
5 貯蓄の決定4	異時点間の予算制約下における効用最大化：さまざまな時間選好率を持つ主体について最適な消費額（貯蓄額）の決定の違いをみる
6 時間選好のアノマリー	3時点以上ある場合の、異時点間の意思決定を現在バイアスを導入して説明する
7 企業のステークホルダーと意思決定	企業の利害関係者とキャッシュフローへの優先順位の違い、企業の投資の決定の理論を学ぶ
8 現在価値	将来価値を現在価値に直す。永代価値の計算をする
9 投資プロジェクトの決定	NPV法によるプロジェクトの評価を行う
10 投資プロジェクトの決定2	企業がそのプロジェクト評価をするには、資本コストによって将来のCFを評価する必要があることを学ぶ。
11 最適資本の決定と成長理論	資本とは何か、最適な資本水準の決定と、成長率の決定理論を学ぶ
12 動学的不整合性1	最適な計画とは何か、strouzeの定義を学ぶ。日常生活で起きる不整合性と対抗策としてのコミットメントを知る。
13 動学的不整合性2	政府の意図が、家計や企業の対抗的行動によって満たされないことを学ぶ。
14 動学的不整合性3	コースの動学的不整合性について学ぶ。独占企業が完全財を生産せず計画的陳腐化がおきる理由を学ぶ。
15 まとめ	14回分のまとめを行う。小テストの解説も行う。

科目名	経済政策A I			
09～11年度入学：経済政策A I				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

雇用と物価の安定、経済成長を目標とした経済政策を中心に、現代経済が直面しうる様々な政策上の問題について、その理論的基礎と政策を論じる。前期に開講される本科目では、景気変動および国民所得決定の理論の学習を通じて、後期の経済政策A IIおよびその他の諸科目におけるより進んだ学習の基盤となる基礎的知識の確実な習得を目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

入門的な教科書を主に利用しながら、様々な関連トピックについても毎回プリントを配布しながら論じる（講義内容の多くは何かの形で教科書と対応するが、それだけにとどめることはしない）。定期試験などは毎回の講義内容に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講することが必要。講義スケジュールは受講者の様子を見て変更もありうる。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。

■授業の予習・復習

復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさざいこと。

科目名	経済政策A II			
09～11年度入学：経済政策A II				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

雇用問題と産業組織に関する経済政策を中心に、現代経済が直面しうる様々な政策上の問題について、その政策手段を論じる。本科目では、財政・金融政策の政策手段とその評価、景気刺激では解決しない構造的失業、経済の構造変化と成長のための産業政策を中心に、前期に論じた経済政策の理論がどのような政策手段によって実現されているかを理解することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

入門的な教科書を主に利用しながら、様々な関連トピックについてもプリントを配布しながら論じる（講義内容の多くは何かの形で教科書と対応するが、それだけにとどめることはしない）。定期試験などは毎回の講義内容に関するものなので、毎回出席し、かつ積極的に受講することが必要となる。講義スケジュールは受講者の様子を見て変更もありうる。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。

■授業の予習・復習

復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさざいこと。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	講義内容紹介・前期および年間の計画
2 経済政策の考え方	政府と政策、公共部門の意義と役割
3 景気循環と経済安定化(1)	景気循環の考え方
4 // (2)	景気循環と失業・インフレーション
5 国民所得の理論と政策(1)	45度線モデルと生産物市場均衡
6 // (2)	総需要管理政策（乗数効果）
7 // (3)	IS-LMモデルと安定化政策
8 // (4)	IS-LM曲線の形状と政策効果
9 // (5)	国際収支とオープンマクロ経済学
10 // (6)	オープンマクロ経済学における財政・金融政策
11 // (7)	ここまでの論点の整理と復習
12 経済成長の理論と政策(1)	経済成長の理論
13 // (2)	経済成長と資本蓄積
14 // (3)	経済成長と労働、技術進歩
15 まとめと試験の準備	講義で触れられなかったこと／全体の復習

■教科書

長谷川啓之編「経済政策の理論と現実」学文社、2009年。

■参考文献

必要に応じて講義時に紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	講義内容紹介・「経済政策A I」との橋渡し
2 失業と物価問題(1)	失業とインフレーションの諸概念
3 // (2)	財政政策の手段
4 // (3)	金融政策の手段
5 // (4)	総需要管理政策をめぐる様々な議論
6 // (5)	非循環的失業と政府の役割①
7 // (6)	非循環的失業と政府の役割②
8 // (7)	供給インフレーション
9 // (8)	ここまでの論点の整理と復習
10 産業政策(1)	経済成長、経済発展と産業政策
11 // (2)	独占の非効率性と競争政策
12 // (3)	直接規制政策～経済的規制と社会的規制
13 // (4)	直接規制政策の根拠と規制緩和
14 // (5)	技術革新と産業政策
15 まとめと試験の準備	講義で触れられなかったこと／講義全体の復習

■教科書

長谷川啓之編「経済政策の理論と現実」学文社、2009年。

■参考文献

必要に応じて講義時に紹介する。

科目名	経済政策B I			
09～11年度入学：経済政策B I				
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

バブル崩壊以降、日本経済は深刻なデフレ経済に陥ってしまった。これは雇用・所得を大きく損ない私たちの生活に大きな影を落としている。このような状態から脱するためには何が必要なのだろうか。本講義は、経済政策（特に財政・金融政策）の理論と実際的手段を概説したのちに、課題解決に求められる政策対応について考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）・授業内小テスト（15％）・レポート及びその他の課題（15％）

■授業の予習・復習

予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。

復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

科目名	経済政策B II			
09～11年度入学：経済政策B II				
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

バブル崩壊以降の雇用形態の変化や所得格差による問題、また年金や医療など将来への不安から脱するためには何が必要なのだろうか。本講義は、物価政策、経済発展、さらに所得分配政策について基礎理論と実際的手段を概説したのちに、課題解決に求められる政策対応について考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）・授業内小テスト（15％）・レポート及びその他の課題（15％）

■授業の予習・復習

予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。

復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

■教科書

使用しない。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 経済政策とは	市場の限界と経済政策の役割
2 バブル崩壊後の経済政策(1)	バブル経済とバブル崩壊のメカニズム
3 // (2)	デフレ下の経済政策
4 財政政策と経済の安定化	経済安定化政策の目的と手段
5 財政政策の基礎理論(1)	三面等価と均衡国民所得の決定
6 // (2)	政府部門の導入による均衡国民所得の変化
7 乗数効果(1)	投資乗数と政府支出乗数
8 // (2)	減税の政策効果と租税乗数
9 財政政策の有効性	GDP創出、雇用創出、格差是正などから見た財政政策の有効性について
10 金融政策のための基礎理論(1)	貨幣の導入と金融部門の役割
11 // (2)	マネーサプライとマネタリーベース
12 金融面から見た景気対策(1)	金融政策のメカニズムとマネーサプライの変化
13 // (2)	景気対策としての伝統的な金融政策手段
14 // (3)	金融政策の有効性とポリシーミックス
15 授業のまとめ	財政・金融政策の復習

■教科書

使用しない。

■参考文献

『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社
 岩田 規久男 飯田 泰之
 『日本経済読本【第17版】』東洋経済
 金森久雄、香西泰、加藤裕己

■授業内容

授業項目	授業内容
1 物価と貨幣	マネーサプライと貨幣数量説
2 物価指数と価格の変動	消費者物価、卸売物価、GDPデフレーター計測
3 物価変動の要因分析	ディマンドプル・インフレとコストプッシュ・インフレ
4 価格政策	インフレ抑制策としての金融引締め
5 デフレ下の金融政策	バランスシートからみた金融状況とゼロ金利政策
6 社会資本の供給(1)	公共財としての社会資本の建設と経済発展
7 // (2)	公共事業と財政赤字
8 経済発展政策(1)	経済発展の要因と貧困の悪循環
9 // (2)	資本蓄積と技術進歩
10 // (3)	発展途上国の成長政策の課題
11 所得分配政策(1)	市場の所得分配と所得再分配政策の手段
12 // (2)	公的保険の概要と仕組み
13 // (3)	日本の医療保険制度の課題
14 // (4)	日本の年金保険制度の課題
15 授業のまとめ	全体の復習と確認テスト

■参考文献

『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社
 岩田 規久男 飯田 泰之
 『日本経済読本【第17版】』東洋経済
 金森久雄、香西泰、加藤裕己

科目名	社会政策Ⅰ			
09～11年度入学：社会政策Ⅰ				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

「社会政策」とは、歴史的には労働運動にたいする国家の譲歩策として成立した。そこで、本講義では、労働経済論の概説的意味を含めて、広く労働問題に関わって考察を行う。具体的には、労働時間、賃金、雇用などの各論を概説する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（感想文）と、期末試験により判定する。

■授業の予習・復習

講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

土穴文人『社会政策制度史論』啓文社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ガイダンス
2 はじめに	「社会政策」とは何か
3 社会政策の制度体系	労働経済と社会保障
4	労働時間用語の多様化
5	労働時間の歴史的推移と規制
6	日本の労働時間問題
7	労働時間と賃金の実態
8	雇用・失業問題
9 労働問題に関わる社会政策	雇用情勢の現況
10	フリーターの実態Ⅰ
11	// Ⅱ
12	// Ⅲ
13	「日本の経営」とは何か
14	閉鎖的労働市場について
15 おわりに	まとめ

科目名	社会政策Ⅱ			
09～11年度入学：社会政策Ⅱ				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

「社会政策」とは、現段階では国民生活全般に大きな影響を与える学問である。そこで、本講義では、社会保障論の概説的意味を含めて、広く生活問題に関わって考察を行う。具体的には、労働災害、介護、生活保護、社会福祉などの各論を概説する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（感想文）と、期末試験により判定する。

■授業の予習・復習

講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

土穴文人『社会政策制度史論』啓文社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ガイダンス
2 はじめに	「社会政策」とは何か
3 社会政策の制度体系	労働経済と社会保障
4	健康保険
5	公的年金制度
6	労災保険と雇用保険
7	介護保険と要介護認定
8	介護保険の実施実態
9 生活問題に関わる社会政策	生活保護とは
10	8つの法定扶助と児童手当
11	社会福祉とは
12	パートタイマーの実態Ⅰ
13	// Ⅱ
14	不安定就業層について
15 おわりに	まとめ

科目名	財政学Ⅰ			
09～11年度入学：財政学Ⅰ				
担当者	金子 林太郎 Rintarou Kaneko			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

現在、わが国の財政がどのような状況にあるか、どのような課題を抱えているのかを知ることがねらいである。また、課題に対する処方箋についても考えたい。財政学Ⅰでは、財政の役割、予算の意義を確認した上で、歳入面に注目して、わが国の税制の現状と課題を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回レジュメを配布し、スライドを示して解説しながら進める。毎回出席を取る。出席カードのコメント欄に、その日の授業内容に関することを書かないと無効となる。数回小レポートを課す。

■成績評価方法・基準

期末試験の点数を基本に、出席カードのコメントの内容、小レポートの内容を踏まえて評価する。

■授業の予習・復習

配布したレジュメを整理して保管すること。新聞等で財政・税制関連のニュースをフォローすること。

■教科書

特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

科目名	財政学Ⅱ			
09～11年度入学：財政学Ⅱ				
担当者	金子 林太郎 Rintarou Kaneko			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

現在、わが国の財政がどのような状況にあるか、どのような課題を抱えているのかを知ることがねらいである。また、課題に対する処方箋についても考えたい。財政学Ⅱでは、前期に続いて歳入面（消費課税、資産課税、公債金収入）に注目した後、歳出面にも目を向け、わが国の財政の現状と課題を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回レジュメを配布し、スライドを示して解説しながら進める。毎回出席を取る。出席カードのコメント欄に、その日の授業内容に関することを書かないと無効となる。数回小レポートを課す。

■成績評価方法・基準

期末試験の点数を基本に、出席カードのコメントの内容、小レポートの内容を踏まえて評価する。

■授業の予習・復習

配布したレジュメを整理して保管すること。新聞等で財政・税制関連のニュースをフォローすること。

■教科書

特定の教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明
2 財政の役割 1	財政の意義、財政の特徴
3 財政の役割 2	財政の仕組み、財政の3機能
4 予算の意義と制度 1	予算の意義
5 予算の意義と制度 2	予算原則、予算の内容
6 予算の意義と制度 3	予算過程、24年度予算の概要
7 租税の基礎 1	租税の意義、課税要件
8 租税の基礎 2	租税の分類
9 租税の基礎 3	租税体系
10 所得税 1	所得税の意義、所得概念
11 所得税 2	所得税の仕組み
12 所得税 3	所得税の課題
13 法人税 1	法人税の意義と仕組み
14 法人税 2	法人税の現状と課題
15 まとめ	前期の授業内容のまとめ、質疑応答

■参考文献

神野直彦『財政学（改訂版）』有斐閣
 諏訪園健司『図説日本の税制（平成23年度版）』財経詳報社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の概要と評価方法の説明、前期試験の解説
2 消費課税 1	消費課税の意義、消費課税の体系
3 消費課税 2	個別消費税の仕組みと特徴（転嫁、帰着）
4 消費課税 3	消費税（付加価値税）の仕組みと課題
5 資産課税	資産課税の意義、概要、課題
6 環境税	温暖化対策税の考え方、具体案、検討状況
7 公債金収入 1	公債の意義、種類
8 公債金収入 2	公債原則
9 公債金収入 3	公債発行の歩み、現状、今後の課題
10 公共支出の理論 1	公共財の理論
11 公共支出の理論 2	無償のサービス提供の意義
12 公共支出の理論 3	公共財の最適供給量の決定
13 公共支出の現状と課題 1	経費の分類と構造
14 公共支出の現状と課題 2	平成24年度歳出予算の概要と特徴
15 まとめ	後期の授業のまとめ、質疑応答

■参考文献

『図説日本の税制（平成24年度版）』財経詳報社
 『図説日本の財政（平成24年度版）』東洋経済新報社

科目名	金融論 I		
09～11年度入学：金融論 I			
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

金融論とは、「おカネの動き」をめぐる議論です。個人、企業、政府などの経済活動の多くが、おカネを媒介として行われるため、金融論のあつかう（あるいは関連する）領域は極めて広いです。そこで、本講義では、金融の世界に特有の用語法や考え方の習得を基本課題とし、我々に身近な金融・経済現象を系統立てて理解する基礎を作ります。

■授業の進め方（履修条件等）

パワーポイントを使い、金融の世界の諸概念を説明します。また、これら諸概念のイメージを鮮明にするため、新聞記事や映像などを多数活用します。定期試験は、講義の趣旨に鑑みて、用語の理解が十分かどうかを確かめるものとなります。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢（40%）、定期試験（60%）。なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。

■授業の予習・復習

予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。
復習：講義ノートを中心に行ってください。

■教科書

日本経済新聞社編『ベーシック／金融入門』日本経済新聞

科目名	金融論 II		
09～11年度入学：金融論 II			
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

原則として「金融論 I」の履修者を対象に、金融に関する近年の動向や初歩的な理論、専門的なトピック、関連科目などを取り上げ、簡単に解説します。金融に関する興味や関心を広げることと、現実の具体的な問題を論理的に考察する力を養うことが課題です。

■授業の進め方（履修条件等）

適宜にパワーポイントを使います。定期試験は、講義の趣旨に鑑みて論述問題とします。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢（40%）、定期試験（60%）。なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献を中心に行ってください。
復習：講義ノートを中心に行ってください。

■教科書

教科書は使用しません。プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針など
2 通貨とは何か	物々交換経済と貨幣経済、通貨の機能・範囲
3 金融とは何か	資金循環表、金融取引の典型、様々な金融
4 金利とは何か	金融サービスの対価、金利と景気、様々な金利
5 金融市場とは何か	広義の金融、金融商品、様々な金融市場
6 金融機関とは何か	金融の取引コスト、様々な金融機関
7 銀行の機能 1	銀行の様々な機能
8 銀行の機能 2	決済機能を中心に
9 中央銀行 1	中央銀行の機能
10 中央銀行 2	日本銀行の経緯・概要・目的
11 民間金融機関 1	都市銀行、その他普通銀行
12 民間金融機関 2	長期金融機関、協同組織金融機関
13 民間金融機関 3	証券会社、保険会社、その他金融機関
14 金融政策とは何か	金融政策の手段
15 まとめ	授業内容のまとめ

■参考文献

細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社
鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店
その他、講義の中で随時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針など
2 信用創造機能 1	キーワード解説、統計
3 信用創造機能 2	信用創造プロセス、計算問題
4 国際金融論入門 1	国際収支の概念としくみ（前編）
5 国際金融論入門 2	国際収支の概念としくみ（後編）
6 ファイナンス理論入門 1	資産選択の理論、資本市場の均衡理論
7 ファイナンス理論入門 2	企業金融の理論、市場の効率性・非効率性
8 金融の潮流 1	現代の潮流、金融規制と自由化（前編）
9 金融の潮流 2	金融規制と自由化（後編）
10 現代の金融市場と金融機関 1	金融取引の費用と金融機関の役割
11 現代の金融市場と金融機関 2	情報化による金融仲介業の変貌
12 現代の金融市場と金融機関 3	銀行業衰退論と銀行の変貌
13 現代の金融市場と金融機関 4	サブプライムローン問題と金融危機
14 現代の金融市場と金融機関 5	リスクマネーの供給システム
15 まとめ	授業内容のまとめ

■参考文献

細野薫、石原秀彦、渡部和孝『グラフィック金融論』新世社
鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
館龍一郎、浜田宏一『金融』岩波書店
その他、講義の中で随時紹介します。

科目名	簿記論 I A			
09～11年度入学：簿記論 I				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

簿記は企業経営に不可欠な業績把握と財務管理の基礎となる。本講義は簿記の基本構造や決算までの仕組みを、社会人として必要な常識程度まで学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

簿記は人工言語といわれるように特有のルールによって成り立っている。それゆえ簿記を理解するには繰り返し反復練習する必要がある。授業はできるだけ教科書を利用するが、頻繁にプリントを配布して練習する。毎回、講義の流れを説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験80%、授業内小テスト及び課題20%を目安とする。

■授業の予習・復習

特に会計関連資格の受験者には練習問題と最近の出版物の予習・復習が望ましい。

■教科書

興津裕康 企業簿記 森山書店

■参考文献

「簿記の基礎 前林和寿」 森山書店、「検定簿記講義 2・3級」中央経済社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の概要と今後の運営方針 複式簿記の重要性と会計法規
2	基礎概念	資産と負債・純資産の均衡、収益と費用
3	複式簿記の基本構造	取引の意義と複式記入、借方・貸方、勘定、仕訳、仕訳帳、元帳
4	取引から決算まで I	貸借平均の原理、取引の仕訳から決算まで
5	// II	試算表の構造、貸借対照表と損益計算書の構造
6	資産勘定の処理 I	現金・預金・売掛金の仕訳、元帳転記
7	// II	土地・建物・車両等の仕訳、元帳転記
8	負債・資本勘定の処理	買掛金・借入金・資本金等の仕訳、元帳転記
9	収益・費用勘定の処理	売上・受取利息等の収益と給料・交通費・支払利息等の費用の仕訳、元帳転記
10	諸勘定の仕訳と元帳転記 I	若干複雑な取引と元帳転記
11	// II	//
12	決算整理	試算表の作成
13	決算 I	簡単な貸借対照表と損益計算書の作成
14	// II	//
15	取引記録の仕組	帳簿組織の意義と内容

科目名	簿記論 II A			
09～11年度入学：簿記論 II				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

簿記の基礎知識を持つ学生を対象に、簿記論 I より高度な知識習得を狙いとする。最終的には実際に近い貸借対照表と損益計算書作成を目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業内容が一層複雑になることから、繰り返し勉強することが必要となる。プリント配布により頻繁に練習するが、欠席すると途端に理解不能となる。欠席は禁物である。毎回、講義の流れを説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験80% 授業内小テスト及び課題20%を目安とする。

■授業の予習・復習

特に会計関連資格の受験者には練習問題と最近の出版物の予習・復習が望ましい。

■教科書

興津裕康 企業簿記 森山書店

■参考文献

「簿記の基礎 前林和寿他」 森山書店、「検定簿記講義 2・3級」中央経済社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	現金・預金の処理	小切手、小口現金、普通預金、当座預金等
2	資産勘定の処理 I	受取手形、売掛金、有価証券、前渡金、未収金等
3	// II	構築物、土地、建設仮勘定等
4	負債・資本勘定の処理	支払手形、買掛金、前受金、借入金等
5	収益・費用勘定の処理と商品売上の処理	種々の収益・費用勘定の理解 商品売上の分割法
6	手形取引の処理	手形の意義、約束手形、為替手形の処理、裏書、割引、不渡、金融手形の意味
7	決算の仕方と試算表	決算の意義・構造、試算表の構造
8	決算整理 I	現金・預金・売掛金・商品等の残高照合と評価
9	// II	貸倒引当金、諸引当金
10	// III	減価償却
11	// IV	収益・費用の見越と繰延
12	精算表 I	精算表の仕組と作成
13	// II	//
14	財務諸表の作成 I	貸借対照表と損益計算書の構造と作成
15	// II	貸借対照表と損益計算書の作成練習

科目名	簿記論 I B			
09～11年度入学：簿記論 I				
担当者	塚本 利平 <i>Toshihira Tsukamoto</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

会計は「ビジネスの言語」とも言われ、企業の財政状態や経営成績の理解に不可欠なものである。この会計における基本原理が複式簿記である。本講義では、その最も基本となる部分を学習することを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

まず各論点についての講義を行い、次に理解を深めるために練習問題を解いてもらう形式で授業を進めていく。

■成績評価方法・基準

おおむね、定期試験（80％）・授業内小テストあるいはレポート及びその他の課題（20％）

■授業の予習・復習

予習：特に必要はないが、時間に余裕がある人は、参考文献にあげた教材を購入し読んでおくことよい。

復習：配布プリントの説明内容、練習問題の再確認を必ず行ってほしい。

■教科書

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

■参考文献

「日商簿記3級」TAC簿記検定講座著 TAC出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の概要
2 簿記の仕組み	簿記の流れと複式の意味、仕訳の基礎
3	利益算定と決算書
4	取引の概念と仕訳の法則
5 取引の仕分と勘定記入	勘定記入の仕組み
6	仕訳帳と元帳
7 試算表の作成	各種試算表の仕組み
8	試算表の作成
9	決算の意味
10	精算表の作成
11 決算1－決算基本的な流れ	決算本手続：損益勘定と決算振替
12	繰越記入と締切
13	繰越試算表と仕訳帳の締切、決算振替
14	大陸式決算法
15 まとめ	修得した知識のまとめ

科目名	簿記論 II B			
09～11年度入学：簿記論 II				
担当者	塚本 利平 <i>Toshihira Tsukamoto</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

企業の財政状態や経営成績を理解するために不可欠な基本原理である複式簿記の理解を深めるための知識の習得を目指す。各取引事例、決算整理の処理を通して、前期に比べより、具体的に複雑な取引・仕訳を学習する。日商簿記3級程度の知識習得を到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

各論点についての講義を行い、学習上の基本ポイントを理解してもらい、さらに授業中に練習問題を解くことにも取り組んでいく。

■成績評価方法・基準

おおむね、定期試験（80％）・授業内小テストあるいはレポート及びその他の課題（20％）

■授業の予習・復習

予習：特に必要はないが、時間に余裕がある人は、参考文献にあげた教材を購入し読んでおくことよい。

復習：配布プリントの説明内容、練習問題の再確認を必ず行ってほしい。

■教科書

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の概要
2	現金・預金
3	売掛金と買掛金
4 各取引事例の分析	手形
5	各種債権・債務
6	有価証券、有形固定資産
7	決算整理の意味
8	現金過不足
9	引当金
10 決算2－決算整理－	有価証券の評価替え
11	売上原価の算定
12	減価償却費
13	収益費用の見越・繰延
14	8桁精算表
15 まとめ	修得した知識のまとめ

■参考文献

「日商簿記3級」TAC簿記検定講座著 TAC出版

科目名	会計学Ⅰ			
09～11年度入学：会計学Ⅰ				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義は財務会計を対象として学習する。財務会計の任務は財務諸表を通じて財務情報を公開することによって、経済の健全な発展に寄与することである。講義はこの関連を明らかにするとともに、財務諸表に馴染むことを狙う。

■授業の進め方（履修条件等）

関連する諸会計法規や財務諸表の内容等に馴染む必要があることから、教科書の説明にとどまらず、プリントを配布して現実の会計と社会の動きを理解する。毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験80%、授業内小テスト及び課題20%を目安とする。

■授業の予習・復習

特に会計関連、資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。

■教科書

財務会計入門 田中建二 中央経済社

■参考文献

会計法規集 中央経済社
現代会計学 中村忠 白桃書房

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容の概要、狙いと運営方針
2 財務会計の性格	財務会計の性格
3 会計諸規定Ⅰ	会計諸基準と会計法規の概要と役割
4 // Ⅱ	会計諸基準と会計法規の全体的関連
5 損益計算の仕組Ⅰ	財産法と損益法、棚卸法と誘導法
6 // Ⅱ	期間損益計算の仕組
7 会計諸基準Ⅰ	企業会計原則と会計基準の展開と内容
8 // Ⅱ	会計に関連する法律の展開と内容
9 // Ⅲ	Ⅰ、Ⅱの各論
10 // Ⅳ	//
11 財務諸表Ⅰ	財務諸表の意義と概要、連結と個別
12 // Ⅱ	貸借対照表の内容
13 // Ⅲ	損益計算書の内容
14 // Ⅳ	キャッシュ・フロー計算書の内容
15 // Ⅴ	株主資本等変動計算書の内容

科目名	会計学Ⅱ			
09～11年度入学：会計学Ⅱ				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

社会人として損益計算書や貸借対照表を手にとったとき、抵抗なくそれをある程度理解できるようにすることが狙いである。そのためには教科書の字句の解釈にこだわらず実際の財務諸表に馴染むようこころがける。

■授業の進め方（履修条件等）

実際の財務諸表に馴染む必要があることから、教科書説明にとどまらず、プリントを配布して実際の財務諸表に絶えず触れる。毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験80%、授業内小テスト及び課題20%を目安とする。

■授業の予習・復習

特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。

■教科書

財務会計入門 田中建二 中央経済社

■参考文献

会計法規集 中央経済社編
現代会計学 中村忠 白桃書房

■授業内容

授業項目	授業内容
1 貸借対照表Ⅰ	貸借対照表の機能と構造、連結と個別
2 資産Ⅰ	資産の意味と内容および評価
3 // Ⅱ	//
4 // Ⅲ	//
5 // Ⅳ	減価償却と費用配分
6 負債・引当金	負債および引当金の意味と内容
7 純資産	資本金、剰余金の意味と内容
8 損益計算書	損益計算書の機能と構造、連結と個別
9 利益の計算	利益計算の構造、収益と費用の対応
10 収益の認識	収益の意味と認識基準
11 費用の認識	費用の意味と認識基準
12 キャッシュ・フロー計算書等	キャッシュ・フロー計算書・株主資本等変動計算書の機能と構造
13 財務諸表の見方Ⅰ	財務諸表から会社の業績や状況を知る
14 // Ⅱ	//
15 // Ⅲ	//

科目名	企業法			
09～11年度入学：商法				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

企業法とは、学説が現代の商法・会社法を表現するために、使用する言葉です。この授業は商法のなかで、総則と商行為の範囲を解説します。企業組織と企業取引の一般的ルールを理解できるように、分かりやすく説明します。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は、要点を黒板に書きながら進めていきます。知識が身につくように、ノートをとってください。

■成績評価方法・基準

定期試験と出席状況をもとに評価します。

■授業の予習・復習

予習：あらかじめテキストを読んでください。
復習：ノートをもとにテキストを読み返してください。

■教科書

近藤光男編「現代商法入門（第8版）」有斐閣

■参考文献

必要に応じて、授業時間に紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	受講上の注意、試験の方法
2 企業法の意義	形式的・実質的意義、商法企業法説
3 商法の特性	営利性、定型性、公示主義、外観主義
4 商法の適用	商事制定法、商慣習法、普通取引約款
5 商人とは何か	商人と商行為、固有の商人、擬制商人、小商人
6 商人資格の得喪	自然人の営業能力、法人の権利能力
7 営業とは何か	主観的・客観的意義、のれん
8 営業譲渡、営業所	営業用財産の一括譲渡、本店・支店
9 商業登記	企業内容の公示、商業登記簿、登記手続
10 商業登記の効力	一般的効力、悪意の擬制、不実の登記
11 商号	商号自由主義、商号の登記、商号権
12 商業帳簿	企業会計原則、会計帳簿、対照対照表
13 商業使用人	支配人、支配権、競業禁止義務、表見支配人
14 代理商	締約代理商、媒介代理商、代理商契約
15 商行為の類型	絶対的・営業的・付属的商行為

科目名	会社法			
09～11年度入学：会社法				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

会社法は、会社の設立、株式、組織などを定めた膨大な法律です。授業の重点は、経済の主要な担い手である株式会社に置いて、解説します。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は、要点を黒板に書きながら進めます。ノートを取りながら、知識をまとめる習慣を身につけてください。

■成績評価方法・基準

定期試験と出席状況にもとにして評価します。

■授業の予習・復習

予習：あらかじめテキストを読んでください。
復習：ノートをもとにテキストを読み返してください。

■教科書

近藤光男編「現代商法入門（第8版）」有斐閣

■参考文献

必要な時は、授業の中で紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 会社の法的意義	営利性、社団性、法人性、法人格の否認
2 会社の種類	株式・合名・合資・合同会社
3 会社の権利能力	定款の目的による制限、政治献金
4 会社法の定義	親・子会社、公開・閉鎖会社、大会社
5 会社の設立	厳格な法規制、発起人、定款の作成
6 会社の設立手続	発起・募集設立、預合、見せ金、検査役の調査
7 設立中の会社	開業準備行為、設立登記、設立の無効
8 株式の意義	細分化された社員の地位、内容について特別の定め
9 種類株式	剰余金の配当額、残余財産の分配額など
10 株券	原則不発行、有価証券としての株券
11 株主名簿、株主	名簿の免責効果、名義書換、株主の有限責任
12 株式譲渡の自由	投下資本の回収、株式の譲渡制限
13 自己株式の取得	原則として取得可能、取得の要件
14 株主総会 1	権限、種類、招集手続、株主提案権
15 // 2	説明義務、議決権、委任状、書面投票

科目名	国際経済論 I			
09～11年度入学：国際経済論 I				
担当者	阿部 容子 Yoko Abe			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義では国際経済の歴史的認識、基礎理論、現状分析、政策という幅広い視点からその成り立ちやメカニズムを把握することを通じて、自分なりに国内外の経済動向を理解する基礎力を培うことを目標としています。

■授業の進め方（履修条件等）

国際経済に馴染みのない受講生が意欲的に授業に参加できるよう工夫します。具体的には図解や板書、Power Pointの使用、参考文献の適宜提示、新聞や雑誌記事の配布、有用な統計サイトの共有を予定しています。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、中間テスト（20%）、受講態度（30%：出席＋その他）これらを総合的に評価します。
※遅刻はなるべくしないこと。

■授業の予習・復習

授業の予習として、できるだけ毎日新聞を読むようにしてください。

■教科書

教科書は特に使用せず、レジュメとプリントを配布します。

科目名	国際経済論 II			
09～11年度入学：国際経済論 II				
担当者	土井 修 Osamu Doi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義では、「国際経済論 I」の講義を踏まえて、国際経済の歴史的発展過程および現代国際経済の構造について説明します。歴史的発展過程については、15世紀末以降第二次世界大戦に至るまでの国際経済の生成・確立・発展・解体過程を概説し、現代国際経済については、第二次大戦以降現在に至るまでの国際経済を概観した後、その中における重要なテーマをいくつか取り上げ、それらを詳細に検討します。なお、貿易、国際投資、国際労働力移動、国際収支、国際通貨等に関する理論については、必要に応じて説明します。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は使用せず、プリントや板書によって授業を進めますので、ノートをきちんととることが大切です。「国際経済論 I」を履修していることが望ましい。

■成績評価方法・基準

試験結果を中心としつつも、授業態度も加味する。

■授業の予習・復習

復習については、ノートを再度チェックし理解を深めてください。予習については、参考書を読んでください。

■教科書

使用しません。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	授業内容、進め方について
2 グローバリゼーションと経済	グローバリゼーションとは何か
3 貿易の利益と比較優位	ある商品を作る条件はどれも同じ？
4 経済発展と貿易	比較優位の推移と産業構造の盛衰
5 貿易と為替取引	為替レート変動が貿易に与える影響
6 直接投資の拡大	多国籍企業のダイナミックな活動
7 国際分業のグローバルな展開	グローバル生産システムの現状
8 自由貿易管理メカニズム	GATTからWTOへ
9 WTOと地域経済協定	地域統合の進展と自由貿易経済協定の増加
10 新興国の台頭と経済発展	BRICs経済の展望と米中貿易摩擦
11 拡大するサービス貿易	サービス貿易の定義と現状、膨張するオンライン取引と課金問題
12 グローバル化とIPR	拡張する知的財産権の保護対象、医薬品や伝統的知識をめぐる争いに関するケーススタディ
13 人の移動とグローバル化	労働力移動の現状、EUの移民政策、外国人労働者受け入れ問題
14 DVD観賞	グローバリゼーションに関連した教材
15 まとめ	授業のまとめ、質疑応答

■参考文献

- 石川城太・菊地徹・棕寛著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
2007年 2100円
遠州尋美『グローバル時代をどう生きるか』（法律文化社）
2003年 2500円
マンフレッド・B・スティージャー（著） 櫻井公人、櫻井純理、高島正晴（訳）『グローバリゼーション』（岩波書店）
2010年 1800円

■授業内容

授業項目	授業内容
1 序論	国際経済学研究動向
2 国際経済の確立	アメリカ・ヨーロッパ・東洋間貿易
3	イギリスの対外経済政策と国際分業構造
4 国際経済の発展	ドイツ、アメリカの台頭と国際経済構造の変容
5	第一次大戦とアメリカ
6	1920年代の国際経済構造
7 国際経済の解体	アメリカの1929年恐慌
8	世界不況とブロック経済の形成
9	ドル体制の成立（IMF=GATT体制）
10	EUの成立と発展
11	「南北問題」の登場
12 現代国際経済	アメリカ経済の衰退と日・欧の台頭
13	グローバリゼーションの進展と多国籍企業の展開
14	中国の台頭と国際経済の再編成
15 まとめ	授業の総括と質疑応答

■参考文献

- 西川潤「世界経済入門」（岩波書店）
楊井克己「概説国際経済論」（東大出版会）
関下稔「現代世界経済論」（有斐閣ブックス）

科目名	統計学総論 I			
09~11年度入学：統計学総論 I				
担当者	稲葉 弘道 <i>Hiromichi Inaba</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済社会の諸現象を理解するには質的だけでなく数量的に分析することが不可欠です。数量的に分析するための手法としての統計学を初歩から勉強します。理論よりも、実際にどのように統計学が利用されるかを学びます。使用する教科書はハンバーガーショップの経営が必要となる統計手法を題材にしています。

■授業の進め方（履修条件等）

統計分析にはパソコン（EXCEL）を使います。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・レポート及びその他の課題（20%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習：教科書をよく読んでおくこと。
復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。

■教科書

向後千春・富永敦子著『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社

科目名	統計学総論 II			
09~11年度入学：統計学総論 II				
担当者	稲葉 弘道 <i>Hiromichi Inaba</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

統計学総論 I と同様に、理論的よりも、実際にどのように統計学が利用されるかを学びます。使用する教科書はハンバーガーショップとアイスクリームショップの経営に必要な統計学です。アイスクリームの需要と温度の関係など、実践的な分析手法を学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

統計分析にはパソコン（EXCEL）を使います。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。統計学総論 I の内容を理解しているものとして、講義を進めます。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・レポート及びその他の課題（20%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習：教科書をよく読んでおくこと。
復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。

■教科書

向後千春・富永敦子著『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社
向後千春・富永敦子著『統計学がわかる 回帰分析・因子分析編 アイスクリームで味わう、“関係”の統計学』技術評論社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容の概要
2	パソコン操作基礎	パソコン操作の再確認
3	表計算操作法	表、グラフ作成
4		絶対参照座標
5	ポテトの長さは揃っている	平均と度数分布
6		分散と標準偏差
7	ポテトの本数はどのくらい	母集団と標本
8		区間推定の考えと信頼区間
9	ライバル店と売り上げを比較	仮説検定の考え方
10		カイ2乗検定
11	どちらの商品がウケていますか	平均の差の信頼区間
12		t検定（対応なし）
13	もっと詳しく調べたい	対応があるとは？
14		t検定（対応あり）
15	まとめ	まとめと質疑応答

■参考文献

小島寛之著『統計学入門』ダイヤモンド社
唯是康彦編著『EXCELで学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容の概要
2	3つ目のライバル店現る	3つどもえのポテト競争
3		分散分析（1要因）
4	新メニューで差をつける	//（2要因）
5	最高気温と客数の関係を知りたい	散布図
6	相関の強さを知りたい	相関係数の計算
7		相関係数の意味
8	その相関係数の意味はあるのか	無相関検定
9	最高気温で客数を予測したい	回帰分析の原理
10		回帰直線の計算
11	最低気温と客数の関係を知りたい	偏相関
12		もうひとつの偏相関係数
13	最高気温と最低気温から客数を予測したい	重回帰モデルでの予測
14		重回帰分析の信頼性
15	まとめ	まとめと質疑応答

■参考文献

小島寛之著『統計学入門』ダイヤモンド社
唯是康彦編著『EXCELで学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社

科目名	知的財産権論			
09～11年度入学：知的財産権論 I				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

インターネットの普及により日常的に知的財産権を無意識に侵害する可能性が増えています。また、企業コンプライアンス（法令遵守）のみならず、知的財産の活用は企業の業績にも影響をあたえるようになってきました。そのために必要な、知的財産およびその保護制度について理解してもらおうのがねらいです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は「情報経済論（情報マネジメント）」を履修し終えていることです。配布資料とPower Pointを用いて講義をします。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に論述式の小テストを毎回行います。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、実習の課題（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習はとくに必要ありませんが、基本的な考え方や実例を復習しておいてください。

■教科書

なし、毎回資料を配布します。

科目名	情報マネジメント			
09～11年度入学：情報経済論				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報社会では、情報に価値があり、情報サービスそのものが商品として取引されています。本講義では、そのような情報社会の特性を理解し、活用できるように、基本的な考え方や仕組みの理解を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

配布資料とPower Pointを用いて講義をします。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に論述式の小テストを毎回行います。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習はとくに必要ありませんが、基本的な考え方や実例を復習しておいてください。

■教科書

なし、毎回資料を配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要
2 知的財産とは	知的財産の問題と保護の必要性
3 知的財産権	知的財産権制度の概要
4 インターネットと知的財産権	インターネットにおける知的財産権侵害の現状
5 ソフトウェアの知的財産権	知的財産権におけるソフトウェアの保護
6 コンテンツと知的財産権	知的財産権におけるデジタルコンテンツの保護
7 ケーススタディ 1	インターネット上の著作権侵害の事例
8 // 2	インターネット上の商標権・意匠権侵害の事例
9 // 3	インターネット上の特許権侵害の事例
10 知的財産のマネジメント	知的財産をめぐる経営上の諸問題
11 創造のマネジメント	知的財産の内部開発と外部調達
12 権利化のマネジメント	知的財産権権利化のプロセスと組織
13 活用のマネジメント	知的財産のマーケティング戦略
14 紛争のマネジメント	知的財産をめぐるリスクと対策
15 まとめ	要点と試験対策

■参考文献

寒河江孝允『知的財産権の知識』日経文庫893日本経済新聞社
 知的財産教育協会編『事例で学ぶ知的財産権の基礎知識』日本経済新聞社
 米山茂美・渡辺俊也編著『知財マネジメント入門』日経文庫1042日本経済新聞社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の概要、注意事項他
2 情報の定義	情報社会における情報の価値と特徴
3 情報の経済学的意義	伝統的経済学と情報の関係
4 情報財市場	製品と価格の差別化
5 情報財の価値	情報財の価格付け
6 知的財産権のマネジメント	流通費用と生産費用の削減効果
7 ロックイン効果	ロックイン効果の特徴と分類
8 ロックインのマネジメント	買い手と売り手のロックイン戦略
9 無料ビジネスのマネジメント	無料ビジネスのタイプと特徴
10 コンテンツ産業	コンテンツ産業の分類と現状
11 ゲーム産業	任天堂とSCEの戦略
12 ゲーム産業とフリーコピー	フリーコピー問題の本質
13 オンラインゲームビジネス	ビジネスモデルと韓国での事例
14 // 2	韓国企業の戦略
15 まとめ	要点と試験対策

■参考文献

カール＝シャピロ・ハルRバリアン『ネットワーク経済の法則』IDGコミュニケーションズ
 新宅純二郎・柳川範之編『フリーコピーの経済学』日本経済新聞出版社
 魏晶玄『韓国のオンラインゲームビジネス研究』東洋経済新報社

科目名	公共経済学			
09～11年度入学：公共経済学				
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義においては、まず市場経済の特質と限界を明らかにする。さらに、環境汚染などの外部性の問題やフリーライダー（ただ乗り）を排除できない公共財の問題について概説し、公共部門が果たすべき役割を明らかにする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は板書を中心に進めていくので、授業に出て、しっかりノートをとることが求められる。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、それに質問、意見などを記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）・授業内小テスト（15％）・レポート及びその他の課題（15％）

■授業の予習・復習

予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。

復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

■教科書

教科書は指定しないが、下記の参考文献の必要か書のコピーやその他の資料を適宜配布する。

科目名	公共選択論			
09～11年度入学：公共選択論				
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

公共選択論は経済学の分析手法を適用して政治的意思決定に関する課題について考察することを目的としている。本講義では公共選択論の基本課題（多数決ルールの採択、投票のパラドックス、票の取引など）を概説し、現代の政治制度の持つ限界や陥穽を、有権者の行動、官僚制など具体的問題から明らかにする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は板書を中心に進めていくので、授業に出て、しっかりノートをとることが求められる。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、それに質問、意見などを記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）・授業内小テスト（15％）・レポートまたはその他の課題（15％）

■授業の予習・復習

予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。

復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

■教科書

使用しない。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 公共経済学の目的と方法	公共経済学の考え方とは
2 市場経済のメカニズム	市場経済と指令経済の比較
3 市場経済の効率性と社会的厚生	消費者余剰および生産者余剰と市場の効率性
4 市場の失敗	市場の失敗とは何か。
5 効率と公平	効率性とパレート最適
6 不完全競争の問題	独占・寡占市場における価格決定と市場の効率性
7 外部性をめぐる問題(1)	外部経済と外部不経済
8 // (2)	外部性と市場の失敗
9 // (3)	規制と罰金
10 // (4)	規制措置の問題点
11 公共財をめぐる問題(1)	公共財とは
12 // (2)	フリーライダーの問題
13 // (3)	公共財の最適供給
14 費用逓減産業における問題点	費用逓減産業における市場の失敗
15 授業のまとめ	公共経済学からみた市場経済の限界について（総括）

■参考文献

『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社、井堀利宏著
『公共政策学入門』有斐閣、足立幸男著

■授業内容

授業項目	授業内容
1 政府の役割と政治的意思決定	公共選択論とは何か
2 課税の公平性をめぐる問題 (1)	水平的公平性と垂直的公平性、応能原則と応益原則
3 // (2)	サイモンズの所得の定義と包括的所得税
4 // (3)	未実現キャピタルゲインの扱いと所得平均化措置の問題
5 // (4)	法人税と資産課税から見た公平性の問題
6 課税の中立性 (1)	課税と市場の効率性
7 // (2)	需要弾力性と税の中立性
8 集散的選択ルールと投票 (1)	公共選択のルールと多数決原理
9 // (2)	投票のパラドックスと票の取引
10 現実の政治における諸問題 (1)	直接民主制と代議制
11 // (2)	投票者の合理的無視の効果、特殊利益集団
12 // (3)	政治家の得票最大化行動
13 官僚の役割と政策決定 (1)	官僚の役割と非効率性
14 // (2)	日本の政策決定における官僚の関与と問題点
15 // (3)	官僚主導型政策形成から政治主導政策形成への課題

■参考文献

『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社、井堀利宏著
『公共政策学入門』有斐閣、足立幸男著

科目名	地方財政論 I			
09～11年度入学：地方財政論 I				
担当者	金子 林太郎 Rintarou Kaneko			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

私たちは生まれて（生まれる前）から死ぬ（死んだ後）まで、さまざまな公共サービスのお世話になる。その多くは、中央政府ではなく地方政府（それも主に市町村）が提供している。本講義では、わが国の地方財政の現状と課題を、近年の地方分権（地域主権）改革の動きも意識しながら、紹介する。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回スライドを示して解説しながら進める。話をよく聞き、重要と思うことをメモするのが望ましい。出席カードを用いて毎回出席を取る。数回小レポートを課す。財政学を履修中または履修済みであることが望ましい。

■成績評価方法・基準

期末試験の成績を基本に、小レポートの成績、出席カードのコメントの内容を加味して評価する。

■授業の予習・復習

ノートを整理し、講義で聞いた内容を咀嚼すること。新聞等で地方財政に関するニュースをフォローすること。

■教科書

特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

科目名	地方財政論 II			
09～11年度入学：地方財政論 II				
担当者	金子 林太郎 Rintarou Kaneko			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

私たちは生まれて（生まれる前）から死ぬ（死んだ後）まで、さまざまな公共サービスのお世話になる。その多くは、中央政府ではなく地方政府（それも主に市町村）が提供している。本講義では、わが国の地方財政の現状と課題を、近年の地方分権（地域主権）改革の動きも意識しながら、紹介する。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回スライドを示して解説しながら進める。話をよく聞き、重要と思うことをメモするのが望ましい。出席カードを用いて毎回出席を取る。数回小レポートを課す。財政学を履修中または履修済みであることが望ましい。

■成績評価方法・基準

期末試験の成績を基本に、小レポートの成績、出席カードのコメントの内容を加味して評価する。

■授業の予習・復習

ノートを整理し、講義で聞いた内容を咀嚼すること。新聞等で地方財政に関するニュースをフォローすること。

■教科書

特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の概要、評価方法等の説明
2 地方財政と自治 1	地方公共団体とその事務
3 地方財政と自治 2	地方公共団体と分権
4 拡がる地方財政 1	地方公共団体の会計
5 拡がる地方財政 2	公営企業会計
6 拡がる地方財政 3	地方公社
7 地方公共団体の支出活動 1	経費の目的別分類、性質別分類
8 地方公共団体の支出活動 2	経費分類の利用
9 地方公共投資 1	公共投資、行政投資、社会資本
10 地方公共投資 2	普通会計と普通建設事業
11 地方税 1	地方税の課税原則
12 地方税 2	地方税の分類と体系
13 地方税 3	個人と家計の地方税（所得ベース）
14 地方税 4	個人と家計の地方税（資産ベース）
15 まとめ	この講義のまとめ、期末試験に向けた諸注意、質疑応答

■参考文献

伊東弘文「入門地方財政」ぎょうせい
総務省編「地方財政白書」

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の概要、評価方法等の説明、前期試験の解説
2 地方税 5	地方企業課税の意義
3 地方税 6	法人と企業の地方税
4 地方税 7	地方消費税
5 地方財政調整 1	地方財政調整とは何か
6 地方財政調整 2	地方譲与税
7 地方財政調整 3	地方交付税（普通交付税）
8 国庫補助金 1	国庫補助金と負担区分
9 国庫補助金 2	国庫補助金の経済分析
10 国庫補助金 3	国庫補助金の現状と課題
11 地方債 1	地方債の仕組み
12 地方債 2	地方債の現状と課題
13 地方予算制度	地方予算制度の現状と課題
14 地方財政分析	健全財政とは何か、赤字とは何か
15 まとめ	この講義のまとめ、期末試験に向けた諸注意、質疑応答

■参考文献

伊東弘文「入門地方財政」ぎょうせい
総務省編「地方財政白書」

科目名	地方自治論 I			
09～11年度入学：地方自治論 I				
担当者	岡崎 加奈子 Kanako Okazaki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

わたしたちの生活において地方自治とはどのような意味をもち、どのような役割を果たしているのだろうか。本講義では地方自治について理解し・考えるための基礎的な力を身につけることを目的とする。具体的には、地方自治に関する概念、歴史的経緯、制度について幅広く学び、政策・財政についての基本的な知識の取得を目指す。時事問題についても適時紹介し、私たちが暮らす現代社会が抱える地方自治の問題や課題について広く考えていく。

■授業の進め方（履修条件等）

地方自治の制度的・政策的な事柄について、身近な事例を踏まえて講義をしていく。地方自治について興味を深め、考える機会を設けるとともに、「書く力」の向上をめざし、授業内において数回レポートの作成をする。

■成績評価方法・基準

期末試験および平常点を考慮して、総合的に評価する。

■授業の予習・復習

講義の内容については、毎回ノートやレジメを見直し、復習しておくこと。また、普段から地方自治に関する時事的なニュースに関心をもつことがのぞましい。

科目名	地方自治論 II			
09～11年度入学：地方自治論 II				
担当者	岡崎 加奈子 Kanako Okazaki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義では、地方自治に関する具体的な政策・財政の現状及び課題について理解し、考察することを目的とする。現代社会における自治体の役割とは何か。どのような政策をおこなうことが求められているのか。今日抱えるさまざまな政策課題や、地域における現状を踏まえ、幅広い観点から地方自治についての理解を深めていく。

■授業の進め方（履修条件等）

自治体の政策とはどのようなものなのか具体的な事例を紹介しつつ、講義をおこなう。その中で、幅広い視野で地方自治について考える機会を設けていく。また、数回の授業内レポートを実施する中で、「書く力」の向上も目指していく。

■成績評価方法・基準

期末試験および平常点を考慮して、総合的に評価する。

■授業の予習・復習

講義内容については、毎回ノートやレジメを見直し、復習しておくこと。また、普段から地方自治に関する時事的なニュースに関心を持つことがのぞましい。

■教科書

とくに指定しない。毎回レジメを配布する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	講義全体の目標、内容、進め方などについての説明
2	自治とは何か	市民による自治とは何か
3	自治体とは何か①	基礎自治体と広域自治体のしくみ
4	// ②	自治体と国の関係はどのようなものか
5	自治体の変遷①	戦前期における自治体
6	// ②	戦後民主主義と自治体
7	地方分権と自治体の変化①	地方分権改革の潮流
8	// ②	自治体の新たな役割と課題
9	自治体の首長・行政機構①	自治体における首長の役割
10	// ②	行政機構の組織・人事や新たな課題について
11	自治体の議会①	議会と議員の役割
12	// ②	議会改革の潮流と議会における「討議」
13	市民の役割①	市民による自治体への参加について考える
14	// ②	市民と、自治体や首長・議会との関係性について考える
15	まとめ	講義全体のまとめをおこなう

■教科書

とくに指定しない。レジメを毎回配布する。

■参考文献

『自治体学入門 岩波テキストブック』
(田村明著、岩波書店、2000年)

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	講義全体の目標、内容、進め方などについての説明
2	政策とは何か①	現代社会と政策の関係
3	// ②	政策の類型化と分化について
4	自治体の政策①	基本条例と基本構想について
5	// ②	政策形成のしくみについて
6	// ③	政策法務について
7	自治体の財政①	歳入と歳出のしくみ
8	// ②	自治体財政の現状と課題
9	ケーススタディ①	まちづくり政策に関する事例紹介
10	// ②	福祉政策に関する事例紹介
11	// ③	環境政策に関する事例紹介
12	自治体における国際化	国際化にともなう自治体の課題と取り組みについて
13	政治意識と市民文化	現代社会における市民のあり方について考える
14	地方自治をめぐる今後の課題	地方自治をめぐる今日的な問題性と課題について考える
15	まとめ	講義全体のまとめをおこなう

■参考文献

『自治体入門 岩波テキストブック』
(田村明著、岩波書店、2000年)

科目名	財政赤字の経済学		
09～11年度入学：財政赤字の経済学			
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	3年以上	

■授業のねらいと到達目標

日本の財政赤字は膨大な規模に達しているが、このような状況に陥った原因を探り、それが日本経済にどのような影響を及ぼすかを考察するのが本講義の目的である。本講義では日本の財政状況の推移と現状、公共サービスの需要と供給、赤字財政の政治・経済的要因について明らかにする。同時に、公債、国債の国民負担に関する問題について検討する。

■授業の進め方（履修条件等）

必要であればプリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・レポート及びその他の課題（30％）・授業内小テスト（20％）

■授業の予習・復習

予習：下記の参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。

復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

■教科書

使用しない。

科目名	社会保障論 I		
09～11年度入学：社会保障論 I			
担当者	星 真実 Masami Hoshi		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	3年以上	

■授業のねらいと到達目標

社会保障成立に至るまでの長い歴史的過程を迎えることから、その本質とは何かについて解明し、その目的は「生存権保障」であることを確認する。現代の財源論主導の社会保障のあり方についても検討を加える。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（感想文）と、期末試験により判定する。

■授業の予習・復習

講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

工藤恒夫『資本制社会保障の一般理論』新日本出版社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	日本の財政収支	日本の財政赤字の実態と推移
2	財政と公債発行	公共サービスの供給と公債費の増大
3	財政赤字の要因分析(1)	デフレ経済と高齢社会の到来
4	〃 (2)	社会保障費をめぐる問題
5	〃 (3)	景気対策による財政赤字の拡大
6	〃 (4)	政治的要請と官僚主導の予算
7	公債の経済理論(1)	公債負担転嫁論の概説：公債はだれの負担か？
8	〃 (2)	内国債と外債、および国債と地方債
9	〃 (3)	モジリアニの負担転嫁論
10	〃 (4)	リカード＝バローの等価定理
11	〃 (5)	クラウディングアウトと民間投資への影響
12	財政健全化に向けて(1)	公共投資の抑制と課題
13	〃 (2)	社会保障制度の改革
14	〃 (3)	財政支出による景気刺激策の限界と財政均衡への課題
15	全体のまとめ	財政赤字と公債発行の問題の復習：確認テスト

■参考文献

『スティグリッツマクロ経済学第3版』5章および15章 東洋経済新報社、ジョセフ・E・スティグリッツ／カール・E・ウォルツシュ著
『公共経済学』日本評論社、野口悠紀雄著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	社会保障の概念	社会保障とは何か
3		方法的視点の理論的課題
4	資本主義と生活問題	自助原則とは何か
5		賃金保障の意義
6	社会保障前史	救貧・共済体制
7		社会保険の成立
8	社会保険から社会保障へ	社会保険の本質と制約
9		イギリスの場合
10	第二次大戦後の展開過程	ドイツの場合
11		第二次大戦後の展開過程
12	社会保険の本質	目的＝生存権保障について
13		制度化原則について I
14	〃	II
15	おわりに	まとめ

科目名	社会保障論 II			
09～11年度入学：社会保障論 II				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

現代社会において、社会保障にはいかなる問題があるのか。高齢化社会の進行に伴う年金・医療・介護という現在抱えている社会問題を中心に、国際比較を交えつつ、わが国の社会保障の特質について検討する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（感想文）と、期末試験により判定する。

■授業の予習・復習

講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

工藤恒夫『資本制社会保障の一般理論』新日本出版社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ガイダンス
2		戦後の生活保障体制
3	日本の社会保障史	日本の社会保障計画
4		国民皆年金・皆保険体制
5		1980年以降の「改革」
6	現代日本の社会保障	公的年金とは何か
7		日本の公的年金制度の問題点
8		医療保障とは何か
9		日本の医療保険の問題点
10		日本の医療供給体制の問題点
11		介護保険とは何か
12		日本の介護問題
13		介護をめぐる死について
14	社会保障の本質	財政原則について
15	おわりに	まとめ

科目名	社会福祉論			
09～11年度入学：社会福祉論				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

「社会福祉」という学問は限りなく拡大解釈可能であるが、本講義では社会保障制度の一環としての「狭義」の社会福祉について考察する。その歴史的展開過程を辿り、国際比較を交えつつ、生活最低限という視点から分析を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（感想文）と、期末試験により判定する。

■授業の予習・復習

講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

寺久保光良「福祉」が人を殺すとき』あけび書房

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	はじめに	「社会福祉論」の学問領域
3	救貧制度史	「エリザベス救貧法」と貧困観
4		「改正救貧法」と貧困観
5		公衆衛生について
6		日本の救貧制度史
7		生活保護法とは
8		生活保護をめぐる訴訟・事件 I
9	公的扶助論	// II
10		生活保護の現況
11		生活保護と公的年金制度
12		高齢者福祉
13	社会福祉の三本柱	障がい者福祉
14		児童福祉
15	おわりに	まとめ

科目名	福祉経済論			
09～11年度入学：福祉経済論				
担当者	星 真実 Masami Hoshi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

「豊かな社会」と言われるわが国では、貧困問題は既に解消された過去のものとして扱われる場合が多い。しかし、国際的に貧困は現代的課題であり、わが国でも高齢者を中心に、全国民が貧困に陥る危険性があることを認識するため、実態調査を中心に考察を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書は用いず、毎回レジュメを配布し、これに沿って講義を行う。ノートを作成することが望ましい。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（感想文）と、期末試験により判定する。

■授業の予習・復習

講義レジュメと作成したノートの見直しをすることが望ましい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

日本労働研究機構『フリーターの意識と実態－97人へのヒアリング結果より』

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	はじめに	「福祉経済論」とは何か
3	実態調査に見る高齢者問題	路上生活者問題Ⅰ
4		// Ⅱ
5		// Ⅲ
6		日雇労働者問題Ⅰ
7		// Ⅱ
8	実態調査に見る労働者問題	失業者問題Ⅰ
9		// Ⅱ
10		フリーター問題Ⅰ
11		// Ⅱ
12		医療保障
13	生活保障とその課題	医療供給体制
14		雇用保障
15	おわりに	まとめ

科目名	経済学史Ⅰ			
09～11年度入学：経済学史Ⅰ				
担当者	加茂川 益郎 Masuro Kamogawa			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

古典派経済学を中心として、形成期の経済学説の課題と理論を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを使って板書しながら説明する。

■成績評価方法・基準

小テストと期末テストの成績によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストを読むこと

復習：ノートをまとめて理解を確かめること

■教科書

井上義朗『コア・テキスト 経済学史』 新世社

■参考文献

スミス『国富論』

リカード『経済学および課税の原理』

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	経済学史の課題と方法
2	重商主義	重金主義、貿易差額論、各国の重商主義
3	重農主義	自然法思想、純生産物、三階級
4	重農主義、小テスト	経済表、小テスト
5	古典派経済学－スミス『国富論』	国富論の体系、富とは何か、富の増進方法
6	『国富論』	投下労働価値説と支配労働価値説への移行
7		資本蓄積論、富裕の進歩の差異
8	『国富論』、小テスト	重商主義批判、自由主義、小テスト
9	古典派経済学－マルサス	人口法則と私有財産制
10	古典派経済学－リカード『経済学原理』	穀物法論争と比較優位論
11	『経済学原理』	投下労働価値説の徹底、価値分解論
12		差額地代論
13		自然価格、賃金論、利潤論
14	『経済学原理』、小テスト	資本蓄積論、小テスト
15	まとめ	重商主義、重農主義、古典派経済学の総括

科目名	経済学史Ⅱ		
09～11年度入学：経済学史Ⅱ			
担当者	加茂川 益郎 Masuro Kamogawa		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

経済学の三大潮流であるマルクス経済学、新古典派経済学、ケインズ経済学を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを使って板書しながら説明する。

■成績評価方法・基準

小テストと期末テストによって評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストをよく読むこと
復習：ノートを整理して理解を深めること

■教科書

井上義朗『コア・テキスト 経済学史』 新世社

■参考文献

マルクス『資本論』
マーシャル『経済学原理』
ケインズ『雇用、利子および貨幣の一般理論』

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	マルクス経済学Ⅰ	マルクス経済学の生成、「資本論」への道
2	Ⅱ	『資本論』の構造、労働価値説
3	Ⅲ	剰余価値論、資本蓄積論
4	Ⅳ、 小テスト	産業予備軍、小テスト
5	新古典派経済学Ⅰ	新古典派経済学とは何か。限界効用理論。
6	Ⅱ	メンガーの効用価値論
7	Ⅲ	ワルラスの一般均衡理論
8	Ⅳ	マーシャルの動態的市場理論
9	Ⅴ、 小テスト	シュンペーターの経済発展理論、小テスト
10	ケインズ経済学Ⅰ	失業者の発生—ケインズの考え方
11	Ⅱ	有効需要の原理—消費、貯蓄、乗数効果
12	Ⅲ	投資と利子、流動性選好
13	Ⅳ	ケインズの政策と思想
14	現代経済学の諸潮流、 小テスト	社会経済学、新リカード学派、現代マルクス学派、小テスト
15	まとめ	マルクス、新古典派、ケインズ経済学の総括

科目名	行政法Ⅰ		
09～11年度入学：行政法Ⅰ			
担当者	小野寺 邦広 Kunihiko Onodera		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

この授業では、行政法の基本原理、行政組織法、行政作用法について講義します。これらについての基礎知識の習得が到達目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書の内容を解説します。必要に応じて新聞記事などのコピーも配布します。

■成績評価方法・基準

定期試験とレポートで評価します（定期試験8割、レポート2割）

■授業の予習・復習

予習：教科書を読むこと
復習：授業中とったノートや教科書を読み返すこと

■教科書

櫻井敬子・橋本博之『行政法（最新版）』 弘文堂 3300円
岩波判例セレクト六法 平成24年版 岩波書店 2000円

■参考文献

橋本博之『行政判例ノート』 弘文堂 2800円

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	行政、行政法の意味等
2	行政法の基本原理（1）	法律による行政の原理
3	Ⅱ（2）	適正手続、情報公開（含む行政手続法、情報公開法）
4	Ⅲ（3）	法の一般原理
5	行政組織（1）	官庁理論、国と地方の行政組織
6	Ⅱ（2）	国と地方の関係
7	行政立法	法規命令、行政規則
8	行政行為（1）	行政行為の意味、分類
9	Ⅱ（2）	行政行為の特殊な効力
10	Ⅲ（3）	行政行為の瑕疵
11	Ⅳ（4）	行政行為の取り消しと撤回
12	行政裁量	行政裁量の意味、行政裁量の法的コントロール
13	行政指導、行政計画	意味、法的コントロール
14	行政上の義務履行確保	総論、行政代執行法等
15	行政調査、個人情報保護	強制調査、任意調査、個人情報保護法

科目名	行政法Ⅱ			
09～11年度入学：行政法Ⅱ				
担当者	小野寺 邦広 <i>Kunihiro Onodera</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業では、行政救済法と国家補償法について講義します。これらについての基礎知識を身につけることがこの授業の到達目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書の内容を解説します。必要に応じて新聞記事等のコピーも配布します。

■成績評価方法・基準

定期試験とレポートにより評価します（定期試験8割、レポート2割）。

■授業の予習・復習

予習：教科書を読むこと
復習：ノートや教科書を読むこと

■教科書

櫻井敬子・橋本博之『行政法（最新版）』弘文堂 3300円
岩波判例セレクト六法 平成25年版 岩波書店 2000円程度

■参考文献

橋本博之『行政判例ノート』弘文堂 2800円

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	行政上の救済手続の概要、行政不服審査法
2 司法権の範囲と限界	司法権と行政訴訟、司法権と法律上の争訟、統治行為など
3 行政事件訴訟法（1）	行政事件訴訟の諸類型—主観訴訟と客観訴訟、住民訴訟など
4 // （2）	行政事件訴訟の諸類型—抗告訴訟と当事者訴訟
5 // （3）	抗告訴訟の諸類型
6 // （4）	取り消し訴訟の訴訟要件—概説
7 // （5）	処分性の要件
8 // （6）	原告適格
9 // （7）	原告適格、訴えの利益など
10 // （8）	取り消し訴訟の審理・判決、執行停止制度、教示制度
11 国家賠償法（1）	国家賠償法の意義
12 // （2）	国家賠償法1条一団、公共団体の賠償責任の本質、賠償の要件
13 // （3）	国家賠償法2条—賠償の要件、水害訴訟、空港騒音訴訟など
14 損失補償	意義、補償の要否の判定基準など
15 国家賠償と損失補償の「谷間」の問題	予防接種禍訴訟など

科目名	民法Ⅰ			
09～11年度入学：民法Ⅰ				
担当者	古川 晴雄 <i>Haruo Furukawa</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

民法は私法の基本であり、民法総則及び物権を学び理解することは社会生活を営む上で、有益であり、寧ろ必要最小限度の知識は必須であると言える。民法の基礎理論及び物権について講義し、学生が社会に出た際に発生するであろう私法問題について、自らの判断で対処できるに足る基礎的知識を習得することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

民法を学んだことのない学生が理解できるように、基本原則を中心に、裁判案件、相談案件、判例等の具体的事例をとりいれて出来るだけわかりやすく講義を進める予定である。また、物権法については、学生が理解し易いように、所有権、抵当権等の各論を先に講義し、その後総論部分を講義する予定である。なお、レジュメを配布し、レジュメを中心に講義を行う予定である。

■成績評価方法・基準

試験成績により成績評価を決定したい。

■授業の予習・復習

基本書による予習、レジュメによる復習が望まれる。

■教科書

民法入門の入門 財産編（中川淳編 法律文化社）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 民法の意義と基本原則	民法の意義、民法の基本原則
2 権利能力論、行為能力制度	制限行為能力者の保護と相手方保護
3 法人論	法人の成立、能力、役割
4 権利の客体	物の意義と分類
5 法律行為論	法律行為の意義、分類、解釈、目的
6 意思表示 1	心裡留保、虚偽表示、錯誤
7 // 2	詐欺、強迫
8 代理制度 1	代理の意義、代理の構造、復代理
9 // 2	無権代理、表見代理
10 時効制度	取得時効、消滅時効
11 物権総則	物権の意義、種類
12 所有権	所有権の意義と効力
13 各種物権	占有権、抵当権等の意義と効力
14 物権の効力・変動	物権の効力と物権変動と対抗問題
15 まとめ	民法総則・物権まとめ

■参考文献

プリメール民法1（民法入門・総則 安井宏ほか共著）、プリメール民法2（物権・担保物件 松井宏興ほか共著）（法律文化社）

科目名	民法Ⅱ			
09～11年度入学：民法Ⅱ				
担当者	古川 晴雄 Haruo Furukawa			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

講義は債権法が中心である。現代社会は多様化し、その対応は社会生活を営む上で、極めて重要となっている。債権法についての最低限の知識を理解することは極めて有益である。民法総則・物権（民法1前期）とあわせ、学生が、社会生活における私法問題について対処できるに足る基礎的知識の習得に努めたい。

■授業の進め方（履修条件等）

債権法分野は極めて広範囲であり多岐にわたっている。そこで、基本原則と重要分野を中心に、できるだけ裁判案件、相談案件、判例等の具体的事例をとりいれてわかりやすく講義を進める予定である。また、学生が理解しやすいように、各論を講義して、その後、総論部分を講義する方法を進めたい。分野が広範囲なこともあり、レジメを配布し、レジメを中心とした講義を行う予定である。

■成績評価方法・基準

試験成績により成績評価を決定したい。

■授業の予習・復習

債権法は、分野が広く多岐にわたるため、基本書による予習、レジメによる復習が望まれる。

科目名	進路支援講座Ⅰ (経済専攻コース共通)			
担当者	経済教務委員会 Kyoumu linkai			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

本授業では、就職対策講座として公務員試験または民間就職筆記試験の基礎を学ぶことを目的とし、3年後の就職試験に万全の体制で臨むための基礎作りを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

公務員試験、民間就職筆記試験に対応できるよう基礎を繰り返して学習します。欠席せずに、受講すれば基礎が身につくよう講義を展開します。なお、公務員就職希望、民間企業就職希望の学生は、必ず履修してください。

■成績評価方法・基準

定期試験60%、出席状況30%、授業態度10%

■授業の予習・復習

予習：必要ありません。
復習：授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。

■教科書

初回の授業時に指示します。

■参考文献

初回の授業時に指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 物権と債権の相違	物権と債権の違い
2 売買契約	売買契約の要件、機能、効力
3 貸借契約	賃貸借、消費貸借契約等の要件と効果
4 その他契約	贈与、請負、雇用、委任等の要件と効果
5 契約総論 1	契約の成立、契約の機能について
6 // 2	契約の効力
7 // 3	契約の解除
8 事務管理・不当利得	事務管理・不当利得の意義と効果
9 不法行為論 1	不法行為（709条）の要件
10 // 2	不法行為の効果
11 // 3	特殊不法行為（使用者責任等）
12 債権総論 1	債権の効力
13 // 2	詐害行為取消権、債権者代位権、債権譲渡等
14 // 3	多数当事者関係、弁済、相殺
15 債権法のみとめ	債権法全般のみとめ

■教科書

民法入門の入門 財産編（中川淳編 法律文化社）

■参考文献

プリメール民法3（債権総論 宇佐見大司ほか共著）

プリメール民法4（債権各論 大島俊之ほか共著）

（法律文化社）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 数学の基礎①	整数の性質
2 // ②	計算
3 // ③	展開と因数分解
4 // ④	方程式
5 // ⑤	関数
6 // ⑥	規則性
7 // ⑦	比と割合
8 // ⑧	速さ
9 // ⑨	特殊算
10 // ⑩	場合の数と確率
11 // ⑪	図形の基本
12 // ⑫	円の性質
13 // ⑬	合同と相似
14 // ⑭	三平方の定理
15 数学の基礎全般	数学の基礎全般

科目名	進路支援講座Ⅱ (経済専攻コース共通)			
担当者	経済教務委員会 <i>Kyoumu linkai</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

本授業では、就職対策講座として公務員試験または民間就職筆記試験の基礎を学ぶことを目的とし、3年後の就職試験に万全の体制で臨むための基礎作りを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

公務員試験、民間就職筆記試験に対応できるよう基礎を繰り返し学習します。欠席せずに、受講すれば基礎が身につくよう講義を展開します。なお、公務員就職希望、民間企業就職希望の学生は、必ず履修してください。

■成績評価方法・基準

定期試験60%、出席状況30%、授業態度10%

■授業の予習・復習

予習：必要ありません。

復習：授業で指示した箇所については、必ず次回の講義までに復習して授業に臨んでください。

■教科書

初回の授業時に指示します。

■参考文献

初回の授業時に指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 数的処理①	判断推理①（論理・真偽）
2 // ②	// ②（対応関係）
3 // ③	// ③（順序関係・暗号）
4 // ④	// ④（操作手順）
5 // ⑤	数的推理①（整数・比と割合）
6 // ⑥	// ②（記数法・数列）
7 // ⑦	// ③（速さ・文章題）
8 // ⑧	// ④（場合の数・確率）
9 // ⑨	図形①（正多面体・軌跡・移動）
10 // ⑩	// ②（図形の計量）
11 // ⑪	資料解釈（資料の見方・簡単な計算）
12 // ⑫	判断推理のまとめ
13 // ⑬	数的推理のまとめ
14 // ⑭	図形・資料解釈のまとめ
15 // ⑮	数的処理全般

科目名	証券経済論Ⅰ			
09～11年度入学：証券経済論Ⅰ				
担当者	土井 修 <i>Osamu Doi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

現代資本主義の発展において、証券市場は必要不可欠であるが、本講義では証券および証券市場に対する基本的理解を得た上で、それらの経済全体および企業経営に果たしている役割を明らかにする。具体的には、株式、債券等の証券の特徴、証券価格の形成メカニズム、証券市場と景気循環との関係などについての基礎知識を習得し、それらを踏まえて主要資本主義国における経済発展と証券市場の相互関係を歴史的に概観する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に基づいて講義を進めるが、新聞・雑誌やインターネットの資料を配付し、証券および証券市場についての具体的・実証的な理解を得られるよう努めたい。

■成績評価方法・基準

試験の結果を中心にしつつも、授業態度も加味する。

■授業の予習・復習

予習として教科書の該当部分を予め読んでおくこと。

復習はノートを基に必ず行ってください。

■教科書

土井 修『証券経済論』（白桃書房）

■参考文献

『ゼミナール日本経済入門』（日本経済新聞出版社）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 序論	証券・証券市場についての概要と授業計画
2 証券の種類と特徴	株式、債券等証券の種類と種別化の意味
3	金融市場と証券市場
4 証券市場の構造と機能	株式の発行市場・流通市場
5	債券の発行市場と流通市場
6	擬制資本の成立とその意義
7 擬制資本	株式価格の変動要因
8	株式価格と景気循環
9	創業者利得
10	金融資本の成立と証券市場
11	イギリス
12 資本主義の発展と証券市場	ドイツ
13	アメリカ
14	日本
15 まとめ	授業の総括と質疑応答

科目名	証券経済論Ⅱ			
09～11年度入学：証券経済論Ⅱ				
担当者	土井 修 <i>Osamu Doi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

アメリカと日本を中心として、経済の発展における証券市場の役割を歴史的・具体的に検討し、同時に、現在の日本や諸外国での国債発行残高の増大など最近の証券市場をめぐる諸問題にも触れる。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に基づいて講義を進めるが、新聞・雑誌やインターネットの資料を配付し、証券および証券市場についての具体的・実際的な理解を得られるよう努めたい。

■成績評価方法・基準

試験結果を中心としつつも、授業態度も加味する。

■授業の予習・復習

予習として教科書の該当部分を予め読んでおくこと。復習はノートを基に必ず行ってください。

■教科書

土井 修『証券経済論』（白桃書房）

■参考文献

『ゼミナール日本経済入門』（日本経済新聞出版社）

■授業内容

授業項目	授業内容	
1 序論	経済発展における証券市場の役割の概要と授業計画	
2	金融資本の確立と証券市場	
3	1929年恐慌と証券市場改革	
4	アメリカ資本主義の発展と証券市場	
5		企業金融形態と証券市場
6		証券市場の変貌 証券所有構造の変化
7	日本資本主義の発展と証券市場	
8		原始的蓄積期の証券市場
9		産業資本段階の証券市場 金融資本段階の証券市場
10	第二次大戦期の証券市場	
11	日本資本主義と証券市場	
12	高度成長期の証券市場 不況期の証券市場	
13	最近の日本における証券市場	
14	最近の欧米諸国における証券市場	
15	グローバリゼーションと国債発行残高の増加 リーマン・ショック後のアメリカ証券市場とヨーロッパの債務危機問題	
まとめ	授業の総括と質疑応答	

科目名	銀行論Ⅰ			
09～11年度入学：銀行論Ⅰ				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

銀行は、決済システムの中核を担うなど、経済上極めて大きな役割を果たしています。そこで、本講義では、銀行の経済的な役割について解説します。後期開講の「銀行論Ⅱ」と比べるならば、経済学としての銀行論と言えるかもしれません。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を用いますが、講義レジュメ（プリント）を基に解説することもあります。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢（40%）、定期試験（60%）。なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。

■授業の予習・復習

予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。
復習：講義ノートを中心に行ってください。

■教科書

全国銀行協会金融調査部編『図説わが国の銀行』財経詳報社

■参考文献

鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
その他、講義の中で随時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針など
2 日本の金融のすがた1	資金循環表と金融のマクロ動向
3 日本の金融のすがた2	直接金融と間接金融
4 銀行の機能1	銀行の様々な機能、金融仲介機能
5 銀行の機能2	信用創造機能
6 銀行の機能3	資金決済機能
7 日本の金融制度と銀行1	大手行を中心に
8 日本の金融制度と銀行2	地域金融機関を中心に
9 金融市場と銀行	インターバンク市場を中心に
10 銀行への規制・監督1	銀行法、健全性規制、BIS 規制
11 銀行への規制・監督2	その他の規制、監督行政
12 中央銀行と金融政策1	日本銀行の目的と機能
13 中央銀行と金融政策2	日本銀行の組織、他国の中央銀行制度
14 銀行をめぐるミクロ経済理論	一例として、銀行の意義を理論的に捉える
15 まとめ	授業内容のまとめ

科目名	銀行論Ⅱ			
09～11年度入学：銀行論Ⅱ				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

銀行は経済全般に大きな影響を及ぼすため、その経営は、一業界の問題として軽視することができません。そこで、本講義では、銀行の業務や経営、動向などについて解説します。前期開講の「銀行論Ⅰ」と比べると、ビジネスとしての銀行論と言えるかもしれません。また、特に千葉県の地域金融機関についても論じます。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を用いますが、講義レジュメ（プリント）を基に解説することもあります。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢（40%）、定期試験（60%）。なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。

■授業の予習・復習

予習：教科書や参考文献を中心に行ってください。
復習：講義ノートを中心に行ってください。

■教科書

全国銀行協会金融調査部編『図説わが国の銀行』財経詳報社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針など
2 銀行の業務 1	預金業務
3 銀行の業務 2	貸出業務
4 銀行と顧客 1	個人の銀行取引
5 銀行と顧客 2	中小企業の銀行取引
6 銀行の業務 3	決済業務
7 銀行の業務 4	証券業務
8 銀行の業務 5	国際業務
9 銀行の業務 6	デリバティブ・証券化関連業務
10 銀行の経営	収益構造、経営指標、グループ経営など
11 千葉県の地域金融機関 1	千葉銀行、千葉興業銀行、京葉銀行
12 千葉県の地域金融機関 2	信用金庫、信用組合、系統金融機関など
13 銀行業界事情 1	新聞記事を用いた時事問題の解説
14 銀行業界事情 2	新聞記事を用いた時事問題の解説
15 まとめ	授業内容のまとめ

■参考文献

鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社
その他、講義の中で随時紹介します。

科目名	国際金融論Ⅰ			
09～11年度入学：国際金融論Ⅰ				
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

国際金融論とは、「国境を超える金融」をめぐる議論です。金融論の国際版であるとともに、国際経済学の金融領域でもあります。国際化が飛躍的に進展した今日、様々な経済分析において、国際金融論の知識や視点が必要不可欠になります。国際金融論は様々な議論から構成されますが、本講義では、外国為替論を取り上げます。国際金融のイメージを鮮明にする第1歩となります。

■授業の進め方（履修条件等）

講義レジュメを使い、外国為替の諸概念を解説します。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。

■成績評価方法・基準

出席などの取り組み姿勢（40%）、定期試験（60%）。なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献を中心に行ってください。
復習：講義ノートを中心に行ってください。

■教科書

教科書は指定しません。プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針など
2 外国為替のしくみと形態 1	外国為替のしくみ・諸形態
3 外国為替のしくみと形態 2	荷為替信用状取引
4 外国為替のしくみと形態 3	輸入実務に見る決済の具体例
5 外国為替市場 1	外国為替市場のすがた
6 外国為替市場 2	世界の主要為替市場－BIS統計を中心に
7 外国為替市場 3	中央銀行の市場介入
8 外国為替相場 1	直物為替相場と先物為替相場
9 外国為替相場 2	直先スプレッドの計算
10 外国為替相場 3	銀行間相場と対顧客相場
11 記事読解 1	外国為替関連記事の読み込み
12 記事読解 2	外国為替関連記事の読み込み
13 為替リスクの回避策 1	各種デリバティブのしくみ、多国籍企業の実例
14 為替リスクの回避策 2	通貨オプション
15 まとめ	授業内容のまとめ

■参考文献

桜井錠治郎『国際金融の基礎知識』中央経済社
経済法令研究会編『外国為替入門』経済法令研究会
その他、講義の中で随時紹介します。

科目名	国際金融論 II		
09～11年度入学：国際金融論 II			
担当者	添田 利光 <i>Toshimitsu Soeda</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	3年以上	

- 授業のねらいと到達目標
原則として「国際金融論 I」の履修者を対象に、国際収支分析と国際通貨制度を取り上げ、解説します。国際金融に関する現実の問題を論理的に考察する力を養います。また、より専門的な国際金融論を勉強するための足がかりを作ります。
- 授業の進め方（履修条件等）
講義レジュメを使います。金融論を学習していることが望ましいですが、前提ではありません。
- 成績評価方法・基準
出席などの取り組み姿勢（40%）、定期試験（60%）。なお、出席を取る際、講義内容の理解を確認する易しいクイズを実施します。
- 授業の予習・復習
予習：参考文献を中心に行ってください。
復習：講義ノートを中心に行ってください。
- 教科書
教科書は使用しません。プリントを配布します。
- 参考文献
桜井錠治郎『国際金融の基礎知識』中央経済社
経済法令研究会編『外国為替入門』経済法令研究会
その他、講義の中で随時紹介します。

科目名	企業金融論 I		
09～11年度入学：企業金融論 I			
担当者	三田村 智 <i>Satoshi Mitamura</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	2年以上	

- 授業のねらいと到達目標
本講義では、企業金融の基礎理論を学ぶ。具体的には、重要なキーワードである「資本コスト」と「現在価値」について解説した上で、企業の投資決定について講義する。資本調達やペイアウト政策などは企業金融論 II（後期）で取り上げる。両方を履修することで、1年間かけて、企業金融について体系的に学ぶことができる。
- 授業の進め方（履修条件等）
教科書を中心に、配布プリントや関連する新聞・雑誌記事を用いて授業を行う。
- 成績評価方法・基準
2回のテストと授業への貢献度により評価する。
- 授業の予習・復習
予習：教科書を前もってよく読み、自ら理解できた部分とそうでない部分を明確すること。
復習：授業で学んだ内容についてよく復習し、理解できなかった部分は必ず質問すること。
- 教科書
砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』
(2004年、日本経済新聞社)

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針など
2 国際収支の概念としくみ 1	国際収支とは何か、各収支項目の内容と関係
3 国際収支の概念としくみ 2	経常収支とIS理論、国際収支発展段階説など
4 国際収支と為替相場の関係	為替相場の貿易収支調整機能、弾力性アプローチ
5 為替相場の決定理論	古典的学説、近代理論
6 国際通貨制度のしくみと評価	国際通貨（制度）、国際通貨発行国の便益と負担
7 国際通貨制度の変遷 1	国際金本位制
8 国際通貨制度の変遷 2	国際金本位制
9 国際通貨制度の変遷 3	ブレトンウッズ体制
10 国際通貨制度の変遷 4	変動相場制
11 ヨーロッパの通貨統合 1	経済統合から通貨統合へ、EMS
12 ヨーロッパの通貨統合 2	単一通貨ユーロの誕生
13 アジア共通通貨	円の国際化、アジア共通通貨の可能性
14 記事読解	国際収支・国際通貨制度関連記事の読み込み
15 まとめ	授業内容のまとめ

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	本科目の概要、講義の進め方、評価の方法について
2 リスクとリターン(1)	期待収益率、ファイナンスにおけるリスクについて
3 " (2)	リスク・プレミアム、リスクとリターンの関係
4 資本コスト(1)	債権者と株主のリスクとリターンについて
5 " (2)	資本構成と総資本コストについて
6 CAPM	資本資産評価モデル (CAPM) について
7 総資本コストの推計	総資本コストの推計について
8 中間試験	これまでの授業に関する確認テスト
9 キャッシュフローの現在価値 (1)	現在価値と将来価値について
10 " (2)	リスクがあるキャッシュフローの現在価値
11 企業価値とキャッシュフロー	企業価値とキャッシュフローについて
12 企業の投資決定(1)	NPV法による投資の意思決定について
13 " (2)	RR法、EVA法による投資の意思決定について
14 リアルオプション(1)	リアルオプションという考え方について
15 " (2)	リアルオプションを考慮した投資の意思決定

- 参考文献
 榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄・太田浩司
 『現代の財務管理 新版』(2011年、有斐閣)
 島義夫『入門コーポレート・ファイナンス』
 (2010年、日本評論社)
 山澤光太郎『ビジネスマンのためのファイナンス入門』
 (2004年、東洋経済新報社)
 その他、適宜授業中に指定する。

科目名	企業金融論Ⅱ			
09～11年度入学：企業金融論Ⅱ				
担当者	三田村 智 Satoshi Mitamura			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義では企業金融論Ⅰ（前期）の続きとして、企業による資本の調達や投資について学ぶ。実際の企業の財務戦略を取り上げたり、ケーススタディを行ったりすることで、企業金融の基礎を分かりやすく講義する。本講義では、特に企業の資本調達について解説する。また、ペイアウト政策やM&Aについても取り上げる。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に、配布プリントや関連する新聞・雑誌記事を用いて授業を行う。

■成績評価方法・基準

2回のテストと授業への貢献度により評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書を前もってよく読み、自ら理解できた部分とそうでない部分を明確すること。
復習：授業で学んだ内容についてよく復習し、理解できなかった部分は必ず質問すること。

■教科書

神原茂樹・菊池誠一・新井富雄・太田浩司
『現代の財務管理 新版』（2011年、有斐閣）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	本科目の概要、講義の進め方、評価の方法
2 企業の資金調達と投資行動	企業の資金調達と投資行動の概要
3 資本構成と企業価値	資本構成と企業価値の関係（MM命題）
4 法人税とデフォルトコスト	トレードオフ理論、最適資本構成について
5 長期資金調達の制度	我が国における企業の長期資金調達チャネル
6 エクイティファイナンス	株式による資金調達について
7 負債ファイナンスと証券化 (1)	負債による資金調達について
8 // (2)	スワップ取引と証券化について
9 中間試験	これまでの授業に関する確認テスト
10 配当政策と自社株買い(1)	MMの配当無関連命題について
11 // (2)	市場の不完全性と配当政策について
12 // (3)	市場の不完全性と自社株買いについて
13 M&Aとその経営・財務上の意味 (1)	M&A、そのメリット・デメリットなど
14 // (2)	株式譲渡、株式交換によるM&Aについて
15 // (3)	TOB、LBO、MBOについて

■参考文献

砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』
(2004年、日本経済新聞社)
島義夫『入門コーポレート・ファイナンス』
(2010年、日本評論社)
山澤光太郎『ビジネスマンのためのファイナンス入門』
(2004年、東洋経済新報社)
その他、適宜授業中に指定する。

科目名	資産運用論			
09～11年度入学：資産運用論				
担当者	佐藤 正明 Masaaki Sato			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

低金利の時代が長く続いている状況下においても、資産運用の方法によって収益を上げることは可能である。そのためには、リスクの考え方、資産運用の理論、金融商品の内容等を理解しておくが必要である。この講義を受講することによって、自らの判断と責任において運用商品を決定できる知識を習得すること目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には、テキストを活用して基礎から応用へと展開していき、適宜、パワーポイント等を利用するとともに、必要に応じて資料を配布する予定。

■成績評価方法・基準

定期試験（70％）・課題作成（10％）・授業参加態度（20％）

■授業の予習・復習

授業の予習としては、テキスト等を授業の前に読んでおくことが望ましく、復習としては授業内容の再確認として講義内容等を中心にテキスト読み返して、知識を自分のものとする。

■教科書

佐藤正明著『資産運用論概説』

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	資産運用論の講義内容
2 投資のためのマーケット指標	投資のための経済・投資情報の活用方法
3 リスクとリターン	リスクとリターンの考え方
4 投資理論	ポートフォリオ理論や行動ファイナンスを理解
5 資産運用の基本	分散投資やドルコスト平均法等の仕組みを理解
6 DCF法	ディスカウント・キャッシュフロー法の仕組みを理解
7 元本確保商品	預貯金等の金融商品および複利運用の仕組みを理解
8 外国為替運用	外貨預金等の金融商品の仕組みを理解
9 債券投資	債券の仕組みを理解
10 株式投資	株式投資を行うためのポイントを理解
11 投資信託	投資信託の仕組みや投資への活用方法を理解
12 デリバティブ運用	オルタナティブ投資としてのスワップやオプション等の仕組みを理解
13 不動産投資	不動産運用およびREIT等の商品を理解
14 資産運用に関する税務	預貯金、債券、株式等の投資運用に関する税務
15 まとめ	修得した知識を活用した資産運用計画のポイント

科目名	保険論			
09～11年度入学：保険論				
担当者	千々松 愛子 Aiko Chijimatsu			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義では、保険とはどのような制度であり、われわれの経済生活においてどのように機能しているのか、経済学的・法的・史的側面等、多面的な視点で概観する。そうした視点を通して、最終的に、われわれの生活に密着している保険制度の基本概念と理論を理解することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特に要求しない。レジュメを配布し、基本的に講義形式で行う。新聞等を取り上げられる最新情報や、耳目を集めた事件の解説も適宜行う。また、視聴覚教材等を利用した時間も設ける予定である。

■成績評価方法・基準

学期末に行われる定期試験によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：日々報道される保険関連のニュースに目を通し、自分なりに理解しておくことが最良の予習である。

復習：ノートを見直し、理解できていなかった点、わからなかった用語等をチェックすること。

■教科書

テキストは使用しない。

科目名	有価証券法			
09～11年度入学：有価証券法Ⅰ				
担当者	野口 明宏 Akihiro Noguchi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

手形・小切手法のなかで、手形・小切手の定義から白地手形の範囲を解説します。手形・小切手が経済社会で果たしている役割とその法規制を学んでください。

■授業の進め方（履修条件等）

要点を黒板に書きながら、授業を進めます。ノートをとって、知識をまとめるようにしましょう。

■成績評価方法・基準

定期試験と出席状況にもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

予習：あらかじめテキストを読んでください。

復習：自分のノートをもとにテキストを読み返してください。

■教科書

近藤光男編「現代商法入門（第8版）」有斐閣

■参考文献

必要がある時に、授業の中で紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義内容、授業の到達目標について説明する。
2 保険制度の役割としくみ	経済的損失に備える制度のしくみを概観する。
3 保険制度の生成と発展	英国を中心に、保険制度生成の背景について説明する
4 近代保険制度の生成とわが国への導入	わが国における近代保険制度導入の経緯。
5 保険とリスクⅠ	われわれを取り巻くリスクとその対処手段を知る。
6 // Ⅱ	保険制度におけるリスク概念について理解する。
7 保険制度の構造	三大原則などの基礎概念について理解する。
8 保険契約とは	保険制度の契約としての側面を知る。
9 契約当事者の権利義務	保険者と保険契約者等の権利義務につき解説する。
10 損害保険契約Ⅰ	損害保険契約の特色と特有のルールを学ぶ。
11 // Ⅱ	契約の成立から損害の填補までの流れを知る。
12 生命保険契約Ⅰ	生命保険契約の特色と特有のルールを学ぶ。
13 // Ⅱ	契約の成立から支払いまでの流れを知る。
14 保険法の解説	保険法重要論点と実務上の問題を解説する。
15 まとめ	全体のまとめとポイント。

■参考文献

近見正彦ほか『新・保険学』（有斐閣アルマ、2006年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	受講上の注意、試験の方法
2 約束手形とは	信用の道具、延払いの手段、手形割引
3 為替手形、小切手とは	送金・取立の道具、支払委託証券、自己宛小切手
4 有価証券としての特性	定義、完全有価証券、設権・無因・呈示証券
5 手形行為とは	振出・裏書・保証、要式性・文言性、客観解釈の原則
6 手形行為の無因性、独立性	原因債務の影響を受けない、手形行為の独立性
7 手形行為の成立	署名、記名捺印、手形の交付、手形理論の対立
8 意思表示の瑕疵	制限能力者、心裡留保、錯誤、詐欺、強迫
9 他人による手形行為	代理方式、機関方式
10 手形の偽造	追認、表見代理の成立、偽造者の手形責任
11 手形の変造	手形行為内容の偽り、変造文言による責任
12 手形の振出	振出人の絶対的責任、手形債務と原因債務の併存
13 基本的手形行為	絶対的・有益的・有害的記載事項
14 白地手形Ⅰ	受取人白地手形、主観・客観・折衷説
15 // Ⅱ	白地の不当補充、補充期間

科目名	日本経済論 I			
09～11年度入学：日本経済論 I				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

マクロ経済の視点から日本の経済復興と高度成長、中成長への移行、バブル経済の発生と崩壊、経済危機と構造改革について論じる。高度成長からバブル経済の崩壊と長期不況に至る時期を中心として、日本経済がこれまでどのような問題に直面し、どのように対処してきた結果今日に至るのかを知ることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

本科目では、上記の内容を中心に、経済の構造変化に直面した日本経済がどのように対応してきたのかという点から考える。テーマごとに論述課題を課し、成績評価に反映させるとともに試験勉強の際の参考に供する。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。

■授業の予習・復習

復習：参考文献や毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。

■教科書

指定しない。毎回プリントを配布する。ただし、以下の参考文献のうち少なくとも1つを見ておくこと。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	講義内容紹介・前期および年間の計画
2 日本経済の現在と課題(1)	今日の日本経済の姿
3 // (2)	世界の中で見た日本経済、直面する問題の整理
4 日本経済の歩み・復興から高成長へ	高度成長を準備した諸条件
5 日本経済の歩み・高度経済成長 (1)	高成長のメカニズム（投資が投資を呼ぶ）
6 // (2)	高成長の帰結（国際収支の天井と構造変化）
7 日本経済の歩み・高成長の終わり (1)	通貨危機と石油危機
8 // (2)	企業の対応と財政政策の出动
9 日本経済の歩み・中成長とバブル (1)	財政危機と失業の深刻化
10 // (2)	対外不均衡と円高、日本経済のストック化
11 ここまでのまとめと復習（講義進度の調整を含む）	
12 バブル経済の形成と崩壊(1)	バブル経済形成のメカニズム
13 // (2)	バブル経済の崩壊と実物経済への打撃
14 // (3)	平成不況と「失われた20年」
15 まとめと試験の準備	講義で触れられなかったこと／講義全体のまとめ

■参考文献

正村公宏・山田節夫「日本経済論」東洋経済新報社。
篠原総一・浅子和美編「入門日本経済（第4版）」有斐閣。
小峰隆夫「最新日本経済入門（第3版）」日本評論社。

科目名	日本経済論 II			
09～11年度入学：日本経済論 II				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

今日の日本経済が直面し、解決を迫られている様々な課題について、産業、企業、雇用問題などを中心に日本的経済システムの変容という観点から分野別に展望する。かつて日本経済の強さの理由として語られていたこのシステムが、構造変動に直面してむしろ改革と成長を阻む壁になりうることを明らかにすることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

テーマごとに論述課題を課し、成績評価に反映させるとともに試験勉強の際の参考に供する。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし著しい出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。

■授業の予習・復習

復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。

■教科書

指定しない。毎回プリントを配布する。ただし、以下の参考文献のうち少なくとも1つを見ておくこと。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	講義内容紹介・後期授業計画について
2 再論：日本経済の歩み(1)	バブル経済と平成不況がもたらしたものの
3 // (2)	日本的経済システムの限界と構造改革政策
4 // (3)	小泉内閣の構造改革政策とその評価
5 日本の産業構造の変化(1)	産業構造と経済成長に伴うその変化
6 // (2)	「リーディング・インダストリー」論について
7 日本企業の行動と構造変化 (1)	日本の企業システム～企業を取り巻く環境変化
8 // (2)	日本の企業システム～コーポレートガバナンス
9 // (3)	構造変化のなかでの企業と政府の課題
10 日本の雇用システム(1)	日本的雇用システムの特徴
11 // (2)	日本的雇用システムの変化
12 // (3)	若年層と女性の就労をめぐる問題
13 財政と構造改革(1)	財政構造改革、公共投資の構造改革
14 // (2)	公的部門の構造改革
15 まとめと試験の準備	講義で触れられなかったこと／講義全体の復習

■参考文献

篠原総一・浅子和美編「入門日本経済（第4版）」有斐閣。
小峰隆夫「最新日本経済入門（第3版）」日本評論社。
上記を中心に次のものも適宜参照。
正村公宏・山田節夫「日本経済論」東洋経済新報社。
小峰隆夫「日本経済の構造変動」岩波書店。

科目名	日本経済地理			
09～11年度入学：日本経済地理				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

日本の首都圏、近畿圏、中京圏など場所が異なると、そこに展開する産業も違った特徴を見せています。どのように違うのか、なぜ違うのか、違うことにどのような意味があるのかについて考察していきます。授業を通して日本各地の地域性を正しく認識できるようになるのが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は教科書を用いて行います。最初は経済地理学的なものの考え方を説明し、その後、日本を首都圏、近畿圏、中京圏などいくつかの地域に分けて、それぞれの地域の産業を中心とした経済地理的な特徴を説明していきます。毎時間、コメントカードを提出してもらいます。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）と平常点（50％、コメントカードの内容による）で評価します。

■授業の予習・復習

教科書を予め読んで授業内容のポイントをつかんでおき、授業後は教科書やノートを見直しておくこと。

■教科書

青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』原書房

科目名	世界経済地理			
09～11年度入学：世界経済地理				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

国際化が進む現在、私たちは様々な視点から世界を理解する必要があります。この授業では、経済地理的な視点すなわち空間的視点から世界を分析します。そこから、各地の空間的相違の実態やその意味を考えてみます。そして、諸君が世界の空間的な相違を理解できるようになることがこの授業の目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は教科書を用いて行います。日本との関係が特に重視される中国とアメリカ合衆国に重点を置きながら、世界各地の特徴を明らかにしていきます。各地で取り上げるテーマは異なりますが、共通項としては民族がキーワードになります。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）と平常点（50％、コメントカードの内容による）で評価します。

■授業の予習・復習

教科書を予め読んで授業内容のポイントをつかんでおき、授業後は必ず教科書やノートを見直しておくこと。

■教科書

青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』原書房

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針、教科書・参考文献の説明
2 経済地理学の目的と方法	経済地理学とは何か、経済地理学の方法論
3 都市と農村	都市化、都市圏の形成
4 風土の地域差	関東と関西の相違
5 首都圏(1)	環境と産業
6 // (2)	一極集中の形成と変容
7 近畿圏	複核構造の都市圏と産業
8 中京圏	多核的産業都市群の形成
9 回廊地帯	交通体系の変容と産業変化
10 日本海岸	風土的特質と環日本海経済圏
11 東北	首都圏との一体化と産業変化
12 北海道	道内産業の特質
13 瀬戸内	域内連関の弱い産業
14 九州	環東シナ海経済圏の形成
15 まとめ	授業内容のまとめ

■参考文献

竹内淳彦編著『日本経済地理読本 第8版』東洋経済新報社
山本健児『経済地理学入門 新版』原書房

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の方針、教科書・参考文献の解説
2 空間的視点とは何か	空間的視点と地域的視点
3 世界地図の利用法	メルカトル地図の特徴と限界
4 人と環境から見た世界	民族問題、環境問題
5 世界の経済と貿易	国際的分業の変化
6 中国の経済改革(1)	経済改革実施の背景
7 // (2)	経済改革の内容
8 // (3)	経済改革実施に伴う諸問題
9 オセアニア諸国	対日関係の強化
10 アメリカ合衆国(1)	多様な地域性と日米関係
11 // (2)	産業的特質と資源環境
12 ラテンアメリカ諸国	北アメリカとの開発の違い
13 アフリカ諸国	遅れる工業化
14 ヨーロッパ諸国	E Uの形成と域内問題
15 まとめ	授業内容のまとめ

■参考文献

高野 孟『最新・世界地図の読み方』講談社
21世紀研究会『民族の世界地図』文春新書

科目名	アメリカ経済論 I		
09～11年度入学：アメリカ経済事情 I			
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	3年以上	

■授業のねらいと到達目標

アメリカ資本主義の発展過程を概観し、現代アメリカ経済の歴史的基礎、プログレッシブ・ムーヴメントとニュー・ディールの歴史的意義について解説し、現代アメリカ資本主義の特質を理解せしめる。

■授業の進め方（履修条件等）

口授と黒板利用による。時にコピーを配布する。ノートを用意して毎回出席すること。

■成績評価方法・基準

定期試験100%
出席が著しく不良な場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。

■授業の予習・復習

毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解して欲しい。

■教科書

使用しない。

科目名	アメリカ経済論 II		
09～11年度入学：アメリカ経済事情 II			
担当者	牧野 俊重 <i>Toshishige Makino</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	3年以上	

■授業のねらいと到達目標

経済にウェイトを置きながら、地域研究・総合研究の視点からアメリカのアメリカ的なもの（本質・特性）について考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

口授と黒板利用による。時にコピーを配布する。ノートを用意して毎回出席すること。

■成績評価方法・基準

定期試験100%
出席が著しく不良な場合は受験を認めないし、点数がボーダーライン近くにあつて出席が極めて良好な場合はそれを考慮する。

■授業の予習・復習

毎回、キーワードや敷衍して学ぶべき関連事項について言及するので、それらを調べながら復習を行い、幅広く知識を広げ理解して欲しい。

■教科書

使用しない。

■参考文献

前期の参考文献の項に同じ。参照されたい。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の方針と進め方、評点等について
2 アメリカの産業革命	アンティ・ベラム期の工業化
3	その要因
4 南北戦争	経済的原因とその結果
5	ビッグ・ビジネスの成立
6 ダイナミックな経済発展	政府の果たした役割
7	資本主義的発展がもたらした欠陥と弊害
8 改革の時代（I）	プログレッシブ・ムーヴメントの性格
9	//
10 第一次世界大戦と1920年代	アメリカの参戦と20年代の経済
11	大恐慌とニュー・ディール
12 改革の時代（II）	//
13	第二次大戦とアメリカ
14 第二次世界大戦と戦後	大戦後の経済発展
15	世界経済とアメリカ

■参考文献

ハロルド・U・フォークナー著 小原敬士訳『アメリカ経済史』至誠堂

高木八尺著『近代アメリカ政治史』岩波書店
アメリカ経済研究会編『ニューディールの経済政策』慶応通信
古米淑郎編『第二次大戦後のアメリカ経済』ミネルヴァ書店
榊原・藤原・馬場共著『アメリカ経済をみる眼』有斐閣新書
林 敏彦著『大恐慌のアメリカ』岩波書店
その他については講義中随時紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の方針等と進め方、評点等について
2	イギリスの重商主義政策・独立・国家の性格
3	//
4	アメリカの自然と人文
5	//
6	西部とフロンティア
7	//
8 アメリカの地域研究・総合研究	アメリカ経済史の特殊性
9	//
10	新大陸の意味するもの
11	//
12	多元的国民の統一の問題と先住民インディアン
13	アメリカのビジネス風土
14	//
15	アメリカ経済の現状

科目名	ヨーロッパ経済論 I			
09～11年度入学：ヨーロッパ経済論 I				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

EU（欧州連合）は現在27カ国が加盟し、人口は5億人近くにも及びます。統一通貨のユーロを導入している国はそのうち17カ国にのぼります。このように密な統合はどのような背景で行われたのでしょうか？ヨーロッパ経済論 I では第2次大戦直後にさかのぼって欧州統合の歴史を勉強します。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では、「moodle」というe-learning（パソコンを使った授業）を使うので、アカウントをお持ちでない方は、ガイダンスの登壇を行う講習を必ず受けて下さい。もし受けられない場合は、他の授業等での講習を受け、必ずアカウントをとっておいて下さい。
レジュメないしフローチャートの内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映されたweb画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、基礎的知識からそれぞれの出来事や事項間の因果関係を勉強していきます。moodleでの選択式小テストや小論文形式の小テストを行います。小論文形式小テストでは、学習した出来事や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうか見て評点します。

■成績評価方法・基準

全体を100%とした場合のめやすとしては、定期試験（70%）、授業内小テスト（30%）というイメージですが、実際には、全体が70%で、定期試験（100%）、小テスト（70%）位になるような運用（どちらか出ていればとれる）をしています。但し定期試験時に電力供給が逼迫すれば、全て授業内小テストで評点するかもしれません。

■授業の予習・復習

「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考にして、文章でちゃんと因果関係等の説明が出来るようご用意下さい。小テストのコメントを参考にして、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい。

科目名	ヨーロッパ経済論 II			
09～11年度入学：ヨーロッパ経済論 II				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

EU（欧州連合）は現在27カ国が加盟し、人口は5億人近くにも及びます。統一通貨のユーロを導入している国はそのうち17カ国にのぼります。このように密な統合はどのような背景で行われたのでしょうか？ヨーロッパ経済論 I では第2次大戦直後にさかのぼって欧州統合の歴史を勉強します。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では、「moodle」というe-learning（パソコンを使った授業）を使うので、アカウントをお持ちでない方は、ガイダンスの登壇を行う講習を必ず受けて下さい。もし受けられない場合は、他の授業等での講習を受け、必ずアカウントをとっておいて下さい。
レジュメないしフローチャートの内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映されたweb画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、基礎的知識からそれぞれの出来事や事項間の因果関係を勉強していきます。moodleでの選択式小テストや小論文形式の小テストを行います。小論文形式小テストでは、学習した出来事や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうか見て評点します。

■成績評価方法・基準

全体を100%とした場合のめやすとしては、定期試験（70%）、授業内小テスト（30%）というイメージですが、実際には、全体が70%で、定期試験（100%）、小テスト（70%）位になるような運用（どちらか出ていればとれる）をしています。

■授業の予習・復習

「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考にして、文章でちゃんと因果関係等の説明が出来るようご用意下さい。小テストのコメントを参考にして、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、評点等についてお話しします
2 moodle登録	今後授業で使うmoodleのアカウントを作りコース登録します。これを受けないと小テストが受けられないので、アカウントをお持ちでない方は必ずご出席下さい。
3 第2次大戦後のヨーロッパ	第2次大戦の諸結果、IMF-GATT体制
4 第2次大戦後のヨーロッパ	小テスト（小論文形式）
5 ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ復興計画、アメリカのドル散布による国内経済の拡大
6 ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ諸国の経済的自立化と課題
7 ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ経済の復興－ドイツとフランスの例
8 ドル体制の展開とヨーロッパ	小テスト（小論文形式）
9 EECの成立	ヨーロッパ共同市場の必然性
10 EECの成立	小テスト（小論文形式）
11 EECの成立後のヨーロッパ	50-60年代ヨーロッパ貿易の拡大・経済成長
12 EECの成立後のヨーロッパ	小テスト（小論文形式）
13 ヨーロッパ経済の停滞（1970年代）	IMF体制の崩壊と世界的インフレ・ヨーロッパ高度成長要因の消失
14 ヨーロッパ経済の停滞（1970年代）	小テスト（小論文形式）
15 まとめ	まとめ

■教科書

教科書は指定しません。参考文献、web上の情報などを参考にして下さい。

■参考文献

田中 素香（著）、長部 重康（著）、久保 広正（著）、岩田 健治（著）現代ヨーロッパ経済 第3版（有斐閣アルマ）→メディアセンター指定図書コーナーに置いてあります。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス、moodle登録	授業の進め方、評点等、ヨーロッパ経済論 I のエッセンス今後授業で使うmoodleのアカウントを作りコース登録します。これを受けないと小テストが受けられないので、アカウントをお持ちでない方は必ずご出席下さい。
2 ヨーロッパ経済の停滞（1980年代）	産業のME化とヨーロッパの地位低下
3 ヨーロッパ経済の停滞（1980年代）	小テスト（小論文形式）
4 1992年欧州市場統合	今までの統合は不十分、3つの障壁
5 1992年欧州市場統合	1992年欧州市場統合期待と現実
6 1992年欧州市場統合	小テスト（小論文形式）
7 欧州通貨統合	欧州通貨統合へのプロセス（戦後ヨーロッパ通貨の歩み）
8 欧州通貨統合	欧州通貨統合の効果
9 欧州通貨統合	ECBの金融政策
10 欧州通貨統合	小テスト（小論文形式）
11 21世紀のヨーロッパ経済	ヨーロッパの産業、労働市場
12 21世紀のヨーロッパ経済	2008年金融危機とヨーロッパ経済
13 21世紀のヨーロッパ経済	ヨーロッパサブプライム危機とヨーロッパ経済
14 21世紀のヨーロッパ経済	小テスト（小論文形式）
15 まとめ	まとめ

■教科書

教科書は指定しません。参考文献、web上の情報などを参考にして下さい。

■参考文献

田中 素香（著）、長部 重康（著）、久保 広正（著）、岩田 健治（著）現代ヨーロッパ経済 第3版（有斐閣アルマ）→メディアセンター指定図書コーナーに置いてあります。

科目名	中東経済論			
09～11年度入学：中東経済論				
担当者	水口 章 Akira Mizuguchi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

本授業では、世界経済に影響を与えるアラブ産油国の経済構造と世界的に注目されるイスラム金融について理解を深めてもらうことに主眼を置きます。そのことにより、21世紀の経済動向を考える力を身につけることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出してください。

■成績評価方法・基準

学習態度（課題レポート、討論参加、出席状況）40%、定期試験60%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。
復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。

■教科書

水口章『中東を理解する』日本評論社、2010年3月

■参考文献

糠谷英輝『拡大するイスラム金融』蒼天社出版、2007年9月
加藤博『イスラム世界の経済史』NTT出版、2005年7月

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	世界経済システムと中東地域	大航海時代後の物流変化について
2	インド洋貿易と中東	ペルシャ湾、紅海の交易ルートについて
3	工業化と中東	中東の資本、労働力、技術力の市場について
4	アジア経済と中東経済	アジアと中東の経済発展の差について
5	グループ討論 「中東の経済停滞」	「中東諸国の発展の遅れ」を考える
6	イスラムとは	イスラムにとつての「財」について
7	イスラム金融のスキーム1	「ムダハラ」「ムシャラカ」などについて
8	イスラム金融のスキーム2	イスラム保険・投資ファンドについて
9	イスラム金融の課題と展望	国際金融との関係について
10	グループ討論 「公平と利益分配」	「イスラム経済の特徴」を考える
11	サウジアラビア	オイルマネーの国際還流について
12	エジプト	肥大化した公共部門について
13	ドバイ	観光・中継貿易中心の国家戦略について
14	トルコ	復活するトルコ経済について
15	グループ討論 「経済発展と格差」	「イスラムと経済発展」を考える

科目名	国際貿易論			
09～11年度入学：国際貿易論				
担当者	阿部 容子 Yoko Abe			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

世界経済の現状をみると自由貿易体制を推進しながらも、セーフガード、米中貿易摩擦などの保護主義的措置がとられ、またWTO交渉の停滞にあらわれているように「貿易問題」として対応することが難しい課題が複雑に絡みあった状況となっています。このような国際関係の様相を正確に把握するための基礎理論、歴史の概略を理解し、現在の仕組みがどのように機能し（またはしていないか）を考えることをねらいとしています。また貿易実務を学ぶことでモノの流れを具体的に感じてほしいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

国際貿易に馴染みのない受講生が意欲的に授業に参加できるよう工夫します。具体的には図解や板書、PowerPointの使用、参考文献の適宜提示、新聞や雑誌記事の配布、有用な統計サイトの共有を予定しています。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、受講態度（50%：出席＋その他）
これらを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

参考文献を事前または講義後に読んでおくことを期待します。
またできるだけ新聞を読むようにしてください。

■教科書

教科書は特に使用せず、プリントを配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	授業内容、進め方について
2	国際貿易と日本経済	日本の貿易、世界貿易の規模、各国主要輸出品目、貿易依存度の国際比較
3	貿易の基礎理論	比較生産費説、水平的産業内貿易
4	貿易実務①	国際貿易と国内取引の違い、貿易実務とは何か、輸出入の仕組みと商品の流れ、保険
5	貿易実務②	決済方法、貨物の運送、国際物流体制、貿易契約
6	貿易実務③	契約書の作成と交渉のシュミレーション
7	多国籍企業と対外直接投資	1980年代以降のダイナミックな国際分業体制、企業内貿易
8	外国為替と貿易収支	為替レートの変動が貿易に与えるリスク、国際収支とはなにか
9	保護貿易の目的と理論	関税や数量規制による経済効果、貿易政策の政治経済
10	WTO交渉と地域貿易協定	WTOと自由貿易交渉、紛争処理システム、拡大するFTA
11	ICT貿易の拡大と課題	インド、中国、アイルランドにおけるアウトソーシング、オフショアリングの現状、国際課税問題
12	開発途上国と貿易	貿易拡大と貧困問題、労働と企業のCSR活動
13	国際貿易と環境問題	WTOにおける環境と貿易をめぐる貿易紛争
14	DVD観賞	貿易関連のビデオ教材を使用
15	まとめ	授業の総括、補足、質疑応答

■参考文献

パトリック・ラヴ、ラルフ・ラティモア著『よくわかる国際貿易－自由化・公正取引・市場開放』明石書店 2010年
マンフレッド・B・スティージャー（著） 櫻井公人、櫻井純理、高島正晴（訳）
『グローバリゼーション』（岩波書店）2010年 1800円

科目名	アジア経済論			
09～11年度入学：アジア経済論				
担当者	中川 雅彦 Masahiko Nakagawa			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済発展論での重要な諸概念を日本や韓国、その他アジア諸国の例によって解説する。

■授業の進め方（履修条件等）

シラバスにしたがって、講義をすすめることを原則とする。

■成績評価方法・基準

定期試験（100%）

- ・資料持込み可の試験とする。
- ・出席はとらないが、授業における有益な質問や意見は試験に加点する。

■授業の予習・復習

授業中に指示する。

■教科書

授業中に指示する。

■参考文献

授業で示す。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	オリエンテーション
2 二重経済論（1）	ルイス理論とその例
3 //（2）	//
4 後発性優位論	ガーシェンクロン理論とその例
5 輸入代替論	輸入代替工業化の諸例とその結果
6 複線型発展論	韓国の工業化の例
7 生産サイクル論	直接投資の役割
8 従属論	従属の事例
9 社会主義工業化	自力更生と改革・開放
10 経済発展と文化変容（1）	福沢諭吉の脱亜入欧
11 //（2）	伝統社会と近代社会
12 経済発展と教育	高学歴化とその問題点
13 まとめ	まとめ
14 討論	討論
15 //	//

科目名	労働法			
09～11年度入学：労働法 I				
担当者	高橋 良裕 Yoshihiro Takahashi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

労働基準法の基本的な枠組みの理解を図りつつ、限られた時間の中で、個々の問題に対しアプローチする思考力を養うことを目指したいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

労働基準法上の制度と解釈論を同法の基本的な枠組みや関係者の利益調整という視点を示しつつ解説を行いたいと思います。また、近年の社会情勢を受けた労働法の改正の動きについても、このような視点からできるだけフォローしたいと思います。

■成績評価方法・基準

定期試験（80%）・出席（20%）。レポートは救済措置とします。骨太な考え方が身に付いているかを重視して評価を行います。

■授業の予習・復習

レジュメの項目から予め流れを掴み、授業のメモ、教科書等を参照して理解を深めてもらいたいと思います。

■教科書

新世社「ライブラリ法学基本講義 労働法」（土田道夫書）

■参考文献

六法、有斐閣「別冊ジュリスト 労働判例百選（第8版）」、弘文堂「労働法（第9版）」（菅野和夫著）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ガイダンス
2 労働法総論	労働法の意義・労働法の理念・指導原理
3 労働契約関係（1）	労働契約・労働協約（1）
4 //（2）	//（2）
5 //（3）	就業規則（1）
6 //（4）	//（2）
7 労働関係の成立に関する法規整（1）	採用の自由
8 //（2）	採用内定、試用
9 非典型的労働関係（1）	期間雇用労働者
10 //（2）	パートタイム労働者
11 //（3）	他企業労働者
12 賃金（1）	賃金の意義と体系（1）
13 //（2）	//（2）
14 //（3）	労基法による賃金保護
15 //（4）	最低賃金制度、賃金債権の履行確保

科目名	経済統計Ⅰ			
09～11年度入学：経済統計Ⅰ				
担当者	稲葉 弘道 <i>Hiromichi Inaba</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済統計についての知識を高め、経済統計データを使つての初歩的なデータ整理の方法を習得し、さらに統計分析することを目的とします。ネットワークを使つての経済データ収集の方法を学びます。代表的な統計調査である法人企業統計と家計調査を解説します。

■授業の進め方（履修条件等）

データ整理や分析にはパソコン（EXCEL）を使います。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・レポート及びその他の課題（20%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習：教科書をよく読んでおくこと。
 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行うしておく。
 特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。

■教科書

唯是康彦編著『Excelで学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社

科目名	経済統計Ⅱ			
09～11年度入学：経済統計Ⅱ				
担当者	稲葉 弘道 <i>Hiromichi Inaba</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済統計Ⅱの知識を前提に、経済統計についての知識を高め、経済統計データを使つての初歩的なデータ整理の方法を習得し、さらに統計分析することを目的とする。ネットワークを使つての経済データ収集の方法を学びます。代表的な統計調査である家計調査と国民経済計算（SNA）を解説します。

■授業の進め方（履修条件等）

データ整理や分析にはパソコン（EXCEL）を使います。この講義に必要なパソコンやネットワークの知識は初歩から説明します。レジュメなどは、ネットワーク上に掲示します。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・レポート及びその他の課題（20%）・出席（30%）

■授業の予習・復習

予習：教科書をよく読んでおくこと。
 復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行うしておく。
 特にパソコンでの課題と実習は常に行うこと。

■教科書

唯是康彦編著『Excelで学ぶ経済統計入門』東洋経済新報社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容の概要
2 インターネットで経済統計を検索	ネットワーク操作
3 表計算操作法	表、グラフ作成
4	絶対参照座標
5	統計と情報
6 統計データとは何か	全数調査と標本調査
7	統計データの種類
8 「法人企業統計」の説明	「貸借対照表」と「損益計算書」
9	「法人企業統計年表」とは
10 「法人企業統計」で	経営分析
11 経営指標を計算する	主要経営指標の計算
12	「家計調査」とは
13 「家計調査年報」を	統計の作表と構成の計算
14 統計的に分析する	5分位階級データの分析
15 まとめ	まとめと質疑応答

■参考文献

向後千春・富永敦子著『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社
 向後千春・富永敦子著『統計学がわかる 回帰分析・因子分析編 アイスクリームで味わう、「関係」の統計学』技術評論社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容の概要
2	平均と標準偏差の計算
3 「家計調査年報」から統計	所得階層の度数分布
4 指標をつくる	標本からの度数分布作成
5	正規分布と食料費
6	新SNAとは
7 「国内総生産」で景気と成長をみる	時系列統計の処理
8	成長と景気
9	所得の定義
10	相関関係
11 回帰分析で「消費関数」を計測する	消費関数
12	回帰分析
13	最適化問題
14 気楽に「線形計画法」を覚えよう	ソルバーによる線形計画法
15 まとめ	まとめと質疑応答

■参考文献

向後千春・富永敦子著『統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社
 向後千春・富永敦子著『統計学がわかる 回帰分析・因子分析編 アイスクリームで味わう、「関係」の統計学』技術評論社

科目名	社会思想史Ⅰ			
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

ヨーロッパ社会思想史の前半期について理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

ルネサンスから、宗教改革を経て、市民革命にいたる、ヨーロッパ社会思想史の歩みの前半期を概観します。種々の思想家の思想像のみならず、その人物像や、時代背景についても、できる限り触れることにしたいと思います。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、授業内小テスト（40%）。

■授業の予習・復習

予習：復習：簡単でいいから励行して下さい。

■教科書

市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。

■参考文献

塩野七生『わが友マキアヴェッリ』中央公論社、橋爪大三郎・大澤真幸『ふしぎなキリスト教』講談社現代新書（いずれも、メディアセンター所定のコーナーに5冊ずつ常備してあります。）

科目名	社会思想史Ⅱ			
09～11年度入学：社会思想史Ⅱ				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

ヨーロッパ社会思想史の後半期について理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

市民革命以後の、ヨーロッパ社会思想史の歩みの後半期を概観します。種々の思想家の思想像のみならず、その人物像や、時代背景についても、できる限り触れることにしたいと思います。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、授業内小テスト（40%）。

■授業の予習・復習

予習・復習：簡単でいいから励行して下さい。

■教科書

市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。

■参考文献

土屋恵一郎『ベンサムという男』青土社、ナガイ・ケイ『喧嘩屋マルクス』富士書房、上野千鶴子『家父長制と資本制』岩波書店、上野千鶴子『主婦論争を読む』勁草書房（すべて、メディアセンター所定のコーナーに5冊ずつ常備してあります。）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等
2 ルネサンスの思想	マキアヴェリ
3 ルネサンスの思想	トマス・モア
4 ルネサンスの思想	エラスムス
5 宗教改革	ルター
6 宗教改革	カルヴァン
7 小テスト	小テスト
8 イギリス市民革命の展開	トマス・ホッブズ
9 イギリス市民革命の展開	ジョン・ロック
10 フランス啓蒙思想	モンテスキュー
11 フランス啓蒙思想	ヴォルテール
12 フランス啓蒙思想	ディドロ
13 フランス啓蒙思想	ルソー
14 小テスト	小テスト
15 まとめ	まとめ

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等
2 アダム・スミスの思想	スミスの倫理学
3	スミスの経済学
4 功利主義	ベンサム
5	J・S・ミル
6 小テスト	小テスト
7	ロバート・オウエン
8 初期社会主義	サン・シモン
9	シャルル・フーリエ
10 マルクス主義	マルクスの生涯と思想
11	マルクスの経済学
12 フェミニズム	フェミニズムの諸理論
13	主婦論争について
14 小テスト	小テスト
15 まとめ	まとめ

科目名	金融事情 I			
09～11年度入学：金融事情 I				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

東京証券取引所と証券業協会が運営する「株式学習ゲーム」(<http://www.ssg.ne.jp/>) (自宅PC、スマホでも可) によって、疑似株式運用ゲームを行いながら、経済環境と株式市場の動きの関連を知り、同時に企業を見る目を養いましょう。後期の金融事情Ⅱを履修する方は、極力前期の金融事情Ⅰを履修しておいて下さい。

■授業の進め方 (履修条件等)

毎回、前半は講義、後半はPCを使って第1部・第2部・マザーズの疑似株式取引を行い、売買した企業の内容や売買の狙いをワークシートに書き込んでいきます。この作業に時間がかかります。実際の終値を基準に運用成績のランキングが記録されて行きます。途中のフォローアップでは、株式取引ボードゲームも行います。最後に、こつこつ作成していったワークシートを材料にして、レポートを作成して頂きます。

■成績評価方法・基準

レポート作成ないし授業中のプレゼンテーション (70%) と株式学習ゲーム実行状況 (30%) で評価します。運用成績自体は評価には反映しません。定期試験は実施しません。

■授業の予習・復習

経済全体や市場の状況に関する報道を毎日チェックして下さい。ゲームによる取引は授業時間以外も出来るので、状況を見つとこでもすばやく売買を行っていきましょう。レポート作成は課外での作業となります。

■教科書

東京証券取引所、証券業協会編『株式学習ゲームハンドブック』ほか、株式学習ゲームに必要な資料が配付されます。

■参考文献

大学からは、日経テレコンが使えます。その他、日経新聞のサイト、yahoo financeなど、web上の資料をご紹介します。

科目名	金融事情 II			
09～11年度入学：金融事情 II				
担当者	飯野 由美子 Yumiko lino			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

東京証券取引所と証券業協会が運営する「株式学習ゲーム」(<http://www.ssg.ne.jp/>) (自宅PC、スマホでも可) によって、疑似株式運用ゲームを行いながら、経済環境と株式市場の動きの関連を知り、同時に企業を見る目を養いましょう。

■授業の進め方 (履修条件等)

毎回、前半は講義、後半はPCを使って第1部・第2部・マザーズの疑似株式取引を行い、売買した企業の内容や売買の狙いをワークシートに書き込んでいきます。この作業に時間がかかります。実際の終値を基準に運用成績のランキングが記録されて行きます。途中のフォローアップでは、株式取引ボードゲームも行います。最後に、こつこつ作成していったワークシートを材料にして、レポートを作成して頂きます。

■成績評価方法・基準

レポート作成ないし授業中のプレゼンテーション (70%) と株式学習ゲーム実行状況 (30%) で評価します。運用成績自体は評価には反映しません。定期試験は実施しません。

■授業の予習・復習

経済全体や市場の状況に関する報道を毎日チェックして下さい。ゲームによる取引は授業時間以外も出来るので、状況を見つとこでもすばやく売買を行っていきましょう。レポート作成は課外での作業となります。

■教科書

東京証券取引所、証券業協会編『株式学習ゲームハンドブック』ほか、株式学習ゲームに必要な資料が配付されます。

■参考文献

大学からは、日経テレコンが使えます。その他、日経新聞のサイト、yahoo financeなど、web上の資料をご紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業ガイダンス、インターネットを使えない方へのガイダンス
2 「株式学習ゲーム」アカウントの設定と取引のやり方、ワークシート記入の説明	東京証券取引所の「株式学習ゲーム」担当の方が説明にいらして下さい。それぞれのアカウントを設定し、これから取引を遂行するに必要な情報を得ますので、履修する方は必ずご出席下さい。
3 金融と株式市場講義 + 株式学習ゲーム	前半は金融とは何か、株式市場とは何かについて講義、後半は株式学習ゲームを行います。
4 株価変動要因の説明 + 株式学習ゲーム	前半は株価決定要因について講義、後半は株式学習ゲームを行います。
5 経済状況と株価 (実例) + 株式学習ゲーム	株式を売買する際、どんな業種を買ったらいいか迷うことと思います。前回やった株価変動要因の応用として、過去に為替相場が変動した際株価がどう動いたか、金利がどう相場に影響を与えたか見ていきましょう。
6 企業研究 + 株式学習ゲーム	取引対象とする企業はどんな視点で選んだらいいかの、企業の特徴を知ったり評価する際のポイントをご紹介します。
7 企業研究とニュースの検索 + 株式学習ゲーム	前回、一般的な企業分析のポイントを学びました。今回は、具体的な企業研究のツールとして日経テレコンをつかってみましょう。
8 フォローアップ	フォローアップとして、東京証券取引所の方による講義、そしてボードゲームを使って、グループで株式取引ゲームを行います。
9 戦後の日本の金融を振り返って (1) + 株式学習ゲーム	高度成長期の日本の金融
10 (2) // //	1980年代日本の金融革命
11 (3) // //	1980年代後半日本のバブル経済
12 業界研究	上場企業の方にお話を伺いましょう (詳細未定)
13 それぞれの取引の報告に向けて	これまで毎週行ってきた株式取引を総括する方向に向けて、整理のしかたを勉強しましょう。
14 プレゼンテーション	「株式学習ゲーム」に参加した学生さん数名によるプレゼンテーションを行います。プレゼンを行った方はレポートを提出する必要があります。プレゼン希望者を募り、多かつたら抽選、少かつたら指名します。
15 レポート提出と上半期の経済状況・株式市場の回顧	ご自身が行った取引を整理し、取引の狙い、その結果、そうなった理由や背景、売買した株式の発行会社分析を内容とする5枚 (MS-Wordで) 程度のレポートを提出して下さい。その後、上半期の経済、株式市場の状況を振り返って、流れを整理していきましょう。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業ガイダンス、インターネットを使えない方へのガイダンス
2 「株式学習ゲーム」アカウントの設定と取引のやり方、ワークシート記入の説明	東京証券取引所の「株式学習ゲーム」担当の方が説明にいらして下さい。それぞれのアカウントを設定し、これから取引を遂行するに必要な情報を得ますので、前期の金融事情Ⅰを履修していない方は必ずご出席下さい。
3 金融と株式市場DVDによる勉強 + 株式学習ゲーム	前半は、前期の金融事情Ⅰで見なかったDVDを見て、後半は株式学習ゲームを行います。
4 株価変動要因の説明 + 株式学習ゲーム	前半は株価決定要因について前期の復習として講義、後半は株式学習ゲームを行います。
5 経済状況と株価 (実例) + 株式学習ゲーム	株式を売買する際、どんな業種を買ったらいいか迷うことと思います。前回やった株価変動要因の応用として、過去に為替相場が変動した際株価がどう動いたか、金利がどう相場に影響を与えたか見ていきましょう。
6 企業研究 + 株式学習ゲーム	取引対象とする企業はどんな視点で選んだらいいかの、企業の特徴を知ったり評価する際のポイントをご紹介します。
7 企業研究とニュースの検索 + 株式学習ゲーム	前回、一般的な企業分析のポイントを学びました。今回は、具体的な企業研究のツールとして日経テレコンをつかってみましょう。
8 フォローアップ	フォローアップとして、東京証券取引所の方による講義、そしてボードゲームを使って、グループで株式取引ゲームを行います。
9 21世紀の金融 (1) + 株式学習ゲーム	デリバティブズ、金融のIT化
10 // (2) //	2008年世界金融危機とマーケット
11 // (3) //	ヨーロッパのソブリン危機とマーケット
12 業界研究	上場企業の方にお話を伺いましょう (詳細未定)
13 それぞれの取引の報告に向けて	これまで毎週行ってきた株式取引を総括する方向に向けて、整理のしかたを勉強しましょう。
14 プレゼンテーション	「株式学習ゲーム」に参加した学生さん数名によるプレゼンテーションを行います。プレゼンを行った方はレポートを提出する必要があります。プレゼン希望者を募り、多かつたら抽選、少かつたら指名します。
15 レポート提出と上半期の経済状況・株式市場の回顧	ご自身が行った取引を整理し、取引の狙い、その結果、そうなった理由や背景、売買した株式の発行会社分析を内容とする5枚 (MS-Wordで) 程度のレポートを提出して下さい。その後、上半期の経済、株式市場の状況を振り返って、流れを整理していきましょう。

科目名	金融経済の基礎知識			
09～11年度入学：金融経済の基礎知識				
担当者	伊崎 岳夫 Takeo Izaki			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

くらしに身近な経済や金融の基本的な仕組みを理解し、ライフプランや資産運用の必要性、各種金融商品の特性などを理解してもらおうことを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

配布プリントを中心に講義形式で行う。関連する時々のニュース・新聞記事等も紹介しながら解説し、身近に起きている経済問題に馴染んで頂きます。

■成績評価方法・基準

定期試験（55%）、毎回行う課題（30%）、出席（15%）などから評価する。

■授業の予習・復習

予習：経済・金融に関する新聞のニュースに目を通しておく。
復習：前回の授業のプリント、下記参考文献（前回の授業範囲）を読む。

■教科書

毎回プリントを配布

■参考文献

『ファイナンス基礎（第4版）』：「金融知力普及協会」発行（講義では基本的に使用しません）

科目名	経済学方法論 I			
09～11年度入学：経済学方法論 I				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

マルクス経済学、「近代経済学」のいずれにも片寄らないで、経済学の方法を広く学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

この I では、経済学的方法的課題を留意しつつ、経済学の成立・発展過程を概観します。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、授業内小テスト（40%）。

■授業の予習・復習

予習・復習：簡単でいいから励行して下さい。

■教科書

市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。

■参考文献

宇野弘蔵『経済学方法論』東京大学出版会（講義だけでは飽き足りない勉強家の学生向け図書。現在入手不可能となっていますので、メディアセンター所蔵のものを利用して下さい。）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ガイダンス、金融知力の必要性
2 経済知識① くらしと経済	くらしに身近な経済問題
3 // ② 金融の役割	金融の役割、モノの価格
4 // ③ 国の財政	税、国の財政
5 // ④ 国際経済	国際経済、為替
6 // ⑤ 景気	経済のモノサシ、景気
7 ライフプランニング	人生の資金計画
8 年金	年金制度、年金問題
9 金融商品① 金融商品の特性	投資と貯蓄、金融商品の特性
10 // ② 預貯金・債券	預貯金、債券の基礎知識
11 // ③ 株式①	株式の基礎知識
12 // ④ 株式②	投資としての株式
13 // ⑤ 投資信託	資産運用とリスク管理、投資信託の基礎知識
14 金融消費者の知恵	悪質商法、ローン・クレジット
15 まとめ	まとめ

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等
2	重商主義の経済学説
3	重農主義の経済学説
4 経済理論の成立過程	自由主義の経済学説①アダム・スミス
5	// ②デーヴィッド・リカード
6	// ③J・S・ミル
7 小テスト	小テスト
8	マルクス経済学の確立
9 マルクス経済学	マルクス経済学の発展
10	宇野理論の考え方
11	限界革命の経済学
12 「近代経済学」の潮流	新古典派経済学の展開
13	ケインズの経済学
14 小テスト	小テスト
15 まとめ	まとめ

科目名	経済学方法論Ⅱ			
09～11年度入学：経済学方法論Ⅱ				
担当者	折原 裕 Yutaka Orihara			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

マルクス経済学、「近代経済学」のいずれにも片寄らないで、経済学の方法を広く学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

このⅡでは、前半でマルクス経済学の方法、後半で「近代経済学」の方法を取り扱います。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、授業内小テスト（40%）。

■授業の予習・復習

予習・復習：簡単でいいから励行して下さい。

■教科書

市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。

■参考文献

宇野弘蔵「経済学方法論」東京大学出版会（講義だけでは飽き足りない勉強家の学生向け図書。現在入手不可能となつていますので、メディアセンター所蔵のものを利用して下さい。）

■授業内容

授業項目	授業内容	
1 講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等	
2	経済学の対象	
3	経済学原理論と純粋資本主義	
4	マルクス経済学の方法	
5		原理論と段階論の分化
6		原理論の方法
7		段階論の方法
8	現状分析の方法	
8 小テスト	小テスト	
9	ロビンスとハチソン	
10	ケインズ革命と新古典派総合	
11 「近代経済学」の方法	マハループとフリードマン	
12	ポスト・ケインジアンの方法	
13	新オーストリア学派の方法	
14 小テスト	小テスト	
15 まとめ	まとめ	

科目名	計量経済学Ⅰ			
09～11年度入学：計量経済学Ⅰ				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済・経営学における計量経済分析の位置づけ（どのようなことをする分析でどのように利用することができるツールなのか）および最小2乗法を中心とした回帰分析の基礎的概念と方法を説明する。統計学や数学に関する詳細な議論よりもむしろ、計量経済分析の方法を使って何が出来るのか、を示すことを主眼としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

科目の性質上数字や数式が使用される機会が多いが、抽象的な説明だけでなく具体的なデータの検討を通じて理解を促すよう努める。金融・証券（情報）コースだけでなく経済・経営の様々なコースからの受講を期待する。意欲のある2年生の受講を歓迎する。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。なお試験の際は指示する物件の参照を許可する。

■授業の予習・復習

復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさなさいこと。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに（1）	講義内容紹介・計量経済学とは
2 "（2）	経済学としての計量分析・実証分析の意味
3 最小2乗法（1）	データの整理…データの種類と基本統計量
4 "（2）	正規方程式の計算
5 "（3）	回帰直線の推定と意味
6 "（4）	回帰直線のあてはまりの尺度
7 "（5）	この章のまとめと練習
8 単純回帰分析（1）	単純回帰モデルの考え方
9 "（2）	推定量の期待値と分散
10 "（3）	仮説検定…仮説検定の考え方
11 "（4）	仮説検定…t検定とその利用
12 "（5）	仮説検定…変数選択の方法としてのt検定
13 "（6）	回帰分析と予測
14 "（7）	多重回帰分析への展開
15 まとめと試験の準備	ここまでのまとめと練習

■教科書

山本拓「計量経済学」新世社。

■参考文献

縄田和満「Excel統計解析ボックスによるデータ解析」朝倉書店など。必要に応じて講義時に紹介する。

科目名	計量経済学Ⅱ			
09～11年度入学：計量経済学Ⅱ				
担当者	馬場 正弘 Masahiro Baba			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済・経営学における計量経済分析の位置づけ（どのようなことをする分析でどのように利用することができるツールなのか）及びその活用法を中心に、計量経済分析の実際の方法を説明する。前期科目の計量経済学Ⅰの基礎的な理解を念頭に置つつも、それとは独立して実際の統計データを回帰分析する手法を学んでもらう。

■授業の進め方（履修条件等）

特に本科目では実証分析の方法を中心に説明する。例えば、論文執筆に際して実証分析を行いたいので理論そのものよりも分析の手順を知りたい、というケースなども想定している。金融・証券（情報）コースだけでなく経済・経営の様々なコースからの受講を期待する。意欲のある2年生の受講を歓迎する。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、レポート及びその他の課題（20%）、出席（10%）を考慮して評価する。ただし出席不良・課題提出不良者には定期試験の状況にかかわらず合格点は出さない。なお試験の際は指示する物件の参照を許可する。

■授業の予習・復習

復習：テキストや毎回配布するプリントなどを用いた復習を欠かさないこと。

科目名	環境経済学Ⅰ			
09～11年度入学：環境経済学Ⅰ				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	2年	単位	2単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

環境問題と経済の関係を知り、さらに環境問題を経済学でとらえるとはどういうことか、経済学の分析ツールによって解決できる環境問題とはなにか、を学びます。

最初に、環境をどのようにとらえるのかを、理論的に理解します。公共財、外部性、公共選択の理論などを学びます。その理解ののち、日本の政府が取り組んでいる環境問題より重要なものを取り上げて学びます。循環型社会とは何か、環境リサイクル法、を理論的な立場から評価します。

京都議定書のような国際的取組の制度を知るだけでなく、および理論的な理解をしていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

経済理論ⅡB、ミクロ経済学、公共経済学を履修していることが望ましい。制度の学習では、環境省のHPを用います。プリントが適宜配布されます。理論的な学習においては、ノートをしっかり取るが必要になります。

■成績評価方法・基準

小テストをトピックスごとに行います。本テストによって50%を評価します。

■授業の予習・復習

予習は不要ですが、レポートによって復習とすることがあります。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに（1）	講義内容紹介・経済、経営における計量経済分析の意義
2	〃（2）	計量経済学Ⅰの復習、最小2乗法の考え方
3	多重回帰分析（1）	係数の推定と仮説検定
4	〃（2）	自由度修正済み決定係数
5	〃（3）	多重回帰分析における係数の解釈
6	〃（4）	見せかけの相関と多重共線性
7	〃（5）	この章のまとめと練習
8	モデルの関数型（1）	標準型モデルへの変数変換
9	〃（2）	対数線形モデルの考え方と利用法
10	〃（3）	ダミー変数とトレンド変数
11	〃（4）	この章のまとめと練習
12	誤差項の系列相関（1）	時系列データと誤差項の性質
13	〃（2）	ダービン・ワトソン検定の考え方
14	〃（3）	コ克蘭・オーカット法による推定
15	まとめと試験の準備	ここまでのまとめと練習

■教科書

山本拓「計量経済学」新世社。

■参考文献

縄田和満「Excel統計解析ボックスによるデータ解析」朝倉書店など。必要に応じて講義時に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	環境と経済活動、環境経済学とは
2	環境と経済活動	大量消費社会からの脱却
3	経済学による環境の考え方	公共財と市場の資源配分の失敗、ピグー税
4	公共財としての環境問題	公共財の生産量の決定、公共選択の理論（社会状態の決定の理論）
5	環境問題の現状と対策	環境省のHPより、循環型社会、家電リサイクル法
6	環境問題の現実と対策2	ピグー税と産業廃棄物税
7	メカニズムデザイン	公共財の生産量決定にとって良いメカニズムを探る
8	メカニズムデザイン2	適切なメカニズムデザインを知る。啓蒙運動と3R
9	ここまでのまとめ	公共財の理論的理解の前半と、それによる現実の評価を小テストします
10	外部性	外部性とは何か、たばこを吸う人がいるときを例にとって解説します
11	外部性2	理論モデルを展開します
12	大学の環境問題について話し合う	理論モデルの理解を踏まえて、大学の喫煙問題について話し合いをします。グループディスカッションをし、レポートをまとめます。
13	大学の環境問題について回答	前回の討論を経て、結論を各グループの代表に報告してもらい、比較します。
14	外部性のまとめ	外部性があるとき、社会選択で自分を偽る戦略が有効になることを学びます。
15	まとめ	前期に学んだことのまとめ

■教科書

適宜プリント配布をします。

■参考文献

栗山浩一・馬奈木俊介「環境経済学をつかむ」有斐閣

科目名	環境経済学Ⅱ			
09～11年度入学：環境経済学Ⅱ				
担当者	和田 良子 Ryoko Wada			
対象学年	12年度入学	2年	単位	2単位
	09～11年度入学	2年		

■授業のねらいと到達目標

環境評価の目的とツールについて理論的・実践的に学びます。谷津干潟でのフィールドワークを行い、環境評価の問題点や、鳥獣保護の観点を実践的に勉強します。

■授業の進め方（履修条件等）

PCのエクセルにあるアドイン機能を用いて、環境評価のプログラムを使い、さまざまな手法を学びます。その後、実際に谷津干潟に行き、授業で作ったアンケートを基に、環境を評価します。

■成績評価方法・基準

出席が重要になってきます。特に、谷津干潟での自然観察、環境評価、プロジェクトの参加が重要な評価になります。レポート提出により成績が決まります。

■授業の予習・復習

予習というよりも、実践において、定時的な観測が必要になったりします。

■教科書

栗山浩一・馬奈木俊介「環境経済学をつかむ」有斐閣

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	環境評価とは何か、なぜ必要なのか。
2 環境の価値	環境評価するべき環境の価値を整理します
3 自然公園の維持管理と経済学	自然公園の定義、過剰利用と管理
4 環境価値と環境評価手法1	自然環境の価値と分類、その評価法の概要。
5 環境評価法1	トラベルコスト法
6 環境評価法2	トラベルコスト法の演習（実証分析）
7 環境評価法3	CVM法の概要
8 環境評価法4	CVM法のさまざまな質問形式を作る
9 環境評価法5	CVM法で得たデータを解析する（最尤法）
10 コンジョイント分析	コンジョイント分析の概要と適用例
11 回鳥獣保護、谷津干潟とラムサール条約	環境省が行っている鳥獣保護の実態を調べる。習志野市の谷津干潟がラムサール条約で保護地となっていることを学ぶ。
12 谷津干潟での自然観察	谷津干潟に授業で行き、（実際にはどこかの日中を利用、補講を充てる）レンジャーの人から学習する。
13 谷津干潟の環境評価アンケート	一般の人を対象に行う自然評価の手法を具体的に谷津干潟を用いて行う。アンケートの結果をみて、全員で分析する。
14 谷津干潟の評価、自然の保護についてのメカニズムデザインを考える	ラムサール条約などの国際的な取り決めと、環境省の行っている環境保全について、さまざまな考え方を比較検討する。クラスでディスカッションを行う。
15 環境評価のまとめ	学んできたことをまとめます

科目名	環境問題Ⅰ			
09～11年度入学：環境問題Ⅰ				
担当者	金子 林太郎 Rintarou Kaneko			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この講義では、環境問題・環境政策を経済学を用いて分析するための基礎を学び、さまざまな環境問題に対してどのような政策手段が有効と考えられるかを学ぶ。その際、各種環境問題と政策手段の特徴に注意を向ける。前期は総論、後期は各論である。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回（テーマごとに）レジュメや資料を配布し、板書を交えて解説しながら進める。毎回出席を取る。1、2回小レポートを課す。受講に当たって、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。2年生も受講を認める。

■成績評価方法・基準

期末試験の点数を基本に、出席カードのコメントの内容、小レポートの内容を踏まえて評価する。

■授業の予習・復習

配布したプリントを整理して保管すること。新聞等で環境問題・政策関連のニュースをフォローすること。

■教科書

特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

■参考文献

柴田弘文『環境経済学』東洋経済新報社
藤倉良・藤倉まなみ『文系のための環境科学入門』有斐閣

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の概要、進め方、評価方法の説明
2 環境とは	環境の概念
3 環境問題とは1	なぜ環境問題が起こるのか
4 環境問題とは2	なぜ環境問題が起こるのか（続き）
5 環境問題の種類と特徴1	環境問題と環境政策の移り変わり
6 環境問題の種類と特徴2	環境問題と環境政策の移り変わり（続き）
7 さまざまな環境問題1	水質汚濁
8 さまざまな環境問題2	土壌汚染
9 さまざまな環境問題3	大気汚染
10 さまざまな環境問題4	大気汚染（続き）
11 さまざまな環境問題5	酸性雨
12 さまざまな環境問題6	オゾン層破壊
13 さまざまな環境問題7	地球温暖化
14 さまざまな環境問題8	地球温暖化（続き）
15 まとめ	この講義のまとめ、質疑応答

科目名	環境問題Ⅱ			
09～11年度入学：環境問題Ⅱ				
担当者	金子 林太郎 Rintarou Kaneko			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この講義では、環境問題・環境政策を経済学を用いて分析するための基礎を学び、さまざまな環境問題に対してどのような政策手段が有効と考えられるかを学ぶ。その際、各種環境問題と政策手段の特徴に注意を向ける。前期は総論、後期は各論である。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回（テーマごとに）レジュメや資料を配布し、板書を交えて解説しながら進める。毎回出席を取る。1、2回小レポートを課す。受講に当たって、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。2年生も受講を認める。

■成績評価方法・基準

期末試験の点数を基本に、出席カードのコメントの内容、小レポートの内容を踏まえて評価する。

■授業の予習・復習

配布したプリントを整理して保管すること。新聞等で環境問題・政策関連のニュースをフォローすること。

■教科書

特定のテキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

■参考文献

田中勝「新・廃棄物学入門」中央法規
金子林太郎「産業廃棄物税の制度設計」白桃書房
『環境白書』

科目名	医療の経済学			
09～11年度入学：医療の経済学				
担当者	仁平 耕一 Kouichi Nidaira			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

財政赤字の大きな要因である医療費の増大が今日大きな課題となっている。本講義では、医療保険制度、医療費の増大のメカニズム、診療報酬制度、薬価基準など、国際比較を通して日本の医療保険制度の実態を明らかにしたのち、高齢社会において適切な医療サービスが受けられるような医療保険制度の在り方について検討する。

■授業の進め方（履修条件等）

指定の教科書に加えて適宜プリントを配布するが、授業は板書を中心に進めていくので、しっかりノートをとること。質問は授業中いつでも受け付けるが、質問表を毎時間配布するので、質問、意見を記入すれば次の授業の初めに答える。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・レポート及びその他の課題（30％）・授業内小テスト（20％）

■授業の予習・復習

予習：下記のテキスト、参考文献は予習のために最適な文献であるので、是非利用してもらいたい。

復習：復習としては授業のノートを整理することが最も重要である。

■教科書

『やさしい医療経済学（第2版）』勁草書房、大内講一著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	この講義の概要、進め方、評価方法の説明
2	廃棄物問題と政策1	廃棄物について
3	廃棄物問題と政策2	廃棄物の分類と責任
4	一般廃棄物問題と政策1	一般廃棄物の現状
5	一般廃棄物問題と政策2	一般廃棄物問題と政策
6	一般廃棄物問題と政策3	一般廃棄物問題と政策（続き）
7	一般廃棄物問題と政策4	一般廃棄物政策の課題
8	産業廃棄物問題と政策1	産業廃棄物の現状
9	産業廃棄物問題と政策2	産業廃棄物の処理状況
10	産業廃棄物問題と政策3	産業廃棄物問題の現状
11	産業廃棄物問題と政策4	産業廃棄物税の現状と課題
12	産業廃棄物問題と政策5	産業廃棄物税の現状と課題（続き）
13	東日本大震災と廃棄物問題1	震災がれきの問題
14	東日本大震災と廃棄物問題2	放射能汚染ごみの問題
15	まとめ	この講義のまとめ、質疑応答

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	日本の医療の現状	高齢社会における社会保障費の増大
2	社会保障費の増大と医療	国民医療費の負担と増加要因
3	日本の医療保険制度(1)	医療保険制度の沿革と特徴
4	〃 (2)	医療制度改革の方向
5	医療サービスの供給分析(1)	医療サービスの生産要素
6	〃 (2)	医療提供体制
7	医療サービスの需要分析(1)	医療保険と医療サービス消費
8	〃 (2)	医療保険制度の国際比較（英国とスエーデンの医療制度）
9	〃 (3)	医療保険制度の国際比較（米国の医療保険制度：メディケアとメディケイド）
10	医療サービスの料金体系(1)	診療報酬制度とドクターズフィー
11	〃 (2)	薬価基準と薬価差益
12	〃 (3)	診療報酬制度の国際比較
13	介護保険	介護保険制度と導入の経緯
14	医療保障制度の課題	高齢社会における医療制度の在り方
15	まとめ	日本の医療制度の復習と確認テスト

■参考文献

『日経文庫ベーシック 医療問題』日本経済新聞社、池上直己著

科目名	食料経済論			
09～11年度入学：食料経済論				
担当者	稲葉 弘道 <i>Hiromichi Inaba</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

わが国の食料需給は米などの過剰と大豆等の不足が共存している。一方、世界の食料需給については、穀物生産は量的には十分といえるが、先進国の過剰と開発途上国の不足が共存している。これは食料生産を増やせばよいというだけではなく、経済問題であることの証である。以上の困難な食料農業問題を考える能力をつけることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

食料に関わる経済的な問題を基礎から説明する。まず、わが国および世界の食料農業問題の全体像を配布資料により簡潔に説明した後、教科書を使って個別の事項を詳しく学ぶ。説明にはパワーポイントを利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・レポートおよび出席（40%）

■授業の予習・復習

予習：教科書と配布資料により予習をしておくこと。
復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。

■教科書

高橋正郎著『食料経済』理工学社

科目名	農業政策			
09～11年度入学：農業政策				
担当者	稲葉 弘道 <i>Hiromichi Inaba</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

わが国の食料需給率は50%を割り先進国では最低である。しかし、米のように自給率の高い農産物もあり、自給率が高いものと低いものとの二重構造が存在する。この二重構造には農業政策の関与も大きい。農業政策はいかにあるべきかを考える。

■授業の進め方（履修条件等）

食料経済論（前期）の内容を理解しているものとして授業を進めるので、食料経済学を受講していることが望ましい。食料需給と農業政策の関わりを説明する。説明にはパワーポイントを利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・レポートおよび出席（40%）

■授業の予習・復習

予習：教科書と配布資料により予習をしておくこと。
復習：前回の講義を理解しているものとして講義を進めるので、復習を必ず行っておく。

■教科書

高橋正郎編著『食料経済』理工学社

■参考文献

農林水産省『農業白書』農林統計協会

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容の概要
2	食生活の変化・主要農産物の生産動向
3 わが国の食料需給の現状	農産物の自給率と農業政策
4	農産物輸入と食料の安全保障
5	食料需要の変化と食料の南北問題
6 世界の食料需給の現状	世界の食料の需給動向
7	世界の農業政策
8 わが国の食料・農業問題と食の安全	わが国の食料供給の問題点
9	食料の安定供給と展望
10	わが国の食生活小史
11	第2次大戦後の食生活の変化
12 食生活の変遷と特徴	食生活変化の背景
13	“食”の国際比較
14	“食”の地域性。地産地消とスローフード
15 まとめ	まとめと質疑応答

■参考文献

農林水産省『農業白書』農林統計協会

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容の概要
2	食料の需給システム
3 成熟期にきた食の需給	成熟期にきたわが国の食料需要
4	高齢化社会の食スタイル
5	食の外部化
6 すすむ食の外部化	飲食業と外食産業
7	外食産業の食材調達
8	フードシステム観点からの政策課題
9 日本の食料政策と食品政策	戦前から続く米政策とその変貌
10	ガット、WTO体制化の農産物貿易交渉
11	なぜ安全な食料が供給されないか
12 食料の安全性と環境問題	安全な食料の安定的供給に向けた対応策
13	環境問題への食品企業の対応
14	21世紀の食生活の展望
15 まとめ	まとめと質疑応答

科目名	経済数学 I			
09～11年度入学：経済数学 I				
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

経済学やオペレーションズ・リサーチなどの領域で利用される線形数学の基礎を確立し、線形計画法について解説します。

■授業の進め方（履修条件等）

コンピュータを使って、行列式、行列の積、逆行列等の基本概念を正確に修得し、それと同時にコンピュータの素晴らしさを体験してもらいます。

受講者は「数学 I, II」または「統計学 I, II」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は20名以内とします。

■成績評価方法・基準

授業回数の 2/3 以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績80%、出席状況と授業態度20%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

プリントを用意します。

科目名	経済数学 II			
09～11年度入学：経済数学 II				
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

ゲームの理論の入門部分を解説します。

■授業の進め方（履修条件等）

コンピュータシミュレーションで実験確認をしてもらいます。受講者は「数学 I, II」または「統計学 I, II」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は20名以内とします。

■成績評価方法・基準

授業回数の 2/3 以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績80%、出席状況と授業態度20%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

プリントを用意します。

■参考文献

坂口実著『ゲームの理論』森北出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義準備	コンピュータの取扱い方
2	行列の積、行列式
3 線形代数概論	逆行列、クラメル公式
4	ベクトルの一次独立、内積
5	目的、問題の定式化
6	変数が二つの場合
7	単体法、許容領域、凸領域
8 線形計画法	スラック変数、連立一次方程式
9	目的関数の内積表示
10	最大値問題、例題演習
11	双対定理、例題演習
12	モデル、定式化 (1)
13 輸送問題	〃 (2)
14 Scheduling	PERT, critical path (1)
15	〃 (2)

■参考文献

二階堂副吉『経済のための線型数学』培風館

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義準備	コンピュータの取扱い方
2	在庫管理費用の計算
3 在庫問題	定期、定量発注方式
4 動的計画法	資金の配分問題
5 階層比意思決定法	階層構造、一対比較と整合性
6	概論
7	鞍点、ミニマックスの定理
8	不動点定理
9	じゃんけんゲーム、定式化
10	行列ゲーム、定式化
11 ゲームの理論	混合戦略、最適戦略、ゲームの値 (1)
12	〃 (2)
13	〃 (3)
14	特殊な行列ゲーム、演習 (1)
15	〃 (2)

科目名	外国経済書講読 I			
09～11年度入学：外国経済書講読 I				
担当者	渡辺 善次 <i>Yoshitsugu Watanabe</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

グローバル化の進展にとまぬ、英語で発信される情報にアクセスできることがビジネス・パーソンとしての必須能力となりつつある。この講義では、語学力の向上だけでなく、英語で発信された経済情報の分析能力の向上をも目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、各テーマについて書かれた英文を読み、その内容理解度を問う小テストを行う。そして、受講者に解答を発表してもらった後、教員が英文の内容解説と補足説明を行い、当該テーマの理解を深める。

■成績評価方法・基準

期末試験は行わず、毎回実施する小テストの点数や授業に取り組む姿勢を中心とした平常点（80%）とレポート（20%）により評価する。

■授業の予習・復習

予習：特別な予習は前提としない。
復習：英単語や英語独特の言い回しだけでなく、内容そのものの復習を心がけること。

■教科書

テキストに替えて、毎回プリントを配布する。

■参考文献

各回のテーマに関連する文献を講義中に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	The Structure of the Japanese Financial System	Introduction
2	//	Savings Rate
3	//	Household Financial Assets
4	//	Household Savings and Indirect Financing
5	//	The Continuing Growth of Government Debt
6	//	The Downgrading of Japanese Government Bonds
7	//	Government Bonds, Banks, and Individual Investors
8	The Japanese-style Financial System	An Overview of Japanese Financial Institutions
9	//	The "Convoy System"
10	//	The Main Bank System
11	//	Japanese-Style Corporate Governance
12	//	Japan's Postal Savings
13	//	The Fiscal Investment and Loan Program
14	//	The History of Financial Liberalization
15	//	The Safety Net: Deposit Insurance and the Bank of Japan

科目名	外国経済書講読 II			
09～11年度入学：外国経済書講読 II				
担当者	渡辺 善次 <i>Yoshitsugu Watanabe</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

グローバル化の進展にとまぬ、英語で発信される情報にアクセスできることがビジネス・パーソンとしての必須能力となりつつある。この講義では、語学力の向上だけでなく、英語で発信された経済情報の分析能力の向上をも目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、各テーマについて書かれた英文を読み、その内容理解度を問う小テストを行う。そして、受講者に解答を発表してもらった後、教員が補足説明を行う。前期の外国経済書講読 I と合わせて履修することが望ましい。

■成績評価方法・基準

期末試験は行わず、毎回実施する小テストの点数や授業に取り組む姿勢を中心とした平常点（80%）とレポート（20%）により評価する。

■授業の予習・復習

予習：特別な予習は前提としない。
復習：英単語や英語独特の言い回しだけでなく、内容そのものの復習を心がけること。

■教科書

テキストに替えて、毎回プリントを配布する。

■参考文献

各回のテーマに関連する文献を講義中に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	The Monetary Policy of the Bank of Japan	Introduction
2	//	The Burst of the Bubble and Non-Performing Loans
3	//	The Structure and Role of the Bank of Japan
4	//	The Goals and Tools of Monetary Policy
5	//	Tight Money, Easy Money
6	//	How Monetary Policy is decided?
7	//	Open Market Operations
8	//	Official Discount Rate
9	//	The Deposit Reserve Ratio and The Money Supply
10	Japan and International Finance	Japan's Current Account Surplus and Foreign Investment
11	//	The Exchange Rate and Foreign Exchange Intervention
12	//	Purchasing Power Parity
13	//	Liberalization of the Capital Market
14	//	Internationalizing the Yen
15	//	The Stock Market and Foreign Investors

科目名	経営学Ⅰ			
09～11年度入学：経営学概論Ⅰ				
担当者	高木 朋代 <i>Tomoyo Takagi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義は、経営学を学ぶ人が、この分野において必ず理解しておかなければならない基本的な知識と論理を、体系的に理解することを目的としています。最終的には、授業を通じてみなさんが、経営学を机上の学問としてではなく、経営の現実を実感し、企業や組織について理解を深めることを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

経営学ⅠとⅡを合わせて受講することをお勧めします。経営学Ⅰでは、特に「戦略論」「組織論」「経営思想史」を中心に勉強します。授業では、随所において現実のケースの例示やビデオ鑑賞と討論をまじえていきます。

■成績評価方法・基準

授業内で実施する小論文（30%）と定期試験（70%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。

復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。

■教科書

必要に応じて独自に資料を配布します。

科目名	経営学Ⅱ			
09～11年度入学：経営学概論Ⅱ				
担当者	高木 朋代 <i>Tomoyo Takagi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義は、経営学を学ぶ人が、この分野において必ず理解しておかなければならない基本的な知識と論理を、体系的に理解することを目的としています。最終的には、授業を通じてみなさんが、経営学を机上の学問としてではなく、経営の現実を実感し、企業や組織について理解を深めることを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

経営学ⅠとⅡを合わせて受講することをお勧めします。経営学Ⅱでは、特に日本企業の経営に焦点を絞り、勉強します。授業では、随所において現実のケースの例示やビデオ鑑賞と討論をまじえていきます。

■成績評価方法・基準

授業内で実施する小論文（30%）と定期試験（70%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。

復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。

■教科書

必要に応じて独自に資料を配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図
2 経営について考える	企業および企業活動とは何か
3	戦略の定義、戦略の次元
4	戦略の策定、内部分析と外部分析
5	競争戦略①
6	// ②
7 経営戦略論	戦略の選択と同時追求の問題
8	全社戦略
9	国際化戦略
10	組織の定義と概念、組織vs市場
11	組織の構造と環境適合、組織内部の統合
12	人間の意図・行為・役割
13 組織行動論	集団マネジメント、パワーとコンフリクト
14	20世紀の企業経営者たちの思想と実践
15 経営思想史	経営理論はどのようにして生み出されるのか

■参考文献

必要に応じて紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図
2	日本的経営の功罪
3	日本の会計基準とグループ経営
4	経済産業界の慣行
5	日本企業が抱える財務管理上の問題
6 日本企業論	不良債権問題と資本主義ルール
7	経営破綻と民事再生法と会社更生法
8	経営支配権と日本の株主
9	敵対的買収と買収防衛策
10	会社は誰のものか
11	日本企業の経営、その特質と課題
12	諸外国から見た日本と日本企業
13 現代日本企業の経営	日本における人と組織のマネジメント
14	イノベーションとナレッジ・マネジメント
15	企業社会論、NPO論

■参考文献

必要に応じて紹介します。

科目名	地方自治論実習			
09～11年度入学：地方自治論実習				
担当者	牧瀬 稔 Minoru Makise			
対象学年	12年度入学	3年	単位	2単位
	09～11年度入学	3年		

■授業のねらいと到達目標

地方自治論演習は、夏季休暇等を活用して、地方自治体でのインターンシップの実施を想定しています。地方自治の現場で政策づくりを行い、最終的には自治体職員へプレゼンテーションを実施します。具体的なインターンシップ先としては、戸田市役所、三芳町役場、春日部市役所等を想定しています（変更もあります）。

■授業の進め方（履修条件等）

夏季休暇の間に、地方自治体に出社し、自治体職員の指導のもと、政策づくりに励みます。その地方自治体への出社日や出社時間等の諸条件は、個別に相談して決定します（アルバイト料、交通費等は支給しません）。

■成績評価方法・基準

インターンシップ期間の勤務状況と提案されたレポートにより成績をつけます。

■授業の予習・復習

予習：インターンシップ先及び自分の住む地方自治体に関心を持ってください。
復習：一日のインターンシップの経験を振り返ってください。

■授業内容

地方自治論演習は、地方自治体への中・長期のインターンシップを意図しています。そのため、講義はありません。

■教科書

特に指定しません。

■参考文献

牧瀬稔・戸田市政策研究所（2009）『政策開発の手法と実践』東京法令出版
牧瀬稔・戸田市政策研究所（2010）『選ばれる自治体の条件』東京法令出版

科目名	産業論 I			
09～11年度入学：産業論 I				
担当者	森谷 英樹 Hideki Moriya			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

産業および企業活動を観察して興味を持ち、自分の人生にプラスになる多くの智恵を得ることが目的である。誤解をおそれずにあえて言うならば、楽しんで得するには、何を勉強して何になるのがいいか、知ることである。

■授業の進め方（履修条件等）

板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識（理論）、過去の経験（歴史的な事実）、現状と問題点（政策課題）など分かりやすく説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験90%、出席10%
試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。

■授業の予習・復習

授業の始めに前回の復習をする。

■教科書

使用しない。

■参考文献

南亮進『日本の経済発展』東洋経済新報社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方
2	産業とは何か、企業とは何か？	付加価値のひみつ、珈琲一杯の価格
3	企業行動	市場・価格・原価、企業の目的
4	損益分岐点（1）	固定費と変動費、費用と収益の関係
5	〃（2）	損益分岐点を計算する
6	規模の経済性、外部経済	大量生産・大量販売
7	企業成長論	競争と比較優位、企業戦略、輸出戦略
8	近代経済成長論	日本の成功は何故か
9	日本の産業化の経験から	初期の近代化・産業政策とその評価
10	セットアップコスト論	産業政策と貿易立国、幼稚産業育成論
11	経済成長論	付加価値生産性と賃金、成長政策論
12	乗用車産業論	産業政策と経営者、新規参入
13	ケーススタディ（1）	事例研究とその要点
14	〃（2）	〃
15	試験対策	復習

科目名	産業論 II		
09～11年度入学：産業論 II			
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

産業および企業活動を観察して興味を持ち、自分の人生にプラスになる多くの智恵や手かがりを得てほしい。講義の前半は公的規制をめぐる問題を取り扱い、後半は国際化するアジア、日本、米国の産業について取り扱う。

■授業の進め方（履修条件等）

板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識（理論）、過去の経験（歴史的な事実）、現状と問題点（政策課題）など分かりやすく説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験90%、出席10%
試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。

■授業の予習・復習

予習：授業の始めに前回の復習をする。
復習：終わったあと分からないことについて質問を認める。

■教科書

使用しない

■参考文献

植草益「公約規制の経済学」筑摩書房

科目名	マーケティング論 I		
09～11年度入学：マーケティング論 I			
担当者	畢 滔滔 <i>Taotao Bi</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

マーケティング活動の基本要素、すなわち製品政策、プロモーション政策、流通政策および価格政策（4Ps）に関する知識を学ぶことを通じて、マーケティングの環境を分析し、企業の企画と実践を理解できるようになることが目的である。

■授業の進め方（履修条件等）

「入門経済学」および「入門経営学」を履修したことが望ましい。授業は講義とディスカッションの2つからなる。講義では、パワーポイントを用いてマーケティングの基本概念を説明する。資料も毎回配布する予定である。学生にはノートをとってもらい、ディスカッションでは、分析する事例について議論をしてもらう。講義内容に関して腑に落ちた理解を得ることが狙いである。

■成績評価方法・基準

定期試験、レポート、出席および授業内小テストで総合評価する。レポートの作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外でのレポート資料の準備が必須となる。
復習：小テストを講義時間中行うため、講義時間外での復習が必須となる。

■教科書

廣田章光・石井淳蔵（2009）『1からのマーケティング 第3版』中央経済社。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方
2	公的規制の経済学	ルールと裁量、自由と責任
3	市場の失敗	政府の規制とその根拠、目標
4	規制の目標と現実	参入規制、価格規制をめぐる議論
5	規制緩和論と事例研究	電力、鉄道、水道、政策としての問題
6	総括原価主義と問題点	特定都市鉄道整備積立金制度
7	中間とりまとめ	規制緩和論について（事例研究と要点）
8	産業育成と外国貿易	貿易立国は可能か
9	世界最適調達	JC ベニーの事例
10	技術知識と公共財的性格	外部経済と市場指向の製品戦略
11	経済成長と工業の発展	雁行形態論、空洞化論
12	産業内貿易と国際分業	付加価値を求めて
13	ケーススタディ（1）	事例研究とその要点
14	〃（2）	〃
15	試験対策	復習

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	講義内容に関する説明、レポートの書き方
2	マーケティング発想の経営	マーケティング発想の経営とは何か
3	マーケティング活動の基本要素	事例分析：ニコンのデジタル一眼レフカメラ
4		マーケティングの4Ps
5	戦略的マーケティング	製品ポートフォリオ・マトリックス、競争地位別の競争対応戦略
6	製品のマネジメント (Product)	事例分析：「1オからのかつばえびせん」の開発
7		市場機会分析、製品アイデアとコンセプト開発、製品ライフサイクル管理
8	価格のマネジメント (Price)	事例分析：携帯電話会社の価格マネジメント
9		価格設定、価格管理
10	広告のマネジメント (Promotion)	事例分析：消臭市場の創造－ファブリーズ
11		広告マネジメント、プロモーションミックス、メディアミックス
12	県庁担当者による講義	観光地活性化の取り組み
13	チャネルのマネジメント (Place)	事例分析：化粧品メーカーのマーケティング・チャネル
14		チャネル選択、チャネル管理
15	まとめ	講義内容のまとめ

■参考文献

フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー（著）、恩蔵直人（監修）、月谷真紀（翻訳）（2008）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版』Pearson Education Japan。

科目名	マーケティング論Ⅱ			
09～11年度入学：マーケティング論Ⅱ				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

ブランド構築、コミュニケーション、組織営業、サプライチェーン・マネジメントなど企業のマーケティング実務に関する知識を学ぶことを通じて、マーケティングの環境を分析し、企業の企画と実践を理解できるようになることが目的である。

■授業の進め方（履修条件等）

「マーケティング論Ⅰ」を履修したことが望ましい。授業は講義とディスカッションの2つからなる。講義では、パワーポイントを用いて企業のマーケティング実務に関する知識を説明する。資料も毎回配布する予定である。学生にはノートをとってもらう。ディスカッションでは、分析する事例について議論をしてもらう。講義内容に関して深い理解を得ることが狙いである。

■成績評価方法・基準

定期試験、レポート、出席および授業内小テストで総合評価する。レポートの作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外のレポート資料の準備が必須である。

復習：小テストを講義時間中行うため、復習が必須である。

■教科書

石井淳蔵・廣田章光（2009）『1からのマーケティング 第3版』中央経済社。

科目名	経営戦略論Ⅰ			
09～11年度入学：経営戦略論Ⅰ				
担当者	岸本 太一 Taichi Kishimoto			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、大きく2つあります。一つは、事業戦略論の基礎的な内容を理解することです。もう一つは、学んだ理論を用いて現実の企業を分析するための初歩的なスキルを身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

内容は大きく2つに分かれます。一つは、戦略の理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論を用いて、企業の事例を分析する（ケーススタディー）という内容です。この2つの内容を交互に進めていきます。

■成績評価方法・基準

中間レポート（40%）、期末レポート（40%）、出席（20%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。

復習：講義で板書したノートを再読することをお勧めします。

■教科書

伊丹敬之著『経営戦略の論理 第3版』（日本経済新聞社）

■参考文献

伊丹敬之・西野和美編著『ケースブック経営戦略の論理』（日本経済新聞社）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義内容に関する説明、レポートの書き方
2 マーケティングの基本概念	セグメンテーション、ポジショニング、マーケティングの4Ps
3 戦略的マーケティング	製品ポートフォリオ・マトリックス、競争地位別の戦略
4 サプライチェーンのマネジメント	事例分析：資生堂「TSUBAKI」 在庫のマネジメント、サプライチェーンのマネジメント
6 営業のマネジメント	事例分析：サントリーのウイスキー「オールド」 営業活動、個人営業から組織営業への移行
8 顧客関係のマネジメント	事例分析：パナソニック「レッズノート」 顧客関係の構築、顧客関係の構築のジレンマ、顧客関係のマネジメント
10 顧客理解のマネジメント	事例分析：フジッコ「やわふく」 データの収集方法、顧客理解のマネジメント
12 ブランド構築のマネジメント	事例分析：グローバルブランド「キットカット」 ブランド構築のコミュニケーション、ブランド構築の論理
14 企業の社会責任	企業の公共性、社会責任活動の意義、社会責任活動の実現
15 まとめ	講義内容のまとめ

■参考文献

石井淳蔵・嶋口充輝・余田拓郎・栗木契（2004）『ゼミナール マーケティング入門』日本経済新聞社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2 事業戦略とは	経営戦略論（事業戦略分野）の全体像
3 マーケティング戦略①	理論紹介：顧客のニーズをとらえる
4 // ②	理論紹介：ニーズの多様性と相互作用を利用する
5 // ③	ケーススタディー：花王
6 競争戦略①	理論紹介：競争優位をつくる
7 // ②	理論紹介：反撃を見越す、敵にしない
8 // ③	ケーススタディー：三星電子
9 中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション
10 技術戦略①	理論紹介：技術を活かし、技術が動かす
11 // ②	理論紹介：
12 // ③	ケーススタディー：セイコーエプソン
13 戦略の組織適合①	理論紹介：戦略自体が組織を動かし、刺激する
14 // ②	理論紹介：
15 // ③	ケーススタディー：アサヒビール

科目名	経営戦略論 II			
09～11年度入学：経営戦略論 II				
担当者	岸本 太一 Taichi Kishimoto			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、大きく2つあります。一つは、全社戦略論の基礎的な内容を理解することです。もう一つは、学んだ理論を用いて現実の企業を分析するための初歩的なスキルを身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

内容は大きく2つに分かれます。一つは、戦略の理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論を用いて、企業の事例を分析する（ケーススタディー）という内容です。この2つの内容を交互に進めていきます。

■成績評価方法・基準

中間レポート（40%）、期末レポート（40%）、出席（20%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。
復習：講義で板書したノートを再読することをお勧めします。

■教科書

伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門 第3版』
日本経済新聞社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2 全社戦略とは	経営戦略論（全社戦略分野）の全体像
3 ビジネスシステム戦略①	理論紹介：ビジネスシステムで差別化する
4 // ②	理論紹介
5 // ③	ケーススタディー：ミスミ
6 多角化戦略①	理論紹介：多角化
7 // ②	理論紹介：事業ポートフォリオのマネジメント
8 // ③	ケーススタディー：シャープ
9 中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション
10 国際化戦略①	理論紹介：国のポートフォリオ戦略
11 // ②	理論紹介：経営資源の移転と政治・為替問題への対応
12 // ③	ケーススタディー：日産自動車
13 M&A戦略①	理論紹介：M&A
14 // ②	理論紹介：戦略的提携
15 // ③	ケーススタディー：セコム

■参考文献

伊丹敬之著『経営戦略の論理 第3版』日本経済新聞社

科目名	ベンチャービジネス論			
09～11年度入学：ベンチャービジネス論				
担当者	川西 正己 Masami Kawanishi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

昨今では、企業全体の7割が赤字経営であり、しかも、勝ち組といわれる企業は、全体の1割程度という厳しい市場環境・経営環境にある。新規創業にあっても、創業後3年以内には半数が消滅し、10年後には2割程度しか存続していないという「多産多死」の状況にある。そのような前提に立ち、学生自身が起業する、あるいは会社内に新規事業を立ち上げる（社内ベンチャー）という場合において、勝ち残れるだけの「力相応に勝てる場と勝ち残れる条件」を備えた経営法について学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

「大きな会社」と「小さな会社」の経営法はまるで別物であるということ認識しながら、起業の準備段階から「事業計画書」（マーケティングプラン、マネジメントプラン）の作成までを、段階的かつ具体的に授業を進める。

■成績評価方法・基準

ケース・スタディによる定期試験の結果および授業態度、出席状況等を総合的に評価する。

■授業の予習・復習

「予習」は特に必要はない。「復習」は授業内容を復習して理解することをもって足りる。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 経営の現場からの視点とメッセージ	「2極化の傾向」にあるデフレ不況化の経営。後世の「1番企業」は不況期に創業しているという現実注目。
2 「儲かる業種」と「儲かる人間」とは	この世に「儲かる業種」、「損する業種」のパターンはないが「儲かる人間」、「損する人間」のパターンはあるようだ。
3 「高い」とは	「自分良し、相手良し、世間良し」という「三方良しの経営」こそが本物の経営法。
4 経営の基本は「不易流行」にあり	「創業の志」を踏まえて、「時流に適應すること」および「経営の原理・原則を踏まえること」の2つの条件を同時に満たすこと。
5 消費者は商品を通して「経営理念」を見抜く	企業も団体も人間も「必要な者は、この世に存在しえない」という。逆に、「必要あるところビジネスチャンスあり」ともいう。
6 生き残る者は「時流」に適應しえた者①	消費者が「何を基準にして商品やサービスを選択するか」は時代によって移り変わる。
7 生き残る者は「時流」に適應しえた者②	質の良い「下限商品・サービス」は消費者に強いインパクトを与える。安さは品質・サービスの劣化の言い訳にならない。
8 生き残る者は「時流」に適應しえた者③	「世のため、人のため、自分のため」というソーシャルビジネスが目ざされている。
9 「経営の原理・原則」①	中小企業の経営戦略では「1点突破全面展開法」（小さくても何かで1番のものを持つこと）が原則。
10 「経営の原理・原則」②	小さくても1番になるための視点は、頭文字をとって「ODSR」の4点が切り口となる。
11 「経営の原理・原則」③	小さくても何かで1番をつくるための「地域1番商品戦略」を目指すための絞り込みの方法とは。
12 商品開発のアイデア発想法	既存マーケットの中から差別化を図るアイデア発想法。既存の要素を合体させるアイデア発想法。
13 事業スタイルと狙うマーケット	ニッチ市場でのトップを目指すという「ニッチトップ戦略」が中小企業の基本戦略（鶏口牛後の戦略発想）。
14 起業・新事業を成功させるには	起業・新事業は「小さく産んで、大きく育てる」のが原則。事業を起こす3つの相性判断とは。
15 「事業計画書」のつくり方	「マーケティングプラン」および「マネジメントプラン」のそれぞれのプランを作成するに当たっての主な留意点について。

■教科書

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

必要に応じて参考文献・関連資料のコピーを配布する。

科目名	流通論			
09～11年度入学：流通論				
担当者	畢 滔滔 <i>Taotao Bi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

流通機能は、消費者が毎日利用している小売業者だけではなく、卸売業者、運輸業者、メーカーなど様々な機関によって担われている。このように流通システムは極めて複雑なシステムである。この授業の目的は、流通システム全体を注目し、複雑な流通全体図を示し、流通問題の分析のツールと理論枠組みを説明することである。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業は講義を中心に進めていく。講義を通じて流通問題の分析のツールと理論枠組みを説明する。講義では、パワーポイントを用いて授業内容を説明する。学生には学んだ内容をノートにまとめてもらう。講義内容に関する資料も毎回配布する。また、講義時間中にレポートを2回作成してもらい、小テストを数回行う。

■成績評価方法・基準

定期試験、レポート、出席および授業内小テストで総合評価する。レポート作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

科目名	経営組織論 I			
09～11年度入学：経営組織論 I				
担当者	高木 朋代 <i>Tomoyo Takagi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義は、経営組織論の基本理論を体系的に理解し、企業や人への理解を深めることを目的としています。組織論は、2人以上の人々が協働する組織体の行動や構造を明らかにする学問であり、最終的には、授業を通じてみなさんが、組織に存在する諸問題の解決に向けて応用力を身に付けていくことを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

経営組織論 I と II を合わせて受講することをお勧めします。経営組織論 I では、特に「ミクロ組織論」を中心に勉強します。授業では主要理論を紹介しつつ、特に現代日本企業において重要と考えられる事項に関して詳細な議論を行います。

■成績評価方法・基準

授業内で実施する小論文（30%）と定期試験（70%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。

復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容の説明、レポートの書き方
2 流通とは何か	流通の定義、流通システム
3	商流、物流、情報流
4	卸売流通
5	日本の卸売流通
6 現代の流通	小売流通
7	日本の小売流通
8	ロジスティクス
9 流通産業の国際比較	流通産業の日米中の比較
10	消費者行動と流通
11	商品開発と流通
12 流通経営	販売促進と流通
13	eコマース
14	流通企業の海外進出
15 まとめ	講義内容のまとめ

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外でのレポート資料の準備が必須となる。

復習：小テストを講義時間中行うため、講義時間外での復習が必須となる。

■教科書

宮澤永光・武井寿（2004）『流通新論』八千代出版。

■参考文献

矢作敏行（1996）『現代流通—理論とケースで学ぶ』有斐閣。
石原武政・竹村正明（2008）『1からの流通論』中央経済社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図
2 組織への基本的理解	組織の定義、人間行動と意思決定
3	モチベーション：内容理論
4	モチベーション：過程理論
5	働きがいと人事施策
6	集団活動と集団意思決定
7	組織メンバー行動のコントロール
8	パワーとコンフリクト
9 ミクロ組織論	コンフリクト・マネジメント
10	<実習>：ビデオ鑑賞と討論
11	リーダーシップ論①
12	// ②
13	<実習>：ビデオ鑑賞と討論
14	管理者行動
15 組織論の学説史	ミクロ組織論の諸学説

■教科書

必要に応じて独自に資料を配布します。

■参考文献

必要に応じて紹介します。

科目名	経営組織論Ⅱ			
09～11年度入学：経営組織論Ⅱ				
担当者	高木 朋代 Tomoyo Takagi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義は、経営組織論の基本理論を体系的に理解し、企業や人への理解を深めることを目的としています。組織論は、2人以上の人々が協働する組織体の行動や構造を明らかにする学問であり、最終的には、授業を通じてみなさんが、組織に存在する諸問題の解決に向けて応用力を身に付けていくことを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

経営組織論ⅠとⅡを合わせて受講することをお勧めします。経営組織論Ⅱでは、特に「マクロ組織論」を中心に勉強します。授業では主要理論を紹介しつつ、特に現代日本企業において重要と考えられる事項に関して詳細な議論を行います。

■成績評価方法・基準

授業内で実施する小論文（30%）と定期試験（70%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。

復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。

科目名	経営分析Ⅰ			
09～11年度入学：経営分析Ⅰ				
担当者	平屋 伸洋 Nobuhiro Hiraya			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、財務諸表を利用して企業の経営状態を把握できるようになることである。また到達目標は、収益性に関する財務比率を自分で計算し、それを分析することである。

■授業の進め方（履修条件等）

企業会計の役割、経営分析の目的と方法などについて理解したうえで、収益性を分析するために、資本利益率、売上高利益率、資本回転率という三つのテーマを取り上げていく。

■成績評価方法・基準

定期試験を50%、レポートを50%の割合で評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書の該当章を3回読み、疑問点を明らかにする。

復習：計算方法、分析の仕方について確認する。

■教科書

森久・関利恵子・徳山英邦・蔣飛鴻・長野史麻著『財務分析からの会計学』森山書店、2011年。

■参考文献

桜井久勝著『財務会計講義<第11版>』中央経済社、2010年。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図
2 組織への基本的理解	なぜ組織が必要なのか
3	有効性と効率性の問題
4	組織構造の概念と特徴
5	諸特徴がもたらす逆機能の問題
6	組織構造に影響を与える要因
7	代表的な組織構造
8	組織構造の変遷と時代背景
9 マクロ組織論	環境と組織
10	組織の戦略的選択と環境適合
11	組織の成長とライフサイクル
12	組織の成長と組織コンフィギュレーション
13	組織文化の機能
14	組織変革と組織文化
15 組織論の学説史	マクロ組織論の諸学説

■教科書

必要に応じて独自に資料を配布します。

■参考文献

必要に応じて紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の内容、進め方、評価方法
2 会計と社会、企業	企業会計の役割
3 経営分析の課題	経営分析の目的と方法
4 分析資料	財務データの入手方法
5 貸借対照表	貸借対照表の形式と内容
6 損益計算書	損益計算書の形式と内容
7 資本利益率（その1）	資本利益率についての講義
8 // （その2）	資本利益率に関する計算
9 // （その3）	資本利益率による収益性の分析
10 売上高利益率（その1）	売上高利益率についての講義
11 // （その2）	売上高利益率に関する計算
12 // （その3）	売上高利益率による収益性の分析
13 資本回転率（その1）	資本回転率についての講義
14 // （その2）	資本回転率に関する計算
15 // （その3）	資本回転率による収益性の分析

科目名	経営分析Ⅱ			
09～11年度入学：経営分析Ⅱ				
担当者	平屋 伸洋 <i>Nobuhiro Hiraya</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、財務諸表を利用して企業の経営状態を把握できるようになることである。また到達目標は、生産性と安全性に関する財務比率を自分で計算し、それを分析することである。

■授業の進め方（履修条件等）

生産性と安全性の分析方法を学ぶ。生産性はそれ自体で一つのテーマとする。安全性については、ストック指標、キャッシュフロー分析、その他の指標という三つのテーマを取り上げる。

■成績評価方法・基準

定期試験を50%、レポートを50%の割合で評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書の該当章を3回読み、疑問点を明らかにする。
復習：計算方法、分析の仕方について確認する。

■教科書

森久・関利恵子・徳山英邦・蔣飛鴻・長野史麻著『財務分析からの会計学』森山書店、2011年。

■参考文献

桜井久勝著『財務会計講義<第11版>』中央経済社、2010年。

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価方法
2	財務諸表	経営分析の資料
3	収益性分析	収益性分析の方法
4	生産性分析（その1）	生産性の分析についての講義
5	〃（その2）	生産性の分析に関する計算
6	〃（その3）	財務比率による生産性の分析
7	安全性分析Ⅰ（その1）	ストック指標についての講義
8	〃（その2）	ストック指標に関する計算
9	〃（その3）	ストック指標による安全性の分析
10	安全性分析Ⅱ（その1）	フロー指標についての講義
11	〃（その2）	フロー指標に関する計算
12	〃（その3）	フロー指標による安全性の分析
13	安全性分析Ⅲ（その1）	その他の指標についての講義
14	〃（その2）	その他の指標に関する計算
15	〃（その3）	その他の指標による安全性の分析

科目名	原価計算論Ⅰ			
09～11年度入学：原価計算論Ⅰ				
担当者	柴田 寛幸 <i>Hiroyuki Shibata</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

原価計算論Ⅰでは、製造業における「製造原価」の算定方法を学ぶ。ここでは、原価計算の目的、個別原価計算、総合原価計算を理解することを目的とする。日本商工会議所簿記検定2級の内容を理解し、その基礎を固めることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

製造原価の計算方法を説明したのちに、問題を提示し、各自で製造原価を計算してもらう。そのためには、電卓を必ず用意することが必要である。履修条件としては、簿記原理または会計学を履修した学生を対象とする。

■成績評価方法・基準

毎回出席をとることを原則とする。また、随時、練習問題や小テストを行う。そして、試験を実施し、試験の結果を中心として総合的に判断する。

■授業の予習・復習

テキストに従って授業を進めていくので、予習をしてください。また、問題のすべてを授業時間内にはできないので、残った問題を必ず自宅で復習してください。

■教科書

『合格テキスト日商簿記2級[工業簿記]Ver.6.0』

TAC出版2,100円

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	原価計算総論	原価計算の目的
2	原価の分類	形態別、機能別、製品別、操業度別
3	費目別計算（1）	材料費
4	〃（2）	労務費
5	〃（3）	経費
6	〃（4）	製造間接費の実際配賦と予定配賦
7	部門別計算	製造部門、補助部門
8	個別原価計算（1）	部門個別費、部門共通費
9	〃（2）	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
10	総合原価計算（1）	平均法
11	〃（2）	先入先出法
12	工程別総合原価計算（1）	平均法
13	〃（2）	先入先出法
14	組別総合原価計算	組別総合原価計算表
15	等級別総合原価計算	等価係数

■参考文献

『合格トレーニング日商簿記2級[工業簿記]Ver.6.0』TAC出版

科目名	原価計算論Ⅱ			
09～11年度入学：原価計算論Ⅱ				
担当者	柴田 寛幸 <i>Hiroyuki Shibata</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

標準原価計算、直接原価計算、CVP（損益分岐点）、資本予算（投資決定論）、資本コストを理解することを授業のねらいとし、日商簿記検定工業簿記・原価計算の2級・1級の基礎を固めることを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

本講義では、原価計算の理論と実践について学ぶ。そのためには、数多くの計算問題を実際に解いていくことが重要である。したがって、様々な練習問題を解きながら、授業を進めていく方針である。履修条件としては、簿記原理または会計学を履修し、なおかつ、原価計算論Ⅰを修得した学生を対象とする。

■成績評価方法・基準

毎回出席をとることを原則とする。また、随時、練習問題や小テストを行う。そして、試験を実施し、試験の結果を中心として総合的に判断する。

■授業の予習・復習

テキストに従って授業を進めていくので、予習をしてください。また、問題のすべてを授業時間内にはできないので、残った問題を必ず自宅で復習してください。

科目名	経営財務論			
09～11年度入学：財務管理論				
担当者	石鍋 信孝 <i>Nobutaka Ishinabe</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

会計学の初学者にもわかりやすく、利益管理と資金管理を実務に即した内容で展開します。企業経営のお金に関する分野をマスターして、就職活動を強力に、また、就職後の実務に役立つ授業構成です。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に、鮮度の高い情報や実務に役立つ知識を学習します。企業経営の財務に関する基礎的事項は、この講義でマスターできます。

■成績評価方法・基準

定期試験（100%）

■授業の予習・復習

教科書の事前通読

■教科書

「経営に活かす財務マネジメント」 産業能率大学出版部
石鍋信孝著

■参考文献

「与信管理の戦略と実践」 産業能率大学出版部 石鍋信孝著

■授業内容

授業項目	授業内容
1 標準原価計算（1）	標準原価計算の目的、価格差異、数量差異
2 // （2）	賃率差異、作業時間差異
3 // （3）	予算差異、能率差異、操業度差異
4 直接原価計算（1）	貢献利益
5 // （2）	固定費調整
6 CVP分析（1）	損益分岐点
7 // （2）	目標利益、営業レバレッジ度
8 // （3）	固定費と変動費の分解方法
9 最適セールス・ミックス	グラフによる解法
10 資本予算（1）	回収期間法、会計的利益率法
11 // （2）	正味現在価値法、内部利益率法
12 // （3）	収益性指数法、原価比較法
13 資本コスト	加重平均資本コスト
14 活動基準原価計算（ABC）	多品種少量生産、コスト・ドライバー
15 特殊原価	差額原価、機会原価、埋没原価等

■教科書

『合格テキスト日商簿記2級[工業簿記]Ver.6.0』
TAC出版2,100円

原価計算のプリントを配布する。

■参考文献

瀬戸裕司、浅川昭久共著『やさしく学べる日商簿記1級マスター工業簿記原価計算テキスト』税務経理協会2,600円

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、財務管理の基礎
2 財務管理の概要	制度会計、企業会計原則、指導原理
3 簿記	仕訳、帳簿組織、工業簿記
4 財務諸表1（P/L）	損益計算書
5 // 2（B/S）	貸借対照表
6 // 3（C/S）	キャッシュフロー計算書
7 最近の潮流	IFRSと財務管理
8 財務分析	財務分析モデル
9 企業税務	法人税等、実効税率
10 資金管理	資金の調達、事業ポートフォリオ
11 予算管理	予算と予算管理
12 採算分析1（短期）	損益分岐点分析（BEP）
13 // 2（長期）	投資分析（NPV、IRR、WACC）
14 ケース・スタディ1（S社）	S社の財務政策
15 // 2（SW）	ソフトウェア産業と財務管理

科目名	マーケティングリサーチ I			
09～11年度入学：マーケティングリサーチ				
担当者	金 珍淑 Kim Jinsuk			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本講義は、マーケティングの基本的な考え方を理解し、市場調査を行ううえで必要とされる知識を習得することを目標とします。また、リサーチ手法を実習することによって、リサーチのプロセスと問題の定式化についての理解を深めます。マーケティング・リサーチ I では、リサーチ・デザインとデータの収集方法について学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

パワーポイントを用いたプレゼンテーション方式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。また、調査手法や分析手法を実習することによって、マーケティング・リサーチに必要なスキルを身につけます。

■成績評価方法・基準

中間レポート（30%）、定期試験（60%）、出席（10%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。
復習：前回の講義資料を再読しておくことをお勧めします。

■教科書

特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。

科目名	人的資源管理 I			
09～11年度入学：人的資源管理 I				
担当者	高木 朋代 Tomoyo Takagi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

これから社会に出ていく皆さんが、企業内で行われている人事管理の仕組みを知っておくことは極めて重要といえます。本講義は、企業がどのような論理に基づいて、人の採用、配置、評価・処遇等を決めているのかを理解することを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

人的資源管理 I では、特に「採用」「異動」「能力開発」を中心に勉強します。授業では、ビデオ鑑賞や討論などの実習をまじえながら、理論と実際の両方について解説します。

■成績評価方法・基準

授業内で実施する小論文（30%）と定期試験（70%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。
復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。

■教科書

必要に応じて独自に資料を配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明
2	イントロダクション	消費者志向のマーケティング
3		マーケティングリサーチとは
4		リサーチプロセス
5		課題の発見・定義
6	リサーチ・デザイン	探索的リサーチ
7		記述的リサーチ
8	データの収集	因果的リサーチ
9		データの形式
10		二次データの収集方法
11		一次データの収集方法
12		質問紙のタイプと収集方法
13		質問紙の作成
14		実習（質問紙の作成）
15	プレゼンテーションと評価	

■参考文献

高田博和・上田隆穂・奥瀬喜之・内田学『マーケティングリサーチ入門』PHP研究所、2008年。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	今後の授業の見取り図
2	人という資源	人の育成と活用について考える
3	採用のマネジメント	柔軟な企業モデルと人材ポートフォリオ
4		企業は新卒者に何を期待しているのか
5		採用の方法とその注意点、問題点
6	異動のマネジメント	人事異動とジョブ・ローテーション
7		異動方式の多様化とその意味
8	能力開発のマネジメント	キャリア開発としての異動、その注意点
9		能力の種類
10		能力開発の方法
11	企業と人	能力開発をめぐる個人と組織
12		創業者と人的資源管理
13	日本の人的資源管理	経営思想と人的資源管理
14		企業経営と人的資源管理
15	採用・異動・能力開発における今日的課題	

■参考文献

必要に応じて紹介します。

科目名	人的資源管理Ⅱ			
09～11年度入学：人的資源管理Ⅱ				
担当者	高木 朋代 Tomoyo Takagi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

これから社会に出ていく皆さんが、企業内で行われている人事管理の仕組みを知っておくことは極めて重要といえます。本講義は、企業がどのような論理に基づいて、人の採用、配置、評価・処遇等を決めているのかを理解することを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

人的資源管理Ⅱでは、特に「評価・処遇」「組織からの退出」を中心に勉強します。授業では、ビデオ鑑賞や討論などの実習をまじえながら、理論と実際の両方について解説します。

■成績評価方法・基準

授業内で実施する小論文（30%）と定期試験（70%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：授業の前に、前回の授業ノートを再読しておくことをお勧めします。

復習：授業で学んだ理論や論理というメガネを通して、世の中で起きていることをもう一度よく見てみてください。

■教科書

必要に応じて独自に資料を配布します。

科目名	産業立地論Ⅰ			
09～11年度入学：産業立地論Ⅰ				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

企業経営や産業経営を考える上で産業立地論の考え方は欠かせません。その産業立地論の考え方とはどのようなものなのかを、チューネンの農業立地論、ヴェーバーの工業立地論、レッシュの市場地域論を通して学びます。立地論の考え方を通して、現実の産業立地を理解することが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

前半では、立地についての考え方を具体的事例を通して説明します。後半では、世界に知られた代表的な3つの立地論を、配付資料をもとにできるだけ易しく説明します。理解度を確認するために毎時間コメントカードを提出してもらいます。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）と平常点（50%、コメントカードの内容による）で評価します。

■授業の予習・復習

参考文献を利用して予め授業内容のポイントをつかみ、授業後はノートや配付資料を見直しておくこと。

■教科書

使用しません。毎時間プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図
2	評価・処遇をめぐる個人と組織
3	人事考課と昇格・昇進システム
4 評価・処遇のマネジメント	評価の仕組みとその注意点、問題点
5	賃金といわれるものの中身
6	賃金体系の特徴とそのメリット・デメリット
7	雇用調整、中途退職
8 退出のマネジメント	定年退職と雇用継続
9	入社から退職までの長期的なキャリアマネジメント
10	成功者の職業キャリア（男の場合）①
11	〃 ②
12 ビデオ鑑賞と討論	〃（女の場合）①
13	〃 ②
14 働くということ	幸せな職業人生とは
15 日本の人的資源管理	評価・処遇・退出管理における今日的課題

■参考文献

必要に応じて紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献の解説
2 立地とは何か（1）	立地の概念、立地論の目的
3 〃（2）	各種の立地事例
4 立地研究の推移	研究内容・方法の変化
5 立地因子（1）	立地条件との違い、立地因子の分類、収入因子
6 〃（2）	費用因子、集積因子
7 立地条件（1）	立地条件の性質
8 〃（2）	立地条件の種類
9 農業の立地（1）	チューネンの立地論（地代概念）
10 〃（2）	〃（耕作限界と耕作境界）、演習
11 工業の立地（1）	ヴェーバーの立地論（前提、輸送費指向論）
12 〃（2）	〃（労働費指向論）
13 〃（3）	〃（評価と批判）、演習
14 市場の形成	レッシュの市場地域論
15 まとめ	授業内容のまとめ

■参考文献

西岡久雄「経済地理分析」大明堂

富田和暁「地域と産業」大明堂

松原 宏編著「立地論入門」古今書院

科目名	産業立地論Ⅱ			
09～11年度入学：産業立地論Ⅱ				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

現実の産業立地がどのような経緯で決定されたのかを知り、立地論の理論通りに説明できる場合と説明できない場合があることを具体例を通して学びます。日本の産業立地がどのような仕組みの中で成立しているのかを理解できるようになることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

日本の工業立地を具体的事例として取り上げ、立地上の特色を各工業ごとに配付資料をもとに検討していきます。ソニー、トヨタなどできるだけ多くの企業を取り上げ、解りやすく説明します。千葉県工業立地についても説明します。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）と平常点（50%、コメントカードの内容による）で評価します。

■授業の予習・復習

参考文献を利用して予め各工業の立地の特色をつかんでおき、授業後はノートや配付資料をよく見直しておくこと。

■教科書

使用しません。毎時間プリントを配布します。

科目名	流通経営論Ⅰ			
09～11年度入学：流通経営論Ⅰ				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業の目的は、小売業態の発展史を紹介した上で、小売経営の基本的知識を説明することである。小売競争の本質は店舗差別化活動であるといえる。店舗差別化とは何か。また、店舗差別化はどのようにして実現するのか。こうした問題を授業で説明する。

■授業の進め方（履修条件等）

「流通論」を履修したことが望ましい。この授業は講義を中心に進めていく。講義では、パワーポイントを用いて授業内容を説明する。学生には学んだ内容をノートにまとめてもらう。講義内容に関する資料も毎回配布する。また、講義時間中にレポートを2回作成してもらい、小テストを数回行う。

■成績評価方法・基準

定期試験、レポート、出席および授業内小テストで総合評価する。レポートの作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外でのレポート資料の準備が必須となる。

復習：小テストを講義時間中行うため、講義時間外での復習が必須となる。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、授業の受け方、参考文献の解説
2	鉄鋼業の立地（1）	生産工程と立地の特質
3	〃（2）	日本の鉄鋼業立地、事例企業研究（新日本製鐵）
4	アルミニウム工業の立地	生産工程と立地の特質
5	電気機械工業の立地（1）	立地を規定する要因
6	〃（2）	日本の電気機械工業の形成
7	〃（3）	事例企業研究（ソニー）
8	自動車工業の立地（1）	立地を規定する要因、自動車工業の形成
9	〃（2）	事例企業研究（トヨタ、ホンダ）
10	造船工業の立地	立地を規定する要因、形成と変化
11	食料品工業の立地	品目による立地の相違
12	繊維工業の立地	立地を規定する要因、立地の特質
13	商業の立地	卸売業の立地と小売業の立地
14	千葉県の工業立地	工業の形成、立地の特質
15	まとめ	授業内容のまとめ

■参考文献

北村嘉行・矢田俊文編著「日本工業の地域構造」大明堂
ソニー広報センター「ソニー自叙伝」ワック

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、レポートの書き方
2	小売企業活動	小売、小売機能、小売経営者の意思決定
3	小売業の分類	業種、業態
4	商業統計	商業統計の読み方
5	日本の小売業	日本の小売構造（業種、規模からの分析）
6		日本の小売構造（業態からの分析）
7		日本における小売業態の発展史
8		小売業態発展の理論
9	小売業の国際比較	小売業の日米中の比較
10	県庁担当者による講義	地域と連携した商店街の活性化
11	小売経営の理論枠組み	競争、小売競争
12		小売ミックス
13		市場細分化戦略
14		消費者の店舗選択行動
15	まとめ	講義内容のまとめ

■教科書

指定しない。

■参考文献

Levy, Michael and Barton A. Weitz(2008), Retailing Management, 7th Edition, Irwin Professional Pub.

科目名	流通経営論 II			
09～11年度入学：流通経営論 II				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業の目的は、小売店舗を運営する知識を説明することである。小売競争の本質は店舗差別化活動であるといえる。店舗差別化は、立地政策、仕入れ管理、価格政策、小売広告、レイアウトと陳列などさまざまな要素によって実現される。この授業では、以上のような小売店舗の具体的な運営方法を紹介する。

■授業の進め方（履修条件等）

「流通経営論 I」を履修したことが望ましい。この授業は講義を中心に進めていく。講義では、パワーポイントを用いて授業内容を説明する。学生には学んだ内容をノートにまとめてもらう。講義内容に関する資料も毎回配布する。また、講義時間中にレポートを2回作成してもらい、小テストを数回行う。

■成績評価方法・基準

定期試験、レポート、出席および授業内小テストで総合評価する。レポートの作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外でのレポート資料の準備が必須となる。

復習：小テストを講義時間中行うため、講義時間外での復習が必須となる。

科目名	国際経営論			
09～11年度入学：国際経営論				
担当者	長島 芳枝 Yoshie Nagashima			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

国際経営の理解にあたっては、国際的な政治・経済環境や、企業の競争戦略、経営管理手法といった多様な課題の検討が必要となる。本講義の目的の一つに、履修者が多国籍企業及び企業を取り巻く環境に興味を持つようになることがある。また、国際経営に関わる基礎知識を習得したうえで、次のステップに進む準備とすることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式でパワー・ポイントを利用して説明する。事例考察ではグローバルに事業展開する多国籍企業を対象とした映像教材も活用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（40%）・小テスト・レポート（30%）・出席（30%）の割合で総合的に成績を評価する。小テストは講義時間中に行う。レポートは事例考察にあたって作成する。

■授業の予習・復習

予習：授業で紹介する参考文献や資料を読むこと。

復習：復習は配布資料を中心に行ない、講義内容を理解したか確認する。尚、本講義では復習が重要となる。

■教科書

教科書は特に使用せず、講義資料を配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容の説明、レポートの書き方
2 日本の小売業	小売機能、日本の小売業の構造
3 小売戦略	小売企業の財務目標と小売戦略
4	商圏の需要予測
5 立地政策	事例研究：コンビニエンスストアの立地政策
6	仕入れ管理
7	価格管理
8	小売広告
9 小売店舗の運営	顧客サービス管理
10	店舗のレイアウト
11	商品の陳列
12	事例研究：百貨店食品フロア開発
13 小売企業の経営	小売企業の組織構造と人事管理
14	小売情報システムの構築
15 まとめ	講義内容のまとめ

■教科書

指定しない。

■参考文献

Levy, Michael and Barton A. Weitz(2008), Retailing Management, 7th Edition, Irwin Professional Pub.

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義計画、成績評価基準の説明および教材の紹介
2 国際経営を取り巻く環境	グローバル経済と企業活動
3 多国籍企業とは	多国籍企業の定義と特徴
4 先進国の多国籍企業	様々な分野における代表的な多国籍企業
5 新興市場の発展	事例考察
6 国際経営分野の諸理論	国際経営の変遷と理論
7 非製造業のグローバル展開	サービス企業によるグローバルな事業展開
8 小テスト	小テスト
9 グローバルマーケティング	マーケティングの理論と実践
10 グローバルMSA	多国籍企業の買収統合活動
11 海外生産と技能の国際移転 ①	事例考察
12 //	② 国際的な生産活動の特徴
13 国際経営組織と人的資源管理	多国籍企業の組織モデルと人的資源管理
14 異文化経営と新たな潮流	異文化における経営とビジネスコミュニケーション
15 まとめ	全講義内容の主要な点について復習する。

■参考文献

江夏健一・太田正孝・藤井健編『国際ビジネス入門』

中央経済社、2008年

江夏健一・桑名義晴・IBI国際ビジネス研究センター著

『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』同文館出版、2006年

科目名	国際法 I		
09～11年度入学：国際法 I			
担当者	野澤 基恭 <i>Motoyasu Nozawa</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

前期においては、主に国際法の基礎理論を学んだ。後期では、前期で修得した理論を国際法の様々な場面に適用することによって、現代国際法を実感して頂きたい。領域における国際法、国際人権法、国際環境法など比較的身近な問題を取り上げて、考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

前期と同様に、原則として講義の形式をとるが、受講生の理解度を確認するために、双方向の授業を行う予定である。真摯な態度で受容に臨んでもらいたいことは言うまでもないことである。授業の内容上、前期の国際法 I を履修していることが望ましい。

■成績評価方法・基準

定期試験、レポート、小テスト、授業に臨む態度によって評価する。

■授業の予習・復習

前期と同様に、予習も重要ではあるが、復習を重視して頂きたい。

■教科書

『新国際法講義』 森川、佐藤編著 北樹出版

■参考文献

授業においてその都度指示する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	国家領域	国家領域、国際化地域、国際河川、国際運河
2	南極と日本の領土	セクター理論、南極条約、北方領土、竹島、尖閣諸島
3	海の国際法	海洋法の歴史的展開
4	海域の法的区分と法的地位	内水、領海、接続水域、国際海峡、排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底
5	海洋環境の保護・保全	海洋科学調査、海洋紛争の解決
6	空と宇宙の国際法	領空主権の確立、防空識別権
7	国際航空運送	航空機の法的地位、航空犯罪、航空運送と損害賠償
8	宇宙空間	宇宙開発と国際法、宇宙法の定立、宇宙条約の基本原則
9	個人の国際法上の地位	国籍、政治犯不引渡原則
10	出入国および外国人の地位	出国の強制と国際人権法、外国人の法的地位
11	難民の保護	難民の概念、ノン・ルフールマンの原則、難民の待遇
12	個人の国際犯罪	国際犯罪の概念、共通法益侵害犯罪、国際法上の犯罪、国際刑事裁判所
13	国際人権法	国際人権の基準、人権の国際的実施措置、人権条約上の国際的実施措置
14	国家責任	国家責任の法典化、行為の帰属、義務違反、対抗措置、外交的保護権
15	国際環境法	国家の基本的権利・義務、環境条約の概念、最近の環境条約の特徴

科目名	国際法 II		
09～11年度入学：国際法 II			
担当者	野澤 基恭 <i>Motoyasu Nozawa</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

「社会あるところ法あり」と言われるように、国内社会において、憲法を頂点に様々な国内法が存在するように、国際社会にも当然のことながら法が存在する。私たちはそれを「国際法」と呼ぶ。この国際法は、国内法とは異なった性格を有する。それはまさに、国内社会と国際社会の違いに起因するものである。両者の違いを把握し、その上で国際法の特質を明確にする。

■授業の進め方（履修条件等）

原則として、講義の形式をとる。しかし、理解度を確認するために、一方通行にならず、できうる限り双方向の授業を進めていく。いうまでもないことだが、真摯な態度で授業に臨んでほしい。

■成績評価方法・基準

定期試験、レポート、小テスト、授業に臨む姿勢によって評価する。

■授業の予習・復習

予習よりも復習に重点を置き、講義内容はその日のうちに理解しることが望ましい。

■教科書

『新国際法講義』 森川、佐藤編著 北樹出版

■参考文献

授業中に、その都度指示する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	国際社会の成立	国際関係と国際法、近代国際社会の成立、国際法の起源
2	近代国際法の発展	19世紀の国際社会、国際法の内容の拡充、自然法から実定国際法へ
3	国際法の性質	国際法の構造、国際法の機能、国際法遵守の内在的要件
4	現代国際法の特質	現代国際法の変容、武力不行使原則と紛争の平和的解決
5	国際法と国内法の関係	国際法秩序における国際法と国内法、国内法秩序における国際法と国内法
6	国際法の成立形式	国際法の法源とは何か、条約法、慣習国際法、国際法定立の新動向
7	国際法上の主体	主体とは何か、国家の成立、国家（政府）の承認
8	国家の承継	承継の概念、条約の承継、国家財産の承継
9	国家機関	外交関係に関する国家機関、領事関係に関する国家機関
10	国家の基本的権利	国家の基本的権利の種類、主権、自衛権、平等権
11	国家の基本的義務	国家の実体的義務、具体的義務
12	国家の抽象的義務	国際社会全体に対する義務、今日における国家の基本的権利・義務
13	国家の管轄権	管轄権とは何か、管轄権という概念
14	国家の管轄権の種類	立法管轄権、行政管轄権、司法管轄権
15	総括	国際法とは何か

科目名	税務会計論Ⅰ			
09～11年度入学：税務会計論Ⅰ				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

最終的には法人（会社）の課税所得と税額算出を学ぶ。これらを規定する法人税法は、会社法や金融商品取引法と一体となつてわが国の会計制度を形成しそれぞれ関連しあうことから、あわせてこの概要を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に授業を進めるが、近年法人税法を含め会計制度全般に極めて急速に変革が進められている。そのため、教科書の改訂を待つ時間的余裕がなく、口頭あるいはプリントを配布して教科書を補う。毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験80% 授業内小テスト及び課題20%を目安とする。

■授業の予習・復習

特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。

■教科書

『セメスター法人税法』鈴木明男・鈴木豊 税務経理協会

■参考文献

『税務会計総論』富岡幸雄 森山書店

『体系法人税法』山本守之 税務経理協会

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	運営方針と講義の概要
2 法人税の特質と体系	法人税の役割と特徴
3 法人税の法源性	租税法律主義と関連法規
4 法人税の本質	法人税、配当金二重課税の排除
5 基礎概念	法人、同族会社、事業年度他
6 企業会計	企業会計の概要及会計法規
7 企業会計と税務会計Ⅰ	会計法規と税務会計の関連
8 // Ⅱ	確定決算基準、国際会計と会社法・税法
9 課税所得Ⅰ	課税所得の特徴
10 // Ⅱ	課税所得の算出と税務調整
11 益金・損金Ⅰ	益金の内容及と計上原則
12 // Ⅱ	損金の内容及と計上原則
13 // Ⅲ	資産評価益・損
14 // Ⅳ	主要項目の益金・損金の概要
15 課税所得と税額の算出	計算練習

科目名	税務会計論Ⅱ			
09～11年度入学：税務会計論Ⅱ				
担当者	鈴木 明男 Akio Suzuki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

法人〔会社〕の課税所得と税額算出やその根底にある基礎理念を学ぶが、法人税法の特徴を知るためあわせて個人の課税関係〔所得税法〕も検討する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に授業を進めるが、近年法人税法を含め会計制度全般に極めて急速に変革が進められている。そのため、教科書の改訂を待つ時間的余裕がなく、口頭あるいはプリントを配布して教科書を補う。毎回、今回の授業の狙いと前回及び次回の授業の関連を説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験80% 授業内小テスト及び課題20%を目安とする。

■授業の予習・復習

特に会計関連資格の受験者には最近の出版物の予習・復習が望ましい。

■教科書

『セメスター法人税法』鈴木明男・鈴木豊 税務経理協会

■参考文献

『税務会計総論』富岡幸雄 森山書店

『体系法人税法』山本守之 税務経理協会

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	運営方針と講義の概要
2 所得税と法人税Ⅰ	所得税と法人税の特徴・差異
3 // Ⅱ	所得税と法人税の特徴・差異
4 会社法決算と課税所得	確定決算基準と課税所得の算出
5 益金各論Ⅰ	売上と益金
6 // Ⅱ	その他の収益と益金
7 損金各論Ⅰ	売上原価、減価償却費と損金
8 // Ⅱ	給与、交際費と損金
9 // Ⅲ	租税公課、貸倒損失と損金
10 // Ⅳ	その他の諸費用と損金
11 資産	資産の計上と評価益・損の取扱
12 引当金、準備金	税法上と会計上の引当金・準備金
13 資本・課税所得と税額	資本及課税所得、税率、欠損金の繰越、繰戻し
14 申告等	申告、更正・決定、修正、附帯税、不服申立
15 課税所得と税額の算出	計算練習と解説

科目名	中小企業論 I			
09～11年度入学：中小企業論 I				
担当者	岸本 太一 Taichi Kishimoto			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは二つあります。一つは、中小企業の‘経営戦略面’を分析するための基礎的な理論的枠組みを理解することです。もう一つは、日本の製造業中小企業の現状と歴史に触れることです。到達目標は、講義で紹介した理論を用いて、自力で中小企業の基礎的な分析ができるようになる点にあります。

■授業の進め方（履修条件等）

講義内容は大きく2つに分かれます。一つは、理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論に関連する中小企業の事例を紹介するという内容です。この二つの内容を交互に進めていきます。

■成績評価方法・基準

中間レポート（40%）、期末レポート（40%）、出席（20%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。
復習：講義で板書したノートを再読することをお勧めします。

■教科書

教科書は使用しません。

■参考文献

伊丹敬之著『経営戦略の論理 第3版』日本経済新聞社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2 中小企業のマーケティング①	理論編
3 // ②	事例編
4 中小企業の競争戦略①	理論編
5 // ②	事例編
6 中小企業の事業システム①	理論編
7 // ②	事例編
8 中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション
9 中小企業の事業転換①	理論編
10 // ②	事例編
11 中小企業の国際化①	理論編
12 // ②	事例編
13 日本中小企業の存続戦略①	国内中小企業の存続実態
14 // ②	国内長期存続中企業の生き残りパターン①
15 // ③	// ②

科目名	中小企業論 II			
09～11年度入学：中小企業論 II				
担当者	岸本 太一 Taichi Kishimoto			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは二つあります。一つは、中小企業の‘オペレーション面’を分析するための基礎的な理論的枠組みを理解することです。もう一つは、日本の製造業中小企業の現状と歴史に触れることです。到達目標は、講義で紹介した理論を用いて、自力で中小企業の基礎的な分析ができるようになる点にあります。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では「理論に関するレクチャー」と「紹介した理論に関連する中小企業の事例を紹介する」という二つの内容を交互に進めていきます。なお、本講義では千葉県庁担当者による講義が一回含まれます。

■成績評価方法・基準

中間レポート（40%）、期末レポート（40%）、出席（20%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。
復習：講義で板書したノートを再読することをお勧めします。

■教科書

特定のテキストを使用しません。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2 中小企業の生産管理①	コストと生産性の管理
3 // ②	納期、工程、品質の管理
4 // ③	フレキシビリティの確保、設備の管理
5 中小企業の研究開発①	開発期間とその短縮
6 // ②	開発コスト・開発生産性とその向上
7 県庁担当者による講義	千葉県の中小企業振興施策
8 中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション
9 中小企業への政策支援	中小企業への政策支援の歴史の変遷
10 中小企業の存続と成長①	中小企業が大企業へと成長するための条件と論理
11 // ②	長期存続という企業目的、成長と存続のトレードオフ
12 サプライヤーシステム論①	日本の自動車産業のサプライヤーシステム
13 // ②	グローバル化とサプライヤーシステム
14 産業集積論①	集積の存続の論理
15 // ②	日本国内の産業集積の変容

■参考文献

藤本隆宏著『生産マネジメント入門 I【生産システム編】』
および『生産マネジメント入門 II【生産資源・技術管理編】』
日本経済新聞出版社

科目名	地域産業論			
09～11年度入学：地域産業論				
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

地域で生まれた地域産業は地元との関係が密接ですが、他地域から進出してきた企業も地元と様々な関係を有しています。この講義では特に千葉県に重点を置きながら、地域の中で産業がどのように成立し、地域とどのような関係を有しているのか等について考えます。千葉県の産業について正しく理解できるようになることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

前半では、他県を事例にして地域と産業の関係や、地域産業の成立・発展について検討します。後半では、千葉県を事例に特に工業の成立や特徴について検討します。なお、千葉県庁の担当者による経済政策の説明が2回行われる予定です。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、平常点（50%、コメントカードの内容による）から評価します。

■授業の予習・復習

参考文献や新聞、ウェブ検索などで授業に出てくる地域の産業を調べておく。授業後は配布プリントやノート等で理解を深めること。

■教科書

使用しません。プリントを配布します。

科目名	観光事業論 I			
09～11年度入学：観光事業論 I				
担当者	奥山 隆哉 Takaya Okuyama			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

今世紀は地球規模で人的交流が劇的に増加し、世界的な観光交流の時代になると言われており、特にアジアが大きなウェイトを占めると期待されている。その中で、日本政府は観光立国を国の重要施策とすると共に、新成長戦略の柱として観光振興を推進している。経済的、社会的、文化的に様々な効果が期待できる観光・ツーリズムに関わる観光事業はますます産業としての重みを増してくる。当授業では、まず、観光の基礎をしっかりと理解し、次に観光事業の要となる旅行事業について学習する。

■授業の進め方（履修条件等）

説明にパワーポイントを用いて授業を進める。

■成績評価方法・基準

定期試験による配点 概ね3分の2、クラス参加度による配点 概ね3分の1とする。

■授業の予習・復習

予習：旅行社、ホテル/旅館、航空会社等観光産業および国・自治体の観光施策等に関する新聞記事などを見つけ、目を通しておく。

復習：配布プリントに目を通す。

■教科書

毎回プリントを配布する。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、参考文献解説
2 地域産業を取り巻く環境	経済のグローバル化、政府の政策
3 地域と産業の関係(1)	三重県四日市市における大企業工場の進出
4 // (2)	静岡県東伊豆町における観光産業
5 地域産業のグローバル化	浜松市における楽器工業とオートバイ工業
6 大都市における地場産業	名古屋市の仏壇産業
7 地方における地場産業	高山市と旭川市の家具工業
8 千葉県の産業概況	農業、水産業、工業の全国における位置づけ
9 首都圏における千葉県の工業	東京都、神奈川県、埼玉県や北関東諸県と比較して見られる特色
10 県庁担当者による講義(1)	千葉県の元気な地域・企業づくり
11 // (2)	アクアラインや成田空港を活用した地域活性化戦略
12 千葉県各地の工業(1)	京葉臨海地域の工業の特色
13 // (2)	京葉内陸地域の工業の特色
14 // (3)	房総東部地域の工業の特色
15 まとめ	授業内容のまとめ

■参考文献

伊藤正昭『地域産業論』学文社
青木英一・仁平耕一編
『変貌する千葉経済ー新しい可能性を求めてー』白桃書房
山崎 充『豊かな地方づくりを目指して』中公新書

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス	前期の授業内容の概要の説明
2 観光全般 1 (観光の現状)	国内旅行・訪日旅行・海外旅行の現状、世界の観光の現状
3 // 2 (観光の意義と概念)	観光の意義、定義、観光の構成要素
4 観光事業の基盤 1 (観光生産物他)	観光行動、観光生産物、観光サービスの特性、観光産業の特性
5 // 2 (役割と機能)	観光の5つの効果、観光消費額、経済規模、地域活性化
6 観光の発展過程 (日本)	1 古事記、伊勢参り、奥の細道、高度成長期の観光
7 // 2 (世界)	2 ミトコンドリアイブ、人類の旅、近代ツーリズム、マスツーリズム
8 観光マーケティング 1 (基礎)	マーケティングとは、観光マーケティングの特徴、マーケティング活動の実際
9 // 2 (観光マーケットの動向)	2 国民の余暇活動、国内旅行市場、海外旅行市場、訪日旅行の市場
10 旅行事業 1 (旅行業の発展)	1 旅行業の登場・発展、鉄道・航空・宿泊代理店から旅行企画会社へ、旅行社の形態と今後の適応
11 // 2 (旅行業の経営)	2 旅行の変化と旅行会社の対応、流通の変化と店舗
12 // 3 (旅行業の価値と役割)	3 時代の変遷と「情報」「流通」「集客・交流」の価値
13 // 4 (情報化社会の進展と旅行業)	4 観光情報の流通と旅行者の意思決定、旅行業の緊張関係
14 // 5 (旅行取引と消費者)	5 旅行業法、約款と旅行取引、ネット取引、消費者保護
15 リキャップ	本授業の整理と主要な点についての復習

科目名	観光事業論Ⅱ			
09～11年度入学：観光事業論Ⅱ				
担当者	奥山 隆哉 <i>Takaya Okuyama</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

観光事業は世界的規模で高い成長が期待されている産業分野であるが、日本の観光産業の国際競争力は必ずしも強いとは言えない。日本経済がグローバル化する中で、「観光立国」を柱とする国の観光政策の展開、グローバル化に対応する宿泊、航空等の事業の状況や事業運営の基礎となる事項を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

パワーポイントを使用して授業を進める。

■成績評価方法・基準

定期試験による配点 概ね3分の2、クラス参加度による配点 概ね3分の1とする。

■授業の予習・復習

予習：ホテル/旅館、航空会社、旅行会社等の観光産業および国・自治体の観光施策等に関する新聞記事などを見つけて、目を通しておく。

復習：配布プリントに目を通す。

■教科書

毎回プリントを配布する。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 概要説明	授業の狙い、進め方、全体構成
2 観光立国 1 (観光政策)	日本の観光政策の変遷 (明治、戦後、万博、高度成長期)、観光立国推進基本法、経団連等の取組み
3 // 2 (インバウンド)	観光立国推進基本計画、外国人訪日旅行
4 // 3 (国際観光)	国際観光、国の観光競争力
5 宿泊産業 1 (宿泊業)	ホテルの発展史、旅館の歴史、宿泊産業の動向、宿泊産業の特性
6 // 2 (ホテル業)	ホテルの機能と業務、ホスピタリティマネジメント、ホテルビジネスの契約形態
7 // 3 (旅館業)	旅館の特質と課題、生き残り戦略、ホスピタリティマネジメント
8 航空産業 1 (航空業全般)	民間航空の歴史、世界の航空市場とプレイヤー、航空業の特性
9 // 2 (航空政策と空港)	空港と地域、空の自由、アジアゲイトウェイ構想
10 // 3 (航空経営)	航空会社の経営、アライアンス
11 // 4 (新しい変化)	チャーター規制緩和、LCC (ローコストキャリア)
12 様々な観光事業 1 (地域活性化と観光事業)	地域活性化の事例、東京都・沖縄県・千葉県観光推進計画、着地型観光と旅行業の役割、観光ビジネスとまち起こし
13 // 2 (ニューツーリズム)	様々なニューツーリズム、医療観光の課題
14 // 3 (ビジネスイベント)	MICE (ミーティング、インセンティブトラベル、コンベンション、エグジビジョン・イベント)
15 リキャップ	本授業の整理、主要な点についての復習

科目名	サービス産業論			
09～11年度入学：サービス産業論				
担当者	金 珍淑 <i>Kim Jinsuk</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

サービス産業はすでに日本経済において大きなウェイトを占めています。本講義では、戦後日本経済においてみられた産業構造の変化を概観しながら、サービス産業の成長と現状、その課題について学びます。また、サービスにかかわるマーケティングについての理解を深めます。

■授業の進め方（履修条件等）

サービス産業論とITサービス産業論を合わせて受講することをお勧めします。講義形式で理論とケースを学びます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。

■成績評価方法・基準

中間レポート (30%)、定期試験 (60%)、出席 (10%) で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。

復習：前回の講義資料を再読しておくことをお勧めします。

■教科書

特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明
2	サービス産業とは
3 イントロダクション	経済のサービス化で変わるビジネスと消費者
4 産業構造の変化	産業構造からみた戦後日本経済の変遷
5	構造改革のもとでの産業構造の変化
6	サービス産業の新たな展開
7 サービス産業の展開	日本経済におけるサービス産業の役割
8	地域サービス産業の展開
9	サービス・マーケティングとは
10	モノとサービスはどこが違うのか
11	サービス品質の考え方
12 サービス・マーケティング	サービス商品のプロモーション
13	サービス・エンカウンター管理
14	インターナル・マーケティング
15	リレーションシップ・マーケティング

■参考文献

飯盛信男『構造改革とサービス産業』青木書店、2007年。

山本昭二『サービス・マーケティング入門』

日本経済新聞出版社、2007年。

科目名	地域企業会計論			
09～11年度入学：地域企業会計論				
担当者	高橋 隆明 <i>Takaaki Takahashi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

地域の中堅企業の企業会計を念頭に置き、制度会計と会計理論の違いを明らかにしつつ財務諸表の表す意味・内容を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

特に資産と負債の時価評価に着目し、社会問題でもある不良債権について発生の原因を探るとともに、解消方法も明らかにする。実務的な問題も具体的に取り上げることで、地域企業における会計を広く理解する。

■成績評価方法・基準

定期試験（10%）・授業内小テスト（40%）・レポート及びその他の課題（50%）

■授業の予習・復習

予習：必要なし
復習：授業内容を復習すれば足りる

■教科書

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

必要に応じてコピーを配布する。

科目名	スポーツ科学概論			
11年度入学：スポーツ科学概論				
担当者	藤田 明男 <i>Akio Fujita</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

スポーツ産業に関わろうとする学生を対象に、スポーツに関する基礎的な科学的知見について学習する。

■授業の進め方（履修条件等）

可能な限り視聴覚教材を用いて授業を展開していく。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（10%）・出席（40%）

■授業の予習・復習

予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用すること必要。
復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットを利用すること必要。

■教科書

なし

■参考文献

別途指示

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	地域企業の概要	地域企業会計とは何か。経営成績とは何か
2	財務諸表の意味	財務諸表の種類と内容。P/L、B/Sの表す意味
3	損益計算書（総論）	経営成績について会計学の立場から理解する
4	〃（各論）	収益・費用のとらえ方を会計学の立場から理解する
5	貸借対照表（総論）	財政状態について、会計学の立場から理解する
6	〃（各論）	資産・負債・資本のとらえ方を理解する
7	キャッシュフロー会計	キャッシュの動きに着目して財務諸表を理解する
8	財務諸表の読み方	実際の財務諸表を理解する
9	経営指標	経営指標の意味を理解する
10	資産・負債の時価価値	簿価と時価の違いを理解する
11	信用リスクとは	地域企業における信用リスクとは何かを理解する
12	不良債権の実態	不良債権の発生原因、解消方法を明らかにする
13	借入金過剰企業の問題	借入金過剰の地域企業の問題を明らかにする
14	経営破綻と企業倒産	経営が破綻する地域企業の問題を明らかにする
15	まとめ	講義全体のまとめと試験（レポート）対策

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の詳細説明
2	運動生理学（1）	筋・骨格系の生理学
3	〃（2）	心肺系の生理学
4	〃（3）	トレーニングの理論
5	スポーツ栄養学	身体づくりと栄養源としての栄養
6	スポーツ医学（1）	スポーツ外傷・障害
7	〃（2）	スポーツ外傷・障害の予防と応急処置
8	スポーツ心理学（1）	運動学習とスポーツパフォーマンス
9	〃（2）	パーソナリティとスポーツパフォーマンス
10	〃（3）	スポーツ指導の心理学
11	スポーツ力学	運動のバイオメカニクス
12	スポーツコンディショニング	コンディショニングの理論
13	スポーツコーチング	スポーツコーチングの理論
14	スポーツ法学	スポーツと法
15	まとめ	総括

科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ			
11年度入学：生涯スポーツ実習Ⅰ				
担当者	藤田 明男 Akio Fujita			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

社会人を対象とした調査で常に上位に位置されるゴルフを教材として、生涯スポーツの基盤づくりをめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

学内（敬愛アリーナ）で基礎知識の学習と基礎技術の実習および学外（ショートコース）で2泊3日の実習を行う。運動着および運動靴（赤い靴紐を右靴につけたもの）を必ず着用する。学外実習の詳細については別途指示する。

■成績評価方法・基準

出席状況（50%）、知識テスト（25%）、実技テスト（25%）

■授業の予習・復習

予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで予備知識を得ておくことが大切。

復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで学習内容を確認することが大切。

■教科書

なし

■参考文献

別途指示

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業に関する詳細説明等
2		パッティング
3		チップング+パッティング
4	ゴルフの基礎技術	ショット（サンドウェッジ）
5		ショット（ピッチングウェッジ）
6		ショット（9アイアン）
7	ゴルフの基礎知識	エチケット、マナー、用語について
8		競技規則について
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	生涯スポーツ実習Ⅱ			
11年度入学：生涯スポーツ実習Ⅱ				
担当者	藤田 明男 Akio Fujita			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

社会人を対象とした調査で常に上位に位置されるゴルフを教材として、生涯スポーツの基盤づくりをめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

学内（敬愛アリーナ）で基礎知識の学習と基礎技術の実習および学外（本コース）で2泊3日の実習を行う。運動着および運動靴（赤い靴紐を右靴につけたもの）を必ず着用する。学外実習の詳細については別途指示する。

■成績評価方法・基準

出席状況（50%）、知識テスト（25%）、実技テスト（25%）

■授業の予習・復習

予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで予備知識を得ておくことが大切。

復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで学習内容を確認することが大切。

■教科書

なし

■参考文献

別途指示

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業に関する詳細説明等
2		7アイアン+パッティング
3	ゴルフの打法技術	5アイアン+チップング
4		3W（スプーン）
5		1W（ドライバー）
6		ゴルフコースについて
7	ゴルフ競技の概要	用具の基礎知識について
8		競技法について
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	スポーツビジネス論		
11年度入学：スポーツビジネス論			
担当者	二宮 雅也 Masaya Ninomiya		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

近年のグローバル化の進展は、スポーツを取り巻く構造を大きく変化させた。特に、情報技術の進展は、スポーツとメディアの結びつきを大きくし、メディアビジネスによってスポーツがコントロールされる状況にまで至っている。こうしたビジネスコンテンツとしてのスポーツの様相を批判的に検討しながら、スポーツビジネスの本質と多様性について授業を展開する。

■授業の進め方（履修条件等）

スポーツ産業の構造、健康産業の構造、スポーツ・健康政策の変容等をマネジメントの観点からケーススタディを通じて学習し、実践力を養う内容構成にする。

■成績評価方法・基準

試験 70% 授業内リアクションペーパー 30%

■授業の予習・復習

新聞や雑誌のスポーツビジネスに関する情報に注目してください。

■教科書

テキストは使用せず、授業内のスライドにより解説します。

■参考文献

実践から読み解くスポーツマネジメント 加藤清孝編著
晃学出版

科目名	スポーツ産業論		
11年度入学：スポーツ産業論			
担当者	二宮 雅也 Masaya Ninomiya		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	2年以上	

■授業のねらいと到達目標

私たちは、産業化されたスポーツを消費することによりスポーツを身近なものとして捉えている。テレビでスポーツを観戦したり、スポーツウェアを着てジョギングをしたり、ボーリング場で遊んだりする。こうした現象は、スポーツが産業化したことにより可能になった。この授業では、現代社会におけるスポーツの展開を産業論の視点から整理し、今後のスポーツ産業を展望する。

■授業の進め方（履修条件等）

スポーツ産業の構造、健康産業の構造、スポーツ・健康政策の変容等をマネジメントの観点からケーススタディを通じて学習し、実践力を養う内容構成にする。

■成績評価方法・基準

試験 70% 授業内リアクションペーパー 30%

■授業の予習・復習

自分とスポーツ産業の身近な関わりについて整理してください。
(例：ボーリング場、フットサルコート、公営の体育館・プール・野球場、フィットネスクラブ等)

■教科書

テキストは使用せず、授業内のスライドにより解説します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 消費社会とスポーツ	現代社会における消費構造について
2 サッカービジネス	グローバル化するサッカービジネス
3 オリンピックビジネス	オリンピックの商業化について
4 ベースボールビジネス	大リーグの戦略について
5 Jリーグのマーケティング	Jリーグの成り立ちと展開
6 プロ野球ビジネス	プロ野球の地域戦略について
7 ゴルフビジネス	ゴルフを取り巻く産業構造
8 テニスビジネス	スポーツ指導サービスの実態
9 健康ビジネス	フィットネス産業について
10 スポーツコミッション	地域経済とスポーツ
11 グループワーク 1	課題別討論
12 グループワーク 2	課題別討論
13 グループワーク 3	課題別討論
14 スポーツのビジネス化の功罪	スポーツ格差を考える
15 まとめ	スポーツビジネスのこれから

■授業内容

授業項目	授業内容
1 現代スポーツの特徴	スポーツ文化の構造
2 スポーツ産業の歴史	スポーツ産業史について
3 スポーツ産業の広がり	スポーツ文化を考える
4 スポーツ産業の構造	スポーツ産業の分野について
5 グループワーク 1	課題別討論
6 スポーツ指導サービス	スポーツ指導の産業化
7 スポーツマネジメント	スポーツのマネジメントとは
8 政策とスポーツ	スポーツを取り巻く政策について
9 メディアとスポーツ	スポーツとメディアの関係性
10 インターネットとスポーツ	ITスポーツのはじまり
11 グループワーク 2	課題別討論
12 スポーツ産業のグローバル化	世界規模で広がるスポーツビジネス
13 スポーツ産業の近未来	これからのスポーツ産業の方向性
14 グループワーク 3	課題別討論
15 まとめ	スポーツ産業の功罪

■参考文献

実践から読み解くスポーツマネジメント 加藤清孝編著
晃学出版

科目名	流通情報論			
09～11年度入学：流通情報論				
担当者	畢 滔滔 Taotao Bi			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

売れ筋商品の欠品と死に筋商品の在庫増大の問題は、メーカーと流通業者が直面しているもっとも大きな問題となっている。この問題を解決する1つの取り組みは、新しい情報処理システムの活用である。この授業では、日本の大量生産・大量流通システムが直面している問題を紹介した上で、POS、EOS、サプライチェーン・マネジメントなど流通業における情報化の進展を説明する。

■授業の進め方（履修条件等）

この科目を履修するには、「流通論」を履修したことが望ましい。この授業は講義を中心に進めていく。講義では、パワーポイントを用いて授業内容を説明する。学生には学んだ内容をノートにまとめてもらう。講義内容に関する資料も毎回配布する。また、講義時間中にレポートを2回作成してもらい、小テストを数回行う。

■成績評価方法・基準

定期試験、レポート、出席および授業内小テストで総合評価する。レポート作成と小テストを講義時間中行うため、授業に出席することが重要である。

■授業の予習・復習

予習：レポートの作成を講義時間中行うため、講義時間外でのレポート資料の準備が必須となる。

復習：小テストを講義時間中行うため、講義時間外での復習が必須となる。

科目名	企業と産業組織 I			
09～11年度入学：産業組織論 I				
担当者	森谷 英樹 Hideki Moriya			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

通常の経済学では、個人や企業などの経済主体が、あたかもバクテリアのように平均的均一的であるかのように前提を置く。産業組織論では様々な規模と個性を持つ企業が、時に競争的に時に協動的に行動することに注目する。

■授業の進め方（履修条件等）

板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識（理論）、過去の経験（歴史的な事実）、現状と問題点（政策課題）など分かりやすく説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験90%、出席10%

試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。

■授業の予習・復習

予習：授業の始めに前回の復習をする。

復習：終わったあと分からないことについて質問を認める。

■教科書

使用しない。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業内容の説明、レポートの書き方
2 日本の流通	大量生産・大量流通
3 日本の流通	日本型流通システム
4 延期-投機原理	延期-投機原理
5	POSシステムの仕組み
6 POSシステム	POSデータの活用
7	事例分析:店頭品揃え施策のための顧客データ活用
8	EOSの仕組み
9 EOSシステム	小売業の発注システム、卸売業の受注システム
10 製販統合	製販統合
11	サプライチェーン、サプライチェーン・マネジメントの目的
12 サプライチェーン・マネジメント	サプライチェーン・マネジメントの導入
13	事例研究:しまむらのサプライチェーン・マネジメント
14 ソーシャルメディア	ソーシャルメディアとマーケティング
15 まとめ	講義内容のまとめ

■教科書

指定しない。

■参考文献

ポール・ウェスターマン (2003)

『ウォルマートに学ぶデータ・ウェアハウジングー流通業界“巨人”の躍進を支える情報基盤の全貌』翔泳社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方
2 生産性とは何か?	豊かな社会は何故可能か、落花生のケース
3 産業組織の必要性	相互依存関係と産業組織、産業組織の決定
4 ミクロ経済と産業組織	付加価値を増やすために
5 アパレル産業のケース	売れる商品を調達する仕組みをどうする
6 中間とりまとめ	市場か、社内か、系列取引先か
7 市場構造①	アタリ社
8 // ②	ロックフェラーのスタンダード石油
9 // ③	スタンダード石油の分割命令
10 独占禁止法とその運用	八幡・富士合併と公正取引委員会
11 巨大合併の審査	新日本製鉄の誕生
12 供給責任と日本企業	住友化学の事故
13 ケーススタディ①	事例研究とその要点
14 // ②	//
15 試験対策	復習

■参考文献

R. ケイヴス「産業組織論」東洋経済新報社

科目名	企業と産業組織Ⅱ			
09～11年度入学：産業組織論Ⅱ				
担当者	森谷 英樹 <i>Hideki Moriya</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

通常の経済学では、個人や企業などの経済主体が、あたかもバクテリアのように平均的均一的であるかのように前提を置く。産業組織論では様々な規模と個性を持つ企業が、時に競争的に時に強制的に行動することに注目する。

■授業の進め方（履修条件等）

板書と説明をノートにとりまとめる形で進める。教科書はないが随時プリントを配布して教材にする。基礎的な常識（理論）、過去の経験（歴史的な事実）、現状と問題点（政策課題）など分かりやすく説明する。

■成績評価方法・基準

定期試験90%、出席10%
試験では自筆ノートのみ持ち込み可。ノートがなければ合格は困難であろう。

■授業の予習・復習

予習：授業の始めに前回の復習をする。
復習：終わったあと分からないことについて質問を認める。

■教科書

使用しない。

科目名	消費者行動論			
09～11年度入学：消費者行動論Ⅰ				
担当者	藤井 輝男 <i>Teruo Fujii</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

購買→使用→廃棄にいたる消費過程、消費者の動向および消費者をとりまく文化要因など、消費者行動に関する基礎知識を修得し、消費者行動を心理学的に理解することを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に則して、消費者行動に関する基礎知識を概説する。必要に応じてビデオやパワーポイントでの説明も行う。

■成績評価方法・基準

試験（80%）、その他の課題（20%）

■授業の予習・復習

事前に教科書を読んで授業に臨むこと。

■教科書

杉本徹雄編著（1997）『消費者理解のための心理学』福村出版

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業の概要と目標	講義の聞き方、ノートのとり方、まとめ方
2	設備投資と技術進歩	経済成長と賃金、付加価値の増加
3	日本の経済成長	無資源の優位性、自由貿易と比較優位
4	技術進歩と経済成長	鉄鋼と自動車、新鋭工場と輸出
5	産業組織とケイレツ	部品産業の育成、系列取引は合理的か
6	対米産業政策	自動車産業政策、小型車戦略、現地生産
7	産業技術と産業政策	電子工業の産業組織
8	イノベーション	新しい商品開発、価格低下と大量生産
9	中間とりまとめ	企業行動、競争と協力、多国籍生産
10	空洞化論	付加価値と分業と貿易
11	系列取引とサプライチェーン	取引コストの低減
12	産業組織と環境問題	家電リサイクル法、PPP、RRR
13	ケーススタディ①	事例研究とその要点
14	//	② //
15	試験対策	復習

■参考文献

清成、下川『現代の系列』日本産業評論社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2	消費者行動の概要 1	消費者行動への心理学的アプローチ
3	消費者行動の概要 2	消費者行動とマーケティング
4	購買意思決定 1	問題解決過程としての購買意思決定
5	購買意思決定 2	フレーミング効果について
6	情報探索と選択肢評価 1	消費者の情報検索について
7	情報探索と選択肢評価 2	意思決定に関する選択肢評価と決定方略
8	購買決定後の過程	消費者の満足、不満足について
9	消費者の態度形成と変容	説得的コミュニケーションについて
10	消費者の関与	購買と関与について
11	消費者の個人特性	消費者のライフスタイルと消費者行動の関係
12	消費者行動と状況的要因	消費者行動に影響を及ぼす様々な状況について
13	対人・集団の要因	口コミや情報の伝播について
14	文化的要因	サブカルチャーと消費者行動
15	まとめ	まとめと講義全般に関する質疑、試験に関する説明

科目名	サイバー刑法			
09～11年度入学：サイバー刑法				
担当者	山内 義廣 <i>Yoshihiro Yamauchi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

今やサイバー機器なくして、世界経済活動は成り立たない。このような状況の中で、本講義は、サイバー機器を使用して行われる犯罪に対する国際社会の取り組みやその処罰の方法を理解し、その上で、将来の自分自身の経済活動に役立てることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

講義スケジュールにしたがって、授業項目の内容を講義を通じて習得させる。その際、板書をしながら細かい説明を加え、時には、コピーした資料を配布したりして、理解させるよう努力する。また、学生の理解度をはかるため、小テストを実施し、知識の確認を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50％）・授業内小テスト（20％）・レポート（25％）・その他（5％）

■授業の予習・復習

予習：シラバスに示している講義スケジュールにしたがって、教科書をしっかり読むこと。
復習：授業の内容（配布資料も含む）を復習し、教科書のその部分をしっかり読み総合的に理解すること。

■教科書

中山研一他著 『新経済刑法入門』 成文堂出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 サイバー犯罪に対する国際社会の対応	サイバー犯罪に関する国際間の条約と各国の国内法
2 国際犯罪に対する国際法上の諸原則	捜査および裁判に関する諸原則
3 サイバー条約の概要(1)	サイバー条約の意味とその性格
4 " (2)	サイバー条約の内容と国際協力
5 コンピュータ犯罪(1)	コンピュータ犯罪の意味とその性格
6 " (2)	コンピュータ犯罪の態様とその利益保護
7 カード犯罪(1)	キャッシュカードをめぐる犯罪
8 " (2)	クレジットカードおよびプリペイドカードをめぐる犯罪
9 証券取引をめぐる犯罪(1)	相場・株価操作に関する犯罪
10 " (2)	インサイダー取引に関する犯罪
11 知的所有権に関する犯罪(1)	知的所有権の意味とその性格
12 " (2)	知的所有権の態様とその利益保護
13 関税および対外取引をめぐる犯罪	関税法罰則および外為法罰則の概要
14 マネーロンダリングの法的規制(1)	マネーロンダリング規制の歴史
15 " (2)	マネーロンダリングの態様とその利益保護

■参考文献

小林敬和著 『経済刑法の理論と現実』 徳山大学総合研究所刊

科目名	外国経営書講読 I			
09～11年度入学：外国経営書講読 I				
担当者	黄 和秀 <i>Kazuhide Ko</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

講義は、マーケティングの基本的な考え方が書いてあるテキストを選定し、その一部分を学生さんと翻訳や議論をする。内容は極めてやさしくて親切であるが、ただし、学生さんは予習をしないと難しく、内容が理解できないところがあると思う。学生さんは、この授業を通じて英語の専門書に対する用語やテクニックを覚えて、社会人になっても自信を持って英文書に接するよう、お互いに頑張りましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

先生による翻訳や説明があり、特にマーケティングとのかかわりで詳細な説明を行う。学生さんには専門用語に対する習得や、マーケティングとの繋がりを拡散的に覚えることになるでしょう。

■成績評価方法・基準

試験10％、出席90％
ただし、出席が50％に満たない学生は評価しない。

■授業の予習・復習

予習をしっかりと欲しい。

■教科書

最初の授業でプリントを配ります。

■参考文献

特に指定なし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1	プリントの内容に従って行います。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	外国経営書講読Ⅱ			
09～11年度入学：外国経営書講読Ⅱ				
担当者	黄 和秀 Kazuhide Ko			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

講義は、マーケティングの基本的な考え方が書いてあるテキストを選定し、その一部分を学生さんと翻訳や議論をする。内容は極めてやさしくて親切であるが、ただし、学生さんは予習をしないと難しく、内容が理解できないところがあると思う。学生さんは、この授業を通じて英語の専門書に対する用語やテクニックを覚えて、社会人になっても自信を持って英文書に接するよう、お互いに頑張りましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

先生による翻訳や説明があり、特にマーケティングとのかかわりで詳細な説明を行う。学生さんには専門用語に対する習得や、マーケティングとの繋がりを拡散的に覚えることになるでしょう。

■成績評価方法・基準

試験10%、出席90%
ただし、出席が50%に満たない学生は評価しない。

■授業の予習・復習

予習をしっかりして欲しい。

■教科書

最初の授業でプリントを配ります。

■参考文献

特に指定なし。

科目名	企業倫理論			
09～11年度入学：企業倫理論				
担当者	川島 孝夫 Takao Kawashima			
対象学年	12年度入学		単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

企業活動は経済効率性のみを追求した20世紀と異なり、21世紀では「社会的責任を果たす（CSR）」ことが求められている。本講座では、21世紀に求められるCSR経営を企業倫理の視点で解説し、CSR視点の醸成を図る。

■授業の進め方（履修条件等）

「企業とは」「倫理とは」から始め、21世紀に存続するために不可欠な「企業倫理の確立」について味の素グループの事例紹介を中心に解説する。

■成績評価方法・基準

1. 毎週実施する小テスト
 2. 期末筆記テスト
- 以上を総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：配布教材の予習
復習：配布教材及び小テストの復習

■教科書

講師作成教科書（授業時配布）

■参考文献

特になし

■授業内容

授業項目	授業内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	プリントの内容に従って行います。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

■授業内容

授業項目	授業内容
1	ガイダンス 「企業倫理講義」の進め方説明
2	企業倫理の目的と定義 倫理とは、企業とは、企業倫理とはの理解
3	良い会社 良い会社とは？の理解
4	従業員からみでの良い会社 従業員からみて良い会社とは？
5	顧客・取引先・得意先から見ての良い会社 顧客・取引先・得意先から見て良い会社とは？
6	CSR経営と良い会社 社会から見て良い会社とは？
7	CSR経営（経済の側面） 財務諸表の見方・評価
8	（環境管理の側面） 地球温暖化防止への取組
9	（人・社会の側面） コーポレートガバナンス
10	（コンプライアンス） コンプライアンスー1
11	（ " " ） " - 2
12	（商法） 商法の大改訂の意味・目的
13	リスクマネジメント リスクマネジメントの目的・進め方概説
14	食の安全・安心 食の安全・安心の現状と課題
15	後期のまとめ 後期のまとめ

科目名	ITサービス産業論		
09～11年度入学：ITサービス産業論			
担当者	金 珍淑 Kim Jinsuk		
対象学年	12年度入学	3年以上	単位 2単位
	09～11年度入学		

■授業のねらいと到達目標

情報化社会の進展によってITサービス産業は事業規模を拡大させてきました。本講義では、戦後日本経済における産業構造の変化と情報化の流れを理解したうえで、近年のITサービス産業の動向について学びます。また、同業界の主要企業の事例を扱うことによってITサービス産業についての理解を深めてもらいます。

■授業の進め方（履修条件等）

サービス産業論とITサービス産業論を合わせて受講することをお勧めします。講義形式で理論とケースを学びます。パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で講義し、必要に応じて、ケース・スタディのためのビデオ教材を用います。

■成績評価方法・基準

中間レポート（30%）、定期試験（60%）、出席（10%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。
復習：前回の講義資料を再読しておくことをお勧めします。

■教科書

特にありません。毎回必要な資料を作成し講義します。

科目名	地域調査論		
09～11年度入学：地域調査論			
担当者	青木 英一 Hidekazu Aoki		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学		

■授業のねらいと到達目標

自治体職員や教員、企業の企画担当など、社会に出ると地域調査を行う機会が多くなります。そうした地域調査を行うときに役立つように、調査の視点や課題の設定方法、具体的な調査研究方法、調査後のまとめ方などについて研究します。この授業を通して、実際に地域調査ができるようになることが目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

工業やサービス業など具体的なテーマごとに、調査事例を基に調査方法などを説明していきます。ほぼ毎時間（合計10回）、理解度を確認するために、小テストを実施します。最後に、実際に地域調査を行い、レポートを提出してもらいます。

■成績評価方法・基準

レポート（50%）・授業内小テスト（50%）で総合的に評価します。小テスト合計が50点満点中15点を超えないと、レポートを提出できません。

■授業の予習・復習

新聞の経済欄、特に産業関係の記事に日頃から目を通しておくとともに、授業後はプリントや小テスト結果をよく検討しておくこと。

■教科書

使用しません。毎時間プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容、授業の進め方についての説明
2	ITサービス産業とは
3 イントロダクション	インターネット・バブルとITサービスの現状
4 産業構造の変化	産業構造からみた戦後日本経済の変遷
5	構造改革のもとでの産業構造の変化
6	ITサービス産業の展開
7 ITサービス産業の展開	ITサービス産業が抱える問題
8	世界のIT市場
9	大手SIベンダー (日立製作所、NEC、富士通)
10	ITホールディングス
11	伊藤忠テクノソリューションズ(CTC)
12 ケース・スタディ	NTTデータ
13	大塚商会
14	オービック
15	日本オラクル

■参考文献

佐藤博子『ITサービス 第2版（日経文庫 業界研究シリーズ）』
日本経済新聞出版社、2008年。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、小テストについて
2 地域と地域調査	地域とは何か、地域調査の意義
3 工業地域の調査(1)	機械工業地域の特質と研究視点
4 //	(2) 機械工業地域の調査方法
5 //	(3) 地場産業地域の特質と研究視点
6 //	(4) 地場産業地域の調査方法
7 農業地域の調査(1)	農業・農村構造の研究視点と調査方法
8 //	(2) 近郊農業・遠郊農業の研究視点と調査方法
9 商業地域の調査(1)	小売業の研究視点と調査方法
10 //	(2) サービス業の研究視点と調査方法
11 都市地域の調査(1)	都市化の研究視点と調査方法
12 //	(2) 都市構造の研究視点と調査方法
13 地域調査実践指導(1)	小テスト結果と地域調査の実施方法、 テーマ決定
14 //	(2) 地域調査の個別発表・改善指導(1次)
15 //	(3) 地域調査の個別発表・改善指導(2次)

■参考文献

科目名	都市地理学		
09～11年度入学：都市地理学			
担当者	永野 征男 Yukio Nagano		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位
	09～11年度入学		

■授業のねらいと到達目標

人間が創った最高の芸術品が「都市」だともいわれる。それほど、われわれが住む都市社会というのは、複雑ではあるが魅力的な地域でもある。人生の長い時間をそこで過ごす住民にとって、都市の社会環境を学ぶ必要性は、毎日の生活と直接に関係することが多く存在するからである。

■授業の進め方（履修条件等）

社会系の教職課程の履修者は、受講することが望ましい。講義は、毎回、一つの課題について説明する。必要な資料類は、授業の中で配布し、できるだけ視聴覚教材を使って進める。

■成績評価方法・基準

定期試験結果（70%）と、講義への出席状況（30%）を総合して評価する。

■授業の予習・復習

各時間ごとに、配布プリントとノートがセット（一体化）となるように、まとめることを期待する。

■教科書

永野征男・著『都市地理学研究ノート』富山房（2009刊）

■参考文献

各講義内容に関連する図書類は、授業中に紹介する。

科目名	都市環境とまちづくり		
09～11年度入学：都市環境とまちづくり			
担当者	永野 征男 Yukio Nagano		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位
	09～11年度入学		

■授業のねらいと到達目標

タイトルの「環境」とは、自然条件よりも、むしろ社会的な内容を指している。したがって「まちづくり」の方が中心課題である。いま全国で、それぞれの地元特性を活かした計画が動き出している。まず住んでいる地元を理解することから始まり、その特性を生かす施策づくりが急増してきた。そこで学問としては、どのような協力・提言ができるのだろうか。

■授業の進め方（履修条件等）

社会系の教職課程履修者は、受講することが望ましい。授業では、配布プリント類や視聴覚教材を使い、事例として取り上げる各地の実態を理解しやすいように努める。講義の内容は現代的な課題が中心である。

■成績評価方法・基準

定期試験結果（70%）に出席状況（30%）を加味し、総合的に評価する。

■授業の予習・復習

前期開講科目：「都市地理学」の受講を希望する。

■教科書

永野征男・著『都市地理学研究ノート』富山房（2009刊）

■参考文献

講義の進度に合わせて、重要な図書を授業中に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業内容についてのガイダンス	全15回の講義についての概要説明
2	身近な都市生活での話題①	住所・番地の決め方とマニュアル
3	// ②	どこまでが「都市」の範囲か
4	日本の都市の特徴	世界の主要な都市との比較
5	歴史的に注目した都市発展①	古代人の考えた「平安京」の都市計画
6	// ②	近世城下町の都市構造からの特色
7	// ③	巨大な城下町「江戸」の都市計画
8	都市の形態に着目①	世界の都市を都市構造上から解説
9	// ②	シカゴ（USA）の都市構造に注目
10	都市の果たす役割①	住宅地化による都市の拡大
11	// ②	海外でのニュータウン計画の発祥
12	// ③	日本の都市近郊の開発と課題
13	// ④	巨大開発計画：多摩ニュータウン過去と現在
14	海外の都市の実態と課題	都心地区の空洞化とスラム
15	まとめ	地理学からみた都市研究の特徴

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義全体のガイダンス	授業内容の解説と注意点
2	世界的な視野からみた日本の都市	アジア諸国と異なる特徴
3	日本特有の都市発展	都市化スピードの早さを計測
4	都市の発展を分析する手法①	整備された人口統計からの処理
5	// ②	土地利用の驚異的な変化
6	// ③	都市内部での農業問題
7	// ④	いわゆる都市農業の実態
8	町づくり政策と関連法①	市民生活と都市計画法
9	// ②	最強の土地区画整理法の難解度
10	// ③	歴史的風土の保全と古都保存法
11	// ④	最新の景観3法とは
12	近世都市からの発展事例	地方城下町：川越市の実態
13	歴史的風土の保全事例	先進地としての近江八幡市
14	中世都市の事例	世界遺産をみぞす鎌倉市の問題点
15	まとめ	専門的知識と町並み保全

科目名	企業再生論		
09～11年度入学：企業再生論			
担当者	高橋 隆明 <i>Takaaki Takahashi</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学		

■授業のねらいと到達目標

ベンチャー企業の経営にあたっては、企業を起業することから始まる。さらに企業経営に行き詰った場合には企業の再編という形で起業することもある。中堅企業を念頭に置き企業再生の基本を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

会社法を念頭に置き、会計学の立場から企業再生にかかわる実務的な問題を明らかにする。法的側面と会計的側面の双方を重視しながら、実社会で役立つ知識の習得を目指す。

■成績評価方法・基準

定期試験（10％）・授業内小テスト（40％）・レポート及びその他の課題（50％）

■授業の予習・復習

予習：必要なし
復習：授業内容を復習すれば足りる

■教科書

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

「法的整理に頼らない事業再生のすすめ」
ファーストプレス、高橋隆明
必要に応じてコピーを配布する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	起業とは何か	起業にあたっての会計的側面と法的側面を整理する
2	起業にあたっての会計的問題	起業にあたっての会計的問題を明らかにする
3	起業にあたっての法的問題	起業にあたっての法的問題を明らかにする
4	再生にあたっての収益と費用	企業再生にかかわる収入と費用を理解する
5	再生にあたっての資産と負債	企業再生にかかわる資産と負債を理解する
6	再生と起業の関係	企業再生と起業との関係を明らかにする
7	会社分割と事業譲渡、会社譲渡	企業再生の方法を具体的に整理する
8	法的整理（破産と再生）	破産と再生の法的手続を理解する
9	私的整理（任意整理）	私的整理の実態を明らかにする
10	不確実性と期待効用仮説	企業再生に関わる不確実性を考える
11	情報の非対称性	情報の非対称性がもたらす問題と解決策を探る
12	再生の成功例	再生の成功例について原因を探る
13	再生の失敗例	再生の失敗例について原因を探る
14	企業再生シミュレーション	企業再生のシミュレーションを行う
15	まとめ	講義全体のまとめと試験（レポート）対策

科目名	労働法Ⅱ		
09～11年度入学：労働法Ⅱ			
担当者	高橋 良裕 <i>Yoshihiro Takahashi</i>		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学		

■授業のねらいと到達目標

労働基準法の基本的な枠組の理解を図りつつ、限られた時間の中で、個々の問題に対しアプローチする思考力を養うことを目指したいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

労働基準法の制度と解釈論を同法の基本的な枠組みや関係者の利益調整という視点を示しつつ解説を行いたいと思います。また、近年の社会情勢を受けた労働法の改正の動きについても、このような視点からできるだけフォローしたいと思います。

■成績評価方法・基準

定期試験（80％）・出席（20％）・レポートは救済措置とします。骨太な考え方が身に付いているかを重視して評価を行います。

■授業の予習・復習

レジュメの項目から予め流れを掴み、授業のメモ・教科書等を参照しつつ理解を深めて欲しいと思います。

■教科書

新世社「ライブラリ法学基本講義 労働法」（土田道夫著）

■参考文献

六法、有斐閣「別冊ジュリスト 労働判例百選（第8版）」、弘文堂「労働法（第9版）」（菅野和夫著）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	労働時間・休暇（1）	労働時間・休日の原則、時間外・休日労働
3	〃（2）	法定労働時間の弾力化、柔軟な労働時間制度
4	〃（3）	年次有給休暇
5	少子高齢化と労働関係	高齢・少子社会の就業援助
6	労働災害の補償（1）	労災補償制度、労災保険制度（1）
7	〃（2）	労災保険制度（2）
8	〃（3）	法定外補償
9	企業秩序と懲戒（1）	服務規律、企業秩序
10	〃（2）	内部告発の保護、懲戒の意義、根拠と限界等
11	人事（1）	教育訓練、昇進・昇給・降給
12	〃（2）	配転・出向、退職
13	労働関係終了に関する法規整（1）	解雇以外の終了事由
14	〃（2）	解雇（1）
15	〃（3）	〃（2）

科目名	有価証券法Ⅱ			
09～11年度入学：有価証券法Ⅱ				
担当者	野口 明宏 <i>Akihiro Noguchi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学			

■授業のねらいと到達目標

手形・小切手法のなかで、手形の裏書から小切手の範囲を解説します。この法律の重要な柱は、善意取得と人的抗弁切断の制度です。これらの制度は、確実に理解してください。

■授業の進め方（履修条件等）

要点を黒板に書きながら授業を行います。ノートをとって、知識をまとめてください。

■成績評価方法・基準

定期試験と出席状況にもとづいて評価します。

■授業の予習・復習

予習：あらかじめテキストを読んでください。
復習：ノートをもとにテキストを読み返してください。

■教科書

近藤光男編「現代商法入門（第8版）」有斐閣

■参考文献

必要な時に、授業の中で紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 手形の裏書 1	当然の指図証券、裏書の方式・効力
2 // 2	裏書の連続、形式的資格者、裏書の不連続
3 善意取得	即時取得の要件緩和、成立要件
4 手形抗弁	物的・人的抗弁、無権利の抗弁
5 人的抗弁の切断	原則として切断される、悪意の抗弁、権利濫用の抗弁
6 特殊な裏書 1	白地式・無担保・裏書禁止・戻裏書
7 // 2	期限後・取立委任・質入裏書
8 手形保証	保証債務の附従性、合同責任
9 手形の支払	支払呈示、支払免責、満期前の支払
10 遡求	手形の不渡、銀行取引停止処分
11 消滅時効	短期時効期間、時効の中断
12 利得償還請求権	不公正の是正、手形の所持不要
13 手形の喪失	公示催告、除権決定、催告期間中の善意取得
14 為替手形	支払人が主たる債務者、引受呈示
15 小切手	現金代用物、先日付・自己宛・線引小切手

科目名	資源エネルギー論			
09～11年度入学：資源エネルギー論				
担当者	松本 太 <i>Futoshi Matsumoto</i>			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	2単位
	09～11年度入学			

■授業のねらいと到達目標

現代の大量生産、消費が地球温暖化など環境問題の原因となる一方、石油、石炭などの化石エネルギーの枯渇が懸念されます。この講義ではこれらの対策としてクリーンエネルギーの有効性や、省資源やリサイクルなどの可能性について考えつつ、持続可能な社会の実現のために何かができるかを講義します。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件等は特にありません。授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがあります。進捗状況により授業内容が変更になることがあります。

■成績評価方法・基準

レポート、試験、学習意欲、授業態度により、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習・復習は特に必要ありませんが、宿題を出すことがあります。

■教科書

テキストは使用しません。

■参考文献

特にありません。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義全体の内容やすすめ方について概説
2 世界のエネルギー需給	世界のエネルギー消費の現状や資源の有限性について講義
3 日本のエネルギー問題	日本のエネルギー消費と抱える問題について講義
4 地球規模の環境問題①	地球規模の森林破壊や砂漠化について講義
5 // ②	地球規模の酸性雨やオゾン層の破壊について講義
6 // ③	地球規模の生態系の変化や食料資源について講義
7 地球温暖化とその影響	地球温暖化のメカニズムや、人間や生態系に及ぼす影響について講義
8 地球温暖化への国際的な取り組み	地球温暖化防止のための温室効果ガス削減などについて講義
9 自然（クリーン）エネルギー	風力発電、太陽光発電など環境負荷の少ないエネルギーについて講義
10 エネルギーの有効利用	省エネルギーやコージェネレーションなどについて講義
11 高効率エネルギーの技術開発と普及	高効率なエネルギー供給（給湯器や燃料電池等）について講義
12 ゴミ問題とリサイクル	国内外におけるゴミ問題やリサイクルの有効性について講義
13 環境マネジメントの必要性	省資源やリサイクルのための環境マネジメントの必要性について講義
14 地域的な省資源への取り組み	自治体や家庭などでの身近な省資源の取り組みについて講義
15 低炭素社会の実現に向けて	エネルギー論からみた持続可能な社会の実現の可能性について講義

科目名	開発経済学		
09～11年度入学：開発経済学			
担当者	高田 誠 Makoto Takada		
対象学年	12年度入学	3年以上	単位 2単位
	09～11年度入学		

■授業のねらいと到達目標

発展途上国の現状とそれを理解する理論的枠組みを、初歩からわかりやすく講義します。今日、発展途上国の問題は人口問題、食糧問題、エネルギー問題などさまざまな問題と関連しています。開発経済にかかわる問題を幅広く理解するのが目的です。

■授業の進め方（履修条件等）

発展途上国の経済発展におけるさまざまな問題を、経済学を通して理解していきます。モデルの理解は直感的にわかる程度にとどめ、予備知識がなくても理解できるようにやさしく説明します。テーマによってはビデオ教材も利用していく予定です。

■成績評価方法・基準

出席と定期試験の結果をもとに評価します。

■授業の予習・復習

予習：事前に指定文献を読んでくることを期待します。
 復習：講義で話したことを文献等で再確認することを期待します。

■教科書

テキストは使用しません。

■参考文献

渡辺利夫 [2004] 『開発経済学入門（第2版）』 東洋経済新報社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の進め方等の説明
2 発展途上国の現状①	発展途上国の定義、各種指標の意味
3 //	② ドキュメンタリーを見る
4 貧困と不平等	貧困指標・ジニ係数、クズネットの逆U字仮説
5 人口と経済発展	人口転換モデル、出生数決定モデル
6 人口と食糧問題	ドキュメンタリーを見る
7 二部門経済モデル①	マルサスの罠、ルイスモデル
8 //	② トダロモデル、リカードの罠、暗黙の契約理論
9 農業の発展	誘発的技術進歩、緑の革命
10 工業の発展	技術進歩と雇用吸収力
11 開発戦略	貧困の悪循環、輸入代替工業化、輸出指向工業化
12 国際貿易と経済発展	対外開放政策と幼稚産業保護論
13 国際間産業移転	雁行形態論
14 開発金融	間接金融と直接金融、直接投資、政府開発援助
15 開発と教育	教育の機会費用、外部性、教育の費用・便益

科目名	入門経済刑法		
09～11年度入学：入門経済刑法			
担当者	山内 義廣 Yoshihiro Yamauchi		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学		

■授業のねらいと到達目標

経済からみの犯罪は多種多様である。この種の犯罪は刑法犯と異なり、その範囲は広く、また、処罰体系も複雑である。本講義では、これらの犯罪に対する国家の取り組みや、日常生活上引き起こされるいくつかの犯罪について、理解を深め、賢い経済活動が出来るよう、習得した知識を生活の中で役立てることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

講義スケジュールにしたがって、授業項目の内容を講義を通じて習得させる。その際、板書をしながら細かい説明を加え、時には、コピーした資料を配布したりして、理解させるよう努力する。また、学生の理解度をはかるために、小テストを実施し、知識の確認を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）・授業内小テスト（20%）・レポート（25%）・その他（5%）

■授業の予習・復習

予習：シラバスに示している講義スケジュールにしたがって、教科書をしっかり読むこと。
 復習：授業の内容（配布資料も含む）を中心に再度理解し、その内容に関する教科書の部分をしっかり読み、総合的に理解すること。

■教科書

中山研一他著 『新経済刑法入門』 成文堂出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 経済犯罪の体系	経済犯罪の範囲とそのサンクション体系
2 経済刑法の諸原則	刑法の原則の適用と業法の諸原則
3 経済犯罪における捜査の在り方	経済犯罪の捜査はどのように行われるか
4 経済犯罪における裁判の在り方	経済犯罪の裁判はどのように行われるか
5 経済犯罪の国際化	国際経済犯罪に対する取締と処罰の原則
6 経済犯罪をめぐる政策の在り方	組織体犯罪と組織犯罪への対応
7 悪徳商法をめぐる犯罪(1)	訪問販売商法・先物取引商法・現物まがい商法
8 //	(2) 悪徳投資顧問商法・ネズミ講とマルチ商法
9 脱税犯罪(1)	所得税法違反についての脱税
10 //	(2) 法人税法違反についての脱税
11 利殖商法および消費者金融をめぐる犯罪(1)	利殖商法と刑事規制
12 //	(2) サラ金問題と高金利規制
13 ワイロ犯罪(1)	ワイロ犯罪と構造的汚職
14 //	(2) 政治資金規正法の在り方
15 商法における罰則	商法罰則の構成および特別背任罪の構造

■参考文献

小林敬和著 『経済刑法の理論と現実』 徳山大学総合研究所刊

科目名	環境ビジネス		
09～11年度入学：環境ビジネス			
担当者	柳瀬 雄二 Yuji Yanase		
対象学年	12年度入学	2年以上	単位 2単位
	09～11年度入学		

■授業のねらいと到達目標

「環境ビジネス論」は、経済学と経営学、学問（理論）と実務（ビジネス）、文系系的発想と理系系的知識との中間的な領域に位置する授業です。とにかく幅広い知識を必要としますし、多くの事例（ケース）に接する機会を提供します。事例に多く接することで、本来の経済学や経営学もよりよく理解できるようにも導きます。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では映像資料（NHK「クローズアップ現代」など）を多用し、アップデート（今日的）なテーマを扱います。特にこの授業のための予習は必要ありませんが、薄い経済学のテキストは通読するよう心掛けてください。

■成績評価方法・基準

「出席すれば単位が取れる」という安易な姿勢ではダメ、授業中に何度か小論文を書かせて評価します。

■授業の予習・復習

復習を充実させるように努めてください、自分の頭でものを考えるトレーニングにもなります。

■教科書

教科書は使いません。

■参考文献

日本経済新聞のコラム「時事解析」「ゼミナール」「やさしい経済学」に必ず目を通すようにしてください。

科目名	情報概論		
09～11年度入学：情報概論			
担当者	高橋 和子 Kazuko Takahashi		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学		

■授業のねらいと到達目標

現代社会に不可欠なコンピュータやコンピュータネットワークシステム、さらにはインターネット上で、情報がどのように扱われ、処理されるのかについて解説します。到達目標は、高度情報社会に対応できる基本的な情報知識を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40% 定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありませんが、日頃からIT関連のニュースに注意するようにしてください。

復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。

■教科書

『コンピュータと情報システム』 草薙信昭著 サイエンス社 2007年

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 費用は誰が負担すべきか？	環境問題では費用負担と便益享受との対立が生じる場合が多い。経済学でいうところの「外部経済」「外部不経済」の問題です。ね、まずはここから入りませ
2 ペットボトルのリサイクル・システム（日本）	ゴミは分別すると資源になります。コンビニなどでペットボトルを分別して集めているのを知っていると思います。リサイクルの機等生と言われるペットボトルにはどんな課題があるのでしょうか
3 食糧高騰と、バイオエタノール	地球環境問題の切り札としてバイオエタノール（植物性燃料）が登場したのはいいのですが、本来食糧であるトウモロコシが燃料にシフトし始めて、途上国の人々に食糧難をもたらしている
4 農業を保護する発想と、自立できる技術	農業は世界のどの国でも保護される傾向にあります。日本の場合はいささか度が過ぎています。農業に限らず、産業を育てるのはイノベーションですが、日本農業にそのような可能性があるのでしょうか
5 東京電力・福島第一原子力発電所（放射能の問題）	そもそも原子力発電は専門家の間でも賛否両論ありましたが、東電の事故が起こった今でも、その事故を天災とする考えと人災とする考えの対立があります。この問題をニュートラル（中立的）に一度考えてみよう
6 「均衡」の経済学、「不均衡」（差別化）の経営学	経済学では市場メカニズムを通じて、モノゴトは動的には均衡を目指すとされています。しかし現実の経済活動では、人々はほとんど差別化（不均衡）を目指しています。この違いは何なのでしょう
7 限界集落（石川県）の問題も知恵で解決	石川県羽咋市に高齢者だらけの山村の再生に立ち向かった人がいます。しかも公務員。美味い米がとれるのに誰もそれを評価しようとしません。そこでローマ法王に食いついていただいたら…
8 「葉っぱ」を集めることが村を救った（徳島県）	愛媛県高岡市には、山のなかの葉っぱを集めて商品化（食品）に成功した人々があります。その大半が高齢者、70歳以上の婦人で年収1,000万円以上という人もいます。どこでも葉っぱがなぜそんな風に化けるのか
9 風の織るタオル（池内タオル・愛媛県）	愛媛県今治市にある池内タオルは一度倒産。その時、自社ブランド品を育てて再建すると決意した。当時年間700万円の自社ブランドが今や年間4億円。その代わり徹底して本物のタオルを目指した
10 造船部品の技術を食品加工に活かす…	広島県尾道市の瀬戸鉄工所は、鍛造技術に特色ある造船部品のメーカー。ある時この鍛造技術で食品を加工してみたらどうか…と考えた。実際、魚を高温圧力で加工してみると柔らかく潮みなくなった…
11 「市場」は環境問題に無力だろうか？	ハイエク（経済学者）は、どんな商品、技術、サービスでも市場の評価を経なければその善し悪しを分らない。と市場の重要性を説きました。他方、市場の限界を説く人々もいます。環境はどう扱われるべきでしょうか
12 バングラディッシュの「コンポスト」	バングラディッシュで二人の青年が中心になり、国中のゴミ問題を解決できる運動が広がった。コンポストで「生ゴミを堆肥に変える」という単純な仕組み。ゴミが減り町は衛生的になり、堆肥は農業生産を高めた
13 ドイツ・デンマークの自然系の発電	原子力を堅持するフランスを除き、ヨーロッパの国々は原子力以外の自然エネルギーによる電力供給を育てようとする。デンマークは海上風力、ドイツは太陽光に特色があり、新しい産業が周辺に興りつつある
14 中国の成長と、アフリカの天然資源	アジア、特に中国の経済成長は目覚ましい。経済成長につれて中国は食糧、燃料、資源の大消費国へと変貌しつつあり、既に、中国は輸出から輸入国へと転じ、原油、鉱物を求めてアフリカに独自の外交も展開する
15 全体のまとめ	CO2など、今日の環境問題を解決するには一國主義では意味がなく、世界の国々が協力する必要がある（しかし、現実には定数は揃わない）。新たな環境規制は、新しい技術、製品を生み出す好機とも考えられる

■授業内容

授業項目	授業内容
1 コンピュータの基礎知識	コンピュータの歴史、種類、基本構成
2 情報とデータ	情報の単位、補助単位、論理演算
3 ハードウェア（1）	中央処理装置
4 ハードウェア（2）	周辺処理装置、インタフェース
5 ソフトウェア（1）	OS、アプリケーション
6 ソフトウェア（2）	プログラム言語
7 情報の表現（1）	数値情報、2進数と10進数の相互変換
8 情報の表現（2）	数値情報の演算、テキスト情報
9 情報の表現（3）	画像情報、音声情報、情報圧縮と解凍方法
10 コンピュータネットワークシステム	LAN、WAN、通信回線
11 インターネット（1）	インターネットのしくみと利用方法
12 インターネット（2）	インターネットにおけるセキュリティ
13 情報倫理	情報倫理
14 ITにおける現在の動向（1）	クラウドコンピューティングなど
15 ITにおける現在の動向（2）	教育におけるIT利用など

科目名	Webデザイン			
09～11年度入学：Webデザイン				
担当者	井手 雅哉 Masaya Ide			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

WWWのしくみやファイル群の構成について理解し、デザインソフトによる編集、サーバへのセットを実行することで情報を発信することにも興味をもってもらいたい。

■授業の進め方（履修条件等）

「情報基礎」履修済相当（学外サイトへのアクセス権とある程度のワープロソフト操作能力が必要）

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（60%）・取組姿勢（40%）

■授業の予習・復習

予習：作品の構想を練ったり、資料・素材を集めておく

■教科書

桑名由美、『はじめてのホームページビルダー 14』、
秀和システム、2010.1.28.

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2 WWWの基礎知識	WWWのしくみ、デザインソフトの概要
3	テキストの編集
4	画像の配置
5 Webデザインの基本的編集操作	ハイパーリンク等の設定
6	表の編集
7	フレーム
8	テーマの設定、準備
9	作品の製作、プラグインツールの利用
10	作品の製作、オリジナルボタンの作成
11	作品の製作、ロールオーバー効果の設定
12 実践と応用的編集操作	作品の製作、スライドショー
13	作品の製作、アップロードの準備
14	作品の製作、サーバへのアップロード
15	作品の製作、カウンタなどの設置

科目名	Excelデータ解析			
09～11年度入学：Excelデータ解析				
担当者	井手 雅哉 Masaya Ide			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

Excelの応用的な分析ツールを使いこなすことによって、数値の抽出、集計、加工をおこなひ、迅速・的確な状況把握、プランの立案などの実務に役立たせるためのノウハウを習得することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

「情報基礎Ⅱ」の単位を取得していることが望ましい
例題を踏まえた上で、練習問題に取り組んでもらい、その提出（5回程度）によって評価をおこなう。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題（60%）・取組姿勢（40%）

■授業の予習・復習

復習：関連書籍が多数出版されているので、それらを用いて同様の問題に取り組んでみる。

■教科書

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

■参考文献

早坂清志、『Excelデータ分析テクニック140』、
毎日コミュニケーションズ、2010.7.29.

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2	Excelの復習
3	
4	色付け、データバー
5 表における視覚化分析	カラスケール、アイコン
6	練習問題2
7	ヒストグラム分析ツール
8 度数分布	練習問題3
9	ピボットテーブル
10 アンケート調査結果の分析	クロス集計
11	練習問題4
12	箱ひげ図、バレット図
13 グラフを利用したデータ分析	PPMグラフ
14	練習問題5
15 まとめ	練習問題の解答例紹介など

科目名	プログラミング入門VB		
09～11年度入学：プログラミング入門VB			
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

プログラミングに必要な基礎知識を解説します。簡単なサンプルを介してプログラムの構造、流れを説明します。

■授業の進め方（履修条件等）

受講者は「情報処理」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は15名以内とします。言語はVBを使用し、コードを記述するだけで動作する環境を用意します。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績50%、出席状況と授業態度50%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した個所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

プリントを用意します。

■参考文献

林晴比古著「新VisualBasic入門」ソフトバンク

■授業内容

授業項目	授業内容
1	概論
2	OS、言語の歴史
3	CPU、メモリー、二進数
4	p進数、補数
5	サイコロを一億回振る
6	円の面積を求める
7	数当てゲーム
8	浮動小数点数（1）
9	〃（2）
10	桁の大きい整数の四則演算（1）
11	〃（2）
12	〃（3）
13	階乗の計算（1）
14	〃（2）
15	〃（3）

科目名	プログラミング入門C		
09～11年度入学：プログラミング入門C			
担当者	染谷 広幸 <i>Hiroyuki Someya</i>		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

C言語を用いた実習形式による基本的な短いプログラムの作成を通し、基礎的な知識の習得と、プログラミングに対する理解を目的とします。また、実際のプログラミングの問題点、OSやハードに関する理解を深めます。到達目標は、ある目的を達成するために、知らない部分は資料を見ながらでもプログラムを作成できることです。

■授業の進め方（履修条件等）

C言語などの基礎的な知識については講義形式で行い、コンピュータを用いてプログラムを入力し動かします。パソコンでの文章作成やディレクトリなどの基本的な知識があれば、プログラムの経験がなくても可能です。

■成績評価方法・基準

定期試験（30%）・授業取組姿勢（40%）・課題提出（30%）

■授業の予習・復習

授業中に動かせなかったプログラムは次回までに修正を行う。難しい時にはエラー内容を示し質問すること。

■教科書

配付資料

■授業内容

授業項目	授業内容
1	オリエンテーション 講義方法・成績評価方法など
2	プログラミング概要 プログラミングとは何か
3	プログラムに関する基本 作業方法と文字の表示
4	C言語の基本 文字や数字を表示する
5	表示の方法を指定する 表示の種類や桁数を整える
6	計算プログラムの作成 変数を用いた数値計算
7	条件分岐 条件により処理を変える
8	条件と選択 入力により処理を選ぶ
9	反復型プログラム（1） while文を使った繰り返し
10	〃（2） for文を使った繰り返し
11	いろいろな値の入力 キーボードからのデータ入力
12	関数の作成と利用 処理をまとめる
13	配列と構造体 複数の数値や文字の扱い
14	ポインタ データの物理的位置を利用する
15	ファイルの操作 ファイルへの入出力を行う

■参考文献

高橋麻奈「やさしいC」ソフトバンククリエイティブ
内田智史「C言語によるプログラミング 基礎編」オーム社

科目名	プログラミング入門Perl		
09～11年度入学：プログラミング入門Perl			
担当者	染谷 広幸 <i>Hiroyuki Someya</i>		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

WWWサーバなどで使われているプログラミング言語Perlに関する基礎的な知識の習得を目的として、プログラミングに必要なOSやハードなどの周辺知識を含めて総合的に学習します。到達目標はプログラムとは何かを理解し、ある目的を達成するために知らない部分は資料を見ながらでもプログラムを作成できることです。

■授業の進め方（履修条件等）

Perl言語の文法知識については講義形式で行い、コンピュータを用いてプログラムを入力し動かします。パソコンでの文章作成技術やディレクトリなどの基礎知識があれば、プログラミングの経験がなくても可能です。

■成績評価方法・基準

定期試験（30%）・授業取組姿勢（40%）・課題提出（30%）

■授業の予習・復習

授業中に動かせなかったプログラムは次回までに修正する。難しい時にはエラー内容を示し質問すること。

■教科書

配付資料

科目名	VBプログラミング		
09～11年度入学：VBプログラミング			
担当者	小林 忠 <i>Tadashi Kobayashi</i>		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

基本的な制御文、配列、ファイルの取扱い等を確かに理解し、簡単なプログラムが作れるようになることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

受講者は「プログラミング入門」を履修済みのこと。初回または二回目の講義に必ず出席すること。尚、受講者は15名以内とします。言語はVBを使用し、コードモジュールを完成するだけで動作する環境を用意します。

■成績評価方法・基準

授業回数の2/3以上の出席がないと単位の修得は認めません。成績評価は試験成績50%、出席状況と授業態度50%

■授業の予習・復習

予習：前回の授業で強調した箇所を確り復習して、授業に臨んで下さい。

復習：理解できない点は次回の授業で質問して下さい。

■教科書

プリントを用意します。

■参考文献

林晴比古著「新VisualBasic入門」ソフトバンク

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	オリエンテーション	講義方法・成績評価方法など
2	プログラミング概要	プログラミングとは何か
3	プログラミング環境	作業で使うソフト等の操作方法など
4	プログラムの基本構造	文字を表示する
5	データの種類と演算子	いろいろな計算をする
6	変数	数値や文字列を入れ替える
7	条件判断	条件により処理を変える
8	反復型プログラム	繰り返して処理を行う
9	リスト	複数データの取り扱い
10	配列	配列を用いた処理
11	ハッシュ	データと名前の組み合わせ
12	サブルーチン	処理をまとめる
13	正規表現の基本	文字や数字を比べる
14	ファイルの入出力	ファイルとして扱うデータの入出力
15	プログラムの動作とモジュール	スクリプトを分ける

■参考文献

結城浩「新版Perl言語プログラミングレッスン入門編」SBCR（株）アंक「Perlの絵本」

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	万年暦を作る（1）	
2	〃（2）	
3	〃（3）	
4	乱数を作る（1）	
5	〃（2）	
6	〃（3）	
7	有理数の循環小数表示（1）	
8	プログラミング	〃（2）
9	〃（3）	
10	順列組合せのファイル作成（1）	
11	〃（2）	
12	〃（3）	
13	巡回セールスマン問題（1）	
14	〃（2）	
15	〃（3）	

科目名	Cプログラミング			
09～11年度入学：Cプログラミング				
担当者	染谷 広幸 <i>Hiroyuki Someya</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

C言語の基礎的なプログラムができることを前提に、コンピュータの特性や効率的なプログラミングの方法や基本的なアルゴリズム、データ構造について学習します。講義の後半では、ある程度まとまった大きさのプログラムを作成し、大規模プログラムの構造やシステム開発などにも触れます。

■授業の進め方（履修条件等）

前期のプログラム入門Cの継続科目となっていますので、前期の講義の履修が前提となります。関連知識については講義形式で行い、実際にコンピュータを用いてプログラムの作成や動作確認を行います。

■成績評価方法・基準

定期試験（30%）・課題提出（40%）・取組姿勢および創意工夫（30%）

■授業の予習・復習

動かなかったプログラムは次回までに修正を行うこと。修正できないときにはエラー内容を示して質問して下さい。

■教科書

配付資料

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	プログラム作成まとめ
2 処理の流れと作図	プログラムの構造と流れ図
3 基本的なアルゴリズム	処理の流れを操作する
4 関数・配列・ポインタ	C言語の特徴的な機能
5 構造体	複数の値をまとめて扱う
6 標準ライブラリの利用	既存の関数を使用する
7 ファイル処理	外部データの読み書き
8 サーチ	複数データから目的の値を探す
9 ソート	データを並び替える
10 リスト構造	関連を持つデータの作成
11 木構造	大小の関連を持つデータ構造
12 二分探索	効率的なデータ探索
13 ハッシュ関数	データを代表する数値の作成
14 アドレス帳の作成	プログラムの分割とコンパイル
15 プログラム作成まとめ	プログラム開発手順

■参考文献

田中和明『C言語10課データ構造とアルゴリズム編』
カットシステム
内田智史『C言語によるプログラミング 応用編』 オーム社

科目名	Perlプログラミング			
09～11年度入学：Perlプログラミング				
担当者	染谷 広幸 <i>Hiroyuki Someya</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

WWWサーバで利用されるCGIなどの作成を行うことで複数のシステムを利用するネットワークに関するプログラムについて学習する。システム環境やデータ移動、オブジェクト指向などを考慮したプログラムを作成する。到達目標はプログラムとは何かを理解し、問題解決のための処理を行うシステムが考えられることです。

■授業の進め方（履修条件等）

プログラム入門Perlの継続科目となりますので、前期の講義の履修が前提となります。文法などの基礎的な知識については講義形式で行い、実際にコンピュータを用いてプログラムの作成や動作確認を行います。

■成績評価方法・基準

定期試験（30%）・課題提出（40%）・取組姿勢および創意工夫（30%）

■授業の予習・復習

動かなかったプログラムは次回までに修正を行うこと。修正できない時はエラー内容を示し質問して下さい。

■教科書

配付資料

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の進め方と成績評価方法
2 数値の計算	変数と演算子
3 プログラムの流れ	制御構造（選択・繰返）
4 プログラムの構造	サブルーチンとデータ構造
5 外部データの利用	データ探索を用いた簡易DB
6 外部との関連	OSを利用した操作
7 リファレンス	アドレスなどの利用
8 オブジェクト指向	Perlで行うオブジェクト指向
9 外部プログラムの利用	モジュールなどの使い方
10 WWWの基本構造	Webで用いられるHTML
11 CGIについての基礎知識	Webを利用したプログラムの作成
12 Webを使ったデータの送受信	データの送信、受信など
13 Webから入力されたデータの処理	双方向的なプログラム
14 CGIの活用	簡易掲示板の作成
15 WebとPerlを用いたデータの利用	XML等のデータ処理

■参考文献

結城浩『新版Perl言語プログラミングレッスン入門編』SBCR
武藤健志他『独習Perl第2版』翔泳社

科目名	情報検索入門			
09～11年度入学：情報検索入門				
担当者	井手 雅哉 Masaya Ide			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

研究や業務に携わる際、各種資料のサーベイやデータの収集は不可欠であるので、それらへアクセスする力を身につけることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

「情報基礎」履修済相当（学外サイトへのアクセス権とある程度のワープロソフト操作能力が必要）

■成績評価方法・基準

定期試験（30％）・レポート及びその他の課題（30％）・取組姿勢（40％）

■授業の予習・復習

予習：日常から、読書等により教養を身につけておく
復習：他の科目の資料収集の際に活用する

■教科書

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

■参考文献

小笠原喜康、「新版 大学生のためのレポート・論文術」、講談社（現代新書）、2009.11.20
有吉 博文・日経テレコン21研究会、「日経テレコン21 新・完全活用ガイド」、日本経済新聞社、2003.10.

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2 資料検索に関する基礎知識	資料検索に関する基礎知識
3 基礎知識	資料リストの記述形式
4	本学メディアセンター OPAC
5	学外における蔵書検索 (Webcat, NDL-OPAC)
6 各種検索ツール	雑誌記事の検索 (CiNii)
7	新聞記事の検索 (日系テレコン21など)
8	Web情報の検索 (検索サイト)
9	テーマ設定
10	
11	
12 検索作業の実践	資料リストの作成作業
13	
14	
15	

科目名	データベースオペレーションA			
09～11年度入学：データベースオペレーション				
担当者	成富 慶子 Keiko Naritomi			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている
本講義ではデータベースソフトMicrosoft®Accessによる実習を通して、データベースの利用と構築技能に習熟してもらう

■授業の進め方（履修条件等）

Microsoft®Accessの操作を中心にデータベースの構築・作成を行う
情報基礎1、2の単位を取得済み、または同等レベルであること

■成績評価方法・基準

実技テストで総合評価する

■授業の予習・復習

予習：教科書を見ながら操作する
復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する

■教科書

FOM出版 「Microsoft®Access2007 基礎」

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認・講義概要
2 データベースとは	Accessの機能と概要
3 データベースの設計と作成	データベースの設計とファイルの作成
4 テーブルⅠ	フィールドの設定、主キーの設定
5 // Ⅱ	プロパティの設定、データの入力
6 リレーションシップ	設定方法と種類、参照整合性
7 クエリⅠ	フィールドの結合、演算フィールドの作成
8 フォームⅡ	概要と種類、作成方法
9 // Ⅱ	レイアウトの変更
10 クエリⅡ	条件の抽出、データの集計
11 レポートⅠ	概要と種類、作成方法
12 // Ⅱ	レイアウトの変更
13 その他の機能	オブジェクトのグループ化、名称の変更
14 総合練習問題	総合練習問題
15 まとめ	まとめ

科目名	データベースオペレーションB			
09～11年度入学：データベースオペレーション				
担当者	成富 慶子 <i>Keiko Naritomi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている
本講義ではデータベースソフトMicrosoft®Accessによる実習を通して、データベースの利用と構築技能に習熟してもらう

■授業の進め方（履修条件等）

Microsoft®Accessの操作を中心にデータベースの構築・作成を行う
情報基礎1、2の単位を取得済み、または同等レベルであること

■成績評価方法・基準

実技テストで総合評価する

■授業の予習・復習

予習：教科書を見ながら操作する
復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する

■教科書

FOM出版 「Microsoft®Access2007 基礎」

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認・講義概要
2 データベースとは	Accessの機能と概要
3 データベースの設計と作成	データベースの設計とファイルの作成
4 テーブルⅠ	フィールドの設定、主キーの設定
5 // Ⅱ	プロパティの設定、データの入力
6 リレーションシップ	設定方法と種類、参照整合性
7 クエリⅠ	フィールドの結合、演算フィールドの作成
8 フォームⅠ	概要と種類、作成方法
9 // Ⅱ	レイアウトの変更
10 クエリⅡ	条件の抽出、データの集計
11 レポートⅠ	概要と種類、作成方法
12 // Ⅱ	レイアウトの変更
13 その他の機能	オブジェクトのグループ化、名称の変更
14 総合練習問題	総合練習問題
15 まとめ	まとめ

科目名	プレゼンテーション論Ⅰ			
09～11年度入学：プレゼンテーション論Ⅰ				
担当者	成富 慶子 <i>Keiko Naritomi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日においてコンピュータを扱えることが必須となっている
本講義では実習を通して、Microsoft®PowerPointを習熟してもらう

■授業の進め方（履修条件等）

Microsoft®PowerPointを使用して、プレゼンテーション資料を作成する（対象学年：全学年）

■成績評価方法・基準

実技テストで総合評価する

■授業の予習・復習

予習：教科書を見ながら操作する
復習：授業内に行った操作を練習問題などで復習する

■教科書

FOM出版 「Microsoft®Power Point 2007」

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認・講義概要
2 プレゼンテーションとは	PowerPointの概要、画面構成
3 プレゼンテーションの作成	スライドの文字入力、挿入、スライドショー
4 プレースホルダと文字の編集	編集や配置の変更、文字の編集、スライドの編集
5 図やオブジェクト挿入と編集 1	イラスト、画像、動画の挿入
6 // 2	グラフ、Excelの表の挿入
7 図形の作成と編集	図形の作成と編集に関する機能の学習
8 図解の基本と作成 1	スライドの内容を図解化する手法の学習
9 // 2	図解の作成
10 特殊効果とスライドのデザイン設定	アニメーション効果の設定、スライドの自動実行
11 プレゼンテーションのサポート機能	ノートの作成、配布資料の作成
12 その他の機能	Web発行、ブラウザ上でのプレゼンテーション
13 総合練習問題 1	総合練習問題
14 // 2	//
15 まとめ	まとめ

科目名	プレゼンテーション論Ⅱ			
09～11年度入学：プレゼンテーション論Ⅱ				
担当者	井手 雅哉 Masaya Ide			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

プレゼンテーションに際して心がけておくこと、ツールとしてのPowerpointの利用法について学習する。

■授業の進め方（履修条件等）

「情報基礎」履修済相当（学外サイトへのアクセス権とある程度のワープロソフト操作能力が必要）
プレゼンテーションの準備から実行までを順を追って進めていく。

■成績評価方法・基準

授業内小テスト（40%）・レポート及びその他の課題（20%）・取組姿勢（40%）

■授業の予習・復習

予習：発表の構想を練ったり、資料・素材を集めておく。

■教科書

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

■参考文献

山口弘明、『プレゼンテーションの進め方』、日本経済新聞社（日経文庫）
技術評論社編集部著、『今すぐ使えるかんたんPowerPoint2007』、技術評論社、2008.7.

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2 テーマ設定	発表の目的等の考察
3 発表内容の具体化	「アウトライン」機能の利用
4 スライドの大まかなデザイン	「レイアウト」機能
5 字句の配置	テキスト編集
6 口述メモの準備	「ノート」機能
7	画像ファイルの配置 1
8	// 2
9 図表の準備	グラフの編集
10	階層図等の編集
11	「アニメーション」の設定 1
12	// 2
13 発表の予行演習	「スライドショー」機能
14 発表	発表と検討 1
15	// 2

科目名	情報社会と倫理			
09～11年度入学：情報社会と倫理				
担当者	井手 雅哉 Masaya Ide			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報技術の向上により社会における情報化が進展し、様々な分野にその成果をもたらしているが、同時に負の影響も少なからず存在する。本科目では、情報化の浸透を概観し、状況を理解するとともに、トラブルに巻き込まれたり、他者へ迷惑をかけたらないような姿勢を身につけることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

通常の講義形式で、実例の紹介を多く取り入れていく。

■成績評価方法・基準

定期試験（100%）

■授業の予習・復習

予習・復習：関連記事・書籍に目を通す。

■教科書

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

■参考文献

村田潔、『情報倫理：インターネット時代の人と組織』、有斐閣、2004.12.25.

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2	コンピュータの普及と情報処理能力の向上
3	ネットワークの形成
4 社会における情報化の進展	産業における情報化の進展 1
5	// 2
6	行政における情報化の進展
7	生活における情報化の進展
8	情報社会の概念
9	セキュリティ確保の必要性 1（機密性）
10	// 2（完全性）
11	// 3（可用性）
12 情報化の進展に伴う諸問題	犯罪との関わり
13	情報発信手段の一般化とモラルの低下
14	ネチケット
15	著作権の保護

科目名	ハードウェアシステム論			
09～11年度入学：ハードウェアシステム論				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日では、コンピュータを扱えることが必須となっています。本講義の目的はコンピュータのハードウェアの仕組みに関する知識を習得することです。パソコンの全体構成および各装置の仕組み、特にパソコンの中心である中央処理装置（CPU）とメモリスシステムの機能と仕組みを詳しく説明し、深い知識の習得を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

配布資料とPowerPointを用いて講義をします。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に穴埋め式の小テストを毎回行います。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習はとくに必要ありませんが、復習としてキーワードとその内容を覚えてください。

■教科書

なし、毎回資料を配布します。

■参考文献

日経バイト編『最新パソコン技術体系 2003 ハードウェア編』
日経BP社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要
2 コンピュータの構成	五大機能と構成
3 インターフェース	インターフェースの種類と仕組み
4 情報の表現	十進数と二進数、十六進数
5 論理回路	基本素子、組み合わせ回路、順序回路
6 CPUの構造	レジスタ、算術論理演算回路、制御回路
7 CPUの動作	命令セットと命令サイクル
8 高速化実装技術	パイプライン、スーパースカラ
9 メモリスシステム1	メモリスシステムと半導体メモリ
10 // 2	ハードディスクの仕組み
11 // 3	光ディスクの種類と仕組み
12 グラフィックス	グラフィックス機構、CRTとLCD
13 プリンタ	ページプリンタ、インクジェットプリンタ
14 その他周辺装置	PCカード、キーボード、マウス他
15 まとめ	要点と試験対策

科目名	OS論			
09～11年度入学：OS論				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日では、コンピュータを扱えることが必須となっています。本講義の目的はコンピュータの基本ソフトウェアであるOS（オペレーティングシステム）の仕組みに関する知識を習得することです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は、ハードウェアシステム論（前期）を履修していることです。配布資料とPowerPointを用いて講義をします。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に穴埋め式の小テストを毎回行います。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習はとくに必要ありませんが、復習としてキーワードとその内容を覚えてください。

■教科書

なし、毎回資料を配布します。

■参考文献

日経バイト編『最新パソコン技術体系 2003 OS編』日経BP社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要
2 ソフトウェア	基本ソフトとアプリケーションソフト
3 OSの基本機能	OSの機能と役割
4 ユーザインターフェース	コマンドシェルとビジュアルシェル
5 カーネルの機能	タスク管理とメモリ管理の仕組み
6 カーネルのアーキテクチャ	マルチタスクの仕組み
7 ファイルシステム	ファイル管理の仕組み
8 ソフトウェア連携	データ交換と自動処理
9 ネットワーク機能	情報通信機能の基礎
10 インターネット	電子メール、WWWの仕組み
11 WindowsNT	WindowsNTの仕組み
12 Windows95	Windows95の仕組み
13 UNIX/Linux	UNIXの仕組み
14 Mac OS	MacOSの仕組み
15 まとめ	要点と試験対策

科目名	ネットワークシステム論			
09～11年度入学：ネットワークシステム論				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日では、インターネットを扱えることが必須となっています。本講義の目的はコンピュータネットワーク、特にインターネットの仕組みに関する知識を習得することです。情報通信の仕組みを理解することで、より良い情報の管理とその利用が可能になります。そのための深い知識の習得を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は、パソコンのハードソフトに関する基本的知識があることです。配布資料とPower Pointを用いて講義をします。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に論述式の小テストを毎回行います。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習はとくに必要ありませんが、その授業で説明した内容は次回以降利用しますので、復習しておいてください。

■教科書

なし、毎回資料を配布します。

科目名	情報セキュリティ論			
09～11年度入学：情報セキュリティ論				
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日では、インターネットを扱えることが必須となっています。しかし、インターネット利用の急激な普及とともに、セキュリティの確保が大きな問題となっています。本講義の目的はインターネットの危険性およびセキュリティ対策の仕組みに関する知識を習得することです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件として、前期の「ネットワークシステム論」を履修していることが望ましいです。配布資料とPowerPointを用いて講義をします。配布資料はキーワードが抜けていますので、講義を聞きながら穴埋めしてもらいます。最後に論述式の小テストを毎回行います。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、小テスト（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習はとくに必要ありませんが、その授業で説明した内容は次回以降利用しますので、復習しておいてください。

■教科書

なし、毎回資料を配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要
2 ネットワークの仕組み	OSI参照モデル、ネットワークとインターネット
3 Ethernet	MACアドレスとCSMA/CDによるデータ通信の仕組み
4 ハブ	LANボード、共有ハブ/スイッチングハブの仕組み
5 ルーター	ルーターによるネットワーク間の通信
6 レイヤー 3 スwitchングハブ	レイヤー 3 スwitchングハブとVLAN
7 ネットワークプロトコル	TCP/IPの仕組み
8 DNS	DNSの仕組み
9 NAPT	グローバルアドレス、プライベートアドレスとNAPT
10 経路制御	IPアドレスと経路制御の仕組み
11 ISPとIX	プロバイダとIXの役割と経路制御
12 電子メール	メールの仕組みとDNSの役割
13 WWW	WWWとインターネットの混雑
14 インターネットセキュリティ	インターネットの危険性とセキュリティ技術
15 まとめ	要点と試験対策

■参考文献

熊谷誠治著『誰も教えてくれなかったインターネットのしくみ』日経BP社
 日経バイト編『最新パソコン技術体系 2003 ハードウェア編』日経BP社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要
2 インターネットの危険性	インターネット利用に潜む危険性と事例
3 セキュリティへの脅威	脅威の分類、コンピュータ犯罪の事例
4 安全を守る技術	セキュリティ対策の分類
5 アクセス管理技術 1	ユーザ認証技術
6 // 2	アクセス制限技術
7 // 3	ファイアウォールの仕組み
8 暗号技術 1	暗号の仕組み、共通鍵暗号、公開鍵暗号
9 // 2	暗号によるセキュリティ対策の実際
10 // 3	暗号技術の限界
11 コンピュータウィルス	コンピュータウィルスの種類と対策
12 間接的対策	セキュリティ監視、セキュリティ教育他
13 個人レベルのセキュリティ対策	ユーザ自身がやるべきこと
14 企業レベルのセキュリティ対策	企業が信頼を失わないためのセキュリティ対策
15 まとめ	要点と試験対策

■参考文献

佐々木良一著『インターネットセキュリティ入門』岩波新書
 熊谷誠治著『誰も教えてくれなかったインターネットセキュリティのしくみ』日経BP社

科目名	アルゴリズム論 I		
09～11年度入学：アルゴリズム論 I			
担当者	高橋 和子 <i>Kazuko Takahashi</i>		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、コンピュータによる問題解決法であるアルゴリズムの基本的な手法について解説することです。また、アルゴリズムと深い関係をもつデータ構造についても解説します。到達目標は、これらの知識を得ることで、論理的な思考法を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。理解を確実にするために、毎回、授業の途中でクイズ（小テスト）を2～3問出して平常点とします。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40%
定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要なし
復習：人間にとって慣れ親しんでいる問題解決法と全く異なる手順が多く、最初はとまどいがあると思う。授業中および復習をよくして新しい考え方の理解に努めること。

■教科書

『アルゴリズムとデータ構造』 藤原暁宏著 森北出版 2006年

科目名	アルゴリズム論 II		
09～11年度入学：アルゴリズム論 II			
担当者	高橋 和子 <i>Kazuko Takahashi</i>		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、「アルゴリズム論 I」で学んだ基本的なアルゴリズムより高度なアルゴリズムについて解説することです。到達目標は、アルゴリズムについてより深い知識を得ることで、プログラミング能力と論理的な思考法を高めることです。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。理解を確実にするために、毎回、授業の途中でクイズ（小テスト）を2～3問出して平常点とします。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40% 定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要なし
復習：復習をよく行って、新しい考え方の理解に努めること。

■教科書

『アルゴリズムとデータ構造』 藤原暁宏著 森北出版 2006年

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 アルゴリズムとデータ構造	アルゴリズムとは、データ構造とは
2 アルゴリズムの表現方法	記述表現、図的表現（フローチャート、PADなど）
3 データ構造（1）	配列、連結リスト
4 データ構造（2）	スタック、キュー
5 データ構造（3）	木構造、グラフ構造
6 基本的な探索アルゴリズム（1）	線形探索
7 基本的な探索アルゴリズム（2）	2分探索法
8 高速な探索アルゴリズム（1）	ハッシュ法（ハッシュ関数、ハッシュ表）
9 高速な探索アルゴリズム（2）	ハッシュ法（コンフリクトの解決法）
10 探索アルゴリズムの比較	探索アルゴリズムの性能比較
11 基本的なソートアルゴリズム（1）	選択ソート
12 基本的なソートアルゴリズム（2）	挿入ソート
13 基本的なソートアルゴリズム（3）	バブルソート
14 基本的なソートアルゴリズムの比較	基本的なソートアルゴリズムの性能比較
15 総括	アルゴリズムの基本とデータ構造のまとめ

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 基本的な探索アルゴリズム	線形探索、2分探索
2 高速な探索アルゴリズム	ハッシュ法
3 基本的なソートアルゴリズム	選択ソート、挿入ソート、バブルソート
4 高速なソートアルゴリズム（1）	クイックソート
5 高速なソートアルゴリズム（2）	マージソート
6 高速なソートアルゴリズム（3）	ヒープソート
7 アルゴリズムの設計手法（1）	分割統治法
8 アルゴリズムの設計手法（2）	グリーディ法
9 アルゴリズムの設計手法（3）	バックトラック法、分枝限定法
10 グラフアルゴリズム	最短経路問題
11 文字列照合アルゴリズム（1）	単純文字列照合
12 文字列照合アルゴリズム（2）	ポイヤール・ムーア法A
13 文字列照合アルゴリズム（3）	ポイヤール・ムーア法B
14 アルゴリズムの限界	問題のクラス、解くことのできない問題
15 総括	アルゴリズムの総まとめ

科目名	システム設計論 I			
09～11年度入学：システム設計論 I				
担当者	高橋 和子 <i>Kazuko Takahashi</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、企業をはじめ官庁や教育機関など社会のあらゆる場で運用されている情報システムの設計を行う上で必要な基礎的知識を解説することです。到達目標は、これらの知識を身につけることで、将来、担当するであろうどのような業務に対しても、高度な情報技術を活用できる能力を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的に教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40% 定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありませんが、日頃から情報システムに関連するニュースに注意してください。

復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。

■教科書

『ソフトウェア開発の基本』 谷口功著 秀和システム 2011年

科目名	データベース論			
09～11年度入学：データベース論				
担当者	森島 隆晴 <i>Takaharu Morishima</i>			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報化の進んだ今日では、情報システムが様々な業務を支えています。データベース・マーケティング（DBM）は、情報技術の進展により入手可能になった様々な顧客情報をもとに、顧客の購買行動を企業の望む方向へ誘導するための手段を提供してくれます。情報システムをビジネスに活用するための技術と方法論を修得してもらうのがこの講義の到達目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

講義が中心ですので、板書などをノートに書き取ってください。実習も含まれますので、Accessの基本操作が可能な人が履修してください。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）、実習の課題や小テスト（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習はとくに必要ありませんが、その回でやったことを次回以降使いますので、復習しておいてください。

■教科書

なし。

■参考文献

中村史朗『データベース入門』日経文庫779日本経済新聞社
ルディー和子『データベース・マーケティングの実際<新版>』日経文庫468日本経済新聞社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	情報システムとは	情報システムとコンピュータ、情報システムの形態
2	情報システムの事例(1)	社会基盤としての情報システム、生活基盤としての情報システム
3	情報システムの事例(2)	行政と情報システム、ビジネス戦略と情報システム
4	システム開発の工程	システムのライフサイクルと開発モデル
5	システム開発(1)	開発計画、工数の見積り
6	システム開発(2)	要求分析と要求定義
7	システム開発(3)	外部設計
8	システム開発(4)	ファイル設計
9	システム開発(5)	内部設計
10	システム開発(6)	プログラム設計
11	システム開発(7)	単体テスト、結合テスト、システムテスト
12	システム開発(8)	システムの運用管理と評価指標
13	データベース設計	概念設計、論理設計、物理設計
14	オブジェクト指向によるシステム設計	オブジェクト指向とは
15	開発環境と開発ツール	統合開発環境、CASEツール、コンポーネントウェア

■参考文献

『情報システム基礎』 神沼靖子著 オーム社 2006年

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	受講者の確認、講義の概要
2	データベースとは	データベースを用いたビジネス
3	データベースの仕組み	データ管理と管理システム
4	リレーショナルデータベース	仕組みと特徴
5	データベースの設計	設計手順と正規化
6	設計の実習 1	Accessの基本操作とデータベース作成手順
7	〃 2	Accessを用いたデータベースの作成
8	データベースとビジネス	データベースによる業務の効率化
9	データベースマーケティング	顧客の生涯価値の最大化
10	データベースマーケティングの目的	四つの目的とそのための手段
11	データベースマーケティング戦略 1	顧客ポートフォリオ
12	〃 2	実行計画
13	〃 3	ロイヤリティ
14	データベースマーケティングの実際	データ活用における問題
15	まとめ	要点と試験対策

科目名	シミュレーション論		
09～11年度入学：シミュレーション論			
担当者	森島 隆晴 Takaharu Morishima		
対象学年	12年度入学	1年以上	単位 2単位
	09～11年度入学	1年以上	

■授業のねらいと到達目標

不確実性の下でのさまざまな経営環境を確率モデルとして数理的に捉え、Excelを用いて経営シミュレーションを行うための知識と技能を習得してもらいます。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は、パソコンおよびExcelの基本操作ができることです。不確実性を数理的に捉えるための基礎となる確率・統計やシミュレーションの為に必要なIF関数を用いたExcelの操作方法から、乱数およびシミュレーションモデルの作成手順を、実技を交えて習得してもらいます。

■成績評価方法・基準

期末試験（実技）（60%）、授業内実習（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習はとくに必要ありませんが、その回の内容は次回以降に降利用しますのでやり方を復習しておいてください。

■教科書

必要な資料やデータは配布します

■参考文献

荒木勉、栗原和夫「Excelでまなぶ経営科学入門シリーズⅣシミュレーション」実教出版

■授業内容

授業項目		授業内容
1	オリエンテーション	受講者の確認、講義概要、Excelの操作確認
2	シミュレーションとは	経営問題のモデル化とシミュレーション
3	確率モデル 1	確率的現象かどうか～ランダムネス検定
4	// 2	確率分布と累積度数分布
5	// 3	乱数の生成と乱数の分布の検定～カイ2乗検定
6	決定問題 1	中古バイクの販売方法の決定（その1）
7	// 2	// （その2）
8	// 3	取引相手の決定
9	// 4	採用試験の実施方法の決定
10	在庫問題 1	在庫なしの在庫問題
11	// 2	定期発注方式
12	// 3	発注点発注方式
13	待ち行列 1	定期到着ランダムサービス
14	// 2	ランダム到着ランダムサービス
15	まとめ	要点と試験対策

シラバス

Ⅲ ライセンスプログラム

平成24年度 ライセンスプログラムの取り扱い

ライセンスプログラムの取り扱いについては、次の通りとします。

なお、資格取得支援講座については、実施部署より、別途掲示等によりお知らせします。

I 概要

- ①本プログラムは、就職に有利な資格取得を支援するために設置されています。
- ②資格試験合格に対して、単位を認定します。
- ③単位の認定は、カリキュラムに掲げた科目の資格試験（主として学外の公の機関により実施）に限定します。
- ④本学では、資格取得支援講座の開講及び資格試験を実施（ただし、全ての講座ではありません）しております。
- ⑤この講座は正規の授業ではありません。したがって、必ずしも正規の時間中に行われるものではありません。
- ⑥各資格取得支援講座は有料です。

II 共通取り扱い事項

- ①敬愛大学在学中に合格した資格試験に限り、単位認定します。
- ②単位認定には、合格を証明するものを提示することが必要になります。
 ※4年生は、当該年度の2月末日までに合格を証明するものを提示しなければ、当該年度の単位認定はいたしません。
 なお、前期末卒業予定者の場合は、当該年度の7月末日までとします。
- ③認定単位は、自由選択科目枠の卒業単位に参入することとし、合計で12単位までとします。

III 成績評価

- ①原則として、単位認定は80点（優）とします。
- ②ライセンスプログラムで認定された単位は、各学年に履修登録できる単位数の上限に含みません。

IV ライセンスプログラム認定科目及び単位一覧

科目名	認定単位数	成績評価要件
※ 検定英語 I	2	TOEIC® 500点以上取得者
※ 検定英語 II	4	TOEIC® 560点以上取得者
情報処理入門 I	1	®Microsoft Office Specialist Word 2003 合格
情報処理入門 II	1	®Microsoft Office Specialist Excel 2003 合格
情報処理 I	2	®Microsoft Office Specialist Word 2003 Expert 合格 MCAS Using Microsoft Office Word 2007 合格
情報処理 II	2	®Microsoft Office Specialist Excel 2003 Expert 合格 MCAS Using Microsoft Office Excel 2007 合格
情報処理入門 III	2	®Microsoft Office Specialist Power Point 2003 合格 MCAS Using Microsoft Office Power Point 2007 合格
情報処理入門 IV	2	®Microsoft Office Specialist Access 2003 合格 MCAS Using Microsoft Office Access 2007 合格
情報システム概論	4	®IC3（以下の2科目） 合格 ・コンピューティングファンダメンタルズ ・リビングオンライン パソコン検定試験（P検）2級 合格 ITパスポート（国家資格） 合格
※ 検定簿記 I	2	日商簿記検定 3級合格
※ 検定簿記 II	4	日商簿記検定 2級合格
※ 秘書検定 I	2	秘書検定試験 3級合格
※ 秘書検定 II	4	秘書検定試験 2級合格
※ 販売士 I	2	販売士検定試験 3級合格
※ 販売士 II	4	販売士検定試験 2級合格
※ 検定ビジネス能力 I	2	ビジネス能力検定試験 3級合格
※ 検定ビジネス能力 II	4	ビジネス能力検定試験 2級合格

※の科目については、I を取得後 II を取得した場合、I の単位は取り消され、II の単位のみとなる。
 評価は90点となる。II だけを取得した場合も4単位、90点となる。

シラバス

Ⅳ 教職及び教科に関する科目

科目名	教育原論Ⅰ			
担当者	中山 幸夫 Yukio Nakayama			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

教職を志望する学生諸君に健全な教育観、人間観を構築してもらうことを授業のねらいとする。教育の基礎理論、教育の思想、わが国の近代化と第二次大戦後の教育改革の軌跡を辿りながら、人間教育の本質と課題に関心を深めることを目標としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストの内容をふまえた講義要項、資料を毎回配付し、それらをもとにしながら授業を進めていく。ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も適宜用いる。まずは授業に出席し、「聞く」姿勢を大事にしてほしい。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、出席および小レポート（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：次回のテーマに関してテキスト、資料の指定範囲を読むしておく。

復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。

■教科書

平野智美監修、中山幸夫他編著 『教育学のグランドデザイン』 八千代出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 教育をめぐる今日の状況	問題としての教育、家庭・学校・地域社会の現状
2 教育の意義	教育の語義、教育の概念、人間の発達と教育
3 教育の目的	教育の理念、教育目的の普遍性と特殊性
4	教育目的の歴史的変遷
5	西洋古代・中世の教育思想
6	西洋近世・近代の教育思想
7 教育の思想	公教育思想の発展と近代公教育制度の成立
8	新教育の思想と新教育運動の展開
9	近代公教育の導入と明治期の教育
10 日本の近代化と教育	大正デモクラシーと新教育
11	戦争と教育
12	戦後教育改革の始動と展開
13	高度経済成長と教育
14 教育改革の軌跡	教育改革の模索と臨時教育審議会
15	今日の教育改革

■参考文献

科目名	教育原論Ⅱ			
担当者	中山 幸夫 Yukio Nakayama			
対象学年	12年度入学	1年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	1年以上		

■授業のねらいと到達目標

教育原論Ⅰの学習を踏まえて、学校教育を構成する教育課程（カリキュラム）に関する基礎的知識を習得しながら、教育課程の制度や学校における教育課程編成の方法について理解することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業内容に沿った講義要項、資料プリントを毎回配付し、それらをもとにしながら授業を進めていく。適宜、ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も用いる。ほぼ毎回、授業の終わりに出席と授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、出席および小レポート（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：次回のテーマに関してテキスト等の指定範囲を読んでおく。

復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。

■教科書

文部科学省 『小学校学習指導要領』 東京書籍
 文部科学省 『中学校学習指導要領』 東山書房
 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 東山書房
 文部科学省 『小学校学習指導要領解説—総則編—』 東京書籍

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	教育課程の意義と課題（総論）
2 教育課程の類型	教科中心カリキュラム、経験中心カリキュラム
3	学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラム
4	学習指導要領（2）昭和33年版、昭和42年版
5	学習指導要領の変遷
6	（3）昭和52年版、平成元年版
7	（4）平成10年版、平成20年版
8 教育課程編成の原理	教育課程にかかわる法令と編成基準
9	小学校における教育課程編成の方法
10	中学校における教育課程編成の方法
11	高等学校における教育課程編成の方法
12 教育課程編成の方法	総合的な学習の時間をめぐる問題
13	総合学科のカリキュラムをめぐる問題
14	教育課程と学力をめぐる問題
15	教育課程の改善に向けて（総括）

■参考文献

科目名	教育心理学			
担当者	藤井 輝男 Teruo Fujii			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

児童・生徒の学習過程に関する心理学的知見を修得し、教育場面で役立てられることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めるが、配付資料を利用して学生諸君の発言を求めたり、課題提出を求めたりする。必要に応じてビデオ等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（80%）・レポート及びその他の課題（20%）で評価する予定である。

■授業の予習・復習

予習：事前に教科書を読んでおくこと。
復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。

■教科書

山崎史郎編「教育心理学ルック・アラウンド」ブレーン出版

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2	教育心理学の領域と課題	教育心理学の研究分野の紹介
3	発達（1）	発達理論、発達段階
4	発達（2）	母性剥奪について
5	教育と発達（1）	成熟と学習の関係について
6	教育と発達（2）	英才教育は役に立つのか？
7	知能	知能とは。知能指数の算出方法など。
8	性格（1）	性格の形成過程について
9	性格（2）	エゴグラム
10	動機づけ	「やる気」とは
11	授業の過程	教授学習過程について
12	評価	教育評価の内容
13	適応と障害（1）	適応と教育
14	適応と障害（2）	障害の理解
15	まとめ	まとめと質問

科目名	発達心理学			
担当者	藤井 輝男 Teruo Fujii			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

児童・生徒の発達過程に関する心理学的知見を修得し、教育場面で役立てられることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めるが、配付資料を利用して学生諸君の発言を求めたり、課題提出を求めたりする。必要に応じてビデオ等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（80%）・レポート及びその他の課題（20%）

■授業の予習・復習

授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。

■教科書

教科書は使用しない。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて説明する。
2	成熟と学習	発達における成熟と学習の関連について
3	本能的行動	「インプリンティング」を例に、本能と学習を考える
4	遺伝と環境	遺伝と環境の相互作用について
5	胎児、新生児期	胎児、新生児期の特徴について
6	幼児期	幼児期の特徴について
7	児童期	児童期の特徴について
8	青年期	青年期の特徴について
9	発達理論（1）	ピアジェの発達理論について
10	発達理論（2）	エリクソンの発達理論
11	発達理論（3）	その他の発達理論
12	発達障害（1）	LD、ADHD、広汎性発達障害について
13	発達障害（2）	事例紹介 その1
14	発達障害（3）	事例紹介 その2
15	まとめ	まとめと質問

科目名	教職概論			
担当者	坂本 義孝 <i>Yoshitaka Sakamoto</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

教員を目指す者として教職の意義を理解し、教職への進路意識をより明確にするとともに、教師としての使命感、責任感を自覚できるようにすること。

■授業の進め方（履修条件等）

教職に関する事項を広範囲に講義する予定である。したがって、学生自らが教職への意欲や適性を確認できるように進める。

■成績評価方法・基準

レポート提出、平常点、定期試験、その他の小テストによる総合評価とする。

■授業の予習・復習

シラバスにしたがって、その都度指示する。

■教科書

「教職概論」(第3次改訂版) 学陽書房刊

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 教職の意義(1)	教職を目指す者にとって
2 教職の意義(2)	教員養成について
3 教職員の任用と服務(1)	教職員の配置と任用
4 教職員の任用と服務(2)	教職員の服務
5 教職員の任用と服務(3)	教職員の勤務条件
6 教師の職務内容(1)	校務分掌の意義と組織
7 教師の職務内容(2)	管理職について
8 教師の職務内容(3)	主任層について
9 教師の職務内容(4)	学習指導等について
10 教師の職務内容(5)	生徒指導について
11 教師の職務内容(6)	生徒理解と教育相談
12 教師の職務内容(7)	学校外との連携・協力
13 教師の資質向上	教師のライフステージと研修制度
14 教育実習	その意義と心得
15 教職への道	教員採用選考の現状

科目名	教育行政			
担当者	福田 靖 <i>Yasushi Fukuda</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

教育行政とは何か、今日の教育行政上の課題は何かについて、実際に教育現場に立つものの視点から明らかにする。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを使用した講義形式。

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

要復習：授業ノートを自宅でプリントに書き写し、その過程でプリントを丹念に読み、理解すること。

■教科書

特になし

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 教育行政とは何か	教育行政とは何か、そもそも行政とは何かについて解説する。
2 国の行政制度	国の教育行政制度はどうなっているか、文科省の仕事を中心に解説する。
3 教育委員会制度	教育委員会制度の意義、日本における導入の経緯、教育委員会制度の今日的課題について解説する。
4 教育権をめぐる論議	子どもを教育する権利は誰が持っているのか、国はどこまで教育内容に関与すべきかについて考察する。
5 旭川学テ判決の意味するもの	行政と親と教師は子どもの教育に関してどのような関係にあるかについて、それに関する典型的な判決である旭川学テ判決を例に考察する。
6 子どもと親の変化	今日の教育行政課題のもとをなす子どもと親の変化がどのように起きてきたかを解説する。
7 中教審答申	中教審答申に見られる今日の教育行政課題について解説する。
8 学習指導要領	学習指導要領の教育行政上の意義について解説する。
9 我が国の教科書制度	我が国の教科書制度について義務教育教科書の無償制度、教科書検定制度等の側面から考察する。
10 教育の機会均等	特に経済的な面から、奨学金制度について考察する。
11 学校運営	教育行政と個々の学校の運営について考察する。
12 教員の資質向上	教員の研修制度について解説する。
13 教員給与	教員の待遇、教員給与の諸問題について解説する。
14 学力保障	子どもの学力低下、学力格差の拡大等の問題について考察する。
15 生涯学習	我が国の社会教育行政の今日的課題について考察する。

科目名	教育法規			
担当者	福田 靖 Yasushi Fukuda			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

教員として知っておくべき教育法規を実際に教育現場に立つものの視点から明らかにする。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを使用した講義形式

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

要復習：授業ノートをプリントに書き写す過程で、プリントを丹念に読むこと。

■教科書

特になし

■参考文献

科目名	教育方法論			
担当者	柳原 由美子 Yumiko Yanagihara			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

この授業は、将来教員を目指す学生たちが受講することを前提に、学校教育の実践に必要な基礎的理論を理解し、その理論を踏まえて、現実の授業実態や最近の方法技術の特質を探ることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開していきます。

■成績評価方法・基準

次のように行いますが、2)と3)についてはどちらかを選択します。1) 筆記試験（中間・期末）70% 2) コンピュータや教材提示装置などの教具を利用したミニ授業 30% 3) プログラム学習教材の作成 30%

■授業の予習・復習

復習：毎回配布のレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

毎回配布する印刷物（レジュメ etc.）を利用します。

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 法令についての基礎知識	法令の読み方、法源と法体系、基礎的法律用語
2 教育法規の体系	日本国憲法、教育基本法、学校教育法、地方法、地方公務員法、教育公務員特別法等
3 学校組織と教育法規その1	校長、副校長の職務と権限、教頭の職務、主幹教諭・指導教諭の職務、教諭の職務
4 学校組織と教育法規その2	職員会議の機能 校務分掌 学校図書館の機能
5 学校運営と教育法規その1	勤務時間の割振り、時間外勤務と教職調整額、授業日・休業日、年次有給休暇と時季変更権、公務上の災害と災害補償、学校施設の目的外使用等
6 学校運営と教育法規その2	学校評価、学校評議員制度、学校運営協議会、外部人材の登用
7 教育行政と教育法規	教育委員会の組織・機能、教職員の人事権、校長の意見具申権、学校選択制の拡大、校長・副校長・教頭の資格要件の緩和
8 教職員の身分と教育法規	教員の身分と教員の服務、教員の分限処分と懲戒処分、指導が不適切な教員の人事管理
9 教員の研修と教育法規	教員の研修体系、初任者研修、10年経験者研修、修学部分休業制度、自己啓発等休業制度・大学院修学休業制度
10 教員免許制度と教育法規	教員免許更新制、教員免許状の種類と失効要件
11 教育課程と教育法規その1	学習指導要領の法的拘束力と基準性、教科書の使用義務、補助教材の使用
12 教育課程と教育法規その2	個に応じた指導、キャリア教育、読書活動の推進、人権教育
13 児童・生徒と教育法規その1	懲戒の範囲と体罰、児童生徒の出席停止、不登校対策、いじめ問題への対応
14 児童・生徒と教育法規その2	健康診断、学校事故と災害共済給付、子どもの安全確保
15 特別支援教育と教育法規	発達障害者支援法と学校の取り組み、特別支援学校、特別支援学校教諭免許状

■授業内容

授業項目	授業内容
1 クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、プレゼンテーションなどについての説明
2 教えるという仕事	柔軟な方法観の必要性、TTTIとは、スキーマとは、など
3 変貌する教室	学校の転換期、教室の風景の変貌、欧米と日本の相違など
4 授業の様式	教える2つの様式とその歴史、日本の学校文化
5 授業の歴史（1）	近代以前の教育方法、近代の教育学の成立
6 授業の歴史（2）	ベスタロッチ、ヘルバルト、ツィラーなどの教授の変遷
7 授業の歴史（3）	子ども中心の教育、効率主義の教育、行動科学の教育
8 中間試験	試験の解説（復習）
9 いろいろな教育（1）	オープン教育の発展と現状、その難しさの可能性
10 いろいろな教育（2）	プログラム学習、完全習得学習、応答する環境
11 いろいろな教育（3）	視覚メディアの特質とその利用、視覚教育の変遷
12 プレゼンテーション(1)	学生による視覚機器を利用した発表
13 プレゼンテーション(2)	学生による視覚機器を利用した発表
14 授業のデザイン	授業の組織、授業の構造、授業をデザインし創造する
15 授業の評価	行動科学の方法、質的研究の方法、工学的接近と羅生門的接近など

科目名	社会科・地歴科指導法Ⅰ			
担当者	奈良 明 Akira Nara			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

知識基盤社会化やグローバル化が進む時代において、中学校社会科が果たす役割は非常に大きい。そのために学習指導要領を深く理解し、中学校社会科教員として身につける、基礎理論、教材理論、研究の方法、授業の方法論等を地理的、歴史的分野において習得する。

■授業の進め方（履修条件等）

中学校学習指導要領解説—社会編と教師作成のプリントで授業を進める。

■成績評価方法・基準

課題小論文（50点）、定期試験（50点）

■授業の予習・復習

予習：前時の内容を目を通しておく。
復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説—社会編
文部科学省

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	社会科教育の現状と課題	オリエンテーション、社会科で何を教えるのか。
2	社会科教育の基本	社会科教育の理念
3	社会科教育の基本	社会科教育の変遷
4	社会科教育の基本	これからの社会科教育
5	社会科の学力観	学力を構成するもの
6	社会科の授業観	分かる授業、楽しい授業とは
7	社会科地歴学習の基礎理論	地理的分野の学習
8	社会科地歴学習の基礎理論	地理的分野の指導と方法
9	社会科地歴学習の基礎理論	歴史的分野の学習
10	社会科地歴学習の基礎理論	歴史的分野の指導と方法
11	社会科地歴学習の基礎理論	年間指導計画の作成
12	社会科授業の方法論	地理、歴史の教材研究
13	社会科授業の方法論	地理、歴史の指導技術
14	社会科の評価	評価規準の設定
15	社会科の評価	観点別学習状況評価

科目名	社会科・地歴科指導法Ⅱ			
担当者	奈良 明 Akira Nara			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

社会科・地歴科指導法Ⅰ（前期）で学んだ理論を背景として、授業実践に結びつく力を身につける。実際に使用されている教科書を使い、学習内容や指導方法を具体的に習得する。

■授業の進め方（履修条件等）

社会科・地歴科指導法Ⅰ（前期）を履修したものが受講できる。教科書を使用しながら、学習指導要領の内容と関連させ、指導のポイントを理解する。

■成績評価方法・基準

レポート作成（40点）、課題発表（60点）

■授業の予習・復習

予習：発表者は準備しておく。
復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説—社会編
文部科学省中学校教科書 東京書籍版
「地理」「歴史」帝国書院版 「地図帳」

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、指導案作成の仕方
2	地理的分野の学習内容と学習指導の研究	地理的分野の年間学習指導計画
3	//	学生による模擬授業（世界のすがた）
4	//	//（世界各地の人々の生活と環境）
5	//	//（世界の諸地域）
6	//	//（日本のすがた）
7	//	//（世界から見た日本のすがた）
8	//	//（日本の諸地域）
9	歴史的分野の学習内容と学習指導の研究	歴史的分野の年間学習指導計画
10	//	学生による模擬授業（古代までの日本）
11	//	//（中世の日本）
12	//	//（近世の日本）
13	//	//（開国と近代日本の歩み）
14	//	//（二度の世界大戦と日本）
15	授業参観	中学校社会科授業参観とレポート提出

科目名	地理歴史科指導法			
担当者	福田 靖 Yasushi Fukuda			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

主に高校の地歴科教員となった場合に必要とされる、教員としての心構えを育成するとともに最重要の教育内容についての扱い方と基本知識を身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

主として高校地歴科の日本史、世界史、地理の各科目を想定した内容で授業を進める。プリントを使用した講義形式及び演習。座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない

復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

特になし

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	地歴科を教えるということ	学問としての地理・歴史と授業としてのそれとの違い
2	講義録とプリントをどう作るか	魅力的な講義、わかりやすいプリントとは
3	インパクトのある語り	生徒の印象に残る歴史叙述とは
4	地理的空間認識演習-1	アジア地域の地図の作成演習
5	学習指導要領について	学習指導要領高校地歴科の改訂点
6	世界史における現代史の扱い方 その1	帝国主義と第1次世界大戦
7	世界史における現代史の扱い方 その2	大戦間時代と大衆社会の出現
8	世界史における現代史の扱い方 その3	世界恐慌と第二次大戦
9	地理的空間認識演習-2	ヨーロッパ地域の地図の作成演習
10	日本史における地域教材の扱い方 その1	荘園の発展と武士団の形成
11	日本史における地域教材の扱い方 その2	千葉常胤と鎌倉幕府の成立
12	地理的空間認識演習-3	アメリカ地域の地図の作成演習
13	地理で隣国中国をどう扱うか その1	中国の歩みと人びと
14	地理で隣国中国をどう扱うか その2	多様な自然と農業
15	地理で隣国中国をどう扱うか その3	世界の工場としての中国

科目名	社会科・公民科指導法 I			
担当者	福田 靖 Yasushi Fukuda			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

主に中学校社会科教員となった場合に必要とされる教員としての心構え、教育上の諸技法の基礎的理論と現実を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを使用した講義及び演習。教室内での座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない

復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

- 『社会科中学生の2 地理、歴史、公民（教科書）』 帝国書院 2012
- 『新編中学校社会科地図』 帝国書院 2012

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	教師とはどんな仕事か	教育とは何か、教師とはどんな職業か
2	教育における場の設定	生徒理解、生徒との間合いの取り方
3	社会科を教えるということ	社会科教員としての基礎的資質
4	中学校学習指導要領について	20年版 中学校学習指導要領の主な改訂点
5	高校入試（社会科）について	公立高校入試問題への対応
6	学習指導案の書き方	学習指導案作成上の留意点
7	社会科における基礎知識演習-1	日本の行政区分
8	生徒の思考回路を回すということ	発問の仕方、プリントの作り方
9	社会科における評価	生徒を多角的に評価するという事
10	授業のビジュアル化	視聴覚教材を扱う上での留意点
11	国際理解教育を考える	国際人としての資質の育成
12	社会科における基礎知識演習-2	世界の国家構成
13	グループワークの進め方 その1	事前準備 どのような資料を与えるか
14	グループワークの進め方 その2	論点の整理 討議のさせ方の実際
15	グループワークの進め方 その3	多様な意見のまとめかた

科目名	社会科・公民科指導法Ⅱ			
担当者	福田 靖 Yasushi Fukuda			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

主に中学校社会科教員となった場合に必要とされる、心構え、知識、授業展開の技能などを実践的に育成する。

■授業の進め方（履修条件等）

社会科・公民科指導法Ⅰの先修を原則とする。模擬授業を数多く行い、実践的訓練をする。教室内での座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない

復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

- 『社会科中学生の地理、歴史、公民（教科書）』 帝国書院 2012
- 『新編中学校社会科地図』 帝国書院 2012

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	今日の世界と日本の抱える諸問題 その1	第二次大戦の終結
2	今日の世界と日本の抱える諸問題 その2	冷戦下の世界
3	今日の世界と日本の抱える諸問題 その3	雪解けと諸国の自立
4	今日の世界と日本の抱える諸問題 その4	アメリカの覇権の揺らぎ
5	今日の世界と日本の抱える諸問題 その5	社会主義陣営の解体と中国
6	グローバル経済の諸問題をどう教えるか その1	混迷する世界経済
7	グローバル経済の諸問題をどう教えるか その2	TPP加入問題に見る我が国の国際経済環境
8	裁判員となることを考えさせる その1	我が国の司法制度改革
9	裁判員となることを考えさせる その2	裁判員制度の課題
10	社会科授業の研究 その1	学生による模擬授業（基本的人権）
11	社会科授業の研究 その2	学生による模擬授業（国会の在り方）
12	社会科授業の研究 その3	学生による模擬授業（地方自治）
13	社会科授業の研究 その4	学生による模擬授業（国連と地域機構）
14	社会科授業の研究 その5	学生による模擬授業（地球温暖化）
15	教員採用試験	教員採用試験の実際

科目名	公民科指導法			
担当者	福田 靖 Yasushi Fukuda			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

主に高校の公民科教員となった場合に必要とされる、教員としての心構えを育成するとともに最重要の教育内容についての扱い方と基本知識を身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

主として高校公民科の政経、倫理、現代社会の各科目を想定した内容で授業を進める。プリントを使用した講義形式。座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない

復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

特になし

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	高校学習指導要領について	平成21年版学習指導要領高校公民科改訂の要点
2	宗教をどう教えるか その1	キリスト教
3	宗教をどう教えるか その2	仏教
4	宗教をどう教えるか その3	イスラム教
5	経済事象の取り扱い方 その1	市場経済の原理
6	経済事象の取り扱い方 その2	経済現象の図式化
7	経済事象の取り扱い方 その3	市場の失敗
8	経済事象の取り扱い方 その4	価格弾力性
9	哲学をどう教えるか その1	宗教と哲学の違い、哲学の諸課題
10	哲学をどう教えるか その2	ソクラテスをどう扱うか
11	哲学をどう教えるか その3	デカルトをどう扱うか
12	戦争と平和をどう教えるか その1	二つの世界大戦
13	戦争と平和をどう教えるか その2	キューバ危機
14	戦争と平和をどう教えるか その3	イラク戦争
15	戦争と平和をどう教えるか その4	戦争を避けるために考えるべきこと

科目名	商業科指導法			
担当者	坂本 義孝 Yoshitaka Sakamoto			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

商業教育に関する基本的な事項について学習するとともに、商業科教師として必要な知識・技術の習得を目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

高等学校における商業教育の担当者として活躍できるように、できるだけ実践的な内容とともに、学生からの質問やそれへの回答をおとして学生が意欲的に学習できるように進める。

■成績評価方法・基準

レポート提出、平常点、定期試験、その他的小テストによる総合評価とする。

■授業の予習・復習

シラバスにしたがって、その都度指示する。

■教科書

「高等学校学習指導要領解説商業編」文部科学省

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 学校教育と学習指導要領	後期中等教育としての高校教育
2 普通教育と専門教育	普通科高校と専門高校
3 商業高校と商業教育	産業教育としての商業教育
4 教科「商業」の目標	商業教育の目指すもの
5 教科の組織	学習分野と科目の構成
6 商業諸科目の内容(1)	基礎的な科目について
7 // (2)	総合的な科目について
8 // (3)	マーケティング分野の科目について
9 // (4)	ビジネス経済分野の科目について
10 // (5)	会計分野の科目について
11 // (6)	ビジネス情報分野の科目について
12 商業に関する学科	各専門学科の特色について
13 学習指導と資格取得	商業に関する職業資格とその指導
14 商業教育とキャリア教育	商業高校における進路指導
15 商業科指導法のまとめ	商業教育の現状と課題

科目名	商業科教材研究			
担当者	坂本 義孝 Yoshitaka Sakamoto			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

商業科教員としての指導力、実践力の育成を主たる目標とし、各科目の具体的な指導法を身に付けさせる。

■授業の進め方（履修条件等）

指導計画や学習指導案を実際に作成し、模擬授業をおとして学習指導にかかる計画、実施、評価についての実践力がつくよう進める。なお、「商業科指導法」を履修・修得済であること。

■成績評価方法・基準

レポート提出、平常点、定期試験、その他的小テストによる総合評価とする。

■授業の予習・復習

シラバスにしたがって、その都度指示する。

■教科書

「高等学校学習指導要領解説商業編」文部科学省

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 学習指導の工夫(1)	学習指導計画について
2 // (2)	指導形態や指導方法について
3 // (3)	教科書や副教材について
4 学習指導案(1)	指導案の意義とその作成方法
5 // (2)	模擬授業用指導案の検討
6 模擬授業(1)	基礎的な科目による
7 // (2)	マーケティング分野の科目による
8 // (3)	ビジネス経済分野の科目による
9 // (4)	会計分野の科目による
10 // (5)	ビジネス情報分野の科目による
11 教育課程の編成(1)	教育課程の意義とその編成
12 // (2)	各校の教育課程表にみる特色
13 商業教育と評価	評価のあり方と単位認定
14 商業教育と研修	指導力の向上を目指した研修
15 商業教育の展望	これまでとこれから

科目名	情報科指導法 I			
担当者	須之内 義昭 <i>Yoshiaki Sunouchi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報化社会の現状と進展を考察するとともに、必修教科「情報」が設置された趣旨を理解し、小・中・高等学校を通じた情報教育を体系的に把握した上で、教科「情報」の各科目の目標、内容等について検討し効果的な指導方法・評価法を考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

小・中・高における情報教育全体の体系と高校生が身に付けるべき内容、及び実際に授業を行う際の指導法および留意すべき点について、前期は主に講義を中心に進める。

■成績評価方法・基準

平常点、レポート、定期試験等による総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：高等学校の教科体系を把握するとともに、授業の展開を通じて教科「情報」の全容を周知できるよう学習すること。
復習：毎回の講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。

■教科書

高等学校学習指導要領解説情報編（H22.5.12初版発行）
文部科学省海隆堂出版
その他、プリント教材を配布して使用する。

科目名	情報科指導法 II			
担当者	須之内 義昭 <i>Yoshiaki Sunouchi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

教科「情報」担当教員としての実践力を育成することを主たる目標とし、これまでに得た情報に関する知識・技術を学校教育における学習指導的視点で再構築する方策や、教材・教具の工夫、活用等について学ぶことを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

教材の分析や問題把握、評価法等についての実践力を育成するため模擬授業を行うとともに、指導内容や方法等について互いにディスカッションする時間を多くとる。

■成績評価方法・基準

レポート、模擬授業、定期試験等による総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：高等学校学習指導要領に示された教科「情報」の目標及び内容とその取り扱いを熟読しておくこと。
復習：毎回の講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。

■教科書

高等学校学習指導要領解説 情報編（H22.5.12初版発行）
文部科学省 海隆堂出版
その他、プリント教材を配布して使用する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業計画と概要
2 情報化社会の現状と進展	産業社会及び学校教育における情報化
3 学校教育に係る法制度	法体系の概要と学習指導要領
4 情報教育の設置経緯	教科「情報」の設定に至る背景と目標
5 情報教育の体系と目標	小・中・高校を通じた教育体系
6 高校における情報教育	現行及び新学習指導要領の変化
7 普通教科「情報」の科目(1)	「社会と情報」の学習目標と指導内容
8 //	(2) 「情報の科学」の学習目標と指導内容
9 専門教科「情報」の科目	各科目の学習目標と指導内容
10 教育評価	情報科教育における教育評価と工夫
11 情報倫理とセキュリティ	学校教育における指導内容
12 学校の情報管理	ネットワーク社会における管理
13 情報の表現と発信	情報とデータ、情報量とデータ量
14 社会における情報システム	具体例とシステムの役割
15 まとめ	講義のまとめ

■参考文献

「情報科教育のための指導法と展開例」
岡本敏雄、西野和典編著 実教出版
「新しい情報教育の理論と実践の方法」 宮地功著 実教出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 年間指導計画と学習指導案	作成の意義と内容
2 学習評価	学習指導と評価の工夫
3 情報通信ネットワーク	学習指導への利用
4 学習指導の工夫(1)	教材・教具の作成及び利用
5 //	(2) プレゼンテーションの技法
6 模擬授業準備(1)	年間学習指導計画の作成
7 //	(2) 学習指導案の内容、留意点
8 //	(3) 学習指導案検討、教材研究
9 模擬授業(1)	模擬授業、授業内容・方法・評価法等討論
10 //	(2) 模擬授業、授業内容・方法・評価法等討論
11 //	(3) 模擬授業、授業内容・方法・評価法等討論
12 模擬授業評価、総括	効果的な授業法
13 情報倫理とセキュリティ	情報倫理・セキュリティの指導
14 校務分掌と情報管理	校務分掌組織と情報管理
15 まとめ	講義のまとめ

■参考文献

「情報科教育のための指導法と展開例」
岡本敏雄、西野和典編著 実教出版
「新しい情報教育の理論と実践の方法」 宮地 功著 実教出版

科目名	情報と職業			
担当者	須之内 義昭 <i>Yoshiaki Sunouchi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

情報化社会の進展と情報関連職業、並びに情報倫理を含む職業観などを学び、情報に関する職業人としての在り方等を理解することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

配布プリントによる講義形式を中心とし、情報化社会における情報産業の役割とそこで働く職業人として必要な基本的事柄を具体的な事例に基づき学習する。

■成績評価方法・基準

平常点、レポート、定期試験等による総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：情報関連の記事や文献等に日常的に目を通し、情報化社会の現状を把握しておくこと。

復習：毎回の講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。

■教科書

プリント教材を配布して使用する。

■参考文献

「情報と職業」 豊田雄彦・加藤 晃・鈴木和雄共著
(株)日本教育訓練センター
 「実践情報システム」 秋山哲男著 中央経済社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	「情報と職業」の意義	目標と授業計画
2	情報産業と職業	産業の情報化と情報の産業化
3	情報関連の業種	情報に関連した仕事
4	情報化の進展と専門職	情報処理と情報関連専門職
5	オフィス・コンピューティング	仕事の効率化と業績の向上
6	情報に関連する職業資格	職業資格と職業適性
7	キャリア形成と自己理解	キャリア形成と企業が求める人材像
8	情報に関わる法制度(1)	法体系と情報に関する法令
9	〃 (2)	情報化の進展と法制度の整備
10	情報倫理	情報倫理の要素と情報モラル
11	情報化とプライバシー	プライバシーポリシーとガイドライン
12	情報リスクマネジメント	マネジメントとセキュリティポリシー
13	キャリアデザイン	キャリア形成とキャリア支援
14	情報技術とビジネス	ビジネスへの情報技術の活用
15	まとめ	講義のまとめ

科目名	道徳教育研究			
担当者	中山 幸夫 <i>Yukio Nakayama</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

今日のわが国社会の現状を視野に収めながら、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育のあり方を検討する。道徳および道徳教育の本質について学ぶことを通して、学生諸君が人間としてのより善い生き方、あり方に関心を深めることを目標とした。

■授業の進め方（履修条件等）

授業内容に即した講義要項を配付し、それをもとに授業を進めていく。「道徳」授業の実際については具体的な資料（副読本）や実践例について検討を加える。ほぼ毎回、課題レポートの提出を求めるので、息の長い取り組みが求められる。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、出席および小レポート（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：課題レポートの作成

復習：課題レポートの再検討

■教科書

文部科学省『小学校／学習指導要領解説 道徳編』日本文教出版文部科学省『中学校／学習指導要領解説 道徳編』東洋館出版宇佐美 寛 「『道徳』授業に何が出来るか」 明治図書

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	道徳教育の体験、道徳教育の意義と課題（総論）
2	わが国における道徳教育の歩み	戦前の道徳教育
3	わが国における道徳教育の歩み	戦後の道徳教育
4	道徳教育の思想と理論	道徳教育の思想
5	道徳教育の思想と理論	道徳性の発達理論
6	家庭、学校、地域社会の連携	家庭における道徳教育
7	家庭、学校、地域社会の連携	地域社会における道徳教育
8	学校の教育活動と道徳教育	教科指導と道徳教育
9	学校の教育活動と道徳教育	特別活動と道徳教育
10	学校の教育活動と道徳教育	総合的な学習の時間と道徳教育
11	「道徳」授業のあり方	学習指導要領における「道徳」の時間
12	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の現実
13	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の課題
14	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の改善
15	総括	道徳実践力の育成はいかにして可能となり得るか

■参考文献

科目名	特別活動研究			
担当者	池谷 美佐子 Misako Ikeya			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

小学校と中学校の特別活動の目標と内容について理解し、実践に生かしていくことのできる力を養うことを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

小学校学習指導要領と中学校学習指導要領を併用して参考にしながら、それぞれの目標や内容の特性について具体的な活動も取り入れながら理解を深めます。主体的な参加態度が必要です。

■成績評価方法・基準

授業毎のリアクションペーパー（50%） 期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：次の授業内容に関する体験や事例を整理しておく。

予習：理論と実践の関係性を整理しておく。

■教科書

小学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省）、中学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省）

■参考文献

必要に応じて紹介します

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	特別活動の目標	特別活動の目標についての理解と他教科との関連性について
3	特別活動の教育的意義	望ましい集団活動とは何か、自己の生き方とは何かについて考える。
4	学級活動（1）	学級活動とは何かについて考える。
5	学級活動（2）	学級や学校の生活の作り方について考える。
6	学級活動（3）	学級づくりの実例（係活動）を学ぶ。
7	学級活動（4）	「適応と成長及び健康・安全」「学業と進路」について考える。
8	児童会活動・生徒会活動（1）	児童会活動・生徒会活動、とは何かについて考える。
9	児童会活動・生徒会活動（2）	児童会活動・生徒会活動の実践を学ぶ。
10	学校行事（1）	各種行事の内容の特性について解説。
11	学校行事（2）	文化的行事について指導の方法論を考える。
12	学校行事（3）	文化的行事の実践事例について学ぶ。
13	特別活動の変遷	特別活動の歩みについて考える。
14	特別活動の指導法	特別活動の指導計画の作成について
15	特別活動の評価	特別活動の評価とその活用について

科目名	生徒指導論			
担当者	池谷 美佐子 Misako Ikeya			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

生徒指導のねらい、内容、教育的意義等についての理解を深めると共に、将来の人生設計に必要な自己指導能力の育成や主体的な進路選択に向けての指導や支援の在り方について事例を含めて具体的な理解に結びつける。

■授業の進め方（履修条件等）

理論的な内容の理解に加え、具体的な内容に対する実践事例をもとに指導の在り方に対しても理解を深めていく。

■成績評価方法・基準

授業毎のリアクションペーパー（30%） レポート（30%） 期末試験（40%）

■授業の予習・復習

予習：次の授業に関連するテキストの部分を読んでおく

復習：授業内容を確認し整理して一般化できるようにする

■教科書

生徒指導提要 文部科学省

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明
2	生徒指導の意義と原理（1）	生徒指導の意義と現状と課題について
3	生徒指導の意義と原理（2）	生徒指導と人間観・教育観
4	生徒指導の意義と原理（3）	学習指導と生徒指導
5	生徒指導の意義と原理（4）	集団指導と個別指導の意義
6	教育課題と生徒指導（1）	教科・道徳・総合的な学習の時間と生徒指導
7	教育課題と生徒指導（2）	特別活動と生徒指導
8	生徒の心理と生徒理解（1）	生徒理解の基本
9	生徒の心理と生徒理解（2）	青年期の心理の発達（児童期の心理の発達との比較を含めて）
10	生徒の心理と生徒理解（3）	学校における教育相談の特質と体制づくり
11	学校における進路指導（1）	進路指導の現状と課題
12	学校における進路指導（2）	進路指導の方法
13	学校における進路指導（3）	進路指導の組織的運営
14	学校における進路指導（4）	キャリア教育と評価
15	学校における進路指導（5）	学校・家庭・地域の連携と進路指導

科目名	教育相談			
担当者	藤井 輝男 Teruo Fujii			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

教員となった時に必要となる「学校教育相談」に関して修得し、教育場面における生徒との対応の仕方について理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、教育相談における生徒理解の考え方を概説する。その後、教科書の各章を学生が各自分担し、報告を行う。その報告内容に対して教員が補足説明を行う形式で進める。

■成績評価方法・基準

出席（40%）・発表及びその他の課題（40%）・授業態度（20%）

■授業の予習・復習

事前に教科書を読んでおくこと。

■教科書

授業時に指示する。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2	生徒指導、教育相談とは	発達の視点からの教育相談
3	学校での社会的スキル	対人行動の基本的技術について
4	学校でのカウンセリング	カウンセリングマインドについて
5	システムアプローチ	問題行動をどうとらえるのか
6	発達障害	LD、ADHD等について
7	キレル子ども（1）	キレル子の特徴
8	キレル子ども（2）	キレないための生徒指導
9	不登校	様々な事例から不登校を考える
10	いじめ	いじめ防止には何が必要なのか
11	孤立児童・生徒	集団内での孤立状態について考える
12	スクールカウンセラーとは	スクールカウンセラーの意義
13	教師のメンタルヘルス	教師自身の精神衛生について
14	学校と地域	地域との連携について
15	まとめ	まとめと質問

科目名	教職総合演習			
担当者	中山 幸夫 Yukio Nakayama			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

人類に共通する課題、わが国社会全体に関わる諸課題の複雑性・総合的な性格を理解しつつ、具体的な研究テーマについての分析・検討を進め、「知の総合化」をめざす。併せて、これらのテーマを学校現場（小・中・高校）で児童・生徒が学習できるように教材化の工夫を図ることを目標とする

■授業の進め方（履修条件等）

以下の取り組みを中心に授業を進める。

- ①グループで諸課題に関する研究テーマを設定し、各グループで文献、資料を収集し、テーマについてまとめ、発表する。
- ②文献・資料の収集だけでなく、インターネットを活用した情報の収集および整理、実在の人を介しての情報収集など、見通しを立てたうえでの取り組みを進める。
- ③発表においては、情報機器などを活用した効果的なプレゼンテーションが望まれる。

■成績評価方法・基準

出席（50%）、テーマ発表（30%）、レポート（20%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

グループでの発表準備。

■教科書

使用しない。

■授業内容

以下の内容を中心として、演習形式で授業を進めたい。
オリエンテーション＜教職総合演習の目的と授業の進め方＞
今日的課題と研究テーマの準備
研究テーマの設定と内容・方法の検討
（グループ発表の割り当て）
発表に向けての準備（グループ別）
研究テーマの発表と討議（グループ順）
レポート提出

■参考文献

上杉賢士著『総合的な学習を楽しむコツー チャータースクールからの示唆ー』 明治図書
上杉賢士著『総合学習進化論ー12年間で育てる学力ー』 明治図書

科目名	教職時事演習			
担当者	上野 正道 Masamichi Ueno			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

今日、学校は大きな転換点に位置している。社会の変化とともに、教育と人間と社会のかかわりが変化を促されている。この授業では、授業と学習、教師と子ども、カリキュラムと学力、いじめと不登校、世界の教育など、教職の時事にかかわる主題をとりあげて検討をおこなう。それによって、教育とは何か、人間とは何か、といったテーマに迫ることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

演習と講義の形式を中心に進める。

■成績評価方法・基準

出席（50%）とレポート（50%）

■授業の予習・復習

特になし

■教科書

『学校という対話空間—その過去・現在・未来』

北大路書房、2011年

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今日の教育問題
2 教育改革の課題	21世紀を生きる児童・生徒の教育、生きる力と確かな学力
3	知識基盤社会と教育、活用型の学力
4	主体的な学び、授業が分からない生徒の対応
5 カリキュラム	カリキュラムの弾力化と多様化、選択と協同の学び
6	学力低下論争、一斉学力テスト
7	総合的な学習、活用型の学習
8 生徒指導	いじめと不登校、スクール・カウンセラー制度、心の教育
9	学校行事、部活動
10 教師	教師—生徒関係
11	専門職としての教師
12	学校と家庭と地域の連携と協同
13 学校と社会	新自由主義と学校
14	グローバル時代の学校
15 まとめ	総括と展望

科目名	教育実践研究			
担当者	奈良 明 Akira Nara			
対象学年	12年度入学	3年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	3年以上		

■授業のねらいと到達目標

教育実習を前に教育者としての心構えを学。学校教育に対する理解を深めるため、学習指導要領の理解、専門性など、教員としての責務、役割等について理解を深める。

■授業の進め方（履修条件等）

中学校学習指導要領解説—総則編を中心教材に、あわせて配付資料等により、実践を意識した理論学習を行う。学校参観はレポートにまとめる。実践に必要な指導方法や技術等は、講義の中で適宜指導する。

■成績評価方法・基準

レポート作成（40点）、定期試験（50点）、参観実習（10点）

■授業の予習・復習

予習：前時の内容に目を通しておく。

復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説—総則編

文部科学省

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、現代の教育課題
2 学校教育の条件	学校の教育機能
3 //	学校の組織、施設、教職員
4 学校の教育活動の展開（教育課程）	教育課程の編成及び実施（基準、法則、一般方針）
5 //	//（道徳、体育、健康）
6 //	//（内容の取り扱いに関する共通的事項）
7 //	//（授業時数等）
8 //	//（指導計画の作成）
9 //	//（体験、問題解決学習）
10 //	//（生徒指導、進路指導）
11 //	//（学習活動、個に応じた指導）
12 //	//（特別支援、帰国生徒、情報教育）
13 //	//（部活動、指導の評価、地域連携）
14 学校の理解	学校参観の意義と方法（事前研修）
15 //	学校参観実習

科目名	中学校・高等学校教育実習			
担当者	中山 幸夫 Yukio Nakayama			
対象学年	12年度入学	4年	単位	中学校： 4単位 高等学校： 2単位
	09～11年度入学	4年		

■授業のねらいと到達目標

実習校での授業の観察・参加・実習を通して、学習指導や教育に関する理論を自ら検証する。併せて、学校教育についての理解を深めながら、学校現場で教師として仕事をしていくための責任ある力量を身に付ける。

■授業の進め方（履修条件等）

余裕をもって教育実習に臨むために、参加者は事前に必要な手続きを済ませ、十分な体調管理と準備の上で実習に臨むことが求められる。実習前の「教育実習直前指導」（4月下旬）、実習終了後の「教育実習報告会」（7月上旬）には必ず出席すること。なお、必要に応じて実習前後に個別指導を行う。

■成績評価方法・基準

教育実習校の実習生評価（50%）、「教育実習直前指導」「教育実習報告会」への出席、教育実習録の内容（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

十分な事前準備と心構えが求められる。実習後も「付録」としての各行事への出席、教育実習体験記の執筆などが課せられる。

■教科書

敬愛大学教職課程年報「教職への里程」

科目名	教育福祉論			
担当者	佐藤 真生子 Makiko Sato			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09～11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

本科目のねらいは、福祉社会において教員に求められる資質は何か、教育活動を展開するうえで、社会福祉など他の専門領域とどのような協働を図る必要があるのかを学ぶことである。達成目標は、①社会福祉に関する基本的な知識、視点を習得すること、②福祉社会における教員の役割を理解すること、③学んだ知識を生かして介護等体験実習に取り組みできるようにすることである。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業は、介護等体験実習の事前準備として開講されているので、介護福祉士の方を招いて具体的に現場を理解するための授業も実施する。また、実習記録（ノート）については、実習前、実習後に提出を求めているので、配布後は、毎回持参すること。

■成績評価方法・基準

評価方法は、レポート課題による。評価基準は、レポート8割、実習ノートやその他授業内で求める課題2割とする。

■授業の予習・復習

予習については、毎日必ず、新聞、もしくはニュースを観ること。また、事前に資料などを配布するので、必ず読んでくること。復習は、授業内提示された課題を行うこと。

■教科書

齋藤友介・坂野純子・矢島弘樹 編「大学生のための福祉教育入門」ナカニシヤ出版、2009

■参考文献

■授業内容

教室において定期的な授業を行う科目ではない。教育実習開始前の「直前指導」、「実習本体」、「実習後の総括」によって構成される科目である。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション 教育福祉論で何を学ぶのか。	この科目の学習目標、学習内容の説明を通じ、なぜ介護等体験をおこなうのか、ということを知る。
2	現代社会の理解 高齢社会と福祉社会	高齢社会の背景、インパクトを学ぶことを通じ、この社会の課題や方向性を学ぶ
3	福祉社会における教育と社会福祉協働の意味	現代における子どもの育ちや子育て、学齢期にある子どもたちの生活実態、生活問題を学び、なぜ社会福祉と教育が連携する必要があるのかを学ぶ。
4	おさえて欲しい社会福祉の理念	基本的な人権の尊重、ノーマライゼーション、インテグレーションなどについて、それらの思想の背景や目指すものについて学習。
5	障がいの概念と障がい者（児）の実態	①障がいとは何か？どのような障がいがあるのか等について ②障がいをもつ人たちが、地域社会でどのような生活問題を抱えているのか、また、彼らが自ら選んだ場で暮らし続けるためには何が必要であるのか、などについて学習。
6	障がい児と特別支援教育	特別支援教育とは何か。特別支援学校ではどのような教育を行っているか、その役割や特徴などについて学習。
7	介護等体験実習前ガイダンス（予定）	実習にあたっての留意点、記録の書き方などについて
8	特別支援学校実習後教育	① 実習先の体験を発表
9	② //	実習先の体験の発表をもとに、課題や問題点についてのまとめを行う。
10	障害者福祉施設での支援について	障がい者福祉支援に携わる専門職から現場の話聞き、具体的に理解を深める。
11	高齢者の理解	エイジング、高齢期の特徴について
12	高齢者の生活実態	高齢者の健康、経済、地域や社会とのかかわりなどについて知り、日本の高齢者の状況を理解する。
13	高齢者福祉施設の利用	実習先の施設の特徴や役割を学ぶ。
14	高齢者福祉施設での支援の具体	高齢者福祉施設での高齢者の生活、どのような人かどのような支援を受けているのかについてVTRなどを用いて具体的に学ぶ。
15	学校と地域福祉活動の連携の在り方	学校と福祉サービスなど（地域の高齢者施設、その他の福祉施設、機関、ボランティア団体など）が有機的につながりあって活動している先駆的な取り組みを紹介し、その成果や意義について学習する。

科目名	職業指導 I			
担当者	須之内 義昭 <i>Yoshiaki Sunouchi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

職業指導は、一人一人の生徒が自己を理解して自ら将来進むべき道を選択し、自ら決定できる能力を育てるとともに、自分の生きがいと深くかかわる自覚を深めさせる指導である。教員として生徒を指導するために必要な知識・技法について学び、在るべき職業指導について研究する。

■授業の進め方（履修条件等）

職業指導の概念、歴史的背景等について考察し、職業指導・進路指導・キャリア教育の基礎理論を中心に進める。

■成績評価方法・基準

平常点、レポート、定期試験等による総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：自らの職業観・勤労観を考察するとともに、自己のキャリア形成の観点からも展望しつつ情報を収集し学習すること。

復習：毎回の講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。

■教科書

プリント教材を配布して使用する。

■参考文献

「進路指導・キャリア教育の理論と実践」 吉田辰雄・篠 翰著
日本文化科学社
「進路指導の理論と方法」 日本進路指導学会編 福村出版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業計画と概要
2 社会の変化と職業	職業の発生、職業の種類
3 職業指導と進路指導	概念と定義
4 職業指導とキャリア教育	草創と社会的背景
5 キャリア教育	概念と定義
6 我が国の職業指導	学校教育への導入と歴史的発展
7 職業指導・キャリア教育	選択理論、適応理論、発達理論
8 職業適性	適性の分類と検査法
9 進路指導の理念と性格	基本的性格、進路指導の一般原理
10 進路学習指導	教育課程への位置づけ
11 進路指導の現状と課題	高等学校の進路指導の状況
12 校内組織体制の確立	校内組織と指導体制
13 進路指導・キャリア教育	各教員の役割
14 進路指導と進路相談	進路相談の目的、担任の役割
15 まとめ	講義のまとめ

科目名	職業指導 II			
担当者	須之内 義昭 <i>Yoshiaki Sunouchi</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

職業指導は、一人一人の生徒が自己を理解して自ら将来進むべき道を選択し決定できる能力を育てるとともに、自分の生きがいと深くかかわる自覚を深めさせる指導である。教員として生徒を指導するために必要な知識・技法について学び、在るべき職業指導について研究する。

■授業の進め方（履修条件等）

高等学校における進路キャリア教育の実践に必要な知識：手法についての具体的な内容を取り上げ、教員としての実践力をつけることを主体に進める。

■成績評価方法・基準

平常点、レポート、定期試験等による総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：自らの職業観・勤労観を考察するとともに、自己のキャリア形成の観点からも展望しつつ情報を収集し学習すること。

復習：毎回講義内容等を整理し、疑問点は調査や質問等により必ず解消しておくこと。

■教科書

プリント教材を配布して使用する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 学校におけるキャリア教育	現状と重要性
2 学ぶ力の育成とキャリア教育	キャリア教育の意義
3 キャリア発達のガイドライン	育成する能力領域
4 自己情報の理解	理解に当たっての留意点とその方法
5 進路情報の理解	進路情報に関する指導及び支援
6 啓発的経験	キャリア教育における体験と経験
7 キャリア カウンセリング	展開と手順並びに基礎的スキルと留意点
8 進路選択決定への支援	進路選択・決定への支援
9 進路指導	内容と学校キャリア教育の評価
10 キャリア教育計画・実践・評価	目標と留意点
11 産業界が重視する能力	企業が採用時に重視する能力
12 インターンシップ	実施と意義
13 労働界における職業指導	経済・雇用状況と諸課題
14 職業に関する関係法規	関係法規、雇用対策
15 まとめ	講義のまとめ

■参考文献

「進路指導・キャリア教育の理論と実践」 吉田辰雄・篠 翰著
日本文化科学社
「キャリア教育入門」 三村隆男 著 実業之日本社

科目名	学校事務概論			
担当者	向笠 博昭 <i>Hiroaki Mukasa</i>			
対象学年	12年度入学	2年以上	単位	2単位
	09~11年度入学	2年以上		

■授業のねらいと到達目標

学校教育法令や学校事務の職務内容を理解させる。更に他大学（短大）を訪問して事務職員のあり方等を研修する。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回プリントを配布して、学校事務職員が教育制度の中でいかに重要であるかを考えていく。

■成績評価方法・基準

授業での課題レポート・理解力・授業態度等を総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：学校事務職について、事前に調べておく。
復習：授業内容を整理する。課題レポートの執筆。

■教科書

指定しない。

■参考文献

『学校事務職員制度の研究』 清原正義著 学事出版
『学校事務』 学事出版

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業計画と内容
2	学校事務職員	学校教育法等
3	学校事務の職務内容（1）	総務・人事・学務
4	〃（2）	財務・福利厚生・統計
5	行政職員と学校事務（1）	学校教育法等
6	〃（2）	学校事務の身分等
7	学校事務の実状（1）	高等学校の状況
8	〃（2）	大学・短大の状況
9	学校組織マネジメント	学校運営・管理運営
10	社会人の基礎（1）	「働く」意識
11	〃（2）	社会人の基礎力
12	〃（3）	仕事力
13	教職員の採用状況	教員採用情報と試験対策
14	授業の復習	ディスカッション
15	まとめ	まとめ

シラバス

V 2008～2012年度科目名変更一覧

2008－2012年度 科目名変更一覧

科目区分		2012年度入学者の科目名 【12カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2009～2011年度入学者の科目名 【09・11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	
学部 共通 科目	基礎 科目	文章表現	文章表現		
		口頭表現	口頭表現		
		基礎数学	基礎数学		
		入門経済学	入門経済学	入門経済学	
		入門経営学	入門経営学	入門経営学	
		キャリアプランニング	キャリアプランニング		
		健康科学	健康科学 ※2010までは健康運動科学	健康運動科学	
		情報基礎Ⅰ	情報基礎Ⅰ	情報基礎Ⅰ	
	情報基礎Ⅱ	情報基礎Ⅱ	情報基礎Ⅱ		
	言語 科目 A	必修 科目	英語Ⅰ	英語Ⅰ	
			英語Ⅱ	英語Ⅱ	英語Ⅰ
			英語Ⅲ	英語Ⅲ	
			英語Ⅳ	英語Ⅳ	英語Ⅱ
	言語 科目 B	選 択 科 目	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰ	
			フランス語Ⅱ	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰ
			フランス語Ⅲ	フランス語Ⅲ	
			フランス語Ⅳ	フランス語Ⅳ	フランス語Ⅱ
			ドイツ語Ⅰ	ドイツ語Ⅰ	
			ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰ
			ドイツ語Ⅲ	ドイツ語Ⅲ	
			ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅱ
			中国語Ⅰ	中国語Ⅰ	
			中国語Ⅱ	中国語Ⅱ	中国語Ⅰ
			中国語Ⅲ	中国語Ⅲ	
			中国語Ⅳ	中国語Ⅳ	中国語Ⅱ
			日本語Ⅰ	日本語Ⅰ	
			日本語Ⅱ	日本語Ⅱ	日本語Ⅰ
日本語Ⅲ			日本語Ⅲ		
日本語Ⅳ			日本語Ⅳ	日本語Ⅱ	
英会話Ⅰ			英会話Ⅰ		
英会話Ⅱ			英会話Ⅱ	英会話Ⅰ	
英会話Ⅲ			英会話Ⅲ		
英会話Ⅳ			英会話Ⅳ	英会話Ⅱ	
時事英語Ⅲ	時事英語Ⅰ				
時事英語Ⅳ	時事英語Ⅱ	時事英語			
ビジネス英語Ⅲ	ビジネス英語Ⅰ				
ビジネス英語Ⅳ	ビジネス英語Ⅱ	ビジネス英語			
教 養 科 目	選 択 科 目	敬天愛人講座	敬天愛人講座	敬天愛人講座	
		敬愛プログラム	敬愛プログラム		
		スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (キャンパススポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (キャンパススポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ	
		哲学	哲学	哲学Ⅰ	
		心理学	心理学	心理学Ⅰ	
		社会心理学	社会心理学	心理学Ⅱ	
		日本の文学	日本の文学	文学Ⅰ	
		比較文学	比較文学	文学Ⅱ	
		歴史学	歴史学	歴史学Ⅰ	
		法学	法学	法学Ⅰ	
憲法Ⅰ	憲法Ⅰ	憲法Ⅰ			

科目区分		2012年度入学者の科目名 【12カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2009～2011年度入学者の科目名 【09・11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)
学部 共通 科目	教養 科目	憲法Ⅱ	憲法Ⅱ	憲法Ⅱ
		政治学	政治学	政治学Ⅰ
		日本の政治	日本の政治	政治学Ⅱ
		社会学	社会学	社会学Ⅰ
		数学Ⅰ	数学Ⅰ	数学Ⅰ
		数学Ⅱ	数学Ⅱ	数学Ⅱ
		統計学Ⅰ	統計学Ⅰ	統計学Ⅰ
		統計学Ⅱ	統計学Ⅱ	統計学Ⅱ
		環境科学	環境科学	環境科学Ⅰ
		地球科学	地球科学	地球科学Ⅰ
		総合科目Ⅰ	総合科目Ⅰ	総合科目 AⅠ
		総合科目Ⅱ	総合科目Ⅱ	総合科目 AⅡ
		海外事情研修Ⅰ (アメリカ)	海外事情研修Ⅰ (アメリカ)	海外事情研修Ⅰ (アメリカ)
		海外事情研修Ⅱ (中国)	海外事情研修Ⅱ (中国)	海外事情研修Ⅱ (中国)
		海外事情研修Ⅲ (オーストラリア)	海外事情研修Ⅲ (オーストラリア)	海外事情研修Ⅲ (オーストラリア)
		海外事情研修Ⅳ (イギリス)	海外事情研修Ⅳ (イギリス)	海外事情研修Ⅳ (イギリス)
		地域ボランティア活動	地域ボランティア活動	地域ボランティア活動
		* 日本史概論Ⅰ	* 日本史概論Ⅰ	* 日本史概論Ⅰ
	* 日本史概論Ⅱ	* 日本史概論Ⅱ	* 日本史概論Ⅱ	
	* 世界史概論Ⅰ	* 世界史概論Ⅰ	* 世界史概論Ⅰ	
	* 世界史概論Ⅱ	* 世界史概論Ⅱ	* 世界史概論Ⅱ	
	* 地理学概論Ⅰ	* 地理学概論Ⅰ	* 地理学Ⅰ	
	* 地理学概論Ⅱ	* 地理学概論Ⅱ	* 地理学Ⅱ	
	* 地誌学Ⅰ	* 地誌学Ⅰ	* 地誌学Ⅰ	
	* 地誌学Ⅱ	* 地誌学Ⅱ	* 地誌学Ⅱ	
	* 哲学概論Ⅰ	* 哲学概論Ⅰ	* 哲学概論Ⅰ	
	* 哲学概論Ⅱ	* 哲学概論Ⅱ	* 哲学概論Ⅱ	
	* 比較政治学	* 比較政治学	* 比較政治学	
	* 社会学概論	* 社会学概論	* 社会学概論	
	* 自然地理学Ⅰ	* 自然地理学Ⅰ	* 自然地理学Ⅰ	
	* 自然地理学Ⅱ	* 自然地理学Ⅱ	* 自然地理学Ⅱ	
	* 環境地理学Ⅰ	* 環境地理学Ⅰ	* 環境地理学Ⅰ	
	* 環境地理学Ⅱ	* 環境地理学Ⅱ	* 環境地理学Ⅱ	
	キャリア 科目	実践会話Ⅰ	実践会話Ⅰ	会話表現Ⅰ
		実践会話Ⅱ	実践会話Ⅱ	会話表現Ⅱ
		キャリア基礎開発Ⅰ	キャリア基礎開発Ⅰ	
キャリア基礎開発Ⅱ		キャリア基礎開発Ⅱ		
キャリア基礎開発Ⅲ		キャリア基礎開発Ⅲ		
キャリアディベロップメント		キャリアディベロップメント		
キャリア教育特殊講義		キャリア教育特殊講義	キャリア教育特殊講義	
インターンシップ (経済専攻のみ)		インターンシップ	インターンシップ	
演習 科目	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅰ	演習Ⅰ	
	基礎演習Ⅱ	基礎演習Ⅱ		
	専門導入演習Ⅰ	専門導入演習Ⅰ	演習Ⅱ	
	専門導入演習Ⅱ	専門導入演習Ⅱ		
	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅰ	演習Ⅲ	
	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅱ		
	卒業演習Ⅰ	卒業演習Ⅰ		
	卒業演習Ⅱ	卒業演習Ⅱ	演習Ⅳ	
卒業論文	卒業論文			

科目区分		2012年度入学者の科目名 【12カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2009~2011年度入学者の科目名 【09・11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	
学部 共通 科目	情報 選択 科目	情報概論	情報概論	情報概論	
		Web デザイン	Web デザイン	Web デザイン	
		Excel データ解析	Excel データ解析	Excel データ解析	
		プログラミング入門 VB	プログラミング入門 VB	プログラミング入門 VB	
		プログラミング入門 C	プログラミング入門 C	プログラミング入門 C	
		プログラミング入門 Perl	プログラミング入門 Perl	プログラミング入門 Perl	
		VB プログラミング	VB プログラミング	VB プログラミング	
		C プログラミング	C プログラミング	C プログラミング	
		Perl プログラミング	Perl プログラミング	Perl プログラミング	
		情報検索入門	情報検索入門	情報検索入門	
		データベースオペレーション	データベースオペレーション	データベース論 I	
		プレゼンテーション論 I	プレゼンテーション論 I	プレゼンテーション論 I	
		プレゼンテーション論 II	プレゼンテーション論 II	プレゼンテーション論 II	
		情報社会と倫理	情報社会と倫理	情報社会と倫理	
		ハードウェアシステム論	ハードウェアシステム論	ハードウェアシステム論	
		OS 論	OS 論	OS 論	
		ネットワークシステム論	ネットワークシステム論	ネットワークシステム論	
		情報セキュリティ論	情報セキュリティ論	情報セキュリティ論	
		アルゴリズム論 I	アルゴリズム論 I	アルゴリズム論 I	
		アルゴリズム論 II	アルゴリズム論 II	アルゴリズム論 II	
	システム設計論 I	システム設計論 I	システム設計論 I		
	システム設計論 II	システム設計論 II	システム設計論 II		
	データベース論	データベース論	データベース論 II		
	シミュレーション論	シミュレーション論	シミュレーション論		
	教職 及び 教科 に関する 科目	選択 科目	* 教育原論 I	* 教育原論 I	* 教育原論 I
			* 教育原論 II	* 教育原論 II	* 教育原論 II
			* 教育心理学	* 教育心理学	* 教育心理学
* 発達心理学			* 発達心理学	* 発達心理学	
* 教職概論			* 教職概論	* 教職概論	
* 教育行政			* 教育行政	* 教育行政	
* 教育法規			* 教育法規	* 教育法規	
* 教育方法論			* 教育方法論	* 教育方法論	
* 社会科・地歴科指導法 I			* 社会科・地歴科指導法 I	* 社会科・地歴科教育法	
* 社会科・地歴科指導法 II			* 社会科・地歴科指導法 II		
* 地理歴史科指導法			* 地理歴史科指導法	* 地理歴史科教育法	
* 社会科・公民科指導法 I			* 社会科・公民科指導法 I	* 社会科・公民科教育法	
* 社会科・公民科指導法 II			* 社会科・公民科指導法 II		
* 公民科指導法			* 公民科指導法	* 公民科教育法	
* 商業科指導法			* 商業科指導法	* 商業科教育法	
* 商業科教材研究			* 商業科教材研究	* 商業科教材研究	
* 情報科指導法 I			* 情報科指導法 I	* 情報科教育法 I	
* 情報科指導法 II			* 情報科指導法 II	* 情報科教育法 II	
* 情報と職業			* 情報と職業	* 情報と職業	
* 道徳教育研究			* 道徳教育研究	* 道徳教育研究	
* 特別活動研究	* 特別活動研究	* 特別活動研究			
* 生徒指導論	* 生徒指導論	* 生徒指導論			
* 教育相談	* 教育相談	* 教育相談			
* 教職総合演習	* 教職総合演習	* 教職総合演習			
* 教職時事演習	* 教職時事演習	* 教職時事演習			

科目区分		2012年度入学者の科目名 【12カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2009～2011年度入学者の科目名 【09・11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	
学部 共通科目	教職 と 教育に 関する 科目 選択科目	* 教育実践研究	* 教育実践研究	* 教育実践研究	
		* 教育福祉論	* 教育福祉論	* 教育福祉論	
		* 職業指導Ⅰ	* 職業指導Ⅰ	* 職業指導Ⅰ	
		* 職業指導Ⅱ	* 職業指導Ⅱ	* 職業指導Ⅱ	
		* 学校事務概論	* 学校事務概論	* 学校事務概論	
経済 専攻 専門 科目	基本 科目 A	経済理論 AⅠ	経済理論 AⅠ	経済原論 A	
		経済理論 AⅡ	経済理論 AⅡ		
		経済理論 BⅠ	経済理論 BⅠ	経済原論 B	
		経済理論 BⅡ	経済理論 BⅡ		
		日本経済史Ⅰ	日本経済史Ⅰ	日本経済史	
		日本経済史Ⅱ	日本経済史Ⅱ		
		西洋経済史Ⅰ	西洋経済史Ⅰ	西洋経済史	
		西洋経済史Ⅱ	西洋経済史Ⅱ		
	基本 科目 B	選択科目	ミクロ経済学Ⅰ	ミクロ経済学Ⅰ	ミクロ経済学Ⅰ
		ミクロ経済学Ⅱ	ミクロ経済学Ⅱ	ミクロ経済学Ⅱ	
		マクロ経済学Ⅰ	マクロ経済学Ⅰ	マクロ経済学Ⅰ	
		マクロ経済学Ⅱ	マクロ経済学Ⅱ	マクロ経済学Ⅱ	
		経済政策 AⅠ	経済政策 AⅠ	経済政策総論 A	
		経済政策 AⅡ	経済政策 AⅡ		
		経済政策 BⅠ	経済政策 BⅠ	経済政策総論 B	
		経済政策 BⅡ	経済政策 BⅡ		
		社会政策Ⅰ	社会政策Ⅰ	社会政策総論Ⅰ	
		社会政策Ⅱ	社会政策Ⅱ	社会政策総論Ⅱ	
		財政学Ⅰ	財政学Ⅰ	財政学総論Ⅰ	
		財政学Ⅱ	財政学Ⅱ	財政学総論Ⅱ	
		金融論Ⅰ	金融論Ⅰ	金融論Ⅰ	
		金融論Ⅱ	金融論Ⅱ	金融論Ⅱ	
		簿記論Ⅰ	簿記論Ⅰ	簿記原理Ⅰ	
		簿記論Ⅱ	簿記論Ⅱ	簿記原理Ⅱ	
		会計学Ⅰ	会計学Ⅰ	会計学原理Ⅰ	
		会計学Ⅱ	会計学Ⅱ	会計学原理Ⅱ	
		企業法	商法	商法	
		会社法	会社法	会社法	
		国際経済論Ⅰ	国際経済論Ⅰ	国際経済論Ⅰ	
		国際経済論Ⅱ	国際経済論Ⅱ	国際経済論Ⅱ	
		統計学総論Ⅰ	統計学総論Ⅰ	統計学総論Ⅰ	
		統計学総論Ⅱ	統計学総論Ⅱ	統計学総論Ⅱ	
		知的財産権論	知的財産権論Ⅰ	知的財産権論Ⅰ	
		情報マネジメント	情報経済論		
		公共 経済 コース	選択科目	公共経済学	公共経済学
公共選択論	公共選択論		公共選択論		
地方財政論Ⅰ	地方財政論Ⅰ		地方財政論Ⅰ		
地方財政論Ⅱ	地方財政論Ⅱ		地方財政論Ⅱ		
地方自治論Ⅰ	地方自治論Ⅰ		地方自治論Ⅰ		
地方自治論Ⅱ	地方自治論Ⅱ		地方自治論Ⅱ		
財政赤字の経済学	財政赤字の経済学		財政赤字の経済学		
社会保障論Ⅰ	社会保障論Ⅰ		社会保障論Ⅰ		
社会保障論Ⅱ	社会保障論Ⅱ		社会保障論Ⅱ		

科目区分		2012年度入学者の科目名 【12カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2009～2011年度入学者の科目名 【09・11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)
経済 専攻 専門 科目	公共経済 コース 選択 科目	社会福祉論	社会福祉論	社会福祉論
		福祉経済論	福祉経済論	福祉経済論
		経済学史Ⅰ	経済学史Ⅰ	経済学史Ⅰ
		経済学史Ⅱ	経済学史Ⅱ	経済学史Ⅱ
		行政法Ⅰ	行政法Ⅰ	行政法Ⅰ
		行政法Ⅱ	行政法Ⅱ	行政法Ⅱ
		民法Ⅰ	民法Ⅰ	民法Ⅰ
		民法Ⅱ	民法Ⅱ	民法Ⅱ
		進路支援講座Ⅰ(経済専攻共通)		
		進路支援講座Ⅱ(経済専攻共通)		
		進路支援講座(公務員)Ⅲ		
		進路支援講座(公務員)Ⅳ		
		進路支援講座(公務員)Ⅴ		
		進路支援講座(公務員)Ⅵ		
	金融・情報 コース 選択 科目	証券経済論Ⅰ	証券経済論Ⅰ	証券経済論Ⅰ
		証券経済論Ⅱ	証券経済論Ⅱ	証券経済論Ⅱ
		銀行論Ⅰ	銀行論Ⅰ	銀行論Ⅰ
		銀行論Ⅱ	銀行論Ⅱ	銀行論Ⅱ
		国際金融論Ⅰ	国際金融論Ⅰ	国際金融論Ⅰ
		国際金融論Ⅱ	国際金融論Ⅱ	国際金融論Ⅱ
		企業金融論Ⅰ	企業金融論Ⅰ	企業金融論Ⅰ
		企業金融論Ⅱ	企業金融論Ⅱ	企業金融論Ⅱ
		資産運用論	資産運用論	資産運用論
		保険論	保険論	保険論
		有価証券法	有価証券法Ⅰ	有価証券法Ⅰ
		情報セキュリティ論	情報セキュリティ論	情報セキュリティ論
		アルゴリズム論Ⅰ	アルゴリズム論Ⅰ	アルゴリズム論Ⅰ
		アルゴリズム論Ⅱ	アルゴリズム論Ⅱ	アルゴリズム論Ⅱ
		ネットワークシステム論	ネットワークシステム論	ネットワークシステム論
		進路支援講座Ⅰ(経済専攻共通)		
		進路支援講座Ⅱ(経済専攻共通)		
		進路支援講座(金融・情報)Ⅲ		
	進路支援講座(金融・情報)Ⅳ			
	進路支援講座(金融・情報)Ⅴ			
	進路支援講座(金融・情報)Ⅵ			
	現代日本 経済 コース 選択 科目	日本経済論Ⅰ	日本経済論Ⅰ	日本経済論Ⅰ
日本経済論Ⅱ		日本経済論Ⅱ	日本経済論Ⅱ	
日本経済地理		日本経済地理	日本経済地理	
世界経済地理		世界経済地理	世界経済地理	
アメリカ経済論Ⅰ		アメリカ経済事情Ⅰ	アメリカ経済事情Ⅰ	
アメリカ経済論Ⅱ		アメリカ経済事情Ⅰ	アメリカ経済事情Ⅰ	
ヨーロッパ経済論Ⅰ		ヨーロッパ経済論Ⅰ	ヨーロッパ経済論Ⅰ	
ヨーロッパ経済論Ⅱ		ヨーロッパ経済論Ⅱ	ヨーロッパ経済論Ⅱ	
中東経済論		中東経済論	中東経済論	
国際貿易論		国際貿易論	国際貿易論	
アジア経済論		アジア経済論	アジア経済論	
労働経済論Ⅰ		労働経済論Ⅰ	労働経済論Ⅰ	
労働経済論Ⅱ		労働経済論Ⅱ	労働経済論Ⅱ	
労働法		労働法Ⅰ	労働法Ⅰ	

科目区分		2012年度入学者の科目名 【12カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2009～2011年度入学者の科目名 【09・11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	
経済専攻専門科目	現代日本経済コース 選択科目	経済統計Ⅰ	経済統計Ⅰ	経済統計Ⅰ	
		経済統計Ⅱ	経済統計Ⅱ	経済統計Ⅱ	
		進路支援講座Ⅰ(経済専攻共通)			
		進路支援講座Ⅱ(経済専攻共通)			
		進路支援講座(経済)Ⅲ			
		進路支援講座(経済)Ⅳ			
		進路支援講座(経済)Ⅴ			
		進路支援講座(経済)Ⅵ			
	展開科目 選択科目		社会思想史Ⅰ	社会思想史Ⅰ	社会思想史Ⅰ
			社会思想史Ⅱ	社会思想史Ⅱ	社会思想史Ⅱ
			金融事情Ⅰ	金融事情Ⅰ	金融事情Ⅰ
			金融事情Ⅱ	金融事情Ⅱ	金融事情Ⅱ
			金融経済の基礎知識	金融経済の基礎知識	金融経済の基礎知識
			経済学方法論Ⅰ	経済学方法論Ⅰ	経済学方法論Ⅰ
			経済学方法論Ⅱ	経済学方法論Ⅱ	経済学方法論Ⅱ
			計量経済学Ⅰ	計量経済学Ⅰ	計量経済学Ⅰ
			計量経済学Ⅱ	計量経済学Ⅱ	計量経済学Ⅱ
			環境経済学Ⅰ	環境経済学Ⅰ	環境経済学Ⅰ
			環境経済学Ⅱ	環境経済学Ⅱ	環境経済学Ⅱ
			環境問題Ⅰ	環境問題Ⅰ	環境問題Ⅰ
			環境問題Ⅱ	環境問題Ⅱ	環境問題Ⅱ
			医療の経済学	医療の経済学	医療の経済学
			食料経済論	食料経済論	食料経済論
			農業政策	農業政策	農業政策
			経済数学Ⅰ	経済数学Ⅰ	経済数学Ⅰ
			経済数学Ⅱ	経済数学Ⅱ	経済数学Ⅱ
			外国経済書講読Ⅰ	外国経済書講読Ⅰ	外国書講読Ⅰ
			外国経済書講読Ⅱ	外国経済書講読Ⅱ	外国書講読Ⅱ
			経営学Ⅰ	経営学概論Ⅰ	経営学概論Ⅰ
			経営学Ⅱ	経営学概論Ⅱ	経営学概論Ⅱ
			地方自治論実習	地方自治論実習	
			金融ビジネス実践		
		流通ビジネス実践			
	TOEIC 向上講座Ⅰ				
	TOEIC 向上講座Ⅱ				
現代マネジメント専攻専門科目	基本科目A 必修科目	経営学Ⅰ	経営学概論Ⅰ	経営学原理Ⅰ	
		経営学Ⅱ	経営学概論Ⅱ	経営学原理Ⅱ	
		会計学Ⅰ	会計学Ⅰ	会計学原理Ⅰ	
		会計学Ⅱ	会計学Ⅱ	会計学原理Ⅱ	
	基本科目B 選択科目	簿記論Ⅰ	簿記論Ⅰ	簿記原理Ⅰ	
		簿記論Ⅱ	簿記論Ⅱ	簿記原理Ⅱ	
		産業論Ⅰ	産業論Ⅰ	産業総論Ⅰ	
		産業論Ⅱ	産業論Ⅱ	産業総論Ⅱ	
		マーケティング論	マーケティング論Ⅰ	マーケティング論Ⅰ	
		Marketing Management	マーケティング論Ⅱ	マーケティング論Ⅱ	
		経営史Ⅰ	経営史Ⅰ	経営史Ⅰ	
		経営史Ⅱ	経営史Ⅱ	経営史Ⅱ	
		経営戦略論Ⅰ	経営戦略論Ⅰ	経営戦略論Ⅰ	
		経営戦略論Ⅱ	経営戦略論Ⅱ	経営戦略論Ⅱ	

科目区分		2012年度入学者の科目名 【12カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2009～2011年度入学者の科目名 【09・11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)
現代	基本科目	ベンチャービジネス論	ベンチャービジネス論	ベンチャービジネス論
		流通論	流通論	流通論
		経営組織論Ⅰ	経営組織論Ⅰ	経営組織論Ⅰ
		経営組織論Ⅱ	経営組織論Ⅱ	経営組織論Ⅱ
		経営分析Ⅰ	経営分析Ⅰ	経営分析Ⅰ
		経営分析Ⅱ	経営分析Ⅱ	経営分析Ⅱ
		原価計算論Ⅰ	原価計算論Ⅰ	原価計算論Ⅰ
		原価計算論Ⅱ	原価計算論Ⅱ	原価計算論Ⅱ
		経営財務論	財務管理論	財務管理論
		マーケティングリサーチⅠ	マーケティングリサーチⅠ	マーケティングリサーチⅠ
		マーケティングリサーチⅡ		
		人的資源管理Ⅰ	人的資源管理Ⅰ	人的資源管理Ⅰ
人的資源管理Ⅱ	人的資源管理Ⅱ	人的資源管理Ⅱ		
管理会計論				
ネット	アジアビジネスマネジメントコース科目	アジアビジネス実習		
		アジアビジネス論		
		中国ビジネス論		
		経営立地論	産業立地論Ⅰ	産業立地論Ⅰ
		アジアの工業立地	産業立地論Ⅱ	産業立地論Ⅱ
		流通経営論	流通経営論Ⅰ	流通経営論Ⅰ
		中国の流通産業	流通経営論Ⅱ	流通経営論Ⅱ
		情報マネジメント	情報経済論	
		国際経営論	国際経営論	国際経営論
		国際貿易論	国際貿易論	国際貿易論
		国際法Ⅰ	国際法Ⅰ	国際法Ⅰ
		国際法Ⅱ	国際法Ⅱ	国際法Ⅱ
		アジアの地理		
		アジアの歴史と社会		
		中国語検定講座Ⅰ		
		中国語検定講座Ⅱ		
日本語検定講座Ⅰ				
日本語検定講座Ⅱ				
専門	地域企業マネジメントコース科目	地域企業マネジメント実習		
		地域企業マネジメント論A・B		
		税務会計論Ⅰ	税務会計論Ⅰ	税務会計論Ⅰ
		税務会計論Ⅱ	税務会計論Ⅱ	税務会計論Ⅱ
		中小企業論Ⅰ	中小企業論Ⅰ	中小企業論Ⅰ
		中小企業論Ⅱ	中小企業論Ⅱ	中小企業論Ⅱ
		企業法	商法	商法
		会社法	会社法	会社法
		地域産業論	地域産業論	地域産業論
		企業経営と心理学		
		観光事業論Ⅰ	観光事業論Ⅰ	観光事業論Ⅰ
		観光事業論Ⅱ	観光事業論Ⅱ	観光事業論Ⅱ
		サービス産業論	サービス産業論	サービス産業論
		地域企業会計論	地域企業会計論	地域企業会計論
		民法Ⅰ	民法Ⅰ	民法Ⅰ
		民法Ⅱ	民法Ⅱ	民法Ⅱ

科目区分		2012年度入学者の科目名 【12カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2009～2011年度入学者の科目名 【09・11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)		
現代マネジメント専攻専門科目	スポーツビジネスマネジメントコース 選択科目	スポーツビジネス実習	スポーツビジネス実習			
		スポーツ科学概論	スポーツ科学概論			
		生涯スポーツ実習Ⅰ	生涯スポーツ実習Ⅰ			
		生涯スポーツ実習Ⅱ	生涯スポーツ実習Ⅱ			
		スポーツビジネス論	スポーツビジネス論			
		スポーツ産業論	スポーツ産業論			
		中小企業論Ⅰ	中小企業論Ⅰ	中小企業論Ⅰ		
		中小企業論Ⅱ	中小企業論Ⅱ	中小企業論Ⅱ		
		企業経営と心理学				
		民法Ⅰ	民法Ⅰ	民法Ⅰ		
		民法Ⅱ	民法Ⅱ	民法Ⅱ		
		企業法	商法	商法		
		会社法	会社法	会社法		
		展開科目	選択科目	経済政策 AⅠ	経済政策 AⅠ	経済政策総論 A
				経済政策 AⅡ	経済政策 AⅡ	
	経済政策 BⅠ			経済政策 BⅠ	経済政策総論 B	
	経済政策 BⅡ			経済政策 BⅡ		
	ミクロ経済学Ⅰ			ミクロ経済学Ⅰ	ミクロ経済学Ⅰ	
	ミクロ経済学Ⅱ			ミクロ経済学Ⅱ	ミクロ経済学Ⅱ	
	マクロ経済学Ⅰ			マクロ経済学Ⅰ	マクロ経済学Ⅰ	
	マクロ経済学Ⅱ			マクロ経済学Ⅱ	マクロ経済学Ⅱ	
	統計学総論Ⅰ			統計学総論Ⅰ	統計学総論Ⅰ	
	統計学総論Ⅱ			統計学総論Ⅱ	統計学総論Ⅱ	
	経済統計Ⅰ			経済統計Ⅰ	経済統計Ⅰ	
	経済統計Ⅱ			経済統計Ⅱ	経済統計Ⅱ	
	日本経済論Ⅰ			日本経済論Ⅰ	日本経済論Ⅰ	
	日本経済論Ⅱ			日本経済論Ⅱ	日本経済論Ⅱ	
流通情報論	流通情報論			流通情報論		
企業金融論Ⅰ	企業金融論Ⅰ			企業金融論Ⅰ		
企業金融論Ⅱ	企業金融論Ⅱ			企業金融論Ⅱ		
知的財産権論	知的財産権論Ⅰ			知的財産権論Ⅰ		
企業と産業組織Ⅰ	産業組織論Ⅰ			産業組織論Ⅰ		
企業と産業組織Ⅱ	産業組織論Ⅱ	産業組織論Ⅱ				
消費者行動論	消費者行動論Ⅰ	消費者行動論Ⅰ				
労働法	労働法Ⅰ	労働法Ⅰ				
サイバー刑法	サイバー刑法	サイバー刑法				
有価証券法	有価証券法Ⅰ	有価証券法Ⅰ				
外国経営書講読Ⅰ	外国経営書講読Ⅰ	外国書講読Ⅰ				
外国経営書講読Ⅱ	外国経営書講読Ⅱ	外国書講読Ⅱ				
金融ビジネス実践						
流通ビジネス実践						
TOEIC® 向上講座Ⅰ						
TOEIC® 向上講座Ⅱ						
廃止科目	廃止	廃止	入門経済学実習	入門経済学実習		
		廃止	入門経営学実習	入門経営学実習		
		廃止	企業倫理論	企業倫理論		
		廃止	企業文化論	企業文化論		
		廃止	経営情報論Ⅰ	経営情報論Ⅰ		
		廃止	経営情報論Ⅱ	経営情報論Ⅱ		

科目区分	2012年度入学者の科目名 【12カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2009～2011年度入学者の科目名 【09・11カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)	2008年度入学者の科目名 【08カリキュラム 科目名】 (*は教職科目、留学生履修不可)
廃止科目	廃止	IT サービス産業論	IT サービス産業論
	廃止	地域調査論	地域調査論
	廃止	都市地理学	都市地理学
	廃止	都市環境とまちづくり	都市環境とまちづくり
	廃止	企業再生論	企業再生論
	廃止	消費者行動論Ⅱ	消費者行動論Ⅱ
	廃止	有価証券法Ⅱ	有価証券法Ⅱ
	廃止	家族と地域社会	家族と地域社会
	廃止	環境政策	環境政策
	廃止	環境と生活	環境と生活
	廃止	開発と環境	開発と環境
	廃止	知的財産権論Ⅱ	知的財産権論Ⅱ

シラバス

Ⅵ カリキュラム表

1. 2012年度入学者カリキュラム表	266
2. 2011年度入学者カリキュラム表	274
3. 2009～2010年度入学者カリキュラム表	282

2012年度入学者カリキュラム表①

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考	
学 部 共 通 科 目	基礎科目	文章表現	2	1				全科目16単位必修	
		口頭表現							
		基礎数学							
		入門経済学							
		入門経営学							
		キャリアプランニング							
		健康科学							
		情報基礎Ⅰ							
		情報基礎Ⅱ							
	言語科目A	必修科目	英語Ⅰ	1					全科目4単位必修
			英語Ⅱ						
			英語Ⅲ						
			英語Ⅳ						
	言語科目B	選択科目	フランス語Ⅰ	1					同一言語を4単位以上選択必修(留学生は日本語必修) ただし、2年次のⅢ・Ⅳを時事英語Ⅲ・Ⅳ、ビジネス英語Ⅲ・Ⅳに振り替えて履修することは可。 2年次以降現代マネジメント専攻を希望する日本人学生は中国語Ⅰ～Ⅳ、留学生は日本語Ⅰ～Ⅳ必修
			フランス語Ⅱ						
			フランス語Ⅲ						
			フランス語Ⅳ						
			ドイツ語Ⅰ						
			ドイツ語Ⅱ						
			ドイツ語Ⅲ						
			ドイツ語Ⅳ						
			中国語Ⅰ						
			中国語Ⅱ						
			中国語Ⅲ						
			中国語Ⅳ						
			日本語Ⅰ(留学生のみ)						
			日本語Ⅱ(留学生のみ)						
			日本語Ⅲ(留学生のみ)						
			日本語Ⅳ(留学生のみ)						
英会話Ⅰ									
英会話Ⅱ									
英会話Ⅲ									
英会話Ⅳ									
時事英語Ⅲ									
時事英語Ⅳ									
ビジネス英語Ⅲ									
ビジネス英語Ⅳ									
教養科目	選択科目	敬天愛人講座	2	1	2	3	4	12単位以上選択必修、 教職専門科目(*印)は 教職課程履修者のみ履修 可(留学生不可)	
		敬愛プログラム	1						
		スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (キャンパススポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	1						
		哲学	2						
		心理学	2						
		社会心理学	2						
		日本の文学	2						
		比較文学	2						
		歴史学	2						
		法学	2						
		憲法Ⅰ	2						
		憲法Ⅱ	2						
		政治学	2						
		日本の政治	2						

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考	
学 部 共 通 科 目	教 養 科 目	社会学	2	1	2	3	4	12単位以上選択必修、 教職専門科目(*印)は 教職課程履修者のみ履修 可(留学生不可)	
		数学Ⅰ	2						
		数学Ⅱ	2						
		統計学Ⅰ	2						
		統計学Ⅱ	2						
		環境科学	2						
		地球科学	2						
		総合科目Ⅰ	2						
		総合科目Ⅱ	2						
		海外事情研修Ⅰ(アメリカ)	2						
		海外事情研修Ⅱ(中国)	2						
		海外事情研修Ⅲ(オーストラリア)	2						
		海外事情研修Ⅳ(イギリス)	2						
		地域ボランティア活動	2						
	(教職専門科目)	*日本史概論Ⅰ	2	1	2	3	4		
		*日本史概論Ⅱ	2						
		*世界史概論Ⅰ	2						
		*世界史概論Ⅱ	2						
		*地理学概論Ⅰ	2						
		*地理学概論Ⅱ	2						
		*地誌学Ⅰ	2						
		*地誌学Ⅱ	2						
		*哲学概論Ⅰ	2						
		*哲学概論Ⅱ	2						
		*比較政治学	2						
		*社会学概論	2						
		*自然地理学Ⅰ	2						
		*自然地理学Ⅱ	2						
	*環境地理学Ⅰ	2							
	*環境地理学Ⅱ	2							
	キ ャ リ ア 科 目	選 択 科 目	実践会話Ⅰ	2	2	3	4		4単位以上選択必修 ただし、現代マネジメン ト専攻はインターンシッ プ選択不可
			実践会話Ⅱ	2					
			キャリア基礎開発Ⅰ	2					
キャリア基礎開発Ⅱ			2						
キャリア基礎開発Ⅲ			2						
キャリアディベロップメント			2						
キャリア教育特殊講義			2						
インターンシップ(経済専攻のみ選択可)	2								
演 習 科 目	必 修 科 目	基礎演習Ⅰ	1	1	2	3	全科目10単位必修		
		基礎演習Ⅱ	1						
		専門導入演習Ⅰ	1						
		専門導入演習Ⅱ	1						
		専門演習Ⅰ	1						
		専門演習Ⅱ	1						
		卒業演習Ⅰ	1						
		卒業演習Ⅱ	1						
		卒業論文	2	4					

2012年度入学者カリキュラム表②

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年			備 考
基本 科目 A	必修 科目	経済理論 A I	2	1	2		経済理論 A (I・II)・B (I・II) のいずれか 2 科目 4 単位を選択、また日本経済史 (I・II)・西洋経済史 (I・II) のいずれか 2 科目 4 単位を選択し、4 科目 8 単位選択必修 経済理論は A と B を組み合わせて履修することは不可
		経済理論 A II	2				
		経済理論 B I	2				
		経済理論 B II	2				
		日本経済史 I	2				
		日本経済史 II	2				
		西洋経済史 I	2				
		西洋経済史 II	2				
経済 専 攻 専 門 科 目	基本 科目 B 選択 科目	ミクロ経済学 I	2	2	3	4	20単位以上選択必修
		ミクロ経済学 II	2				
		マクロ経済学 I	2				
		マクロ経済学 II	2				
		経済政策 A I	2				
		経済政策 A II	2				
		経済政策 B I	2				
		経済政策 B II	2				
		社会政策 I	2				
		社会政策 II	2				
		財政学 I	2				
		財政学 II	2				
		金融論 I	2				
		金融論 II	2				
		簿記論 I	2				
		簿記論 II	2				
		会計学 I	2				
		会計学 II	2				
		企業法	2				
		会社法	2				
国際経済論 I	2						
国際経済論 II	2						
統計学総論 I	2						
統計学総論 II	2						
知的財産権論	2						
情報マネジメント	2						
公共 経済 コ ー ス	選択 科目	公共経済学	2	2	3	4	16単位以上選択必修
		公共選択論	2				
		地方財政論 I	2				
		地方財政論 II	2				
		地方自治論 I	2				
		地方自治論 II	2				
		財政赤字の経済学	2				
		社会保障論 I	2				
		社会保障論 II	2				
		社会福祉論	2				
		福祉経済論	2				
		経済学史 I	2				
		経済学史 II	2				
		行政法 I	2				
		行政法 II	2				
		民法 I	2				
		民法 II	2				
・進路支援講座 I (経済専攻コース共通)	2	1					

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
経済専攻専門科目	公共経済コース 選択科目	・進路支援講座Ⅱ（経済専攻コース共通）	2	1				修得単位は自由選択科目に加算
		・進路支援講座（公務員）Ⅲ	2		2			
		・進路支援講座（公務員）Ⅳ	2			2		
		・進路支援講座（公務員）Ⅴ	2				3	
		・進路支援講座（公務員）Ⅵ	2					
	金融・情報コース 選択科目	証券経済論Ⅰ	2					16単位以上選択必修
		証券経済論Ⅱ	2					
		銀行論Ⅰ	2					
		銀行論Ⅱ	2					
		国際金融論Ⅰ	2					
		国際金融論Ⅱ	2					
		企業金融論Ⅰ	2		2	3	4	
		企業金融論Ⅱ	2					
		資産運用論	2					
		保険論	2					
		有価証券法	2					
		情報セキュリティ論	2					
		アルゴリズム論Ⅰ	2					
		アルゴリズム論Ⅱ	2					
ネットワークシステム論	2							
選択科目	・進路支援講座Ⅰ（経済専攻コース共通）	2	1				修得単位は自由選択科目に加算	
	・進路支援講座Ⅱ（経済専攻コース共通）	2						
	・進路支援講座（金融・情報）Ⅲ	2		2				
	・進路支援講座（金融・情報）Ⅳ	2						
	・進路支援講座（金融・情報）Ⅴ	2				3		
	・進路支援講座（金融・情報）Ⅵ	2						
現代日本経済コース 選択科目	日本経済論Ⅰ	2					16単位以上選択必修	
	日本経済論Ⅱ	2						
	日本経済地理	2						
	世界経済地理	2						
	アメリカ経済論Ⅰ	2						
	アメリカ経済論Ⅱ	2						
	ヨーロッパ経済論Ⅰ	2						
	ヨーロッパ経済論Ⅱ	2		2	3	4		
	中東経済論	2						
	国際貿易論	2						
	アジア経済論	2						
	労働経済論Ⅰ	2						
	労働経済論Ⅱ	2						
	労働法	2						
経済統計Ⅰ	2							
経済統計Ⅱ	2							
選択科目	・進路支援講座Ⅰ（経済専攻コース共通）	2	1				修得単位は自由選択科目に加算	
	・進路支援講座Ⅱ（経済専攻コース共通）	2						
	・進路支援講座（経済）Ⅲ	2		2				
	・進路支援講座（経済）Ⅳ	2						
	・進路支援講座（経済）Ⅴ	2				3		
	・進路支援講座（経済）Ⅵ	2						
展開科目 選択科目	社会思想史Ⅰ	2	1	2	3	4	10単位以上選択必修	
	社会思想史Ⅱ	2						
	金融事情Ⅰ	2						
	金融事情Ⅱ	2						

2012年度入学者カリキュラム表③

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
経済専攻専門科目	展開科目 選択科目	金融経済の基礎知識	2	1	2	3	4	10単位以上選択必修
		経済学方法論Ⅰ	2					
		経済学方法論Ⅱ	2					
		計量経済学Ⅰ	2					
		計量経済学Ⅱ	2					
		環境経済学Ⅰ	2					
		環境経済学Ⅱ	2					
		環境問題Ⅰ	2					
		環境問題Ⅱ	2					
		医療の経済学	2					
		食料経済論	2					
		農業政策	2		2	3	4	
		経済数学Ⅰ	2					
		経済数学Ⅱ	2					
		外国経済書講読Ⅰ	2					
		外国経済書講読Ⅱ	2					
		経営学Ⅰ	2					
		経営学Ⅱ	2					
		地方自治論実習	2					
		・金融ビジネス実践	2					
・流通ビジネス実践	2							
・TOEIC®向上講座Ⅰ	2							
・TOEIC®向上講座Ⅱ	2							
現代マネジメント専攻専門科目	基本科目A 必修科目	経営学Ⅰ	2	1	2	3	4	全科目8単位必修
		経営学Ⅱ	2					
		会計学Ⅰ	2					
		会計学Ⅱ	2					
	基本科目B 選択科目	簿記論Ⅰ	2					20単位以上選択必修
		簿記論Ⅱ	2					
		産業論Ⅰ	2					
		産業論Ⅱ	2					
		マーケティング論	2					
		Marketing Management	2					
		経営史Ⅰ	2					
		経営史Ⅱ	2					
		経営戦略論Ⅰ	2					
		経営戦略論Ⅱ	2					
		ベンチャービジネス論	2					
		流通論	2		2	3		
		経営組織論Ⅰ	2					
		経営組織論Ⅱ	2					
		経営分析Ⅰ	2					
		経営分析Ⅱ	2					
原価計算論Ⅰ	2							
原価計算論Ⅱ	2							
経営財務論	2							
マーケティングリサーチⅠ	2							
・マーケティングリサーチⅡ	2							
人的資源管理Ⅰ	2							
人的資源管理Ⅱ	2							
・管理会計論	2							

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年			備考	
現代 マ ネ ジ メ ン ト 専 攻 専 門 科 目	アジア ビ ジ ネ ス マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス 科 目	・アジアビジネス実習	2		3		2単位必修	
		・アジアビジネス論	2				14単位以上選択必修 中国語検定講座は日本人 学生、日本語検定講座は 外国人留学生のみ選択可。	
		・中国ビジネス論	2					
		経営立地論	2					
		アジアの工業立地	2					
		流通経営論	2					
		中国の流通産業	2					
		情報マネジメント	2					
		国際経営論	2					
		国際貿易論	2	2	3	4		
		国際法Ⅰ	2					
		国際法Ⅱ	2					
		・アジアの地理	2					
		・アジアの歴史と社会	2					
		・中国語検定講座Ⅰ	2					
		・中国語検定講座Ⅱ	2					
		・日本語検定講座Ⅰ	2					
	・日本語検定講座Ⅱ	2						
	マ ネ ジ メ ン ト 専 攻 専 門 科 目	地域 企 業 マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス 科 目	・地域企業マネジメント実習	2		3		2単位必修
			・地域企業マネジメント論	2				14単位以上選択必修
税務会計論Ⅰ			2					
税務会計論Ⅱ			2					
中小企業論Ⅰ			2					
中小企業論Ⅱ			2					
企業法			2					
会社法			2					
地域産業論			2	2	3	4		
・企業経営と心理学			2					
観光事業論Ⅰ			2					
観光事業論Ⅱ			2					
サービス産業論			2					
地域企業会計論	2							
民法Ⅰ	2							
民法Ⅱ	2							
ス ポ ー ツ ビ ジ ネ ス マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス	ス ポ ー ツ ビ ジ ネ ス マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス	・スポーツビジネス実習	2		3		2単位必修	
		・スポーツ科学概論	2				14単位以上選択必修	
		・生涯スポーツ実習Ⅰ	2					
		・生涯スポーツ実習Ⅱ	2					
		・スポーツビジネス論	2					
		・スポーツ産業論	2					
		中小企業論Ⅰ	2					
		中小企業論Ⅱ	2					
		・企業経営と心理学	2					
		民法Ⅰ	2	2	3	4		
		民法Ⅱ	2					
		企業法	2					
		会社法	2					
展 開 科 目	展 開 科 目	経済政策 AⅠ	2					10単位以上選択必修
		経済政策 AⅡ	2					
		経済政策 BⅠ	2					
		経済政策 BⅡ	2					
		ミクロ経済学Ⅰ	2					

2012年度入学者カリキュラム表④

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
現代マネジメント専攻専門科目	展開科目	選択科目						
		ミクロ経済学Ⅱ	2					
		マクロ経済学Ⅰ	2					
		マクロ経済学Ⅱ	2					
		統計学総論Ⅰ	2					
		統計学総論Ⅱ	2					
		経済統計Ⅰ	2					
		経済統計Ⅱ	2					
		日本経済論Ⅰ	2					
		日本経済論Ⅱ	2					
		流通情報論	2					
		企業金融論Ⅰ	2					
		企業金融論Ⅱ	2					
		知的財産権論	2	2	3	4		10単位以上選択必修
		企業と産業組織Ⅰ	2					
		企業と産業組織Ⅱ	2					
		消費者行動論	2					
		労働法	2					
		サイバー刑法	2					
		有価証券法	2					
		外国経営書講読Ⅰ	2					
		外国経営書講読Ⅱ	2					
		・金融ビジネス実践	2					
・流通ビジネス実践	2							
・TOEIC®向上講座Ⅰ	2							
・TOEIC®向上講座Ⅱ	2							
学部共通科目	情報科目	選択科目						
		情報概論	2					
		Web デザイン	2					
		Excel データ解析	2					
		プログラミング入門 VB	2					
		プログラミング入門 C	2					
		プログラミング入門 Perl	2					
		VB プログラミング	2					
		C プログラミング	2					
		Perl プログラミング	2					
		情報検索入門	2					
		データベースオペレーション	2					
		プレゼンテーション論Ⅰ	2					
		プレゼンテーション論Ⅱ	2					
		情報社会と倫理	2	1	2	3	4	6単位以上選択必修
		ハードウェアシステム論	2					
		OS 論	2					
		ネットワークシステム論 (※ 経済専攻は金融・情報コース科目として配当)	2					
		情報セキュリティ論 (※ 経済専攻は金融・情報コース科目として配当)	2					
		アルゴリズム論Ⅰ (※ 経済専攻は金融・情報コース科目として配当)	2					
アルゴリズム論Ⅱ (※ 経済専攻は金融・情報コース科目として配当)	2							
システム設計論Ⅰ	2							
システム設計論Ⅱ	2							
データベース論	2							
シミュレーション論	2							

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
学 部 共 通 科 目	教 職 及 び 教 科 に 関 す る 科 目	*教育原論Ⅰ	2	1	2			教職課程履修者のみ 履修可
		*教育原論Ⅱ	2					
		*教育心理学	2					
		*発達心理学	2					
		*教職概論	2					
		*教育行政	2					
		*教育法規	2					
		*教育方法論	2					
		*社会科・地歴科指導法Ⅰ	2					
		*社会科・地歴科指導法Ⅱ	2					
		*地理歴史科指導法	2					
		*社会科・公民科指導法Ⅰ	2					
		*社会科・公民科指導法Ⅱ	2		2	3		
		*公民科指導法	2					
		*商業科指導法	2					
		*商業科教材研究	2					
		*情報科指導法Ⅰ	2					
		*情報科指導法Ⅱ	2					
		*情報と職業	2					
		*道徳教育研究	2					
		*特別活動研究	2					
		*生徒指導論	2					
		*教育相談	2					
		*教職総合演習	2					
		*教職時事演習	2					
		*教育実践研究	2			3	4	
		*中学校教育実習	4					
	*高等学校教育実習	2				4		
	*教育福祉論	2			2	3		
	*職業指導Ⅰ	2			2	3 4		
	*職業指導Ⅱ	2						
	*学校事務概論	2			2	3		
	ラ イ セ ン ス プ ロ グ ラ ム	自 由 選 択 科 目	検定英語Ⅰ	2	1	2	3	4
検定英語Ⅱ			4					
情報処理入門Ⅰ			1					
情報処理入門Ⅱ			1					
情報処理入門Ⅲ			2					
情報処理入門Ⅳ			2					
情報処理Ⅰ			2					
情報処理Ⅱ			2					
情報システム概論			4					
検定簿記Ⅰ			2					
検定簿記Ⅱ			4					
秘書検定Ⅰ			2					
秘書検定Ⅱ			4					
販売士Ⅰ			2					
販売士Ⅱ			4					
検定ビジネス能力Ⅰ			2					
検定ビジネス能力Ⅱ	4							
卒業要件単位数			124単位					

2011年度入学者カリキュラム表①

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考	
学 部 共 通 科 目	基礎科目A 必修科目	文章表現	2	1				全科目16単位履修	
		口頭表現							
		基礎数学							
		入門経済学							
		入門経営学							
		キャリアプランニング							
		健康科学							
		情報基礎Ⅰ							
	情報基礎Ⅱ								
	基礎科目B 選択科目	敬天愛人講座	入門経済学実習	2	1				3科目から2単位以上履修
			入門経営学実習						
	言語科目A 必修科目	英語Ⅰ	英語Ⅱ	1	1				全科目4単位履修
			英語Ⅲ						
			英語Ⅳ						
	言語科目B 選択科目	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅱ	1	1				4単位以上履修 (同一言語科目を継続して履修する。「Ⅲ・Ⅳ」を「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」、「時事英語Ⅰ・Ⅱ」へ変更することは可。)
			フランス語Ⅲ						
			フランス語Ⅳ						
			ドイツ語Ⅰ						
			ドイツ語Ⅱ						
			ドイツ語Ⅲ						
			ドイツ語Ⅳ						
			中国語Ⅰ						
			中国語Ⅱ						
			中国語Ⅲ						
			中国語Ⅳ						
日本語Ⅰ									
日本語Ⅱ									
日本語Ⅲ									
日本語Ⅳ									
英会話Ⅰ									
英会話Ⅱ									
英会話Ⅲ									
英会話Ⅳ									
ビジネス英語Ⅰ									
ビジネス英語Ⅱ									
時事英語Ⅰ									
時事英語Ⅱ									
教養科目 選択科目	敬愛プログラム	スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	2	1	2	3	4	16単位以上履修	
		哲学							
		心理学							
		社会心理学							
		日本の文学							
		比較文学							
		歴史学							
		法学							
		憲法Ⅰ							
		憲法Ⅱ							
		政治学							
		日本の政治							
		社会学							

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
学 部 共 通	教 養 科 目	選択科目	2	1	2	3	4	16単位以上履修
		数学Ⅰ						
		数学Ⅱ						
		統計学Ⅰ						
		統計学Ⅱ						
		環境科学						
		地球科学						
		情報概論						
		Web デザイン						
		Excel データ解析						
		プログラミング入門 (VB)						
		プログラミング入門 (C)						
		プログラミング入門 (Perl)						
		VB プログラミング						
		C プログラミング						
		Perl プログラミング						
		情報検索入門						
		データベースオペレーション						
		プレゼンテーション論Ⅰ						
		プレゼンテーション論Ⅱ						
		総合科目Ⅰ「国際社会を知る」						
		総合科目Ⅱ「国際社会を知る」						
		海外事情研修Ⅰ (アメリカ)						
海外事情研修Ⅱ (中国)								
海外事情研修Ⅲ (オーストラリア)								
海外事情研修Ⅳ (イギリス)								
地域ボランティア活動								
通 科	教 職 専 門 科 目	選択科目	2	1	2	3	4	教職課程履修者のみ履修可
		* 日本史概論Ⅰ						
		* 日本史概論Ⅱ						
		* 世界史概論Ⅰ						
		* 世界史概論Ⅱ						
		* 地理学概論Ⅰ						
		* 地理学概論Ⅱ						
		* 地誌学Ⅰ						
		* 地誌学Ⅱ						
		* 哲学概論Ⅰ						
		* 哲学概論Ⅱ						
		* 比較政治学						
		* 社会学概論						
		* 自然地理学Ⅰ						
		* 自然地理学Ⅱ						
* 環境地理学Ⅰ								
* 環境地理学Ⅱ								
キ ャ リ ア 科 目	選 択 科 目	実践会話Ⅰ	2		2	3	4	4 単位以上履修
		実践会話Ⅱ						
		キャリア基礎開発Ⅰ						
		キャリア基礎開発Ⅱ						
		キャリア基礎開発Ⅲ						
		キャリアディベロップメント						
		キャリア教育特殊講義						
インターンシップ								

シ
ラ
バ
スⅥ
カ
リ
キ
ュ
ラ
ム
表

2011年度入学者カリキュラム表②

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考
学部共通科目	演習科目 必修科目	基礎演習Ⅰ	1	1	全科目10単位履修
		基礎演習Ⅱ			
		専門導入演習Ⅰ		2	
		専門導入演習Ⅱ			
		専門演習Ⅰ		3	
		専門演習Ⅱ			
		卒業演習Ⅰ		4	
		卒業演習Ⅱ			
		卒業論文	2		
経済系専門科目	基本科目A 必修科目	経済理論AⅠ	2	1 2	経済理論AⅠ・AⅡ又はBⅠ・BⅡから1科目4単位履修、日本経済史Ⅰ・Ⅱ又は西洋経済史Ⅰ・Ⅱから1科目4単位履修
		経済理論AⅡ			
		経済理論BⅠ			
		経済理論BⅡ			
		日本経済史Ⅰ			
		日本経済史Ⅱ			
		西洋経済史Ⅰ			
		西洋経済史Ⅱ			
	基本科目B 選択科目	経済政策AⅠ	2	2 3	16単位以上履修
		経済政策AⅡ			
		経済政策BⅠ			
		経済政策BⅡ			
		経済学史Ⅰ			
		経済学史Ⅱ			
		金融論Ⅰ			
		金融論Ⅱ			
		財政学Ⅰ			
		財政学Ⅱ			
		統計学総論Ⅰ			
		統計学総論Ⅱ			
		社会政策Ⅰ			
		社会政策Ⅱ			
		ミクロ経済学Ⅰ			
		ミクロ経済学Ⅱ			
	マクロ経済学Ⅰ				
	マクロ経済学Ⅱ				
	日本・世界経済コース科目 選択科目	日本経済論Ⅰ	2	2 3	日本・世界経済コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修
		日本経済論Ⅱ			
国際経済論Ⅰ					
国際経済論Ⅱ					
日本経済地理					
世界経済地理					
入門経済刑法					
サイバー刑法					
商法		3 4			
会社法					
国際貿易論					
開発経済学					
ヨーロッパ経済論Ⅰ					
ヨーロッパ経済論Ⅱ					
アメリカ経済事情Ⅰ					
アメリカ経済事情Ⅱ					
アジア経済論					
中東経済論					
労働経済論Ⅰ					
労働経済論Ⅱ					

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考
経済系	環境・福祉コース科目 選択科目	環境と生活	2	2 3	環境・福祉コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修
		開発と環境			
		都市環境とまちづくり			
		環境ビジネス			
		環境政策			
		家族と地域社会			
		福祉経済論			
		社会福祉論			
		保険論			
		民法Ⅰ			
		民法Ⅱ			
		社会保障論Ⅰ			
		社会保障論Ⅱ			
		労働経済論Ⅰ			
		労働経済論Ⅱ			
	資源エネルギー論	3 4			
	医療の経済学				
	環境経済学Ⅰ				
	環境経済学Ⅱ				
	環境問題Ⅰ				
環境問題Ⅱ					
専門科目 公共サービスコース科目 選択科目	日本経済論Ⅰ	2	2 3	公共サービスコースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修	
	日本経済論Ⅱ				
	公共経済学				
	公共選択論				
	入門経済刑法				
	サイバー刑法				
	行政法Ⅰ				
	行政法Ⅱ				
	労働法Ⅰ				
	労働法Ⅱ				
	民法Ⅰ				
	民法Ⅱ				
	地方自治論Ⅰ				
	地方自治論Ⅱ				
	地方自治論実習				
地方財政論Ⅰ	3 4				
地方財政論Ⅱ					
財政赤字の経済学					
経済統計Ⅰ					
経済統計Ⅱ					
社会保障論Ⅰ					
社会保障論Ⅱ					
金融・証券コース科目 選択科目	金融事情Ⅰ	2	2 3	金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修	
	金融事情Ⅱ				
	資産運用論				
	保険論				
	商法				
	会社法				
	有価証券法Ⅰ				
	有価証券法Ⅱ				
	国際金融論Ⅰ				3 4
	国際金融論Ⅱ				
証券経済論Ⅰ					
証券経済論Ⅱ					

2011年度入学者カリキュラム表③

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
金融・証券コース科目	選択科目	銀行論Ⅰ	2		3	4	金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修	
		銀行論Ⅱ						
企業金融論Ⅰ								
企業金融論Ⅱ								
計量経済学Ⅰ								
計量経済学Ⅱ								
経済系専門科目	展開科目	簿記論Ⅰ A	2	1	2	3	4	この欄の科目群並びに経済系基本科目 A・B 各コース科目の中から14単位以上履修
		簿記論Ⅱ A						
		簿記論Ⅰ B						
		簿記論Ⅱ B						
		社会思想史Ⅰ						
		社会思想史Ⅱ						
		経済学方法論Ⅰ						
		経済学方法論Ⅱ						
		経済数学Ⅰ						
		経済数学Ⅱ						
		経営学概論Ⅰ						
		経営学概論Ⅱ						
		産業論Ⅰ						
		産業論Ⅱ						
		会計学Ⅰ						
		会計学Ⅱ						
		産業立地論Ⅰ		2	2	3	4	
		産業立地論Ⅱ						
		産業組織論Ⅰ						
		産業組織論Ⅱ						
		流通論						
		中小企業論Ⅰ						
		中小企業論Ⅱ						
		財務管理論						
		都市地理学						
		企業文化論						
		地域産業論						
		地域調査論						
		知的財産権論Ⅰ						
		知的財産権論Ⅱ						
		食料経済論						
		農業政策						
		外国経済書講読Ⅰ						
		外国経済書講読Ⅱ						
国際法Ⅰ								
国際法Ⅱ								
金融経済の基礎知識	1	2	3	4				
経営系専門科目	基本科目 A	経営学概論Ⅰ	2	1	2		全科目 8 単位履修	
		経営学概論Ⅱ						
		会計学Ⅰ						
		会計学Ⅱ						
	基本科目 B	選択科目	簿記論Ⅰ A	2	1	2	3	16単位以上履修
			簿記論Ⅱ A					
簿記論Ⅰ B								
簿記論Ⅱ B			2		3			
産業論Ⅰ								
産業論Ⅱ								

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考
経営系専門科目	基本科目B 選択科目	マーケティング論Ⅰ	2	2 3	16単位以上履修
		マーケティング論Ⅱ			
		経営史Ⅰ			
		経営史Ⅱ			
		経営戦略論Ⅰ			
		経営戦略論Ⅱ			
		経営組織論Ⅰ			
		経営組織論Ⅱ			
		経営分析Ⅰ			
		経営分析Ⅱ			
		経済理論AⅠ			
		経済理論AⅡ			
		経済理論BⅠ			
		経済理論BⅡ			
	経営・会計コース科目 選択科目	人的資源管理Ⅰ	2	2 3	経営・会計コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修
		人的資源管理Ⅱ			
		消費者行動論Ⅰ			
		消費者行動論Ⅱ			
		商法			
		会社法			
		民法Ⅰ			
		民法Ⅱ			
		原価計算論Ⅰ			
		原価計算論Ⅱ			
		税務会計論Ⅰ			
		税務会計論Ⅱ			
		財務管理論			
		マーケティングリサーチ			
		国際経営論			
		企業倫理論			
		企業文化論			
	中小企業論Ⅰ				
	中小企業論Ⅱ				
有価証券法Ⅰ					
有価証券法Ⅱ					
ビジネス情報コース 選択科目	経営情報論Ⅰ	2	2 3	ビジネス情報コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修	
	経営情報論Ⅱ				
	情報社会と倫理				
	ハードウェアシステム論				
	OS論				
	ネットワークシステム論				
	情報セキュリティ論				
	アルゴリズム論Ⅰ				
	アルゴリズム論Ⅱ				
	システム設計論Ⅰ				
	システム設計論Ⅱ				
	情報システム開発論				
	流通情報論				
	データベース論				
	シミュレーション論				
	知的財産権論Ⅰ				
知的財産権論Ⅱ					
サイバー刑法					
情報経済論					

2011年度入学者カリキュラム表④

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備 考
経	現代産業コース 選択科目	産業立地論Ⅰ	2	2 3	現代産業コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修
		産業立地論Ⅱ			
		流通論		3 4	
		流通情報論			
		流通経営論Ⅰ		2 3	
		流通経営論Ⅱ			
		観光事業論Ⅰ			
		観光事業論Ⅱ			
		地域調査論			
		地域産業論			
		サービス産業論		3 4	
		ITサービス産業論			
		産業組織論Ⅰ			
		産業組織論Ⅱ			
		中小企業論Ⅰ			
		中小企業論Ⅱ			
		都市地理学			
		都市環境とまちづくり			
営	スポーツビジネスコース 選択科目	スポーツ科学概論	2	2 3	スポーツビジネスコースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修
		生涯スポーツ実習Ⅰ		3	
		生涯スポーツ実習Ⅱ		2 3	
		スポーツビジネス論			
		スポーツ産業論		3	
		スポーツビジネス実習			
専 門 科 展 開 科 目	選択科目	経済政策 AⅠ	2	2 3 4	この欄の科目群並びに経営系基本科目 B 各コース科目の中から14単位以上履修
		経済政策 AⅡ			
		経済政策 BⅠ			
		経済政策 BⅡ			
		金融論Ⅰ			
		金融論Ⅱ			
		統計学総論Ⅰ			
		統計学総論Ⅱ			
		ミクロ経済学Ⅰ			
		ミクロ経済学Ⅱ			
		マクロ経済学Ⅰ			
		マクロ経済学Ⅱ			
		日本経済論Ⅰ			
		日本経済論Ⅱ			
		経済統計Ⅰ			
		経済統計Ⅱ			
		国際貿易論			
		ベンチャービジネス論			
		地域企業会計論			
		企業再生論			
		環境ビジネス			
		環境問題Ⅰ			
		環境問題Ⅱ			
		企業金融論Ⅰ			
		企業金融論Ⅱ			
		労働法Ⅰ			
		労働法Ⅱ			
		外国経営書講読Ⅰ			
		外国経営書講読Ⅱ			
		金融経済の基礎知識		1 2 3 4	

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備 考	
ライセンスプログラム	自由選択科目	検定英語Ⅰ	2					演習科目等の必修科目を除き、 (ライセンスプログラム(12単位を上限)・教職及び教職に関する科目)を含む全ての科目群から、18単位以上履修	
		検定英語Ⅱ	4	1	2	3	4		
		検定経営学	2						
		検定経済学							
		財務諸表論							
		簿記論	4						
		税法							
		建設業経理士Ⅰ	2						
		建設業経理士Ⅱ	4	1	2	3	4		
		情報処理入門Ⅰ	1						
		情報処理入門Ⅱ							
		情報処理入門Ⅲ							
		情報処理入門Ⅳ	2						
		情報処理Ⅰ							
		情報処理Ⅱ		2	3	4			
		情報システム概論	4						
		検定簿記Ⅰ	2	1	2	3	4		
		検定簿記Ⅱ	4						
		秘書検定Ⅰ	2		2	3	4		
		秘書検定Ⅱ	4						
販売士Ⅰ	2								
販売士Ⅱ	4								
検定ビジネス能力Ⅰ	2	1	2	3	4				
検定ビジネス能力Ⅱ	4								
教職及び教科に関する科目	選択科目	* 教育原論Ⅰ		1	2			(教職課程履修者のみ履修可)	
		* 教育原論Ⅱ							
		* 教育心理学							
		* 発達心理学							
		* 教職概論							
		* 教育行政							
		* 教育法規							
		* 教育方法論							
		* 社会科・地歴科指導法Ⅰ							
		* 社会科・地歴科指導法Ⅱ							
		* 地理歴史科指導法							
		* 社会科・公民科指導法Ⅰ							
		* 社会科・公民科指導法Ⅱ							
		* 公民科指導法	2						
		* 商業科指導法		2	3				
		* 商業科教材研究							
		* 情報科指導法Ⅰ							
		* 情報科指導法Ⅱ							
		* 情報と職業							
		* 道德教育研究							
		* 特別活動研究							
		* 生徒指導論							
		* 教育相談							
		* 教職総合演習							
		* 教職時事演習							
		* 教育実践研究				3	4		
		* 中学校教育実習	4				4		
* 高等学校教育実習	2								
* 教育福祉論	2		2	3					
* 職業指導Ⅰ			2	3	4				
* 職業指導Ⅱ	2								
* 学校事務概論			2	3					
卒業要件単位数			124単位						

2009～2010年度入学者カリキュラム表①

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考	
学 部 共 通 科 目	基礎科目A	必修科目	2	1				全科目16単位履修	
									文章表現
									口頭表現
									基礎数学
									入門経済学
									入門経営学
									キャリアプランニング
									健康運動科学
	基礎科目B	選択科目	2	1				3科目から2単位以上履修	
									敬天愛人講座
	言語科目A	必修科目	1	1				全科目4単位履修	
									英語Ⅰ
									英語Ⅱ
									英語Ⅲ
	言語科目B	選択科目	1	1				4単位以上履修 (同一言語科目を継続して履修する。「Ⅲ・Ⅳ」を「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」、「時事英語Ⅰ・Ⅱ」へ変更することは可。)	
									英語Ⅳ
									フランス語Ⅰ
									フランス語Ⅱ
									フランス語Ⅲ
									フランス語Ⅳ
									ドイツ語Ⅰ
									ドイツ語Ⅱ
									ドイツ語Ⅲ
									ドイツ語Ⅳ
									中国語Ⅰ
									中国語Ⅱ
									中国語Ⅲ
中国語Ⅳ									
日本語Ⅰ									
日本語Ⅱ									
日本語Ⅲ									
日本語Ⅳ									
英会話Ⅰ									
英会話Ⅱ									
英会話Ⅲ									
英会話Ⅳ									
ビジネス英語Ⅰ									
ビジネス英語Ⅱ									
時事英語Ⅰ									
時事英語Ⅱ									
教養科目	選択科目	2	1	2	3	4	16単位以上履修		
								敬愛プログラム	
								スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
								哲学	
								心理学	
								社会心理学	
								日本の文学	
								比較文学	
								歴史学	
								法学	
								憲法Ⅰ	
								憲法Ⅱ	
								政治学	
日本の政治									
社会学									

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
学 部 共 通	教 養 科 目	選択科目	2	1	2	3	4	16単位以上履修
		数学Ⅰ						
		数学Ⅱ						
		統計学Ⅰ						
		統計学Ⅱ						
		環境科学						
		地球科学						
		情報概論						
		Web デザイン						
		Excel データ解析						
		プログラミング入門 (VB)						
		プログラミング入門 (C)						
		プログラミング入門 (Perl)						
		VB プログラミング						
		C プログラミング						
		Perl プログラミング						
		情報検索入門						
		データベースオペレーション						
		プレゼンテーション論Ⅰ						
		プレゼンテーション論Ⅱ						
		総合科目Ⅰ「国際社会を知る」						
		総合科目Ⅱ「国際社会を知る」						
		海外事情研修Ⅰ (アメリカ)						
海外事情研修Ⅱ (中国)								
海外事情研修Ⅲ (オーストラリア)								
海外事情研修Ⅳ (イギリス)								
地域ボランティア活動								
通 科	教 職 専 門 科 目	選択科目	2	1	2	3	4	教職課程履修者のみ履修可
		* 日本史概論Ⅰ						
		* 日本史概論Ⅱ						
		* 世界史概論Ⅰ						
		* 世界史概論Ⅱ						
		* 地理学概論Ⅰ						
		* 地理学概論Ⅱ						
		* 地誌学Ⅰ						
		* 地誌学Ⅱ						
		* 哲学概論Ⅰ						
		* 哲学概論Ⅱ						
		* 比較政治学						
		* 社会学概論						
		* 自然地理学Ⅰ						
		* 自然地理学Ⅱ						
* 環境地理学Ⅰ								
* 環境地理学Ⅱ								
キ ャ リ ア 科 目	選 択 科 目	実践会話Ⅰ	2		2	3	6 単位以上履修	
		実践会話Ⅱ						
		キャリア基礎開発Ⅰ						
		キャリア基礎開発Ⅱ						
		キャリア基礎開発Ⅲ						
		キャリアディベロップメント						
		キャリア教育特殊講義						
インターンシップ								

シ
ラ
バ
スⅥ
カ
リ
キ
ュ
ラ
ム
表

2009～2010年度入学者カリキュラム表②

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考
学部共通科目	演習科目 必修科目	基礎演習Ⅰ	1	1	全科目10単位履修
		基礎演習Ⅱ			
		専門導入演習Ⅰ		2	
		専門導入演習Ⅱ			
		専門演習Ⅰ		3	
		専門演習Ⅱ			
		卒業演習Ⅰ		4	
		卒業演習Ⅱ			
		卒業論文	2		
経済系専門科目	基本科目A 必修科目	経済理論AⅠ	2	1 2	経済理論AⅠ・AⅡ又はBⅠ・BⅡから1科目4単位履修、日本経済史Ⅰ・Ⅱ又は西洋経済史Ⅰ・Ⅱから1科目4単位履修
		経済理論AⅡ			
		経済理論BⅠ			
		経済理論BⅡ			
		日本経済史Ⅰ			
		日本経済史Ⅱ			
		西洋経済史Ⅰ			
		西洋経済史Ⅱ			
	基本科目B 選択科目	経済政策AⅠ	2	2 3	16単位以上履修
		経済政策AⅡ			
		経済政策BⅠ			
		経済政策BⅡ			
		経済学史Ⅰ			
		経済学史Ⅱ			
		金融論Ⅰ			
		金融論Ⅱ			
		財政学Ⅰ			
		財政学Ⅱ			
		統計学総論Ⅰ			
		統計学総論Ⅱ			
		社会政策Ⅰ			
		社会政策Ⅱ			
		ミクロ経済学Ⅰ			
		ミクロ経済学Ⅱ			
	マクロ経済学Ⅰ				
	マクロ経済学Ⅱ				
	日本・世界経済コース科目 選択科目	日本経済論Ⅰ	2	2 3	日本・世界経済コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修
		日本経済論Ⅱ			
国際経済論Ⅰ					
国際経済論Ⅱ					
日本経済地理					
世界経済地理					
入門経済刑法					
サイバー刑法					
商法					
会社法					
国際貿易論					
開発経済学					
ヨーロッパ経済論Ⅰ		3 4			
ヨーロッパ経済論Ⅱ					
アメリカ経済事情Ⅰ					
アメリカ経済事情Ⅱ					
アジア経済論					
中東経済論					
労働経済論Ⅰ					
労働経済論Ⅱ					

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考	
経済系	環境・福祉コース科目 選択科目	環境と生活	2	2 3	環境・福祉コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修	
		開発と環境				
		都市環境とまちづくり				
		環境ビジネス				
		環境政策				
		家族と地域社会				
		福祉経済論				
		社会福祉論				
		保険論				
		民法Ⅰ				
		民法Ⅱ				
		社会保障論Ⅰ				
		社会保障論Ⅱ				
		労働経済論Ⅰ				
		労働経済論Ⅱ				
		資源エネルギー論				3 4
		医療の経済学				
	環境経済学Ⅰ					
	環境経済学Ⅱ					
	環境問題Ⅰ					
環境問題Ⅱ						
専門科目	公共サービスコース科目 選択科目	日本経済論Ⅰ	2	2 3	公共サービスコースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修	
		日本経済論Ⅱ				
		公共経済学				
		公共選択論				
		入門経済刑法				
		サイバー刑法				
		行政法Ⅰ				
		行政法Ⅱ				
		労働法Ⅰ				
		労働法Ⅱ				
		民法Ⅰ				
		民法Ⅱ				
		地方自治論Ⅰ				
		地方自治論Ⅱ				
		地方自治論実習				
		地方財政論Ⅰ				3 4
		地方財政論Ⅱ				
		財政赤字の経済学				
経済統計Ⅰ						
経済統計Ⅱ						
社会保障論Ⅰ						
社会保障論Ⅱ						
金融・証券コース科目 選択科目	金融・証券コース科目 選択科目	金融事情Ⅰ	2	2 3	金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修	
		金融事情Ⅱ				
		資産運用論				
		保険論				
		商法				
		会社法				
		有価証券法Ⅰ				
		有価証券法Ⅱ				
		国際金融論Ⅰ				3 4
		国際金融論Ⅱ				
		証券経済論Ⅰ				
		証券経済論Ⅱ				

2009～2010年入学者カリキュラム表③

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備考
金融・証券コース科目	選択科目	銀行論Ⅰ	2		3	4	金融・証券コースに属する者は、この欄の科目群の中から12単位以上履修	
		銀行論Ⅱ						
企業金融論Ⅰ								
企業金融論Ⅱ								
計量経済学Ⅰ								
計量経済学Ⅱ								
経済系専門科目	展開科目	簿記論ⅠA	2	1	2	3	4	この欄の科目群並びに経済系基本科目A・B各コース科目の中から14単位以上履修
		簿記論ⅡA						
		簿記論ⅠB						
		簿記論ⅡB						
		社会思想史Ⅰ						
		社会思想史Ⅱ						
		経済学方法論Ⅰ						
		経済学方法論Ⅱ						
		経済数学Ⅰ						
		経済数学Ⅱ						
		経営学概論Ⅰ						
		経営学概論Ⅱ						
		産業論Ⅰ						
		産業論Ⅱ						
		会計学Ⅰ						
		会計学Ⅱ						
		産業立地論Ⅰ						
		産業立地論Ⅱ						
		産業組織論Ⅰ						
		産業組織論Ⅱ						
		流通論						
		中小企業論Ⅰ						
		中小企業論Ⅱ						
		財務管理論						
		都市地理学						
		企業文化論						
		地域産業論						
		地域調査論						
		知的財産権論Ⅰ						
		知的財産権論Ⅱ						
		食料経済論						
		農業政策						
		外国経済書講読Ⅰ						
外国経済書講読Ⅱ								
国際法Ⅰ								
国際法Ⅱ								
金融経済の基礎知識								
経営系専門科目	基本科目A	経営学概論Ⅰ	2	1	2			全科目8単位履修
		経営学概論Ⅱ						
		会計学Ⅰ						
		会計学Ⅱ						
基本科目B	選択科目	簿記論ⅠA	2	1	2	3		16単位以上履修
		簿記論ⅡA						
		簿記論ⅠB						
		簿記論ⅡB						
		産業論Ⅰ						
		産業論Ⅱ						

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考
経営系専門科目	基本科目B 選択科目	マーケティング論Ⅰ	2	2 3	16単位以上履修
		マーケティング論Ⅱ			
		経営史Ⅰ			
		経営史Ⅱ			
		経営戦略論Ⅰ			
		経営戦略論Ⅱ			
		経営組織論Ⅰ			
		経営組織論Ⅱ			
		経営分析Ⅰ			
		経営分析Ⅱ			
		経済理論AⅠ			
		経済理論AⅡ			
		経済理論BⅠ			
		経済理論BⅡ			
	経営・会計コース科目 選択科目	人的資源管理Ⅰ	2	2 3	経営・会計コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修
		人的資源管理Ⅱ			
		消費者行動論Ⅰ			
		消費者行動論Ⅱ			
		商法			
		会社法			
		民法Ⅰ			
		民法Ⅱ			
		原価計算論Ⅰ			
		原価計算論Ⅱ			
		税務会計論Ⅰ			
		税務会計論Ⅱ			
		財務管理論			
		マーケティングリサーチ			
		国際経営論			
		企業倫理論			
		企業文化論			
		中小企業論Ⅰ			
	中小企業論Ⅱ				
	有価証券法Ⅰ				
	有価証券法Ⅱ				
	ビジネス情報コース 選択科目	経営情報論Ⅰ	2	2 3	ビジネス情報コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修
経営情報論Ⅱ					
情報社会と倫理					
ハードウェアシステム論					
OS論					
ネットワークシステム論					
情報セキュリティ論					
アルゴリズム論Ⅰ					
アルゴリズム論Ⅱ					
システム設計論Ⅰ					
システム設計論Ⅱ					
情報システム開発論					
流通情報論					
データベース論					
シミュレーション論					
知的財産権論Ⅰ					
知的財産権論Ⅱ					
サイバー刑法					
情報経済論					
			3 4		

シラバス

VI
カリキュラム表

2009～2010年度入学者カリキュラム表④

科目区分		科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年				備 考
経 営 系 専 門 科 目	現代 産業 コース 選択科目	産業立地論Ⅰ	2	2	3		現代産業コースに属する者は、この欄の科目群から12単位以上履修	
		産業立地論Ⅱ						
		流通論		3	4			
		流通情報論						
		流通経営論Ⅰ		2	3			
		流通経営論Ⅱ						
		観光事業論Ⅰ		2	3			
		観光事業論Ⅱ						
		地域調査論		3	4			
		地域産業論						
	サービス産業論	3	4					
	IT サービス産業論							
	産業組織論Ⅰ	3	4					
	産業組織論Ⅱ							
	中小企業論Ⅰ	3	4					
	中小企業論Ⅱ							
	都市地理学	3	4					
	都市環境とまちづくり							
	展 開 科 目	選択科目	経済政策 AⅠ	2	2	3	4	この欄の科目群並びに経営系基本科目 B 各コース科目の中から14単位以上履修
			経済政策 AⅡ					
経済政策 BⅠ								
経済政策 BⅡ								
金融論Ⅰ								
金融論Ⅱ								
統計学総論Ⅰ								
統計学総論Ⅱ								
ミクロ経済学Ⅰ								
ミクロ経済学Ⅱ								
マクロ経済学Ⅰ								
マクロ経済学Ⅱ								
日本経済論Ⅰ								
日本経済論Ⅱ								
経済統計Ⅰ								
経済統計Ⅱ								
国際貿易論								
ベンチャービジネス論								
地域企業会計論								
企業再生論								
環境ビジネス								
環境問題Ⅰ								
環境問題Ⅱ								
企業金融論Ⅰ								
企業金融論Ⅱ								
労働法Ⅰ								
労働法Ⅱ								
外国経営書講読Ⅰ								
外国経営書講読Ⅱ								
金融経済の基礎知識	1	2	3	4				
プ ロ グ ラ ム	自 由 選 択 科 目	検定英語Ⅰ	2	1	2	3	4	演習科目等の必修科目を除き、(ライセンスプログラム(12単位を上限)・教職及び教職に関する科目)を含む全ての科目群から、16単位以上履修
		検定英語Ⅱ	4					
		検定経営学	2					
		検定経済学	2					

科目区分	科目名 (・は新設科目 *は教職科目を示す)	単位	学年	備考	
ライセンスプログラム	自由選択科目	財務諸表論			演習科目等の必修科目を除き、 (ライセンスプログラム(12単位を上限)・教職及び教職に関する科目)を含む全ての科目群から、16単位以上履修
		簿記論	4		
		税法			
		建設業経理士Ⅰ	2		
		建設業経理士Ⅱ	4	1 2 3 4	
		情報処理入門Ⅰ	1		
		情報処理入門Ⅱ			
		情報処理入門Ⅲ			
		情報処理入門Ⅳ	2		
		情報処理Ⅰ		2 3 4	
		情報処理Ⅱ			
		情報システム概論	4		
		検定簿記Ⅰ	2		
		検定簿記Ⅱ	4	1 2 3 4	
		秘書検定Ⅰ	2		
		秘書検定Ⅱ	4	2 3 4	
		販売士Ⅰ	2		
		販売士Ⅱ	4		
検定ビジネス能力Ⅰ	2	1 2 3 4			
検定ビジネス能力Ⅱ	4				
教職及び教科に関する科目	選択科目	* 教育原論Ⅰ		1 2	(教職課程履修者のみ履修可)
		* 教育原論Ⅱ			
		* 教育心理学			
		* 発達心理学			
		* 教職概論			
		* 教育行政			
		* 教育法規			
		* 教育方法論			
		* 社会科・地歴科指導法Ⅰ			
		* 社会科・地歴科指導法Ⅱ			
		* 地理歴史科指導法			
		* 社会科・公民科指導法Ⅰ			
		* 社会科・公民科指導法Ⅱ			
		* 公民科指導法	2		
		* 商業科指導法		2 3	
		* 商業科教材研究			
		* 情報科指導法Ⅰ			
		* 情報科指導法Ⅱ			
		* 情報と職業			
		* 道徳教育研究			
		* 特別活動研究			
		* 生徒指導論			
		* 教育相談			
		* 教職総合演習			
		* 教職時事演習			
		* 教育実践研究		3 4	
		* 中学校教育実習	4		
		* 高等学校教育実習	2		
* 教育福祉論	2	2 3			
* 職業指導Ⅰ					
* 職業指導Ⅱ	2	2 3 4			
* 学校事務概論		2 3			
卒業要件単位数		124単位			

規 程

I

敬愛大学経済学部規程

(総 則)

第1条 敬愛大学経済学部（以下「本学部」という。）に関する事項は、敬愛大学学則に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(学 科)

第2条 本学部に、次の学科を置く。
経済学科

(教育課程)

第3条 本学部経済学科の教育課程は、学部共通科目、経済専攻専門科目、現代マネジメント専攻専門科目、ライセンスプログラム及び教職及び教科に関する科目により編成する。

- (1) 学部共通科目には、基礎科目、言語科目A、言語科目B、教養科目、教職専門科目、キャリア科目、演習科目を置く。
- (2) 経済専攻専門科目には、基本科目A、基本科目B、公共経済コース科目、金融・情報コース科目、現代日本経済コース科目、情報科目、展開科目、自由選択科目を置く。
- (3) 現代マネジメント専攻科目には、基本科目A、基本科目B、アジアビジネスマネジメントコース科目、地域企業マネジメントコース科目、スポーツビジネスマネジメントコース科目、情報科目、展開科目、自由選択科目を置く。
- (4) ライセンスプログラム及び教職及び教科に関する科目を置く。

2 本学部経済学科に、次に掲げる系・コースを置く。

- 一 経済専攻
 - 公共経済コース
 - 金融・情報コース
 - 現代日本経済コース
- 二 現代マネジメント専攻
 - アジアビジネスマネジメントコース
 - 地域企業マネジメントコース
 - スポーツビジネスマネジメントコース

(授業科目、単位数、履修方法及び卒業に必要な修得単位数)

第4条 授業科目、単位数、履修方法及び卒業に必要な修得単位数は、別表のとおりとする。

(履修登録及び履修制限等)

- 第5条 授業科目の履修については、前期開講科目は前期の指定された期日までに履修登録をして許可を得なければならない。
- 2 後期開講科目は後期の指定された期日までに履修登録をして許可を得なければならない。
 - 3 履修登録の取り扱いについては別に定める。

4 年次別の履修単位数は46単位とする。

ただし、第3条第1項(4)に規定するライセンスプログラムと教職及び教科に関する科目の履修単位は上記の単位に含まれない。

(他学部等の履修)

第6条 他学部等の授業科目を履修する場合は当該学部の許可を得て履修し、単位を修得したときは、相当する科目群の科目として、単位を認定することができる。

(考 査)

第7条 授業科目を履修したときは、考査を行い、合格に対して単位を与える。

2 考査は、試験、論文レポート、試問、その他の方法により行う。

3 試験は、原則として学期末に行う。

(追試験)

第8条 病気その他やむを得ない事由によって、受験できなかった者には、願い出により追試験を行う。

2 追試験の実施要件は別に定める。

(再試験)

第9条 各学年で一定の修得単位数に満たない場合、願い出により再試験を行うことができる。

2 再試験の実施要件は別に定める。

(編入学・転入学)

第10条 編入学を志願する者があるときは、次の年次及び定員について、選考のうえ相当年次に入学を許可することができる。

(1) 2年次 5名

(2) 3年次 5名

2 転入学を志願する者があるときは、欠員がある場合に限り選考のうえ、相当年次に入学を許可することができる。

3 編入学・転入学の取り扱いは、経済学部編入学・転入学に関する規程による。

(再入学)

第11条 再入学を志願する者があるときは、欠員がある場合に限り選考のうえ、相当年次に入学を許可することができる。

2 再入学に関する規程は別に定める。

(聴講生)

第12条 聴講生の入学資格は、学則第7条に定める入学資格による。

2 聴講生に対しては、単位の認定は行わないものとする。

3 聴講のための諸納金は、当該年度の科目等履修生と同額とする。

(外国人留学生)

第13条 外国人留学生の取扱は、外国人留学生規程の定めるところとする。

2 学費は、私費外国人留学生授業料減免規定の定めるところによる。

3 学生生活全般の相談は、学生支援室が行う。

(既修得単位の認定)

第14条 学則第11条第4項及び第26条に定める既修得単位の認定は、次の各号の単位を超えない範囲で学則第28条に定める単位として一括認定し、各科目群に配分する。

- (1) 1年次 19単位
- (2) 2年次 38単位
- (3) 3年次 65単位

2 前項は、外国における大学等を卒業又は退学した者にまた適用する。

(教育職員免許状)

第15条 教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

(福利及び厚生)

第16条 学生の福利・厚生施設として、保健室及び学生食堂をおき利用に供する。

(改 廃)

第17条 この規程の改廃は、教授会の議を経なければならない。

附 則

この規程は平成14年7月2日から施行する。

附 則

- 1 この規程は平成18年4月1日から施行する。
- 2 第3条第2項の改正は、平成15年度入学者から適用する。
- 3 年次別履修単位数に関する内規及び留年制度に関する内規は廃止する。

附 則

- 1 この規程は平成21年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第3条及び第4条に定める教育課程及び授業科目、単位数、及び履修方法に必要な修得単位数は、平成20年度以前の入学者はなお従前のとおりとする。
- 3 第1項の規定にかかわらず、第5条第4項に定める年次別履修単位数の規定は平成20年度入学者から適用する。
- 4 第1項の規定にかかわらず、第14条に定める既修得単位の規定は平成20年度入学者から適用する。
- 5 第2年次留年制度に関する規定は平成20年度より廃止する。

五十音順索引

五十音順索引

2012年度入学生 (12カリキュラム)

ア

アジア経済論	179
アメリカ経済論Ⅰ	176
アメリカ経済論Ⅱ	176
アルゴリズム論Ⅰ	231
アルゴリズム論Ⅱ	231

イ

医療の経済学	187
インターンシップ	83

ウ

Web デザイン	222
----------	-----

エ

英会話Ⅰ	53
英会話Ⅱ	53
英語Ⅰ-1	12
英語Ⅰ-2	13
英語Ⅰ-3	14
英語Ⅰ-4	15
英語Ⅰ-5	16
英語Ⅰ-6	17
英語Ⅰ-E X	11
英語Ⅰ-P	18
英語Ⅱ-1	12
英語Ⅱ-2	13
英語Ⅱ-3	14
英語Ⅱ-4	15
英語Ⅱ-5	16
英語Ⅱ-6	17
英語Ⅱ-E X	11
英語Ⅱ-P	18
Excel データ解析	222

オ

OS 論	229
------	-----

カ

海外事情研修Ⅰ(アメリカ)	69
海外事情研修Ⅱ(中国)	69
海外事情研修Ⅲ(オーストラリア)	70

海外事情研修Ⅳ(イギリス)	70
会計学Ⅰ	154
会計学Ⅱ	154
外国経営書講読Ⅰ	214
外国経営書講読Ⅱ	215
外国経済書講読Ⅰ	190
外国経済書講読Ⅱ	190
会社法	155
学校事務概論	253
環境科学	67
環境経済学Ⅰ	185
環境経済学Ⅱ	186
環境地理学Ⅰ	78
環境地理学Ⅱ	79
環境問題Ⅰ	186
環境問題Ⅱ	187
観光事業論Ⅰ	207
観光事業論Ⅱ	208

キ

企業金融論Ⅰ	171
企業金融論Ⅱ	172
企業と産業組織Ⅰ	212
企業と産業組織Ⅱ	213
企業法	155
基礎演習Ⅰ・Ⅱ	83
基礎数学	3
キャリア基礎開発Ⅰ	80
キャリア基礎開発Ⅱ	81
キャリア基礎開発Ⅲ	81
キャリア教育特殊講義	82
キャリアディベロップメント	82
キャリアプランニング	5
教育行政	240
教育原論Ⅰ	238
教育原論Ⅱ	238
教育実践研究	250
教育心理学	239
教育相談	249
教育福祉論	251
教育法規	241
教育方法論	241
教職概論	240
教職時事演習	250
教職総合演習	249
行政法Ⅰ	165
行政法Ⅱ	166
銀行論Ⅰ	169
銀行論Ⅱ	170
金融経済の基礎知識	183

金融事情Ⅰ	182
金融事情Ⅱ	182
金融論Ⅰ	151
金融論Ⅱ	151

ケ

敬愛プログラム	58
経営学Ⅰ	191
経営学Ⅱ	191
経営財務論	199
経営戦略論Ⅰ	194
経営戦略論Ⅱ	195
経営組織論Ⅰ	196
経営組織論Ⅱ	197
経営分析Ⅰ	197
経営分析Ⅱ	198
経済学史Ⅰ	164
経済学史Ⅱ	165
経済学方法論Ⅰ	183
経済学方法論Ⅱ	184
経済数学Ⅰ	189
経済数学Ⅱ	189
経済政策AⅠ	147
経済政策AⅡ	147
経済政策BⅠ	148
経済政策BⅡ	148
経済統計Ⅰ	180
経済統計Ⅱ	180
経済理論AⅠ	141
経済理論AⅡ	141
経済理論BⅠ	142
経済理論BⅡ	142
敬天愛人講座A	57
敬天愛人講座B	57
計量経済学Ⅰ	184
計量経済学Ⅱ	185
原価計算論Ⅰ	198
原価計算論Ⅱ	199
健康科学A	6
健康科学B	6
憲法Ⅰ	62
憲法Ⅱ	63

ク

公共経済学	159
公共選択論	159
口頭表現	2
公民科指導法	244
国際金融論Ⅰ	170
国際金融論Ⅱ	171

国際経営論	203
国際経済論Ⅰ	156
国際経済論Ⅱ	156
国際法Ⅰ	204
国際法Ⅱ	204
国際貿易論	178

サ

サービス産業論	208
財政赤字の経済学	162
財政学Ⅰ	150
財政学Ⅱ	150
サイバー刑法	214
産業論Ⅰ	192
産業論Ⅱ	193

シ

Cプログラミング	225
資産運用論	172
時事英語Ⅲ	55
時事英語Ⅳ	55
システム設計論Ⅰ	232
自然地理学Ⅰ	77
自然地理学Ⅱ	78
実践会話Ⅰ	79
実践会話Ⅱ	80
シミュレーション論	233
社会科・公民科指導法Ⅰ	243
社会科・公民科指導法Ⅱ	244
社会科・地歴科指導法Ⅰ	242
社会科・地歴科指導法Ⅱ	242
社会学	64
社会学概論	77
社会思想史Ⅰ	181
社会思想史Ⅱ	181
社会心理学	60
社会政策Ⅰ	149
社会政策Ⅱ	149
社会福祉論	163
社会保障論Ⅰ	162
社会保障論Ⅱ	163
生涯スポーツ実習Ⅰ	210
生涯スポーツ実習Ⅱ	210
商業科教材研究	245
商業科指導法	245
証券経済論Ⅰ	168
証券経済論Ⅱ	169
消費者行動論	213
情報概論	221
情報科指導法Ⅰ	246

情報科指導法Ⅱ	246	地誌学Ⅱ	75
情報基礎Ⅰ	7	知的財産権論	158
情報基礎Ⅰ	8	地方財政論Ⅰ	160
情報基礎Ⅰ	9	地方財政論Ⅱ	160
情報基礎Ⅱ	7	地方自治論Ⅰ	161
情報基礎Ⅱ	8	地方自治論Ⅱ	161
情報基礎Ⅱ	9	地方自治論実習	192
情報検索入門	226	中国語Ⅰ-A	37
情報社会と倫理	228	中国語Ⅰ-B	38
情報セキュリティ論	230	中国語Ⅱ-A	37
情報と職業	247	中国語Ⅱ-B	38
情報マネジメント	158	中小企業論Ⅰ	206
職業指導Ⅰ	252	中小企業論Ⅱ	206
職業指導Ⅱ	252	中東経済論	178
食料経済論	188	地理学概論Ⅰ	73
人的資源管理Ⅰ	200	地理学概論Ⅱ	74
人的資源管理Ⅱ	201	地理歴史科指導法	243
心理学	59		
進路支援講座Ⅰ(経済専攻コース共通)	167	テ	
進路支援講座Ⅱ(経済専攻コース共通)	168	データベースオペレーションA	226
		データベースオペレーションB	227
		データベース論	232
		哲学	59
		哲学概論Ⅰ	75
		哲学概論Ⅱ	76
		ト	
		ドイツ語Ⅰ-A	33
		ドイツ語Ⅰ-B	34
		ドイツ語Ⅱ-A	33
		ドイツ語Ⅱ-B	34
		統計学Ⅰ	66
		統計学Ⅱ	66
		統計学総論Ⅰ	157
		統計学総論Ⅱ	157
		道德教育研究	247
		特別活動研究	248
		ニ	
		日本経済史Ⅰ	143
		日本経済史Ⅱ	143
		日本経済地理	175
		日本経済論Ⅰ	174
		日本経済論Ⅱ	174
		日本語Ⅰ-A	45
		日本語Ⅰ-B	46
		日本語Ⅰ-C	47
		日本語Ⅰ-D	48
		日本語Ⅰ-E	49
		日本語Ⅱ-A	45
ス			
数学Ⅰ	65		
数学Ⅱ	65		
スポーツ科学概論	209		
スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	58		
スポーツ産業論	211		
スポーツビジネス論	211		
セ			
政治学	63		
生徒指導論	248		
税務会計論Ⅰ	205		
税務会計論Ⅱ	205		
西洋経済史Ⅰ	144		
西洋経済史Ⅱ	144		
世界経済地理	175		
世界史概論Ⅰ	72		
世界史概論Ⅱ	73		
ソ			
総合科目Ⅰ「国際社会を知る」	68		
総合科目Ⅱ「国際社会を知る」	68		
チ			
地域企業会計論	209		
地域産業論	207		
地域ボランティア活動	71		
地球科学	67		
地誌学Ⅰ	74		

日本語Ⅱ-B	46
日本語Ⅱ-C	47
日本語Ⅱ-D	48
日本語Ⅱ-E	49
日本史概論Ⅰ	71
日本史概論Ⅱ	72
日本の政治	64
日本の文学	60
入門経営学 A	4
入門経営学 B	5
入門経済学 A	3
入門経済学 B	4

ネ

ネットワークシステム論	230
-------------	-----

ノ

農業政策	188
------	-----

ハ

ハードウェアシステム論	229
Perl プログラミング	225
発達心理学	239

ヒ

比較政治学	76
比較文学	61
ビジネス英語Ⅲ	56
ビジネス英語Ⅳ	56

フ

VB プログラミング	224
福祉経済論	164
フランス語Ⅰ-A	29
フランス語Ⅰ-B	30
フランス語Ⅱ-A	29
フランス語Ⅱ-B	30
プレゼンテーション論Ⅰ	227
プレゼンテーション論Ⅱ	228
プログラミング入門 C	223
プログラミング入門 Perl	224
プログラミング入門 VB	223
文章表現	2

ヘ

ベンチャービジネス論	195
------------	-----

ホ

法学	62
簿記論Ⅰ A	152

簿記論Ⅰ B	153
簿記論Ⅱ A	152
簿記論Ⅱ B	153
保険論	173

マ

マーケティングリサーチⅠ	200
マーケティング論Ⅰ	193
マクロ経済学Ⅰ	146
マクロ経済学Ⅱ	146

ミ

ミクロ経済学Ⅰ	145
ミクロ経済学Ⅱ	145
民法Ⅰ	166
民法Ⅱ	167

ユ

有価証券法	173
-------	-----

ヨ

ヨーロッパ経済論Ⅰ	177
ヨーロッパ経済論Ⅱ	177

ラ

ライセンスプログラム(科目一覧)	236
------------------	-----

リ

流通情報論	212
流通論	196

レ

歴史学	61
-----	----

ロ

労働法	179
-----	-----

2009～11年度入学生 (09・11カリキュラム)

ア

IT サービス産業論	216
アジア経済論	179
アメリカ経済事情Ⅰ	176
アメリカ経済事情Ⅱ	176
アルゴリズム論Ⅰ	231
アルゴリズム論Ⅱ	231

イ

医療の経済学	187
インターンシップ	83

ウ

Web デザイン	222
----------	-----

エ

英会話Ⅰ	53
英会話Ⅱ	53
英会話Ⅲ	54
英会話Ⅳ	54
英語ⅠR (a)	19
英語ⅠR (b)	20
英語ⅡR (a)	19
英語ⅡR (b)	20
英語Ⅲ-1	21
英語Ⅲ-2	22
英語Ⅲ-3	23
英語Ⅲ-4	24
英語Ⅲ-5	25
英語Ⅲ-6	26
英語ⅢR (a)	27
英語ⅢR (b)	28
英語Ⅳ-1	21
英語Ⅳ-2	22
英語Ⅳ-3	23
英語Ⅳ-4	24
英語Ⅳ-5	25
英語Ⅳ-6	26
英語ⅣR (a)	27
英語ⅣR (b)	28
Excel データ解析	222

オ

OS 論	229
------	-----

カ

海外事情研修Ⅰ(アメリカ)	69
海外事情研修Ⅱ(中国)	69
海外事情研修Ⅲ(オーストラリア)	70
海外事情研修Ⅳ(イギリス)	70
会計学Ⅰ	154
会計学Ⅱ	154
外国経営書講読Ⅰ	214
外国経営書講読Ⅱ	215
外国経済書講読Ⅰ	190
外国経済書講読Ⅱ	190
会社法	155
開発経済学	220
学校事務概論	253
環境科学	67
環境経済学Ⅰ	185
環境経済学Ⅱ	186
環境地理学Ⅰ	78
環境地理学Ⅱ	79
環境ビジネス	221
環境問題Ⅰ	186
環境問題Ⅱ	187
観光事業論Ⅰ	207
観光事業論Ⅱ	208

キ

企業金融論Ⅰ	171
企業金融論Ⅱ	172
企業再生論	218
企業倫理論	215
基礎演習ⅠR (a)	84
基礎演習ⅠR (b)	85
基礎演習ⅡR (a)	84
基礎演習ⅡR (b)	85
基礎数学	3
キャリア基礎開発Ⅰ	80
キャリア基礎開発Ⅱ	81
キャリア基礎開発Ⅲ	81
キャリア教育特殊講義	82
キャリアディベロップメント	82
キャリアプランニング	5
教育行政	240
教育原論Ⅰ	238
教育原論Ⅱ	238
教育実践研究	250
教育心理学	239
教育相談	249
教育福祉論	251
教育法規	241

教育方法論	241
教職概論	240
教職時事演習	250
教職総合演習	249
行政法Ⅰ	165
行政法Ⅱ	166
銀行論Ⅰ	169
銀行論Ⅱ	170
金融経済の基礎知識	183
金融事情Ⅰ	182
金融事情Ⅱ	182
金融論Ⅰ	151
金融論Ⅱ	151

ケ

敬愛プログラム	58
経営学概論Ⅰ	191
経営学概論Ⅱ	191
経営戦略論Ⅰ	194
経営戦略論Ⅱ	195
経営組織論Ⅰ	196
経営組織論Ⅱ	197
経営分析Ⅰ	197
経営分析Ⅱ	198
経済学史Ⅰ	164
経済学史Ⅱ	165
経済学方法論Ⅰ	183
経済学方法論Ⅱ	184
経済数学Ⅰ	189
経済数学Ⅱ	189
経済政策AⅠ	147
経済政策AⅡ	147
経済政策BⅠ	148
経済政策BⅡ	148
経済統計Ⅰ	180
経済統計Ⅱ	180
経済理論AⅠ	141
経済理論AⅡ	141
経済理論BⅠ	142
経済理論BⅡ	142
敬天愛人講座A	57
敬天愛人講座B	57
計量経済学Ⅰ	184
計量経済学Ⅱ	185
原価計算論Ⅰ	198
原価計算論Ⅱ	199
健康運動科学A	6
健康運動科学B	6
憲法Ⅰ	62
憲法Ⅱ	63

ク

公共経済学	159
公共選択論	159
口頭表現	2
公民科指導法	244
国際金融論Ⅰ	170
国際金融論Ⅱ	171
国際経営論	203
国際経済論Ⅰ	156
国際経済論Ⅱ	156
国際法Ⅰ	204
国際法Ⅱ	204
国際貿易論	178

サ

サービス産業論	208
財政赤字の経済学	162
財政学Ⅰ	150
財政学Ⅱ	150
サイバー刑法	214
財務管理論	199
産業組織論Ⅰ	212
産業組織論Ⅱ	213
産業立地論Ⅰ	201
産業立地論Ⅱ	202
産業論Ⅰ	192
産業論Ⅱ	193

シ

Cプログラミング	225
資源エネルギー論	219
資産運用論	172
時事英語Ⅰ	55
時事英語Ⅱ	55
システム設計論Ⅰ	232
自然地理学Ⅰ	77
自然地理学Ⅱ	78
実践会話Ⅰ	79
実践会話Ⅱ	80
シミュレーション論	233
社会科・公民科指導法Ⅰ	243
社会科・公民科指導法Ⅱ	244
社会科・地歴科指導法Ⅰ	242
社会科・地歴科指導法Ⅱ	242
社会学	64
社会学概論	77
社会思想史Ⅰ	181
社会思想史Ⅱ	181
社会心理学	60

社会政策Ⅰ	149
社会政策Ⅱ	149
社会福祉論	163
社会保障論Ⅰ	162
社会保障論Ⅱ	163
生涯スポーツ実習Ⅰ	210
生涯スポーツ実習Ⅱ	210
商業科教材研究	245
商業科指導法	245
証券経済論Ⅰ	168
証券経済論Ⅱ	169
消費者行動論Ⅰ	213
商法	155
情報概論	221
情報科指導法Ⅰ	246
情報科指導法Ⅱ	246
情報基礎ⅠR	10
情報基礎ⅡR	10
情報経済論	158
情報検索入門	226
情報社会と倫理	228
情報セキュリティ論	230
情報と職業	247
職業指導Ⅰ	252
職業指導Ⅱ	252
食料経済論	188
人的資源管理Ⅰ	200
人的資源管理Ⅱ	201
心理学	59

ス

数学Ⅰ	65
数学Ⅱ	65
スポーツ科学概論	209
スポーツ教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	58
スポーツ産業論	211
スポーツビジネス論	211

セ

政治学	63
生徒指導論	248
税務会計論Ⅰ	205
税務会計論Ⅱ	205
西洋経済史Ⅰ	144
西洋経済史Ⅱ	144
世界経済地理	175
世界史概論Ⅰ	72
世界史概論Ⅱ	73
専門演習Ⅰ〔青木〕	109
専門演習Ⅰ〔飯野〕	111

専門演習Ⅰ〔折原〕	110
専門演習Ⅰ〔金子〕	118
専門演習Ⅰ〔加茂川〕	106
専門演習Ⅰ〔岸本〕	119
専門演習Ⅰ〔小山〕	112
専門演習Ⅰ〔鈴木〕	103
専門演習Ⅰ〔添田〕	120
専門演習Ⅰ〔仁平〕	107
専門演習Ⅰ〔野口〕	105
専門演習Ⅰ〔馬場〕	115
専門演習Ⅰ〔畢〕	114
専門演習Ⅰ〔星〕	117
専門演習Ⅰ〔牧野〕	104
専門演習Ⅰ〔森島〕	116
専門演習Ⅰ〔森谷〕	108
専門演習Ⅰ〔和田〕	113
専門演習Ⅱ〔青木〕	109
専門演習Ⅱ〔飯野〕	111
専門演習Ⅱ〔折原〕	110
専門演習Ⅱ〔金子〕	118
専門演習Ⅱ〔加茂川〕	106
専門演習Ⅱ〔岸本〕	119
専門演習Ⅱ〔小山〕	112
専門演習Ⅱ〔鈴木〕	103
専門演習Ⅱ〔添田〕	120
専門演習Ⅱ〔仁平〕	107
専門演習Ⅱ〔野口〕	105
専門演習Ⅱ〔馬場〕	115
専門演習Ⅱ〔畢〕	114
専門演習Ⅱ〔星〕	117
専門演習Ⅱ〔牧野〕	104
専門演習Ⅱ〔森島〕	116
専門演習Ⅱ〔森谷〕	108
専門演習Ⅱ〔和田〕	113
専門導入演習Ⅰ〔青木〕	91
専門導入演習Ⅰ〔飯野〕	93
専門導入演習Ⅰ〔折原〕	92
専門導入演習Ⅰ〔金子〕	99
専門導入演習Ⅰ〔加茂川〕	88
専門導入演習Ⅰ〔岸本〕	100
専門導入演習Ⅰ〔金〕	102
専門導入演習Ⅰ〔小山〕	94
専門導入演習Ⅰ〔添田〕	101
専門導入演習Ⅰ〔仁平〕	89
専門導入演習Ⅰ〔野口〕	87
専門導入演習Ⅰ〔馬場〕	97
専門導入演習Ⅰ〔畢〕	96
専門導入演習Ⅰ〔星〕	98
専門導入演習Ⅰ〔牧野〕	86
専門導入演習Ⅰ〔森谷〕	90

専門導入演習Ⅰ〔和田〕	95
専門導入演習Ⅱ〔青木〕	91
専門導入演習Ⅱ〔飯野〕	93
専門導入演習Ⅱ〔折原〕	92
専門導入演習Ⅱ〔金子〕	99
専門導入演習Ⅱ〔加茂川〕	88
専門導入演習Ⅱ〔岸本〕	100
専門導入演習Ⅱ〔金〕	102
専門導入演習Ⅱ〔小山〕	94
専門導入演習Ⅱ〔添田〕	101
専門導入演習Ⅱ〔仁平〕	89
専門導入演習Ⅱ〔野口〕	87
専門導入演習Ⅱ〔馬場〕	97
専門導入演習Ⅱ〔畢〕	96
専門導入演習Ⅱ〔星〕	98
専門導入演習Ⅱ〔牧野〕	86
専門導入演習Ⅱ〔森谷〕	90
専門導入演習Ⅱ〔和田〕	95

ソ

総合科目Ⅰ「国際社会を知る」	68
総合科目Ⅱ「国際社会を知る」	68
卒業演習Ⅰ〔青木〕	126
卒業演習Ⅰ〔飯野〕	128
卒業演習Ⅰ〔折原〕	127
卒業演習Ⅰ〔小山〕	129
卒業演習Ⅰ〔鈴木〕	121
卒業演習Ⅰ〔添田〕	134
卒業演習Ⅰ〔仁平〕	124
卒業演習Ⅰ〔野口〕	123
卒業演習Ⅰ〔馬場〕	132
卒業演習Ⅰ〔畢〕	131
卒業演習Ⅰ〔牧野〕	122
卒業演習Ⅰ〔森島〕	133
卒業演習Ⅰ〔森谷〕	125
卒業演習Ⅰ〔和田〕	130
卒業演習Ⅱ〔青木〕	126
卒業演習Ⅱ〔飯野〕	128
卒業演習Ⅱ〔折原〕	127
卒業演習Ⅱ〔小山〕	129
卒業演習Ⅱ〔鈴木〕	121
卒業演習Ⅱ〔添田〕	134
卒業演習Ⅱ〔仁平〕	124
卒業演習Ⅱ〔野口〕	123
卒業演習Ⅱ〔馬場〕	132
卒業演習Ⅱ〔畢〕	131
卒業演習Ⅱ〔牧野〕	122
卒業演習Ⅱ〔森島〕	133
卒業演習Ⅱ〔森谷〕	125
卒業演習Ⅱ〔和田〕	130

卒業論文〔青木〕	137
卒業論文〔飯野〕	138
卒業論文〔鈴木〕	135
卒業論文〔添田〕	140
卒業論文〔仁平〕	136
卒業論文〔野口〕	136
卒業論文〔馬場〕	139
卒業論文〔畢〕	139
卒業論文〔牧野〕	135
卒業論文〔森島〕	140
卒業論文〔森谷〕	137
卒業論文〔和田〕	138

チ

地域企業会計論	209
地域産業論	207
地域調査論	216
地域ボランティア活動	71
地球科学	67
地誌学Ⅰ	74
地誌学Ⅱ	75
知的財産権論Ⅰ	158
地方財政論Ⅰ	160
地方財政論Ⅱ	160
地方自治論Ⅰ	161
地方自治論Ⅱ	161
地方自治論実習	192
中学校・高等学校教育実習	251
中国語ⅠR (a)	39
中国語ⅠR (b)	40
中国語ⅡR (a)	39
中国語ⅡR (b)	40
中国語Ⅲ-A	41
中国語Ⅲ-B	42
中国語Ⅲ-C	43
中国語ⅢR	44
中国語Ⅳ-A	41
中国語Ⅳ-B	42
中国語Ⅳ-C	43
中国語ⅣR	44
中小企業論Ⅰ	206
中小企業論Ⅱ	206
中東経済論	178
地理学概論Ⅰ	73
地理学概論Ⅱ	74
地理歴史科指導法	243

テ

データベースオペレーションA	226
データベースオペレーションB	227

データベース論	232
哲学	59
哲学概論Ⅰ	75
哲学概論Ⅱ	76

ト

ドイツ語Ⅰ-A	33
ドイツ語Ⅰ-B	34
ドイツ語Ⅱ-A	33
ドイツ語Ⅱ-B	34
ドイツ語Ⅲ-A	35
ドイツ語Ⅲ-B	36
ドイツ語Ⅳ-A	35
ドイツ語Ⅳ-B	36
統計学Ⅰ	66
統計学Ⅱ	66
統計学総論Ⅰ	157
統計学総論Ⅱ	157
道德教育研究	247
特別活動研究	248
都市環境とまちづくり	217
都市地理学	217

ニ

日本経済史Ⅰ	143
日本経済史Ⅱ	143
日本経済地理	175
日本経済論Ⅰ	174
日本経済論Ⅱ	174
日本語Ⅰ-A	45
日本語Ⅰ-B	46
日本語Ⅰ-C	47
日本語Ⅰ-D	48
日本語Ⅰ-E	49
日本語Ⅱ-A	45
日本語Ⅱ-B	46
日本語Ⅱ-C	47
日本語Ⅱ-D	48
日本語Ⅱ-E	49
日本語Ⅲ-A	50
日本語Ⅲ-B	51
日本語Ⅲ-C	52
日本語Ⅳ-A	50
日本語Ⅳ-B	51
日本語Ⅳ-C	52
日本史概論Ⅰ	71
日本史概論Ⅱ	72
日本の政治	64
日本の文学	60
入門経営学A	4

入門経営学B	5
入門経済学A	3
入門経済学B	4
入門経済刑法	220

ネ

ネットワークシステム論	230
-------------	-----

ノ

農業政策	188
------	-----

ハ

ハードウェアシステム論	229
Perlプログラミング	225
発達心理学	239

ヒ

比較政治学	76
比較文学	61
ビジネス英語Ⅰ	56
ビジネス英語Ⅱ	56

フ

VBプログラミング	224
福祉経済論	164
フランス語Ⅰ-A	29
フランス語Ⅰ-B	30
フランス語Ⅱ-A	29
フランス語Ⅱ-B	30
フランス語Ⅲ-A	31
フランス語Ⅲ-B	32
フランス語Ⅳ-A	31
フランス語Ⅳ-B	32
プレゼンテーション論Ⅰ	227
プレゼンテーション論Ⅱ	228
プログラミング入門C	223
プログラミング入門Perl	224
プログラミング入門VB	223
文章表現	2

ヘ

ベンチャービジネス論	195
------------	-----

ホ

法学	62
簿記論ⅠA	152
簿記論ⅠB	153
簿記論ⅡA	152
簿記論ⅡB	153
保険論	173

マ

マーケティングリサーチ I	200
マーケティング論 I	193
マーケティング論 II	194
マクロ経済学 I	146
マクロ経済学 II	146

ミ

ミクロ経済学 I	145
ミクロ経済学 II	145
民法 I	166
民法 II	167

ユ

有価証券法 I	173
有価証券法 II	219

ヨ

ヨーロッパ経済論 I	177
ヨーロッパ経済論 II	177

ラ

ライセンスプログラム (科目一覧)	236
-------------------	-----

リ

流通経営論 I	202
流通経営論 II	203
流通情報論	212
流通論	196

レ

歴史学	61
-----	----

ロ

労働法 I	179
労働法 II	218

